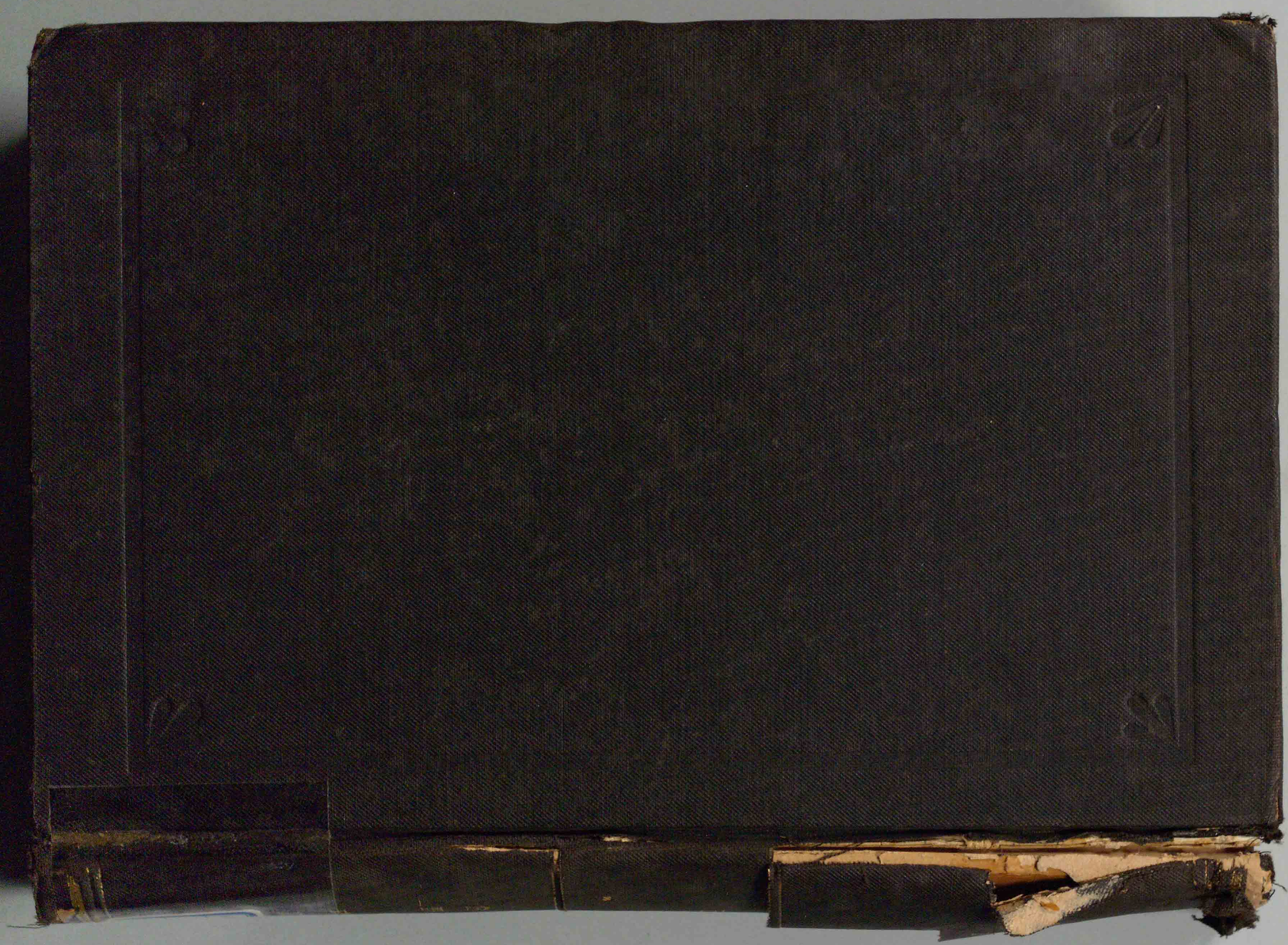

國立北京圖書館藏書

從五位速水堅曹補修
佐野瑛纂訂

大日本蠶史

正史

慶一居藏版

大日本蠶史

五史

自序に代ふる辭

余敢て自ら揣らず本邦蠶業沿革史書の未た世に具はらさるを嘆ずるの餘り聊か其不備を補修せんと企て漫然本稿を起せしは今を距る八年前即ち明治二十三年の孟冬第一帝國議會が將に開院せんとするの頃ひなりき

當時余か篋底に秘藏したりしは日本蠶業沿革論と題せる一篇にして素是れ半井榮氏か大日本農會のために演說せし筆記文なるが愚窃かに之を以て本邦蠶業界唯一の木鐸なりと思惟し乃ち此に本づきて大日本蠶史編纂の初程を發する事とし而して徐ろに調査の進行を計りしも余が住する所の地僻にして這般の事業を營むに便ならず資料の蒐集に當り

適々古文書保存の聞ゑある地方舊家の一二を發見し之に即きて求むる所あらんとするも機緣契はずして信用太だ薄く間々又娼嫉者の阻む所となりて常に其目的を達する能はず余をして空しく迷津望洋の感を生せしめぬ

其斯の如くなりしもの蓋し故あり余は當時籍を靜岡縣に置き居を東駿に占めたりと雖も實は該地の産にあらず本貫は則ち山梨縣甲斐國に在り明治十九年春駿人佐野氏（余が生家と同姓）の家を繼く事となり新に入籍したるものなれば地方的感情より目するに輸入人種を以てし公共の事業に着眼し些しく出頭し來らんとするあれば讒誣誹謗排斥の裡に埋れしむ又是非なき境遇なり是に於て意を決し人に謀らず私かに材料の索め易き部分即ち其近世史より漸々調査を始め時に或は生國甲斐の名族を訪問して多少の資料を得つゝ時日を經過し二十四年歲末に至つて稍々百餘

頁の一小冊子を編成しぬ是れ舊稿日本蠶史と題して今尙ほ篋底に存するものなり而も此書甚た簡略にして僅かに本邦蠶業の概要を窺ふ可きのみ未た以て已れが期する蠶史の功を就すに及ばざるや遠し

此頃よりして余は病に罹り爲めに左腕の自由を失せんとす二十五年の春縣下大小の醫師に就きて治療を請ひしに皆効なし止むとを得ず是年八月上京して帝國大學第一醫院に投じ國手の施術に依り幸にして病苦を去り復た家事を省するの人となりたれど治療の機已に失して終に長へに不具の軀たるを免れざりき然れとも此病魔は余か蠶史を編纂する上に於て偉大の助力を與へたり蓋し勞働に身を委せんとするも手腕の不具は之に耐ふべきにあらず寧ろ益々初志を貫徹せしめて斯業の資益に供するに如かずと不慮の厄難は余に教ふるに死中生を得るの活法を以てし茲に強固の決心を惹起したれは乃ち同年十一月初旬意を密めて

行李を裝へ告げずして家國を去り蠶地の實際視察に從事す先づ東京に出て安房上總下總常陸下野上野武藏を巡りて信濃に入り甲斐を經て駿河を過り遠江三河尾張美濃近江山城攝津を順歷し更に路を轉して大和伊賀伊勢を周遊し二十六年二月に至り東京に歸り採集資料の修整に從ひ傍ら東京圖書館に就きて六國史を始め幾多の雜書を調査しつゝ爰に數十日を送りたりき

一日本鄉街を通行する際其二丁目古書舖の店頭にて日本蠶桑史略なる一小冊を見著けぬ取りて其奥附を閱れは明治二十三年の出版にして著者は須永球氏なり驚きて謂へらく之ある哉余復た何をか勞せんと直に其書を購うて偶に歸り再思すらく先輩既に此好著を成すを見る今に於て寧ろ余が編纂を止む可きかと既にして通讀一過稍々該書の性質を曉すを得更に思惟すらく彼の半井氏の演述に係る沿革論と云ひ此の須永氏の著日本蠶桑史略と云ひ俱に是れ蠶政上の大要を編纂せられし者なり蠶業の歷史は未た之を以て決して充分なりと爲す可からず若し蠶業の歷史にして現業即ち育蠶上の沿革を知るべき部類を如へ尙ほ蠶政上の沿革に於ても精査する事を成さば當業者の稗益これより大なるは無からん宜しく這個の史綱を一層擴張して後進作家の規摸を立つべしと乃ち更に大に發奮精を勵まし先づ本邦古昔の蠶書を羅集するに力めぬ是れ既定の計畫を變更して大日本蠶史を正史と現業史の二類に分ちし所以なり

是歲四月余は上原某の紹介を得て蠶奴たるべく志し群馬縣碓氷郡原市に赴けり是れ一は生活上の便に出つると雖も一は彼地が舊來の養蠶本場にして斯業上閱歷する所自ら他に殊なるものあるべきに由り余か得る所亦尋常ならさらんと豫期したるなり該地に至るや即ち奴として半

田家に住み込み手足の勞働或は休することあるも耳目の活動は則ち然らず勉めて老功蠶夫蠶婦の間に交はりて揀擇自ら樂しみぬ然るに五月上旬蠶兒の掃立を了するの後數日ならずして該地方未曾有の大霜あり余か從事する蠶舘の業務忽ち茲に停止せらるゝの悲境に會したれば余は乃ち傭を解かれて彼の地を去り復たひ上京を急ぐの途次尙は藤岡熊谷島村等の各蠶場を視察して中浣着京恰も鄕人の歸省を勸誘するに逢ひ懇切の情之を拒むに忍ひず遂に暫らく其意に從ふに決し飄然又故山に還り井出氏の斡旋によりて自家の養蠶に從事す

此秋業務の閑に乘じ漫遊に由つて得たる材料を整理し之を往年著作に引用し取捨增損較々其面目を改めたる者ありと雖も不備なるは則ち依然たり此時に當り飼育法變遷の次第に就き詳擧細叙せんとするも參考書の明治以前に屬するもの僅に養蠶秘傳抄（寶曆年中ノ開板是ぱ塚田與右工門著作の養蠶秘書なる弘化年中雀山老人の謄寫したる者なり）

養蠶秘錄（享和年中開板）養蠶絹筋大成（文化年中開板）養蠶弘教錄（弘化年中開板）養蠶教諭集（安政年間開板）の五種あるに過ぎざれば姑らく之を擱きて更に育統史より調査を始め十二月中浣漸く其大綱を終はる種史の部に及び其製造法の如き亦古蠶書蒐集を待つて編成する事となし即ち現時古老の記憶する所に據り黃白繭種の沿革調査に着手す而して之を都鄙大小の蠶業雜誌或は現今刊行の蠶書に就きて對照校訂するも正鵠を得る難きが故即ち其旨趣を印刷して各府縣の當業者に配布し材料の投寄を請はんとしたり然れとも此時既に資財を盡くし了はりて運動意の如くならず經營慘怛の中に空しく光陰を消しぬ茲に特に大書して謝意を表せさる可らざるものあり开は知人渡邊淸渚君が余が窮を憫み懇切なる書に添ゆるに金若干を以てし大に余を鼓舞奬勵せられたる一事なり余は其好意に感じ即ち納めて之を基金となし且所有の物品を典賣して資を求め明治二十七年一月

各府縣三千有餘人に印刷物を頒ち其調査を依囑す忽ち集り到る者無慮數千通新古書籍或は特別調査書類にして卓上一時山を築けり又此の時の事なりき余が感慨を惹くもの多きが中に尤も肝に銘したるは居村上野役場の措置なりとす時に或は縣衙を經て回送らせるゝ書類等あるも故意之を抑置し余に送致するの時日を延引す曾つて長野縣廳より回送せられたる調査書の如き實に役場に留置する數十餘日其後余が再三の催促により始めて之を配附したり而して其之を配附するに當つても亡狀甚だしく例せば其文書の出處を曖昧にし宛名を闕くが如きの類失體殆んど言ふに堪へず長野縣の添書靜岡縣の注意添書等は遂に交附せず後其節の知人より報知ありたるを以て役場に至り強ひて同場綴込の書類を閲覽し該縣廳回送の注意書に就き要領を得たる事あり是れ僅かに其一斑を記するに過ぎされども他は推して知る可き而已此事今尚ほ奇として彼の地の談柄に上れり是より先き知人某余に勸めて曰く子が校訂に係る蠶種類の沿革記は短日月の間に成りたるものと雖も頗る其梗概を述べ得たり如かず目下當業者が蠶種撰擇に困難なる時機に投じ先づ之より出版せんにはと余も亦別に考ふる所あり則ち蠶体彙史の名を附し發行せんと廣告したり同年十月蠶史一切の資料拾集調査の爲め上京せしに某官人は本蠶史に先だち蠶體彙史を出版するの不利を說き大日本蠶史現業史と共に發刊せば一日の下能く古今の變遷を知るに足るべしと誠諭殊に切なるを以て遂に其意に從ひ投機出版の事を撤回す是より更に官人の助勢を得て昔時の蠶書數部を謄寫し且復た圖書館に入り先きの調査に漏れたる書籍を査閲し爾來滯京數ケ月(此の間二回歸省)專ら蠶史の完成を圖りぬ又此の際蠶業大家の說話を聽かんと欲し遠近を擇まず訪問せしも余か一介の貧書生落魂粗野の風を陋として何れも面會を拒

絶せらる唯り余が請を容れ快く延見されしは蠶界の元勳従五位速水堅曹君其人なり懇談數次余に附與するに許多の史料を以てし且向後一層奮勵調査を遂げ本邦蠶業の爲め稗益する所あるべしと慈教具さに至る余か本書を編するに當り本邦開港以來明治の御代に於ける斯業の大勢を講究し得たるは實に同君の賜と云ふも不可なし

二十九年二月古郡某の爲めに既成調査の原稿を喪失せんとするの變に遭ひぬ斯は去年十二月同氏の紹介を以て某家に債務を負ひたりしが客月末其期日なるに償却を怠り延滯十數日一夕同氏と某處に會し談偶々蠶史の事に及ぶ某曰ふ子の調査に係る蠶史余私かに慮る所あり子隔意なくんば一夕原稿を余に托すべし余は是を以て某に謀り子の爲めに又資途を索むべし云云即ち之に原稿を附托す翌日訪問前夕の原稿返還を請ひしに某冷然として曰く原稿は子に返戻する能はず暫らく之を押取するなり其故は余か紹介に係る若干金の負債子は未た償却を了へざるに非ずや即ち返稿を願はゞ盡んぞ急に債務を了せざると余また之と爭ふを欲せず直に歸寓し些少の所有品を賣却し且知友望月與三郎君（現今大學に在り）の救助を得て所要の金を調達し疾行古郡某に至り原稿引換に債務を解きたり事は余が行爲の備はらざるに發し自ら我か不德を責むるの外なしと雖も其殘忍刻薄友情の何たるを解せざるが如き亦以て余が薄命史の一節と爲すべきなり余は是より又望月君の援助を得つゝ調査を進行す

四月時恰も春蠶季節に迫り鄉里より歸國を促し來る是と同時に鄉里は何の見る所あつてか旅資を古郡某（前顯の人）に送附し托するに原稿を押取して鄉里に回送し然る後旅資を余に供する事を以てせり余心に甚た之を快とせず既に前陳の關係あれは殊に後憂を恐れ斷然之と絶ちぬ是に於

て某は彼の旅資を直に郷里に回附し余の進退を妨げんとしたり然れども同月中浣余は歸郷して自家の養贍に從事し遂に其年秋に及ぶ十一月上京寓居に至る是より先き四月出發の時宿主久住某に負債あり督責急なるを以て情願するに秋季の上京の時償却するを以てす即是月上京久住某を訪問し殘餘の債務を果さんとせしに豈圖らんや出發の當時預托したる衣類寢具簞笥は勿論多年辛酸に辛酸を嘗め蒐集したる參考書籍より年來各府縣衙及有志者より寄贈せられたる文書類總て一括して賣却したらんとは余呆然自失殆んと爲す所を知らず漸くにして我に復り久住に對し交渉嚴談幾回するも更に要領を得ず乃ち私かに探偵して買收商估を發顯し及賣却物品書類の存在所を取押へ各自に事の是に至る證明書を作らしめ告發訴訟國法の掩護に賴らんと決意し即ち出廷の手筈を定めたり其夕久住は人を馳せて余を訪ひ前來の過失を謝する再三再四更に穩和の處置に出てん事を哀願せり余素より事を好みて妄りに人を窘めんとするものにあらざれば遂に彼の嘆願を容れ單に書類の買戻に着手しぬ而して其得る所失ふ所の十か一に及はず余をして轉た困頓の境に呻吟せしめき

才なく德薄く而して多年世情に背きし余が事業や此時を以て實に險極難の極に達し余をして一家を失亡し一身を流離するの大厄を受けしめにき既に余は前陳の狀態に陷り如何ともする事能はず百方此に盡きて終に垢を含み恥を忍びて郷里の家翁に對し哀憐を求むるもの數回皆省せられず却つて嚴霜烈日の威を以て詰責せられ最後冷絶なる破情の決答に接するに至れり是に於て余飜然として覺醒し以爲へらく窮達は命なり余豈漫然依賴心を起す可けんや其偶々之有るを免れさるは蓋し生を駿地に寄せしに因る加之斯業の結果に於て失敗するに至らは今愛

を割きて人に笑はるゝよりも衷情の制し難き者あらん世上の毀譽は是れ一時而已古に言ふ死す可き時に死せざれば死に勝る恥ありと信に然り今日最終の擧措に出つるは早計に似たりと雖とも由來赤貧の內に業を成さんと欲するもの區々婦女の情を爲して大事を誤る可きにあらず と心志一たび定まりて復た妻子の恩愛を顧みるに遑なく謗譏百出の間斷然として養家及關係者に對ひて離緣の請求を爲す此議は刻下に養家の認諾する所となり甲斐の生家に向つて其交涉を了しぬ意

三十年二月余は稿本の整理せる部門を取り往いて速水先生に校閱を依頼すると同時に當業者の賛成を得て事務所を本郷六丁目に設け未整の原稿を訂正す尋いで事務所の狹隘を感じ更に之を下谷仲根岸に移し大に事務を擴張し筆生數名を傭入れ全稿の謄寫を命じ遂に八月に至り其整理を畢はれり本書總紙數殆んど三千餘枚其成稿の儘印行せんと欲するも經費の多額を要するに苦み爾來之を取捨するに勉め乃ち四閲月にして一千六百餘頁を以て完了せしめぬ

辱知竹澤章君余の爲めに憫む所あり資を投じて之が印行を資く十二月印刷所弘文舍に交附し該場作業の都合を以て荏苒日子を經過し原稿過半の組版を終へたるは本年四月中浣の事なりき然るに惡星尙余が身に崇たるを休めず不測の災害は突として地の一隅より起り來れり四月二十日事務所の近傍即ち下谷坂本町に失火あり此日西北の風吹き荒さみ恰も原燎の勢にて猛焰忽ち余が寓居に及びたり當時事務員皆出でゝ在らず余獨り炎々たる火中を奔走して重要なる幾分の荷物を持出せりと雖も凡そ斯事に從ひしより今日に至るまで前後八年の間苦心蒐集したる文籍の大半は烏有に歸し原稿の喪失したる者も正に十餘年分に亘る而して正史の明治前紀の中途より後紀の全般擧げて燒失し一時印行を

中止せんかとまで落膽せしめたり然れども此出版物や既に約に後れ信を世に失ひたるもの少小ならず然らば則ち再び之が調査に從事せんか時日に限りあり決して其完を望む可からず是に於て喪失の部門に就き倉卒調査を行ひ漸く明治前紀の後半を成せるが故印刷を終了し後紀は本書再版の時機を以て增刷する事に決定せり

嗚呼前陳の狀態は本書纂訂の經過を知り得べき畧表にして亦是れ實に余が可憐の小說的境遇に生活したるを証明する一記錄なり若し余をして裸體的人間ならしめずして內に情實の纏綿するなく外に有力の援助を有し最後竣功の日に慘怛たる燒失の災害なくんば必ずやより多く調査の完備を致しより速かに事業の進行を營みたらんに事の遂に斯の如くなるを得ざりしもの此の責天に在るか將た人に在るか余は言はんと欲して憮然言なきこと良久之

敢て希ふ余爾後一身を以て蠶業に委し勵精撓まず益々斯業の調査を遂行して東亞蠶絲の本末を探求し而して大日本帝國蠶業の長策を畫せんとするもの〻資料となり皇御國の恩澤に報いん事を聊か過去八年本書編纂の經過を陳して杜撰の罪を大方に謝す諸君請ふ諒焉

明治三十一年七月下浣

火災の爲め愛宕傳更精舍に立退中　著者　佐野瑛識

大日本蠶史

凡例

正史凡例

一本書世史分綴ノ方針ハ之ヲ農商務省農商務局纂訂ノ大日本農史ニ法トル者ニシテ太古上世中世近世今世ノ五世史ニ分ツ然レ𪜈大日本農史ハ終局ヲ明治十四年農商務省設置ニ止メタリト雖モ本書ハ終局ヲ明治三十年蠶種檢查法案ガ國法ト認メラレタル時ヲ以テ終局トナス

一今世史ヲ前後二紀ニ分シハ明治十一年蠶業諸規則ノ廢セラレテ以降斯業ノ爲又其必要ヲ感シ明治十八年農商務省令ヲ以テ蠶絲業組合準則ヲ發布シタル時ヲ以テ前紀トナセリ斯ハ一般蠶業上改良ノ方針凡テ十八年以前ト以後ト全然方針ノ異ナル塲合アルヲ認メシヲ以テナリ

一本書ヲ正史現業史ノ二類ニ分綴セシハ行政上ノ沿革ト實業上ノ沿革トハ主客ノ相違アルヲ以テ殊ニ二類ニ分チタリ現業史ノ要項ハ該凡例ニ就テ諒知スベシ

一余本書ノ稿ハ明治二十三年冬創メシ者ニシテ其事蹟ノ考證スベキ者幾千ノ書ニ散在シ得ルニ隨ヲテ徵證ノ出處ヲ記載スル所アリシモ災害ノ身ニ纏フモノ自序ニ陳スルガ如クナレハ或ハ失シ或ハ忘脫シ據ルニ苦ム者ナキニ非ズ且今世ノ部今尙ホ活歷史ノ存スルアリ又タ汗牛モ唯ナラザル明治以降ノ書籍出版セラレ當業者豫メ諒知シアルガ故ニ敢テ徵證書目ヲ揭載セズ

一本書沿革ノ事項ハ通シテ狀態ノ可否ヲ論斷セズ故ハ複雜ナル事項ト書籍ニ依リ校合纂訂セシ者ナレハ之ヲ讀者諸君ノ判斷試驗石トシテ存シ一ハ著者ノ陋見敢テ諸君ノ高聞ヲ汚ス恐レアルヲ以テナリ

茲ニ殊ニ讀者諸君ニ愛憐ヲ請ハント欲スル所アリ斯ハ編纂上各地當業者或ハ諸會社ヘ調査ノ事ヲ委シ周ネク材料ノ寄送ヲ請ヒタルニ之ニ應スルモノモアリ謝絕スルモアリ又ハ有無ノ回答モナサヾルアリ故ニ材料ニ乏シク遂ニハ漫遊或ハ官衙ノ書類ニ據リ審サニ蒐集シテ印行ニ着手シタリ然ルニ本年四月事務所近傍ヨリ出火折節西北烈風ノタメ瞬間類燒ノ災害ヲ蒙リ未刷ノ原稿及參考書類ヲ燒失スル事尠カラス僅カニ身ヲ以テ遁レタル情態ナリキ

再ビ調査ヲ遂行センカ出版ハ約セシ期日アリテ發行ノ遲延ヲ讀者ヨリ責促シテ止マズ是ヲ以テ明治以後分殊ニ杜撰ニ流レタル而已ナラズ原稿喪失ノタメ明治後紀ハ玆ニ缺キ更ニ第二版出版ノ當時ヲ以テ追補スル事アル可シ乞フ前陳著者ノ微衷ヲ憫ミ深大ナル宥恕ヲ賜フアラハ千歲ノ光榮不過之也

明治三十一年七月火災立退中愛宕傳叟精舍ニ於テ　著者　佐野瑛識

日本蠶史參考書目錄概要

本表列記ノ參考書ハ原著ノ年度ニ從ツテ列序スル者ト雖モ余カ斯史編纂ニ着手シテ以來當該書種閱覽ノ順序ニ依リ記載シタル者ヲ其儘茲ニ錄スル故前後錯雜ノ止ムヲ得サルニ出ツ閱者幸ニ責ムル無シハ余ノ幸榮不過之也

明治三十一年七月

佐野瑛識

神代記　古事記
皇紀略　姓氏錄
神皇紀略　日本書記
神紀略　類聚國史
書記集解　南留別志
大酒神社由緒書　賦役令
類聚符宣抄　吳織神社緣起
田令　吳織神社棟札記
　和名類聚抄
　職員令
　職員令集解
　義解
　軍防令
　續日本紀

文德實錄
類聚三代格
日本後紀
三代實錄
政事要略
官裁申請解文
玉海
續本朝文粹
北條九代紀
萬葉集
庭訓往來
庭訓往來證注大成
文正年代紀
逸史

公事根源
日本紀略
續日本後紀
弘仁格式
舊事本紀大成經
小右紀
本朝文粹
東鑑
新撰六帖
式目新篇
舊事本紀剞僞
室町日記
職人歌合
絲亂記

日本歲事記
日本逸史
貞觀格式
延喜式
羽陽叢書
扶桑略紀
室町殿日記
平家物語
制度通
式目新編追加
古今制度集
日件錄
大友興廢記
御觸書

野中傳右衛門掟書
和漢三才圖會
絹布重寶記
地方大概集
地方凡例錄
江戶總鹿子
樂翁公傳
久世條數
日本鹿濃子
米澤賢侯錄
建武年中行事
群書類聚
塵添壒囊抄
郁離子

江次第
萬金產業袋
機織彙編
飛州志
七島調書
羽林源公傳
熊本俚談
早川正紀頌德碑文
褒賞寫書
御觸書集覽
藻鹽草
相摸風土記
壒囊抄
昆陽漫錄

和歌山藩壁書
明月記
地方落穗集
易林節用集
鷹山侯偉績錄
松平定信行實
節用集大全
和歌山藩制度調書
年中行事
美濃明細記
李花集
尾張名所圖繪
品字箋
上野國志

古事類苑
日本風土記
天明太政錄
草茅危言
雨窓閑話
地方聞書
農業全書
甲斐叢記
存採叢書
承應遺事
鎌倉管領九代記
國史略
將軍記
元治夢物語

米澤聞書
神鳳抄
野人私草
今昔物語
野中兼山先生傳
定信掟書
苞桑錄
萬聞書秘傳
濟民要術
安東郡沙汰文
太平記
皇朝史略
水左記
蠶養ノ仕方（明和年中）

鎔造化育論
會津風土記
私家農業談
神皇正統記
本朝世事談綺
田法大意 附古今物價通考
甲斐國誌
萬寶鄙事記
駿河記
正保遺事
大日本史
足利實錄
安政秘錄
延享來聘之記

山槐記
明君德行錄
板倉政要
京羽二重
京都土產
新撰類聚往來
丹後風土記
新猿樂記
長崎紀行
貞德文集
堺鑑
濃陽志略
上杉家記錄
柳澤家記錄

三朝逸事
白川惠民錄
貞信公記
貴嶺問答
八丈島筆記
駿河風土記
和氣絹
長崎聞見錄
町人袋
擔尻
貞丈維記
常陸國志
授時圖略解
秋田家記錄

明君享保錄
貞治式目
廣益國產考
增補京羽二重大全
下野國志
丹波志
長崎志
大扶桑國考
商戰論
雍州府志
成形圖說
儀式帳
松平家記錄
忠懿家記錄

西上錄
五穀荒豐古
養蠶茶話（明和三年）
養蠶手引（寬政九年）
養蠶徃來（天保八年）
養蠶弘教錄（弘化四年）
養蠶ノ法（安政二年）
蠶養手引抄（安政二年）
養蠶手引草（万延元年）
養蠶諭シ書（文政年間）
新撰養蠶秘書（寬政二年）
德川禁令考
橫濱蠶絲貿易事情
橫濱沿革誌
農家重寶記
蠶養育手鑑（正德二年）
養蠶須知（寬政六年）
養蠶絹篩（久化十一年）
蠶飼ノ學（天保十二年）
養蠶圖解（天保年間）
養蠶秘錄（安政六年）
養蠶手引（文政十二年）
養蠶秘書（寶曆七年）
養蠶福壽袋（慶應二年）
德川實記
日本政治年鑑
蠶絲貿易概說
山繭秘傳抄
養蠶秘書（寶曆七年）
養蠶秘錄（享和二年）
養蠶私記（天明五年）
養蠶要記（弘化二年）
蠶養教諭書（安政六年）
蠶飼ノ仕方書（寬政九年）
養蠶實驗錄（文久　年）
養蠶私錄（元治元年）
養蠶秘傳抄（寶曆七年）
法令全書
統計年鑑
明治總覽
內外生絲相場累年高低表

關東蠶絲業者錄事
蠶種檢查法ニ對スル長野縣蠶業家ノ意見
養蠶訓（文政五年）
大日本農會成績書
栃木主催一府六縣共進會審查復命書
一府六縣聯合共進會審查復命書
第一回內國勸業博覽會報告
第三回內國勸業博覽會報告
農商務省統計表
一府九縣聯合繭絲織物共進會報告
實業雜誌
養蠶講義
山梨縣蠶絲業史
製絲家名譽錄
蠶種檢查法設定ニ對スル意見
中外蠶業事情
高山長五郎氏傳
一府六縣聯合共進會報告
日本蠶絲協會報告
全審查報告
商人鏡
蠶絲業組合中央部月報
第六回九州沖繩外八縣聯合共進會報告
農工商月報
信濃蠶業沿革史料
秋田蠶絲協會報告
製絲眞實
五學講義錄
蠶絲貿易要覽
農商務省報告
第五回關西府縣聯合共進會報告
全寫眞
第二回內國勸業博覽會報告
內外改良蠶事全書
第三回勸業諮問會日誌
上野五品共進會報告
官報
農林部私撰解說集
蠶學講義
日本蠶業史

製絲家必携
養蠶經濟論
大日本織物誌
米國紀行
農商務省沿革略誌
養蠶眞實
日本商業志
發養蠶論
氏
飼育日表
蠶病試驗成績
蠶種
繭絲出品解說
養蠶泝源
蠶絲業道中記
全枝葉育大意

蠶業學校成績
蠶桑餘事
養蠶新論
大日本商業史講義
蠶種製造論
各港輸出入年表
養蠶新說
大日本農史
ハ
氏養學全書
養蠶要訣
蠶事報告
大日本產業事蹟
生絲檢查要論
養蠶術

大日本蠶桑史畧
蠶桑要論
生絲檢查法實際錄事
續養蠶新論
帝國商業史
澳國博覽會贊同紀要
名家蠶業書
蠶之蛆
西陣織物沿革提要
蠶織報文
生絲繭蠶種審查法
養蠶事實
三河養蠶由來記
蠶家創業要覽

三河養蠶振興說
生絲試驗伸張力比較表
蠶絲業組合本部報告
橫濱生絲十ヶ年概況
對蠶業奬勵法案全廢意見書
海外蠶絲業保護奬勵法案
富岡製絲塲記
日本古代商業史
德川禁令考後聚
農商務省沿革誌
日本社會字彙
信濃實業新聞
東洋經濟新報
農業雜誌

蠶事眞說
山梨縣養蠶家略傳
在晚高波領事報告
蠶種檢查方案意見書
對蠶業奬勵法案意見書ニ答フ蠶絲業事實報知
褒賞實業偉績
速水先生手記
大津商業沿革誌
史料通信叢誌
實業者調查報告
帝國議會議事錄
橫濱蠶絲貿易新聞
東京經濟誌誌
蠶業新報

養蠶原論
滋賀縣沿革誌
農商務省沿革略誌
蠶種撿查法案全廢意見書
第四回關西府縣聯合共進會報告
尾高先生手記
農商務省錄事綴込
勝山宗三郎氏傳
日本風俗史
大日本農會報告
日本蠶業雜誌
蠶之友
工藝志料

農事新報　蠶事新報
蠶事要報　史海
史論　扶桑之蠶
農談　府縣勸業年報
府縣勸業報告　蠶業方鍼
農業雜誌　農工商公報
夏秋蠶之辯　夏秋蠶改良法
博覽會出品解說　蠶桑長策
養蠶事誌　蠶業汎論

此外尙ホ二百有餘ノ參考書アリト雖モ斯史至要ノ參考書タル可キ者以上ニ於ルカ如シ悉クハ他日發行ノ大日本蠶史參考書解題ニ就テ見ル可シ

佐野瑛再識

史學會雜誌
帝國蠶業雜誌
府縣勸業月報
大日本蠶絲會報
府縣新聞拔料（二十五種）
蠶絲要報
養蠶手引草
秋蠶全書
上毛繭絲改良會社沿革誌

大日本蠶史

正史目次

總論……一頁
第壹編　正史……三頁
第一章　太古史……七頁
第二章　上世史……二十五頁
第三章　中世史……百〇七頁
第四章　近世史……二百〇一頁
第五章　今世史……

大日本蠶史

佐野瑛述

總論

總論

本邦蠶業ノ歷史ナシ其之ヲ講究シテ上ハ太古草昧ノ時代ヨリ下現今ニ至ル迄蠶政及養蠶ノ變遷ヲ知リ稍々其聯絡ヲ諒知セシメ得可キハ思フニ余ガ大日本蠶史ヲ以テ矯矢トスルナラン カ蓋シ世ノ先覺者時ニ偶々斯業ノ變遷ヲ講述スル者ナキニアラズト雖モ皆古今蠶政ノ大要ヲ概括シテ論斷シ未ダ之ヲ委シク纂輯シ本邦蠶業ノ現今ニ暨ベル政策及實業ノ素養ヲ發表スル者有ラズ先輩ニシテ然リ勢ヒ斯ノ如クナレハ余ガ假令斯修史ニ永年從事スルモ到底間然スル所ナキヲ保證スルニ難キ而已ナラズ其好果ヲ收容セント欲スルモ得可ラサルハ當然ノ數ニ非ズシテ何ゾヤ

然レ𪜈期ス本書修纂ノ要領ハ正史ニ於テ蠶事行政上ノ沿革ヲ知リ現業史ニ於テハ實務家ノ執ル業務ノ變遷ヲ知ラシメ二史相俱ニ既往ノ因ヲ探リテ將來ノ好果ヲ收ムル資料ニ益スル事アルモ敢テ其害ノ無カラン事ヲ故ニ聊カ玆ニ余ガ纂訂ノ抱負ヲ概論セント欲ス

讀者諸君眼ヲ廣ク意ヲ平カニ社會發達ノ狀態ヲ達觀セヨ社會ノ生存發達ハ恰モ一個人ノ生存發達ニ於ルガ如ク自ラ其幼稚ノ經歷ヲ悉ク記臆スル能ハザル而已ナラズ社會モ亦之ヲ記臆スル事能ハサルナリ而シテ其草昧ノ時代ヲ離隔スルニ及ビ初期ノ狀態ヲ僅ニ記臆シテ之ヲ傳說ニ止メ漸ク進ンデ文籍ニ遺載スル者アルノ理ハ進化上ノ通理ナリ故ニ其事跡ヲ遺スニ於テ時ニ或ハ誤謬ノ遺留スル事アルモ飜ツテ其眞象ヲ窺フニ於テハ又一條ノ據ル所ロナキニ非ラズ此ノ如キ狀態ハ本邦ニ限ラズ老大ノ支那將タ歐米ノ諸州ヨリ宇內ノ生存發達皆夫レ然リ豈ニ然ラザルヲ得ンヤ

本邦蠶業ノ如キ然リ前陳ノ條理ニ纏ハレ其明晰ヲ聊カ缺クガ如シト雖モ之ヲ最古ノ歷史ニ就テ考證スレハ實ニ神代ノ時世ニ斯業ハ創マレリトナス之ヲ觀察スレニ保食神ニ賴ツテ生出セラレ天照太神天八千千姬命ニ命シ天香山ニ於テ之ヲ養ハシメタリ斯ハ古事記日本紀等ノ明載スル所ロ即チ大日本養蠶創始ノ原始ナリトナス其後斯業ノ發達得テ明カナラザルモ紀元五百年代ニ至リテハ頗ル發達シタル事蹟ヲ存スルニ均ラズ世ノ蠶業ヲ談スル者往々本邦ノ蠶業ヲ以テ支那ヨリ輸入セシト謂ヒ又タハ紀元八百年代ニ蠶業始メテ本邦ニ創始セリト稱スルアリ斯ハ紀元八百五十年代ノ時世ニ皇十四代仲哀天皇ノ御世秦ノ功滿王歸化シ蠶

種珍寶ヲ獻ズト云ノ文獻ニ徵スル者ニシテ謬妄モ亦甚シト謂フ可シ要スルニ當時ノ事ハ只ニ他國蠶種ノ本邦ニ渡來シタル一事蹟而已若シ夫レ此ヲ以テ假ニ信據スル所アリトセンカ假令バ應神天皇ノ御世ニ漢土ヨリ絹綿織成ノ工人ヲ本邦ニ輸送セシ事ヲ以テ本邦絹綿織成ノ原始トナスニ同ジ考證ノ比較彼此敢テ徑庭スル所ナキハ一理ナリサレバ此等論者ノ引證ハ考證抹殺ノ認言ニシテ無責任者流ノ抱大壯語ニ外ナラジ

百尺ノ竿頭尙一步ヲ進メテ追究セヨ紀元五百年代人皇九代開化天皇ヨリ崇神天皇ノ御世ニ於テハ他國人ノ視テ以テ眼目ヲ眩スト云フ如キ美麗ナル錦ノ織物アリシニ非ズヤ斯ハ本邦ノ歷史ニ缺ケタリト雖モ漢土ノ書籍ニ明載セリ即チ杜子美詩文類集ノ註中ニ曰フ奉知嚴中亟西城晚十額ト題スル詩ノ句ニ

花羅封峽蝶瑞錦送麒麟ト而シテ其註ニ曰フ峽蝶麒麟ハ羅錦ノ上ノ文繡也ト又其解釋ノ續キヲ見レハ漢武帝時西域獻峽蝶日本貢麒麟眩人眼目トアリ而シテ詩文類ノ註ノ據ヲ索ルニ韻府續篇ニ漢武帝時日本貢麒麟錦十端金光眩目トアリ是時皆麒麟文樣ノ浮織ヲ成シタル錦ナル可シ然レハ此ニ伴フテ本邦蠶業ノ發達豫シメ徵スルヲ得ト云フモ考證ヲ附會スト謂フニ非ルヲ知ルニ足ラン

因ニ曰フ日本貢麒麟錦ト云ノ字句大ニ不審ヲ免レザルガ如シト雖モ皆私人ノ交通ナリ

後漢書東夷傳ニ曰フ光武中元二年（本邦人皇十一代垂仁天皇ノ八十六年ニ相當セリ）倭奴國奉貢朝賀使人自稱大夫倭國極南界也光武賜以印綬ト此頃實ニ彼國ガ稱スル而已ニシテ我朝ノ曾ツテ知ラザル所ナリ

考証大日本史垂仁天皇八十七年ノ條ニ按歷代皇紀濫觴抄並云始遣使于漢蓋據後漢光武紀中元二年倭奴國遣使朝貢之文今撿倭國傳曰倭奴國奉貢使人自稱大夫倭國之極南海也然則邊邑私通非朝廷所命明矣故不取トアリテ我國ノ歷史ニ此事ヲ缺クハ畢竟我朝廷ヨリ遣ハシタル者ニ非ズシテ九州ノ豪族等ガ私カニ漢土ニ通ゼシナラン

加之彼ノ後漢書ノ東夷傳ニ曰フ通于漢者卅餘國皆稱王トアルヲ以テ見テ明ナリ而シテ其豪族等ガ今ノ九州地方ナル事ハ彼國魏志ノ倭人傳ニ照合スレハ又尚ホ之ヲ能ク知リ得可シ即云ク歷漢國千里至對馬渡一海千里至壹岐又渡一海千有餘里而至末盧國陸行五百里至伊覩國トアリ

按スルニ末盧國ハまつろニシテ今ノ肥前國松浦ヲ稱ヒ伊覩國ハいとニシテ今ノ筑前怡土地方ヲ謂フ或ハ其當時ニ於テ倭奴ト謂シナラン

又タ崇神天皇ノ御宇蠶絹ノ如キ者ヲ以テ手末ノ調ニ加ヘタルアリ景行天皇ノ御宇日本武尊ニ勅命シテ東國ノ熊襲ヲ征討セシメ給フアリ該御詔勅ノ旨ヲ按スルニ內ニ曰フ民ノ農桑ヲ劫ム云云ト於茲見是蠶業ニ此時已ニ東國ニ普ネカリシナラン然レバ當時養蠶事業ノ行ハレツヽアリシハ幾內ハ勿論東ハ關東西ハ中國ヨリ九州ヲ通ジテ斯業ヲ營ミシナル可シ

然レモ本邦蠶業カ一增ノ速度ヲ以テ發達シタルハ紀元九百四五十年ノ頃ヨリ以降ニシテ應神天皇盛ニ斯業ヲ勸メ給ヒシニ依ル可シト考フ蓋シ其素養ハ遠ク先皇ノ大御心ヲ垂サセ給ヒシヨリ今帝ニ至リ此意ヲ體シ一般民業擴張ヲ企テ養蠶絹織ノ如キ本邦從來ノ仕方ヲ以テ足レリトセズ遠ク漢土ヨリ斯道ニ明ナル者ヲ聘用シ之ヲ應用シ遂ニ能ク一大刷新ヲ加ヘタリ仁德天皇ノ御宇亦先帝ノ遺跡ヲ繼承シ斯業ニ大御心ヲ寄ラレ給ヒ秦民ニ波多ノ姓ヲ賜ヒシ事或ハ韓人奴里乃美ノ家ニ太后ノ行啓シ給ヒ養蠶ヲ親覽シ給フ事ヲ考合スレハ御治世中ノ大勢ハトスルニ足ル可ク爾來數世百五十餘年ハ斯業ニ關スル徵證全然缺クガ如シト雖モ紀元一千年代ノ後半紀ニ於テ藏部織部ノ兩職ヲ設クルニ至ルヲ考フレハ思ヒ半バニ過ル者アラント思諒ス

斯ル趨勢ニ加フルニ尙能ク發達ノ進路ヲ助長シ大御心ノ在マス所滿天下ヲシテ轉タ感涙ニ

咽バシメ斯業ノ爲メ興奮ノ氣ヲ惹起セシメシハ紀元一千百年代ノ後半紀人皇二十一代雄畧天皇ノ御宇ニ外ナラズ帝ハ即位ノ六年宮中御親蠶ノ盛典ヲ擧サセ給ヒヌ普天ノ下卒土ノ濱苟モ皇化ノ德澤ニ浴スル者勵精シテ以テ奉答スル所ナクンバアラズ只ニ是而已ナラズ使ヲ吳國ニ遣シ漢織吳織兄媛弟媛等ノ工人ヲ聘傭シテ本邦織物ノ改良ヲ加フ更ニ進ンデ大御世ノ十九年國縣ニ詔シ桑樹ヲ殖植スル事ヲ勸メ給フノ御治蹟ノ如キハ實ニ萬古ニ埋沒ス可ラザル者ニシテ當時蠶業ノ隆興解說ヲ待タズシテ知ルヲ得ルナリ

然ラハ以降斯ノ大勢ハ一瀉千里ノ潮流ニ向ッテ進歩シツヽアリシカ舊事蹟ノ能ク知ル能ハズト雖モ余ハ其然ラザルヲ臆斷セント欲ス斯ハ當時ノ如キ時世ニ於テハ事物ノ普及物ノ感慨開化ノ時ニ較フレハ頗ル鈍ク且時ノ治平ハ浴化ノ弊風ヲ來スト同ジク實業社會ノ狀態ハ凡ソ特殊ノ奬勵ヲ弛ブト同時ニ稍々頓挫ヲ催シ再ビ促サレ而シテ又進歩ノ境域ニ嚮フヲ以テナリ

是ヨリ先御世ノ十二年弓月王六代孫酒公本邦蠶養絹織ノ事業廢ル、ヲ嘆キ之ヲ興サン事ヲ朝廷ニ奏上セリト後世考證ヲ遺スモ由來前陳ノ理由ニ外ナラジ即チ以降緩急ノ態度ヲ以テ紀元一千二百年代ノ後半紀又タ農蠶興起ノ政策ヲ執リ國家ノ法典ノ上ニ明ニ其保護政要ヲ

示ス斯ハ人皇三十二代推古天皇ノ御宇ニ在リ

使民以時古之良典也、從冬至春農桑之節不可使民（下略）

是レ同ジキ帝ノ十二年聖德太子撰定ニ係ル憲法中ノ明文ニシテ實ニ該憲法ハ帝國法制ノ矯矢萬古不易ノ大典トナス惟フニ憲法上農蠶ノ保護政策ヲ明載スル以上ハ當時斯業ノ狀態如何ナリシカ將タ其消長ヲトスルニ於テ敢テ至難ノ業ニ非ズ余不敏事ノ信僞ヲ判斷スルノ明ニ乏シト雖モ舊事本紀ノ考證スル所ニ據ッテ見レハ果セル哉當時聖德太子ハ民ニ育蠶ノ方法ヲ敎ヘ給ヘリトアリ是或ハ然ラン漢土交通ハ自由ノ時代ナリシヲ以テ我國ヨリ彼國ニ至ル者或ハ彼國ヨリ齎ラス文籍ノ如キ稍々我ヨリ發達セルヲ發顯シ之ヲ參酌シテ我實業ノ改良ヲナシ民業ノ進暢ヲ經營セント期シタル由來ナルカ如何トナレハ彼我交通ノ場合實業ノ事ノミナラズ其他百般ノ事物我ニ優リタル良法ヲ發顯セハ支障ノナキ限リ之ヲ應用シテ我弊ノ刷新ヲ企圖セント欲スルハ自然ノ數ナリ而シテ漢土ノ事物當時我邦ニ優リツヽアリシ事ハ前陳九百年代ノ頃ヨリ追次考證スル如クナレハ太子業ニ已ニ彼國育蠶ノ次第ヲ案知シ之ヲ我國ニ參酌應用シタル者ナルベシ若シ夫レ事玆ニ出テズ太子ノ傳ヘシ養法全然本邦ノ技術ナル事ナラシメバ蠶學ノ研究頗ル發達セシト思ハル盖シ先皇應神天皇ノ御宇我邦蠶

業ニ一大刷新ヲ加ヘテ以降年ヲ閲スル三百餘年歴世斯業ヲ重要シツヽ來リシ者ナレバ舊事本紀ノ徵證敢テ奇トスルニ足ラズ否寧ロ此育法ノ如キ當時ニ傳ハリシヲ信ジテ疑ハズ見ヨ其他ニ於ケル文敎ノ如キモ然リ本邦ニ渡來シテヨリ三百餘年ナルニ進歩ノ趨勢ハ蠶業ノ比ニ非ズ高尙深遠ナル文敎ニシテ然リ事實業ニ係ル農蠶ノ如キ豈然ラザルヲ得ンヤ

請フ更ニ進ンデ中世ノ狀態ヲ觀察セヨ其後未タ五十年ヲ經由セズシテ大化ノ新令ハ發布セラレ蠶業潮流ハ遙ニ進ンデ租調庸物中ノ主産品タルニ至レリ租調庸ハ其國ニ生活シ其國土ノ德澤ニ浴スル以上必ズ斯義勢ヲ負フ可キ者ニシテ約言スレハ國民ノ一大責任ト謂フモ亟言ニアラズ人皇三十六代孝德天皇始メテ大化ノ新政ヲ布キ國郡ニ租調庸ヲ課シ農桑ノ奬勵愈々極ム其制畧テ正史ノ中世ニ在レハ茲ニ詳說スルノ必要ナシト雖モ里長ヲ置キ租調庸ノ事務ヲ執掌セシメ田分ニ據ッテ桑樹ヲ課殖セシ等ハ當時蠶業ノ情態ヲ諒知スルノ指針ナランカ想フニ我邦ノ農蠶ハ此大化ノ新令ヲ以テ更ニ從前ノ面目ヲ一新シ農民ノ義務モ據ル可キ軌路ノ範圍內ニ隨從セバ足ル事トナシ即チ大化ノ制度以外ノ所得ハ純粹ナル力役ノ報酬トナリ自然ニ此觀念ノ啓發ヨリ農桑ノ勵精トナリ之ニ加フルニ戶ノ等級ニ應シテ桑樹ヲ課殖スル等一增發達ノ原由トナル後世蠶業刷新ノ由來ヲ當代ニ稱揚スルモ偶然ニアラズ

之ニ次デ制度上大ニ見ル可キ者ハ紀元一千三百年代ノ後半紀ニ於ル文武天皇ノ御宇ナランカ帝ハ即位ノ五年大寶ノ新令ヲ頒チテ大化ノ令ヲ改ムヌタ軍防令ヲ布テ衛人ノ農桑ヲ損スル者アル時ハ假令軍行ノ時ト雖モ法ニ依リ罪ヲ科シテ民業ヲ保護シ田令ニ於テハ桑樹ヲ與ヘ年限ヲ限リテ園地ニ植ヘシメ課スルニ絹絁絲等ヲ以テス世人之ヲ稱シテ中世蠶業刷新ノ第二次期ト云フ

同ジキ世紀ニ於テ元明天皇ノ和銅元年間錦綾織成ノ傳習敎師ヲ諸國ニ遣スヿヲ挑文師ト謂フ而シテ傳習生ノ織成上其技術ノ秀逸ナル者ハ嘉賞シテ永ク子孫ノ雜戶ヲ免ジ又農蠶ニ精勵スル者ハ其狀ヲ具サニ朝廷ニ奏聞セシムル等奬勵一ニ是ニ出テザルハナク此制ハ其後元正天皇ノ御宇ニ及ビ更ニ擴張シテ按察使ヲ諸國ニ遣ハシ狀ヲ錄シテ奏聞セシムル事トナス上聞下達啓發ノ政策實ニ如斯故ヲ以テ人民其居ニ安ンジ農桑ノ業務愈々盛ニ紀元一千四百年代ノ前半紀ニ於テ養蠶ノ行ハレシハ已ニ三十餘國絹綿紡織ノ業モ自然之ニ伴ヒシ者ト謂フモ杜撰ニ非ルヲ知ル

而シテ其後半紀人皇五十代桓武天皇ノ延曆年間崙崑ノ木綿種偶然日本ニ渡來シ三河紀伊淡路阿波讃岐伊豫土佐及太宰府等ニ種殖セラル木綿ハ素ト是レ纖維ノ有用ヲ以テ目的トスル

者即チ衣服ノ原料タル者ナレハ此事終ニ日本蠶業ニ影響ヲ與ヘザリシカ蠶業上ノ一疑問ニ屬スト雖モ此世紀等ニ於テ敢テ其盛衰ニ影響非ザル事ヲ斷言スルニ憚ラザルナリ余ガ杜撰ノ調査考証ノ明確ヲ認ムル材識ナシト雖モ考フルニ木綿ハ廉價ニ且簡易ニ製作シ得ラル、カ故ニ蠶業勵奬保護ノ當時ニ於テハ眼中未タ木綿ヲ製作スルニ注意淺ク兎角從來奬勵政策ノ習慣ニ駈ラレ寧ロ該種ノ持續ニ止リシ者ノ如ク爾後百餘年間ノ事跡ニ徵スルモ毫モ蠶業ノ盛衰ニ係リシ事ナシ却ツテ蠶業ハ益々發達ノ機運ニ向ヘリ請フ之ヲ千五百年代ノ後半紀ニ徵セヨ人皇六十代醍醐天皇ノ御宇編成サレタル延喜式ニ載スル所ヲ見ルニ式ノ上ニ業ニ已ニ養蠶國ト認定サレシ者國十八國ナリキ是等諸國ハ皆是レ絹綿ノ產出ヲ兼シ者ナル事ハ租調ノ納格ヲ見テモ明カナリ

然レモ同ジキ世紀ノ終末ヨリ農桑ノ萎衰ヲ來ス原由ハ起レリ斯ハ人皇六十一代朱雀天皇ノ御宇ニ係ル純友將門等ノ反亂即チ是ナリ當時ノ攝政ハ忠平卿ナリシガ反亂以降百度弛廢シ政令行ハレズ盜賊所在ニ出沒シ朝貢ノ物品ヨリ商賈ノ物品ニ至ルマデ之ヲ掠奪シ生民ノ困難ニ加フルニ反亂ノ爲百姓ハ兵役ニ駈ラレ殖產與業ノ如キ實業ハ將ニ放棄セザル可ラザル修羅ヲ現出セリ其情態ノ甚タシキハ千六百年代ノ前半紀人皇六十二代村上天皇ノ御宇天曆

年間下サレタル太政官符ヲ觀察セヨ境域ハ東海東山北陸山陰山陽南海ニ亘リ徒ラニ貢進ノ名アツテ公私ノ用ニ中ラズ因幡但馬ノ二國僅ニ土產ヲ貢ルニ蠶繭ノ纏ニ依ラズ野草ノ皮ヲ交セ織リ（中略）總テ是レ牧宰督察ヲ加ヘザルノ致ス所ナリ

此條文ニ依ツテ考フレハ當時治政ノ振ハザルト斯業ノ退歩ハ推シテ知ル可ク延喜以降未タ數十年ナラザルニ失態已ニ茲ニ出ヅ其甚タシキハ國守ノ彈劾ヲ申請セラル、アリ即チ同ジキ世紀ノ終人皇六十六代一條天皇ノ永祚年中尾張國守藤原元命失政事件是ナリ是ヨリ先キ村上天皇御宇ニ於テハ更ニ農桑ヲ勸ムルノ政針ヲ遂行センガ爲メ止ヲ得ス天曆ノ六年左右京職ニ仰セテ嚴刑ヲ加ヘ桑樹ヲ殖ヘシメタリト政事要略ニ考證セリ桑樹課殖ノ事ニ附テハ嚴責ヲ加ヘテ勸誘セシ事歷世ニ敢テ珍シカヲヌズト雖モ朱雀天皇ノ承平天慶以來斯業ノ衰退ヲ挽回センガ爲當御世ニ於ケル桑樹課殖ノ嚴令ハ慄然トシテ鑑戒セシムル所アリ蓋シ此嚴令ハ果シテ既往ノ衰勢ヲ挽回スルノ効アリシヤ否傳フル所ニ據レハ千七百年代ノ前半紀ニ至ル頃ニ相承テ攝政スルモノ實賴、伊尹、兼通、賴忠、兼家、道隆、道兼、道長、賴通等ニシテ其間ノ人心ヲ動搖セシモノ安和寬和ノ變ヲ始メ長元永承天喜康平ノ亂前後二十年ニ加フ千六百年代ノ後半紀藤原道長威權ヲ弄スルノ如キ民心ニ離反シ政道擧ラズ一千七百年

代ノ前半紀人皇七十一代後三條天皇ノ御宇漸ク王權ヲ回復シ藤原氏ヲ畏縮セシメシト雖モ
此時既ニ制度弛ビ調庸布制一定ナラザリシガバ御宇ノ延久年間之ヲ定メ畫一ノ式ニ據ラシ
メタリ蓋シ此刷新ノ及ボス所ヲ按スレバ只タ製出者即チ農工ノ間ニノミノ事ナラン同ジキ
年代ノ後半紀ノ大勢ヲ觀察スレハ世ハ奢侈ニ傾キタリ人皇七十五代崇德天皇ノ御宇藤原敦
光之ヲ嘆ジテ其保延年中禁奢ノ勸文ヲ上ル
葛衣菲食長ク其儉ヲ傳フ方今天下庶人ノ居宅衣服制度ニ踰ユ軒騎僮僕多ク規摸ニ過ク頻
ニ禁過ヲ加フレモ悔改セズ……（中略）宜シク綸言ニ依リテ色々ノ華麗ヲ停メン
此勸文執奏ノ當時世ハ一般奢侈ヲ極メタレハ絹綿ノ如キ原料ヲ求ムルタメ蠶業ノ經營ナカ
ル可ラサリシニ以後近衛天皇及鳥羽天皇ノ御崩後忽チ保元ノ亂起リ爾來平治治承ノ年間源
平二氏ノ騷亂止ム時ナク紀元一千八百年代ノ前半紀後鳥羽天皇ノ御宇文治年中後白河法皇
院旨ヲ公卿大臣等二十三人ニ傳ヘ意見ヲ上ラシム其要ハ治國安民ノ長策ヲ諮詢スルニアリ
朕帝位ヲ進ムルト雖モ猶朝政ニ諮詢シテ天下ノ太平ヲ日ニ思ハザルハナシ然ルニ七八年
來干戈屢々起リ諸國諸司課稅ヲ專ニス是ニ依ツテ人民ハ軍旅ニ苦ミ民ハ農桑ヲ忘レ神事
佛事多ク以テ闕乏ス（下略）

御詔文業ニ已ニ當時ノ狀態ヲ現出ス是ニ依リテ之ヲ見レハ戰亂ノ餘波租調ノ制度又ミ亂レ
農蠶ハ衰退シ畏クモ法皇ノ聖慮ヲ煩シ奉ルニ至ル彼ノ兵庫頭大江廣元カ東國ノ地頭ニ沙汰
セシ當時ハ天下泰平ニ赴キ百姓安堵ノ生活ヲ爲シ得ルガ故今ニ於テハ用水ノ便宜ノ地ニ新
田ヲ開作スル事ヲ勸メ又タ從來荒地不作ノ所ト稱シ年貢正稅ノ減殺ヲ許ザズト云ヘリサレ
ハ世ハ全ク治平ニシテ年貢正稅ノ減額ヲ要スル時ニ非ザルヲ證明スルニ足ルト思考ス是レ
農桑ノ業回復スル所ロアリタルヲ以ノ故ナランカ然レモ大江廣元ノ沙汰ヲ發スル以前即チ
壽永ノ時ニ於テハ軍兵橫行シ居民ヲ追捕セルヲ以テ多ク山野ニ逃亡シ農桑ノ時ヲ失ヒ饑饉
ノ歎ニ沈ミ溝瀆ニ倒レテ死スルモノ數ヲ知ラズ然ルヲ歸住シ耕牧ヲ務ムト雖モ賦斂ヲ重ク
シ公役ヲ繁クス且暴戾目代ハ年貢ヲ責ルガ故ニ價ヲ半ニシテ雜具ヲ賣リ資財ナキ者ハ倍息
ノ利銀ヲ借リ或ハ田宅ヲ壞チ子女ヲ販キ償フ若シ辨濟スル事能ハザレハ妻子ヲ捕ヘテ祿ニ
シ荊中ニ伏サシメ農夫ヲ縛シテ氷ヲ履マシメ牢屋ニ繫ギ水食ヲ停メ或ハ井池ニ浸シテ寒風
ニ侵サシメ何レモ限ノ正稅ヲ肯ガハシメシト是ヲ以テ見ルモ亂世ノ時ニ於ケル產業ノ萎靡
察スルニ餘リアル事ナラン
何レノ時代何レノ場合ヲ問ハズ苛酷暴戾ノ政略行ハレシ後ノ現象ハ民力ノ沮喪ト實業ノ萎

靡ニ外ナラズシテ後ノ衝ニ當ル者是ガ回復ヲ圖ランニハ絕大ノ識量ト非常ノ大英斷ヲ要ス
今紀元一千八百年代ノ後半期ニ於テ北條氏政權ヲ掌握シ泰時ノ治世ニ有名ナル貞永式目ヲ
頒チ政針ヲ世ニ發表シ大ニ民力ノ發達ヲ企テ其後紀元一千九百年代ノ前半紀人皇九十代龜
山天皇ノ御宇評定司等議シテ諸國ノ守護等ニ命ジ
夏三ヶ月ノ間ハ農桑ノ宗トアル時ナルガ故私ニ之ヲ使フ可ラズ但シ領主等田畠蠶食ニ作
ル事ハ先例ノ役法ナレハ今更相違アル可ラズ又百姓出スベキ臨時所濟ノ事限リアル所當
ノ外臨時ニ徵シ下ス事ハ永ク之ヲ停止スベシ
ト當世紀北條氏ノ政策此一綱ニ於テ諒知スベケレモ時世ノ變遷ハ時ニ順還シテ之ヲ妨害ス
ルノ止ムヲ得ザリキ同ジキ世紀ノ後半紀人皇九十六代後醍醐天皇ノ御宇戰爭起リ天下ハ前
陳壽永ノ昔ニ異ナラズ結局南朝亡滅シ北朝政權ヲ掌握シテ一時干戈ノ慘怛ヲ脫スル事ヲ得
シカバ紀元二千年代ノ前半紀人皇九十九代後花園天皇ノ文中年間將軍足利義滿ノ治世農桑
ヲ勸誘シタリシト雖モ二千百年代ノ前半紀人皇百〇二代後花園天皇ノ御宇凶荒ヲ加ルニ連
年ノ干戈相尋デ止マズ且無賴ノ徒ハ擅ニ日夜暴橫ヲ極メ庶民ノ困弊一方ナラサリシニ之ニ
反シテ將軍義政政ニ倦ミ將士ハ居服制ナク競フテ驕奢ヲ勉メ商賈估客ト雖モ往々綾羅ヲ衣

トシ紅紫ヲ被ムル天下華靡ノ習ヒ極マリシト盖シ當時ノ風俗ニ伴ヒ蠶織ノ業ハ斯ク盛ナラ
ザリシカ考フルニ政令ノ正鵠ヲ失シタル時世ナレハ斯業ヲ營ニ安カラズ同ジキ世紀ニ於テ
忽チ天下亂ル開國未曾有ノ騷亂盖シ此時ニ創レリ斯ハ人皇百三代後土御門天皇ノ御宇ニシ
テ足利義政末タ將軍タリシ當時應仁年間山名宗全細川勝元亂ヲ起シ以來天下ハ四分五裂英
雄ハ四方ニ割據シ政令ノ統一スル所一モナク百姓ハ兵役ニ奔駈シテ力ヲ農桑ニ致ス能ハズ
故ニ蠶業ハ未聞ノ廢頹ニ屬スト雖モ山間邊陬ノ地ハ全ク斯業ノ斷絕スル事ナカリシニ又タ
斯業ノ衰退ヲ來サヾル可ラザル原由起ル同ジキ世紀ノ後半紀ニ於ケル後奈良天皇ノ大永年
間木綿種關東ノ地ニ波及シ來レリ斯種素ト輕便ニ製作シ得ラル、ヲ以テ後ニ至ツテ考フレ
ハ蠶業ノ頓挫ハ斯種ニ依ツテ始リ而シテ其後紀元二千二百年代ノ後半紀人皇百〇七代後陽
成天皇慶長七年生絲ヲ搭載シタル一商船漂テ長崎ニ入港セシヲ以テナリ是時德川幕府ハ何
ノ見ル所モナク生絲輸入ヲ以テ好機トナシ之ヲ防止スベキノ方針モナク商賈ニ諭スニ今彼
ノ船舶ヲシテ積戻サシムル時ハ再ビ本邦ニ來ラズ云云ト是等ノ事蹟ハ即チ本邦蠶業ノ衰退
ヲ萌セシ者ナル可シ只ニ是而已ナラズ幕府ハ戰後ノ救濟トシテ儉約ヲ宗トシ內ニ禁絹ノ主
義ヲ斷行シ及前陳ノ如ク外國生絲ヲ本邦ニ輸入スル事ヲ許容シ木綿布着用ノ政略ヲ勵行シ

タルニアリ今幕府ガ農民ニ令セシ禁絹ノ第一着トシテ紀元二千二百年代ノ後半紀後水尾天皇ノ寛永五年觸出サレシ覺書ノ内

百姓ノ衣物ノ事

百姓ノ衣ル物ハ布木綿タル可シ但名主其他百姓ノ女房ハ紬ノ衣物迄ハ不苦其上ノ衣裳ヲ着候ハヽ曲事タルベキ事

ト有リ要スルニ農民ヲ待遇スル幕府ノ抱負ヲ發表シタル一例ト見テ可ナルベク蠶業ノ擧ラザルモ偶然ノ結果ニ非ズ此際毅然蠶業奬與ノ壯志ヲ懷キ殖蠶ヲ勸誘セシハ當時賢臣ノ譽レ高キ土佐候ノ執政野中主計トナス領内ニ觸出セシ掟書ニ曰フ

蠶飼ハ屋敷廻リニ桑木ヲ並木ニ植置キ蠶飼スベシ云云

實ニ是レ明正天皇ノ寛永二十年幕府カ禁絹主義ヲ勵行シツヽアル當時ニシテ斯業ヲ副産的普及ノ策ヲ講セシ明案ト知ラレタリ

讀者諸君ニ請フ烟眼ヲ啓キテ幕政ノ方針ヲ觀察セヨ禁絹主義ハ寛永ノ十九、二十年ノ兩年ニ於テ一層頻繁ヲ示ス百姓ガ斯業ニ對スル刺激ハ果シテ如何アラン自己ノ製出ニ係ル蠶品ノ用度ヲ制止サレシヲ以テ喜テ服從セシヤ奢侈ハ處世ニ害アリトナスモ敢テ朱ニ百姓ニ酷

ニ制令スルノ不當ナル政綱ノ完キヲ得タリトナス可ラズ

寛永十九年五月二十四日鄕村ニ觸出サレ條目ノ中

男女衣類ノ事

此以前ヨリ如御法度庄屋ハ絹紬布木綿ヲ可着百姓ハ布木綿タル可シ

右ノ外襟帶等ニモ仕間敷事

同ジキ年ノ八月十日在鄕ニ觸出サレシ條目ノ中

一百姓ノ衣類男女共ニ此以前御法度ノ如ク庄屋ハ絹紬布木綿可着之脇百姓ハ布木綿可着之襟帶等ニモ右ノ外ヨキ者仕間敷事

附　袖ユキ　長ク仕間敷事

同ジキ二十年三月十一日士民仕置覺書ヲ觸レ出サレシ條目ノ中

一百姓ノ衣類此以前ヨリ如御法度庄屋ハ妻子供絹紬木綿脇百姓ハ布木綿計可着之此外ハ襟帶等ニモ致シ申間敷事

同ジキ年ノ八月二十六日觸出シ條目ノ中

一百姓ノ衣類男女共ニ此以前如御法度庄屋ハ絹紬木綿可着之右ノ外襟帶等ニモ仕間敷

事

斯ク農民ノ衣料ニ干渉スル事アリシモ時世ノ變遷支ヘガタク紀元二千三百年代ノ後半紀人皇百十三代東山天皇元祿ノ頃ニ至ツテハ本邦蠶業モ自然ニ進歩シ當事者モ又自ラ營業上ニ注意ヲ催シ其五年信州雨野州武州相州奥州ノ蠶種商等武州八王子ニ相會シ諸種ノ規約ヲ締結スルト同時ニ原卵原紙ノ寸法ヲ定メタリ日本ニ於テ蠶業會ヲ開キシハ是ヲ以テ嚆矢トナス

同ジキ世紀ニ於テ始メテ養蠶書ノ著述發行アリタリ（上野國桃井庄馬塲重之著）是レ本邦蠶書ノ嚆矢ニシテ當時一方ノ制禁ニモ拘ワラズ自然ノ潮流ニ依リテ斯業ノ發達セルモノ抑モ國家進運ノ賜ナルカ其後元文寶暦明和ヨリ次第ニ蠶業隆盛ヲ極メ著書亦少カラズ九州肥後國主細川重賢候ハ農桑ヲ勸課シテ是ガ隆興ヲ圖リタリ其後紀元二千四百年代ノ前半紀人皇百十九代後桃園天皇ノ安永年中奥州米澤ノ城主上杉鷹山侯ハ重臣竹股美作ノ建議ヲ容レ新ニ國產所ヲ設ケテ農桑ノ業ヲ奬勵シ同ジキ世紀ノ後半紀ニ至リテハ人文ノ發達ニ伴ヒ斯業ノ重要ヲ感ジ東國ニテハ松平越中守定信侯奥州ニテハ秋田上杉ノ兩侯信州ニテハ上田藩中國ニテハ但馬藩美作備中ニ於テハ久世笠岡ノ兩藩近畿ニハ和歌山ノ藩侯等大ニ蠶業ヲ奬

勵シタレバ斯業ハ漸次進歩シ當業者モ自ラ蠶業ニ關スル書籍ヲ發行シテ自他ノ便益ヲ計ル等此趨勢惇々トシテ有望ノ地位ニ至リシニ俄然一大障碍ノ來ル事アリキ人皇百十二代仁孝天皇ノ天保年中天下大ニ飢饉シ五穀登ラズ餓莩路ニ横ハリ慘憺言フ可ラザル境遇ヲ現出スル假令是事ナシトスルモ從來幕府ハ禁奢令ヲ發シテ百姓ノ絹綿ヲ被ルヲ禁制シツヽアル當時ナレバ今天下ノ悲境ニ際シ奈何デカ一層嚴格ナル政令ヲ發セザル事アランヤ於茲水野越前守雄腕ヲ奮ツテ一大改革ヲ斷行シテ曰フ百姓ノ義ハ粗服ヲ着シ髮モ藁ヲ以テ束ヌルガ古來ノ風儀ナリ近來奢ニ長ジ身分不相應ノ品着用致シ髮モ油元結ヲ用ユルノミナラズ流行ノ風俗ニ倣ヒ其外雨具モ簑笠ヲ用ヒ申スヘキヲ傘合羽ヲ用ヒ云云ト嚮是レ飢饉ノ救護策遂ニ此嚴肅ナル政令ヲ發セシナル可ケレ其後二三年ヲ經テ幕府ハ又タ禁奢令ヲ發セリ前陳ノ悲境未タ民力ノ回復セザルヲ以テナリト傳フ

御領所ノ者共家作衣類食物等凡テ風俗ノ義古來ヨリ御制度ノ趣キ堅ク相守ルベキ旨申渡置ト雖モ尚此節御府内町人共衣服等ノ義町奉行所ヨリ嚴重制止之アリ在方ノモノハ江戸町人ヨリモ一層質素ニ致ス可キハ勿論ナルヲ近在御府内續キノ塲所ニ於テ町人ヨリモ百姓ハ華美ヲ盡シ江戸市中ヲ徘徊スルハ不都合ナリ假令病人極老人村役人ノ妻子タリト雖

モ絹紬ノ外相用ヒズ都テ百姓ノ衣服ハ布木綿ニ限リ羽二重縮緬子純子幷ニ越後縮其他
唐織類ハ襟帶袖口八口鬮結ニモ相成ラズ云云
如斯儉約ノ政令其發布毎ニ本邦絹貿ノ損耗幾何ナリシヤ其影響ハ自然製造元ニ及ビ延テ養
蠶家ハ事業ヲ縮少セザルヲ得ザルニ至ル此時奥州仙臺藩ノ如キハ斷然政令ヲ以テ養蠶ヲ禁
止シタル事アリシト古老ノ傳フル所ニ據レハ蠶業ノ萎衰此時ヨリ甚タシキハナク宜シ殖産
ノ道ヲ啓カント養蠶ニ從事スルモ政令ノ已ニ百姓町人ニ絹布ヲ被ルヲ禁スルアリ之ガタメ
其製造元ノ業ヲ縮ムルト同時ニ蠶繭ノ取引上滯滯ヲ來シ利益ハ他ノ農產物ヲ擴張スルノ優
レルニ若カザルヨリ便宜ヲ利トシテ蠶業ハ其必要ヲ感スル範圍內ニ止メタレハ當時ノ萎靡
轉タ棘然タラシムト或ハ然ラン
回顯スレハ本邦蠶業ノ萎靡振ハサル原因ハ實ニ前陳ノ如ク戰後殖蠶ノ廢退ニ歸セシ時ニ當
リ木綿ノ一般ニ普及スルハ第一ノ主因タル可ク加フルニ中世ノ末年ヨリ近世ニ亘リ外國生
絲ノ本邦ニ輸入スルヲ保護スルト同時ニ幕府ガ戰後ニ於ル民力ノ救治上禁奢主義ヲ以テ禁
絹ノ政令ヲ慶長年度以降比年勵行シタルヨリノ結果ニアラズシテ何ゾ然レモ社會ノ進步ハ
障フルニ道ナク紀元二千三百年代ノ前半紀ヨリ漸次國民ノ自戒的奮勵ニ依リ蠶業ハ自然ノ

發達ヲ來タシ是等影響ハ遂ニ生絲ノ輸入ヲ杜絕スルノミナラズ
同シキ世紀ノ後半期ハ幕府ノ禁奢令ニ依ツテ前陳ノ衰喪ヲ來シタルト雖モ之ヲ前世紀生
絲ノ輸入當時ニ比較スレハ尙優レル而已ナラズ紀元二千五百年代ノ前半期ニ入ルヤ俄然蠶
業ノ面目ハ一變シ飜ツテ本邦生絲及蠶種蠶繭ニ依ル品種ノ全般海外ニ輸出スル進步ヲ奏セ
リ
昔シ紀元九百年代ヨリ一千百年代ノ前半期ニ於ケル當時ハ我邦蠶業ノ古習慣ヲ改良センガ
タメ漢土ノ工人ヲ聘用シテ規摸ヲ一新シ又タ紀元二千二百年代ノ後半紀ニ於テハ外國生絲
ノ本邦ニ輸入シツヽ有リシ者ナルニ發達ノ潮流今ハ却ツテ乾坤地ヲ異ニシ本邦產出ノ物品
ヲ外國ニ輸出ス今昔ノ感果シテ如何
是ヨリ先紀元二千五百十八年人皇百二十一代孝明天皇安政五年修交條約ハ締結セラレ同ジ
キ十六年六月互市場ヲ橫濱港ニ開カレ百貨ノ交易ヲ開始ス當時ニ於テハ幕府ノ禁奢令モ良
々弛ビ百姓其堵ニ安ンズルノ時機ナレバ百般ノ產業其緖ニ就キ百姓ハ農桑ニ精勵シツヽア
ル時世ニ加フルニ開闢以來互市開港ノ權輿ナレハ其光景頗ル般ハシク其年十二月ニ至ル迄
實ニ生絲二千〇三十九万四千七百九十斤ヲ輸出セリト從來本邦蠶絲ノ如何ハ陰密ニ屬シタ

リシモ今俄カニ市上ニ出陳セル多額ノ輸出生絲ヲ見ルニ於テハ蠶業ノ狀態豫メ測知セラルヽニ至レリ是レ皆ナ該品額ハ本邦ニ剩餘セシモノニシテ之ヲ市場ニ販ギ財貨ニ代ヘ以テ他ノ有用ノ途ニ使用スベキ部分ニ屬スル者ナレハ業ニ已ニ此時產額ニ於テ前陳ノ如ク發達シ來レルモ亦偉ナラズヤ

因ニ曰フ生絲貿易創始ノ說ニ附テハ別ニ說アリ正史本文ニ詳ナリト雖モ大林氏ノ考證ニ係ル當年輸出生絲の統計ニ附キ總論ヲ纂ス請フ諒セヨ

是ヨリ以降蠶業ノ進步ハ著ルシク海外ニ我カ蠶種ノ良好ナルヲ覺ラシメシハ同シキ御宇ノ萬延元年佛國養蠶家ガ同地蠶種故良ノタメ我ガ國蠶種ヲ携帶シテ歸國シタルニ由來シ文久年間佛國政府ノ囑托ニ依リ幕府ガ本邦蠶種一万五千枚ヲ彼國政府ニ贈リシニ由リ一層彼國ノ需用ヲ增ス盖シ當時ノ事ハ歐州蠶病ノ彌蔓甚タシキヲ以テ改良ノ原種ニ本邦種ヲ使用セシ者ナリト然リ而ノ横濱生絲賣込業者ハ元治年中賣込上整理ヲ附ンガタメ會議ヲ催シ賣込步合ヲ定メ又慶應年間政府ハ賣込上ノ弊害ヲ除ントシテ生絲蠶種取締達書ヲ發シ大ニ營業上ノ取締ヲ嚴ニシ將來斯業ノ安全ヲ企圖セリ然レ𪜈世ニ奸商アリ開港以來生絲ノ取引上故意ニ量目ヲ附加シ或ハ外人未タ本邦蠶種ノ舊來製造法ヲ諒知セザルヲ好機トシ不正粗

親ノ品質ヲ製造シ一時取引ノ局面ヲ脫セントシタルヨリ屢々外商ノ抗議ヲ蒙リ遂ニハ破產ノ悲境ニ陷リタル者等モアリシ玆ニ偶然發達シタルハ夏蠶業ニシテ斯ハ奸商輩ガ春蠶ニ模似スル蠶種ヲ製造セント盛ニ夏蠶ヲ飼養シタル結果ニ出デタリ然リト雖モ正直ナル蠶種商人等ハ依然品質ノ精良ナル者ヲ撰拔シテ蠶種ヲ製造販賣シタルガ故是等ニ向ツテハ外商モ殊ニ信用ヲ置キ取引上品種ノ鑑別モセズ種數ヲ改ムル而已ニテ取引ヲ了シタルト實ニ信州蘆尻ノ妙妙蓮後ニ稱スル均業社即チ是而已ナリシト傳フ斯ク輸出商業開始ノ初期ナレハ弊害百出政府モ未タ之ヲ刷新スルニ遑ナク只徐々ニ改革ノ政策中維新ノ革命起リ記臆ス紀元二千五百二十七年慶應四年幕府全ク倒レ王政復古シ英聖文武ナル

今上皇帝陛下畏クモ人皇百二十二代ノ帝トシテ即位シ給ヒ年號ヲ明治ト改元ス實ニ是レ本邦維新ノ偉業トシテ永ク歷史ニ特筆スベキ時ナリトス

以來日月光輝ヲ增シ山河面目ヲ一新シ畏クモ今上皇帝陛下ハ聖慮ヲ勸業ニ垂サセ給ヒ百官有志ヲシテ專ラ斯事ニ努力セシメ給フ聖代ノ鴻德吾人感涙ニ咽ビテ鴻恩ノ德澤ハ萬世ニ奉答セント欲スル所ナリ

當時生絲製造ノ改良ニ着眼セシハ上野國前橋藩ニシテ藩侯ノ意ヲ奉シ速水堅曹深澤雄象君

等大ニ斡旋シ製絲ニ精練ナル瑞西人「ミユーラル」氏ヲ聘傭シ新式製絲器械ニ依ツテ製絲ノ新技術ヲ當業者ニ傳習ス是レ本邦製絲改良ノ嚆矢ナリ次テ起リシ新式製絲工場ハ工部省所轄ノ赤坂溜池ニ設立スル者ト東京商人川村傳衛君ノ設立ニ係ル栃木縣大疇製絲所及築地ニ設置セル古川市兵衛君ノ工場等トナス彼ノ有名ナル富岡製絲所ハ初メ民部省所轄ニ屬シ尾高惇忠君監督ス實ニ本邦模範ノ製絲場トシテ萬國製絲業上有數ノ名工場タリ是ヨリ先キ政府ハ我ガ國蠶業ノ發達遲々トシテ重要ノ斯業上未タ學說ヲ應用スル技能ニ乏シキヲ憂ヒ屢々令シテ斯業ノ仕方及著述ノ書籍等ヲ上ラシメ或ハ政府ガ殊ニ蠶絲業上ノ技術ニ係ル文書ヲ發行シテ當業者ニ頒與シ及ビ蠶種製造生絲製造ニ關スル規則ヲ發布シテ改良ヲ促シ又ハ官吏ヲ地方ニ派遣シテ該業ヲ視察ス是ヲ以テ有志者モ內ニ大ニ斯業改良ヲ企テ將來進與ノ策ヲ講ズ是ヨリ先明治五年ノ事ナリキ畏クモ英聖ナル

今上皇帝皇后陛下青山御苑ニ御養蠶室ヲ設置セラレ往昔ノ大典雄略天皇ノ御事績ヲ御慕ハセ給ヒ同所ニ御親蠶ヲ給ハル此時群馬縣ノ養蠶家田島彌平ヲ採用シ御養蠶ノ傳タラシメタリ

玆ニ本邦產業上俄カニ發達ヲ促シタルハ西洋紀元一千八百七十三年即チ明治六年開設ノ歐

羅巴洲澳太利國博覽會ニ參同シタルヨリ事實ニシテ蠶養製絲ニ係ル歐洲ノ學說ハ該會ニ參列シタル佐々木長淳圓中文助君等彼地ニ於テ習得シ歸朝ノ後我カ蠶業界ニ傳ヘシニ由ル明治七年政府ハ內藤新宿ニ試驗場ヲ置キ養蠶製絲ニ關スル諸般ノ試驗ヲ行フ朝野斯業ニ熱神ナル實ニ如斯ナレハ蠶業ハ滔々トシテ進歩シ明治八九年ノ頃ロ時ノ內務卿大久保利通侯意ヲ殖產興業ニ用ヒ河瀨秀治君ヲ勵マシ神鞭知常君ヲシテ生絲其他見本ヲ携ヘ米國ニ渡航セシメ同國駐劄ノ領事富田鐵之助君ト力ヲ合セ彼地ノ注文ヲ促サシメタリ次デ星野長太郎佐藤百太郎新井領一郎佐野理八君等外國直輸貿易ノタメ大ニ斡旋シ米國ニ商店ヲ開設スル等頗ル盛大ノ現況ヲ呈出ス是ヨリ先キ福島縣令安場保和君ノ如キハ當時群馬縣ノ改良ニ從事シツヽアル速水堅曹君ヲ再三ニ強テ漸ク聘傭シ始テ奥州製絲ノ面目ヲ啓發ス九州ニハ肥後ニ長野濬平君アリ伊勢ニ室山ノ伊藤小左衛門君アリ京都府ニハ丹波ノ眞名井純一君アリ攝津ニハ田淵澄君伊豫ニハ小笠原長道君アリ三河ニ小柳津忠民朝倉仁右衛門君等遠江ニ岡田良一郎松島吉平兩君駿河ニハ山崎農夫藏君甲斐ニ八田達也名取彥兵衛君就レモ資財ヲ投盡シテ養蠶製絲ノ改良ヲ企テ信濃ニ於テハ大里忠一郎藤本善右衛門君等是亦東西ニ奔走シテ改良ヲ促シ上野ニハ高山長五郎佐藤國太郎田島武平田島彌平勝山宗三郎星野長太郎萩原鎌

太郎深澤雄象桑島新平君等ヲ始メ速水堅曹尾高惇忠君等內外相謀リ幹旋經營怠ル所ナク奥羽ニハ關喜內川村利兵衛丹治梅吉大橋伊三郎大橋濟菅野平右衛門島橋久右衛佐藤傳平石幡光重橫山清治郎中村佐平次君等相競フヲ戮力シ武藏國ニハ清水宗德木村九藏君等ヨリ谷口彌七相摸ニハ佐野安太郎君橫濱港ニハ生絲賣込商原善三郎茂木惣兵衛若尾幾造飯島勇造木村利右衛門澁澤喜作安西德兵衛外村兩平君等地方實業家ト相應シテ翼贊シ東京ニハ川村傳衛君器械家トシテハ具足町ニ川口屋號佐山三郎兵衛君爲替方ニハ小野組即チ小野善右衛君等ヨリ官途ニハ佐々木長淳君等盛ニ斯業ノ改良ニ勵精シテ止マズ明治九年米國「ヒラデルヒヤ」博覽會ノ時ノ如キハ日本審査官トシテ出張シタル者速水堅曹君外數名ナリシニ此時萬國審査官ノ愕驚ヲ喫セシハ速水堅曹君ノ審査論ニシテ君ハ實物ヲ指摘シテ本邦蠶絲ノ優所ヲ痛論シ大ニ同會ノ贊賞ヲ博シ以後ノ審査方案君ノ意見ヲ通過セザルハナカリシト同地令尙ホ人口ニ膾炙シテ日本ノ蠶傑ト稱スト傳フ明治十年政府ハ第一回內國勸業博覽會ヲ開設シ內國製產ノ物品ヲ審査品評シテ當業者ノ奮勵ヲ促シ明治十二年橫濱ニ共進會ヲ開ス次デ製絲改良ノ目的ヲ以テ上野國ニ上毛繭毛本邦ニ共進會ノ起リシハ之ヲ以テ嚆矢トナス次デ製絲改良會社起リ大ニ粗製濫造ヲ矯メ蠶絲賣易上ニ於テモ斡旋ノ勞ヲ執ル是ト同時ニ蠶絲直輸

出ノ同仲會社起リ速水堅曹君之ヲ統轄ス海外ノ狀況ヲ審ニシテ內地製產者ニ注意ヲ與ヘ改良ヲ促シタリ

明治十四年第二回內國勸業博覽會ハ開設セラレ當時ノ狀態ニ徵スレバ福島群馬長野ノ三縣一方ニ雄視シ即チ福島ハ繭ノ品位ヲ以テ勝チ長野ハ繭ノ多キヲ以テ勝ツ埼玉宮城山梨岐阜山形諸縣ハ稍是ト雁行スルノミ其開業日淺クシテ進步ノ境域ニ達シタルハ愛知廣島大分熊本ノ諸縣ナリキ而シテ此時出陳ノ繭類ヲ觀察スレハ福島縣ヲ除ク外他ハ未タ黃繭多ク白繭ハ實ニ寥々タリ於茲當局者ハ黃繭ヲ排斥シ白繭ヲ稱揚シ絲丈ノ長キヲ奬賞シテ繭質改良ノ方針ヲ定メタリ果セル哉明治十八年上野公園ニ開設シタル五品共進會ニ出陳セル繭類白繭種其大部ヲ占ムルニ至レリ殊ニ繭類中赤熟種ノ如キ大巢種類ニシテ絲丈ノ長キ者ノミ增加セシハ第二回勸業博覽會以後當局者ノ方針本會ニ形跡ヲ現ハシタル者ノ外ナシ此年蠶絲集談會議ノ結果蠶絲組合設立ノ儀ヲ會員ヨリ農商務大臣ニ建議シ其年十一月農商務省ハ省令ヲ以テ蠶絲業組合準則ヲ發布シ組合ハ中央本部ヲ東京ニ設置シ以來全國組合ト氣脈ヲ通シテ斯業改良ノ要途ニ當レリ考フルニ曩ニ明治十一年蠶絲業ニ關スル諸規則ノ全廢セラルヽヤ以後放任ノ狀態ナルガ故弊害百出シ時ニ或ハ訓令等ニ依

リ當業ヲ促ス事アルモ畫一ノ取締ナキヲ以テ其功ヲ奏スルニ至ラズ明治十五年大日本蠶絲協會ノ設立アリ河瀨秀治君之ヲ統轄シテ全國會員ニ改良ヲ促セシモ未タ見ル可キ者ナク即チ斷然中央政府ノ保護ヲ建議スルノ止ムヲ得ザルニ出デタルナリ

大日本蠶史

第壹編　正史

前卷

大日本蠶史ノ正史ト稱スルハ蠶蟲ノ吐出シタル物質ヲ以テ原料トナシ作成スル事業ニ係ル行政上ノ沿革及斯業ノ變遷幷ニ事業者間ノ行働ヲ審査編纂スル所ノ部門ヲ總括シテ謂フ要スルニ大日本帝國ノ蠶業ハ其發達ヲ那邊ニ助長セシヤヲ知ルノ編年史ニ外ナラズ

議者アリ曾ツテ余ヲ詰シテ曰フ子ガ大日本蠶史ヲ纂訂スルノ勞頗ル賞スルニ餘リアルガ如シト雖モ史籍編纂ノ要領トスル所ロ概ネ當該事業ノ發達若クハ其沿革ヲ諒知スルニ足ルヲ得バ宜シカラン何ゾ殊ニ其正史現業史ノ二部ニ分纂スルノ勞ヲ執ルニ及ンヤ亦タ大日本帝國第二十六世紀ノ現時ニ於ケル人文ノ發達ハ敢テ往古ノ腐陳作働ヲ研究スルノ必要ナク加之又タ之ガ討究モ其要ナキナリ之ガ爲メ斯史中現業史ノ如キハ其益ヲ收ムルヨリ寧ロ雜駁「作働ノ爲メニ却ッテ其進行ヲ迷フ者アラン甚タシキハ子ガ審査ノ勞ヲ稱揚セズ其迂ヲ譏ルノ者ナキニシモアラズト是レ余ガ編纂ノ始メニ於テ綱領ヲ立ツル當時ノ忠告ナリキ然レ

余ハ大日本帝國ガ絕大ノ膨脹ヲナシ國家財源ノ首位ヲ占ムル迄ニ發達シタル蠶事ノ大勢已ニ盛大ノ今日アルニ非ズシテ盛大ニ至ルノ素養ハ遠ク二千餘年ノ昔ニ萠生スル者ト信ジタレハ迂簿ノ誇譏之ヲ腦裡ニ掛クルニ暇ナク所信ヲ斷行シテ調査ノ方針ヲ二途ニ遂行シ正史現業史ト共ニ編纂スルノ止ムヲ得ザル事トナリヌ是レ現未ニ於テ事業ヲ經營セントスル者須ラク其智ヲ過去ノ因ニ素ムルナクバ將來ノ進歩亦タ望ム可ラザルニ至ルヲ以テノ故ナリ亦タ見スヤ近世三百餘年前唐船ノ來ツテ長崎港頭ノ市上ニ於テ生絲ヲ本邦ニ輸入セシ當時ノ事蹟ヲ徵シ過去三十餘年來橫濱港頭ノ市上ニ於テ生絲ヲ盛ニ海外ニ輸出スルノ事實ヲ考フレハ乾坤其地ヲ異ニシタル今昔ノ感果シテ如何爲政者切ニ其長策ヲ畫シタル者ニ出ヅルハ言ヲ俟ズト雖モ又實業者間ノ知識發達ハ能ク現業ノ研究ヲ怠ラザルニ出ヅルノ結局精好ノ繭絲良美ノ絹綿ヲ製出スル者ト謂ハザル可ラズ是レ現業ノ古今ニ於ケル作働ヲ查訂スルモ玆ニ至リテ始メテ杜撰ノ業ニ非ルヲ知ルヲ得可ケン然リ而シテ今時大日本帝國ノ蠶業宇內ニ雄視スル盛況ニ至リテハ我ガ蠶界ノタメ嘉ス可キカ將タ憂フ可キ乎ニ於テハ余ハ其杞憂ニ堪ヘザル所以ノ者一ニシテ足ラズト雖モ要スルニ其進歩ノ程度ニ對スル市上信用ノ厚カラサルヲ憂フノ必畢現時ノ當業者古今ノ變遷ヲ鑑ミルナク刻下ノ收利ニ敏ク將來ノ需用ヲ

維持セントスル進取ノ氣象ニ乏シキハ抑モ本邦人士ノ瑕瑾ト稱スベキ乎是故ニ當業者ニ希望ス斯史已ニ正史現業史ノ二部アリ宜シク鑑ミラ邦家ノ爲メ蠶界將來ノ長策ヲ企畫シ國是經營ノ眞意ヲ完フスルアラン事ヲ

從五位　速水堅曹補修
佐野瑛纂訂

第一章　太古史

（上略）天照太神天熊人ヲ遣シ之ヲ看フ是時保食神實ニ已ニ死セリ唯ダ其神ノ頂化シテ牛馬ト爲リ顱上ニ粟生リ眉上ニ蠶生リ眼中ニ稗生リ腹中ニ稻生リ陰ニ麥及ビ大豆小豆生ル有リ天熊人悉ク取持チ去而之ヲ進メ奉ル于時天照太神之ヲ喜テ曰フ是物者則チ顯見蒼生ノ食而活ク可キ之也ト乃チ粟稗麥豆ヲ以テ陸田ノ種子ト爲シ稻ヲ以テ水田ノ種子ト爲シ又タ因テ天邑君ヲ定メ則其稻種ヲ以テ始テ天ノ狹田及長田ニ殖ヘ其秋八握ニ垂穎シ莫々然快甚也又

シ莫々然甚快也又タ口裏ニ墮ヲ含ミテ絲ヲ抽クヲ得此ヨリ始メテ養蠶ノ道有リ焉（日本書紀）

或ハ曰フ稚靈云云此神ノ頭上ニ蠶ト桑ト生リ臍中ニ五穀生ルト云フ有リ尚能ク考フ可シ又曰ク大宜津比賣神云云故殺サル神ノ身ニ生フル物者頭ニ蠶生リ二目ニ稻種生リ二耳ニ粟生リ鼻ニ小豆生リ陰ニ麥生リ尻ニ大豆生レリ故ニ是神産巢日御祖命茲ヲ取ラ令メテ種ト成ス（古事紀）

或ハ曰フ保食神及大宜比賣神ハ皆ナ同神ナリト先達ノ說モアリ

又タ曰ク天御杵命ヲ使テ織神服司ト爲シ天八千千姬命ヲ織女ト爲ス天八千千姬命者桑ヲ天香山ニ植テ蠶ヲ養ヒ其絲ヲ以テ神服ヲ織リ焉ヲ供進ス是ニ於テ始メテ農桑ノ業有リ（神代紀）

古事紀ノ考證ニ曰フ神名式ニ天香山ハ大和國十市郡ナリト神武紀ニ香山ハ此ヲ介遇夜廩ト云フトアリ

又タ伊豫風土記ニ倭ニ天加具山アリ尚ホ此山ヲヨメル歌ハ萬葉集ニモ後世ニモ最ト多シ山ノ南ノ麓ニ今尙ホ香山村アリ世人ハ清ミテ村ヲモ山ヲモ香山ト稱スルナリ

傳ヘ曰フ但馬國養父郡市場村宮ノ谷ニ鎭座セル養父神社ハ祭神食稻魂（うかのみたま）ニシテ其攝社ノ內一社ハ天熊人ナリト云フ天熊人ハ曾テ墮ヲ保食神ノ體ヨリ持チ來リテ天照太神ニ進メ奉リシ神ナリ因ツテ土地ノ人民蠶養ノ豐饒ナラン事ヲ每歲茲ニ祈ルト云ヘリ

又タ曰フ豐宇氣太神丹波國伊佐奈子ノ嶽ニ天降リ座ス時ニ天道日女命等太神ノ持賜フ五穀及桑蠶ノ種ヲ請ヒ求メ其嶽ニ眞名井ヲ堀ラシメ其水ヲ灌キ以テ陸田ト水田ヲ定メ悉ク植生ス（丹後風土記）

按スルニ太古ノ事考證莫ニ似テ其斷案ノ易キ者アラザルガ如シト雖モ保食神ノ恩賴ニ依ルハ事實トシテ信スルニ庶カランカ後世史ヲ編スル者太古ノ事蹟ヲ有邪無邪ニ抹殺センコトスル者アリ然レドモ太古ノ如キ社會開闢ノ始メニ於テハ人文ノ發達ナキハ論スルニ足ラズトスルモ太古ノ事ヲ傳フルニ其說ノ美ナラザルハ本邦獨リ然ルニ非ラズ漢籍ノ皇圖要記ニ「伏犧蠶ニ化シ絲ト爲ル」トアリ又タ事物紀原ニ曰フ「上古ノ時人有リ遠ク往ク家ニ一女ト馬トアリ女父ヲ思フテ馬ニ戲テ曰ク汝能ク吾父ヲ迎ヘ得ハ將ニ汝ニ嫁セントス馬乃チ轡ヲ絕ツテ去リ父ヲ得テ還ル此ヨリ馬女ヲ見レバ輒チ怒ル父之ヲ怪ム女具ニ以

テ答フ父大ニ怒リ馬ヲ殺シテ其皮ヲ曝ラス女皮ノ所ニ至レハ忽チ蹙然トシテ女ヲ卷テ行ク後大樹ノ枝ニ於テ女及皮ヲ得タリ盡ク化シテ蠶トナル既ニ死ス因テ其樹ヲ桑ト名ヅク此レ蠶桑ノ始メナリト又タ事文類聚ニ於テハ圖經ヲ引テ此ヲ高辛ノ時トナスト皆ナ參河養蠶由來記ノ考證ニ見ヘタリ尙ホ能ク考フ可シ

太古史完

第貳章　上世史

傳フ紀元四百四十二年孝靈天皇七十二年秦人徐福童男女千人ヲ率イテ來リ蓬萊山（今ノ富士山）ニ止ツテ遂ニ歸ラズナリシヲ考證シテ山麓ニ接スル甲駿ノ口碑ニ當時秦人ガ蠶養ノ道ヲ同地ニ傳ヘシト文獻ノ徵スルナク其明判ニ苦ム所ロナリ然レモ口碑ノ傳說果メ信ナラントスレハ那スレゾ後世甲斐國ノ疲瘠地ニ盛ニシテ駿河國ノ溫暖ナル肥沃ノ地ニ蠶業ノ蹟ヲ存セザルヤノ疑題ニ關シ口碑ハ又タ傳フ往昔ノ蠶業一時駿地ニ中絕シ甲斐ニ連綿タル所以ノ者ハ駿地ハ氣候溫暖ニ加フルニ地味肥沃ナレハ蠶業ノ如キ意神ヲ勞スル事業ヲ經營セザルモ他ノ植物耕作ニ於テ利益ヲ收ムルヲ得是ヲ以テ一時同地ニ興起シタル蠶業ハ中廢シ之ニ反シ甲斐ノ地ハ山麓ニ接スル概ネ地味疲瘠ニシテ良々桑樹ノ栽培ニ適シ他ノ植物耕作ニハ甚ダ利益少ナク且氣候寒冷ナレバ他植物ノ收利ハ比較上蠶桑ノ優レルニ若カザルヲ以テ遂ニ連綿永續スルノ幸運ニ向ヘリト蓋シ秦人徐福ガ藥ヲ求メント渡來シテ住居セシハ事實ニ符合スル處ナリト雖モ蠶業ノ傳說ハ信據スル所ロナシト言フモ不可ナカランカ思推セラル、ナリ又タ多勢ノ童男童女ハ生活上何業ニ從事シテ老後ヲ樂

ミシカ是又タ不明ニ屬ス宜シク識者ノ是正ヲ俟ツノ止ムヲ得ザルニ過ギス

然リ而シテ徐福等ガ住地ニ關シテハ亦タ一說アリ紀伊國高野山ナリト其那地ガ舊蹟ナルヤ一時疑問ナルガ如シト雖モ漢籍ノ義楚六帖ハ記事ヲ考證シテ曰フ　日本國又名倭國秦時徐福將童男五百童女五百止此國也（中略）東北千餘里有山名富士亦蓬萊山其山峻三面是海一朶上聳頂有火烟日中有諸寶流下夜即却上常聞音樂徐福止此謂蓬萊至今子孫皆稱秦氏（下略）

又タ焦氏筆乘ノ稱スル所ロニ依レハ日本國名倭國東北數千里有山名富士又名蓬萊國中最高山三面皆海一朶直上頂有火烟秦時徐福入海求藥終止此至今子孫秦氏（下略）

於茲見之其紀州高野山ニ止マリシハ信ナラサルガ如シ加之甲斐國都留郡川口淺間社ノ末社ハ徐福ヲ祭リ吉田川口ノ神官皆ナ今ハ秦ノ姓ヲ改メテ羽田ト稱ス其他幡野或ハ幡多ノ姓少ナカラズト傳フ皆緣ヲ秦ニ取ル者ニシテ徐福一行ノ因ニ依ルト尙ホ能ク考フ可シ

紀元五百七十五年崇神天皇即位十二年詔シテ天下ニ調役ヲ課ス（日本紀古事紀皇紀略）

而シテ調ニ二種アリ男子ノ貢スルヲ弓調ト言ヒ鹿熊等ノ角皮等ヲ以テスル者ニシテ女子ノ貢スルヲ手末ノ調ト言フ則チ布絹等ノ物ヲ以テス當時是等物品ノ調ヲ課スルニ於テハ

蠶業ノ發達モ良々萌芽ヲ釀シタルニ依ルカ疑フ可クモ非ル可シ

降ツテ紀元六百年代ニ至リテハ既ニ色絹ノ織成アリタルガ如ク其三十三年垂仁天皇即位二年曩キニ先帝ノ世來朝セシ任那ノ使人今マ歸朝スルニ至ルヲ以テ之ニ赤絹百疋ヲ賜ヒ以テ任那ノ主ニ致ス（松苗國史略）ト斯業ノ進歩思フ可シ爾來蠶業ハ中國近畿ノ間ニ而已行ハレシニ非ズシテ紀元七百年代ニ於テハ東國既ニ蠶業ノ興ルアリ然レモ人智進マズ熊襲ナル賊ノ簒出シテ正業者ノ資產ヲ掠奪シ人民其居ニ安スル事能ハズ

紀元七百七十年景行天皇即位四十年帝ハ日本武尊ニ勅シテ東國ノ熊襲ヲ討伐セシム蓋シ當時熊襲等黨類ヲ聚メテ屢々邊界ヲ犯シ農桑ヲ伺ツテ人民ヲ掠ム（古事紀日本紀）ヲ以テナリト謂フ於茲見之蠶業ノ波及ハ頗ル廣ク其產額ノ多寡今得テ知ル能ハズト雖モ產地ノ普及ハ決シテ少々ニ非ルヲ知ルニ足ランカ

紀元八百五十五年仲哀天皇即位四年秦ノ功滿王歸化シテ蠶種珍寶ヲ献ズ（日本書紀）

因ニ曰フ別書ニ即位八年トアリ然レドモ日本書紀ニ倣フ

傳說ニ曰フ功滿王蠶種ヲ献セシヲ以テ之ヲ本邦養蠶ノ起源ト認ムル者アリ大ニ誤リナリ太古以來蠶業ノ事蹟ヲ追考スレハ諒知スル事ヲ得可シ故ニ功滿王ガ蠶種ヲ献ゼシハ只タ

異邦ノ蠶種本邦ニ渡來シタル考證ニ過ギザルナリ

既ニ神功皇后攝政賜ヒシ當時ハ本邦絹錦ノ如何ニ他邦ニ稱呼サレシヤ魏志ノ考證スル所ロ最モ明ナル可シ是ヨリ先キ仲哀天皇崩後即チ紀元八百六十年神功皇后三韓ヲ征伐シ朝鮮半島ノ東部ナル辰國即チ新羅ハ三韓百濟ノ諸國ト我邦ノ支配ニ屬シ西北ノ高麗モ遂ニ使聘ヲ通ズルニ至レリ而シテ朝鮮ノ西邊ヨリ支那遼東ノ地方ヲ併セタル地方ニ燕ト稱スル王國ノ魏ニ滅サレタル一事ヲ生ジ遂ニ茲ニ本邦ト交ヲ支那ニ通セシムルニ至ル如何トナレハ魏ハ當時支那ヲ三分シテ其一ヲ領シ曩キニ燕ヲ滅シタルヤ其勢威大ニ朝鮮半島ニ波及シ我國ノ支配スル新羅百濟等ノ諸國亦タ之ニ震疊シタリ時ニ我國政府ハ魏ガ東遷ノ勢ヲ避ケンガ爲メ紀元八百九十八年神功皇后攝政三十八年六月使ヲ遣ハシテ好ヲ通ズ同年十二月魏帝書ヲ作リテ之ニ答フルニ其文ニ曰

制詔親魏倭王卑彌呼帶方大守劉夏遣使送汝大夫難升米次使都市牛利奉汝所献男生口四人女生口六人班布二匹二丈以到汝所在踰遠乃遣使貢獻是汝之忠孝我甚哀汝今以汝爲親魏倭王假金印紫綬裝封付帶方大守假授汝其綏撫種人勉爲孝順汝來使難升米牛利渉遠道途勤勞今以難升米爲卒善中郎將牛利爲卒善校尉假銀印青綬引見勞賜遣還今以絳地交龍錦五匹絳

地綿粟罽十張倩絳五十匹細斑華罽五張白絹五十匹金八兩五尺刀二口銅鏡百枚眞珠鉛丹各五十斤皆裝封付難升米還到錄受悉可以示汝國中人使知國家哀汝故鄭重賜汝好物也ト即チ此書及ビ是ニ附屬シタル金綬幷ニ金帛綿罽刀鏡采物ヲ齎ラシ帶方大守弓鄭建中校尉梯儁等ヲ遣ハシタレバ我政府ハ又タ書ヲ作ツテ答謝サレシト謂フ又タ其四十一年倭王復遣使太夫伊聲耆掖邪狗等八人上獻生口倭錦絳青縑綿衣帛布丹木狗短弓矢ト是レ皆ナ魏志ニ徵スルナリ當時既ニ異邦ガ認メテ倭錦ト稱スル如キ絹布ノ製出スルヲ以テ見レバ本邦蠶業ノ如何ニ進歩シツヽアリシヲ知ルヘシ

盡シ爾後應神天皇ノ御世ニ至リ漢土ノ民ノ斯業ニ能クスル者ヲ本邦ニ聘シテ絹綿紡織ノ業ニ從事シタルヲ以テ世人ハ又タ之ガ我邦蠶業ノ矯矢トナス者アリ然レ𪜈當時ノ事情ニ精通セザル言論ニシテ素ヨリ當時ト雖モ或ハ彼國ノ文物本邦ニ比スレバ果シテ進歩ノ程度ニアリシヤ疑フ可ラズ是ヲ以テ當時政府ガ斯業擴張ノ爲メ其風ヲ本邦ニ普及セシメタル者ニ過ギザルナリ若シ果シテ然ラン乎本邦蠶業ノ一大改革ハ紀元九百四十年ヨリ以降九百六十年ノ時世ニ於ケルヤ明カナル事ト知ラザル可ラズ

紀元九百四十三年應神天皇十四年秦ノ功滿土ノ男融通王百二十七縣ノ民ヲ率キテ歸化シ金

銀玉帛及種々ノ寶物ヲ献ズ帝之ヲ喜ビ賜フテ大和ノ朝津間掖ノ上ノ地ヲ賜ヒ之ニ居ラシム蓋シ是等工人ハ皆蠶ヲ養ヒ絹ヲ織ル工人ナリ（姓氏錄古語拾遺日本書記）

又曰ク是年癸卯百濟縫衣女ヲ貢ス又タ弓月君歸化ヲ請フ葛城襲津彦ヲ加羅ニ遣シ之ヲ迎フ（皇紀略）

紀元九百四十五年帝ノ十六年百濟ノ使臣冶工、卓素、呉服、西素ヲ率テ來朝ス（大日本史、古事記）

或ハ曰フ此使臣王仁ナル者織縫釀酒冶工等ヲ率キテ來朝ス（皇紀略）又タ帝ノ二十年阿知使主其子都加使臣等巳カ黨類十七縣ノ民ヲ率ヰテ歸化ス（日本書記）曩ニ帝ノ十四年以降弦ニ至ル秦漢百濟内附ノ民實ニ萬ヲ以テ計ルニ至ル（古語拾遺）ト言ヘリ皆ナ織縫或ハ蠶養ノ工人ニ非ラザレドモ斯ク衆多ノ内附アル今日ニ及ンデハ斯業ノ盛大ヲ來セシ事モ明カル可キ乎亦タ阿知使主ハ漢土ノ人ニシテ後漢ノ靈帝ノ後ト傳フ而又十七縣ノ民ハ綾ヲ織ル工人ナリト言ヘリ

傳ヘ曰フ曾ツテ弓月王奏請シテ申ラク此國ニテ絹織ノ業神代ニ始マルナレトモ人ノ世トナリテハ久シク絕ヘ知ル者ナシ乞フ絹ヲ織ル事ヲト（大酒神社由緒書）

紀元九百六十六年帝三十七年春二月天皇ハ天下ノ人民衣服裁縫ノ術精シカラズ春夏秋冬各其宜シキヲ失ス時呉國縫工女アリ故ニ阿知ノ使主都加使臣ヲ以テ使者トナシ呉國ニ遣ハシ之ヲ求ム二人高麗國ヲ渡リ呉ニ達セント欲シ即チ高麗國ニ至ル更ニ道路ヲ知ラズ道ヲ知ル者ヲ高麗王ニ請フ乃チ久禮波、久禮志ノ二人ヲ副ヘ導者トナシ是ニ依リテ呉ニ通スルコトヲ得タリ呉王於是工女兄媛弟媛呉織穴織四人ノ婦女ヲ與フ（呉織穴織大明神縁起皇紀略）

呉和訓ニ久禮ト曰フハ盖シ（久禮波）（久禮志）二人ノ名ニ象リ以テ之ヲ稱ス此レ古ハ喜ビ有レバ則チ以テ物ニ名クルノ義忘レザルヲ示ス也（同上）

又曰ク くれはどり、あやはとりハくれはた織あやはた織くれハ呉ナリあやハ漢ナリ東漢等モあづまのあやト訓ム（南留別志）按スルニ呉服ハ當初呉ノ國ヨリ來リシ職工ヲ謂シナル可シ後ニハ呉國ノ人ナラデモ絹帛ノ職工ノ總名トナレリ漢服モ漢土ノ綾工ヲ謂シナレトモ後ニハ綾工總稱トナルガ如シ漢或ハ阿夜毘登（あやびと）トモ謂ヘリ漢人（あやひと）モ同シノ訓カ知ラル或ハ曰フ應神天皇三十七年丙寅韓ヨリ來朝シテ攝津ノ豐島郡猪名里ニ住シ勅ヲ奉ジテ絹ヲ織ル是本邦婦工之權輿ナリ故ニ絹ヲ稱シテ呉服ト曰フ遂ニ里名ヲ改メテ呉服ト曰フ（今池田ニ作ル）（呉織神社棟札記）

紀元九百七十年帝四十一年阿知使臣等吳國ヨリ兄媛弟媛吳織穴織ヲ率ヒテ筑紫ニ歸リ兄媛ヲ以テ胸形大神ニ奉リ三婦ヲ以テ朝庭ニ移ス（日本書記）

或曰ク阿知使主此年四女ヲ率ヒテ筑紫ニ歸ル時ニ宗像明神ノ詫宣ニ依リテ兄媛一人ヲ明神ニ獻シ三女ヲ率ヒテ攝津國武庫ノ浦ニ着ス此時天皇崩御シ給ヒヌ依リテ率ヒシ工女ヲ即位仁德天皇ニ奉ル（大酒神社由緒書）

仁德天皇曾テ阿知使主ノ率ヒ來リシ女工ヲ弓月王孫普洞王ニ賜フテ絹ヲ織リ蠶ヲ養フノ詔ヲ下シ給ヒヌ二王即チ百二十七縣ノ秦民ヲ諸國ニ分チ置キテ蠶ヲ養ヒ絲綿ヲ製シ絹ヲ織リテ朝廷ニ貢ル　帝殊ニ喜ビ給ヒテ獻ズル所ノ絹絲朕服用スルニ柔軟シテ大ニ肌膚ヲ暖ムト即チ姓ヲ波多ト賜フ（姓氏錄）

按スルニ秦ノ字ハ波多はた ト訓ムヲ以テノ意ナリ攝津國ノ郷名ニ秦ノ上秦ノ下アリ武藏國ノ郷名ニ下秦上秦アリ又大和出雲國等ノ郷名ニ波多アリ河內攝津三河遠江相摸備前淡路等ノ諸國ニ幡多アリ伊勢但馬ノ國等ニ八太アリ其他幡太羽太ナド、既ニ延喜天曆ノ頃ニハ已ニ如斯多カリシ

又タ帝ノ御世太后曾テ山背國筒木（是レ今ノ山城國綴喜郡ナリ）ニ御幸シテ韓人奴里乃美カ

家ニ養フ所ノ蠶ヲ御覽ジ給フ

或曰ク口子臣其妹口比賣奴里乃美三人議而令奏天皇云、大后行幸所以者奴里乃美之所養虫、一度爲繭虫、一度賣一度爲飛鳥有變三色久奇虫、行看此虫而入座耳云云（古事記）

又曾ツテ山背ニ行幸在シ桑枝ノ水ニ流ルヽヲ御覽アリ御歌ヲ詠セラル今其御製ニ曰ク

苑怒瑳（ツヌサハ）破（フイワ）能（ノ）比（ヒ）賣（メ）我（ガ）意（オ）母（モ）加（カ）　苑怒瑳破能區（ロ）波（ハ）能（ノ）久（ク）麻（マ）余（ヨ）呂（ロ）志（シ）

（參照）紀元一千八年七十六年戊子ノ九月十七日十八日吳織穴織女比斗裏身ヲ藏ス享年百三十六歲其ノ後一神ト爲リ託宣アリ曰ク我此土ニ降臨スル衣服ノ神トナリ人ヲヽ寒煖ノ苦ナカラシメント是ニ於テ具ニ狀シ以テ聞ス仁德天皇敕シテ兩社ヲ建立シ萬世以テ奉祀

（吳織穴織神社緣起）

（參照）一千六十五年履中天皇六年乙巳始メテ藏職ヲ建テ藏部ヲ定ム（日本書記古語拾遺）

（參照）又曰ク齋藏ノ傍更ニ內藏ヲ建テ其出納ヲ記セシム（同上）

因ニ曰フ是時ニ當ツテハ諸國ノ貢物及外邦ノ貢獻多キヲ以テ斯クハ其職ヲ置カレシ者ナ

リト又タ其等貢物ハ帳簿ニ錄センガ爲メニ藏部ヲ置クニ至リシト云ヘリ

（參照）紀元一千七十五年允恭天皇四年乙卯詔シテ姓氏ヲ定ム帝姓氏ノ混亂スルヲ憂ヒ內外ノ百官ヲ會シ詛盟シテ詐冒ヲ得ル勿レ（日本書記日本紀皇紀略）

按スルニ當時本邦人ノ如キ歸化ノ民其數多キニ亘リ混雜辨ズルニ易カラザルニ至ルヲ以テ玆ニ姓氏ノ詐冒ヲ得ザラシムルニ出ヅルト紀元一千百二十年以後ノ條參照ス可シ

（參照）又帝ノ世ニ蠻之速日命十二世孫麻羅宿禰ヨリ出ツル者アリ織部ノ司ニ任シ諸國ノ織部ヲ總領ス因テ服部連ト號ク（姓氏錄族志）

紀元一千百二十二年壬寅皇后ヲシテ躬ラ桑トリ蠶事ヲ勸メシム（日本書紀皇紀略）

又曰ク此時帝螺贏（すがる）ニ命シテ國內ノ蠶（こ）ヲ聚メシム螺贏（すがる）誤ツテ嬰兒ヲ獻ス天皇大ニ咲ツテ螺贏（すがる）ニ賜ヒテ曰ク汝之ヲ養フ可シ螺贏（すがる）嬰兒ヲ宮墻ノ下ニ養フ仍テ姓ヲ賜ヒテ少子部連ト言フ（日本書記）

辱知尾高惇忠君曾ツテ言ヘルアリ蠶ニ（かいこ）ノ名ナシ（蠶）ハ（サン）ナリ（かいこ）（かふこ）等ハ皆以テ本邦ノ俚語ナリト余蠶史ヲ修スルニ當リ本邦造語ノ所以ヲ知レリ即チ

螺贏ガ陛下ノ御下命ニ依ル（こ）即チ蠶ヲ嬰兒ト誤リ上ツルヲ以テ見レバ當代ニ於テ蠶ノ一通稱ヲ（こ）若クハ（おこ）ト稱ヘタルナル可シ盖シ此俚語ノ出ツル所以ノモノハ人間ガ蠶兒ヲ飼フヨリ遂ニ蠶ノ轉語シタル者ナリトモ言ヘリ

帝曾ツテ宣フ朝野衣冠未ダ鮮麗ナラスト憂サセ給ヒテ身狹村主青（むさのすくりあを）等ヲ吳國ニ遣ス（日本書紀吳織穴織大明神緣起）

（參照）雄畧天皇十四年ノ條

或曰フ紀元一千百二十八年雄略天皇十二年弓月王六代ノ孫秦ノ酒公蠶ヲ養ヒ絹ヲ織ル事ノ廢レタルヲ歎キテ朝廷ニ奏シ之ヲ興サン事ヲ請フ天皇其言ヲ美シ身狹村主青ナル者ヲ使トシテ吳國ニ遣シ工女ヲ吳王ニ請ヒ給フ（大酒神社由緒書）

盖シ秦人歸化（蠶業ニ由ル者而已ヲ指ス）シテ以來即チ紀元九百年代以降秦漢ノ工女ヲ容レ或ハ他ニ斯業ヲ保護シテ頗ル盛大ヲ來セシ者ナルモ社會ノ變遷ハ勢ヒ衰退ニ陷リ弓月普洞王逝去ノ後ニ至ツテハ殊ニ衰退シツヽ當代ニ至レリ是ニ於テ弓月王六代ノ孫酒公斯クハ奏上セシ者ナリト附傳スル者アリ

然レドモ是果シテ其當時ニ衰退セシヤト按ズルニ帝ノ初メニ當ツテ御親蠶ノ擧等モアリ

又タソレヨリ以前紀元一千六十五年履中天皇ノ朝ノ如キ外貢内調ノ數量ヲ增スヲ以テ藏職藏部ヲ置クガ如キ事蹟ヲ見ルアリ豈ニ鑑業ノ衰退ヲ稱道スルノ暇アランヤ

又タ傳フ身狹村主青等ヲ吳國ニ遣ハス事ニ因據シテ業ノ盛衰ヲ判スモ故ナキノ說ト唱フル者アリ然レドモ余ハ單ニ此事實ヲ以テ斯業ノ衰退セシ所以ト看做サズ年月ノ經過モ未ダ久シカラザルニ加フルニ雄畧天皇六年皇后ヲシシ御親鑑ノ盛擧アリ且ツ螺贏ニ命ジテ鑑ヲ集メシメシ等ヨリ考証スレバ未タ全ク酒公ノ憂フルガ如キ衰狀ヲ顯ハシタル者ニ非サルヲ信ゼザルヲ得ズ故ニ玆ニ身狹村主青ガ吳ニ使セシハ工織ノ技人ヲ迎ヘンガ爲メニ出ヅト信セザルベカラズ尙ホ帝ノ十四年ノ條參照ス可シ

紀元一千百三十年帝ノ十四年正月身狹村主青等吳國使ト共ニ吳ノ獻ズル所ノ手末方伎漢織吳媛及衣縫兄媛弟媛等ヲ將キテ住吉ノ津ニ泊ス是月吳客ノ爲メニ道ヲ磯齒浦ニ通ス路ヲ吳坂ト名ヅク三月臣連ニ命ジ吳使ヲ迎ヘテ吳人ヲ檜隈野ニ安置ス因ツテ吳原ト名ヅク四月天皇吳人ヲ設セント欲シ群臣ニ歷問シテ曰ク其共食者誰レ好乎群臣曰ク根使主可ナリ天皇即チ根使主ニ命ジ共食者ト爲シ遂ニ石上高坂原ニ於テ吳人ヲ饗ス（大日本史日本書記）

因ニ云フ吳坂ハ今攝津國住吉郡喜連村ニシテ吳原ハ大和國高市郡栗原村ナリト

古事記傳ニ曰フ此時（雄略天皇御代）吳人渡來ス其吳人ヲ吳原ニ安置ス故ニ其地ヲ號テ吳原ト謂フ也（古事記）

吳ハ唐國ノ內ノ名ニシテ昔シ唐國漢代ノ後ニ魏吳蜀ト別レ三國ト稱シテ其後又タ南朝北朝ト分レシ頃南朝ノ國ハ即チ吳ノ地ナリ此天皇ノ御代ノ頃ハ其南朝北朝ノ程ニテ吳トハ言ハサリシサレド韓國ニテハ昔ヨリ云來ル儘ニ南朝ヲ吳ト言ヒ習ヘルナリ而シテ吳ヲ久禮トカノ久禮志久禮波ガ導シ國ナルガ故乎日本書記ニ吳原ハ檜隈野トアリ大和國高市郡是ナリ今世ニ栗原村ト云アルハ久禮ヲ久理ト訛レル此處ロナル可シ神名帳ニ同郡吳津孫神社アリ此社右ノ栗原村ニ在リシト云ヘリ

磯齒津ハ萬葉ノ歌和泉國ノ千沼ヨミ合セタル千沼ハ住吉ノ南ニテ程近キ所ナリ或人曰フ住吉ノ東一里計ニ喜連村アリ河內ノ界ニシテ昔ハ河內ニ屬キヲ萬葉ニ河內伎人（クレビト）鄕トアル所ナルヲ久禮ヲ訛リテ喜連トハ云フナリト云フ

又タ曰フ住吉ヨリ喜連ニ行ル間ニヒクキ岡山ノ橫ハリテアル是レ萬葉ノ歌ニ四極山（シヅヤマ）打越見者トアル山ニテ吳坂ハ此ナルベシ今モ住吉ヨリ河內ヘ通リタル此道ヲ古ニ吳國人ノ通リタル道ナリト云ヒ傳フ喜連村ニ吳羽明神ト云フ社アルトモアリ

或曰ク帝ノ十四年庚戌身狹村主青等呉王ヨリ漢織呉織衣縫兄媛弟媛ヲ得テ歸ル（大酒神社由緒書）

或曰ク是年呉人來聘ス呉織漢織ヲ貢ル是ヨリ先キ勅シテ使ヲ遣シ工ヲ索ム是ニ至ツテ帶來ル（皇紀略）

或曰ク此時帝兄媛ヲ以テ三輪ノ大神ニ奉リ漢織呉織ヲ酒公ニ賜フ（大酒神社由緒書）

紀元一千一百三十年帝ノ十五年辛亥秦民分散シテ他族ニ寄隸ス他族各々欲スル所ニ從ツテ驅使シ秦造ニ委ラズ是ニ於テ酒公甚之ヲ憂フ天皇詔シテ秦民他族ニ寄隸スル者九十二郡一万八千六百人ヲ聚メテ酒君ニ賜フ酒君因ツテ百八十種勝部（もゝやうくさのとも）ヲ領卒シテ絹ヲ織ラシメテ庸調ヲ獻ズルニ其絹縑朝廷ニ充積ス因ツテ姓ヲ賜フテ禹豆麻佐ト云フ（古語拾遺日本書記）

因ニ曰ク百八十種勝トハ姓氏ノ多キヲ言ヒ禹豆トハ積ミ重ヌタル絹縑ノ堆高クナルヲ縁ミテ言フナリ麻佐（まさ）ハ勝ニシテ工藝ノ勝レタルヲ以テナリト言フ者アリ

一說ニハ勝部ヲ訓ムニ當ツテ「かちべ」「かつべ」ト言ヒ亦「たへべ」トモ訓メリ然レドモ「たべ」ハ絹布ノ總名ニシテ贊美ノ語ナルガ故ニ神代紀ニ妙字ヲ和妙「にきたへ」荒妙「あらたへ」ト言ヒ云云故ニ勝部ハ「たへべ」ト訓ム此ヨリ以后諸國調ヲ貢スル年々盈溢スルヲ以テ其收藏ニ不足ヲ告ゲ如何トモスル事能ハザルガ故ニ秦ノ民ニ役セテ八丈（やつを）ノ大藏ヲ官ノ側ニ搆テ其貢物ヲ納メ給ヒ其地ヲ名ヲ長谷朝倉宮ト云フ（古語拾遺姓氏錄日本書記）

又曰ク蘇我麻知宿禰ヲシテ三藏ヲ檢校セシメ秦氏其物ヲ出納シ東西文氏其簿ヲ勘錄ス是ヲ以テ漢氏ニ姓ヲ賜フ内藏大藏トナシ秦漢二氏ヲシテ内藏大藏主鑰タラシム藏部ノ緣ナリ（古語拾遺）

或ハ曰フ酒公ヲ以テ長官ト爲ス（姓氏錄）ト是レ古語拾遺ニ言フ主鑰ハ即チ長官ノ事ヲ言フナラン乎

紀元一千一百三十九年帝十九年癸子桑ニ宜シキ國縣ニ詔シテ桑ヲ植ヘシメ又秦氏ヲ遷シテ庸調ヲ貢ラシメ又漢部ヲ聚メテ其伴造ヲ定ム（大日本書記大日本史）

因ニ曰フ漢部（あやべ）ハ素ト是レ支那人種ノ民ニテ能ク綾ヲ織ルモノナリシカバ綾人（あやびと）ト云ヒ綾ヲ織ル事ヲ勸課センガ爲メナリ漢及綾ノ字ニ和名ヲ同ウスルニ至ルハ即チ之ガ因ナリ

故ニ本邦ノ人ニシテモ此綾ヲ織ル者ハ漢人ト言ヒ漢部ト云フニ至ル即チ同一ノ理リニシテ決シテ秦漢出生ノ人種ニ限ル者ニ非ルナリ

顯宗天皇ノ世ニ至リ（紀元一千一百四十五年乃至一千一百四十九年ノ間ナルベケレドモ年月ハ未詳ニ屬ス）百濟ノ人孫麻利、其弟彌和蠶織シテ絳絹ノ樣ヲ獻ズ仍リテ調ノ首ノ姓ヲ賜フ（姓氏錄）

按ズルニ曩ニ應神天皇ノ後世ニ波陀ノ姓雄略天皇ノ朝ニ禹豆麻佐今又調ノ首ノ姓皆之レ斯業ノ因ニ拜領スル所ノ即チ事業ノ紀念ニ恩賜ノ姓ヲ給ハリシ者ナル可シ時斯業ノ盛大ナル又タ推シテ知ル可シ

紀元一千一百五十五年仁賢天皇ノ朝ニ及ンデハ浸々斯業ノ盛大ヲ致シツヽアリ其詔文ヲ宣シ賜フテ曰フ國中無事ニシテ吏ハ其職ニ叶ヒ海内仁ニ歸シ人民其業ニ安ンジ五穀豐熟シ蠶麥能ク收マリ遠近清平ニシテ戶口滋殖セリ（日本書記）

降ッテ十餘年間蠶業ノ事跡ハ盛衰ノ係ル所ロナク經營既往ニ異ナラザリキ然レ𪜈紀元一千一百六十九年繼體天皇元年丁亥詔ヲ宣セリ　朕聞ク耕サザレバ天下飢ヲ受ク女績マザレバ天下寒ユト故ニ歷世ノ天皇躬ラ耕シテ農業ヲ勸メ后妃親ラ蠶シテ桑序（くはのとき）ヲ勉メ

タリ況ンヤ百寮ヨリ萬族ニ曁デ農績ヲ棄テ殷富ニ至ランヤ有志者普ク天下ニ告ゲ朕ガ懷ヲ識ラシメヨ（日本書記）

蓋シ農桑ヲ勸メテ國民ノ福利ヲ增進シ及百寮ノ永キ隆平ニ浴化ノ弊ヲアラザラシメント紀元一千一百九十年即チ帝ノ二十四年ニ又タ詔ヲ宣ス　盤余彦ノ天皇、水間城天皇皆博物ノ臣明哲ノ佐ニ賴ッテ中功ヲ立セ玉ヘリ爰ニ小泊瀨天皇ハ前聖ノ隆平日久シキヲ承ケテ俗漸ク蔽レタレドモ寤ラズ政浸々衰ヘタレドモ然レドモ輔佐ノ臣アリテ社稷ヲ危メザリキ是ニ由リテ之ヲ見レバ豈ニ輔佐ノ功ニ非ザラシヤ　朕帝業ヲ承ケ今ニ二十余年天下泰平内外無虞ニシテ穀稼賃有リ窃ニ恐ル人民之ニ由ッテ俗ヲ爲シ此ニ依リテ驕ヲ成サン事ヲ故ニ廉節ヲ擧ゲ大道ヲ宣ベ鴻化ヲ流通セシメン能官ノ事古ヨリ難シトス爰ニ朕ガ身ニ曁ビテ豈ニ愼マザランヤ（日本書記）

紀元千二百年欽明天皇元年庚申國中ニ散在セル秦漢ノ歸化人未ダ本邦ノ戶籍ニ編入セサルガ故ニ此年始メテ諸蕃投合ノ者ヲ召集シ國郡ニ安置シテ戶籍ニ編貫ス秦氏ノ戶數凡テ七千五百五十三戶ナリ大藏掾秦大津父（はたのおほつち）ヲ秦ノ伴造トナシ以テ之ヲ督セシム（日本書記皐紀略）

紀元一千二百十一年欽明天皇十二年則チ西洋紀元前五百五十年是年歐羅巴洲伊太亞國ニ養蠶創マル是ヨリ曩キ伊太利國第一世ギユスチニアン帝ノ時世波斯國ノ僧二名支那ニ往キテ耶蘇敎ヲ傳導シツヽアリシ偶々支那蠶桑機織ノ盛大ナルヲ目擊シ歸國シテ孔子坦堡ニ至リギユスチニアン帝ニ謁シ支那蠶織ノ饒利ナルヲ以テス帝大ニ之ヲ嘉ミシ密ニ囑スルニ蠶卵及桑樹ヲ得ル事ヲ以テス於茲二僧支那ニ至ル然レ𪜈支那ハ當時堅ク蠶桑ノ事ヲ秘シテ漏サス嚴ニ蠶種ノ輸出ヲ禁ジ犯ス者ハ死刑ニ處スルヲ以テ二僧百方周旋シテ少許ノ蠶ヲ得之ヲ杖中ニ匿シテ攜ヘ歸リ纔カニ之ヲ帝ニ獻ズ帝之ヲ飼育セシメテ遂ニ絲ヲ製スル事ヲ得タリ歐羅巴ノ蠶業ハ之ヲ以テ濫觴トナスト云フ

紀元一千二百六十四年推古天皇十二年憲法ヲ制定シ民業ヲ保護シテ曰ク民ヲ使フニ時ヲ以テスルハ古ノ良典ナリ冬月ハ間アリ民ヲ使フ可シ春ヨリ秋ニ至リテハ農桑ノ節ナリ民ヲ使フ可ラズ農セズンバ何ヲ食セン桑トラズンバ何ヲカ着シ（日本書記）

上世史完

第三章　中世史

紀元一千三百〇五年孝德天皇政體ヲ刷新シ年號ヲ定メ大化元年ト稱ス實ニ本邦年號ノ嚆矢ニシテ亦タ職ヲ世襲スルヲ止メ服部連及太秦公宿禰等ノ督セシ工人ヲ收メ織部司ノ所轄トヲ課殖シ非違ヲ禁察シ賦役ヲ催駈スル事ヲ掌ラシム（日本書記）

因ニ曰フ是御詔書四條ノ者ナリシシ然レ𪜈斯史ニ要スル所ヲ拔粹シタルヲ以テ諒セラレヨ

而シテ當時又タ田制ヲ行ヒ其調ニ絹絁絲綿ハ並ニ鄕土ノ所出ニ從フ事ト定メラル其定額左ノ如シ

田壹丁ニ附キ絹壹丈トナス四丁ニ疋ヲナセ而シテ疋ハ長サ四丈廣サ貳尺五寸タル可シ

田壹丁ニ附キ絁二丈トナス二丁ニ疋ヲナセ而シテ疋ハ長サ四丈廣サ貳尺五寸タル可シ

紀元一千三百四十四年天武天皇即位十二年詔シテ伊賀、伊勢、美濃、尾張ノ四國自今調ヲ進ムル年ニハ役ヲ免ジ役ヲ進ムル年ニハ調ヲ免ゼラル（日本書記）

紀元一千三百五十五年持統天皇即位六年伊勢國今年ノ調役ヲ免ス但シ其二神郡ノ赤引絲三十五斤ヲ輸サシム（類聚國史）ト而シテ益々斯業ノ擴張ニ怠ル事ナク次年即チ即位七年癸己詔シテ桑、紵梨其他ノ植木ヲ勸メ殖エシメ以テ五穀ヲ助ケシム（日本書記）ト蓋シ桑蠶ノ業ノ徐ロニ勸誘サレシハ本邦桑殖蠶養ノ發達ノ素養ヲナス偶然ニ非ズ

紀元一千三百六十一年文武天皇大寶元年辛丑ノ年詔シテ調ノ絹絁絲綿布ヲ左ノ如ク定メ幷ニ鄉土ノ所出ニ從ハシム

正丁一人ハ絹絁共ニ八尺五寸ニシテ六丁ニ疋ヲ成セ而シテ長サ五丈二尺廣サ二尺二寸ナリトス

同美濃ノ絁ハ六尺五寸ニシテ八丁ニ疋ヲ成セ而シテ長サ五丈二尺廣サ二尺二寸ナリトス

絲ハ八兩綿一斤布二丈六尺ニシテ二丁ニ釣屯端ヲ爲サシム

望陀布四丁ニ端ヲ成サシム（賦役令）ト而シテ望陀布ハ上總國望陀ヨリ產出スル者ト傳フルル者アリ

又曰ク正丁二十一ヲ丁トナスト戶令ニ見ヘタリ

而シテ天災地難調役自ラ能ハザル者ノ爲メニ殊ニ制アリ即チ凡ソ田ノ水旱蟲霜アリテ熟セザル處ハ國司實ヲ撿ベ具ニ錄シテ太政官ニ申シ十分ニシテ五分以上ヲ害セバ租ヲ免ジ七分以上ヲ損セバ租調ヲ免ジ八分以上ヲ損セバ課役共ニ免セ若シ桑麻共ニ盡バ各々調ヲ免セ其已ニ役シ已ニ輸サバ來年折ク事ヲ聽セ（賦役令）

又タ織部司ニ命ジ河內國廣絹職人三百五十戶ヲ管シ機五十枚一機七疋ヲ織ラシメテ調ヲ取リ徭役ヲ免ズ（職員令集解）

又曰ク衛士京ニ向ヒ防人津ニ至ルノ間ハ皆國司ヲシテ親自部領セシメ津ヨリ發スル日專使部領シテ太宰府ニ付ケヨ其往還路ニ在ツテ前后ニ零疊シ百姓ヲ侵犯シ及ビ田苗ヲ損害シ桑漆ノ類ヲ斫伐スル事ヲ得ザレ若シ違ヘルアラバ國郡狀ヲ錄シテ官ニ申セ統領スル人ハ法ニ依リ罪ヲ科ス軍行モ亦タ此ニ準ゼヨ（軍防令）ト民業ノ保護實ニ斯ノ如シ按スルニ當時上洛ノ衛士等途次百姓ノ農桑ヲ損スル事甚シカリシニ依ル可シト雖モ政府ノ保護又タ至レルト謂ツ可キナリ

然リ而シテ政府ハ一增農桑ノ擴張ヲ企テ實ニ各人戶口ノ多寡ニ依リ左ノ等級ニ應ジ五年ヲ限リ悉ク桑漆ヲ園地ニ植ヘシメタリ（田令）

上戶　桑　三百根　漆　百根

中戸　桑　二百根　漆　七十根
下戸　桑　百根　漆　四十根

然レ𪜈郷土宜シカラズ及狹郷ハ必シモ數ニ滿タザレ（參照）田ヲ受クル事二段ニ足ル者ヲ寬トス足ラサル者ヲ狹トス戸ノ上中下ハ口ノ多少ヲ量リ臨時ニ量定シ皆園地ニ種ユ園地ナキ者ハ課役ノ限リニ非ラズ（義解）

水旱蟲霜アリテ不熟ノ處アラハ國司實ヲ檢シ具錄シテ官ニ申セ若シ桑漆損ジ盡クル者ハ各々調ヲ免ス（田令）

又曰ク園地ハ戸ノ上下男女ノ差別ナク鄉土ノ廣狹ニ應ジ各人ニ均シク分與セシムル事大凡三四段トナシ一回與フル後ハ官ニ沒收セズト雖モ再ビ下賜スル事ナク其戸癈絕スレハ官ニ還納セシム園地ナキ者ニハ桑ヲ與ヘズ其地桑ヲ植ユルニ宜シカラザレバ與ヘズ其産出ノ多寡ニ依リ正丁一人ニ左ノ如ク課ス

絹　八尺五寸
絁　八尺五寸

美濃絁　六尺五寸トス

其納期ハ毎年八月中旬ヨリ十二月三十日以前ニ納メ絲ハ七月三十日以前蠶ノ登ルヤ直ニ納メシメ水旱霜蟲ノ災桑麻ヲ損シタル時ハ其調租ヲ免スト云フ（日本書紀令義解令集解）

是年播磨濱路紀伊之國大風アリ潮溢リ田園損傷スト言フ乃チ使ヲ遣ハシ桑農ヲ巡監シ百姓ヲ存問セシム（續日本紀）

三年癸卯紀伊國奈加名草ノ二郡ヲシテ布ノ調ヲ停メテ絲ヲ獻セシメ阿提飯高牟漏ノ三郡ハ銀ヲ獻セシム（續日本紀）

傳フ當時常陸國筑波附近ニ於テ絹帛ヲ造リ結城地方ニ於テ販賣セリト且蠶種モ此地ニ製出セラレ盛ニ其業ヲ營ム者アリシト謂フ（都賀祉來歷書ニ據ル）

紀元一千三百六十六年文武天皇慶雲三年戊子新羅ノ調ヲ伊勢ノ神官及七道ノ諸社ニ奉リ勅シテ曰フ大藏ニ貯フル諸國ノ調ハ諸司ヲシテ色毎ニ檢ヘ授ケテ相知ラシメ又タ民部ニ貯フル諸國ノ庸ノ中輕キ者絁絲綿ノ類ハ今ヨリ以後大藏ニ收メ年料ヲ支度シテ民部ニ分チ充テシメタリ（續日本記）

紀元一千三百七十一年元明天皇和銅四年丁巳六月桃文師ヲ諸國ニ遣ハシ錦綾ヲ織ル事ヲ教

ヘシム（續日本紀）是レ當時錦綾織成ノ盛ナラサルニ出ヅル者ナル可シ所謂諸國ヲシテ錦綾織成ノ傳習師トナス歟

因ニ曰ク正一人錦綾紬羅ヲ織リ雜染事掌ドル

佐一人令史一人桃文師四人錦綾羅等ノ文ヲ桃ヲ掌ドル

桃文生謂ル綾錦ノ文ヲ取ル者名ツケテ桃文生トナス即チ得考ナリ以自桃織故ナリ八人云云トアリ（令義解織部司ノ條）

同五年始メテ國司巡行シ幷遷代ノ時穡馬脚夫ヲ給フノ法ヲ定メラレ太政官奏シテ備フ

郡司戸口ヲ繁殖シ調庸ヲ增益シ農桑ヲ勸課シテ人遺乏ニ少レニ逋逃ヲ禁斷シテ盜賊ヲ肅メ清ヒ籍帳皆實ニシテ戸口遺ルナシ制斷理ニ合ナヒ獄訟冤ナク職ニ在ル懈ルニ匪ス身ヲ立ツル淸情ニ在レ」

官ニ在テ貪濁ニ事ヲ處ル平カナラズ職用既ニ闕ケ公務擧ラズ百姓ヲ侵沒シテ公施ニ請託シ肆ニ奸商ヲ行ツテ以テ名官ヲ求メ田疇開ケスシテ租調ヲ減闕シ帳籍多虛口丁實ナク逋逃境ニ在リ畋遊度ナシ百姓精ク農桑ヲ務メテ産業日ニ長シ窮乏ヲ助ケ養ツテ獨惸ヲ存活シ孝悌閭ニ聞ヘ村識斁ニ堪ヘ」

若シ郡吏及百姓上ノ三條ニ准ジ三句以上ニ合フ者アラバ國司狀ヲ朝集使ニ附シテ擧聞センコトヲ奏可ス（續日本紀）

所謂司吏ノ職務ニ勉メテ其實蹟ヲ擧タル者及ビ百姓ノ農桑ヲ勵ミ產業ヲ進メタル者ヲ褒勵スルノ制度ニシテ國民ノ奮起心ヲ興起セシメンガ爲ナル歟此故ニ產業ハ一般ニ發達スルニ至リシ事同年七月伊勢、尾張、三河、駿河、近江、越前、丹波、但馬、因幡、伯耆、出雲、播磨、備前、備中、備後、安藝、紀伊、阿波、伊豫、讃岐等ノ三十一國ニ命シテ錦綾ヲ織ラシメ（續日本記）タルヲ以テ知ル可シ而シテ是等諸國ガ既ニ錦綾織成ノ命ヲ蒙ムル必ズヤ其原料モ同地ニ在リタル事ナル可ク若シ果シテ然ランニハ當時是等諸國ノ外尙未タ養蠶ノ行ハル、地方アリタルガ故ニ更ニ之ヲ加フレハ蠶業ノ普及實ニ全國ニ殆ンド普ヲカラントスル者ノ如シ然レトモ奥羽地方ノ蠶業未然ナルハ從來其業ニ係運セル實跡ノ擧ラサルヲ以テ能ク知ルニ足ラン

然リ而シテ曩キニ和銅四年桃文師ヲ諸國ニ遣シテ錦綾ヲ織ル事ヲ敎習セシメタル事蹟ヨリ追考スレハ今三十一國ニ令シテ錦綾ヲ織ラシムル事蓋シ諸國ノ當業者ガ練習技術ヲ比較セシガ爲メノミニ止マラン歟未タ一年ヲ出テザルニ於テ此擧ノ企テ豈ニ他アラザランヤ殊ニ亦

同六年十一月正五位上按作麿心ガ錦綾ヲ織ル工ニシテ異才獨リ衆倍ニ越ユルノ行蹟ヲ賞シ
麿心ガ子孫ヲハ其雜戸ヲ免ジ姓ヲ柏原村（かしはばらのすくり）ト賜フ（續日本紀）
同七年甲申相模常陸上野ノ三國ヲシテ始メテ絁ヲ輸サシム（續日本紀）
或曰フ上野下野常陸相摸武藏ノ五國ヲシテ絁布幷進セシムト考證スルアリ（岩本宗道大宮
宗司校正ノ續日本紀參註）
是年辛卯詔ス曰ク人衣食ニ足ルトキハ共ニ禮節ニ知リ身貧窮ニ苦シム時ハ競テ奸詐ヲ爲ス
宜シク今マ絁絲綿布調ヲ輸ス國等ハ調庸以外人毎ニ絲一斤綿二斤布六段（調ハ年十五以上
六十五以下ノ者）儲ヲ以テ産業ヲ資テ苦乏セシムル事无レ國郡能ク監察ヲ加ヘ務テ歡ニ依
リテ儲フル者ニハ考一等ヲ加フ或ハ里長ヲハ當年ノ調ヲ免サン若シ虛妄ヲ以テ顯ニ國郡司
ニ稱セバ即チ見任ヲ解キ里長ヲバ調ヲ徵テ掌ルコトヲ止メヨ（續日本紀）
又曰ク辛丑始メテ出羽ノ國ヲシテ蠶養セシム（續日本記）是レ奥州養蠶ノ濫觴ナリトス
又タ戊寅ニ制ス諸國ノ庸綿丁ニ（よほろごとに）五兩但安藝ノ國ハ絲丁ニ二兩遠江ノ國ハ絲
三兩幷ニ二町ヲ以テ屯約ト成セ

（參考）庸綿ハ庸錦ナリト金澤文庫本ニアリ（續日本紀參注）
又タ戊寅年詔シテ曰ク頃者陰陽殊ニ謬リ氣序乖キ違ヘリ南畝方興膏澤未ダ降ラズ百姓ノ田
圃徃々損傷ス宜ク幣帛ヲ以テ諸社ニ奉リ雨ヲ名山大川ニ祈フ可ク庶クハ嘉澍ヲ致シテ農桑
ヲ虧ル事勿レ（續日本紀）
紀元一千三百七十五年元明天皇靈龜元年五月辛巳朔ニ諸國ノ朝參ニ勅シテ曰ク
天下ノ百姓多ク本貫ニ背キ他鄉ニ流宿シ課役ヲ規避ス其浮浪ノ逗留スル三月以上ヲ經ル者
ハ即云ニ斷シテ調庸ヲ輸ス事當國ノ法ニ隨ヒ又百姓ヲ撫導シ農桑ヲ勸課シ心ニ字育ヲ存シ
能ク飢寒ヲ救フコハ實ニ是レ國郡ノ善政ナリ若シ身公庭ニ在リテ心ニ私門ヲ顧ヒ農桑ヲ妨
ゲ万民ヲ侵蝕スル者アレハ實ニ是レ國家ノ大蠹ナリ宜シク其產業ヲ催勸シ資產豐足スル者
ヲ上等トス催勸ヲ加フト雖モ衣食短乏ノ者ヲ中等トナス田疇荒廢シ百姓飢寒シ因ツテ死亡
ヲ致ス者ヲ下等トナス十人以上ハ即チ見任ヲ解ク可シ又四民ノ徒各々其業アリ今マ職ヲ失
ヒ流散スル事ハ是レ亦國郡司教ヘ導ク事方無ク甚ダ謂レナキナリ此類ノ如キ有ラバ必ス顯
戮ヲ加ヘ自今以後巡察使ヲ遣シ天下ニ分行シテ風俗ヲ觀省セシメ宜シク敦德ノ政ヲ勸メ彼
ノ周作ヲ庶フ可シ（續日本紀）

紀元一千三百七十五年元正天皇靈龜元年十月乙卯詔シテ國家ノ隆泰ハ要スルニ民ヲ富スニ在リ民ヲ富ス本ハ務メテ貨食ニ隨フ故ニ男ハ耕耘ヲ勤メ女ハ紝織ヲ脩ムル時ハ家衣食ノ饒有テ人廉耻ノ心ヲ生ズ云云（續日本紀）

二年四月又タ詔シテ國郡司ヲ戒ム蓋シ當時ニ於ケル情態ハ農桑ノ營ヒ頗ル發達シ來リタルニモ拘ラズ其增益ノ實蹟ヲ知ルニ由ナキガ故ニ殊ニ　聖旨ヲ垂ル其文左ノ如シ

……（上略）國郡司此ノ如クンバ朕將ニ何ヲカ任ゼン今ヨリ以去宜シク民ノ隱ヲ恤ンデ以テ委スル所ヲ制シ仍ホ部內ノ豐儉農桑ノ增益ヲ錄シテ言上スベシ（續日本紀）

是年駿河甲斐上總下總常陸上野下野ノ高麗人千七百九十七人ヲ武藏ニ移シ高麗郡ヲ置ク（續日本紀）

傳曰フ往昔歸化ノ子孫ニシテ業重ニ機織ニ從事スル者ナリキ今七國ニ移任スルニ當ツテ該地ニ蠶桑機織ノ業ヲ振興セシメントノ政策ナリト云ヘリ不詳

紀元一千三百七十七年養老元年五月諸國ニ制シテ織綾ハ自今六丁ヲ以テ疋ヲ成セシム（續日本紀）

（參照）（紀元一千三百六年孝德天皇大化六年ノ條）（紀元一千三百六十一年文武天皇大寶

又タ曰ク是年上總信濃二國ヲシテ始メテ絁ノ調ヲ貢セシム（續日本紀）

養老三年五月制シテ諸國ノ短キ絹狹キ絁、龜キ絹及ビ美濃ノ狹キ絁ノ法ヲ定ノテ自來各長サ六丈濶サ一尺九寸ト爲ス（續日本記）

（參照）紀元一千三百六十一年文武天皇大寶元年ノ條

是年七月按察使職務十條ヲ定メ給ヒ農桑ニ就テ曰ク

農桑ヲ勸課シ國阜カニ家田給ル

國郡ノ長官宇ヒ養ツテ倦ム事ナク訓ヘ導ク事方チ有レバ人每ニ農業ヲ務メ家每ニ桑事ニ趣ン（類聚三代格）

右按察使管國ヲ巡歷シテ訪察スルノ條前ノ如シ

又タ曰ク田蠶修ラサレバ耕織廢ル

右百姓前件ノ善惡ノ狀迹ハ狀ニ隨フテ擧罰シ狀ヲ錄シテ具ニ通聞セヨ（以上類聚三代格）

因ニ記ス以上檢察使ノ職務二件ハ事蠶桑ニ係ル者而已ヲ擧ゲタル者ナレバナリ此外數多

ノ條例アリ然レモ蠶桑ニ係ラザルヲ以テ除ク

養老五年辛酉勅ヲ宣シテ曰ク朕四海ニ君臨シ家ノ貯蓄人ノ安樂ヲ思欲セシニ何ゾ期セン頃者旱潦調ハズ農桑損スル事アリ遂ニ衣服乏短ニシテ飢寒アル事ヲ致サシム茲ヲ思ヘバ良ニ惻愴ヲ增セリ今課役ヲ減ジテ用テ產業ヲ助ケ其左右ノ兩京及幾內ノ五國幷ニ今年ノ調ヲ免シ自餘七道ノ諸國ハ亦タ當年ノ役ヲ停メヨ（續日本紀）

養老六年閏四月太政官奏ス廻者邊郡ノ人民暴ニ冠賊ヲ被フリ遂ニ東西ニ適キ流離分散ス若シ矜恤ヲ加ヘズンバ恐ラクハ後患ヲ貽サン是ヲ以テ聖王制ヲ立テ亦邊ヲ實スル事ヲ務ムル者ヲ蓋シ中國ヲ安ンズルヲ以テナリ望ミ請フ陸奧按察使ノ管內ノ百姓ハ庸調ヲ浸ニ免シテ農桑ヲ勸課シ射騎ヲ敎習シ更ニ助邊ノ資ヲ稅セン其稅ハ每年一人ニ布ヲ輸ス事長サ一丈三尺濶サ一尺八寸ニシテ三丁ニテ端ヲ成サシム（下略）（續日本紀）

養老七年天下豐饒ス既往數年ハ蓋シ旱潦調和セズシテ冠賊四方ニ割據スルニ至ル是年ニ至リテ稍々黎元ヲ安ンズルニ至ル即チ詔シテ……（上略）宜シク戶頭ノ百姓ニ種子各々二斛布一丈鍬一口ヲ給ヒ農蠶ノ家ヲシテ永ク業ヲ失フ事無ク官學ノ徒ヲシテ專ラ私ヲ忘レム宜シ（續日本紀）

紀元一千三百八十七年聖武天皇神龜四年丁卯詔シテ曰ク時東作ニ望ミ人田疇ニ赴キ膏沃調陽シ春事既ニ起リ九農ノ方ニ茂リナルヲ思ヒ五稼ノ饒ナル事アランヲ冀フ是ノ令節ニ順ツテ仁ヲ黎元ニ及ボサン京邑ノ六位以下ヨリ庶人ニ至ル迄戶頭人ニ鹽一顆穀二斗ヲ賜フ可シ（續日本紀）

因ニ曰フ、九農トハ、土ヲ相シテ耕種ヲ趣メ、芸苗ヲ趣メ、收斂ヲ趣メ、菓ノ爲メニ鳥ヲ駈リ、民ノ爲メニ鳥ヲ駈リ、民ノ爲メニ獸ヲ駈リ、蠶ノ爲メニ雀ヲ駈ルヲ、言フ蓋シ此條ニ當ル蠶ノ爲メニ雀ヲ駈ルト言フ事宜シク現業史ノ當時ヲ參照スベシ

紀元一千三百八十八年神龜五年調貢輸送ノ煩雜ヲ厭フテ美作國ヨリ言上スル所アリ即チ太政官奏上ス曰ク美作國大庭眞島ノ二郡ハ一年ニ輸ス所ノ庸米八百六十余斛ナリキ山川峻遠ニシテ運輸ニ苦ミ人馬幷ニ疲レテ損費極メテ多シ望ミ請フ輸米ノ重キヲ綿鐵ノ重ニ換シト即チ之ヲ聽サル（續日本紀）

紀元一千三百八十九年聖武天皇天平元年四月庚午諸國ノ兵衛ノ資物ハ當郡ノ見在ノ郡司ニ令シ節級シテ之ヲ輸サシメ仍ツテ貢調使ニ附シテ所司ニ送ラシム其輸法

上絁一疋ヲ以テ銀二兩ニ充テ

上絁小二斤
庸布　四段　銀一兩ニ充ツ
庸綿小八斤
米　一石

即當土ノ出ス所ニ依リテ銀二十兩ニ準セヨ（續日本紀）

天平二年太政大臣ノ請ニ由リ四丈廣絁ヲ停メラレ皆六丈ノ狹絁トナス（續日本記、類聚國史）

（參照）紀元一千三百六年孝德天皇大化六年ノ條

紀元一千三百六十一年文武天皇大寶元年ノ條

紀元一千三百七十七年元正天皇養老元年ノ條

紀元一千三百七十九年元正天皇養老三年ノ條

因ニ曰フ當時　絹物相場

絁　一疋　二兩
上絲小二斤　銀一兩
上綿小八斤　銀一兩

天平十八年丙戌日向國風雨共ニ起リテ養蠶損傷ス乃チ調庸ヲ免ス（續日本紀）

（參照）紀元一千三百六十一年文武天皇大寶元年ノ條

紀元一千四百十七年孝謙天皇天平寶字元年丁酉駿河國益頭（ヤキツ）郡ノ人金刺（カナサシ）ノ舍人麻自（マジ）蠶ノ絲ヲ吐テ文字ヲ成ヲ獻ズ其文ニ曰ク五月八日開下帝釋（シアクノ）標知（ラシム）ニ天皇命百年トアリ因リテ天平勝寶九年ヲ改メテ天平寶字元年トシ麻自ヲ從六位上ニ叙シ絁二十疋調布八十端正稅二千束ヲ賜ヒ執持ツテ參上セラル驛使中位ノ舍人少初位上賀茂君繼手ヲ從八位下ニ叙シ絁十疋調綿二十屯調布十端ヲ賜ヒ當郡ノ百姓ニハ復一年ヲ賜フ（續日本紀）

（參照）日本租稅志天平寶字年間絁ノ價ナリトテ考證シテ曰ク

紫絁二丈六尺四寸　價二百丈　（是東大寺古文書ニ據ル）

蓋シ是等價ヲ按ズルニ天正天皇養老五年正月天下ノ百姓ニ命シテ銀錢ヲ以テ銅錢二十五ニ當テ銀一兩ヲ以テ一百銀ニ當テ、之ヲ用ヒシムトアルヲ以テ見レバ即チ銀四ヲ以テ一兩トハ云フナル可シ

又曰ク六年二月詔シテ二百錢ヲ用テ一兩銀ニ當テシムトアリ是ヲ以テ見レバ銅錢五十ヲ以テ銀一ニ當テタルナリ然レドモ前年ノ初ハ銀銅ノ適當セザルヲ人民ノ之ヲ不便ニ感ジ

タルヲ以テ改正シテ標準ヲ執レルナリ
又曰ク天平寶字四年金銀銅ノ三錢ヲ鑄造ス新錢萬年通寶ヲ以テ舊錢十ニ宛テ銀錢太平元寶ヲ以テ萬年通寶十ニ當テ金錢開基勝寶一ヲ以テ太平通寶十ニ當ツルナリ而シテ舊錢ト云ヘルハ和銅錢ノ事ナル可シ
又曰ク尺度ノ制ハ令ノ時ニ唐ノ大尺ヲ摸シテ我小尺トナシ常ニハ之ヲ用ヒタリ而シテ古來在リシ高麗尺ヲ大尺トシテ土地ヲ度ルニ用ヒタリ和銅六年ニ至リ十尺即チ高麗尺ヲ止メ唐ノ大小尺ヲ用ヒ大尺ヲ當ニ用ヒ小尺ハ唯ダ晷影ヲ測ル而已ニ用ヒタリ故ニ令ノ小尺和銅ノ大尺共ニ長短ナク絹絁布ノ類皆之ヲ用ヒテ度レルナリ
紀元一千四百二十五年稱德天皇天平神護元年河內國ノ御服ヲ織ル絹戶、造餠戶ヲ停ム（續日本紀）

（參照）職員令集解ニ織部司ニ河內ノ國ノ廣絹ノ織人三百五十戶織十枚其ノ年料トスル所ノ機七疋トアリ

按ズルニ是等停止ノ主旨ハ蓋シ儉素ヲ守リ給フヨリ出シ者ナル可シ
天平神護二年日向、大隅、薩摩大ニ風吹キ桑麻ヲ損ス詔シテ棚戶ノ調庸ヲ免ス（續日本紀）

紀元一千四百二十七年神護景雲元年勅ス夫レ農ハ天下ノ本ナリ吏ハ民ノ父母ナリ農桑ヲ勸メ課スルニ常制アリ此年諸國遣ラズ唯ダ天道ノ宜シキニ乖ル而已ニ匪ズ抑モ亦人事ノ怠慢ナリ天下ニ令シテ農桑ヲ勸ムル事トスベシ
仍リテ國司冷勤尤モ異ナル者一人幷ニ郡司及民ノ中ニ良ニ謹テ誠有ル者郡別ニ一人ヲ擇ビ差シテ其事ヲ專當セシメヨ其專當ノ人ハ先以テ敬肅シテ境內ノ驗有ル神祇ニ禱祀シ次ニ存心ヲ以テ部下ノ百姓ノ產業ヲ勸課セヨ若シ其祈ル所ロ應アリ催ス所益ヲ見バ則チ專當ノ人別ニ褒賞ヲ加ヘン（續日本紀類聚三代格）
神護景雲二年山陽道ノ使左中辨藤原雄多麿言ス長門國豐浦厚狹ノ二郡ハ蠶ヲ養フニ宜シク乞フ調ノ銅ヲ停メテ代テ綿ヲ輸サシメント詔シテ幷ニ之ヲ許ス（續日本紀）
神護景雲三年三月乙酉勅ス陸奧國桃生伊治ノ二城營造已ニ畢ル厥ノ土沃壤ニシテ其毛豐饒ナリ宜シク坂東八國ヲシテ各々部下ノ百姓ニ募リ若シ情ニ農桑ヲ好ミ彼ノ地利ニ就ク者アラバ則チ願ニ任セテ移徙シ便ニ隨テ安置セシムヘシ可シ法外ニ優復シ民ヲシテ遷ル事ヲ樂マシメン（續日本紀）ト蓋シ陸奧蠶業創始ノ初メナリ
紀元一千四百三十一年光仁天皇寶龜二年五月右京ノ人蠶ノ自ラ字ヲナセルヲ獻ス（續日本

紀）

寶龜六年太宰府言ス日向薩摩ノ兩國風雨アリテ桑麻ヲ損シ盡スト詔シテ寺神ノ戸ヲ問ハズ幷ニ今年ノ調庸ヲ免ズ（續日本記）

（參照）神護景雲二年戊申是ヨリ先キ東海道ノ巡察使式部太輔紀ノ廣名等言フス本年ノ寺神ナル封戸ノ百姓ノ疑ヲ得ルニ曰ク公戸ノ百姓ハ時ニ思ニ霑フ事アリ寺神ノ封ハ未ダ曾テ免ヲ蒙ラズ變土ノ黎庶苦樂同ジカラズ望ミ請フ一ニ公民ニ準シテ俱ニ光澤ニ浴セント使者商量スルニ申ス所道理アリト是ニ至リテ奏可ス餘道ノ諸國モ亦此ニ准ズ（續日本紀）

紀元一千四百四十四年桓武天皇延暦三年太政官符ス國司田ヲ作リ百姓ノ業ヲ妨グルヲ禁斷スル事

右ハ右大臣ノ宣ヲ被フルニ曰ク勅ヲ奏スルニ民ハ惟邦ノ本ナリ本固フレバ國寧シ民ノ資スル所農桑是レ切ナリ頃ロ諸國司等厥ノ政僻多ク撫導ノ方ニ乖ルヲ愧ヅ唯侵漁ノ巧ナラザルヲ恐ル或ハ廣ク林野ヲ占メテ蒼生ノ便要ヲ奪ヒ或ハ多ク田園ヲ營ミテ點黎ノ產業ヲ妨グ百姓ノ凋弊スル事職トシテ之ニ因ル宜シク禁制ヲ加ヘ貪慾ヲ懲革スベシト云ヘリ

諸國承知シテ自今以後國司等公廨田ノ外更ニ水田陸田ヲ營ムヲ得ズ又私カニ墾闢ヲ貪リテ百姓ノ農桑ノ地ヲ侵スヲ得ザル如シ違犯スル者有バ収獲ノ實墾闢ノ田幷ニ皆官沒セヨ即チ見任ヲ解キ違勅ノ罪ヲ科セン

夫同察幷ニ縣司等相知ツテ容隱セバ亦與ニ同罪トセン若シ人アリテ糺告スル者ニハ其苗字ヲ以テ糺告人ニ與ヘン貪婪ノ吏ヲシテ其奸源ヲ恣ニセシムル勿ラシム（類聚三代格續日本紀）

延暦五年詔シテ民業ノ趣ヲ諮詢シ給フ太政官商量シテ其條例ヲ奏ス撫育方アリテ戸口增益シ農桑ヲ勸課シテ倉庫ヲ積蓄シ雜物ヲ貢進スル事限ニ依リテ送納ス（續日本紀類聚三代格）

因ニ曰フ此條素ト當事者貶黜ノ主旨ニ出デ給ヒシ者ニシテ條凡ソ八條ナリキ他ニ係ルノ條項玆ニ略ス

右國宰郡司鎭將邊要等ノ官任ニ在ル三年ノ內ハ條中二條ニ當ル功績ノ在ル者ハ五位ヨリ以土ハ事ヲ計ツテ階ヲ進メ六位以下之ヲ不次ニ擢ンデ、授クルニ五位ヲ以テセン

官ニ在ツテ貪濁ニシテ事ヲ處スルニ不平ナル肆ニ姦猾ヲ行ヒ以テ名譽ヲ求メ畋獵度ナク百姓ヲ擾亂シ酒ヲ嗜テ沈酒シテ公務ヲ廢闢シ公節聞ユル事ナクシテ私門日ニ益シ子弟ヲ放縱

ニシテ請托公行シ逃失數多ニシテ克ク獲ル事數少ク統攝方ヲ失フテ戊卒命ニ違フ若シ同前ノ群官職掌ヲ務メズシテ前ノ一條以上ニ當ル者有ラバ年ノ遠近ヲ限ラズ見任ヲ解却セン其撫育課勘等ノ條ニ違乖スル者モ亦タ是ニ準ジテ行ハント之ヲ奏可ス（續日本紀類聚三代格）

按スルニ延曆三年ニ業ニ已ニ國司ヲ戒ムルノ條頗ル嚴ナルニ今同五年ニ此聖旨ヲ給ハル當時ノ樣ヲ考フレバ當事者私曲ヲ檀ニス狀驚クニ堪ヘタルナリ

延曆十一年鞍橋ニ桑梨ヲ植ル事ヲ禁ス其舊ク有ル所ノ所司ニ申シテ燒印シテ之ヲ用ヒヨ（日本紀略）

延曆十三年都ヲ平安城ニ遷シ織部司ヲ皇城ノ艮ニ建（今ノ長者町新町西入邊リノ所ナリ東西四十丈南北二十丈織手町ヲ設ク）盛ニ好絹ヲ織ラシム當時好絹ノ最モ美ナル者ヲ波久ノ（はく）幾奴ト言ヒ其輕薄ナルヲ加登利（かとり）ト言ヒ又タ宇須毛乃（うすもの）ト云フ（西陣織物沿革提要ニ據ル）

延曆十五年十一月太政官符シテ曰ク備前國鑒鐵ヲ進ル事ヲ停止スベキ事

右ハ大納言紀ノ古佐美ノ宣ヲ被フルニ稱ク勅ヲ奉ズルニ納貢ノ本ハ土宜ニ從ス物ノ出ヅル所ニ非レバ民之ヲ患ト爲ス今聞ク件ノ國ハ元ヨリ鑒ノ鐵ナシ調貢ニ至ル毎ニ常ニ此國ニ買フト自今以後宜シク鐵ヲ收ムル事ヲ停メテ絹ニ非レバ則チ絲ニ從ツテ輸出ス可シトセリ（類聚三代格）

紀元一千四百五十六年延曆十五年十一月伊勢三河相摸近江丹波但馬六國ノ女二人宛陸奥國ニ遣ハシ二年ヲ限リ蠶養ヲ教ヘ習ハシム（日本後紀）

（參照）紀元一千四百二十九年神護景雲三年ノ條

按スルニ是等六國養蠶ノ術ニ精シアリシ者ナラン故ニ二人宛撰拔シテ陸奥國ニ遣ハシタル者ナル可シ而シテ當時養蠶ノ行ハレシ國々ヲ擧グレバ大概左ノ如シ

伊勢	尾張	三河	越前	丹波	攝河
伯耆	出羽	出雲	播磨		
紀伊	阿波	伊豫	備前	備後	安藝
上總	信濃	長門	備中	備後	讃岐
			相摸	武藏	常陸
					太宰府

以上凡ソ三十四國ナリシ然レトモ是等ニ隣リタル國ハ何レモ蠶養ノナキニシモアラザレバ斯業ノアリタル者ト知ラザル可ラザルナリ而シテ當時絹織物ヲ產出セシ國々ハ大概左ノ如シ

伊勢　尾張　三河　駿河　伊豆　近江　越前　丹波
但馬　因幡　伯耆　出雲　播磨　備中　備後　安藝
紀伊　阿波　伊豫　讃岐　相摸　武藏　常陸　上野
下野

延暦十七年太政官符ス俘囚ノ調庸ヲ免ズ可キ事右ハ太宰府ノ解ヲ得ルニ曰ク所管ノ諸國ノ解ニ件ノ俘囚等恒ニ舍俗ヲ存シ野心ヲ改メズ狩漁ヲ業トナシ養蠶ヲ知ラズ居住定ラズシテ浮遊スル事雲ノ如ク調庸ヲ徴スニ至リテハ山野ニ逃散ス未進ノ累職トシテ此之ニ由ル望ミ請フ正身ニ徴ス事ヲ免シ蓄息スルニ至リテ始メテ課役ヲ懲サン然ラバ即チ俘囚ハ漸ク花俗ニ隨ヒ國司ハ永ク後ノ煩ヲ絕タント云ヘリ府覆檢ヲ加フルニ陳ズル所ロ理アリ謹デ官裁ヲ請ト云ヘリ大納言神王宣ス勅ヲ奉ズルニ請ニ依レト諸國此ニ準ズ（享錄本、類聚三代格）

紀元一千四百五十九年延暦十八年一人アリ小船ニ乘リ參河國ニ漂着ス布ヲ以テ脊ヲ覆ヒ犢鼻着テ袴ヲ着ス左ノ肩ニ紺布ヲ着ル形チ袈裟ニ似タリ年二十バカリニシテ身ノ丈ケ五尺五寸耳ノ長サ三寸余ナリ言語通セズ何ノ國人ナルヲ知ラス大唐ノ人等之ヲ見テ僉曰ク崑崙ノ人ナリト後頗ル中國ノ語ヲ習フ自ラ曰ク天笠ノ人ナリト常ニ一弦琴ヲ彈ス歌聲哀

楚タリ其資物ヲ閱スルニ草實ノ如キ者アリ之ヲ綿種ト言フ其願ニ依リヲ之ヲ川原寺ニ住マシメ即チ隨身ノ者ヲ賣リテ屋ヲ西堺ノ外ノ路邊ニ立テ窮人ヲシテ休息セシム（類聚國史日本逸史）

同ジク十九年去年漂着セル崑崙人ノ齎ラス綿種ヲ以テ紀伊淡路阿波讃岐伊豫土佐及ビ太宰府ノ諸國ニ賜フテ之ヲ殖ヘシム其法先ツ陽地ノ沃壤ヲ簡テ穴ヲ作ル事深サ一寸ニメ相去ルコト四尺トシ種子ヲ洗フテ之ヲ漬シ一宿ヲ經テ明旦之ヲ殖ヘ一穴ニ四枚土ヲ以テ之ヲ掩ヒ手ヲ以テ之ヲ按ヘ毎旦水ヲ灌ギテ常ニ潤澤セシメ生スルヲ待テ芸ラシム（類聚國史）蓋シ木綿ナル者ハ製シテ糸綿ニ爲シ得可ク其法ヲ誤ラスンハ蠶ノ繊維ト疎密ノ別ナル而已ニシテ幷用セラル、者ナルガ故爾來或ハ蠶業ノ消長ニ關スル事起リシ者ナランカ此種ノ原始ニ附テハ國史ノ記事數說アリ後文柏原天皇大永元年ノ條及ビ後陽成天皇慶長三年ノ條參照ス可シ

紀元一千四百六十四年延暦二十三年越前能登ノ二國桑麻損スルヲ以テ調ノ十分ノ七ヲ免ズ（日本後紀）

又タ曰ク是年制シテ筑前國志麻郡ハ從來綿ヲ以テ調トセシヲ自今以後之ヲ停止シ錢ヲ以テ

調ヲ輸サシム（日本後紀）

又タ曰ク是年公卿奏議ス伏シテ綸旨ヲ奉スルニ營造已マス黎民或ハ斃ル彼ノ勤勞ヲ思フニ事矜恤スベシ加之時ニ災疫ニ遭ヒ頗ル農桑ヲ損セリ今有年ナリト雖モ業ヲ復スルヲ聞カズ事ヲ量リ存濟ヲ得セシム可シト云ヘリ……（中略）諸國ノ貢調ノ役夫國ニ依リ五個ヲ役シ或ハ三個日ヲ役シテ役ノ限リ均シカラズ勞逸各々異リ共ニ二日ヲ役シテ苦樂ヲ同クス可シ又タ備後國ノ神石奴可三上惠蘇甲奴世羅三次等八郡ノ調絲ヲ鎚ノ鐵ニ相替ヘ亦タ伊賀伊勢尾張近江美濃若狹越前越中丹波丹後但馬因幡播磨美作備前備中備後紀伊阿波讃岐伊豫等ノ國ハ殊ニ當年ノ庸ヲ免サント之ヲ許ス（日本後紀類聚國史）

紀元一千四百六十七年平城天皇大同二年太政官七道ニ符シテ桑漆ヲ植ユルヲ催ス右ハ東海道觀察使藤原葛野麻呂カ奏狀ニ稱ハク桑漆ノ課ハ具サニ令條ニ載セタリ植ヘ易ク生ヒ易シ養ヒ林トナル採用ニ至リテハ公私之ニ依レリ然ルヲ國郡司等ガ催植スル事ヲ務メズ既ニ闕乏ヲ致セリ謹テ天平二年五月ノ格ヲ案スルニ備ハク諸國ノ進ル所ノ桑漆等ノ帳或ハ舊案ニ因循シテ但年紀ヲ改メ或ハ虛ツテ增減ヲ爲シテ實ト同シカラス自今以後嚴ニ捉搦ヲ加ヘテ令ニ依ツテ植ヘ滿シメ每年ニ巡檢シ實錄シテ之ヲ申セ如シ使ヲ遣シテ勘會セシニ實ト同シカラズハ國司ハ必ズ貶責ヲ加ヘ國司ハ見任ヲ解却セシム自今以後永ク恒例ト爲セヨト云ヘリ然レトモ猶積習常トナリ法ニ狎テ改ムル事ナシ望ミ請フ當道ニ下知シテ交替分附センニ若シ數ニ塡タザル者ハ解由ヲ拘留シテ以テ不塡ヲ懲サン其ノ貶責解任ハ一ニ先格ニ依ラント云ヘリ右大臣宣ス勅ヲ奉ズルニ奏ニ依レ自餘諸道モ亦同ジク此ニ准セヨ（類聚三代格）

又タ曰ク此年詔シテ宜シク百姓輸ス物ヲ調庸雜物推シテ常法ヲ改メヨ今須ラク一丁輸サン絹若クハ絁ハ長サ一丈濶サ二尺四寸ニ匹ヲ成セ其餘モ之ニ準ジテ折中商量シテ勤テ輕薄ニ從ツテ民ヲ福壽ニ入レヨ（類聚國史）

（參照）紀元一千三百七十九年元正天皇養老三年ノ條

紀元一千四百六十九年大同四年太政官符シテ觀察使ノ起請シテ農桑ヲ勸課シ倉庫ヲ積實スルノ實アルヤヲ訪問ス（類聚三代格）

（參照）紀元一千四百六十七年大同二年ノ條

紀元一千四百七十七年嵯峨天皇弘仁八年伊勢國多氣度會ノ二郡ニ令シテ桑漆二十一万八千七百九十六根ヲ催シ殖ヘシム就中

多氣郡　十三万六千五百三十三根
度會郡　五万八千四百五十根

漆ハ

多氣郡　一万七百七十三根
度會郡　一万三千四十根　（以上類聚三代格）

紀元一千四百八十三年弘仁十四年太政官謹ミ奏シテ越前區江沼加賀ノ二郡ヲ割テ加賀國トナス此國大川山岳アリ倘ホ風雨切リニシテ運輸不便生計若シ即チ民ハ逃散スル者皆ナ以上ノ原因ニ依ラザルハナシ殊ニ部内遠クシテ巡撿スルニ煩多シ官舍ノ損ヒ農桑ノ怠此ニ依ラザル事ナシト伏テ請ラクハ別ニ件ノ國ヲ立テ名ヅケテ加賀ノ國ト云フ（類聚三代格）

紀元一千四百九十四年仁明天皇承知二年太政官處分ス伊賀尾張出雲美作備前備中備後安藝紀伊阿波等ノ國年料ニ貢賦スル練絲等宜シク其色ヲ減シテ生絲ヲ進ラシメヨ（續日本後紀）

按スルニ其色ヲ減ズルノ次第ハ其品種ヲ減ジテ生絲ヲ多ク進ラシムルノ義ナリ

紀元一千四百九十七年承知五年太宰府例進ノ緋ノ綿紬一百端ヲ今紺紬十端黑緋紬四十端緋紬五十端ニ定ム（續日本後紀）

紀元一千四百九十八年承知六年勅ス……（上略）去年農ヲ勸メテ諸國稔ヲ致シ今玆ニ勸メズシテ習俗猶怠レリ宜シク諸國ヲシテ農桑ヲ勸課シ必ズ豊年ヲ期セシム可シ（續日本後紀）

紀元一千五百二十四年清和天皇貞觀六年太政官ヨリ符ヲ東海東山北陸山陰山陽南海太宰府ニ下シ調庸ノ麁惡ヲ責テ曰ク大同二年十二月ノ格ニ麁惡ノ罪ハ格條ノ指ス所ロ科責輕キニ非ズ而ルニ今諸國ノ貢絹布ハ凡テ麁惡ニシテ精麗ナシ或ハ絹ノ如クニシテ絹ニアラス尤モ蜘蛛ノ秋網ニ等シク或ハ布ノ如クニシテ布ニ非ズ連鎖ノ疎文ニ異ナラズ加之尺寸多ク闕ケ短狹極リナク徒ラニ輸貢ノ勞アリテ却テ支給ノ用ヲ闕ク是レ即チ牧宰專ラ格制ヲ忘レ唯ダ規避ヲ事トスルノ致ス所ロナリ法ヲ設ケテ行ハザルハ此寬典ナリト雖モ人押テ愼マズ實ニ懲肅スベシ然レトモ漸染ノ致ス所ロ頗ニ責ム可キ事難シ宜ク已往ノ怠ヲ誡メテ以テ將來ノ効ヲ求ム可シ符出テ玆ニ數年ナリ猶懲肅セズ彌々粗惡ヲ致ス即チ知ル空シク格制ヲ張リテ其罰ヲ行ハズ國宰押レ來リテ積ム所ノ漸ナリ之ヲ科條ニ準ズルニ必ズ其罪責ム可シ時ニ深仁ヲ貴ビ政ハ鴻怒ヲ先キニ年來優々容シ特ニ聽ス此ノ如ク費ヲ撿スルニ既ニ奸濫ヲ成ス是ヲ政途ニ論スルニ理何ゾ然ル可ンヤ自今以後粗惡アラバ此ヲ論スル事格ノ如ニシテ曾テ寬怒セズ（續日本後紀）

（參照）紀元一千四百六十七年平城天皇大同二年ノ條

符ヲ按スルニ當時ノ絹布麁惡ノ醜狀前世未聞ノ時代ニシテ工術轉タ精シカラザリシ乎蓋シ一般民情ノ傾向ヲトスルニ足ル

又タ曰ク是年出雲國仁田飲田ノ兩郡農蠶饒カナラサルヲ以テ百姓ノ課役ヲ免ズル二年トス（日本後紀）

紀元一千五百三十年貞觀十二年太宰太貳藤原冬緒貢進ノ稻穀其煩シキヲ以テ穀倉院ノ地子交易習弊院ノ專當停止ノ義ヲ起請ス曰ク穀倉院ノ物比年ノ間監一人ヲシテ其事ヲ勾當セシメ毎年輕物ニ交易シテ輸進ス玆ニ於テ勾當ノ人年初ニ請フテ其稻ヲ領シ既ニ訖リ其後府司返抄ヲ責ムルニ言ヲ左右ニシテ進ラズ意ヲ知ラザルノ吏ヲシテ故還ノ煩ヲ招カシム熟々其由ヲ尋ヌルニ理リ然ル可ラス凡ソ一官ノ事タル官長ノ行ヲ所ロハ縱ヒ其人アリト雖トモ何ゾ濟ハザルヲ愁エン而ルニ更ニ專當ヲ置バ還ツテ物ノ煩シキ事ヲ致ス望ミ請フ停主ニ從ハン府司一向ニ交易シテ奉進セント詔シテ云ヲ聽ス（日本後紀）

按ズルニ是レ稻穀ノ重キ太宰府貢進ノ煩ヲ憐ムナリ故ニ是ヨリモ輕キ絹布ヲ以テ之ニ易フルノ次第ナリ將タ之ニ直ヒスル商布ノ如キヲ以テスルモアリ同年制スル交易ノ商布ノ直ハ稻十束商布ノ直ハ六束ニ定ム

紀元一千三百三十二年貞觀十四年勅ス太宰府輸ス所ノ絹綿麁惡殊ニ甚シク宣シク新典ヲ降シ更ニ將來ヲ肅マシム可シ仍ツテ其麁惡ノ絹一百疋ニ及ビ綿一万屯ニ滿タバ彼ノ府ノ藏司ノ別當及ビ使監典幷ニ見任ヲ解却セン（類聚三代格、日本後紀）

（參照）紀元一千四百六十七年平城天皇大同二年ノ條

紀元一千五百二十四年淸和天皇貞觀六年ノ條

紀元一千五百三十九年陽成天皇元慶三年民部鄉藤原冬緒口分田支給ノ變更ヲ奏上ス曰ク…田令ニ凡ソ口分田ヲ給ハヾ男ハ二段女ハ三分ノ一ヲ減ズト然レハ即チ一段百二十步ヲ給ス可シ然ルニ天長ノ給法ハ百三十步承和ニ至リテ其數百二十步奏聞已ニ畢リ議アリテ行ハレズ此般行フ所ロ又當サニ百二十步ニスベシ今按內ヲ撿スルニ京戶ノ女ハ事外國ニ異リ蠶桑ノ勞ヲ知ラズ都テ舊杵ノ役ナシ加之其用ニ當ル所ヲ云フニ最モ微少タリ名ハ是レ口分ナレドモ實ハ身潤ニアラス況ンヤ又公鄉ノ子女王侯ノ妻妾此ノ尺土ヲ得レトモ其何ノ益カアラン但畿內ノ百姓ハ貢賦外國ヨリ輕シト雖モ而レトモ徭役京戶ヨリ重シ今豫ジメ口分ヲ計ルニ一段百二十步支給シテ勞苦ヲ酬スルニ足ラズ夫レ事ハ權變ヲ貴ヒ政ハ弛張ニ存ズ如シ當ヲ

守リテ改メザル事アラバ恐ラクハ通方ノ謂ニアラザラン伏テ請フ京戸ノ女ノ口分田ヲ以テ畿内ノ男ニ加給セン（日本後紀）

因ニ曰フ當時絹相場ハ

絹一疋　金砂二十一銖

綿十六屯　砂金一兩

紀元一千五百四十二年元慶六年紀伊國ノ浪人ノ調庸ハ其土ニ準ジテ絹綿ヲ輸セシム可シ太政官處分ス（日本後紀）

又タ曰ク但馬ノ國ノ年貢ノ綾一疋ノ代生絹二疋ヲ進ル事限ルニ二年ヲ以テス伊勢尾張兩國ノ例ニ準ズルナリ（日本後纘）

紀元一千五百四十四年光孝天皇元慶八年太宰府年貢ノ綿十萬屯其內二萬屯ハ絹ヲ以テ相轉ジテ之ヲ進リシヲ彼ノ府申請ス春夏霜雨シ蠶養利アラズ綿ヲ作ル事是レ乏シク輸貢闕ク可シ望ム相換テ之ヲ進ラント太政官處分ス請ニ依レ（日本後紀）

紀元一千五百四十七年仁和三年伊賀伊勢尾張伊豆近江美濃越後丹後但馬播磨備前備後紀伊阿波讃岐伊豫土佐等ノ國絹ヲ貢スルニ麁惡殊ニ甚ダシクシテ昔日ノ如クナラズ勅シテ國宰

ヲ譴メ正倉ノ舊樣ノ絹ヲ探リ取リ每國ニ一疋ヲ賜ヒ舊樣ニ依リテ織リ作ラシム（日本後紀）（參照）紀元一千五百二十四年貞觀六年ノ條

紀元一千五百五十七年宇多天皇寬平九年太政官符ス桑漆ヲ殖エ官吏ヲ派シ巡察檢閱シテ其狀ヲ具申セシム（政事要略）（參照）紀元一千四百六十七年平城天皇大同二年ノ條及ビ一千四百六十九年大同四年ノ條

紀元一千四百四十七年弘仁八年ノ條

而シテ紀元千五百六十年代醍醐天皇ノ延喜年中延喜格ヲ制シ又タ紀元千五百八十年代實ニ同帝ノ延長五年也世ニ有名ナル延喜式ヲ定メ庸調竝ビ料度ヲ凡テ畫一ノ式ニ據ラシムルニ至ル是時本邦蠶絲絹綿ノ如キ其生產地ノ頗ル廣ク國產品定ノ差違後世ノ當業者ヲ反省セシムル者少カラズ殊ニ國內ノ蠶絲ヲ上中麁ノ三級ニ區別シタルガ如キ當時生產ノ精粗ヲ知ルニ尤モ近カランカ由來該區別ノ如キ其變遷余ノ參註ヲ加ヘタル如クナレハ又タ以テ斯業ノ乾坤位地ヲ變ジタル實ニ甚シト爲ス而シテ此式ニ據リ制定セラレタル庸調ノ蠶絲絹綿及品定左ノ如シ

上絲國　伊勢、三河、近江、美濃、但馬、美作、備前、備中、備後、安藝、紀伊、阿波
以上十二國

按スルニ以上十二國ハ紀元一千五百二十四年清和天皇貞觀六年ノ當時ノ如キ絹布ノ麁悪ヲ以テ太政官ヨリ七道ニ符ヲ下シテ譴責セラル

又曰ク紀元一千五百四十七年光孝天皇仁和三年ノ如キ伊勢近江但馬備前備後紀伊阿波ノ諸國ハ貢進ノ國絹麁悪ヲ以テ譴責セラル

中絲國　伊賀、尾張、遠江、若狹、越前、加賀、能登、越後、丹波、丹後、因幡、伯耆
出雲、播磨、長門、讃岐、伊豫、土佐、筑前、筑後、肥前、肥後、豐前、豐後、日向
以上二十五國

按スルニ紀元一千五百二十四年清和天皇貞觀六年貢絹ノ麁悪ヲ以テ一般ニ譴責セラル

又曰ク紀元一千五百三十二年貞觀十四年太宰府ノ地方ハ貢進ノ絹綿麁悪ナルヲ以テ譴責セラル

又曰ク紀元一千五百四十七年光孝天皇仁和三年伊賀、尾張、越後、丹後、播磨、讃岐、伊豫、土佐ハ貢進ノ國絹麁悪ヲ以テ譴責セラル

麁絲國　駿河、甲斐、伊豆、相摸、武藏、上總、下總、常陸、信濃、上野、下野、以上
十一國

按スルニ紀元一千五百二十四年貞觀六年ノ當時貢絹ノ麁悪上中絲國ニ同シ

又曰ク紀元一千五百四十七年光孝天皇仁和三年ノ如キ譴責サレシハ伊豆ノ一國ニシテ他ハ事ナケレドモ絹綿精精ノ變遷實ニ如此

太政官ニ於テ該調進ノ物品取扱ノ制ハ其大藏絹綿絲布等ノ物ハ五倍以上臨檢シテ案記同署ス

若シ五倍以上障リアラバ先ツ障ノ由ヲ申シ然シテ六位以下判官代ル

又曰ク凡ソ出納ノ絹絲綿布ヲ檢セバ辨太夫旬毎ニ庫ニ登ツテ檢校シ若シ納ムル所ノ者狼藉アレバ出納ノ諸司ヲ勘責ス

民部省ニ於テ凡ソ諸國ノ貢調庸ハ越後、佐渡、隱岐、三國ハ明年七月ヲ限リ長門國ハ四月ヲ限リ伊豫國ハ二月ヲ限リ(但シ宇和氣多兩郡ハ三月ヲ限リ)土佐ノ國ハ二月ヲ限リテ納メ訖ハル

自餘ハ今ノ如ク其陸奥出羽兩國ハ即チ當國ニ豫ノ西海道ハ太宰府ニ納メ其出納帳ハ幷ニ正

稅帳使ニ附シ申送ラシム

又曰ク凡ソ諸國ノ調絹絁ハ國使徭夫麁惡ヲ簡ミ去リ四絲ヲ合セテ以テ一縷トナシ練染訖ラバ更ニ絡テ後ニ絢ト爲セシム

又曰ク諸國ノ調貢絁ハ六丈ノ外畏ニ足ラシム疋尺寸ヲ限ラズ

又曰ク凡ソ諸家ノ封戶各三分ニ爲ス一分ハ絁ヲ輸スルノ國二分ハ布ヲ輸スルノ國ニ充ツ

但シ伊賀、伊勢、三河、近江、美濃、越中、石見、備前、周防、長門、紀伊、阿波等ノ國ハ封ニ充ツルヲ得ズ

又曰ク凡ソ諸國交易シテ進上セシ絁絹布等ノ類ハ所司品ニ準ジテ直ヲ定メ即チ返抄ニ付テ減直ヲ塡メシム

又曰ク太宰府ハ毎年調絹三千疋貢綿使ニ附テ之ヲ進ス又夕隼人ノ調布ハ府家ノ三ヶ年ノ雜用ノ料ヲ除ノ外使ニ付テ進上セシム

又曰ク太宰府ニ收ムル所ノ調絲ハ儲ノ料五百絢ヲ除クノ外毎年貢調使ニ附テ之ヲ進ムル事トナス

交易ノ雜物

伊賀	白絹十二疋
伊勢	絹三百疋 白絹十二疋
尾張	絹百五十疋 白絹百二十疋
三河	
遠江	絹六丈八尺
武藏	絁五十疋 綿四百七十屯
加賀	絹百六十二疋
能登	絹十二疋
越中	絹百疋
丹波	白絹十二疋 赤絹五百五十疋 絲七百五十絢
丹後	絹二百五十疋 白絹十二疋
但馬	絹七百三十七疋 絲一千斤
因幡	絹二百疋 白絹十二疋
駿河	絹二百疋
上總	絁五十疋
常陸	絁一百疋
近江	白絹十二疋
美濃	絹二百疋 白絹十二疋
上野	絁五十疋
越前	絹二百六十二疋
石見	綿六百八十八屯八兩
播磨	白絹十二疋 絹三百五十疋
美作	絹四百七十五疋
備前	絹三百疋 白絹十二疋
備中	白絹十二疋
備後	白絹十二疋
安藝	白絹十二疋 絲八百絢

出雲　絹二百三十七疋四尺　長門　縑六十斤
阿波　（絹三百疋）（白絹十二疋）　紀伊　（白絲十二絢）（絹二百疋）
讃岐　白絹十疋　太宰府　絹四千疋

右ハ　凡ソ勅旨交易ノ絲幷ニ商布減直ノ者去年ノ料當年ノ使ニ附シ前年ノ料ニ充ツルヲ待ツテ乃チ後年ノ返抄ヲ放チ其運賃ハ減直ノ内ヲ用ヒ穀倉院ノ交易モ此ニ准ズ

又タ主計帳ニ於テ定メラレタル所ノ者ハ

諸國ノ輸調兩面ニ十一丁疋ヲ成（丁別ノ輸絲國郡夫ヲ以テ織リナス羅綾此ニ准ズ）

雜ノ羅　三丁疋ヲ成
三色綾　十丁疋ヲ成

一、二、三、七窠ノ綾、小花、小鸚鵡、薔薇、二花、菜花ノ綾幷ニ上絲國ハ凡テ七丁ニ疋ヲ成ス

中絲國ハ凡テ六丁ニ疋ヲ成ス（讃岐ノ國ハ五丁疋ヲ成）

麁絲國ハ凡テ五丁ニ疋ヲ成ス（相摸國三窠綾七窠綾四丁疋ヲ成）

續花綾、荒核綾、中絲國　野草綾、麁絲國幷ニ三丁疋ヲ成
大結花綾、連水綾、小車ノ牙綾、散花ノ單花綾、小蓮花ノ綾、小結ノ綾、上絲國（クレハトリ）呉服ノ綾、中絲國幷ニ三丁半疋ヲ成

絹（兩面以下各長六丈　幅一尺九寸）（參照）紀元一千三百六年孝德天皇大化二年ノ條
絁（兩面以下各長六丈　幅一尺九寸）（參照）紀元一千三百六十一年文武天皇大寶元年ノ條
紀元一千四百六十七年平城天皇大同二年ノ條

廣絹　長四丈五尺六寸　幅二尺五寸　幷ニ四丁疋ヲ成
長絹　長七尺五寸　幅一尺九寸
長幡部絁　幅一尺九寸　長六丈　幅一尺九寸　幷ニ五丁疋ヲ成
綿　細長四丈五寸　幅一尺九寸　幷ニ三丁疋ヲ成　但西海道ノ諸國長三丈九尺

上絲國四兩
絲中絲國五兩
麁絲國七兩　一丁疋ヲ成

疊綿　二帖（各三兩一分二朱ヲ帖屯ト爲）
細屯綿　二屯
綿　二屯　四兩屯ヲ成

又曰ク凡ソ諸國ノ輸庸ハ（壹岐對馬等ノ島國ハ輸セズ）上絲二匁中絲二匁中絲麁匁三分幷

リ二丁疋ヲ成綿五兩二分ヲ屯ヲ成(西海道諸國五兩屯ヲ成)

又曰ク中男人一輸スル作物絹三尺七寸五分(飛驒陸奥出羽壹岐對馬等ノ島國ハ輸セズ)

又曰ク夏ノ調ノ絲ヲ貢ル者　伊賀　三百絢　安藝　五百絢　伊勢　八百八十絢

阿波　一千五百絢　三河　二千絢(犬頭絲)　越前　一百絢

右七月三十日以前ニ納メ訖ハル

又曰ク各國輸スル所ノ者式ニ於テ豫メ定メラレシハ

伊賀、伊勢、尾張、三河、遠江、近江、美濃、若狹、越前、加賀、能登、越後、丹波、但馬、因幡、出雲、播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、紀伊、阿波、讃岐、伊豫、土佐

以上諸國絹ヲ輸ス

駿河、伊豆、甲斐、相摸、武藏、上總、下總、常陸、上野、下野

以上諸國絁ヲ輸ス

伊賀　一窠綾三疋　二窠綾一疋　數ノ內輸白絹十疋餘國准此
　　橡絲二十絢　絹　二百疋
　　練絲一百絢(國ノ徭夫ヲ以テ練染メ夫練染ル事餘皆准此

自餘絲布ヲ輸ス

伊勢　調ノ兩面十疋

一窠綾　十六疋　二窠綾　十六疋　三窠綾　十六疋

薔薇綾　四疋　綿　二百疋　白絹　百疋

白絲八百八十絢(夏調)　赤引絲　百十絢　神服絲　百絢

御調絲　二十絢

白餘絹ヲ輸ス

尾張　調ノ兩面八疋

冠ノ羅　一疋　二窠綾　二十疋　鼠跡ノ羅　一疋

三窠綾　五疋　七窠綾　三疋　綿　二百疋

薔薇綾　五疋　緋絲　四十絢　縹絲　四十絢

緣絲　四十絢　皂絲　二十絢　練絲　二百四十二絢七兩二分

自餘絹ヲ輸ス

三河

調禦羅　一疋　　藻羅　一疋　　一窠綾　十五疋
薔薇羅　五疋　　犬頭絲　二千絢（夏ノ調）
自餘白絹ヲ輸ス

遠江

調ノ綾　十三疋　　二窠綾　八疋　　三窠綾　二十疋
七窠綾二十五疋　　小鷄鵡綾二十七疋　　薔薇綾二十四疋
六瓜核　十疋　　赤瓜核綾二十疋　　吳服綾白二十疋
吳服綾赤十五疋　　御襪料白疋十二疋　　緋綾　四十疋
縹綿　十五疋　　橡綿　二十五疋
自餘絹ヲ輸ス
但山香郡調庸布ヲ輸ス

駿河

調ノ一窠綾六疋　　二窠綾　五疋　　三窠綾　四疋
小鷄鵡綾　一疋　　薔薇綾　三疋　　橡綿　十三疋
綿　百二十疋　　縹綿　八疋　　皂綿　十疋
自餘絁ヲ輸ス

甲斐

調緋綿　三十疋　　皂綿　二十五疋
絁綿　十疋　　紺綿　六十疋
自餘絁ヲ輸ス

武藏

調緋綿　十六疋　　紺綿　六十疋
橡綿二十五疋　　黃綿　百疋

自餘絁布ヲ輸ス

上總
調ノ絁　二百疋

下總
調絁　二百疋

相摸
調一寢綾　五疋　二寢綾　三疋　三寢綾　五疋
七寢綾　五疋　橡帛　十三疋　黃帛　八十疋
自餘絕布ヲ輸ス

近江

調二色綾三十疋　九點羅　二疋　白駒　十疋
緣綿　二十疋　綿　百三十疋
自餘絹ヲ輸ス

上野
調絁綿　五十疋　紺　綿　五十疋
橡綿　十三疋　絁　三百十疋

岩狹
調絹（定位未詳）

常陸
調絁綿　七十疋　黃　綿　八十疋
黃綿　百六十疋

緋纈絁　三十疋　紺　綿　七十疋
絁一千五百二十疋　長幡部絁　七疋

自餘絁ノ曝布ヲ輸ス

美濃

調白絹　十疋　　綠綿　二十疋
綿　三百疋　　長絹　百疋
自餘絹ヲ輸ス

下野

調紺綿　六十疋　　緋綿　五十疋　　廣絁　十疋
橡綿　二十五疋　　絁　二百疋　　絲　二十二絢

越前　調ノ兩回十疋　　黃綿　五十疋
九點羅　二疋　　一窠綾　三疋
白絹　十疋　　綿　百九十疋　　二窠綾　五疋
橡綿　二十疋

橡綿　二十五疋　　綠綿　二十疋　　黃綿　二十疋
絲　百絢
自餘絹ヲ輸ス

能登

調一綿綾　二疋　　吳服綾　一疋
自餘絹ヲ輸ス

丹後　調ノ兩回五疋　　白絹　十疋
二窠綾　五疋　　三窠綾　三疋　　七窠綾　三疋
薔薇綾　三疋　　小鸚鵡綾　一疋　　白絹　十疋
緋綿　二十疋
自餘絹ヲ輸ス
庸絹
標綿　二十疋

加賀

調小鸚鵡絹二疋　薔薇綾四疋　緋綿十疋
黄綿二十疋　橡綿二疋二丈　綿八十疋
白絹十疋
自餘絹ヲ輸ス

越後

調白絹十疋　絹（定位未詳）

丹波　調兩回五疋

小許春羅一疋　一窠綾七疋　二窠綾五疋
七窠綾五疋　白絹十疋　綠綿十疋
綿二百二十疋
自餘絹綿ヲ輸ス

因幡

調白絹十疋　緋綿四十疋
黄綿十疋　橡綿十二疋
綿二百疋
自餘絹ヲ輸ス

但馬

調九點羅二疋　一窠綾十三疋　縹綿十疋
薔薇綾三疋　薔薇綾四疋　皂綿十五疋
緋綿三十疋　縹綿二十疋
自餘絹綿ヲ輸ス
庸綿

伯耆

二窠綾九疋
白絹十疋
皂綿五疋

調白絹　十疋　緋綿　二十五疋
橡綿十二疋三丈　皂綿　二十疋
自餘絹ヲ輸ス

美作　緋絲　三十絢
調白絹　十疋　縹綿　二十五疋
綠絲　五絢　縹絲　五絢
黃絲　二十絢　橡絲　二十絢　綿　二百六十疋
自餘絹ヲ輸ス

出雲　緋綿二十五疋
調白絹　十疋　皂絲　五絢
纈綿　八十年　緋綿二十疋
緋絲　十五絢　橡綿十二疋三尺
皂絲　五絢
縹綿十疋
綿　百疋
綠絲　五絢

橡絲　五絢　皂絲　五絢
自餘絹絲ヲ輸ス

播磨　調ノ兩面十疋
九點羅　二疋　二窠綾　二疋
三窠綾　二疋　小鸚鵡綾　二疋
吳服綾　四疋　白絹　十疋
縹綿　十疋　皂綿　十疋
綿　百五十九疋
自餘絹ヲ輸ス

備前　一窠綾　十疋
調白絹　十疋　薔薇綾　二疋
自餘絹絲ヲ輸ス　緋綿　四十疋
橡絲　二十絢　綠綿　二十疋

中男作物ノ絹

備中

調縹綿　十五疋　緋絲　六十絢　綠絲　十絢

縹絲　十絢　黃絲　四十絢　皂絲　五絢

練絲　五十絢

自餘絹ヲ輸ス

周防

調練蕃（定位來詳）

紀伊　調ノ兩面五疋

鼠跡羅　二疋　一窠綾　四疋　二窠綾　五疋

薔薇綾　三疋　白綾　二十疋　纁綿　三十疋

綠綿　十疋　緋絲　四十五絢　縹絲　二十絢

綠絲　二十絢　黃絲　十絢　橡絲　五絢

自餘絹絲ヲ輸ス

備後

調白絹　十疋　縹絲　二十絢

自餘絹ヲ輸ス

安藝　調ノ兩面五疋

一窠綾　十七疋　三窠綾　四疋　二窠綾　四疋

薔薇綾　三疋　白絹　十疋　緋絲　四十絢

綿　四百疋　綠絲　十絢　縹絲　二十絢

橡絲　三十絢　練絲二百五十絢　絲五百絢（夏調）

自餘絹絲ヲ輸ス

○絲

讃岐　調ノ兩面五疋
二窠綾　十二疋
三窠綾　四疋
絆綿　三十疋
自餘絹ヲ輸ス

阿波　調ノ兩面五尺
一窠綾　九疋
二窠綾　五疋
縁絲　二十絢
縹絲　二十絢
自餘絹絲ヲ輸ス

七窠綾　八疋
三窠綾　五疋
縹綿　三十疋

小鸚鵡綾　八疋
白絹　十疋

四點纐　二疋
白絹　四十疋
絆絲　五十五絢
絲一千五百絢（夏調）

七窠綾　四疋
薔薇綾　四疋
皂絲　五絢
練絲二百五十絢

土佐
調絆綿　三十疋
自餘絹ヲ輸ス
太宰府

筑前
調絲　三十九絢
自餘絹ヲ輸ス

肥前
調綿紬　十八疋
自餘絹絲綿ヲ輸ス

豊前

綿紬　五疋

調綿紬　十七疋
自餘絹絲ヲ輸ス

伊豫　調ノ兩餘五疋

九點羅	二疋	三窠綾	六疋
七窠綾	八疋	小鸚鵡綾	二疋
緋綾	四疋	薔薇綾	四疋
皂綿	五疋	○○四十五疋	
白絹	十疋	○○十疋	

自餘綿絹ヲ輸ス

筑後

調綿紬　十八疋
自餘絹綿絲ヲ輸ス

肥後

調絹二千五百九十三疋　綿紬　二十五疋
自餘綿絲ヲ輸ス

豐後

調絲　四十八絢　綿紬　十七疋
自餘絹綿ヲ輸ス

附考表中夏ノ調ノ如キ已ニ前文夏調進ノ條ニ記ス所ロアリシナレモ延喜式ノ表中尚ホ本表ニ記スル所ロアルヲ以テ式ニ之ヲ擧ク然レトモ前文ニ記シテ本表ニナキ者アリト雖モ是レ其式ノ儳ナルヲ以テ余ガ取捨ト看做ス事勿レ

又曰ク主稅部ニ於テ定ムル所ロノ変易、料度、祿物、價法、織部衣粮等ハ下ノ如シ

凡ソ大和ノ國ノ変易ニシテ齊院ニ進ル所ノ四月加茂祭料ノ冠絹十五疋河内ノ白縑三十疋ハ毎年二月ニ之ヲ送レ其直正稅ヲ用ヒ幷ニ他ノ院ノ返抄ヲ以テ抄帳ニ勘會セヨ

又曰ク桑漆ノ帳ハ戶ノ數ニ卒ヒ闕アル者ハ其帳ヲ殖塡セシメヨ

（參照）紀元一千三百六十年孝德天皇大化二年ノ條
紀元一千三百六十一年文武天皇大寶元年ノ條
紀元一千三百七十二年元明天皇和銅五年ノ條
紀元一千三百七十九年元正天皇養老三年ノ條
紀元一千四百四十六年桓武天皇延曆五年ノ條
紀元一千四百六十九年平城天皇大同四年ノ條

因ニ曰フ以上參照各祭勘課ノ實アル者アルヲ以テ斯帳殯塡ノ參考ニ供スル者トス

又曰ク織綾ノ料度トシテ定ムルコト左ノ如シ

一窠綾　鷄鴈綾（二十五斤　苧小二斤　黄大六兩一分　膠大二兩
回草綾　二十一斤十兩　苧小二斤　黄大五兩一分　膠大二兩
二窠綾　七窠綾　小鷄鴈綾（十一斤　苧小二斤　黄大二兩三分　膠大六兩（餘リ雜綾准此）
薔薇綾　兩面百十斤　羅七斤八兩）苧黄幷准此幷ニ破損スル事アラズ先ヅ經年ヲ撿テ乃チ造リ換ヲ聽ク國司舊綜ノ中ヲ撿校シテ若シ全纔アラバ新綜ニ交セ用ヒヨ

又曰ク諸國綾一疋ヲ織成スルニ日子ノ標準單切、一窠二窠四十日雜ノ綾羅、三十四日兩

面、三十日

又曰ク其織手ニ食ヲ給スルニ當リテハ一日ニ米二舛、鹽二勺手力ニ米一舛五合、鹽五勺トス

又曰ク祿物價法トシテハ絹一疋（稻三十束）絲一絢（稻六束）綿一屯（稻三束）トシ而シテ之ヲ國別スレバ

幾內ノ諸國、絹五十束、絲八束、綿四束、
伊賀　伊勢、志摩、相摸絹六十束、絲十束、綿六束
尾張、三河絲八束、若狹絲八束
遠江絹八十束越中絹七十束
駿河絹八十束絲八束越後、佐渡絹七十束綿八束
伊豆絲八束中斐、絹八十束絲八束
武藏　上總）絹八十束　丹波丹後但馬伯耆）絹五十五束
安房　下總）綿八束　播磨美作備前備後）絲　八束
常陸　周防長門淡路

信濃絹九十束綿八束　上野絹九十束綿八束
下野絹九十束綿八束　陸奥絹百六十束綿十三束
出羽（絹百五十束綿十五束　備中絹五十五束絹五十五束絹八束
絲　十五束　安藝絹五十五束絹八束
出雲石見）（絹五十五束絲八束　紀伊絹五十五束絲八束
隱岐）
土佐絹五十五束　太宰府及管內絹八十束絲十束綿六束
又曰ク織部ニ於テ織手ノ衣粮ヲ定ム　黑米二舛
織手共進機工三十五人　各給粮日々　間食四合
薄物機織手　五人　白米一升六合
絡絲女　三人　米一升五合

并ニ夏冬ノ時服ハ省ニ申シテ請ヒ受ケ其レ良男十人女二十人カ衣粮ハ本寮ヲ經ズ所司ニ受ケヨ

當時九州ニ於テモ絹絁ヲ產ス紀元一千五百七十四年延喜十四年善淸行意見封事曰ク臣伏

シテ貞觀元慶ノ代ヲ見ルニ親王公卿皆生ノ筑紫絹ヲ以ヲ夏ノ汗衫ト爲シ曝絁ヲ以テ表袴ト爲シ東絁ヲ韈ト爲ス（本朝文粹）ト云フヲ以テ知ル

（參照）紀元一千五百三十二年淸和天皇貞觀十四年ノ條ニ曰ク太宰府輸ス所ノ絹綿龜惡殊ニ甚シ

紀元一千五百四十七年光孝天皇仁和三年調國ノ貢絹龜惡ヲ譴責スルノ條ニ於テ太宰府一圓ノ條ヲ見ズ蓋シ品質上好ニ趣シ者ナル可シ

上文醍醐天皇延喜式ノ中中絲ノ條參看セヨ蓋シ絹綿良々昔日ノ不名譽ヲ挽回シタル者乎

紀元一千五百九十四年朱雀天皇承平四年左辨官左右京職ニ下ス京內ノ庶人以上ヲシテ桑樹ヲ播殖セシム可キ事右ハ左大臣宣ス生民ノ要素ハ織紝ヲ本トナス家給キ人足ル事誠ニ此道ニ憑ル而ルニ近代ノ民俗栽桑ヲ勸メズ養蠶已ニ乏シク坐ナガラ苦寒ヲ受ク斯ニ因ツテ播殖ノ狀ヲ諸國ニ下知シ既ニ了ル京內ニ仰デ同シク種樹セシム可シト云ヘリ兩職承知シテ宜ニ從ツテ之ヲ行ヘ仍ツテ每條牒示シ兼テ保長ニ命ジ所部ヲ卒勵シ豐殖ヲ致サシメ官人巡檢ノ日ヲ以テ數々勸課ヲ加ヘ使ヲ遣ハシテ覆實ニスベシ若シ懈惰アラバ保長ヲ科責シ兼テ職吏ヲ罪セヨ事濟民ニ據ル違失ス可ラズ（日本紀略政事要略）

案スルニ京都ノ庶民以上ニ蠶桑ヲ勸メサス是ニ始マル然レトモ其昔ヨリ已ニ行ハレツヽ在リシハ疑ナシト雖モ其庶人以上ヲシテ桑樹ヲ播殖セシメシハ矢嬬ナラン

紀元一千六百八年後村上天皇天曆元年太政官符ヲ東海東山北陸山陽山陰南海ノ國司ニ下シ調庸ハ期ニ合ヒ進物ハ兼テ精好ナラシム可キ事曰ク因幡但馬ノ國僅カニ土產ヲ貢ルニ蠶繭ノ縷ニ依ラズ野草ノ皮ヲ交ゼ織リ徒ラニ貢進ノ名アッテ公私ノ用ニ中ラズ惣テ是レ牧宰督察ヲ加ヘザルノ致ス所ナリ

（參照）紀元一千四百六十七年平城天皇大同ニ年ノ條

紀元一千五百二十四年清和天皇貞觀六年ノ條

紀元一千五百三十二年清和天皇貞觀十四年ノ條

紀元一千五百四十七年光孝天皇仁和三年ノ條

醍醐天皇延喜式產品位別ノ條

按スルニ延喜式撰定ノ當時但馬ハ上絲國ニ因幡ハ中絲國ニ位シタルヲ見レバ絹綿絲品精好ナリシ者ナラン然レトモ將門等天慶ノ亂ヲ起シテヨリ天下騷然百事弛廢セシ者ナル可シ

延喜式中大藏式ニ曰ク又ソ諸國所進ノ調庸ノ物粗惡短狹及ビ缺乏等ニ緣テ若シ買換フル事アラバ撿納ノ日便チ省ノ印ヲ捺セ

又曰ク醍醐天皇政官制ノ條

紀元一千六百十二年村上天皇天曆六年左右京職ニ仰セテ嚴刑ヲ加ヘ桑樹ヲ殖ヘシム（政事要略）

（參照）紀元一千四百六十七年平城天皇大同二年ノ條

按スルニ從來嚴責ヲ加ヘテ諸國ニ桑樹ヲ殖ヘシメン等ハ其恒例トナリタル者ナレトモ左右ノ京職ニ命シテ殖ヘシメタルハ紀元一千五百九十四年朱雀天皇承平四年ニ始マリシ者ナラン

紀元一千六百二十三年村上天皇應和三年閏十二月太宰府ノ貢レル絹綿頃年空シキ解文ヲ上リ更ニ爲實ナク或ハ代物ヲ貢リテ巧ミニ返抄ヲ請フテ例ノ如クナルヲ以テ節會ノ祿モ稀有ニ趣キタレハ太政官符ヲ下シテ之ヲ責ム（政事要略）

傳フ紀元一千六百四十九年一條天皇永祚元年尾張國守藤原元命國政ヲ失シ濫行橫法至ラサルナシ是ニ於テ郡司百姓等ハ藤原元命三箇年內責取ル非法ノ官物幷ニ濫行橫法三十一箇條

ノ愁狀ヲ裁斷セラレン事ヲ官裁ヲ申請シ國司ノ交迭ヲ望ム其文ニ曰ク（官裁申請ノ解文中蠶桑ニ係ル而已ヲ擧グ）

……（上畧）毎年四五ノ兩月農時入部雜使等ヲ分チテ其勘責ニ云フ先ノ給例交易雜爲直稻穀早ク舂進ス可キ者郡司百姓忽チ爲方ヲ失ヒ辨濟ニ堪ヘ難ク仍ツテ濡種子ヲ舂運シテ官庫ニ辨濟ス其間農夫鋤ヲ拋チ耕作ノ事ヲ嬾ク蠶婦桑ヲ忘レ繭絲ノ業ヲ倦ム豈ニ百姓ノ難ニ非ルカ還ツテ貢朝ノ備ヲ闕ク望ムラクハ官裁ヲ請ヒ元命朝臣ヲ停止シ良吏ヲ拜任セラレン事ヲ

（又曰ク）……（上略）抑モ件ノ率分加徵ノ官物或ハ舂運セシム來色或ハ交易ノ絹布糸綿漆畑等ヲ充貢セシメ充直絹ハ四別四五十束手作布八束以上信濃布五六束以下糸綿其他ノ直幾ナラズ徵使ニ責メ取ラレ土毛供給物本物ニ過グ五六倍アリ仍ツテ有堪ノ輩ハ歎シ乍ラ辯濟不勘ノ民ハ跡ヲ削シテ逃亡ス亦タ國庫ニ進納ノ日目代等副物ト稱シ疋別絹二尺二寸絹上品三十束以下中下品ト致ス者尤モ尠シ返負スル所減直已ニ以テ巨多ナリ（下略）

又曰ク進ムル所ノ調絹減直幷精好生絲（ス、シノイト）ノ事

……（上略）亦精好生絲ニ至リテハ當國ノ美絲ヲ責メ取リ私用ノ綾羅ヲ織リ他國ノ麁絲ヲ

買ヒ貢官ノ例進ニ備フ抑モ蠶養ノ業進退更ニ心ニ任セス或ハ國吏蠶養ヲ得セシメ年穀ヲ登セズ或ハ國宰年穀ヲ登セシメ當任守元命共ニ不可也是只タ絹ノ減直糸ノ精好致ス所乎

（中略）……所謂國ヲ傾ケ讐人ヲ害スルノ蠶豈ニ斯ニ過ン哉

又曰ク交易ト號シテ誣取ル絹、手作布、信濃布、麻布、油、苫綿等ノ事

右交易雜物等絹ニ於ル者納官年料ハ限リアリ然ルニ國内加徵スル所ロ數千匹ニ及ブ即チ五月中旬ヨリ九月ノ内ヲ以テシ進メシメ取ル所ノ絹ノ直四五十束手作布八束以上自雜雜物幾ナラズ又タ減収殘減直ト稱シ本ヲ加ヘテ結絹布直ヲ宛ツ……（中略）先祖ノ永財ヲ沽却シ子孫ノ存命ヲ減シ夫妻ノ衣裳ヲ賣代シ愛子ノ寒温ヲ失ス等凡ソ一身貪利ニ依リテ遂ニ百姓ノ世途ヲ絶ツ云云（下略）

又曰ク元命三ヶ年間毎月借絹ト號シ諸郡ヨリ誣ヒ取ル絹千二百十二疋幷ニ使ノ副取上毛事

布絹等八箇等郡ノ内三年ノ間或ハ借絹ト號シ或ハ見交易ト稱ヘ責取ル所ナリ但シ件ノ絹或月一二度毎月其數ヲ計リ上件ノ如ク其直準顯疋別四十束以上僅ニ到官ノ返抄ヲ有スル三分ノ一ナリ然リ而シテ其直今ニ下行セズ抑件絹ハ更ニ以テ堪ヘ難ク因之隣國ニ買求ノ

間直米上品六石以下中下品五石以上其弊ヲ知リナガラニシテ減納スル所ナリ……(下略)
又曰ク御調絹ノ句法符ヲ放タズ五六日ヲ隔テ、以下原本ノマヽ「面々使之内ニ勘後事」
右御調絹進ノ例ヲ定メ六月上旬ヨリ九月下旬迄ニ究メテ辨ス是レ則チ前例ヲ承クルナリ
而ルニ旬法ノ符ヲ放タズ忽チ不善ノ使ヲ入レ五月中旬ヨリ未タ經機ヲ儲備セザルノ間勘
責尤モ甚シ(下略)
又曰ク……(上畧)供給調貢ノ外一日ノ料トシテ徵收スル所ロ或郡一二疋……(中略)……
……(中畧)……收納使等子姪部等有官散位爰ニ配符ヲ受テ入部ノ日先ツ行フ所ロノ有
樣已ニ以往ノ例ニ背キ郡司ノ手ヨリ鄕分ノ絹ト號シ取ル所ノ絹一鄕五六匹ナリ但シ一郡
在ル所ロ六七鄕漸ク其所得ヲ計リ動モスレハ四五十匹ニ及ブ亦田堵五六人ノ手ヨリ取ル
所ノ絹三四疋又一二匹一鄕注スル所ノ田堵僅ニ四五十人ナリ各輸ス所ヲ計ルニ數ハ百疋
ニ及ブナリ(下略)(尾張國郡司百姓等解文)(史料通信叢誌ニ據ル)
(參照 紀元一千四百四十年桓武天皇延曆三年ノ條
按スルニ此解文ノ實狀千古來未曾有ノ暴狀ニシテ蠶繭ニ關スルモノ未タ盡サスト雖モ略
ホ上文ノ如シ是等解文ノ全部ヲ實陳スル事アラバ聞ク者戰慄ノ思ヲ爲サヽル者ナシ國司

當事者政令ノ亂レタル今日ノ如キハナシ解文ノ末尾ニ曰ク元命ガ京ヨリ下旬ノ時引卒ス
ルノ奸臣五位一人天文權博士、惟宗、是邦內舍二人橘理信、藤原重規、藤原孝廉、藤原
朝佐、大原弘春、良峰松林、伊兼正ナリシト
因ニ曰フ文中三箇年ヲ稱スルハ紀元一千六百四十六年花園天皇寬和二年ヨリ永祚二年ニ
至ルヲ曰フ
紀元一千六百八十三年後一條天皇治安三年高田ノ牧ノ年貢ヲ進ル絹五十疋米七十石又タ牧
司妙忠別進ノ唐綾其他ノ者ヲ進ル(小右記)
因ニ曰フ高田ノ牧其所在詳ナラズ或ハ曰フ武藏國高田ノ牧ヲ指スト按ズルニ當時牧ノ年
貢馬ヲ貢ラズシテ絹米ノ如キ者ヲ進リシ者ナル可シ
紀元一千六百八十四年万壽元年八月高田ノ牧ノ年貢ノ絹五十疋及ビ米七十石ヲ進ル牧司妙
忠絹五疋米十石ト其他ノ者ヲ進ツル(小右記)
(參照)紀元一千六百八十三年治安三年ノ條
紀元一千七百三十年後三條天皇延久二年二月絹ノ兩數ヲ定ム疋別ニ三兩二分麁絲ノ國ハ四
兩トス□□□年ノ例ナリ又布法ハ近代所見ナシト雖モ自ラ定制アリ尤モ精好スベキ事(扶

葉略記）

因ニ曰フ□□□年ノ例ナリ云云文字欠損シテ分明ナラス

紀元一千八百四十七年後鳥羽天皇ノ文治二年後白河法皇議奏公卿及左大臣藤原經宗内大臣藤原良通及ビ守覺法親王前太政大臣忠雅師長等二十三人ヲシテ各意見ヲ上ラシム詔シテ曰ク朕帝位ヲ進ルト雖モ猶ホ朝政ニ諮詢シテ天下ノ太平ヲ日ニ思ハザルハ靡シ然ルニ七八年來于戈屢々起リ諸國諸司課役ヲ專ニス是ニ依テ人ハ軍旅ニ苦ミ民ハ農桑ヲ忘レ神事佛事多ク以テ闕乏ス（下略）

右玉海ヲ參照セリ

（參照）紀元一千七百九十五年崇德天皇保延元年式部大輔藤原敦光勘文ヲ奉ル其三ニ曰ク奢侈ヲ禁ス可キ事右ハ彼ノ漆器書鏡猶其ノ奢ヲ議ス葛衣菲食長ク其儉ヲ傳フ方今天下庶人ノ屋宅衣服已ニ制度ニ輸ユ軒騎僮僕多ク規摸ニ過ク頻ニ禁過ヲ加フレモド悔改セズ鄙語ニ曰ク城中大袖ヲ好メバ四方疋綿ヲ用ヒ城中廣眉ヲ好メバ四方且ツ半額ナリ世ノ好ム所ロ只ダ時俗ニ從フ況ンヤ復タ金銀ノ珍ハ彫鏤一ニアラズ紅紫ノ色着用甚タ多シ宜シク綸言ニ依リテ色々ノ華麗ヲ停メン（續本朝文粹）

按スルニ保延年間一般ニ風俗奢侈ニ流レ庶民屋宅衣服共ニ其度ニ輸ヘタルヲ見レハ農桑稍々盛ナラザレハ原料ノ得ベキ道ナケレ今文治年間ニ至ツテハ干戈ノ爲メニ其農桑ヲ忘レタル者ノ如シ

紀元一千八百四十九年文治五年因前司元大江廣元賴朝ノ使節トシテ上洛シ綿十兩ヲ仙洞ニ進ル是レ駿河國富士郡ノ濟物ナリ（東濫）

紀元一千八百五十二年建久三年神宮御厨ノ料武藏國大河戸ノ田八百町其國ヨリ出ツル絹百十三疋ナリシヲ本田別ニ二疋四丈ト定ム

紀元一千八百五十四年建久五年鎌倉（相摸國）ヨリ紫絹、染絹、綿、其他ノ者雜色之ヲ具シテ上洛ス（東濫）

紀元一千八百五十五年建久六年賴朝相摸武藏兩國所濟ノ絁綿等ヲ京都ニ進ゼラル新藤二郎俊長之ヲ相具ス（東濫）

又曰ク賴朝ハ駿河國富士郡ノ濟物綿千兩ヲ京都ニ進ゼラル常清時澤等ヲ以テ使ト爲ス（東濫）

因ニ曰フ綿ハ大斤ヲ用ニ大斤一兩ハ今ノ十一匁二分五厘ナリ千兩ハ即チ十貫百二十匁

（參照）醍醐天皇延喜式ノ當時駿河ハ麁絲國ニシテ調庸ヲ按ズルニ交易ノ雜物トシテ駿河ノ絹、絁、及ビ綿（染綿モ加フ）色綾等ナリ祿物加法ノ條ヲ按スレバ稻八束（東ハ稻ヲ以テ假稱ス）トアリ今時ハ綿ハ濟物トナス是レ綿ノ產出ニ據ルカ後文寬元年間ノ條參照スヘシ

紀元一千八百五十九年土御門天皇正治元年賴朝ノ子賴家ノ命ズル所ニ從ツテ兵庫頭廣元之ヲ奉行シ東國ノ地頭ニ仰セ行ハシムト曰ク近年兵亂打チ次ギ庶民手足ヲ措クニ處ナシ之ニ因ツテ農桑ノ營ニ怠リ田畠多ク荒蕪ニ及ブ今既ニ天下太平ノ時ニ至リ百姓安堵ノ地ニ栖息スト雖モ今ニ於テハ要水便宜ノ所ニ新田ヲ開作スヘシ凡ソ荒地不作ノ所ト稱シ年貢止稅ヲ減少セシカド爾後許サズ具サニ沙汰ヲ遂グ可シ

去ル壽永ノ喪亂ニ當ツテハ軍兵橫行シ居民ヲ追捕セシカバ爲メニ山野ニ逃亡シ農桑ノ時ヲ失ヒ饑凍ノ歎ニ沈ミ溝瀆ニ倒レテ死亡スル者數ヲ知ラズ然ルヲ今ハ歸住シテ耕牧ヲ務ムト雖モ賦歛ヲ重クシ公役ヲ繁クス剩ヘ暴戾ノ目代ハ年貢ノ責ムルガ故ニ價ヲ半ニシテ雜具ヲ依リ資財ナキ者ハ倍息ノ利銀ヲ借リ或ハ田宅ヲ壞チ子女ヲ販キ償フ若シ辨濟スル事能ハザレハ妻子ヲ捕ヘテ裸ニシ荊ノ中ニ伏サシメ農夫ヲ縛リテハ氷ヲ履マシム或ハ牢屋ニ繫デ水

食ヲ停メ或ハ井池ニ浸シテ寒風ニ侵サシメ何レモ定メタル限ノ正稅ヲ肯カハシムト云フ（東鑑北條九代記）

紀元一千八百六十一年建仁元年常陸國吉田社領所頭ヨリ米ニ代納セシ精好ナリシト雖モ比年上品准絹トモ粗惡ニ流レタルヲ以テ舊樣ニ復シ品每ニ印文ヲ添ヘシム（東鑑）

（參照）醍醐天皇延喜式ヲ按スルニ常陸ハ元ト是レ麁絲國ナリ

紀元一千六百六年村上天皇天曆元年ノ條

紀元一千八百七十年順德天皇承久三年京師亂アリ爾來織部司漸ク衰フ絹ヲ製スル事甚タ稀ク諸國ニ於テ絹絁ヲ製シ產物トスルハ丹後加賀尾張等ノ數國ニ過キズト云ヘリ（西陳織物沿革提要）

紀元一千八百九十九年四條天皇曆仁二年此頃已ニ奧州白河附近ニ於テハ產出ノ絹布荒ミタル者ナラン乎即チ白河關ノ故事ニ是年正月十一日陸奧ノ國ノ郡鄕所當ノ事沙汰アリ之レ準布ノ沙汰人百姓等私シニ本進ノソナヘヲ忘レ錢貨ヲ好ミ所濟ノ物年ヲ追フテ不法ノ申聞ヘアルニ依ツテ白河ノ關ヨリ東ハ下向ノ輩ノ所持ニ於テハ禁制ニ及ハズ又絹布麁惡甚イソレナシ本ノ樣辨濟セシムベキ旨定メラルト

紀元一千九百三年乃至一千九百六年後嵯峨天皇寛元年間駿河國富士郡ヨリ絹綿ヲ産スト傳フ

（考證）爲家卿ノ歌ニ「駿河なる富士のくゐこの新綿は高嶺の雪の色に似るらん」（新撰六帖）

按ズルニ雪ノ如ク白キ綿ヲ賞シテノ事ナラン

（參照）紀元一千八百四十九年文治五年ノ條

紀元一千八百五十五年建久六年ノ條

紀元一千九百二十四年龜山天皇文永元年評定司等議シテ曰ク諸國ノ守護等ニ令シ夏三ヶ月ノ間ハ農桑ノ宗トアル時ナルガ故私ニ之ヲ使フ可ラズ但シ領主等田畠蠶食ニ作ル事ハ先例ノ役法ナレバ今更相違アルベカラス又タ百姓出ス可キ臨時所濟ノ事限リアル所當ノ外臨時ニ徴シ下ス事ハ永ク之ヲ停止スベシ以前ノ兩條此旨ヲ存シ其國ノ御家人等ニ觸レシム可シ（式目新編追加）

紀元一千九百九十一年乃至九十三年即チ後醍醐天皇元弘年中畠畝桑ヲ植ヘ蠶食スル者ヨリ年貢ノ外加把ヲ課ス且毎年實驗ノ節敢テ自由ノ依怙ヲ存ス可ラズト爲ス（庭訓往來、庭訓往

來證註大成）

又曰ク市町ハ辻子小路ヲ通ジ見世棚ヲ構ヘシメ絹布ノ類其他賣買ノ便リ有ル樣取リ計ハシム（庭訓往來）

（參照）市ハ聖德太子御在世ノ時大和國三輪ノ卿ニシテ市ヲタテ始メ給フ（舊抄）（庭訓往來證註大成ニ據ル）

按スルニ是レ市ヲ設ケテ賣買ノ便ヲ設ケシメタル者乎尙當時ノ産出トシテ記スル所ハ綾　大舍人　大舍人ハ舊抄ニ曰ク所ノ名ナリ昔シ大舍人ノ居タル處ナリ（庭訓往來證註大成ニ據ル）

練貫　大津　近江ノ國ナル可シ

絹　大宮　按ズルニ武藏國大宮ノ卿ヨリ出ヅル乎延喜式ノ條參照

絹　加賀　延喜式ノ條參照

精好　丹後　絹ノ宜シキナリ庭訓往來證註大成及び延喜式參照

上品　美濃　上品ハ良キ絹ナリ上品ハ所ノ名ナリ（庭訓往來證註大成）且ツ延喜式參照延喜式

八丈　尾張　八丈ハ良キ絹ナリ元ト伊豆國八丈島ヨリ出ヅルナリ是ヲ摸似シテ織ルガ故ニ此名アリト（紀元二千四百十三年ノ條）參照

紬　常陸　參照延喜式

綿　上野　參照延喜式

（參照　交易賣買ノ利潤ハ四條五條ノ辻ニ超過セリ云云

按ズルニ各處ノ賣買取引ハ四條五條ノ辻市ヨリ利潤アル事ナルベシ

紀元二千九年北朝皇明天皇貞和五年二月尾張國妙興寺領ノ田畠十六町九反三百歩ニ濟物ノ絲七十兩綿五十兩絲一疋四丈五百八斗一升六合ヲ輸サシメタリ（日本租稅志ニ妙興寺ノ古文書トアリタリ）

又曰ク正平年間大內義弘織業ヲ周防ノ國ニ起サント欲シ京師ノ職工ヲ山口ニ招キ以テ絲紬ヲ織ラシム周防ニ於テ絹紬ヲ織ル並ニ始マル（西陣織物沿革提要ニ據ル）

紀元二千三百四十四年後龜山天皇文中三年（北朝應安七年）三個條ヲ仰セ下サル曰ク國ハ民ヲ以テ基トナス民ハ農ヲ以テ天トナス各池溝堰堤ノ勉ヲ勵ミ宜シク稻穀絲紬ノ備ヲ致ス可シ（室町日記）

按スルニ紀元一千九百二十四年來修史ス可キ事蹟稀ニシテ只タ當該地物產ノ次第ヲ以テ聊カ現業ヲト定スルニ足ル而已時人或ハ當時元弘建武ノ如キ戰亂血ヲ流シタルノ餘響斯業ノ廢シタルカ如ク傳說スト雖モ一且之カ鎭制スル足利政府ノ如キ驕奢世ヲ掩フタルモノ裏面ヨリ觀察スレハ又全ク其事蹟ノ廢シタルニモ非ル可シ

今文正年代記ノ物色スル所ロニ依レバ紀元二千百十四年後花園天皇享德三年八月京師ニ盜賊起ル鐘ヲ鳴ラシ德政ヲ私唱シ日夜暴橫シテ復タ避匿セス庶民ハ困窮シ無賴ノ徒ハ競ツテ之ニ從ヒ庶民ノ困弊一方ナラス加之連年凶荒シテ兵亂滋々起リ是ニ於テ德政ヲ儆行シ民ノ窘蹙殊ニ甚シ之ニ反シテ將士ハ驕奢シテ居服制ナク競ツテ驕奢ヲ勉ム高賈估客ト雖モ往々綾羅ヲ衣トシ紅紫ヲ被ムル天下華靡ノ習ヒ極マル云云（日件錄文正年代記）

又曰ク紀元二千百二十年後花園天皇寬正元年二月頻旱シ又風水ノ災アリ加フルニ兵役ヲ以テ天下凶荒シ道殣相藉ス而ルニ是利義政奢侈ヲ好ミ遊飮自如タリ新ニ花第ヲ造リ大ニ土木ヲ起シ奇樹惟石ヲ車載ス人民役ニ苦メリ　畏クモ陛下御製ノ詩ヲ賜テ曰ク

殘民爭採首陽薇　處々閉爐鎖竹扉（レニ）
詩興吟酸春二月　滿城紅綠爲誰肥（レ）

ト是レ窮民貧盡テ人烟少ナク感興ノ詩ヲ吟スルモ故ナキニ非ズ蓋シ義政驕奢ヲ爲スヲ諷

シタルノ　聖慮ニ在リ（大日本農史ニ據ル）

然レハ例令徵スルニ材料ナキ蠶業ノ事蹟モ時ノ風俗ヨリ考證シ來レハ亦タ其跡ヲ絕ツニ至ラザリシ者ナランカ尙ホ能ク考フ可シ傳フ

紀元二千〇四十五六年以降即チ後龜山天皇元中年間織工和泉ノ堺ニ機工ヲ開キ盛ニ錦綾ヲ織ル而シテ當時專ラ絹絕ヲ織リ出シテ產物トスルハ加賀丹後上野等ノ數國ニ過ギズト云フ（西陳織物沿革提要ニ據ル）

紀元二千百二十七年後土御門天皇應仁元年足利義政政ニ倦ミ奢移ヲ事トス當時山名宗全細川勝元亂ヲ起ス京師堀川以西百々橋附近ニ山名宗全陣ヲ作シ小川以東犬追馬場附近ニ細川勝元陣ヲ作ル兩陣對峙戰爭止ム事ナク第宅家屋悉ク兵燹ニ罹リ干戈戢マス四民居ニ安ズル暇ナク京師織工等ニ至ル迄業ヲ收メ手ヲ束ヌ命ヲ守ルニ夙々タル而已其後數年ヲ經由シ紀元二千百三十三年文明五年宗全勝元病ヲ以テ卒シ同九年ニ至リ西陣初メテ解ク亂平グノ後織工等ハ居キ白雲ノ原野ニ占ム新在家ト云ヒ又タ白雲村ト云フ僅ニ絹綿ヲ織成シテ朝野ノ用途ニ宛ツ人是ヲ新在家ノ絹綿ト云ヘリ

因ニ曰フ新在家ハ素ト皇城ノ在リシ城內ノ地ニシテ應仁以降荒廢シテ原野トナル今マ織

工等ノ移ルニ及ンテ村落トナリ工織ノ業地トナル即チ今ノ新町ノ北頭今出川通ノ北近傍ノ地ナリト云フ

又タ傳フ今マ京都ニ西陣ノ名ノ遺存スル所以ノ者ハ文明九年西陣ノ解ケタルヨリ此地ヲ西陣ト稱シ此地ヨリ產出スル織物ナルヲ以テ名ヲ織物ニ遺スニ至リ因襲ノ久シキ遂ニ西陣織物ノ總號トナルニ至レルト云フ

紀元二千百七十三年後柏原天皇永正十年京師ノ織職大舍人練貫相互爭論ヲ以テ訴フル所アリ是レ先キニ大舍人方織機七臺被官仁俣太良カ押置スル所トナリタルヲ以テナリ即チ美濃守藤原朝臣近江守三善ハ上意ヲ大內京太夫ニ執達シテ速ニ處分セシム其文左ノ如シ

大舍人方練貫方ト相論ノ事訴論ノ旨ヲ閣クニ近年ノ如ク兩方其沙汰可致之段仰付ラレ訖ンヌ然ルニ大舍人方機七ッ被官仁俣太良押置ク云云早ク本主ニ返シ渡ス可クノ旨下知致ス可ク遲怠アル可ラスノ由仰下サル所ナリ仍執達如件

永正十年十二月十九日　　暑名

當時京師綾織物ノ類地位筋目ヲ以テ織成スベキ法度ニシテ大舍人方座中ハ則チ之ガ當職ナリシニ頃年此規ヲ脫シ徃々織成ノ輩アリ於是上意ヲ美濃守藤原朝臣江近守三善ノ朝臣ニ傳

ヘテ左ノ如ク下知セシム

綾織物ノ類厚板ト號シ物事練緯方織手之ヲ織ル可ラザル旨仰付ラレ訖ハヌレハ早ク彼等非分ノ儀ヲ止メ大舍人方座中ノ衆ヲシテ綾織物ノ類ヲ守リ織ル可キノ由仰下サル所ナリ仍テ下知如件

永正十一年四月九日　　連署書判

先是大舍人座中ハ屢々練緯方ニ向ツテ綾織物織成ノ非分ナル事ヲ談スル所ロアリシニ更ニ用キル者ナキヲ以テ是年五月子細ヲ左ノ如ク言上セリ

右子細ハ先度御下知成シ下サレ候間忝ク奉存候御下知ノ旨ニ任セ非分ノ輩ヲ停主仕ル可ク度々相觸候ト雖モ今日ニ至リ未タ一人モ停止仕ラズ候剩ヘ大舍人座中ニ於テハ筋隔子職タリト雖モ御下知ニ應シ謹勤忍仕候非分ノ輩ヲ停止セラレ御下知ヲ違背申シ殊ニ薄板物ト號シ筋隔子御下知ヲ始メ申請恣ニ綾織物ヲ仕候其科ヲ以テ先々ノ如ク筋隔子以下仰付ラレ候者ハ彌忝ク畏リ存ス可ク者也

永正十一年五月

紀元二千百八十一年後柏原天皇大永元年春二月相摸ノ國三浦ノ農某武藏國熊谷ニ至ルニ西

國ノ商草綿ノ種子ヲ持チ來ツテ賣ル某某之ヲ買ツテ三浦ニ殖ヘ始メテ利ヲ得タリ近傍ノ者翌年熊谷ニ至リ西國ノ商賈來ルヲ竢ツテ種子ヲ買ヒ各々之ヲ殖エ培養スル事四五年ニシテ三浦ニ木綿繁殖ス時人之ヲ三浦木綿ト云フ（大日本農史ニ據ル）

（參照）紀元一千四百五十九年桓武天皇延曆十八年ノ條

紀元二千二百七年後奈良天皇天文十六年攝津國連年朝貢ヲ怠リシヲ以テ之ヲ督責シタリ然ルニ百姓京師ニ至リ哀訴シテ曰ク軍兵田園ヲ蹂躙シテ農業ノ害ヲ妨ク稻麥桑麻綿等ノ作物荒蕪ヲ極メ其收穫十年以前ニ比スレハ僅ニ三分ノ一ニ過キス是ヲ以テ朝貢ヲ怠リ之ヲ辨濟スヘキ者ナシ請フ大仁ヲ屬セラレン事ヲ若シ聽サレズンバ悉ク家屋ヲ輸シテ他國ニ逃ルヘシノ外道ナシ云云（蠶業汎論ニ據ル）

紀元二千二百十二年天文二十一年豐後國大友義鎭父義鑑ノ古法ニ新政ヲ加ヘ政道十九個條ヲ定メ置レ申ス曰ク

一綾羅綿繡ヲ纏ヒ或ハ居所至ツテ美麗ナルハ非古法堅ク禁止ノ事飮食ヲ菲クン衣服ヲ惡フシ宮室ヲ卑フスルハ是往聖ノ格言ナリ（　　增補大友興廢記）

紀元二千二百三十一年正親町天皇元龜二年上意ヲ信濃守神宿禰右馬之助三善ニ傳ヘテ京師

高機織屋ニ制ス是レ非分ノ輩高機織成ヲ爲スヲ以ノ故ナリ蓋シ曩キニ永正十一年ノ上意ニ於ケルガ如ク綾織物類ハ已ニ全ク大舍人座中三十一人特許セラレタル者ナルニ頃年其規ヲ脫スル輩ノ現レタルガ故殊ニ制シテ當職ヲ保護ス其文ニ曰ク

一當職ノ事萬松院殿ノ御代奉書ノ旨ニ任セ非分ノ輩之ヲ織ルニ於テハ聖人トシテ成敗ヲ加ヘ猶當座ノ法度ニ背ク輩有ラハ罪科ニ處セラル可ク次ニ機別出錢ノ事ハ先々下知タル可ク筋目更ニ相違有ル可ラサルノ上ハ大舍人座中各存知セシムルノ由仰下サル所ナリ仍テ下知如件

元龜二年三月二十九日　　署名書判

紀元二千二百四十八年後陽成天皇天正十六年豊臣秀吉京師白雲村ノ織工ヲ今ノ新在家ニ移シ以テ絹綿ヲ織ラシム蓋シ白雲村ノ地ハ井水宜カラザルヲ以テナリ

傳フ其當時支那ノ織工和泉國堺ニ來リ明様ノ好絹及紬絹ヲ織リ且法ヲ所在職工ニ傳フ京師ノ織工モ又タ之ニ倣ヒ爾來京師ノ職業益々盛大ヲ致ス

紀元二千二百五十八年後陽成天皇慶長三年朝鮮ヨリ還ル者始メテ木綿ノ種ヲ傳フ民稍々其利ヲ知リ藝ルニ良田ヲ以テス既ニシテ天下ニ遍シ民之ヲ便トス（逸史）

按スルニ逸史ノ記者未タ本邦ニ業ニ已ニ木綿ニ殖ヘ在リシヲ知ラサリシ者乎近クハ紀元二千二百五十六年慶長元年長曾我部元親百箇條中ニ布木綿ハ善惡ニ依ラス大工金四尺五寸尋トシテ七尋タル可シ云云ヲ見テ知ル可シ

又曰ク紀元一千四百五十九年桓武天皇延曆十八年ノ條

又曰ク紀元二千百八十一年後柏原天皇大永元年ノ條

又曰ク「敷島のやまとには有らぬから人の殖てし綿の種はたへにき」トハ是レ紀元一千九百三年乃至一千六百年後嵯峨天皇ノ朝寛元年間ノ著ニ係ル新撰六帖ニ衣笠内大臣ノ詠トアルヲ見レハ或ハ一時絶ユル迄ニ衰ヘシ壹ナラン然レトモ玆ニ慶長三年朝鮮ヨリ渡來セル者ガ持續シ得タリトナスハ誤リナル可シ

紀元二千二百六十二年慶長七年一商船漂テ肥前國長崎ニ入ル多ク生絲ヲ搭載スルヲ以テ之ヲ購ントスレトモ當時戰亂ノ餘之ヲ購フ者ナク手ヲ空フスル二年屢々長崎奉行小笠原一庵ニ哀訴シ部下ノ商人ヲシテ買取ノ事ヲ以テス紀元二千三百六十四年慶長九年一庵伏見ニ德川家康ニ謁シ其情ヲ具陳ス是ニ於テ家康和泉國堺ノ商高石屋宗岸、奈良屋道汐、伊豫屋良千、具足屋宗據、成尾屋宗寶、材木屋道二、阿知屋宗壽、伊丹屋道幾、芝辻宗意、小山良

觀ヲ十人ヲ召シ諭スニ商船困難ノ事情ト彼ノ商船ヲシテ積戻サシムル時ハ再ビ本邦ニ來ラス交易ノ利害ニ關スル旨ヲ陳シテ買取ノ事ヲ謀ル十人ノ者諸シテ長崎ニ赴ク京師ノ豪商等之ヲ聞キ共ニ買取ランコトヲ請フ因テ長崎豪商ヲモ招キ三ケ所ノ商人協議シテ之ヲ買取リ出帆セシムル時ニ家康喜ンデ左ノ奉書ヲ與ヘタリ

黑船着岸之時定置絲年寄共ノ直イタサヾル以前ニ諸國商人長崎ニ入ル可ラズ糸ノ直相定メ候上ハ萬望次第商買致ス可キ者也

慶長九年五月三日

本多上野介在判

板倉伊賀守在判

「（絲亂記）（絲割付由緒）史學雜誌ニ據ル」

是年豐臣秀頼其臣片桐勝元ニ命ジテ攝津國吳織穴織神社ヲ補造ス盖シ此社ノ荒疎ニ歸シタルヲ以テナリ

又曰ク是時且元穴織神棟札文ヲ作リテ穴織神社ニ納ム其文ニ曰ク

穴織神社棟札文

嚮襲聞。應神蔑王者則二女已在攝外路豐島郡吳羽里、得吳服穴織之名以降、復知造顛憶

舊紛則、抵光其始日域不知羅綾織紝之術、舉世基榮耀之家。頗雨婦慈誨之所致也、不可歸敬矣、復知每夜來臨、品々交加夜光滿室不屑隋珠趙璧之輝耀、一百餘歲之間、機室不費油燭之事、入叡聞、貴感依無窮、二女北斗裡藏身、後辱賛大明神之號之號雖然而此二十二年前攝州俄作干戈叢、時敵陣走卒破件宮、神屋避雨成楯固壘一宇成毀、壞故神宮神主抱燮處、內大臣豐臣朝臣秀頼公、即再興之貴命片桐東市正且元奉旃故修營之功居諸不幾玉成畢矣、神倘照鑑殊勛則退散洪纖之怨敵、五畿七道無半日之世憂、降伏百方魔軍、八廷九垓制一且之家禍保護主君、壽域抵億万斯年蠻貊之貢船爭難波津者也、貴莫失千古之世祐矣

慶長九甲辰霜月如意珠日

片桐東市正且元

（史料通信叢誌ニ據ル）

紀元二千二百六十五年慶長十年商船又タ多數ノ生絲ヲ長崎ニ輸入ス去年家康ノ命ヲ受ケ買取シ商人共損耗アリシカバ茲ニ去年買取ノ高ニ割付シテ利益ヲ享有セシム是ヲ以テ右絲ハ數商人ノ專賣ニ歸シ糸割符人ト稱シ其中若干人ヲ年寄トシテ統轄ニ任ジ割付糸題高左ノ如ク宅メタリ（史學雜誌ニ據ル）

京（山城國京都ヲ云フ）百九

堺（和泉國）　百二十九
長崎（肥前）　百九
計　三百二十九

因ニ曰フ一九ハ五十斤ヲ〆タル者ニシテ一斤ノ量目百六十目即チ一九ノ貫量八貫目ナリ

中世史完

第四章　近世史

紀元二千二百八十四年乃至二千二百九十年即後水尾天皇末年ヨリ明正天皇ノ初年ニ亘リ長崎白絲割付ノ利益三ヶ所商人間ニ壟斷セラルヽヲ聞キ特許ヲ乞フモノ甚タ多キヲ以テ紀元二千二百九十一年明正天皇寛永八年終ニ江戸ノ商人ヲ加ヘテ四ヶ所ノ割付トシ

京（出前）　百　九
堺（全）　百二十九
長崎　百　九

（參照）紀元二千二百六十五年後陽成天皇慶長十年ノ條

江戸　五十九
計　三百七十九

且ツ白絲ノ外、黃絲、紗綾、白縮緬、白綸子等ヲモ併セテ四ヶ所ノ割付トシ併ニ毎年輸入スル物品ノ多少ニ依リ既定品額ノ割合ニ比例シテ割付スルヲ定メタリ

爾后大阪商人ハ江戸商人ノ割付仲間ニ入リシヲ聞キ川崎屋宗言、淀屋古庵ハ大阪ノ商業地

ニシテ割付仲間ニ漏レタルヲ慨嘆シ屢々哀訴シテ遂ニ其許ヲ得即チ大阪ノ三十九ヲ加ヘテ五ケ所ノ割付トナス又更ニ呉服所、筑前博多、筑後、肥前、對馬、小倉等ヲ加フルニ至レリ而シテ其額ハ實ニ左ノ如クナリシナリ（仝上）

大阪（攝津國）	三十九
呉服所（按スルニ大御所ノ御料度乎）	六十九半
博多（筑前國）	十二九半
筑後	五　九
肥前	五　九
對馬	二　九半
小倉（豊前）	一　九半
計	五十六九半（割付比例前ノ如シ）

紀元二千二百九十三年明正天皇寛永十年近江國彦根小物成ノ銀納綿百目ハ銀九匁茶一斤ハ銀一匁トセリ（學藝志林）

寛永十二年幕府制シテ唐船貿易ヲ長崎ノ一港ト定ムルヲ以テ互市場開設ノ嚆矢トス（同上）

寛永十三年十二月切支丹宗ヲ嚴禁シ併テ外國渡航ヲ嚴禁ス其略ニ曰ク（御觸書幷ニ史學雜誌ニ據ル）

一異國船貨物江戸ニ報知ノ後賣買スヘシ

一船載白絲ハ價格ヲ定メタル後五ケ所ノ商人ヘ配付スヘキ事

一其他諸品ハ白絲價格決定ノ後賣買スヘシ

一唐船ハ小船ナルヲ以テ此限ニ非ザル事但代物等ハ價格決定ノ後二十日ヲ限ル可シ

一異國船出帆ハ九月二十日ヲ限トス其遲ク來ル者ハ着港後五十日ヲ限ルベキ事

一五ケ所商人總代ハ九月五日迄ニ長崎ニ着ス可シ遲參ノ者ハ其年ノ割符ニ加ヘザル事

一平戸ニ着スル船モ亦長崎ノ價格決定以前ニ賣買スルヲ禁ズル事

按スルニ五ケ所商人總代ハ京堺長崎江戸大阪ノ五ケ所ノ總代人ヲ云フナリ

寛永十八年和蘭人ノ貿易場ヲ長崎ニ移ス堺ノ割付人トモ近年江戸大阪商人增加スルアリテ割付高ヲ減シタル事ナレバ此機ニ乘ジ唐船同樣ニ專賣セン事ヲ請願シテ遂ニ和蘭船載ノ生絲ヲモ五ケ所ノ商人ニ割付セシム（史學雜誌）

寛永十八年土佐國主山内土佐守ノ執政野中主計（野中兼山公）掟書ヲ觸示シテ……（上略）蠶

飼ハ屋敷廻リニ桑ノ木ヲ並ミ木ニ植ヘ置キ蠶飼スベシ存セサル者ハ漆ノ木ヲ植ユ可ク……
（中略）右ノ木植サセ木ニ懸ル年貢取ル可キトノ事ニ非レバ隨分植ヘ置キ少シノ便リニモナス可シ（大日本農史ニ據ル）

紀元二千三百七年後光明天皇正保四年將軍ノ代初メ代替リノ節ハ京、堺、長崎、江戸、大阪、五ヶ所ノ商人ヨリ御料度白絲左ノ額献上ヲ以テ恒例ト爲セリ（史學雜誌）

御本丸様　白絲　百五十把（三十把宛）
大御所様　同斷
大納言様　同斷
御臺様　白絲　百把（二十把宛）

按スルニ獻納ノ次第ハ各所分頭額ニ定メシ者ナラン故ニ百把獻納スルニ當ツテモ二十把宛五ヶ所合シテ百把ト言フガ如キ歟尚ホ考フ可シ

紀元二千三百九年後光明天皇慶安二年幕府觸書ヲ布テ曰ク……（中畧）百姓ハ衣類ノ義布木綿ヨリ外ハ帶ハキモノ裏ニモ仕ル間敷事（慶安御觸書）

紀元二千三百十五年後西院天皇明曆元年幕府糸割付法ヲ停メ唐、蘭輸入品總テ相對賣買ト

定ム（史學雜誌）

（年代未詳）是ヨリ先キ生絲ヲ賣買スルノ法毎年春時ニ價格ヲ定メ一年間高低スルヲ得ス是ニ於テ唐船ハ春時少量ヲ輸入シ價格ヲ騰貴セシメ夏秋ニ至リ多數ヲ輸入ス此ノ如クスル事數年商人之ニ堪ヘズ終ニ輸入ノ生絲堆積賣買セザルニ至ル幕府ニ聞ヘシカバ大阪金庫ヨリ銀五千五百貫ヲ出シ其生絲ヲ購入ス因ツテ爾后生絲割付商方ヲ廢シ他物貨ト同ジク相對賣買ト極ムト云フ

紀元二千三百二十二年寛文二年土佐ノ執政野中傳右門掟書ヲ下シテ桑楮漆茶等ヲ植ユシム（野中傳右門掟書）

桑楮漆茶ノ四木ハ今迄在來ノ分ハ從前ノ通リタル可シト雖モ此ノ以後生立ノ分ハ役儀ヲ免ス隨分精ヲ出シ植ヘ申ス可シ（同上）

（參照　紀元二千三百一年明正天皇寛永十八年ノ條

靈元天皇寛文五年德川家綱命シテ絹紬ノ長ヲ定メ二丈六尺ヲ以テ一端トナス

傳フ當時京師堺及美濃加賀丹後ノ織工盛ニ好絹ヲ織出ス就中京師及堺ニ接スル所ノ者殊ニ佳ナルヲ以テ羽二重ト云フ

美濃、加賀、丹後ニ於テ製スル所ノ者ハ稱シテ撰絲ト云フ然レドモ羽二重撰絲ハ其製異ナル者ニ非ス

筑前、上野、下野、越前、越中、但馬等ニテ絹ヲ製シテ他國ニ輸出スル此際ニ始マル爾後京師ノ職工紋羽二重綾羽二重ヲ織出スト

蠶業汎論參照

寛文十二年十一月奉行牛込忠左衛門唐蘭貨物市法賣買ノ法ヲ設ク曰ク貨物引渡商人ヲ定メ五ヶ所ノ商人各目利役(即チ鑑定人)ヲ出シ輸入ノ物品ヲ熟覽シ代價ヲ入札セシメ其第一第二ヲ平均シ彼ニ示シテ之ヲ購入シ第一表ノ代價ヲ以テ商人ニ賣ル商人豫メ等級ヲ設ケ之ヲ配分セシム其差金ハ地役人幷ニ引請商人ニ分配ス(史學雜誌)

(參照)紀元二千三百十五年明曆三年ノ條

因ニ曰ク奉行此按ヲ設クルヤ從來二國商人適宜其物價ヲ販賣シ又タ定則アル事ナク終ニ銀貨濫出シテ物價騰貴ノ患ヲ生シタルヲ以テナリ然レトモ此改正法案亦タ弊ヲ生スルニ至レリ

紀元二千三百三十七年延寶五年和歌山ノ藩主制シテ曰ク大庄屋ハ妻子共ニ絹紬木綿布タル可シ其外ノ百姓ハ萬々布木綿ノ外着ル可ラズ但シ庄屋年寄ハ帶襟等ニ絹紬ヲ用キテ苦シカラス又男女等ニ衣類ヲ紅紫ニ染可ラズ(和歌山藩壁書)

紀元二千三百四十三年天和三年人民ニ唐織縫箔ノ衣裳ヲ禁ス(大日本農史ニ據ル)

又タ是年二月前田安藝守小出淡路守京都人民ニ觸書ヲ下ス中ニ百姓町人ノ衣類絹紬木綿麻布以此内分限ニ應シ妻子共ニ着用スル事ナカラシメタリ

右御書付江戸ヨリ到來シタルヲ以テ京都御扶持人其外御用ヲ承リ諸職人亥二月二十二日呼寄セ申渡シタリト云フ

紀元二千三百四十五年貞享二年幕府ハ絲割付商方ヲ復シ市方會所ヲ割付會所ト改メ且唐船商額ヲ銀八千貫目蘭船商額ヲ五万兩ト爲シ絲割付宿老二人ヲ置キ毎年首座一人參府將軍ニ謁シ物ヲ獻セシム且例ニ依リ題糸高ヲ左ノ如ク定ム

筑前博多	六九半
肥前	五九
筑後	五九
對馬	二九半

小倉（豐前）　一九半
平戸　十九
呉服所　六十九
長崎　百九（按スルニ別ニ肥前ノ五九アリ長崎ハ肥前ノ國ナレ尼長崎ニ於テ特ニ用キル者トシテ定メタル者乎）
大阪　五十九
江戸　百九
堺　百二十九
京　百九
計　五百六十九、半（史學雜誌ニ據ル）

（參照　紀元二千二百九十一年明正天皇寛永八年ノ條及其次條紀元二千三百三十二年寛文十二年ノ條

紀元二千三百五十二年東山天皇元祿五年信濃上野奥州下野武藏相摸七國ノ蠶種商會議ヲ武藏國八王寺町ニ開キ渡世上ノ取締約則ヲ締盟シ種々ノ方則ヲ定メ商方ノ隆盛ヲ計ル當時ハ未タ蠶卵原紙ノ寸法一定セザリシヲ以テ協議ノ上其時長サ一尺二寸幅七寸五分ヲ以テ蠶卵

原ノ紙ニ宛ツル事ト定ム是レ全國蠶種商聯合會議ノ嬌矢ナリ（信濃蠶業沿革史料）

元祿十一年長崎ノ割付會所ヲ改メ長崎會所ト稱シ又タ割付高ヲ左ノ如ク改ム

呉服所　千九
京、堺、江戸、各百九即チ三百九
大阪　五十九
長崎　百五十九
其他諸國分　二十六九半

而シテ從來ノ恒例トシテ設ヒ百九ノ定メナリト雖モ輸入ノ絲多量ナレバ三百九乃至五百九ニ隨意ナリシモ此改正以後ハ百九ノ定メ以外ニ買取ル事ヲ許サス若シ千五百九ヲ超過スル等ノ事アレバ長崎ノ地下配當ト爲ル堺ハ始メ家康ノ命ヲ受ケ最初ニ買取リタル由緒ヲ以テ百二十九ノ恒例ト成リタルニ今京江戸ト同ジク百九ニ減ゼラレタレハ歎願シテ止マサレ尼幕府ハ之ヲ遂ニ許サヾリキ

（參照　紀元二千三百四十五年靈元天皇貞享二年ノ條

又曰ク此年十一月現糸ノ割付トナル分呉服師千九江戸、京、堺百九大阪五十九長崎五十

丸トシ殘餘ハ長崎ニ宛テ不足ハ呉服師ノ外ニテ分減シ筑後、肥前、博多、對馬、平戸、小倉ノ六ヶ所ハ更ニ割付ヲ止ム（長崎絲割付沿革）

紀元二千三百六十六年東山天皇寶永三年ノ當時京都西陣織物營業者ハ其奉公人及職工等雇人ノ規律亂レ自家營利ニ關スル場合ハ例令他ノ同業者カ使役中ニ係ル雇人モ檀ニ雇入ルガ如キ惡弊ヲ生シ屢々之ヲ訴フルニ至リタルヲ以テ制メ此事ナカラシム其文左ノ如シ

覺

西陣織屋共召抱候織手糸繰奉公人壹年切半年切又ハ年季相極メ奉公ニ召抱候處請狀極ノ通リ相勤メズ外ノ織屋ヘ有付ク族有之由西陣組頭ノ年寄共之ヲ訴フ不屆ニ候主人相對ノ上ハ各別主人得心モ無之者年季ノ内外ヘ有付候ハヽ吟味ノ上本人請人共ニ曲事タル可ク候向后年季約定ノ通リニ急度相勤メ可ク事

但奉公人抱候節先ノ主人方ヘ構ナク候ヤ否ヤノ譯承リ屆召抱ヘ可ク候亦奉公人合點モ致サズ內請人ト馴合請狀相極候義有之者ハ主人越度タル可キ事

右之通相守樣ニ西陣其外ノ織屋商賣仕候者供ヘ相觸レ可ク者也

寶永六年從來呉服師糸題割付千丸ナリシモ減シテ更ニ六十丸ニ復ス（史學會雜誌）

（參照）紀元二千三百四十五年靈元天皇貞享二年ノ條

紀元二千三百五十八年東山天皇元錄十一年ノ條

紀元二千三百七十二年中御門天皇正德二年上野國桃井庄馬場重久ハ本邦育蠶ノ書ナキヲ憂ヒ自身經驗ノ說ヲ網羅シテ蠶飼手鑑ト題シ上梓シテ有志ニ頒ツ本邦蠶養書ノ出ツル是ヲ以テ嚆矢トス（蠶飼手鑑）

而シテ當時本邦各地ニ於テ產出スル蠶絹概ネ左ノ如シ

光絹（ばふたへ）　京師ヨリ產出スル緙ノ最大ナル者御服ト爲ス

加賀光絹　加賀國ヨリ產出スル者ニシテ京師ヨリ出ツル者ニ稍々劣ル」

但馬國ヨリ產出スル者之ニ次グ」

撰絲絹（せんし）　昔シ唐船泉州浦ニ着ス時大唐ノ職工來リテ此ニ留リ撰絲ヲ織リ土人之ヲ習ヒ得夏月單襦ト爲スニ佳シ」

京師ヨリ出ツル者上ト爲ス而レモ輕薄ナル事堺ニ及バズ」

按スルニ堺ニ唐船ノ着セシ事ヲ知ラス蓋シ泉州堺織物ノ沿革ヲ按スルニ紀元二千二百七十五年後水尾天皇元和元年支那ノ織工始メテ金紗ヲ織ルトアレバ或ハ同時ニ始マリ

シ者乎尙ホ考フ可シ

紬　常陸國結城邊ヨリ出ツル者ヲ上ト爲ス信濃之ニ次ギ其他處々アリ枚擧セズ

金紗　元和年中大明人來ツテ堺浦ニ留マリ金紗ヲ織ル土人錢屋某及ビ松屋某ナル者之ヲ習ヒ織ル錢屋切松屋切レト云フ（撰絲絹ノ條參看スベシ）

紬島（紬縞ノ誤リ乎）　飛彈國ヲ以テ上ト爲ス武藏國大目之ニ次グ陸前國仙臺ヨリ出ツル者ハ經ニ糸ヲ用ヒ緯ニ紬ヲ用ヒ甚タ美ナリ又タ經ニ木綿絲ヲ用ヒ緯ニ紬絲ヲ用ヒテ之ヲ緯紬ト云フ近代民間ノ衣ト爲ス

因ニ曰フ仙臺ヨリ出ル者ノ中一項ノ意不明

八丈絹　伊豆國八丈島ヨリ出ヅ土人山繭ヲ以テ絹ヲ織ル甚タ稠強ナリ其色年ヲ經テ變ラズ又タ之ヲ染ルニ染ラズ最モ希珍ト爲ス今ノ如ク常絹ヲ以テ之ヲ織ル其色黃或ハ赤褐ニシテ多クハ黑絲綾ナク官物商買手ヲ入レズ

京師ヨリ賤織ノ者甚タ艷美綾條亦タ品アリ又タ琉球柳條アリ八丈絹ニ似テ艷美是亦希有ノ者ナリ

（參照）紀元一千九百九十一年後醍醐天皇元弘年ノ條

郡內絹　甲斐國郡內ヨリ出ヅ絹厚クシテ稠シ又タ地紋菱ノ如キ者アリ多クハ縱黃綾也京師ノ賤織ハ京郡內ト名ヅケ絲細美ニシテ弱軟ナリ

因ニ曰ク郡內ハ甲斐國都留郡ヲ郡內領ト云フ

（參照）同上

柳條（ちやうしま）　京師ヨリ織リ出ス者模樣美ニシテ品アリ然レトモ絲性稍々弱又タ同絲無文光澤色ヲ吉丁知也（きまぢ）宇ト名ヅク是亦タ滑美ニシテ襦裏ト爲スニ堪ユ

日野絹　日野ハ上野ノ邑ノ名ナリ今上野ノ安中、松井田、富岡、之絹ヲ上ト爲ス武藏之ニ次グ丹波、丹後、但馬ノ國皆多ク之ヲ出ス加賀國最モ勝リテ京光絹ニ亞グ

（參照）同上

（以上和漢三才圖繪ニ據ル）

是ヨリ十餘年ヲ經テ享保九年ニ至リ三宅某本邦絹綿ノ生產地及其品位ヲ調查シタルアリ左ノ如シ

○眞綿之產地

越前國　東綿ヲ上品トセリ御召綿、献上綿是ナリ

上野國　綿ノ性質强クねばり有リ上品ナレ𪜈越前綿ヨリ色淺黑シ

加賀國

岩代國　ノ福島綿越前ニ似寄リ色白シト雖モねばり薄シ

近江國　ノ八幡綿日野綿丸岡綿皆ナ越前ノ次ニシテ其外關東ニハ信濃、甲斐、相摸、武藏等ヨリ產出スル事多ク西國中國北國等ヨリ產出スルモ亦タ少カラズ而シテ綿店等ニテハ中綿ハ近江、加賀、上野等ノ者ヲ以テシ越前、岩代等ヨリ產出スル色白キ者ヲ薄ク着セテ抓マスルナリト云フ

○絹布ノ產地

加賀國　加賀絹アリ生織ニテ製出ス就中諸(もろ)ト云フヲ以テ上品トナス又タ丸岡絹アリ加賀絹ノ次トナス

丹後國　丹後絹アリ加賀絹ニ同ジク性質强シ其他太織アリ單物ニシテ肌ニなとわズ

岩代國　福島絹アリ上州絹ニ同ジ

山城國　京都ヨリ京織物ト稱シ錦織各種及綾、縮緬羽二重其他諸種ノ絹織等枚擧ニ暇アラズ

甲斐國　郡內(都留郡ヲ云フ)ヨリ甲斐絹或ハ郡內海氣等ノ絹織物ヲ產出ス是等ニ又タ綾菱等ノ諸織物アリ又タ太織、郡內平等モ產ス郡內平ハ袴地ナリ

相摸國　八王寺、青梅、等ヨリ上田縞ヲ產ス又タ八王寺平アリ袴地ナリ八丈生衣(八丈すゞし)是レ夏羽織地ナリ

飛彈國　飛彈縞ヲ產ス紬縞ナリ

下總國　結城ヨリ結城紬ヲ產ス

信濃國　上田ヨリ上田紬ヲ產ス或ハ信濃紬ト云フ

上野國　藤岡ヨリ上州絹ヲ產ス秩父絹ハ同國ノねこやヨリ出ヅ總シテ世上ニ日野絹ト稱スルハ上州絹ノ事ナリト而シテ近江國日野ヨリ偶々類似ノ絹出テタル上方ニテ手なれ日野ト言ふらせしヨリ上州絹モ地合似タルヲ以テ日野絹ト云ヒタルナリ而シテ高崎ヨリ產出スルハ中絹ニシテ足利伊勢崎ヨリ產出スルハ次絹トナス薄地ナリ或ハ是ヲ山絹ト云フ

岩代國　福島ヨリ福島絹ヲ產ス上州絹ノ如クニシテ白無垢ニ用ユ而シテ福島龍紋福島縮緬ぼし織紋絹アリ多ク婦人用トナス

丹後絹　加賀絹ニ同ジ又タ太織アリ單衣物ニ適ス

世寶大成萬金産袋ニ據ル

以上三宅也來ノ萬金産業袋ニ據ルト雖モ當時本邦絹綿ノ産地盡シタル者ニ非ルガ如シト考フ只タ一片ノ參考ニ玆ニ陳スル所以ナリト知ル可シ精シクハ余ガ近著織物史ト對照スル事アラハ思ヒ半ハニ過クル事アラン

同年長崎表運上金五萬兩ヲ課シ吳服師ノ割付ヲ止メ要途ニ際シテハ他ノ落札ヲ以テ購求スル事トナス

（參照　紀元二千三百六十九年寶永六年ノ條

享保十一年幕府觸書ヲ下ス桑漆茶楮等ヲ植ハ其植付ニ拘ハラス土地相應ノ位付タル可シ

（地方落穗集、地方御觸書集覽、地方大概集）

享保十四年幕府令シテ奢侈ヲ禁ス

百姓衣類ノ義結構ナル者ヲ着ル可ラズ平百姓ハ木綿ノ外ハ着ル可ラズ紗綾綸子縮緬ノ類襟帶等ニモ致ス間敷候然レトモ平百姓ニテモ身代宜敷者ハ　代方迄斷ヲ立テ差圖ヲ請絹紬着用スル事トセリ

傳フ享保年間上野ノ國日野及ヒ桐生伊勢崎ニ於テ盛ニ絹ヲ織出シ又タ武藏國秩父陸奥岩代國福島等ニ於テ又タ盛ニ絹ヲ織出ス秩父福島ノ絹ヲ他國ニ輸出スル當時ニ始マル京師大阪ノ商人該地ニ至リ所在ノ市廓ヲ設ケ盛ニ商業ヲ營メリ西陣織物沿革提要ハ之ヲ考證シテ東國ノ絹市此時ニ始マルト云ヘリ

紀元二千三百九十八年櫻町天皇元文三年京師ノ織工上野國桐生ニ至リ好絹ヲ織ル法ヲ傳フ時人之ヲ紗綾絹ト云フ爾後桐生ノ職工絹ヲ織ルヲ廢シ紗綾絹ヲ織ルニ至ル（西陣織物沿革提要ニ據ル）

而シテ下總國結城地方大洪水桑園流失シ蠶種業者業ヲ營ム事ヲ得ズ岩代國伊達郡伊達崎村ニ於テ蠶種ヲ製造ス（養蠶秘錄、都賀社來歷）

（參照）（大日本蠶史第二部現業史）

當時關東ノ諸國ハ信濃國上田ノ蠶種ヲ以テ上品トナシ飼育ス山城國近傍ハ近江國幷ニ播磨國加古川ヨリ出ツル種ヲ以テ蠶ヲ養フ（養蠶秘錄）

紀元二千四百四年櫻町天皇延享元年京都西陣高機同盟シテ上野國桐生ニ於テ紋紗綾織立差留ノ件ヲ請願ス是ヨリ先キ紀元二千三百九十八年元文三年以來上野國桐生ニ於テ紋紗

綾絹ノ織成盛ナリシカバ京都西陣ノ紋紗綾絹ノ販路ニ影響ヲ來タシタルヲ以テノ故ニシテ要スルニ高機紋織ハ西陣ニ限ルガ如ク申立シ件々如何ナル由緒ニアルヤ之ヲ尋問シ即チ古來ヨリ下付サレタル御奉書（因ニ曰ク元龜二年前信濃守神宿禰右馬之助三善）呈出セシニ許可ヲ得延享元年ヨリ以來新規紋織ノ件ハ堅ク停止サレタリ而シテ是ガ出願ノ人名左ノ如シ

西陣芝藥師町　桝屋甚兵衛
西陣北小路町　菱屋又兵衛
西陣北小路町　菱屋源兵衛
西陣當麻町　桝屋傳右工門
西陣藤木町　蔦屋吉右工門
西陣石屋町　練島屋彌三郎
同大北小路東町　房屋清兵衛
同町　今織屋三郎兵衛
同幸在町　菱屋彦兵衛
西陣北猪熊町　坂本屋嘉兵工
西陣報恩寺町　堺屋儀兵工
西陣石屋町　紗屋五左工門
西陣聖天町　丹波屋三右工門
西陣芝藥師町　菱屋伊兵衛
同堀ノ上町　菱屋藤兵衛
同須磨町　龜屋久右衛門
同町　十一屋傳右工門
同下天神町　木屋武兵衛

同伊佐町　八幡屋武兵衛
同芝藥師町　木屋五兵衛
同飛鳥井町　大和屋三郎兵衛
同瑞龍院殿圖子　紋屋藤兵衛
同本法寺前　平野屋五郎兵衛
同南竹屋町　檜皮屋庄右工門
同妙運寺突抜町　八幡屋治兵衛

傳フ是等織屋共上文ノ許可ハ永世ノ大幸ナレハ子孫弟子永世之ヲ忘却スヘカラサル者ト云フ

ナシ帳簿ニ寫シ永ク後世ニ傳ヘリト云フ

又曰ク是年十月田舍反物紗綾縮緬ノ類多ク京都ヘ入込ミタルヨリ絲問屋又ハ田舍絹新規ノ問屋等ニ諸國ヨリ登リタル端物員數請込高ヨリ以後增長スル事停止トナレリト傳フ

紀元二千四百五年延享二年京都西陣高機織屋仲間設立ノ件ヲ許可セラレ左ノ制令ヲ公布セラレタリ

一近來外商賣人ヨリ新規ニ高機織屋致シ候者有之次第ニ相增候テハ高織機屋難澁ノ筋相

同室町上立賣下ル町住吉屋傳右工門
同大北小路町　木爪屋十郎兵工
同挽木町　玉屋權兵衛
同石屋町　蔦屋平右工門
同小川町　伏見屋六右工門
同報恩寺前町　大文字屋利兵工

聞（候向后外商買人ノ者新規ニ高機織屋致シ申間敷事

一惣テ織屋ノ子共幷ニ弟子ノ分新規ニ高機織屋爲致候義ハ仲間相對次第タル可キ事

一織手絲繰奉公人ノ義實永三戌年相觸候通リ彌可相守事

右之趣西陣織屋幷織屋ニ携ハリ候絲屋其外織人等ヘ可申聞置事

（參照　紀元二千三百六十六年實永三年ノ條

於是西陣高機屋等七組合ヲ組織シ仲間ニ條目ヲ設ケ相互ノ取締ヲ嚴重ニシタリ其條目左ノ如シ

定

一第一當職ノ義ハ前以テ由緒モ有之候得共自今餘商賣人ヘ堅ク爲致申間敷事

一當職ノ家ノ娘タリトモ一旦他ノ商買ヘ爲嫁候而勝手筋ニ付其妻ノ緣ヲ以テ織屋商賣爲致申間敷事

一餘商賣人當職ヲ望ミ本家ノ家名引受織屋商賣被致候儀有之候ハヽ、先元主ヨリ其組々ヘ申出組中同心ノ上請續候仁ヲ組中ヘ引合セ其上ニテ入講爲致可申事

一自今弟子タル者宿端入致候節ハ主人ヨリ證文出シ可申候則文案紙等左ニ認メ置候暇入

講相濟ノ後万一主從疎遠ニ致候義有之候ハヽ、主人ヨリ組中沙汰ニ及ビ候ハヽ、尋届ケ早速請取候證文主人ヘ差戻シ可申事

一二季ニ召抱候手間取絲繰下女等ニ至ル迄先々主人ヘ相届ケ可申事

一相互ニ万一届ナク召抱候テ出入有之候ハヽ、早速御觸狀ノ通リ可訴出事

一連中ノ内當分勝手ノ爲餘商賣人被致候共二季ノ參會相勤メ被申候ハヽ、立歸可申候節元ノ組ヘ御入可被成候若シ又二季不參候ハヽ、餘商賣人可爲同前併先組中ノ沙汰ニ可順事

一弟子手間取衆ニ至ル迄大宮絲屋ヨリ仕入機出シ被申候節ト仕入機仕込間敷ニ被出候節ト相互ニ届合可申事

一自今織物ノ義ニ付キ細工人餘國ヘ下リ候テ歸京ノ後奉公手取拵共召抱申間敷候勿論同織自今ニ致候共永次第早速絲屋町ヘ通知致シ絲賣ラレ申敷候仕入等モ同前タル可キ事

一自今組々ノ連中少々意味ヲ以テ万一他ノ組ヘ加入致サレ候品出來候共互ニ届合セ連中心得ノ上ハ各別差當リ取敢申間敷事

入講證文書式

一札之事

一　弟子何屋誰ト申者此度宿端入致サセ則附キ何チ何ノ組内ヘ入講被申候自今連中御定ノ通違背爲致申敷間万一不埒候ハヽ、急度可申付候私弟子ニ紛無御座候仍一札如件

年月日

主人　何　誰判
弟子　何　誰判

何組其外惣中參

高機屋七組人名

練島屋彌三郎
池田屋吉右工門
蔦屋平右衛門
紋屋藤兵衛

（松組）

房屋清兵衛
今織屋三郎兵衛
龜屋久右衛門
玉屋權兵衛

（竹組）

菱屋伊兵衛
堺屋儀兵衛
菱屋藤兵衛
木爪屋十郎兵衛
檜皮屋庄右衛門
菱屋藤右衛門

（鶴組）

雁金屋又左衛門
木屋武兵衛
坂本屋嘉兵衛
大文字屋利兵衛

（龜組）

紗屋五左衛門
平野屋伊右衛門

（紗組）

菱屋藤兵衛
八幡屋武兵衛

（梅組）

永字組桝屋甚兵衛

此外高機惣織屋共

附記ス寶暦十三年高機織屋惣中相談ノ上七組ノ外本字組ヲ加ヘ八組トナシ度キ件ヲ願出許可ヲ得タリ則チ延亨二年仲間條目

紀元二千四百十年桃園天皇寛延三年（西洋紀元一千七百五十年）伊太利國チユラン府ニ生絲撿査所ヲ設立セラル蓋シ生絲賣買ニ於ケル貨物受渡ノ際ニ自ラ疑念ヲ抱キ遂ニ爭論ヲ起スニ至ルヲ以テ此障碍ヲ避ケ以テ生絲取引ノ圓滑ヲ圖ルニ出ツト云フ是レ伊太利國生絲撿査所設立ノ嚆矢ナリトス

紀元二千四百十三年寶暦三年幕府ノ仰ニ基キ伊豆國七島ノ蠶事其外調書ヲ進ル蠶事沿革概ヲ左ノ如シ（七島調書）

利島　女ハ蠶ヲ飼ヒ其外芋野老草木ノ葉取渡世トス
神津島　女ハ蠶飼葛野老あした草取渡世トス
三宅島　女ハ蠶飼葛野老葛薥椎ノ實あした草取渡世トス
御藏島　女ハ蠶ヲ少々飼葛野老取渡世トス
八丈島　御年貢紬五百四十七反毎年定納シ來ル

御用船江戸出帆ノ節船中ノ用米トシテ壹艘（米八十石宛相渡シ若シ用米相殘ル時ハ島
着ノ上惣百姓ヘ割賦仕リ石代リ織物
ケ置カレ惣百姓割賦仕代リ織物ニテ翌年返納◎鍋釜大小四百二十三隔年ニ買ヒ上
◎女ハ御用織物蠶ヲ飼ヒ糸拵ヒ織立一式幷ニ賣物紬すゞし等織出シ渡世トス染方ハ男
計ニテ染ム

八丈枝島　御年貢紬五十七反毎年定納シ來ル
女ハ蠶ヲ飼ヒ御用織物幷ニ賣紬すゞし等織リ出シ渡世トスル事八丈島ト異ナラズ
青ケ島　御年貢紬三十一疋毎年定納シ來ル
女ハ蠶飼糸綿八丈島ヘ渡シ御年貢物糸綿等積入レ渡世トス
因ニ曰フ青ケ島ニ至ツテ疋ノ字用ヒタリ蓋シ反ノ字ノ誤ナラン乎」
紀元二千四百十九年寶暦六年肥后國主細川越中守重賢國内ニ農桑ヲ勸課シ藩内蠶桑ノ興起
ヲ營ム（大日本農史ニ據ル）
寶暦七年信濃國小縣郡鹽尻村塚田與右門多年實驗ノ養蠶術ヲ記シ養蠶秘書ト名ヅケ上梓シ
テ有志ニ頒ツ（養蠶秘書）

是年堺（和泉國）糸割付（前出長崎輸入ノ生糸）ノ有樣ヲ調査セシニ左ノ如シ
堺糸割付人數合年百二十五人　内糸年寄六人
此糸高四千七百四斤
絲年寄長崎番役料百五十斤（因ニ曰フ古來二百五十斤ノ處元文五年百斤ヲ減シ其代リト
シテ長崎ニ於テ銀一〆目宛惣割付人ヨリ出ス）
請拂幷ニ絲目利人給料百四十六斤（因ニ曰フ元錄十一年割付減少ヨリ此代リトシテ銀子
ヲ以テ總割付人ヨリ出ス）
合計五千斤
絲目利役二人長崎下タ番給料　銀三貫目
筆者三人給料　同一貫五百目
惣者三人給料　同一貫五百目
小使一人給料　同二百五十目
筆者二人市政總年寄役場兼帶給料　同八百九十目
小使一人給料　同六百目

合計十二分給料銀七貫七百四十匁

因ニ曰フ爾來本邦養蠶ノ進歩ニ伴ヒ多年專賣ノ利ヲ占メシ者モ輸入ノ退歩スルニ隨ツテ自然其跡ヲ絕スルニ至ル

寶曆九年幕府更ニ奢侈禁制ノ忘却ス可ラザルヲ命シ且ツ一村限リ連判御請證文ヲ出サシメテ曰ク總テ百姓ハ其身ニ應セサル家作ヲ爲サズ衣類ハ妻子共絹紬木綿ヲ着ス但シ脇百姓ハ布木綿而已ヲ着シ此外ノ品ハ襟帶等ニモ爲サズ染色ハ庄屋總百姓共ニ紫紅梅ニ染メ間數此ノ外ハ何色ニテモ形ナシニ染メ着ス可キ事トナス（德川政務秘錄ノ內差出方掛申渡留）（大日本農史ニ據ル）

紀元二千四百二十六年後櫻町天皇明和三年羽後國佐藤友信ハ先代春信ガ多年實驗シ得タル蠶養方及ビ自分年來研究シ得タル蠶養方ヲ掛酌シテ養蠶茶話一書ヲ著シ以テ有志ニ頒ツ（養蠶茶話）

因ニ曰フ佐藤友信ハ紀元二千四百二十年即チ桃園天皇寶曆七年養蠶秘書ヲ著シタル信濃國塚田與右工門トハ年來ノ知已ニシテ蠶事ニ附テ研究シタル事少カラズ即チ同業無二ノ友誼ヲ爲シツヽ在リ養蠶秘書參看ス可シ

傳フ當時近江國難波村林助正九郎始メテ縮緬ヲ織出ス是ヲ濱縮緬ノ元祖トス（養蠶絹篩）

紀元二千四百二十七年後櫻町天皇明和四年京都西陣高機織業者仲間條目ヲ改正シ嚴重ノ取締ヲ設ケタリ蓋シ同仲間往々延享二年ノ條目規約ヲ遵守セザル形跡ノ現ルヽヨリ此改正ヲ催シタル者ナリト云フ

其條目左ノ如シ

定法

一當職ノ儀ハ古來奉公人御觸書等成シ下サレ猶又寬永三戌年又々御觸書成シ下サレ則其節御下知御觸書頂戴仕候得者末々共亡失致ス間敷急度可相守事

一銘々悴幷弟子ノ分加入證文ニテ仲間入二季相勤其外餘商賣人ヘ堅ク爲致申間敷候尤此義御觸書下シ置カレ候事然ル上ハ銘々勝手ノ最負ヲ以テ筋合無之者爲加入爲致候ハヽ、其主人世話人等急度座外ニ致ス可ク事

一銘々本家相續ノ義娘ニテモ相立可申候但娘ヲ別家ニ致候義ハ其聟ノ筋目ナラデハ爲立申間敷事

一銘々悴幷弟子仲間ヘ加入致シ候節者其親其主人ヨリ證文差出シ加入可爲致候尤一組ヘ

樽代トシテ銀一兩ツヽ、差出シ可申事
一大帳ニ洩シ者亦ハ主人跡目ナキ者ハ一組ヘ金百匹ツヽニテ加入爲致可申候尤モ不勝手ニ附キ商賣相休ミ居候者用捨致シ一ケ年ノ入用トシテ烏目百文宛之ヲ取リ可申候勿論用捨錢モ指出サヾ候者ハ相對ノ上座外タル可キ事
一銘々召抱候弟子ノ分請證文相濟候上ハ仲間弟子帳ニ書載セ可置事尤年季無滯相勤仲間加入ノ節ハ右帳面引合セ相違無之上ハ二季參會ノ節加入爲致可申候事
一織手絲繰他國ヘ當織ノ事ニ附キ奉公人ニ下リ候得者歸京致シ候トモ其者仲間一統ニ相抱ヘ申ス間敷加入ノ義ハ勿論堅ク爲致申間敷事
一紋屋篾屋其外下職等田舍ヘ其職ヲ致シ差下シ候ニ付御差止ノ儀御願申上置候上ハ右体ノ者見屆候得者早速行事中ニ可申出其上御願可申上事
一八組寄合ノ節ハ當行事ノ內ヨリ二人一組ヨリ四人宛相勤可申候尤御公用筋ハ勿論其外賣先キ買元下職共相對ノ義有之ハ惣行事ヘ披露シ相談ノ上取計可仕候其上惣中ニ可申聞候事
一金銀小箔ノ義ハ御定直段ニテ買得可仕事

一二季寄合ノ義ハ例年八組一統申合セ絲直段高下割合ヲ以テ行事共絹相場相極メ惣組中ヘ披露可仕事又ハ不寄何事評議可仕義有之候得者行事共相談ノ上臨時ノ寄合仕惣中ヘ披露可仕事
一奉公人出替ノ節先主人ヘ相屆ケ差支出入無之哉之旨請狀奥印取可申事
一出錢取集候砌行事共私欲ヶ間敷義有之候得ハ急度座外ニ可致事尤毎月八組勘定ノ義ハ月行事立會勘定不仕事幷組々勘定ノ義ハ其組々行事共立會算用仕帳面ニ記シ置可申事
一仲間出錢不參ノ者有之候ハヽ、不申座外ニ致シ可申事尤絹賣先ヘ右ノ段通達仕置可申事其上合印ナキ方ニテ仲買中絹買取申サレ候ハヽ、是亦八組一統商致シ申ス間敷事兼テ絹賣先ヘ通達致置候事
一銘々居宅處替幷代替リ名前替ノ義行事元ヘ相屆ケ帳面書改可申事
一組々行事ノ義ハ半季替リニ相勤可申事勿論寄合ノ節隨分儉約仕可申事
一七組ニテ是迄相勤メ來リ候處惣中相談ノ上實曆十三未年ニ御願申上御許容被下八組ニ相成候然ル上此段何事ニ寄ラズ八組相談ノ上先々ノ通取計可申事

右之通大帳序文ノ趣意ヲ以テ定法相立置候上ハ新規ノ取計致ス間敷事

先達テ延享二丑年奉差上大帳ノ寫總連中代印トナシ行事共奉差上置候處末々迄行屆候ニ付キ此度臺帳定法共惣連印ニテ奉差上度旨八組行事共御願申上候處御許容成被下冥加至極難有奉存候依之連印帳面奉差上候處仍而如件

明和四亥年七月

明和七年京都西陣織屋仲買從來商買ノ方針縮少ニ過キタルヲ以テ幕府ハ令シテ曰ク店賣仲買賣ノ二行ニ織屋營業スルハ手挾ニシテ永世納附スベキニ非ズ松竹梅鶴龜永本ノ七組申合シ仲買ハ古組幷天神講今宮講ヲ新組ト名附ケ仲買古新組トモニ申合セシ主趣ヲ以テ織屋ハ絹一本タリトモ多ク賣リ渡シ仲買ハ一本モ多ク買取ルヲ規摸ニシ年々手支ナク手廣商賣ノ仕方申出ベシト於是高機織八組ハ左ノ如ク開申セリ

一店賣ト仲買賣ト二行ノ義先達テ御返答ニ御願申上候私共五組ノ賣先古組仲買ト申ハ繻子仲買毛織仲買金入仲買ト申シテ凡六十軒金有之組織屋ハ四百五十一軒御座候天神講ノ内仲買計渡世ノ者ハ凡二十軒有之候殘リハ店方計ニテ御座候幷今宮講ニハ仲買計手廣ク渡世致候者ハ此節少シク御座候永本兩組ニテ織屋ハ百三十軒有之候處絹賣買ノ義ニ附キ是迄手狹手廣相談仕候得共職人商ノ儀故互ニ勝手不勝手有之一決不仕候最初仕

吉屋傳右衞門委細書ヲ以テ御願申上候店方ト仲買ト一統ニ絹賣渡シ申度儀願主五人幷永本兩組共年來ノ望ニ御座候故願主同意ト申上候此義ハ古組仲買五組織屋ノ絹ヲ買取リ天神講今宮講兩組ノ內ノ店方へ絹賣渡シ申候ヲ渡世ニ仕來リ候ニ付此度三組仲買ト織屋七組ト一統ニ手廣ク相成店方へ五組織屋ヨリ新規ニ絹賣渡申候テハ古組仲買甚不勝手ニ相成候義ヲ能存シナガラ永本兩組ノ者共ト同樣ニハ難仕且又兩組ハ是迄店方ト仲買トノ差別ナク絹賣レ申候故織屋絹元段相知レ申候ニ付却ツテ織屋一統一繁昌ノ基ト恐レナガラ奉存候尤店方ト仲買ト二行ニ相成候得ハ是迄ト違ヒ仲買多人數ニ罷成候間永本兩組ハ勿論五組ノ者共互ニ宜シキ義ト彼存候ニ付先月二十九日願主幷古組仲買天神講今宮講兩組仲買永本兩組共段々下ニテ對談仕候得共相濟不申候依之又々口上書奉差上候先達御返答書ニテ御願申上候通五組組織ハ古組仲買ト絹賣買ノ義仲間定之通相談致置候間何卒御慈悲ノ上是迄ノ通被仰付下サレ候ハヽ難有忝奉存候以上

明和七寅年四月二日

西陣高機織屋八組連名（前出茲ニ略ス）

紀元二千四百三十五年後桃園天皇安永四年羽後米澤ノ城主上杉治憲（鷹山侯）ハ重臣竹股

美作ノ建議ヲ容レ新ニ國產所ヲ開キ樹藝總裁ノ藩衙トナシ奉行吉江喜四郎ヲ總頭取トナシ齊藤三郎右工門ヲ次頭取トナシ仙臺伊達福島等ヨリ桑、漆、楮、各百万本ヲ求メテ栽植セシム荒地ハ云フニ及ハス諸士村民ノ宅地寺院堂社ノ境內ニ迄モ植ヘ立シメ其物成皆高價ニテ買上グ可キ旨ヲ以テス（鷹山侯偉績錄）

又曰ク米澤藩主新ニ國產所ヲ開クニ當リ藩士等ヲシテ恒產ヲ得セシメント欲シ織工數名ヲ上國ニ招キ薄祿ナル藩士ノ妻子ヲ募リ始メテ絲織物ノ絹布ヲ織ル事ヲ敎ユ（大日本產業事蹟ニ據ル）

因ニ曰フ上國ハ（かみがた）ノ事ヲ云フ當時京都ヲ指シテ（かみがた）ト云フ

安永六年七月是ヨリ先キ幕府ヨリ農家ヲシテ蠶ヲ飼ヒタル桑枝ノ皮ヲ以テ麁紙ヲ製シ之ヲ其自用ニ供セシメシニ既ニシテ灑キ方進歩シ其品質美濃紙岩城紙等ニ類スルニ至ル者アルヲ以テ更ニ命シテ抄紙ノ爲メニ農桑ノ時ヲ失フ事無ラシム（德川政務秘錄ノ內差出方掛申渡留）大日本農史ニ據ル

又曰ク安永年中（當年未詳）幕府令シテ桑園ノ冥加永ヲ徵集ス奧州磐代國伊達郡信太郡ノ兩郡五十二個村ニテ永八十貫文（一ニ百貫文ト云フ）ヲ納メテ直ニ蠶紙本種ノ名義ヲ允許

セラル當時該地方ト蠶種良否ヲ競ヒツヽアリシ下野國都賀郡都賀社ナルアリ今磐代國伊達信夫兩郡桑園ノ冥加永ヲ納メテ蠶種本種ノ名義ヲ許サレタルヲ遺憾トナシ相共ニ協心以テ恢復ヲ計リ勉メテ蠶種ヲ精選シ各地方市街村落ハ勿論神社佛閣ノ緣日等諸人ノ輻輳スル場所ヘハ必ス社中ノ者出張シテ殿堂ヲ借リ受ケ蠶種ヲ販賣ス（都賀社來歷並ニ日本產業事蹟ニ據ル）

紀元二千四百四十五年光格天皇天明五年越中國礪波郡宮永重右工門正運多年經驗ノ養蠶方ヲ記シ養蠶私記ト名ヅケ寫本ヲ以テ有志ニ傳フ（養蠶私記）

當時藩主仁政ノ餘リ加賀能登越中ノ國澤畔山野ノ隙地荒地桑ヲ植附セシメ將來桑ノ繁茂ニ隨ヒ養蠶ヲ盛大ナラシメント敎示セシト云フ（養蠶私記）

按スルニ國主松平越中守定信公其後年ニ至ツテ育蠶奬勵ノ次第モアリシ尙ホ能ク參照スヘキ可シ

或曰ク松平越中守定信育子ノ制ヲ定ムル元ト白河領內ハ婦少ク男多シ故ニ貧民婚娶ニ難ク子女擧ラズ隨ツテ民口年ニ減シ田圃荒蕪ス乃チ庶民九十歲以上ノ者ニ俸米一口ヲ與ヘ姙婦ヲ籍シ分娩ヲ報セシメ洗兒ヲ查撿ス五兒以上ヲ育フ者ニハ賞スルニ米一俵ヲ以テス又

タ越後ノ婦女ハ兒ヲ育スト聞キ夫ニ命シテ同國ノ窮女ヲ募リテ田盧ヲ與ヘ鰥夫ヲ配偶シ耕織ノ業ヲ勤メ陋習変ニ改マリ生齒漸ク蕃ク棄壞モ沃土トナルニ至ル（羽林源公傳松平定信行實）（大日本農史ニ據ル）

天明七年羽前國米澤藩主上杉治憲ハ從來擴張シ來リタル殖産事業モ國用多端且ツ凶歉等ノ災厄ニ遭遇シ玆ニ資本ノ缺乏ヲ生ジ」時擴張方計ヲ中止スルニ至ル（鷹山侯偉績錄）（參照）紀元二千四百三十五年後桃園天皇安永四年ノ條

天明八年田宮楚州ハ和漢絹布重寶記一冊ヲ著ハシ板行ス記スル所ロ產地符牒性質寸尺等ノ事ヲ示ス（絹布重寶記）者ニシテ當時生產地及ビ絹綿ノ次第概ネ左ニ於ケルガ如シ（尙ホ詳クハ余ガ近著織物史參照）

京都　錦綾諸織物、羽二重、本紅、等ノ絹布、縮緬

近江　羽二重、縮緬

丹後　縮緬、絹

加賀　太織、絹、撰絲

武藏　川越絹、秩父絹

上野　縮緬、戻子類、絽、桐生龍紋、安中龍紋、紗綾、富岡、藤岡ノ紋絹

岩代　福島龍紋、福島絹

相摸　八王寺絹

甲斐　紬、紋郡內、郡內絹

美濃　縮緬、撰絲

下總　結城紬

飛彈　紬

信濃　紬

中國筋ニ山繭紬アリ九州筋ヨリ多ク產出ス殊ニ豊後ニ多シ

伊勢　安濃津津戻子

奥州白河ノ城主松平定信是年國產ノ事ニ心ヲ用ヒ給ヒ織屋役所ヲ建テ役人ヲ命シテ小身ノ御家人ノ妻ナド或ハ織屋ニ出デ或ハ家ヘモ持返リ絲ヲ繰リ絹縮緬ヲ織リ其賃ヲ以テ親夫ノ俸錄ノ不足ヲ補ハシム（白河樂翁公傳）

紀元二千四百四十九年光格天皇寬政元年松平越中守定信ハ肥后ノ藩士堀平勝名ヲ召シテ

賞ス蓋シ勝名身家老職ナルニ藩主細川重賢ヲ輔ケテ藩政ニ預リ專ラ農桑ヲ勤メタル等ノ事蹟アルヲ以テナリ（熊本俚談）

（參照）紀元二千四百十九年桃園天皇寶曆六年ノ條

是年信濃國小縣郡鹽尻村塚田與右工門ハ自分先年著述シタル養蠶秘書ヲ增補訂正シ及ビ更ニ一冊ヲ著ハシ新撰養蠶秘書後篇ト名ツケ寫本ヲ以テ有志ニ頒ツ（新撰養蠶秘書）

（參照）紀元二千四百二十年桃園天皇寶曆七年ノ條

當時寬政二年頃ヨリ羽前國米澤地方蠶絲織物蠶種等他國ニ輸出スルニ至レリ

寬政三年松平越中守定信ハ領內ノ蠶業ヲ隆ナラシメンガ爲メ桑其他數十種ノ植物ヲ封內ニ繁殖シ以テ民用ニ宛テテリ（羽林源公傳）

（參照）紀元二千四百四十五年光格天皇天明五年ノ條

是年羽前國米澤藩ニ於テハ京都ノ織物商ニ計リ老練ナル職工ヲ聘シテ長機杼ノ業ヲ傳授セシム（大日本蠶絲會報ニ據ル）

寬政四年京都高機織屋八組ハ當職風儀ノ件ニ關シ定法ヲ設ケ取締ヲ爲セリ蓋シ是ヨリ先キ天明八年京都大火皇宮タメニ燒失ス市民ハ四方ニ散亂シ此際ニ及ビ織屋仲間ノ定法モ

廢滅ヲ歸シタルヲ以テノ故ナリ

○定書

一去ル天明八申年大變後織屋奉行人下職ノ者猥リニ相成不埒不勤ノ族多ク有之候ニ附寬政元酉年奉御願置猶又此度右ノ趣御願奉申上候處御聞濟成シ下サレ此以後織屋中ニ召抱候奉公人不勤不埒筋有之候者名指ヲ以テ月行事共ヨリ言上可仕候旨仰渡サレ候間八組一統其段相心得ラル可ク候事

但年切半季居奉公人幷日雇ニ至ル迄召抱候節ハ前々定ノ通リ元主人互ニ屆合請狀ニ奧印取之不念無之樣致サレ可ク候事

一武番屑絲員取絲繰屋撚屋ヘ入込盜物同前不正ノ絲類取扱仕候ニ附キ安永九子年御願申上奉リ御觸書頂戴仕候若シ賃絲操絲質物ニ差入レ亦ハ絲目不足致サセ候者ハ無遠慮月行事ヘ出ラ屆ル可ク候言上可仕候事

寬政四子年五月

高機八組中

紀元二千四百五十三年寬政五年米澤藩士上杉治憲ハ封內ノ農民一人毎ニ桑苗五本宛植ヘシムヨリ是等苗木ハ藩ヨリ下付スヘキ者トナシ各代官所內ニ苗木場ヲ設ケ又各村肝煎ノ邸內ニモ

苗木ヲ培養セシム乞フ者アレハ無代價ヲ以テ直ニ分與スベキノ旨ヲ命ズ（鷹山侯偉績錄）

（參照　紀元二千四百四十七年天明七年ノ條

寬政八年羽前米澤ノ藩主令シテ國産物タル織物類名聲漸ク四方ニ傳播スルヲ以テ此際意ヲ製造ニ注ギ決シテ粗製ノ事ナカラシム（鷹山侯遺澤）大日本蠶絲會報ニ擧ル

寬政九年上野ノ國澁川ノ農田友直ハ本邦蠶ノ書完備セザルヲ憂ヒ自分多年經驗セシ養蠶方ト亦タ和漢ノ蠶書ヲ酌量シテ養蠶須知四卷ヲ著ハシ寫本ヲ以テ有志ニ頒ツ

此書外附錄一冊養蠶詩一冊都合四冊アリ須知下卷末尾ニ曰ク「政府有命乃謄獻之」トアルヲ以テ見レバ幕府ノ命ニ依リ著シテ獻セシモノナラン（養蠶須知）

是年羽前米澤藩主上杉治憲蠶桑ノ業ヲ再興ス初メ安永中專ラ阜産ノ政ヲ行ヒシモ國用ノ乏シキヨリ天明七年ニ至ッテ中廢ス然ルニ富國安民ノ道ハ殖産ノ一術アリトシ再ヒ國産ノ諸局ヲ興ス就中蠶桑ヲ以テ物産民利ノ第一トナシ莅戸六郎兵衛等心ヲ此業ニ留メ下民ニ桑苗ヲ頒チ費用ヲ與ヘ大ニ之ヲ開行セントス而シテ國用窮乏之際其費金支途ナキニ苦ミ衆議殆ント止マントス

治憲執政ヲ諭シテ曰ク凡ソ事ハ直ニ成就セント欲セバ却ッテ成就セザル者ナリ小ヲ積テ大

ヲ大ヲ成シ其ノ事ヲ永續スルヲ以テ眞ノ成就トナスベシ當今勝手向財用乏シク立續キ方モ之ナキ折ナレバ尤モ莫大ノ料ヲ與フルニ事不能然レトモ民力ヲ窮彈スル上ナレバ多少ニ依ラズ上ヨリ貸與セザレバ惜キ國産ノ道廢ス可シ

我尙節儉ヲ行ヒ台所仕切料四百兩ノ內五六十兩ヲ減ジ之ヲ年々支出シテ蠶業ノ手當ト爲ス可シ五六十兩ハ僅少ナリト雖モ十年二十年ヲ積バ必ス若干ノ蠶利ヲ生ス可シ且ッ上ヨリ斯ノ如クノ手當ヲ下付スルト聞カバ其聲ニ應シテ有餘ノ民ハ自ラ進ンテ桑ヲ植ヘ土地ヲ開ク志ニ趣ク可シト執政等是ノ令旨ニ服シ乃チ郡村ニ令シテ桑苗ヲ作ラセ年々五十兩ニ五十貫文ヲ以テ苗木ヲ買上ゲ之ヲ四民ノ請ニ從ヒ下附シ尙桑畠開發料トシテ三貫文宛悉貸シ伊達福島ヨリ蠶桑ニ精シキ者ヲ聘シテ國中ニ數ヘシメ又タ居城ノ內庭內及養蠶館ニ於テ蠶ヲ養ヒ以テ其術ヲ示ス此時ニ於テ藩主自ラ及ヲ以テ桑ヲ刻ム臣下某之ヲ諫メテ曰ク國主此業ニ手ヲ下ス或ハ大人ノ所爲ニ非ル可シ宜シク臣下ニ命シテ及ヲ執ラシム可シト藩主治憲侯憤然トシテ曰ク昔シ雄略天皇皇后陛下畏クモ宮中ニ於テ御親蠶給ヒシニアラズヤ然ルニ余ハ是レ布衣一國ノ藩主而已其藩內民業ノ發達ヲ催ニ余自ラ及ヲ執リ桑ヲ刻ム必ズ大人ノ威嚴ヲ損フ者ニ非ス且ッ昔仁德天皇皇后ニ宣ヒテ曰ク民ノ富ハ朕カ富ナリト今當米澤藩ハ富メ

ルニ非ス剰ヘ舊封ノ格ニ習フテ因襲ヲ成シ臣下民人一日モ其經濟ヲ安ンスルハナシ豈ニ一大革新ヲ刷行シテ國家理財ヲ整理スル事アラスンハ何ニ因リテカ當藩ノ格ヲ維持スル事ヲ得ント臣下ハ藩主ノ此壯語ニ初メテ感憤シ一意藩政ノ刷新ニ熱心スルニ至レリト加之該餐霞館ノ養蠶ニハ大奥之ヲ監督シ御附女中ヲシテ養蠶ニ從事セシム二ノ丸味噌藏ナル處ニ桑樹ヲ植ユルニ際シテハ士卒表ニ大少ヲ帶ブルモ裏ニ鍬鋤ヲ携ヘテ耕穡ニ從フ養蠶結成ノ繭ハ製絲織成ニ至ル凡テ御附女中ニ紡織セシメ該品ハ大内ノ御料ニ供シ又眞綿ハ御部屋方自ラ繰製シテ紬反物トナシ之ヲ君夫人ニ進供スル事トナレリ（上杉家記錄鷹山侯偉績錄）

其養蠶栽桑ノ次第ハ記シテ一卷トナシ養蠶手引ト名ツケ板行シテ廣ク國中ニ頒布セリ（養蠶手引）

（參照）紀元二千四百五十三年ノ條

是年野權九郎ナル者丹後但馬ノ蠶業ヲ盛大ナラシメントシ磐城福島ノ蠶種ヲ移スノ必要及栽桑蠶養ノ方法ヲ書シテ蠶飼仕方申渡覺ト題シ寫本ヲ以テ頒ツ（蠶養仕方申渡覺）

紀元二千四百五十九年寛政十一年美作ノ久世備中ノ笠岡二縣ノ代官早川八郎左衛門正紀ハ久世條教一卷ヲ著シ農桑ヲ勸メ孝弟ヲ敦クシ爭訟ヲ息メ節儉ヲ貴ヒ賦稅ヲ完フシ冼子ヲ禁

シ風俗ヲ厚クス等ノ七條ナリ（久世條教早川正紀頌德碑文）大日本農史ニ據ル

紀元二千四百六十二年享和二年但馬國養父郡藏垣村上垣伊兵衛是ヨリ先キ奥州ノ蠶諸國ニ冠タルヲ開キ彼地ニ赴キ數月滯在其水土ノ宜シキヲ察シ其飼養ノ法ヲ究メ歸ツテ桑樹ヲ繁殖シ蠶種ヲ製造シテ諸國ニ販グニ至ル是ニ於テ古來諸書ニ見ルノ者ト自分經驗ノ仕方トヲ輯錄シテ養蠶秘書三卷ヲ著シ板行シテ世ニ傳フ（養蠶秘錄）

傳フ是年羽前米澤藩ニ於テ繭質ノ軟弱ナル者ハ眞綿トシテ之ヲ紡績ノ料ニ宛ラシム（鷹山侯遺澤）大日本蠶絲會報ニ據ル

紀元二千四百六十八年文化五年信濃國小縣郡上鹽尻村佐藤八郎右衛門、山崎五郎右衛門、清水銀右衛門、清水重兵衛、原源十郎、原太左工門、藤本善右工門、同志者數名ヲ募リ上野國前原鄉ノ人高山要七夫婦ヲ聘シ近隣ノ婦女ヲ集メテ繰絲ノ業ヲ始メ初メテ上野國桐生ニ輸出セシニ忽チ佳良ノ評判ヲ得シカバ郡村ヲ誘フテ彌製絲ノ業ヲ務ムルニ至ル

是年（西洋紀元一千八百八年）佛蘭西國サンテチヤンヌ府ニ官立生絲檢查所ヲ設立ス是レ蠶ニ伊太利國チユラン府生絲檢查所設立ニ省ミテ同國生絲賣買ノ圓滑ヲ圖ル目的ニ出

ツ是ヲ佛蘭國官立生絲撿査所ノ嚆失トナス

而シテ同國政府ハ是年四月十三日ノ勅令ヲ以テ里昂市街ニ設立セル數ヶ所ノ私立生絲撿査所ヲ廢止シ更ニ一ノ官立生絲撿査所ヲ新設シ之ヲ商業會議所ノ監督ニ附シ同時ニ十數ヶ條ノ撿査規則ヲ發布セシカ生絲乾燥ノ點ニ係リ實施上其全キヲ得ス商家ノ苦情ヲ生セリ

文化六年植科郡新地村（今ノ南條村）絲屋丈右工門ノ發意ヲ以テ上鹽尻村製絲發起人十名ト計リ毎月二七ノ絲市ヲ開ク事ヲ決議シ之ヲ開キタルニ上田市場ヨリ故障ヲ申立ラレ遂ニ之カ訴訟トナリ議決ノ上右市場ヲ停止セラレタリ（大日本蠶業事蹟幷信濃沿革史料）

（參照　紀元二千四百六十八年文化五年ノ條

文化十一年近江國成田重兵衛養蠶絹篩大成二卷ヲ著シ之ヲ板行ス蓋シ記スル所ロ養蠶製絲販賣ノ有樣ナリ（養蠶絹篩）

當時養蠶ヲ業トセシ地方及ビ當時ノ物價景況左ノ如シ

近江、美濃、飛驒、信濃、上野、下野、陸奥、出羽、若狹、越前、加賀、丹波、丹後、但馬、甲斐、武藏、

以上十六國トナス然レトモ右ニ隣リタル國々ハ自ラ風ヲ移シテ多少ノ養蠶アル可キ乎中古二百年慶長元和ノ頃ヨリ正德享保ノ頃迄凡ソ百年ノ間諸國ノ產物一倍ニ增シ又享保ノ頃ヨリ文化年中ノ今ヲ見レバ四增倍ニ增シタル事十目ノ見ル所ナリトモ云ヘリ（養蠶絹篩）

而シテ當時賃錢物價名稱等ヲ調査スレハ左ノ如シ

絲之部繰賃

絲繰役宛一人一日分　（繰絲百目ノ賃）

縮緬口凡銀四匁乃至四匁五分　繭八百目ッ、常人六百目宛　凡繭十五六ヨリ十二三迄

撰絲口凡銀五匁乃至五匁五分　同五百目ッ、常人四百目宛　同十一二ヨリ七八迄

羽二重口凡銀六匁五分乃至七匁　同四百目ッ、常人三百半目宛　同七ツヨリ五迄

大繭から絲口凡銀三匁五分乃至四匁五分　是ハ大繭ヲ繰リテ作ル絲ナリ重ニ裏絹ニ用ユ

而シテ該生絲ノ相場金壹兩ニ付キ生絲二百二十五匁ナリト言ヘリ眞綿ハ其品數數多アリテ大繭（即チ玉繭トモ云ヒ同功繭トモ云フ）ヲ以テ作ル「生潰」「小綿」「角綿」「空綿」「腐綿」等ノ名義アリテ直段一樣ナラスト雖モ凡ソ金壹兩ニ付キ四百匁替ノ者ナリ

當時近江國長濱ニハ絲問屋八軒アリテ東海北道兩國ノ諸國ヨリ數千駄ノ荷物京都ヘ登ル

咽喉ノ地ナルヲ以テ諸國仕入ノ絲眞綿賣買少ナカラズ其取引算法ノ有樣左ノ如シ

一金一兩六十八匁立。一銀一匁ニ錢九十六文立。右賣買共

一新絲欠引（二歩ヨリ二歩半）豐ヘハ天秤ニテ絲目一貫二十五匁ヲ一貫目トス

一六歩早引絲一貫目ヲ九百四十目トス又一歩風袋引

一絲掛目位ハ捨ツ一代銀ハ何十何匁何分迄ニテ厘ハ捨

一代銀半月延定法但現銀ニ渡セバ一歩引百匁ニ一匁宛

仕切覺

一絲一貫二十五匁但一貫目也內六十匁早引又十匁引

正ミ九百三十匁但銀十匁ニ絲目二十八匁五分カヘ代銀三百二十六匁三分

內三匁三分間屋口錢引殘リ三百二十三匁

此金四兩三分

又曰ク其頃岩代國福島ハ例年初絲六月十六日大市開ク故ニ近國ノ百姓十三日ノ夜ヨリ押掛ケ取引何百駄タルヲ知ラズ當時ノ相場濱付紛ゑるし絲目凡一兩ニ付キ二百目ヨリ二百三四十目一々秤ニテ絲目ヲ改メ取引ス但時ノ豐凶ニ依リ直段ニ高下アリ而シテ濱付紛印、

ハ通用絲ナリ其他絲ノ銘ニ本松ニ「白天正印」「天天正印」「天正印」等アリテ極上絲ナリトス濱付紛印ヨリ凡二割高直ナリ

右絲荷作リ賃等一個ニ付凡二朱、小二朱但澁紙兩紙莚繩共

一駄分凡金三歩荷主ヨリ之ヲ取ル（一駄三十六貫目ナリ之レ四個付ニシテ一個九貫目ノ定法）絲問屋ノ口錢金百兩ニ付キ壹兩ツヽ、荷主ヨリ之ヲ取ル

是等凡テノ絲凡ソ京都ヘ運ブ京都ヨリ出店岩代福島（絲市ノ在ル處）ニ飛脚屋ナル者京屋島屋ノ二軒アリ近江國八幡ノ飛脚屋出店八幡アリ都合三軒ニテ糸荷物引請ケ絲代十萬兩ニテモ絲問屋ヘ爲替振出シ絲荷物京都着迄遲速ニ拘ハラス爲替利足金百兩ニ付キ凡二兩宛荷主ヨリ京都迄駄賃凡金五兩宛荷主ヨリ取之

京都ハ例年正月二十六日初糸賣初メ七月八日賣止メ又タ七月二十六日賣初メ十二月二十一日賣止メトス

而シテ諸國ヨリ運送スル數千端ノ荷物ハ皆ナ是レ京都ノ絲問屋十八軒（當時ノ糸問屋十八軒アリ）ニテ買受ケ右糸屋町八丁ノ絲仲買ヘ買取リ又西陣數萬軒ノ織殿幷ニ組物糸商買中ヘ賣捌ク事トス

而シテ糸屋町八丁ノ仲買人問屋ヨリ毎夜買運ブニ十三貫目ヨリ十四五貫目ヲ一荷トシテ運ブ

又曰ク當時近江國ニ於テ桑ノ取引摘取ノ日課ハ概ネ左ノ如シ

摘賃桑一貫目ニ付キ凡銀二分宛ニシテ一貫目ノ相場春蠶季節十年平均凡銀一匁替ヘ夏蠶季節同上凡銀八分替トス然レトモ時ノ豊凶ニ依リ代銀二匁餘ニ至ル事アリ

其摘手間一人課凡ソ十貫トス併シ魯桑ノ如キハ格別ニナス

又曰ク當時ノ産物本場トシテ知ラレタル者ハ近江國長濱縮緬、上野、尾張ノ絹、丹後縮緬、加賀絹、京都ノ綾羅綿繡、八丈島ノ八丈島（八丈縞乎）上野ノ八丈、奥州ノ生絲等ナリ

又曰ク蠶紙（蠶卵原紙）ハ奥州本場ニ限リ蠶紙ト稱シテ其德アリ諸國ノ商人該地ニ至リテ買來リ而シテ之ヲ賣捌クナリ其相場ノ春蠶種紙正味一匁ニ付銀一匁五分夏蠶種紙ハ同上銀七匁ヨリ八分五厘ナリ桑ハ近江國ノ產ヲ最上トス故ニ春ノ彼岸ヲ期限トス年々數千駄ノ取引アリ（以上養蠶絹篩ニ據ル）

文化十二年羽前國米澤藩ニ於テ曩ニ飼養ヲ許可セシ夏養ハ近年春蠶絲ニ混淆スルノ弊ヲ生セシヨリ自今其飼育ヲ禁止スル事ヲ封内ニ令ス（鷹山侯偉績錄）

（參照）文化十一年ノ著養蠶絹篩ニ曰ク扨テ桑ハ摘ヲ役トスル木ナルガ故ニ摘マザルハ却ツテ所務少シ例ヘバ一反ノ桑畑ニテ春蠶ニ摘桑二百貫アレバ夏蠶ニ摘テ又タ二百貫アル者ナリ然ルニ春蠶ニ摘マスシテ夏蠶計リニ摘ンデモ所務多カラズ却ッテ明年木ノ爲メ惡シク格別ノ損ナリ

按スルニ當時羽前并ニ近江國等ニテハ夏蠶流行セシ者ナラン詳クハ現業史參照ス可シ

文化十四年二月紀伊國和歌山藩ハ養蠶方ヲ置キ栽桑ヲ奬勵シ費用ヲ郡村ニ給シテ桑苗ヲ植ヘシメ兼テ桑苗手入レノ方法ヲ輸告セリ是ニ至ッテ郡付ノ請ニ依リ肥料ヲ貸與ス（和歌山藩制度調書）（大日本農史ニ據ル）

是年京都兩町奉行所ハ高機織職風儀ノ件ニ關シ左ノ如ク沙汰スル所アリタリ

一寶永三戌年四月西陣其外織屋ノモノ共ヘ相守候樣觸書差出置候處不相守近來中就高機織屋奉公人共風儀惡敷不奉公ノ上親請人共モ馴合不埒ノ取計イタシ候族有之其上奉公人共終ニハ當地ニテ身分難立行自ラ他國ヘ罷越織職イタシ候故諸國ヨリ追々新規ノ織物モ仕出シ候樣相成當地ノ織物不捌ニテ西陣其外織屋共都テ絲道ニ携リ候者共衰微難

澁及ヒ候由右体不埒ノ至ニ付主人共難儀及ヒ候得共多人數殊ニ職人故隙ヲオシミ示方難行届旨依之爲取締西陣高機屋奉公人取究所定置高機織屋共ノ内年行事惣代ノモノ共立會奉公人幷手間取其外ノモノ請狀ニ奥印イタシ示方イタシ度旨願出吟味ノ上願ノ通申付候條其旨ヲ存前書觸書ノ趣急度相守以來高機織屋奉公人手間取其外ノモノ共召抱並暇遣候節々又ハ不埒ノ儀共有之ハ右取究所ヘ可申出候尤年行事惣代共權威ヶ間敷儀無之正路ノ取計イタシ主人共モ奉公人共ニ對シ不束ノ儀無之様可致旨申渡置候

一右高機織屋共ノ外織屋奉公人等是又近來風儀不宜不勤イタシ候由相聞不埒ノ事ニ候實永年中觸置候趣急度可相守候

一田舍ヨリ端物多織出シ西陣織屋共家業差支及困窮旨先年度々申立候義モ有之處西陣織屋者ノ難儀ハ前條同様ノ儀ニテ不束ノ事ニ候都テ當地住居ノ者他國在方ヘ引越候節ハ他織屋共ノ内ニモ身上持崩シ候テ他國ヘ罷越シ織職致シ候モノモ有之趣相聞ヘ當地織可斷出若不斷出モノ有之ハ吟味ノ上町役人家主マテモ急度可申付旨前々ヨリ相觸置候付以來無據譯ニテ他國在方ヘ引越ノ儀斷出候節織屋共並糸遣職人共ハ其節糺ノ上他國他所ニテ同職筋致間敷旨ノ證文可申付候間其上ニモ若同職筋イタシ候歟又ハ不斷出他

國他所ヘ引越ニ於テハ吟味ノ上町役人家主迄モ急度可申付候

右之趣西陣其外織屋糸道職人共ヘ不洩様可相觸モノ也

文化十四年丑四月十四日

於是高機織屋ハ取究所定法ヲ左ノ如ク定メタリ

定

一奉公人取究所ノ儀此度御願申上蒙御赦免候然ラハ奉公人ノ風儀實体ニ相成無難ニ相勤候様相計ヒ仲ヶ間中差支無之様可仕候事

一奉公人義ニ付仲ヶ間ノ人當席ヘ被參候處前段ノ仁有之暫相待居候共無益ノ雜談致間敷候事

一火ノ元ノ儀隨分大切ニ可仕候事

一當席勤日ノ事每月何日何日ト相定メ一ヶ月ニ三日立會相勤可申候事

尤隨分儉約仕惣中禁酒タルヘキ事

一當席ノ儀ハ朝五ツ時ニ遲刻無之相勤暮六ツ時限リニ引取可申候事

一奉公人年季前季居トモ不埒相重リ候ニ付他國ヘ罷越候者有之候ハヽ御願奉申上假令何

レノ國ニ參リ候共早速引戻シ可申候事
一奉公人請人ノ儀ハ御支配國ノ内ノ者ヲ請人ニ相立可申候事
但親共義モ同樣御支配國ノ内ノ者ヲ以印形取之可申候事
一手間取ノ儀ハ半季極ニ有之候得共假令同家ニ季ヲ重ヲ相勤居候共半季毎ニ取究所ヘ相届可申候事
若不沙汰ニイタシ置時ハ其主人越度ニ相成候事
一奉公人共不埒有之候節取究所ニテ段々理解相聞候處一向ニ不相用無理無体ノ儀ヲ手强ク申立居候モノハ無據乍恐御願可申上候事
一取締イタシ候迚主人方ニ若不道理ノ儀ヲ申募候仁有之候ハヽ一切取畝申間敷事
一奉公人示シ方ノ儀ハ行事中互ニ正路ヲ以テ取計ヒ可申候私ノ依怙無之樣相愼可申候事
尤行事中ハ八組共一ケ年替リニ相勤可申候但其組ノ勝手ニ付一ケ年モ持越ニ相勤候義モ可有之候得共重モ立候樣ニ相成義仕間敷候事
一當席出勤ノ仁其節無據義ニテ不參ノ時名代被出候委細前后不案内ノ仁差出シ候義無用ノ事

右之通定法相立申候上ハ銘々可相守候以上
月日
是年五月和歌山藩養蠶方ヨリ各大庄屋ニ命シテ曰ク當年在々ニテ養蠶ヲ爲ス者ハ初年ノ事ニ付何角物入等之レアル由ニ相聞ヘ此ノ度養蠶場所敎女一人前雇料ノ内ヘ銀二百目ツヽ貸下グラル右銀子ハ四五ケ年ヲ經テ百姓共利益當ミタル上ニテ上納致ス可キ旨仰サレタルニ付此ノ上養蠶ノ事相互ニ精々勵ム可シ（和歌山藩制度調書）大日本農史ニ據ル
文化十五年信濃國主眞田伊豆守ヨリ柊代奉行所ニ於テ同國小縣郡鹽尻村藤本善右門年來養蠶ノ親切ノ趣ヲ以テ褒賞ス其文ニ曰ク（褒賞寫書）
鹽尻村藤本善右門其方儀爲登絲ノ義最初ヨリ立入甚タ深切ニ取扱計ヒ追年相弘マリ候ニ隨ヒ彌厚心添致タシ去年中ニ致リ候テ絲名目モ相定リ荷印ヲ以テ通用等ノ致手初奇特至極ノ事ニ依リ依之申渡方モ可有之處彼是差障ノ向モ有之哉ニ相聞エ候ニ付キ暫ラク褒美ノ不及沙汰候且年來親切ノ取計方ノ義ハ其筋向々ヘモ相通居候事ニ候
因ニ曰フ爲登絲（のぼせ）當時生絲ノ京都ヘ登セ（のぼせ）販賣スルヲ以テ俗ニ「のぼせ」ト云ヒ習シ遂ニ一般ノ略語ヲ造ルニ至ル

又曰フ差障リ云々ハ松平伊賀守ノ領地ニ屬スル者即チ他領ノ民ヲ褒賞スルガ故ニ差障云云ノ義ニ出ヅルナリ

傳フ文化年中（當年未詳）岩代國伊達郡梁川町ノ農田口彦兵衛ナル者火力温暖育ヲ發明シ飼育日數二十五日ヲ以テ上簇セシムルニ至ル（加藤祐次郎温暖育秘訣日本産業事蹟）

（參照）大日本蠶史、現業史

紀元二千四百七十九年仁孝天皇文政二年十二月信濃國藤本善右衛門勘定吟味産物方奉行窪田三郎左衛門役宅ニ於テ左ノ通リ賞セラル（褒賞寫書）

其方儀當産物品々ノ義厚ク心配萬端深切ニ取計ノ趣キ相聞ヘ一段ノ事ニ候依之内々盃三ツ銀三枚之ヲ下サル

（參照）紀元二千四百七十八年光格天皇文化十五年ノ條

仁孝天皇文政三年京都織物仲買古組ハ組内申合ヲ左ノ如ク定メタリ

組内申合定之事

一御公義様ゟ法度ノ趣堅相守可申事

一享保十六年辛亥十二月相改候定目明和三年丙戌十二月書添候定目ノ趣急度相守可申事

一諸帳面諸書物類封印ノ儘箱ニ入置上中下組名前相撰半季替リニ相廻シ諸書物聊紛失不致候様吟味ノ上取渡可有之候

一西織屋屋衆中ハ根本ノ可爲厚田故大切ニ可致事第一ノ心得ニ候依之古來ヨリ相定有之候外聊無理ナル對談致間敷候事

一金相場等格別仕候事有之候歟亦ハ臨時相談事出來候共老分衆中ヨリ治定致候義申出候迄何事ニヨラス織屋衆中ヘ聊申入候義堅致間敷候尤織屋組頭年番衆中ヘ當組内老分并行事衆ヨリ示談ニ及ヒ可致沙汰候間夫迄銘々我意ノ應對堅可爲無用候

一西陣表年番行事衆中ト兼テ入魂ニ申合セ相互ニ心得違無之様可致候事

一組内一統承知ノ上連印イタシ有之候書面ノ趣急度相守可申候若心得違イタシ被相背候仁有之西陣表ヨリ何事ニヨラス名指申來候節其儀ニ付寄合等仕候歟亦ハ無據御公邊ノ沙汰ニ相成候義抔有之候ハヽ右諸入用ハ其當人ヨリ出銀可致候事

一西陣表ヨリ不寄何事書附到來ノ砌行事衆中兼テ相心得延引不致候様早速一統ヘ披露可致候事

一何事ニヨラス行事老分衆中ト被及示談候上取計可有之候我意ノ取計被致候族有之候ハ、組内ヘ一札取之可申候事

一御得意様先々ハ不申及組内ヘ商ヒニ出候節聊雜言ヶ間敷言葉遣ヒ無之候様行儀正敷柔和禮義可有之事

尤手代小者ニ至迄途中ニテ行違候折節意義深ク互ニ默禮可致候事

一近來手代小者ニ至迄惣而風儀悪敷商賣ニ出候体ニテ風呂敷ヲ乍持猥ニ芝居亦ハ身分不相應ノ遊所ニ立入候事其以心得違ノ至也我其始メ奉公ニ來リシ頃ノ身分幼少ノ恩義ヲ忘レ漸々商賣体ノ間ニ渡リ候得者是ニテ我主人ヘ事タリヌト思ヒ其私ヲ專ニシテ主人ノ功ヲ我功ト思ヒ我意ニヲケル事遂ニ天ノ罰ヲ蒙リ我カラ沈ム淵ヲ知ラス無慮ノ輩多ク有之候條是皆ナ已カ邪智ヲ以テ已ヲ亡スコト殘念ノ至ニテ此義幾度モ深ク我身ニ顧テ我生害ノ大事ハ此奉公中ニアル事ヲ能々相考何事モ相勤愼忠務可候勵候事

右之條堅相守常々召遣ヒノ者ヘハ其主人ヨリ篤ト申聞心得違無之様急度相守ラセ永々可令相續候者也

文政三年庚辰正月

古組

文政五年ニ至リ京都西陣織屋惣中ハ相談ノ上仲買取引ノ法ヲ定メ一層既往ノ定法ヲ堅クス

定

一御公儀様被爲仰出候御法度ノ趣ハ勿論仲ヶ間定法通堅相守可申候事

一當職分ニ付相抱候奉公人ノ儀ニ付寶永三戌年御願奉申上候以來御觸書二季毎ニ被下置候別而半季極ノ奉公人召抱候節先主人ヘ届合不念無之様猶又文化十四年丑年奉公人取究所幷他國ヘ參リ當職イタシ候者其居所知レ候ハヽ引戻シ可申様御願奉申上候處御赦免被爲成下以來年季半季居トモ相抱候節ハ取究所ヘ申出請奥印可受申旨之難有御觸流被成下然上ハ以來當職ニ付召抱候奉公人ハ一人モ不洩様取究所ヘ申出奥印請可申候取究所ヘ不申出請狀ニ奥印無之奉公人ニ故障出來候トモ仲ヶ間中ニ取敢不申候事

一奉公人ハ勿論主人方ニ不束ノ義有ハ相糺可申事

一糸ノ儀ハ諸糸トモ糸屋兩仲間ニテ買取可申事

一屑糸ハ糸屋町二番會所ヘ賣渡可申事

仲買方取引定

一絹代銀壹割引正味

一金相場ハ糸屋町觸金通(兩際仕切同斷)
一同上者五日九月廿日半月(其餘ハ日廻シ)
但シ七月半月春季一歩秋二歩
一端銀ハ五分仕掛
一綿金入毛織類　但一丈ニ付三寸入其餘ハ付出シ
一絹疵尺遠翌朝戻シ
一伏セ機絹直段三段落二ヶ月ツヽ、但朔日落
但閏月有之年ハ銘々應對ノ事　但前後ノ月ニ應スル事有也
押箔金糸屋仲ヶ間應對通
一押之類何ニテモ　壹尺四寸五分下リ
一金糸廻リ貳尺三寸ニシテ貳百廻リ定壹束
一中金糸廻リ四尺ニシテ百廻リ定壹束
右ハ仲ヶ間定法通一統承知連印ノ上ハ無違背急度相守可申候若違背ノ仁有之候ハヽ可致
座外候定法依ヲ如件

文政五年午正五月

紀元二千四百八十四年文政七年西洋紀元千八百二十四年佛蘭西國里昂商業會議所ハ生絲
檢查ノ不完全ナルヲ認メ檢查所長フエリサン|ニ委任シテ改正案ノ調查ヲ創ム
文政八年三月出羽秋田藩主佐竹侯養蠶所ヲ掇ム指南ヲ下野國都賀郡都賀社ニ求ム是ニ於テ
該社ハ常陸國眞壁郡關本村西村某ヲ撰ンデ秋田藩ニ遣ル佐竹侯ハ之ニ二人扶持金拾兩ヲ給
セラレ前后五年ノ間養蠶ノ節ニハ必ス秋田ニ下リ結城派ノ蠶養方ヲ教ユ(都賀社調書)
因ニ曰ク原文都賀社ノ調書年代未詳トアリタレドモ信濃蠶業沿革史料ノ考證セシ佐竹侯
ガ下セシ覺書ニ依テ見ルニ文政八年トアリタルヲ以テ訂正シテ文政八年ノ條ニ加フ蓋シ
文政八年以降五箇年ヲ限リシ者乎然レハ文政十二年迄ヲ言シ者ナル可シ而シテ藩主カ養
蠶方ニ命令セシ覺書ハ左ノ如シ

覺

一火ノ本用心ノ儀ハ兼被仰渡ヲ守リ養蠶小屋ハ云フニ及ハス長屋々々ニ至ル迄互ニ吟味
ヲ遂ゲ頭合ノ者供ニ見回リ制度致ス可シ

高機八組　　年行

一養蠶屋へ出入ノ者ハ手洗口漱キ身ヲ潔白ニ致シ蓬ヲ以テ器物幷ニ手足ヲ清メ假令たわ
むれ事モ愼ム可シ
一五辛食ス可ラズ殊ニ葷ハ忌ム者ナレバ夫ニ似ル品物ヲモ袂ニ懷ニ持入ル可ラズ
一己ガ食事ハ蠶ノ後ト知ル可シ其日ノ晴雨寒暖ニ依リテ駈引（掛引ノ事乎）扱ヒ專ラナレバ只指南ノ敎ニ從ヒ槩ノ合圖ヲ守リテ進退ス可シ船兒ヨリ時ヲ積ミ日ヲ重ネテ忙シケレバ夜ヲ以テ日ニ次グト知ル可シ
一油ノ香ヲ至ツテ嫌フ者ナレバ男女トモ髮ヲ束ネ候節ハ糠ニテ洗ヒ蓬ニテ手ヲ清ム可シ
右之條々相背輩有之ハ上トナク下トナク嚴重ノ御沙汰可有之者也
文政九年出羽秋田藩又タ更ラニ蠶養ノ者ニ左ノ如ク觸レ示ス
今般格別ノ思旨ヲ以テ養蠶ノ儀仰セ出サル然ル上ハ第一人和ヲ旨トシ己レノ我意ヲ立ツ可ラス能ク敎ヲ守リテ人ヲ悔ラズ風ニ起キ夜半ニ寢テ其精神ヲ盡サバ如何デカ海嶽ノ神祇モ感應セザランヤ陰陽調和シテ効驗疑フ可ラズ勉メテ怠ル事勿レ
是年巨濳園主人機織彙編五冊ヲ著ハシ板行ス機織ノ法桑麻草綿ノ事ヨク養蠶製絲染色等ニ至ル概ネ漏ラス所ナシ（機織彙編）

文政十年甲斐國郡内領（都留郡）ニ青白繭現ハル當時國々ニ於テ發見者ト稱セラル、者左ノ如シ

信濃國小縣郡鹽尻村　藤本善右衛門（信濃蠶業沿革史料）
岩代國伊達郡梁川村　伊東彦治郎（山梨縣蠶絲業史）
上野國綠野郡上大塚村　織茂周平（蠶事眞說）

（參照）大日本蠶史第二部現業史
是年信濃ノ國安曾ノ人北澤始芳山繭養法秘傳抄一冊ヲ著ハシ板行ス記スル所ロ撰種養法ヨリ製絲織紝ノ事圖ヲ加ヘテ說明ス（山繭秘傳抄）
文政十二年蠶桑園稻麿呂蠶養手引草一冊ヲ著シ寫本ヲ以テ世ニ傳フ
因ニ曰ク蠶桑園稻麿ハ肥后國八代ノ人ナリト云フ者アリ
又タ甲斐國八代郡ノ人ナリト云フ者アリ
按スルニ甲斐國ノ人ト云フハ信ナラン
（考證）桑種類ハ色々アリト雖モ甲州ナドノ地ニハ中尾ト云フ桑、高橋ト云フ桑宜（下略）
殊ニ甲斐ヲ以テ其書ノ冒頭ヲナスヲ見レバ甲斐國八代郡ノ者ナラン剩ヘ甲斐ニ於テ養蠶

ノ盛大ナルハ八代山梨都留ノ三郡ニシテ今ハ分郡シテ八代ヲ東西ニシ養蠶ノ最優地ヲ東八代郡ト爲ス而シテ山梨郡モ亦東西ニ分レ養蠶ノ最優地ハ東山梨郡トナス都留モ南北ノ二郡ニ分レタレトモ古來甲斐絹ノ有名地ニシテ本邦之ヲ知ラザル者ナシ

紀元二千四百八十九年乃至九十年即チ文政十二年ヨリ天保元年ノ間下野國那須郡興野村ニ産出スル絹川織ヲ此時無地ニ改良ス綿繻子織即チ是ナリト云フ（大日本産業事蹟）

紀元二千四百九十一年天保二年下野國足利新田町ニ始メテ三個所ノ巡回市場ヲ開キ各店前ニ櫟臺ヲ設ケテ織物ノ賣買ヲ成ス當時足利及近郡近鄉ノ物産ハ翦織（即チ後世云フ八反織）縞縮緬透谷等ノ絹織等ナリト云フ（大日本産業事蹟）

紀元二千四百九十一年天保二年（西洋紀元千八百三十一年）佛蘭西國里昂商業會議所ハ工科大學卒業生技師タラボーニ命シテ生絲檢查法改正案ヲ調查セシム是レ蠶ニフエリザンノ調查實地ニ應用シ能ハザリシヲ以テナリ而シテダラボーハ左ノ試驗成績書ヲ提出ス

第一項　生絲ハ常ニ著シキ水分ヲ含有シ或ル場合ニ於テハ烈シク之ヲ吸收シ又速ニ之ヲ散失ス

第二項　生絲ハ人工ノ力ヲ籍ルニ非レハ水分ヲ散失セシムル能ハズ而レモ暫ク之ヲ放置スル時ハ忽チ舊ニ復ス

第三項　平生商家ニ於テ取扱フ生絲ハ概シテ十分ノ一以上水分ヲ含有ス

第四項　生絲ハ或ル場合ニ於テハ瞬息ノ間ニ多量ノ濕氣ヲ吸收シ其量目三分ノ一以上迄增加スル事アリ

第五項　生絲ノ濕氣ヲ含有スル事ハ容易ニ之ヲ鑑定スル事ヲ得ルト雖モ斯ル多量ノ水分アルヲ確認スルニハ檢查ノ方法ニ依ラサレハ之ヲ知ル事ヲ得ズ

紀元二千四百九十二年天保三年（西洋紀元千八百三十二年）十月佛蘭西國里昂商業會議所ハ曩ニタラボー技師及學士委員會ニ托シ前後ノ取調ヲ實地ニ比較セシメツヽアリシヲ以テ是月同會ノ報告ニ依リタラボー技師及檢查所長一名都合三名ノ調書ヲ印刷ニ付シ之ヲ主務大臣ニ呈出シ且ツ關係者ニ配附シタリタラボー技師ノ調書ハ曩ニ學士會ノ賛成シタル鑑定書ヲ添ヘアリテ實ニ目下實施スル生絲檢查法ノ根原トス要スルニ生絲水分檢查法改正案ハタラボー技師之カ先鞭者トナリ其後幾多ノ學士之ヲ實地ニ講究シ孜々汲々十年ノ星霜ヲ經テ始メテ好結果ヲ得ルニ至リシナリ

天保四年信濃國上田藩ハ上田ニ產物改會所ヲ設ケ絹一疋ニ付キ銀壹匁五分ノ手取料ヲ取立

テ絲質染色尺幅等ヲ撿査シ上田産物ノ撿印ヲ押シテ信僞ヲ示ス當時地方ノ重ナル絹織ノ種類ハ上田縞、熨斗目絹、白斜子、白紬ノ五種ナリトス

是年四月信濃國上田藩ハ領内蠶種取締ノ爲メ制度ヲ編製ス蓋シ同地方蠶種商人ノ弊害其律文ニ於ケルガ如ク等閑ニ附スヘカラサルニ至リシヲ以テナリ

天保四巳年上田領制定書

御領分近來盛ンニ相成候就テハ蠶種商人共右ニ準シ追々相增シ候由然ル所諸國種商人共相談シ夫々規定モ相立置候得共右規定違背ノ者間々有之趣キ相聞ヘ殊ニ御領分ノ者ノ内ニハ夫等ノ義ニ付他ヘ聞ヘモ不宜者多ク又々御領内右商仲間同士兎角一致致シ兼種々不取締ノ義共有之由其外銘々手取ノ種ヲモ余國ノ名目ニテ商買向モ相聞ヘ是等ノ義甚以テ不宜事ニ候却テ寶意ニ基キ取扱候ハヽ、永續モ可致ノ處本場名目ナラテハ聞ヘモ不宜樣相心得候故ノ義ニハ可有之候得共假令商ノ道タリトモ右樣ノ僞リヲ以テ取扱候義ハ有之間敷事ニテ殊更國産ノ義ハ人力ノミニアラス天性自然ニ開ケテ其國ニ備リ候事故當所産ヲ以テ他ノ産物抔ト僞飾商候樣ノ義ハ第一天理ニ背キ候故一且ハ利潤ヲ見候トモ冥助可有之ノ道理無之次ハ國ノ名折ニ相成其外彼是不正ノ取扱等モ有之趣キ相聞ヘ難捨置候ニ付

此度一統呼出シ存念相糺シ候處制度相定メ候樣致度旨申出候ニ付御領分蠶種商人共永續ノ爲メ左記之通制度相立最寄組々ヘ制度申渡置候間實意ヲ本トシ得意場ハ勿論同商賣ノモノ共相互ニ引立候樣心懸可申候尙此上繁昌モ致候ハヽ彌國益ニモ相成候付キ前段之趣篤ト勘辨ヲ加ヘ可取扱申乍去農事ヲ余所ニ致シ此道ニ片寄候樣ノ義ハ勿論農民ノ本意ヲ不取失農業ヲ專ラ心懸申樣精々可致心掛扱又商賣柄トハ乍申何レモ兎角表ヲ飾リ驕奢ニナリ其外於旅先種々ノ惡業ニ攜リ候モノモ有之哉ニ相聞ヘ候是等ハ固ヨリ御領内ノ風俗ニモ相掛リ候義ニ付夫々糺明ノ上申付方モ有之候得共先此度ハ勘辨ノ上不其沙汰仕自今急度相愼ミ候義專要ノ事ニ候

一蠶種商人共ヘ鑑札下渡候間銘々村役場ニ於テ受取リ大切ニ取扱可有罷候勿論鑑札無之モノハ聊ニテモ蠶種商不相成候事

但シ一且下渡候上ハ其者一代其儘渡切ニ致候間改名等ニテ認替ノ儀ハ村役人ヲ以テ可願出候扱又札主失致候カ商相止候者ハ是又早々村人ヘ其段申出鑑札相納可申候右ノ者ノ商買續致度候ハヽ、是又村役人ヲ以テ可願出候

一來午年ヨリ他國ヘ蠶種商候儀堅不相成乍然無據趣有之他國ノ蠶種商致度候ハヽ、其段村

役人ヲ以テ可申出候其趣意ニヨリ別段改受ケ可申付事

一銘々商候蠶種ノ分不殘當年ヨリ別紙ノ通リ最寄組合村限リ於村役所年番立置キ改方立會テ吟味來ル午年ヨリハ信州上田產ト有之改印申付候勿論右剋料トシテ蠶種一枚ニ付銀七匁五分宛ノ割合ヲ以テ上納申付候間毎年十二月十五日限リニ居村ノ役所ニ可差出候事

一取締ノ爲メ組合ノ村ニ內ヘ改方申付候ニ付テハ旅先迄モ心得方申付置候若シ制度ノ趣相背キ候者有之候得者夫々取調可申出筈ニ付兼テ其旨相心得不正之儀無之趣可心懸候事

一半取ト唱候薄種取扱候儀堅不相成候事

一自他ノ損益ニ拘リ候儀ニ付可成丈ケ蠶種吟味可致候若シ如何敷品ヲ以テ改印望候共其分ハ取上可申付候事

一來午年ヨリ毎年正月ヨリ三月迄ニ銘々其年商候蠶種紙取揃村名並ニ名前共一枚毎ニ相記シ年番ノ村役所ヘ可差出申尤改印致シ渡置尙又種取揃候得ハ六月中旬迄ニ可致申渡候樣申付置候間日限觸方次第無遲滯差出可申候事

一仲間ノ內ヘ渡賣致候分村名並ニ名前共認候ニ付其旨相届改印受置種賣渡ノ上買主名前自他共ニ年番ノ村役所ヘ可相届候又ハ領分者ノ內ニテ買取リ候ハヽ其旨相届村名名前相認差出改受可申受事

一種場賣買致候ハヽ双方ノ者奥書ヲ以テ取引可致候事

一夏子秋子ノ種ハ改不申ニ付キ勝手次第商可致事

一銘々飼立候鑑札銘々旅先迄モ持參可致事

右ノ制度ノ趣キ聊無迷失相守可申候若不埒ノ者於有之ハ無用捨屹度咎申付候上商ノ道差留候條其覺悟可有之者也

紀元二千四百九十三年天保四年（西洋紀元千八百三十三年）佛蘭西國里昂商業會議所ハ生絲水分撿查法改正案ニ附キ三種ノ法案ヲ具シ主務大臣ニ出願シ技藝會議ノ調查ニ附セラレン事ヲ請ヘリ技藝會議ハ直ニ其調查ニ從事シ委員ダルセーヲシテ同會ヲ代表シ佛蘭西南地方各撿查所ヲ巡視セシメ里昂ニ出テタラボーノ發明セル温度器ノ運用ヲ實施セシメタリ

又ダルセーハ主務大臣ノ命ニ隨ヒ各地當業者及ヒ學者等ヨリ組織セル特別委員會ニ臨ミ

討議ノ末タラボーノ水分檢査ハ温度ニ不同アル事ヲ知ラシメ遂ニ左ノ如ク結論セリ

第一項　タラボー水分檢査法則水分定量ヲ十分ノ一トシテ百「キログラム」五〇ヲ減セリシタルニ「キログラム」ノ生絲ヲ檢査

第二項　舊式ノ檢査法ニ依レバ百「キログラム」ニ附キ四「キログラム」ヲ減セリ

第三項　フエリンサン氏檢査法ニ依レハ百「キログラム」ニ附キ五「キログラム」七五ヲ減セリ

且ツダルセーハ温度ヲ平均ナラシムル器械ヲ發明シ檢査實施前生絲全俵ノ温度ヲ平均シ乾燥準備ニ供ヘタリ委員會ハ再々調査ヲ施シタル後全會一致ヲ以テ左ノ如ク結論セリ

第一項　從來檢査所ニ於テ實用シタル生絲乾燥法ハ其當ヲ得ズ

第二項　生絲ハ常ニ若干ノ水分ヲ含有シ其分量ハ百分ノ十若クハ十一ナル可シ

第三項　已ニ檢査ヲ了リタル生絲ニテモ亦若干ノ水分ヲ含有ス其分量ハ百分ノ八乃至十ナル可シ

第四項　タラボーノ乾燥法ハ生絲ノ水分ヲ除スルヲ得又能ク其純量ヲ確定スルヲ得ベシ

第五項　生絲ハ攝氏百〇五度以上又ハ百七十度ノ温度ヲ用ユルモ其性質ヲ變化セサリキ

第六項　生絲ヲ全然乾燥セシムルノ方法ハ今日ニ至ル迄積極的ノ基礎トナリタル者ナリ

第七項　水分檢査ヲ施スニハ生絲一俵中ノ幾分ヲ用ヒ而シテ其全俵ニ及ボス可ラズ

天保五年加賀藩士植物方吏員小塚藤十郎大聖寺地方三十余町歩ヲ開墾シテ桑樹ヲ植付ケタリ然レトモ地味疲瘦ニシテ桑樹ニ適セズ遂ニ荒蕪スルニ至ル（大日本産業事蹟）

同五年五月信濃上田領主ハ蠶種營業者取締ノ件村々庄屋取締ノ制ヲ廢シタルヲ以テ左ノ如ク達ス

去巳年中蠶種改ノ義制度相立テ一組限リ庄屋共年番立置キ致方ノ者打寄蠶種取扱候樣申付置候處庄屋ノ内中ニハ蠶種ノ義不案内ノモノ有之年番ニテ取扱候義迷惑ニモ存居候者有之哉ニ相聞ヘ候此度蠶種取締ノ者夫々申付定引受爲致候ニ付キテハ庄屋共年番ニテ取扱爲致候ニ付キ種改ノ節村々役所ヘ罷越候義モ不及候間其旨可存候尙又當年ヨリ取締方幷ニ改方ノ者共蠶種改ノ節村々役所ヘ罷越候義モ可有之ニ付萬端不實ノ義無キ樣世話可致候

午五月

右之趣キ村々庄屋一統ヘ可被申觸候此段申達候以上

五月廿六日

蠶種取締方頭取
同蠶種取締方ノ者共ヘ

此度夫々蠶種取締方申付候ニ就テハ彌以厚心掛去年中申聞置候制度幷心得方書付ノ趣相守改方ノ者共ヘモ得ト申聞セ萬端手抜無之様取扱可致候尚ホ此上心付候趣モ有之候得者可申出候蠶種商人判料以來取締方ノ者改方ノ者トモヘ申付爲取集頭取方ヘ差出頭取ヨリ掛手代ヘ差出候様可致候

午五月

此度組々年番庄屋取扱相止蠶種取締方頭取幷ニ取締方ノ者共夫々申付置候間制度之趣相守万端取締方ノ者ヨリ受差圖手抜無之様取計可申候

頭取　上鹽尻村庄屋　佐藤嘉平治
同　國分寺村庄屋　桶口定吉

御給米三俵

取締方　下鹽尻村庄屋　瀧澤庄左工門
同秋和村庄屋　中島清左工門

而シテ蠶種商賣ノ者其營業取締ニ關シテハ左ノ如ク達ス

御領分ノ者共ノ内蠶種商ニ事寄セ僅々蠶種ヲ持參長旅致居リ手ナクサミ等心懸ケ實意ノ商人共ヘモ相勸メ爲迷惑候儀モ有之且其遊興場所ヘ罷越仲間ノモノ引入無益ノ金錢爲遣

御給米二俵

常田村庄屋　新井得右工門
笹井村庄屋　飯田万右工門
伊勢山村庄屋　庄左工門
上洗馬村庄屋　堀内治吉
下之條村庄屋　小泉勝兵工
下室賀村庄屋　小池多左工門
手塚村庄屋　中村庄屋　桑吉
稻荷山村庄屋　保柳才兵工

以上

捨身持致放埒成者モ有之趣相聞ヘ甚タ以テ不埒ノ至リニ候一体蠶種商ノ儀ハ作間餘業ノ事ニ候得者賣捌相濟シ次第早々歸村耕作出精可致筈ノ事ニ候此度取締申付候ニ付然ルモノ銘々蠶種賣商ノ義モ夫々知レ居ル事ニ付キ以后聊ノ蠶種持參長旅等致居候者ハ旅先ノ次第急度相糺候義モ可有之候間心得違無之樣可致候

一旅先ニテ蠶種押付賣致シ又ハ餘人ノ賣場先ヘ手段致シ賣込候樣ノ者モ有之趣相聞ヘ甚タ以テ不相濟事ニ候畢竟是迄旅出勝手次第ニモ相成居候故右樣ノ義モ有之候事ト存候得者以來一同ノ者蠶種賣出立時節等向々仲間相談ノ上罷出候樣致總テ實意ニ基キ不條理不法ノ取計無之樣商賣可致候

一種繭性合不宜品ニテモ下直ヲ見込買受種取致或ハ人ノ約束致置候種繭等直段耀リ上ケ買取等致シ其外坪方ヘ不勘定ノモノモ有之趣キ相聞ヘ是又不埒ノ事ニ候以后右体ノ義堅ク無之樣可致候

右之條々若相背キ候モノ有之候ハヽ、夫々取糺ノ上急度咎申付上蠶種商賣差留候樣ニ可相成候此度組合ノ內蠶種取締ノモノ夫々申付置候ニ付キ猶右ノ者共ヨリ追々相聞候義モ可有之間其旨可相心得候

右之趣キ村々役人共ヨリ蠶種商賣ノ者共ヘ不洩樣篤ク可申聞事

紀元二千四百九十五年天保六年（西洋紀元千八百三十五年）ダルセー|ハ佛國西國巴黎ニ歸リ技藝會議ノ報告トシテ是迄巡視實驗セル事項ノ調製ニ從事ス里昂商業會議所ハタラ|ポー|式ノ乾燥器械ヲ運用シ新檢查法ヲ定メンガ爲メ學理實地ニ長シタル諸技師ヲ聘用シテ各自ノ考案ヲ定ノ其參酌シテ改良ヲ加ヘ其報告書ヲ委員會ニ提出シ全會一致ノ協贊ヲ經左ノ決議ヲ了シ政府ニ請願セリ

第一項　生絲ノ水分ヲ全然乾燥セシムルノ檢查法ハ直ニ採用スベキ者トス

第二項　檢查實施前生絲全俵ノ涅度平均ヲ量ルガ如キハ無益ナル而已ナラス却テ迷ヲ生スルニ附キダルセー|ノ平均法ハ採用セザル者トス

第三項　生絲ヲ全然乾燥シ而シテ其純量ニ水分定量十分ノ一ヲ加フルハ商家ニ用ユル定量トシテ可ナル者トス

天保八年羽前國米澤藩飯澤半右衛門ハ越后ノ國栃尾下野國結城等ノ織物製造家ニ就テ紬織ノ業ヲ習フ（米澤藩遺澤）大日本蠶絲會報ニ據ル

是年正月武藏國山田露川養蠶往來一冊ヲ著ハシ江戶馬喰町山口屋藤兵衛之ヲ上梓ス（養蠶

往來）

天保十二年信濃國小縣郡鹽尻村藤本善右衛門多年ノ實驗ニ徵シ蠶飼ノ學一冊ヲ著シテ上梓シ當業者ニ頒ツ（蠶飼ノ學）

是年幕府ハ命シテ庶民衣料ノ標準ヲ左ノ如ク定ム

一女ノ衣類大造ノ織物縫物無用ニ可致候縫金糸等入候テモ小袖表壹ツニ付キ代銀三百目染摸様小袖壹ツニ付キ代銀百五十目ヲ限リ夫ヨリ高直ノ品賣買致間敷候尤モ惟子等モ右ニ準ジ可申事

中略

中略

但髮結ニ縮緬ノ色切ヲ造ラヘ又ハ女ノ用候はさもの鼻緒等高直ノ品賣買致間敷事

右之趣ハ武家方ヘモ仰出サレ候間町中ヘ洩レザル樣觸レ知ラス可ク者也（御觸書集覽）

紀元二千五百一年仁孝天皇天保十二年幕府天下ニ令シテ庶民ノ絹布ヲ用ユルヲ禁スルヲ以テ京都西陣ノ織屋及絲屋等仲間ヲ廢シ休業セリ（西陣物沿革提要ニ據ル）

紀元二千五百一年天保十二年（西洋紀元千八百四十一年）四月二十三日佛蘭西政府ハ勅令ヲ以テ生絲水分乾燥法ヲ定メ同年十二月二十日ヨリ實施スル事トナセリ則チ現今ノ撿查法ハ是ヲ以テ行フ

是ヨリ先キ千八百四十年我天保十一年水分乾燥法ノ實施將サニ其局ヲ結ハントシ技藝會議モ亦特別委員ノ研究ニ就テ大ニ賛成ノ意ヲ表シタレハ政府ハ新撿查法ヲ採用セントセシモ多少反對ノ傾アルヲ以テ前來ノ試撿成績書ヲ添付シ西南各地ノ蠶絲關係者及商業會議所ノ意見ヲ諮問スル所ロアリシニ水分定量ノ件ニ關シ激論アリ結局相折衷シテ百分ノ十一ト定メタリ

紀元二千五百二年天保十三年三月信濃國上田藩ハ蠶種製造家ニ相觸テ曰ク

御領分蠶種商人共不取締ノ趣相聞候ニ付キ取締幷ニ世話役ノ者申付候處猶又此度取締鑑札被下置爲冥加鑑札料上納致度改メテ相願候ニ付キ願之通リ被仰付候間向後無鑑札ノ者蠶種商不相成候村役人幷ニ最寄取締ノ者連印ニテ可願出事

右之趣兩組村ニ不殘樣可被申觸事

是ト同時ニ蠶種商人ヘ達セラレシ者ハ

御領分蠶種商人共不取締ノ趣相聞ヘ候ニ付キ不正之儀無之樣去年中相觸レ請書申付候處

猶又夕爲取締鑑札被下置爲冥加鑑札料致上納度段取締幷ニ世話役ノ者共ヨリ相願候ニ付キ願之通リ被仰付候間此段申進候以上

此度蠶種商人取締ノ爲メ鑑札人別ニ申渡候間銘々旅先迄モ持參可致事

一鑑札冥加銀一枚ニ付キ銀七匁五分宛上納申付候間取締幷ニ世話役ノ者相集メ毎年六月上納可致事

但冥加銀ノ義ニ付非常御手當御積立立被置候

附筆紙墨入用ハ鑑札料ノ内ヨリ年々被下置候間入用書付差出可申候

一仲間規定申談ジ取極メ置キ不正ノ商致間敷候事

一蠶種賣場讓引ノ義取締並ニ世話人ノ者奥書致シ讓引可致候事

但新タニ蠶種商相始メ候得者鑑札相願可申事

一無鑑札ノ者蠶種商不相成候事

一去丑年被仰出候御制度ノ趣違背不可致事

前書ノ條々相守可申候若違背致者見聞候ハヽ、可申出候吟味ノ上嚴重咎可申付者也

天保寅十三年三月

右規定書御領分取締ヘ相觸夫ヨリ世話役幷ニ外一同ヘ相觸候樣可被取計候此段相達候以上

（參照）紀元二千四百九十三年天保四年五月信濃國上田藩ノ御觸書

紀元二千四百九十四年天保五年五月同上田藩御觸書

是年諸國大ニ霜降リ桑樹ヲ害ス各地ノ蠶養多クハ蠶兒ヲ放棄セリ（養蠶沂源）

又曰ク岩代國伊達郡梁川村中村善右工門養蠶ニ寒暖計ヲ使用スル玆ニ始マル（蠶業汎論ニ據ル）

因ニ曰フ是ヨリ先キ奥州二本松藩主頗ル醫道ヲ好ム當時蘭人ノ長崎ニ於テ醫學ヲ教ユトノ聞キ醫ヲ派シ其術ヲ研究セシム玆ニ蘭人ノ所持セル寒暖計ヲ見テ養蠶上ニ應用セントノ念ヲ惹起シ之ヲ請ヒ得テ携帶シ其親戚梁川村養蠶家中村某ニ送リタリト云フ

天保十三年九月幕府ハ奢侈禁制ヲ觸レタリ

百姓ノ義ハ粗服ヲ着シ髪モ藁ヲ以テ束ヌルガ古來ノ風儀ナリ近來奢ニ長シ身分不相應ノ品着用致シ髪モ油元結ヲ用ユル而已ナラズ流行ノ風俗ニ倣ヒ其外兩具モ笠簑ヲ用ユベキヲ當時傘合羽ヲ用ヒ云云（下略）（御觸書集覽）

又曰近來男女トモ作奉公人少ナク自然高給ニ相成殊ニ機織下女ト唱フル者過分ノ給金ナル由又餘業ニ走ル故ノ儀本末相失ヒタル者ナリ元來百姓共ハ商ヒ向キ營座ノ利潤ヲ以テ營ノ町人共トハ格別ノ義ナリ云云（御觸書集覽）

是年十月立町奉行所ヨリ仰出サル趣ニ曰ク

町人男女衣服ノ義前々相觸レ候通リ絹紬木綿麻布ノ外一切着用致間敷候縱令絹紬ニ候共羽二重龍紋ニ紛敷品幷ニ浮織綾織等ニ似寄リ候類總テ手數懸リ候織方ノ品ハ無用タル可ク候御用達町人共ノ義ハ

御目通ヘ罷出候節計リ羽二重龍紋ノ衣服苦シカラズ平日ハ御法度ノ衣類一切着用致間敷候若シ相背キ候ニ於テハ吟味ノ上嚴重ノ咎申付ベク者也（御觸書集覽）

又曰ク

女ノ衣類大造ノ織物縫物無用ニ可致候縫金糸等入候テモ小袖表一ツニ付キ代銀三百目染摸様小袖表一ツニ付キ百五十目限リ夫ヨリ高直ノ品賣買致間敷候尤帷子モ右ニ準シ可申事（此文再出）

右之通リ去丑年（天保十二年）十月中相觸候ニ付キ萬石以上タリトモ平生花美高價ノ品ハ

相用ヒ申間敷儀ハ勿論ニ候得共正德度相觸候趣モ有之萬石以上重キ式正ノ品ハ別段ノ事ニ候間以來ハ小袖表一ツニ付キ代銀四百目ヲ限リ染摸様小袖表ノ儀モ右ニ準ジ可申事其外ノ義ハ去十月中觸置候通相心得違失無之樣可被致候

右ノ趣万石以上ノ面々ヘ相觸レラク可ク候（御觸書集覽）

是年十二月三日北御番所秋山久藏質屋取締掛月番ノ者ヘ左ノ通リ仰下サル

一縮緬其他御法度ノ衣類町人共ヘ賣買致間敷旨名主支配限リ無相違質屋古着屋共ヘ申觸置候樣可致候（御觸書集覽）

天保十四年幕府命シテ奢侈ヲ禁ズ

御領所ノ者共家作衣類食物等都テ風俗ノ義古來御制度ノ趣堅ク相守ル可キ旨追々相達シ置クト雖モ猶此節御府内町人共衣服等ノ義町奉行所ヨリ嚴重制止有之在方ノ者ハ江戸町人ヨリモ一層質素ニ致ス可クハ勿論ナルヲ近在御府内續キノ場所ニ於テ町人ヨリモ百姓ハ花美ヲ盡シ江戸市中ヲ徘徊スルハ不都合ナリ假令病人極老人其外村役人ノ妻子タリトモ絹紬ノ外相用キズ都テ百姓ノ衣類ハ布木綿ニ限リ羽二重縮緬繻子純子幷ニ越後縮其ノ外薄物唐織物類ハ襟帶袖口又ハ八ツ口留紐結ニモ相成ラズ且ツ家作ノ義モ上木相用ヒ農

家不似合ノ住居ハ追々取調ベ品ニ依リ取毀方ヲモ申付ベク間ダ是迄心得違ヒ萬ヅ結構ノ衣類諸道具等ヲ所持シ花麗ノ住居等致シ聊モ心障ノ者共ハ右ノ沙汰ニ及バザル以前早々相改ム可シ（大日本農史ニ據ル）

（參照）元元二千三百九年後光明天皇慶安二年幕府ノ觸書

紀元二千三百三十七年靈元天皇延寶五年和歌山藩ノ制度

紀元二千三百四十三年同天和三年ノ條

紀元二千三百八十九年中御門天皇享保十四年五人組制度

紀元二千四百二十二年桃園天皇寶曆九年幕府禁制

紀元二千五百一年仁孝天皇天保十二年奉行所仰渡

紀元二千五百二年同天保十三年御觸書

天保年間（當年未詳）武藏龜戸ノ人平亭銀雞ナル者養蠶圖解一冊ヲ著ハシ板行シテ世ニ傳フ（蠶養圖解）

（參照）明治五年上野國島村ノ人田島彌平ノ著養蠶新說ニ言ヘルアリ天保年間天野政德養蠶圖解一冊ヲ著スト

紀元二千五百五年弘化二年羽後國佐藤信淵養蠶要記一冊ヲ著シ謄寫シテ世ニ傳フ（養蠶要記）

因ニ曰フ此書紀元二千五百四十八年明治二十一年織田完之校訂出版ス

是年夏信濃國小縣郡鹽尻村藤本繩葛及ヒ同郡下ノ條村中山重作ノ二人蠶蟲違種屬交接ノ法ヲ按出シ雜種即チ掛合蠶ヲ發明スト傳フ（長野縣調查書幷ニ信濃沿革史料）

（參照）大日本蠶史現業史

紀元二千五百七年弘化四年信濃國小縣郡鹽尻村清水金右工門養蠶敎弘錄二冊ヲ著シ板行シテ世ニ傳フ（養蠶敎弘錄）

紀元二千五百九年孝明天皇嘉永二年岩代國伊達郡梁川村中村某曩ニ親戚醫師ヨリ贈ラレシ寒暖計ヲ摸造シ蠶當計ト稱シテ販賣セリト是實ニ本邦養蠶業ニ寒暖計ヲ販賣使用セシ嚆矢ナリトス

（參照）紀元二千五百二年仁孝天皇天保十三年ノ條

是年日向國藩主安井仲平ガ養蠶製絲ノ業ヲ起サントシ鬼束儀右工門ニ命シ黑木清藏及工女四人ヲ近江國長濱ニ遣ハシ其法ヲ學バシム時ニ仲平ノ學友橫山湖山同地ニ在リ周旋能ク之

ヲ助ク（大日本産業事蹟）

嘉永四年曩キニ近江國長濱ニ派遣セラレシ日向國黒木清造及工女四人業ヲ終テ此時國ニ歸リ養蠶機織ノ業ヲ庶民ニ傳習ス（大日本産業事蹟）

紀元二千五百十三年孝明天皇嘉永六年絹布禁止ノ條例漸ク施ヒルヲ以テ京都西織屋及絲問屋等ノ仲間再興ノ件ヲ願出ヲ許可ヲ得タルヲ以テ絹布法度以前ニ取極メタル定法ニ則トリ仲間ヲ再興シ既往ノ如ク營業スルニ至レリ（西陣織物沿革提要ニ據ル）

紀元二千五百十四年安政元年函館奉行河津三郎太郎渡島七重村ニ桑ヲ植ヘ蠶ヲ養ヒ以テ國益ヲ興起セント企ツ是レ北海道蠶業ノ嚆矢タリ（北海道志）

是年武藏國秩父郡藤倉郷淺香桂藏奥羽地方ニテ曩キニ習得シタル養蠶方ヲ各地ニ擴張シテ上野國南北甘樂郡外七八箇村ノ有志者ニ其術ヲ傳授ス

安政二年越中國五十嵐採作近江國望月内記ノ口述ニ係ル信濃國關求馬ノ養蠶方ナル者ヲ集メテ一書ヲ編成シ望月翁話養蠶ノ方ト名ヅケ寫本ヲ以テ世ニ傳フ（養蠶ノ法）

（參照）大日本蠶史現業史

是年八月武藏國榛澤郡血洗島村澁澤宗助ハ曾テ天保年間ヨリ本邦蠶業ノ精シカラザルヲ憂

ヒ諸國ヲ巡歷シテ其術ヲ極メ亦タ自身多年實驗ニ徵シ覺ル所ノ蠶養方ヲ記シテ一書ヲ著ヲ養蠶手引抄ト名ヅケ板刻シテ一千餘部ヲ當業者ニ頒ツ（養蠶手引抄）

因ニ曰フ上野武藏温暖育ヲ以テ良品ヲ製スルニ至リタルハ宗助ノ力與アツテ力アリ上野武藏間温暖育ノ創起ハ宗助ヲ以テ嚆矢トナスト傳フ

孝明天皇安政五年陸奥國大ニ雪降リ伊達信夫兩郡ハ水潰ヒ桑園ヲ傷損ス四月各地ノ蠶兒孵化シタレトモ獅子起眠起ニ斃死スル者多カリシ時ニ世人ハ傳ヘテ桑葉ニ毒ノ氣ヲ染ミタルナリト傳フ（養蠶沂源）

紀元二千五百十八年安政五年（西洋紀元千八百五十八年四月一日）佛蘭西政府ハ生絲繊度ノ撿査法ヲ里昂公生絲撿査所ニ附托シ實施セシムル事トナセリ

是ヨリ先キ我カ安政二年西洋紀元一千八百五十五年佛蘭西國ローヌ川撰出上院議員ワイースハ當時佛國ニ於テ生絲ノ繊度ヲ撿査スルニ近頃迄生絲ノ長サ四百「ヲーヌ」即チ凡ソ四百七十五「メートル」乎（千五百六十九尺）其量〇、グラム〇五三一三（一厘四毛一三二五尺）ヲ以テ一「デニコール」トシテ用ヒ來リシモノナレトモ製絲ノ隆盛ナル地方ノ中央ニハ私立ニ關ル小工場若クハ試撿所アリテ分然此撿査ニ從事シ機業家ハ甲ノ製絲ハ精

良ニシテ乙ノ品ハ粗惡ナリト目擊シ始メタルハ此試撿所ノ設置アルニ依ル然レトモ其撿
査ノ狀況ヲ視察スレハ撿査人ハ撿査ノ報酬トシテ繰返シタル生絲ノ小總十本ヲ領收シ撿
査ノ方法毫モ精密正確ニ渉ラズ濫リニ一巳ノ信用ヲ以テ其證明ヲ與フルノ弊ヲ看破シ遂
ニ西洋紀元千八百五十五年我カ安政二年公立生絲撿査所設立ノ議ヲ商務大臣ニ提出ス
此案夙ニ世人ノ嫌惡ヲ招キ已ニ里昂商業會議所ニ於テハ生絲取引ノ圓滑ト利益ヲ計ラン
ガ爲メ此弊害ヲ矯ムル方策ヲ講究セシモ西洋紀元千八百四十四年我カ弘化元年委員會ヲ
開キ此問題ヲ研究シ以テ一ノ公立試撿所設立案ヲ討議セシ事アリ其後アイスノ建議案提
出アルニ際シテハ生綾商及機業家ハ大ニ贊成シタルコトフリト云フ
是年横濱開港五市ヲ開ク全國輸出ノ物種多ク茲ニ集マリ内外人ノ貿易ヲ開始ス
安政六年陸前一人大竹某養蠶顯秘錄ヲ著ハシ寫本ヲ以テ世ニ傳フ蓋シ自家多年ノ經驗ト古來
ノ蠶書ニ付ギテ其術ヲ編述サレタル者ナリ（養蠶顯秘錄）
又曰ク此年十二月京都養蠶所ハ養蠶敎諭書一冊ヲ著シ板行シテ世ニ傳フ（養蠶敎諭集）
紀元二千五百二十年萬延元年三月吳服糸及其他ノ者僅少ニ付キ江戸府内ニ積ミ回ス可キ旨
達ス（近代月表）

（參照）紀元二千五百三年天保十三年ノ條
幷ニ附案
是年夏四月奥州會津ノ春夏亭秋冬星某自家多年ノ經驗ニ依リ覺エ得タル養蠶法ヲ纂ノ記シ
蠶養手引草ト名ヅケ秋七月板行シテ世ニ傳フ（蠶養手引草）
是年日向國飫肥藩主安井仲平ガ曩キニ創設セシ養蠶機織ノ業利害償ハザルヲ以テ桑樹ヲ拔
キ蠶室ヲ毀チ其跡ヲ絕ツ（大日本産業事蹟）
（參照）紀元二千五百九年嘉永二年ノ條
紀元二千五百十一年嘉永四年ノ條
萬延元年八月甲斐國ノ商人伏見屋忠兵衛ナル者始メテ島田造絲二千五百斤ヲ齎シ横濱本町
三丁目賣込商芝屋清五郎ヲ紹介トシ金一兩ニ絲六十四匁ノ割合ヲ以テ海岸七番英國人「ロ
スバルベル」ナル者ニ販賣ス是ヨリ年々横濱輸送ノ生絲夥多ヲ加フルニ至ル是レ本邦生絲
ヲ以テ海外ニ輸出スルハ此英商「ロスバルベル」ヲ以テ濫觴トナセリ（横濱沿革誌）
因ニ曰フ横濱沿革誌ノ考證蓋シ何ニ據ツテスルカ茲ニ大日本産業事蹟ノ考證ニ徵スルハ
是ヨリ曩キ已ニ安政六年生絲和斤二千〇三十九萬四千七百九十斤ヲ輸出セリト此說何レ

ガ是カ後識者ノ校訂ヲ待ツ

是年本邦生絲海外ニ輸出シタル者和斤百九十二萬七十〇四十斤價未詳

紀元二千五百二十一年文久元年幕府達ス武藏相摸上野ノ諸國村々養蠶ノ場所ニテ桑ノ葉ヲ摘取リ枝ハ燒物トセシ處ロ今度江戸赤坂表傳馬町ノ市兵衛ナル者右枝皮ヲ以テ綿ヲ製スル工夫致シ村々ヘ罷越シ枝皮ヲ買集ムル筈ニ付キ以來ハ桑枝其儘燒物ニ不致農間ニ枝皮ヲ剝取リ置キ又其儘ニテモ相對次第相當ノ價ヲ以テ右市兵衛代ノ者ヘ賣渡ス可シ（大日本農史ニ據ル）

（參照）紀元二千四百三十七年後桃園天皇安永六年七月ノ條ニ桑枝ノ皮ヲ以テ紙ヲ漉抄スルノ件アリ今茲ニ綿ヲ製スルヲ見ル好一對ノ廢物利用策ナラン乎

是年本邦生絲ノ海外ニ輸出シタル和斤九百三十萬〇八百五十九斤價不詳

紀元二千五百二十二年文久二年日向國飫肥ノ藩士鬼來儀右衛門ノ男儀四郎父ノ志ヲ繼キ養蠶機織ノ業ヲ再興セント藩府ニ請フ時ニ山田市郎次江戸藩邸ノ本締タリ信濃蠶卵紙百五十枚桑苗若干株幷ニ信濃國高井郡小宮山勝右衛門ナル者ヲ雇イテ之ヲ藩地ニ送リ再ヒ養蠶ノ業ヲ開カン事ヲ乞フ蓋シ仲平ノ勸誘スル所ニ依レリト謂フ（大日本産業事蹟）

（參照）紀元二千五百九年嘉永二年ノ條

紀元二千五百十一年嘉永四年ノ條

紀元二千五百二十年萬延元年ノ條

是年伊勢國三重郡室山ノ伊藤小左衛門始メテ工女二人ヲ雇ヒ手繰法ニ隨ヒテ生絲ヲ製ス蓋シ同地製絲ノ矯矢ナリ（伊藤小左衛門傳）

是年本邦生絲ノ海外ニ輸出シタル者二百九十萬〇九千二百四十四斤價未詳

紀元二千五百二十三年文久三年三月武藏國關山五郎兵衛重慶自家多年ノ熟練ト古來ノ蠶書ヲ渉獵シテ養蠶實驗錄ヲ著ハシ板行シテ世益ニ供ス（養蠶實驗錄）

是年伊勢國室山伊藤小左工門ハ工女八人ヲ增雇シテ手繰製絲ヲ擴張ス（伊藤小左衛門傳）

是年本邦生絲ノ海外ニ輸出シタル者和斤二百〇二萬〇二百九十一圓價未詳

紀元二千五百二十四年元治元年ニハ歐羅巴全州蠶病蔓シ當業者將ニ手ヲ束ヌントスルニ至ル此時佛蘭西國ドロームノ養蠶家ベルテンジーナル者同地蠶種改良東亞細亞支那及日本ニ來リ蠶種二三枚ヲ携ヘ歸ル

是年七月橫濱生糸賣込商業者集議ノ上（正月以來ハ悉ク江戸問屋買入レ橫濱ヘ輸出スベキ

旨其筋ヨリ令達アリ）絲屋勘助、小橋屋傳右工門、吉村屋幸兵衛、中居屋重兵衛、大和屋三藏、（屋號不詳）德右工門ノ六名ヲ總代ニ推選シ江戸絲問屋（大傳馬町三丁目丁學屋清兵衛、櫻田備前町近江屋嘉兵衛、和泉町大黒屋佐兵衛、新兩替町中島屋安左工門）ヘ取引手續及口錢二分五厘ノ請求ヲ爲シ承諾書ヲ得テ歸濱シ更ニ協議シ生絲荷受所ヲ設置シ取扱ヲ一定センガ爲メ仲間議定書ヲ制定シ其筋ニ出願シテ許可ヲ得施行ス之ヲ生絲組合ノ嚆矢トス爲ス

議定書

一江戸問屋ノ送券ヲ以テ荷受ニ入荷シ年行事幷ニ總代等立合撿成ノ上名　ノ者ヘ代金引替ニ相渡ス可キ事

一議定書ニ違フ取扱ニ成シタル者ハ行事等ヨリ說諭シ肯セサル者ハ町役人ヘ申立說諭ヲ受ケ尙承伏セザルニ於テハ其旨江戸問屋ヘ通知シ以後荷受ヲ爲サシメザル事

一一ケ年入港ノ荷數六千個但シ四個一駄ニ附キ代金五百兩ト見積リ口錢二分五厘若干兩內一步口錢トシ五厘ヲ町會所ヘ二分五厘ヲ仲間一同ヘ盆暮二期ニ割當テ其餘ハ荷受所諸費ニ宛テ尙殘金アラハ三井ヘ預ケ積金トスヘキ事

慶應元年先是五月橫濱本町三丁目鈴木保兵衛外十數人蠶卵紙ヲ外國人ヘ賣込度旨ヲ奉行所ヘ出願セリ然ルニ奉行所ニ於テ當時國產ノ重ナル者ニシテ先例ナキ品ハ奉行所限リ許可スル能ハストテ其筋ヘ稟請シ是月ニ至リ國內ノ贏餘ヲ以テ賣渡ス事ヲ許サル是レ日本蠶卵紙ノ外國ニ公然輸出ノ濫觴トナス

是年岩代國伊達郡伊達崎村石幡光重養蠶私錄一冊ヲ著ヘシ板行ス蓋シ光重年來ノ養蠶術ヲ纂メ成シタル者ナリ（養蠶私錄）

是年本邦生絲ノ海外ニ輸出シタル者五百九十六萬九千七百七百三十七斤價未詳

紀元二千五百二十五年慶應元年十一月老中松平周防守ハ生絲蠶種取締ノ義ニ關シ左ノ達書ヲ布ク

生絲賣捌方近來猥リニ相成リ今般取締ノ爲メ諸國生產市方支配ノ御代官ニ於テ御料ハ勿論最寄小給所寺社領ノ分共相改メ御領所ノ分ハ銘々役場ニテ取扱ヒ登セ絲又ハ繰元遣料其他外國行ノ分共夫々改メ印致ス筈ナレバ都テ改ヲ受ケ實意ニ取引致ス可シ

尤モ改方手數料トシテ絲荷賣數ニ應ジ夫々口絲取立小給所寺社領ノ分ハ諸入費引キ去リ其餘地頭ヘ取上ゲ万石以上領分ノ義ハ改印貸渡ノ義可相成都テ御領ノ振合ヲ以テ領主ニ

テ相改メ手數料ノ儀所務致シ右取立高ノ内相當ノ冥加相添ヘ改濟ノ口々仕譯書ト同一ニ
年々六月十一月兩度ニ最寄御料改所ヘ差出ス可シ然ル上ハ是迄橫濱表行ノ分江戸問屋共
方ニテ相改ムル仕來リナレトモ以來ハ廢止ニ及ヘリ委細ノ義ハ最寄御代官所ヘ承リ合ス
可シ

且蠶種紙ノ義モ近來不訓ノ者猥リニ製作賣買致シ養蠶ノ者共難儀ニ及ヒタル趣相聞ユル
ニ付キ是又生產市方取締ノタメ國々支配御代官ニ於テ御領私領ノ差別ナク其筋取締ノ者
ノ內肝煎申付ケ元紙灑キ立ツル場所ヨリ買集メ改印ノ上蠶種製造人共ヘ渡ス筈ナレバ何
レモ右改印有之元紙ヘ種仕付銘々國所名前相記シ正路ニ取引致ス可シ尤モ外國行ノ分ハ
製作出來ノ處最寄御代官ヘ差出シ改印ヲ受ケ相當ノ冥加ヲ納ムル義ト相心得以來絹絲幷
ニ蠶紙共改印ナキ品一切賣買致ス可ラス（老中達書）

是年本邦生絲ノ海外ニ輸出シタル者和斤五百十一萬〇七百十一斤價未詳

慶應二年正月老中松平和泉守ハ生絲取締ニ關スル左ノ達書ヲ布ク

生絲取締ノ義新絲古絲ニ拘ラス當五月ヨリ相始ムル事ニテ四月中迄ノ分ハ是迄ノ取扱ヒ
五月以後ハ改印ナキ品一切賣買成ラズト心得可シ（老中達書）

是年二月信濃國小縣郡上田ノ石井賢治郎知盈養蠶福壽袋一冊ヲ著ハシ自分ノ得主ニ頒ツ
（養蠶福壽袋）

是年四月武藏國二手村小平岩代國伊達郡中瀨村義左衛門幕府ヘ內願シテ蠶卵紙撿徵ノ制ヲ
置カル時ニ內願人等肝煎役ヲ拜命シ蠶卵紙取締ノ爲メ諸國ヘ派遣セラル肝煎役等ハ何レモ
各地當業者ノ請書ヲ徵シタリ其書式各樣アリト雖モ今信濃國ニ至リ徵シタル所ノ者左ノ如
シ

差上申請書ノ事

當御取扱生絲幷ニ蠶種紙御改所ニ於テ御改ニ付テハ蠶種紙原紙ノ義全紙一枚每中央ニ御
改印請ノ義ニ有之候處種仕付候品御用遣ヒノ分賣捌方ノ義國柄ニ寄村々小前買受ノ分ハ
種紙一枚ヲ十六或ハ三十二位ニ小切致候ヲ銘々望ニ應シ賣渡候義御座候處種紙ノ義ハ種
爲產付候上ナラテハ小切ニ難候得者迚モ紙小切每ニ御改印受候義ハ迚モ出來兼候然ハ餘
紙一枚御改印一ヶ處分前斷ノ數ニ小切ニ致候得者賣先ニ持參リ候節買請候者御改印無之
抔疑惑致彼是遠國出先ニ於テ賣捌方差支可申ハ判然致シ必ス當惑難澁致候ニ付全紙御改
印濟ノ爲證據一人ヘ一枚宛御印紙ノ御斷書付御渡被成下度旨私共一同相願候處右願ノ趣

ハ御沙汰難被及モ再應歎願ノ趣無餘儀筋ニ付御聞被上候ニ付夫々御取調之上不取締無之樣當御扱御役所へ御改印相濟シ種紙賣捌ノ者ハ小切ニ致候ハヽ御改濟全紙一枚ヲ何枚ニ切分テ右へ目印致シ何國何郡何村誰ヨリ何人へ賣渡候段御支配御領分御地頭御姓名幷ニ國所名前等巨細ニ記シ追テ其段當御役所へ御引紙御案文之通リ帳面ヲ以テ御届可申上旨今般御下知之趣被仰渡且ツ小切賣捌方ニ付キ疑惑無之樣精々念入正路ニ賣捌可申右ニ付キ如何敷義等御聞被及候節ハ附急御沙汰可有御座旨是又被仰渡之趣一同承知奉畏候依之御請印形差上申候處如件

慶應二寅年六月廿六日

下之祭村　佐左工門
上洗馬村　谷吉
上田紺屋町　林之助
海野町　善之亟
友右工門
上丸子村　庄四郎
堀村　宗四郎
生塚村　宗六
同鍛治町　茂左工門
越戸村　五郎右工門
田澤村　文次郎
中丸子村　清之助

中屋村　八作
五明村　九郎兵衛
中島村　八右衛門
須坂穀町　傳重郎
下鹽尻村　清右衛門
抗瀨下村　祐太夫
同　元右衛門
坂本村　團右衛門
上鹽尻村　善右衛門
同　團右工門
秋保村　吉左工門
同　仲右工門
森村　鐵右工門
伊勢山村　清五郎
大澤村　清兵衛
松代荒物町　平左工門
長沼村　半田要太郎
泊村　新七郎
下鹽尻村　忠助
杭瀨下村　長五郎
坂本村　彦九郎
金井村　定右工門
上鹽尻村　八郎右工門
同　要右工門
同　孫左工門
本海野村　藏
東上田村　英之助
伊勢山村　菊次郎

同　源右工門　坂本村　八郎兵衛
禰津西町　忠右工門
金剛寺村　善右工門　金井村　七左工門

又是ニ附帶シテ差出タル撿印願書ノ一班ヲ擧クレハ左ノ如シ

覺

一種元紙　千百枚（松平伊賀守領分信州小縣郡上鹽尻村）　善右衛門

此目方八貫二百十匁

此代永七貫四百六十三文　但金一匁ニ付一貫百目

此寫加永二百二十三文九歩　但元紙代永三厘方永一貫文ニ付三十文替

右之通リ御改印奉願上候以上

寅五月　右村人惣代　庄屋某

中之條　生絲蠶種御改所御中

紀元二千五百二十六年慶應二年西洋紀元千八百六十六年七月十三日佛蘭西政府ハ勅令ヲ以テ生絲織度撿査法ヲ設ケタリ撿尺器四百回ノ長サハ五百「メートル」（千六百五十尺）トシ其量ハ幾「グラム」ニ「グラム」ノ「ハ」（二分六厘六毛）又ハ其分數ヲ以テ算ヘ而シテ其平量ハ各五百「メートル」ノ小綛二十本ヲ以テ撿査スル事トナレリ

是年九月宍戸儀衛門上野國藤岡ニ於テ蠶種家ニ詰問セラレ趣意金百圓ヲ出シ小平外一名ハ武州八王寺山上重郎衛門方ニ於テ信州蠶種家總代藤本善右衛門、飯島喜左衛門ノ爲メ詰問セラレ謝狀ヲ出シテ局ヲ結ブ

因ニ言フ是等數ノ詰問セラレシハ曩ニ此制度ノ設ケラル、ヤ素ト是等肝煎役等ガ內願シテ設ケラレタル者殊ニ該制度ノ當業者ニ尤モ不都合ヲ與ヘタル者ナリシ故ニ是ヨリ先キ當業者ハ此制ノ不都合ナル所以ヲ屢々嘆願スル所アリシモ用ヒラレズ即チ去ル六月ノ請書ヲ徵收セシヲ以テナリ

是年秋明善館主蠶茶楮書一冊ヲ著ハシテ板行シ桑其他ノ木ノ植樣ヲ世ニ傳フ（蠶茶楮書）

明善館主何處ノ人タルヲ知ラス蓋シ本書ハ是年伊勢人竹川綠麿ノ口話ヲ纂シタル者ト卷末ニ書セリ繰洲藏版ト卷首ニ記ス何レモ何レノ人タルヲ知ルニ由ナシ

是年本邦生ノ海外ニ輸出シタル者和斤五百四十一萬一千四百十二斤ニシテ同二年ニ至リ更ニ其數量ヲ增加シ實ニ九百四十五萬七千三百十斤ヲ輸送ス然レモ輸出品價ノ不詳ナルハ未タ統計ノ完然スル者ナリ甚タ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ

近世史完

第五章　今世史

第壹節　明治前紀（明治元年ヨリ明治十九年ニ至ル）

安政六年貿易市場ノ開始セラルヽヤ我生絲及蠶卵紙ノ販路ハ頓ニ海外ニ開カルヽヨリ其價格モ從來內地ノ相場ニ比スレハ頗ル騰貴スル所ロアルヲ以テ農商共ニ意外ノ利益ヲ收得シ各已海外輸出ヲ希望スルノ時運ニ際會スルニ當リ奸黠ノ輩出シテ永遠ノ收利ヲ圖ルニ暇ナク刻下ノ奇利ヲ貪ルヲ以テ便宜トナシ曾ツテ純正ノ取引ヲ了シ國是ノ基礎ヲ確立セント欲スル者詢トニ微々タリ

此趨勢ノ永ク本邦當業者間ニ因襲スル在ハ終局首要ノ物產信ヲ需用地ニ失シ蠶事擴張方針ハ無用ノ長物トナリ國家經濟ノ基礎ハ却ツテ該カ爲メニ破ラル、ニ至ラント紀元二千五百二十五年即チ慶應元年政府ハ之ヲ憂ヒ老中ヲシテ蠶紙蠶卵紙ノ改方ヲ普ク天下ニ達セシム然レモ當時薩長ノ亂アリ人心胸々幕府ノ諭達モ普ク行ハル、ト云フニ非ラズ往々其達意ニ背反シ貿易場裡ハ恰モ狡猾競爭ノ巷ニ異ナラズ是時ニ當リ上野國前橋藩ノ如キハ開國進取ノ國是ハ素ト是レ品質ヲ純正ニシテ誠意以テ市場ノ價値ヲ爭フヲ取引ノ良全

ナル者ト同地方當業者ニ說諭シ供ニ貿易市上ノ惡弊ヲ改良セント已ニ其經畫ヲ成スル至リタリ　今上天皇慶應三年將軍德川慶喜職ヲ辭シ玆ニ王政ヲ復古シ明治ト改元シ維新ノ事業姑メテ成ル　畏クモ　今上天皇精勵シテ勸業ノ道ヲ勸メ百官有司ヲシテ專ラ其事ニ努メシメ蠶業ノ如キハ最モ　聖慮ヲ憂ハセ賜フ

紀元二千五百二十八年即チ明治元年閏四月大總督府ハ蠶印紙生絲改所ヲ武藏國江戶吳服橋內牧野駿河守邸內ニ設ク

是時會計裁判所ハ武藏、相摸、上野、下野、信濃、美濃、尾張、近江ノ諸藩及丹波、但馬、越前、加賀等ノ各代官ニ於テ所領郡村成產ノ蠶種幷ニ生絲累年積濱居留ノ外人ニ賣拂フ者自今江戶蠶卵紙生絲改所ニ於テ印稅ヲ徵ス可ク是ヲ以テ以上荷物ハ一旦江戶ヘ改印ヲ受ケ然ル後橫濱ニ於テ外國人ニ賣込ム可ク然レ𪜈會計局印鑑ナキ者ハ同所ニ於テ一切取引セザル旨談ジ置ケルヲ以テ此意ヲ體シ五月朔日ヨリ出荷スベシト訓達セシム

（參照）孝明天皇應慶元年ノ條

同　天皇慶應二年ノ條

七月大總督府會計裁判所ハ蠶卵紙生絲改所ヲ江戶八丁堀和泉守屋敷ニ移轉シ來ル八月一日ヨリ事務ヲ執行スト關東ノ諸國ニ達ス

八月蠶卵紙生絲營業者ニ鑑札ヲ下附シテ其營業ヲ撿束シ且課稅スベキ事ヲ議定ス

十月上野國前橋藩ハ橫濱生絲賣々ノ實況ヲ觀察シ又同港ニ改良品種ノ賣込店ヲ設立シ且ツ歐米生絲業ノ實深ク探究セシメント藩工速水堅曹ヲ橫濱ニ出張セシムル然ルニ當時奧羽戰亂ノ後ヲ承ケ人心胸々トシテ安カラズ生絲事業等ニ就テ談スルノ輩一モ無ク漸クニシテ同港病院醫松山不苦庵（舊前橋藩士）ナル者ニ謀リ同港守島知事ニ據リ事ヲ謀ル

十一月東京收稅局ハ　江川太郎左衛門　古賀一平　鍋島道太郎

山田市太夫　柴山文平　大音龍太郎　粥川小十郎

桑山圭助　佐々布貞之允　赤松孫太郎　成澤勘左工門

石田守人

以上十二人ニ達シ蠶卵紙生絲取締ノ爲メ株鑑札下附スベキヲ以テ其管內營業者ハ東京海運橋收稅局ヘ願出スベク義申達シ且ツ最寄ノ地頭領主等ニ至ル迄其方供ヨリ達ス可ク義ニ致シ度鑑札別紙雛形添附及達者ナリ

日本文願出ノ者村役人奥印ヲ願書ヲ參持スベク尤モ村役人ハ差添ニ及ハズ達ス可シ
因ニ言フ東京ノ稱呼始メヲ玆ニ見ル所以ノ者ハ是年六月二十七日江戸ヲ東京ト改メラレタルカ故ナリ又タ四月以降地方ヲ分チテ府縣藩トナセリ故ニ以下皆之ニ倣フ

是年海外ニ輸出セシ蠶絲類價左ノ如シ

生絲	百十二万三千九百五十一斤	價金六百二十五万三千四百七十二圓
熨斗絲	六萬二千七百〇九斤	金六萬一千七百四十八圓
玉絲	八萬四千五百四十八斤	金十七萬一千百八十六圓
屑絲	十三萬九千八百六十八斤	金一萬九千八百二十九圓
眞綿	三萬二千七百四十九斤	金六萬五千三百四十八圓
繭	三百三十斤	金二百六十八圓
殼繭	十五萬六千五百二十八斤	金八萬〇二百十五圓
屑繭	一萬〇百三十九斤	

是ヨリ先キ伊太利佛蘭西兩國ハ蠶病ノ爲メ從來產額ヲ減ジ隨ッテ絲價騰貴シタル事アリシカド連年日本ヨリ蠶種ヲ輸入シ着々其成績ノ好況ヲ呈シタリ

明治元年了

蠶卵紙　百八十八萬六千三百二十枚　價金三百七十一萬二千三百五十一圓

ニシテ活發ノ取引ヲ爲セリ就中價格ノ最高ナル者ハ九弗ニ達シタル事アリ或ハ其價ノ最廉ナル者等アルアリ混シテ之ヲ打算スレハ一枚平均一圓九十六錢ニ當ル

紀元二千五百二十九年明治二年三月上野國前橋藩主ハ前橋町人ヲ說諭シ衆議ノ上同藩領分中協同ノ生絲賣込店ヲ橫濱本町二丁目ニ開設シ是ヲ敷島屋ト號ツク而シテ同藩ニ於テハ第一着手ヲ終ヘタレハ是ヨリ斯業ノ熱心家速水堅曹ヲシテ陸羽地方ノ生糸改良ニ從ハシム

四月生絲製茶輸出稅增收ノ件ニ依リ佛國西英吉利伊太利亞獨逸亞米利加ノ五國公使ト交涉會議ヲ開キ結局增收ノ事ニ決セリ

生絲幷製茶增稅約書

東京ニ於テ慶應二寅年（西洋千八百六十六年）ニ取結ヒタル約書第二條生絲幷茶ノ稅ハ前三ケ年中平均相場ノ五分ニ基キ雙方何レノ方ヨリモ右稅ヲ改ムル事ヲ求ム可キヲ揭載セリ

日本政府右個條ニ基キ則稅額ヲ改ムル事ヲ求メ外國知官事幷副知官事及ビ佛國西大貌利太泥亞伊太利獨乙北部聯邦亞米利加合象國ノ公使集會シ右求ヲ協議商量ノ上政府ニ代リテ左ノ約定ヲ決定セリ

第一右約書ニ添ユル稅額ニ基キ取立タル生絲幷茶ノ稅三ケ年中ノ相場平均セシ處元價騰貴スルニ依リ從前ノ稅額ニテハ其五分ニ當ラサル事判然タルカ故日本政府ニテ右稅ヲ增

ス理アル事明瞭ナリ

第二下名ノ者共右品物ノ稅ヲ左ノ表目ニ記載スル金高ニ增ス事ヲ議定シタリ然レ𪜈右增額ニ隨ッテ取立ッ可キ旨ヲ決定セリ

生絲ノ部

當時ノ稅　　增稅

生絲幷ヨリ絲　百斤ニ附一分銀　七十五個　百斤ニ附一分銀　九十個

玉絲同　二十個　同　二十個　同　二十五個

眞綿同　二十個　同　二十個　同　二十五個

熨斗絲同　七個、五　同　十個

屑絲同　二個、二五　同　三個、五

茶　仝　三個、五　仝　四個

番茶ハ是迄長崎港ニ限リ輸出セシ處向後他ノ開港場ヨリモ輸出スル事ヲ得稅額ハ百斤ニ附キ一分銀〇七五タル可シ

於橫濱明治二年四月二十一日（西洋千八百六十九年第六月一日）ニ日本語、英、佛、獨、伊語ヲ以テ約定スル者ナリ

日本國外國官知事	伊達中納言	花押
日本準知事	東久世中將	花押
日本國副知事	大隈四位	花押
英吉利國公使	ハルリー、パークス	花押
伊太利國公使	コーント、デ、ラツール	花押
佛朗西國公使	マキス、ウートレー	花押
亞米利加國公使	アール、ピー、ウワン、ウワルケンボルグ	花押
獨乙北部聯邦公使	フヲン、ブラン	ド花押

因ニ曰ク北條約茲ニ締結セラル、事アリシガ遂ニ實行ニ至ラズシテ止ミトシ云フ（參照）慶應二年五月ノ條約

五月稅租吏員ヲ越後國ニ派遣シ蠶絲改所ヲ建設セシム是レ越後國ハ新潟ナル互市場アルモ未タ蠶絲改所ナキヲ以テ故ナリ

又タ曰ク大藏省會計官ハ府縣ニ達シテ蠶種原紙賣買ノ當時金札ニテ取引シ難キ場合ハ自今金札正金同樣取引スベキ旨嚴重ニ管內ニ諭告セシム

但斯ル場合ニ至リ不服ヲ唱フル者ハ召捕リ其筋ヘ申出サシム

五月前橋藩士速水堅曹ハ陸羽兩國生絲ノ實況ヲ調査セシガ初メ同地ニ出張シ多クハ岩代國福島ニ在ツテ製造及賣買情況ヲ探リ或ハ商人ヲシテ數十個ノ生絲ヲ買ハシメ之ヲ橫濱ニ賣捌シテ其利害ヲ試ミタリ

六月民部省ハ達シテ蠶糸蠶卵紙ヲ外商ニ密賣スルヲ禁ス若シ禁ヲ犯ス者アレハ相當ノ處分アル可キヲ以テ之ヲ嚴重ニ取締ラシメ且神奈川ヨリ役人ヲ出張セシメ以テ取締ニ從事セシム

又曰ク磐城、岩代、陸奥、陸前、陸中、羽前、羽後ノ七國ニ命シテ蠶卵紙殼繭蠶絲眞綿等ノ輸出ニ供スル原料ハ自今東京蠶絲改所ノ檢查ヲ受ケシメ且其營業ヲ監理センガ爲メ鑑札ヲ交附ス

東京蠶絲改所繁務ナルニ其家屋ノ狹溢ナルヲ以テ地方ノ便ヲ計リ其支所ヲ是月武藏ノ八王寺ニ創設シ以テ事務ノ澁滯ヲ除カシム

八月命シテ東京府下ノ諸郡址郭内市村ヲ論セズ荒蕪ニ屬スル分凡テ桑茶ヲ殖栽シ士民ノ勸業ヲ進ムルヲ勸誘セシム

九月民部省ハ不正品取締ノ爲メ蠶卵紙生絲改所ヲ各開港場ニ設ケ其輸出ノ蠶絲蠶印紙ヲ撿査シ且蠶印紙ハ其紙裏ニ産出ノ國郡町村氏名ヲ押捺スベキヲ達シ稅則ハ左ノ通リ之ヲ定ム

稅則

一生　絲	九貫目ニ付	稅金四兩
一熨斗絲	九貫目ニ付	稅金三分
一屑　絲	九貫目ニ付	稅金二朱
一眞綿	九貫目ニ付	稅金一兩
一皮ムキ	九貫目ニ付	稅金一分二朱
一生皮苧	九貫目ニ付	稅金二分
一出殼繭	一斤ニ付	稅金二分
一山繭種	一枚ニ付	稅金永百文
一種紙本部		

是月上國野前橋藩速水堅曹大ニ論シテ曰ク本邦生絲ノ市上ニ於ケル趨勢恰モ國家經濟ノ首

要ニ位スル者ナルニモ不均其品質ノ粗雜取引ノ弊害見ルニ忍ヒザルハ蓋シ皇國ノ失點ナリトナシ横濱ニ出張シテ生絲ノ利害得失ヲ探究シ賣買ノ情況品質ノ精粗歐米需求ノ摸樣等略知得シ偶々瑞南國岡士館ニ於テ倫敦ノ調査ニ關ル生絲相場表ヲ一見シ彼我相場ノ非常ニ差異アルヲ以テ愈々改良ノ企圖心ヲ强クシ製造ノ精粗賣買ノ次第ニ依ッテ多ク其結果ヲ現ハスヲ知リ是ヨリ頻リニ歐州生絲製造法ヲ知ル者ヲ探索ス

十月民部省ハ大坂府兵庫堺久美濱生野大森ノ五縣ハ未タ蠶養ノ普ネカラザルヲ以テ命シテ斯業ヲ興起シ士民ノ勸業ヲ悖興セシム

又タ各藩縣ニ命シテ蠶絲人參其他貿易品ノ賣買ハ一切各開港場ノ通商司ニ申請シテ指揮ヲ仰キ以テ取引セシム

是年本邦ヨリ海外ニ輸出スル蠶絲蠶品ノ品額左ノ如シ

輸出品	輸出品價
一生絲七十二万六千〇四十六斤	金五百七十二万〇百八十一圓
一熨斗絲九百三千六百六十七斤	金九万八千五百三十九圓
一玉絲六百二十五斤	金一千五百五十圓

一層絲十二万二千八百〇三斤　金四万八千四百七十二圓
一眞綿七百九千百五十七斤　金十四万一千三百九十一圓
一絁繭十八万八千六百三十七斤　金十二万八千九百圓
一層繭一万三千八百四十九斤
一蠶卵紙百三十七万七千四百九十三枚　金二百五十万〇〇五十六圓

二百十二

明治二年了

紀元二千五百三十一年明治三年正月民部省ハ各藩ニ達シ蠶種製造ハ近來濫造ニ趣キ夜附其他不正品ヲ製作販賣シ故ヲ以テ中外商人ノ破產スル者多ク後日ニ至ツテ是等製作人ヲ糺問セント欲スルモ出所不分明ニテ差支スル事少カラズ自今取締ノ爲メ鑑札ヘ紙數ヲ記シ相渡ス可キガ故其意ヲ體シ其藩縣支配中賣買所ヘ輸送ス可キ分總員數見當幷鑑札願受ノ氏名共至急取調來ル二月二十日迄通商司ヘ申出ツ可シト云フ

政府ハ本邦製絲ノ方法從來其宜シキニ適ハサルヲ以テ之カ革正ノ義ヲ民部大藏兩省ニ下ス皆ナ曰フ名師ヲ海外ニ徵シ一大製絲場ヲ興シ佳品ヲ製出シテ市上ニ好評ヲ博セバ農商之ヲ羨望シ自ラ天下ノ生絲改良スルヲ得可シト政府此議ヲ可トシ大藏少輔伊藤博文租稅正澁澤榮一等ニ命シテ在留佛蘭西國人チブスケ幷ニ佛蘭西國商人カイセ　モールヲ介シ佛蘭西國人ブリユナヲ雇ヒ入レン事ヲ謀ル時ニ明治三年二月ナリ

此月民部省ヨリ達シテ曰ク京都諸藩ノ邸趾維新ノ戰後往々荒廢シ狐狸ノ巢窟トナル傾アルヲ以テ之ヲ憂ヒ桑茶ノ有益ナル者ヲ栽殖シ勸業ノ道ヲ興サシム

又曰ク民部省ハ民間養蠶ノ方法一定ナラズシテ往々其法ヲ誤リ破產ノ徒アルヲ憂ヒ仕方書ナル者ヲ作リ三部各管內ヘ頒與シ營業者各試驗ノ上可否又ハ發明ノ說等巨細錄上セシメ且

從來行ヒ來レル仕法ヲ詳細ニ調査シ同年七月限リ上申セシム

因ニ曰フ仕方書ナル者ハ養蠶法及蛆ノ說各通アリ是レ現業史ニ詳述ス

又曰ク同省各藩縣ニ達シテ曰ク養蠶ハ民間至要ノ業ナルニ其學術ノ依賴スベキ者ナキガ故不注意ノ者ハ其業ノ爲メ却ツテ產ヲ破リ之ニ因ツテ別紙布告書ニ於ケルガ如ク遍ク養蠶場ヘ下問シテ養蠶ノ方法取調ブ可ク其藩縣ヘ普ク布告シ別紙條件ニ隨從シ養蠶ノ手續調查申達スベシ蓋シ從來蠶卵ヲ製スルヲ業トスル輩ハ夫々養蠶法著述ノ書類アル可キヲ以テ書冊紛冗ニ不涉シテ方法精悉ニ留意シ更ニ掛酌ヲ加ヘ新發明ノ事項悉ク記載申達セシメ其進達者ノ氏名添加シ來ル三月三十日限リ致サシムルモ徒ラニ繁雜ノ煩ノミニテ其功効期ス可ラス

但養蠶手續書ハ當業者ヨリ差出サシムルモ徒ラニ繁雜ノ煩ノミニテ其功効期ス可ラス

故ニ管內養蠶研精ノ者取調ベ最寄々々ヨリ進達セシム可シ

養蠶ハ皇國至要ノ產業ニシテ唯其事ヲ勤ムル者ノ利潤アルノミナラズ大ニ國用ノ資用ヲ增殖スル者ナレハ追々其術ヲ考究シテ各妙手ニ至ル可クナレ𪜈其切掃ニ依ツテ豐凶アリ隨ツテ損益モ少カラズ近來養蠶擧テ其利ヲ競フヨリ徒ニ他ノ利益ヲ羨ム者ハ己レ其術ヲ精フセズ分ニ超ヘ力ニ越ユルノ蠶業ヲ營ミ却ツテ其產ヲ失フノ類往々ナリト慨嘆ノ至リ

ニ堪ヘズ畢竟其者ノ貪慾ヨリ生スル孽ナリト雖モ未タ其學術究理ノ標準トナスベキ者ナキ故未熟ノ輩唯其豐凶ハ天與ノ禍福ト思推シテ忽ニス可ラサルナリ

蓋シ是迄ノ養蠶ハ婦人ノ業ニ嘱シ自ラ手ニ覺ヘ心ニ記ス蠶術ニ齊シ然レ𪜈漸々其事盛大ナレハ各一家ノ本業タル可ク殊ニ他人ノ原蠶卵ヲ製スルノ輩ハ一增之ヲ研究シ實際ヲ試驗シタル自案ノ手記等モ有ル可ク本省茲ニ普ク養蠶場ニ布令シ各地風土ノ差ト養法ノ別トニ不均廣ク該事ヲ諮問シ要ヲ撮ミ華ヲ拔キ養蠶ノ方法ヲ輯集シ之ヲ頒布シ各人無經ノ惑ヲ解テ有切ノ勤ニ處スルノ楷梯タラシムルノ方針タルヲ以テ各其秘訣蘊奧ヲ吐露シ左ノ條件ニ隨ヒ手續書ヲ以テ達スベシ

條件

一養蠶室建築ノ摸樣氣候溫暖ノ用ヒ振日除風拔ノ手當窓戶ノ設ケ方

一蠶卵手置原蠶卵ノ撰ミ方

一卵ノ蠶ニ化スル時其年桑ノ樣子ニ依リ遲速アラシムルノ法其遲速ニ附テ取扱振

一白繭ヲ作ル蠶黃繭ヲ作ルノ養蠶法差違難易

一蠶ハ幼稚ノ時養ヒ方別シテ行届ク可キノ理桑ヲ用ユル度數温度ノ加減蠶室ノ手當

一稚蠶ヲ桑ノ花ニテ飼ノ善惡及雨露ニ濡ル、桑ノ善惡

一獅子休ヨリ庭起迄休起ノ順序日限及手當蠶裏ノ取捨様桑ノ度數温度ノ分量

一揚方手續繭ニナルノ日限及繭ノ掻キ取方

一繭トナリテ後蠶ノ蛹ニ化スルノ日限及繭ノ手當

一蛹トナリテ蛾ニ化スルノ日限及蛆トナル蛹ノ因緣

一蠶卵ヲ紙ニ取ル仕方温度ノ有無

一惣テ蠶ト化シテ繭トナリ繭ヨリ蛾トナルノ日限

一春蠶ノ外夏蠶又ハ再出ト稱ヘ卵トナリテ其年再ビ蠶ニ化スルノ因緣

附右二種ノ蠶種ヲ製スルノ法

一蠶卵紙一枚（本部半枚）厚取ニテ蛾何個ヲ出來シ其蠶卵紙數何粒アルノ取調

一右紙一枚ヲ養フニ桑何株（馬ニ何駄）備フ可キ算當及蠶室ノ間取蠶具入用ノ積

一桑樹ノ種類地味ノ善惡培養ノ法

一凡蠶ニ障ル氣候品物及蠶病ノ種類因緣

一都テ養蠶ニ用ヰル道具ノ方法繪圖幷ニ蠶トナリ四度ノ休起ヨリ庭起後ノ樣子繭ノ圖ノ貌蛆迄ノ所ヲ丁寧ニ直寫シタル繪圖

但此分ニ養蠶場一最寄ヨリ一通苑ニテ宜シ

以上擧クル所ノ條件ハ全然其概要ナルガ故各地各種ノ取扱有ツテ尙洩ル件々少カラズ之ヲ以テ篤ト實地調査ヲ遂ゲ而申達スベキナリ

去年九月以降前橋藩士速水堅曹ハ製絲業ニ熟達シタル外國人探索シツ、在リシニ横濱居留ノ外人誰トテ斯業ニ精通スルノ者ナク漸ク神戸在留ノ瑞西國人シ、ミウラーナル者伊太利國ニ十三年生絲製造ニ從事シ頗ル製絲ニ精通スルコンシユル、エッチ、シーベルニ謀リミユラーヲ前橋藩ニ雇入レヲ決シ官ニ乞フニ之ヲ免サル實ニ同年三月ナリキ而シテ夏秋ノ交始メテ器械製糸ノ美麗ナルヲ租稅頭ノ内覽ニ供セシヲ以民部大藏兩省生糸改良ノ議論決セシメタルノ力アリシナラント世人ハ傳フ

是月十四日先キニ外國輸出蠶種紙製作凡員數幷ニ鑑札願人名取調二月二十日限リ通商司ヘ上申ノ義達セント雖モ末タ届出ヲ缺ク藩縣アリ然ル時ハ蠶種期節ニ向ヒ時機ヲ失シ營業者ノ損害ヲ蒙ムルハ必然ナレハ殊ニ令シテ民部省ハ本年ニ限リ其追伸ヲ特許ス

但免許ヲ得スシテ製作スル者有ルト雖モ是等ハ入港差留メ置ヲ以テ注意ヲ加ヘ取計フ可キナリ

（參照）是年正月民部省達ノ條

五月十七日民部省ヨリ外國輸出蠶卵紙ハ二月二十日迄ニ製作員數凡積申出ノ上輸出免許鑑札願受ク可シト曩キニ達セシニ未タ申達遺漏ノ者アリテ季節差掛リ夫ガリ爲メ輸出シ能ハサル時ハ其者等ノ損害タル可クヲ以テ當年ニ限ニ期限リ不均申立次第直ニ免許スト達ス

（參照）是月正月ノ條三月ノ條

六月上野國前橋藩官許ヲ得テ横濱ニ於テ本邦在留ノ瑞西國人シヽミユレルヲ雇入シ同國人エッチ、シーベル同道前橋ヘ着スミユレルハ生絲製造上功妙ノモノナルヲ以テ俸給一ヶ月「メキシコ、ドルラル」三百枚ヅヽ、期限四ヶ月ヲ以テ約束シ前橋市中ノ民家ヲ借入シ器械ハミユラルノ指揮ヲ以テ据附ケ事業ニ着ク蓋シ本場所撰定ノ上移轉セントノ考案ナリ

然レドモ當時藩中ニ於テ外人ノ雇入ヲ非難スル者多ク忽チ藩人ノ評議沸騰シ商人ハ新法ノ行ハレテ自己ノ不利ヲ來サレヲ恐レ流言湧出頗ル生絲ノ製作ニ困難ヲ與フ是ヲ本邦製絲器械設立ノ嚆矢トナス

是月大藏少輔伊藤博文租税正澁澤榮一等周旋會議ノ上佛國人ブリユナ雇入ノ假條約ヲ結ブ於是監督權正松井清蔭ヲ以テ嚮導トナシブリユナヲシテ東京附近ノ養蠶地方製絲ニ適宜ノ地ヲ相セシメント計ル

七月民部省諭告シテ曰ク蠶種ハ本邦第一ノ産ニシテ國用ハ勿論外國易交上ニモ洪益ノ物品タルニ近來製造混雜ニ流レ夏蠶掛合セ夜附又ハ糊附其他種々ノ製造ナシ私慾ヲ計衆人ヲ欺ク輩有ルト聞ク畢竟養蠶ナル者ハ原ト蠶卵ニ係ル者ナキニ未熟ノ者ハ原蠶卵ノ善惡ヲ辨セス徒ラニ下直ノ蠶卵ヲ求ムルヨリ如斯キ濫造ノ品ヲ以テ欺カレ遂ニ翌年ノ産業ヲ誤ルガ如キ境界ニ及ブ甚不可審議ニ堪ヘズ殊ニ本年ハ蠶種意外ニ違作シテ之ヲ等閑ニ附センカ來年ノ養蠶一般衰微ニ至ル可キハ必然ニシテ其管内養蠶ノ輩ヘ別紙ニ於ケルガ如ク説諭シ且最寄養蠶熟練ノ者又ハ村役人等ヲシテ厚ク談合サセ前條濫製ノ蠶卵ヲ以テ未熟ノ者ヲ欺クガ如キ者ニ於テハ屹度取押ヘ相當ノ咎責申附ベク將タ蠶種賣買ノ輩右諭告ノ主意辨知シ互ニ實意ヲ以テ取引サス可ク且將來蠶卵ヲ製スル輩ニモ説諭ヲ加ヘ一時ノ利ニ不泥精良ノ原蠶本邦ニ殘リ將來ノ生産ノ培殖ノ能ク方針ヲ以テ世話普及サスベキナリ

諭告

蠶卵紙ハ本邦物産第一ノ著ニシテ其豊凶ハ本邦ノ利害ノミナラズ貿易上ニモ差響キ内外ノ人民商業ノ盛衰ニモ抱ルカ如クナレハ從來厚ク手數ヲ煩ハス所ロナリシガ今年ハ諸國一般稀有ノ違作ニテ來年養蠶ノ原種普ク足ラサルヤ知ル可ラズ

商人輩一時目前ノ利益ヲ收得セント隨意輸出スル時ハ自然夏蠶再出蠶夜附等粗惡ノ者存在シ原種盡滅スベキハ勿論貿易是ニ於テ衰退シ國内ノ損失少カラス内外人民商業繁盛ノ途モ源ヲ塞キ根ヲ絕ツニ均シク最モ憂ヘサル可ラズ

今國内商業ノ利益ヲ受ケ貿易永續繁盛セシメント志ス者盛衰ノ理ヲ辨知シ損得ノ分ヲ按シ國内用ニ存スルヲ以テ外國ニ輸スルニ比スレハ利益少シト雖モ今日一已ノ些損ハ次年全國ノ大利トアリ一時目前ノ小利ハ後日意外ノ大損トナル隨ツテ貿易モ衰微ニ至ラバ國家ノ安寧人民ノ幸福ヲ保ツ可ラサル道理ヲ撓リ私慾ニ溺ルヽ事ナク國ノ產物年ニ增加シ製造月ニ精良ニ至リ各人ノ交際日ニ厚ク國異ノ域隔ツト雖モ相互ノ間ニ利益ヲ同フシテ永ク安寧ノ幸福ヲ保ツヲ計ル可シ

元來蠶ノ豊凶ハ原種ノ善惡ニ歸スルガ故ニ養蠶ノ者ハ例令案外ノ高價ト雖モ能フ可ク精良ノ蠶種ヲ求メ生產繁殖シ東洋第一寶品ノ名ヲシテ虛シカラサラシムル事肝要ナリ然レ

ハ各々眼前ノ小利ニ迷ハズ次第ノ美根ヲ培養シ全國將來ノ大計ヲ企圖シ蠶種製造ノ者ハ粗良ノ品ヲ撰ミ國内用ニ賣リ出シ而ノ需用者ハ其價格ノ高キヲ厭ハズ專ラ精良ノ品ヲ撰定スベク是人民ノ職業ヲ盛ニシ生產繁殖ノ基本ヲ謀ル爲ナレハ此趣旨ヲ遵奉シテ違旨アラサル事ニ務ム可キナリ

是月大藏省監眼權正松井清蔭佛蘭西國人ブリユナヲ伴ヒ上野武藏信濃等ノ地方ヲ歷遊シ製絲場建設ノ良地ヲ見分シ上野國富岡ヲ以テ其適當ナルヲ指定シ歸ル

是月太政官命シテ蠶種製造ハ近來杜撰ニ傾キ數多ノ濫製ヲ生スト聞ク必竟無識ノ細民只タ自己目下ノ小利ヲ貪リ國產ノ品位ヲ墮落シ隨ツテ外國貿易上ニモ名產ノ聲價ヲ減却シ民間至要ノ善業却ツテ破產ノ資トナル可クヲ以テ蠶種製造規則別紙ニ於ケルカ如ク定ムルガ故來歲末年ヨリ都テ規則ニ照準シ養蠶場管轄ノ地方官ニ於テ取締行届ク可ク樣取計致ス可キナリ

別紙

養蠶場取締蠶種製造方法及稅則等別紙ニ於ケルガ如ク規則相定ムルガ故各管内取調蠶種及蠶種原紙規則製造人組合幷世話役撰擧方法鑑札收與法左ノ規則ニ照準シ綿密ニ取扱フ

可ク右ノ定規立ツニ於テハ從來各地方ニ於テ取締ノ爲メ其地産出種員數ヲ改メ鑑札ヲ下渡シ手數料取立濟ノ者等モ有ル等ノ事ナレ𪜈自今其地限リ斯ル取扱ハ決シテ行フ可ラサル者ナルガ故禁止スル者ナリ

庚午八月

民部省
大藏省

蠶種製造規則

第一則

一蠶種製造人ヘハ御國内用ノ原蠶種ヲ製造シ營業候者幷ニ外國輸出ヲ渡世致シ候者モ都テ其支配所ニ於テ別紙雛ノ通リ免許ノ鑑札相渡シ候間是迄仕來ノ凡積ヲ以テ銘々製造員數書取毎年九月ヨリ其支配役所ヘ可申出事

但他人ノ生繭ヲ買取リ蠶種製造ノ者モ出來リ高ヲ以テ凡數員積書出可申事

一他人ノ製造スル蠶種ヲ買取リ營業致シ候者ハ凡積員數ヲ不及申立事

但右種賣買ノ手續ハ第三則中ノ條例通リタル可キ事

一免許鑑札ハ當省ニ於テ製造致シ年々各管内製造員數高取調ベ届出候上凡積員數相定メ

支配所ヘ相渡シ十月中迄ニ製造人ヘ可下渡事

一右鑑札ハ本部種二十五枚（紙數五十枚）以上ハ願人ノ見込ニ任セ何程ニテモ可申立本部二十五枚以下ハ免許不相成候事

但二十五枚以下製種願度者ヘ申合ノ上定員數ニ相當リ候樣組合相立可申出尤蠶種揚ノ上ハ誰組ノ内誰製造ト蠶種紙毎ニ製造人ノ名前記入可致事

一右鑑札ハ全毎年凡積ノ免許高定ニ附キ別段稅金ハ無之候尤モ其年出來高相改メ候節員數鑑札ト引替可申事

一凡積免許ノ鑑札ハ年々引替可相成ニ付其年ノ見込ニ任セ高ノ增減ハ願人ノ勝手タル可キ事

一右規則相立免許鑑札相願候上ハ向後無鑑札ニテ濫製ノ者有之候ハヾ其種取上ゲ相當ノ過料申付ベキ事

第二則

一蠶種製造人ハ最寄ヲ以テ組合相立組合内兩人宛更番ニテ世話役役相定メ諸般ノ世話方取扱可申付事

但右組合ハ凡百人ヲ目當ト致シ最寄ニ隨ヒ取極可申右土地管轄ノ分割ニ由リテ組合人員ノ增減ハ便宜タル可キ事

一組內年々蠶種製造ノ免許高ハ世話役ノ手元ニ記帳致シ置其年養蠶ノ摸樣蠶種ノ豐凶等合及出來高等世話役篤ト取調ベ其支配役所ヘ申出支記役所ヨリ當省ヘ可申立事

一世話役タル者ハ素ヨリ蠶業熟練ノ筈ニ附キ未熟ノ養蠶家ヘ方法敎諭致ス可ク且養蠶ノ義ニ付キ新發明ノ事共有之候ハヾ其筋ヘモ申立組合ヘモ傳習可致事

但養蠶ハ桑畑ノ善惡取調ベ方肝要ニ附キ川附荒蕪等ニテ自然宜敷場處有之候ハヾ支配役所ヘ申立ベシ支配役所ハ取糺ノ上當省ヘ申立次第別段ノ御詮議ヲ以テ開發ヲモ可申付事

第三則

一每年蠶種出來揚ノ節都テ各世話ニ於テ組內取調蠶種紙每ニ改濟ノ證印致シ右員數書支配役所ヘ申立支配役所ニ於テ兼テ當省ヨリ回シ候鑑札ヘ改濟ノ員數認入世話役ヘ下渡シ夫々製造ヘ可致配分事

但蠶種出來方ハ氣候又ハ養方ノ差ニ依リ遲速可有之ニ付時日見計ヒ何度ニモ改印可致

事

附改印ハ支配所ニ差置年々改節世話役ヘ可相渡事

一他人ノ生繭ヲ買取リ蠶種製造致候分ハ其製造人ノ組合世話役ニ於テ改濟ノ證印致シ前同樣ノ手續ヲ以テ員數改鑑札相渡可申若製造人養蠶場外ノ者ニテ組內世話役等無之候ハヾ地方官ヨリ直ニ改濟證印致シ員數改鑑札下渡可申事

一右故ノ節最初願高ヨリ蠶種出來高增減有之候義ハ其年ノ豐凶ニヨリ差構無之事

一右員數改鑑札ヘハ御國內賣買外國輸出ノ分共枚數認入可相渡尤蠶種紙每ニ製作人居處名面其外其印紙雛形ノ通リ調印致ス可キ事

但御國內賣買外國輸出ノ差別ハ員數鑑札ニ認譯候迄ニテ蠶種紙ヘハ記入ニ不及候事

一各支配所ニ於テ右員數鑑札相渡シ候節本部二十五枚ニ付金二兩二分ノ割合ヲ以テ凡枚數ニ照シ製造稅取立每年十二月限リ製造人別種員數調譯明細帳ヲ以テ當省ヘ可相納事

但員數改濟證印ヲ不受前ハ賣買約束ノ義決シテ不相成候事

一外國輸出ノ分ハ更ニ通商司ニ於テ輸出員數可改候間右員數改鑑札相添ヘ蠶種ハ通商司ニ差出シ改受候上ニテ賣込可致事

但通商司ニ於テ輸出ヲ改候節尚又改印可致右員數改鑑札ハ其節通商司引上可申事

一通商司ニテ改濟ノ蠶種改港ニ於テ直ニ外國ニ賣込候共又ハ御國商人中ニテ賣買致シ候共勝手次第タル可キ事

但右賣込ノ手續ハ是迄ノ通タル可キ事

一御國内蠶種賣買ノ積ヲ以テ負數改受候蠶種ノ外國輸出致度者ハ通商司ヘ願出ベク通商司ニ於テ其年ノ蠶種出來高見合ノ上不相當無之候ハバ可差許事

但本文蠶種輸出ノ節ハ其蠶種ニ相添ヘ員數鑑札改可差出尤方改方ノ義ハ前同斷ノ事

第四則

一御國内ヘ賣買ノ者ノ負數改鑑札ハ年々冬十一月限リ其支配役所ヘ相納メ翌年ノ免許鑑札凡積ヲ可申立事

但外國輸出ノ分ノ員數改メ鑑札ハ賣込前通商司ヘ可差出筈ニ付キ兼テ其心得ヲ以テ員數申立事

一外國輸出蠶種ハ員數鑑札相添ヘ賣込前通商司ヘ可差出筈ニ付キ兼テ其心得ヲ以テ員數改受候節鑑札數何枚ニテモ小譯ニ致シ候義勝手次第タル可キ事

但員數改鑑札渡方ハ假令ハ蠶種百枚有之バ十枚宛ニ仕譯改鑑札二枚受候トモ又ハ百枚鑑札ニ致シ候義モ願人勝手次第ニ候尤現負數ノ外二重鑑札相渡シ候義ハ堅ク不相成候事

第五則

一新規ノ養蠶場ニテ試ノ爲メ蠶種製造致シ度者ハ最初ヨリ凡積員數申立難キ筈ニ付其年限免許高出入無之試業鑑札受可申其年製造ノ蠶種ハ前條ノ例ニ隨ヒ員數改鑑札相渡シ可申其節半減ノ製造稅相納メ翌年ヨリ凡積免許鑑札願其外共前例ノ通リ可取扱事

但從來ノ養蠶場ニテ其年ノ摸樣ニ依リ蠶種製造致シ度者ハ最寄世話役ヲ以テ支配役所ハ申立臨時免許鑑札可願受右改方其外共規則ノ通リタル可キ事

一免許鑑札願受候者其年養蠶不熟ニシテ蠶種皆無ノ節ハ免許鑑札ハ其儘返上候トモ又ハ他ノ新繭買入レ蠶種製造致シ候トモ勝手次第タル可ク候尤凡免許高ノ當ヲ以テ買入可致事

一夏蠶幷春蠶ノ再出蠶種其外等製造ノ者ハ其年ノ摸樣ニ因リ申立臨時物トシテ其時ニ願出次第鑑札相渡シ蠶種出來ノ上改方ハ前條ノ通リ可取扱事

但右等種類製造稅ハ本種ノ半減ヲ以テ割合上納可致尤改ノ節夏蠶又ハ再出ト申ス文字有之候改印毎紙調印致ス可ク事

一臨時免許ノ鑑札モ當省ニテ製造シ凡積ヲ以テ各支配所ヘ相廻シ置可申候間臨時願有之節凡積員數認入相渡可申事

第六則

一原紙漉元ヘ向後別ニ雛形ノ通リ各支配所ニ於テ職分ノ免許鑑札相渡シ可申候ニ付免許無之者ハ決シテ漉立不相成事

但漉立原紙ノ裏ヘ漉立居所名前共調印可致事

一原紙漉立ノ免許鑑札相渡方ハ各支配役所ニ於テ是迄漉立職方者取調名面當省ヘ申立ノ上相渡可申事

但名面申立ノ節是迄右職方ニテ漉立候原紙員數三年分ノ處取調ベ可申立事

一右鑑札ハ原紙取締ノ爲メ相渡シ候ニ付稅金ハ無之尤年々引替ニ不及候事

一右原紙ハ各支配役所ニ於テ改濟ノ上別紙雛形ノ通リ打込ノ改印受取候後ニテ賣買可致尤右打込印無之分ハ一切賣買不相成若不心得ノ者有之ニ於テハ見當次第其品取上ゲ相當ノ過料可申付事

但蠶種紙ト相成候共前同斷ノ事

一右原紙其支配役所ニ於テ改ヲ受候節其他ノ相場ヲ以テ代金二十分ノ一（但百兩ニ付五兩ノ稅）金相納ム可キ事

一原紙是迄各地ニ於テ厚薄數段有之相場立モ目方ト枚數ノ不同有之候ヘ共以後凡テ百枚ニ付七百五十目ヨリ八百五十目迄ヲ限リ漉立致シ相場立ノ義モ金一兩ニ付キ何百目ト相定メ賣買可致事

一新規ノ原紙漉立相願候者有之候ハヾ支配役所ニ於テ其地楮ノ摸樣及水土ノ可否至當ノ節ニ候ハヾ其段當省ヘ伺ノ上漉立免許可致事

一原紙漉立方有之候場所ハ其支配役所ニ於テ職方株并改濟ノ上打込印致候員數稅金共綿密ニ取調ベ年々八月中當省ヘ可差出事

第七則

一毎年凡積免許鑑札願ハ其年桑ノ繁盛ヲ見計ヒ九月限リ支配役所ヘ申立同年十二月中鑑札下渡シ蠶種出來ノ節員數改鑑札ト引替可申候間免許高改支配役所ニ於テ簿冊ヲ製シ

置詳細ニ記入可致事

但臨時鑑札渡方有之候方モ明細ニ簿冊ニ記入可致事

一惣テ其支配役所ニテ取扱候本種幷ニ夏蠶再出蠶其外ノ免許鑑札員數改鑑札渡方引上方明細ニ記載シタル帳面相添ヘ引上候鑑札類引纏メ年々十月限リ當省ヘ可差出事

一蠶種原紙其諸稅金ノ義ハ蠶種製造高原紙渡立高ニ照準シ詳明ニ記載シタル帳面相添ヘ年々八月限リ大藏省ヘ相廻メ可ク候事

但右規則相立候ニ付テノ諸入費ハ一ヶ年試ノ上可申立事

一惣テ右規則ニ戻リ候取扱有之候ハヾ咎可申付候事

但何人ニテモ如何ノ取扱有之ト見受候ハヾ始末柄取調手續ヲ不論其支配役所ヘモ申立若シ組内ノ者不正筋有之世話役心附カズシテ外方ヨリ相顯ハルヽニ於テハ世話役モ越度タル可キ事

右之通規則相定候事

庚午八月

民部省
大藏省

蠶種製造
蠶種賣買 等ノ印形各種アルヲ除ク
原紙漉立

是月京郎府下ノ蠶桑紡績事業漸次開進ノ畧ヲ喜シ　叙旨ヲ本府ニ傳ヘテ其奬勵ノ功ヲ賞ス

又曰ク是月本邦蠶種業奬勵ノ爲メ民部省ハ上品蠶種褒賞則ヲ頒布シテ曰ク蠶棟品位鑑定法相立テ上好ノ蠶種製造ノ者ヘハ差等ニ隨ヒ褒賞シ其名ヲシテ廣ク天下ニ公布シ其業ヲ事トスル者ノ模範タラシムルヲ以テ養蠶地ノ地方官ハ管内詳細ニ取調ベ左ノ規則ニ隨ヒ最好ノ品位ヲ鑑別シ國限ノ優等三位ヲ撰擧シテ以テ毎年八月中民部省ヘ差出スベシ其規則ハ下文ノ如シ

規則

一養蠶管轄地ノ模様ニ從ヒ最寄ニ於テ組合ヲ立テ一組概算百人ト定メ組合中公撰入札ノ法ヲ以テ篤實研業ノ者二人ヲ撰擧シ其組内ノ世話役トスベシ

但右公撰ハ時日ヲ定メ組内ノ者管廳ヘ集會シ銘々撰擧スベキ人ノ名ヲ記シタル小札ヲ

印封シテ差出シ入札畢ツテ縣官立合ノ上開封シ其撰ニ當ル人名ヲ稠衆ニ宜布シ之ヲ書冊ニ記シ擧ゲ數多キ者ヲ以テ其組ノ世話役トナシ勤務年限ハ四ヶ年ヲ期トシ更ニ其法則ヲ以テ交代ノ者ヲ撰擧スベシ其給分ハ一個年試ノ上ニテ衆議之ヲ定ム

一世話役ハ養蠶ノ時節ニ至ラバ組内養蠶高養種出來揚ノ摸樣ヲ見計ヒ上好ノ蠶種製作ノ者ハ其名面ヲ記シ置キ蠶種出來揚ノ上員數改鑑札願受ノ節地方官ヘ申立右蠶種本部二枚ヲ見本トシテ差出ス可シ

但蠶種出來ノ上原繭ノ見本出殼繭數三十個ヲ添フ可シ右見本ハ鑑定濟ノ上都テ本人ヘ下渡ス可シ尤モ蠶種白繭黃繭ノ別ナク品格ノ上下ニ從フ可シ

一各組合ニ於テ右ノ方法ヲ以テ最好ノ蠶種世話役共ヨリ差出候上管轄ノ地方官ニテ取纏メ一國限リ最好品位鑑定ヲ爲ス可シ

一一國限リノ優等鑑定法ハ管轄地ノ分割ニ抱ラズ支配地蠶種製造ノ者擧數多キ藩縣ヲ以テ一國限ノ惣鑑定場ト定メ各藩縣共上好ノ蠶種世話役ヨリ差出シ候ハヾ右鑑定場ヘ取寄セ毎組ノ世話役集會熟覽致シ入札ヲ以テ其國限ノ優等三位ヲ撰擧スベシ

一一國限リ三位ノ優等ニ擧ク候者ハ管轄ノ地方官ニ於テ左ノ雛形ノ通リ功牌ヲ製シ衆人

注目ノ場處ヲ撰ミ之ヲ揭ケ且其國限リ養蠶場ヘ其由ヲ布告スベシ

一一國限三等區別書雛形

干支年月製作

何國製產　何藩縣支配所

蠶種上品　第一等　何國何郡何村　第二等　同上　第三等　同上

三等ノ差　誰組合誰製造

別之

但三陸羽磐城岩代上野信濃甲斐其他ノ國々共此例ニ準ス可シ

賞格

一一國限蠶種上好品位

第一等

第二等

第三等

但賞典ハ撰擧ノ節ニ至リ相達ス可シ

一一國限鑑定ノ法相濟候上ニテ右優等三位ノ蠶種幷出殼繭トモ民部省ヘ差出ス可ク民部

省ニ於テ汎ク精業研學ノ者ヲ撰ミ入札ヲ以テ更ニ鑑定ヲ經御國内優等三位ヲ撰擧ス
一此優等三位ニ入ルハ則御國内ノ最上品ニ附キ民部省ニ於テ左ノ雛形ノ通リ功牌ヲ製シテ衆人ニ掲示シ且新聞紙ヲ以テ其名ヲ天下ニ公布シ養蠶家ノ龜鑑トナスヘシ

御國産蠶　何藩何縣支配
干支年　種ノ上品　第一等　所何國何郡何村誰組合誰製
月　三等ノ差　等　作
別之

賞典

御國産蠶種最上品位

第一等
第二等　同上
第三等　第三同上

但賞典ハ撰擧ノ節ニ至リ相達スヘシ

九月民部省中ニ勸農局ヲ設ケ局中更ニ養蠶ノ一課ヲ設ク是レ本邦蠶事益々盛大ニ趣キ專任

ノ一課ヲ要スルニ至リタルヲ以テ玆ニ設クルニ至ル

曩キニ京都府民ノ有志者ハ御土居ノ藪地荒蕪ニ屬スルヲ以テ之ヲ開拓シ桑其他ノ者ヲ種藝セント爲土地割與ノ件同府ヨリ申請シタルヲ以テ民部省ニ於テハ是月之ヲ許ス

十月前橋藩ハ同藩製絲場雇傭ノ瑞西國人ミユラー期滿チタルヲ以テ之ヲ解傭シ横濱ニ送リ即日瑞西國「コンシエル」ヘ引渡シ約定書引戻セリ是レ當初ミユラーヲ雇入テ以來四ヶ月其間速水堅曹ハ練習ノ短キヲ以テ自家將來ノ大計ヲ畫策スルハ普通ニシテ及フ者ニ非ストナシ晝夜ミユラーノ座側ニ在ツテ歐州製絲ノ方法ヲ探究尋問シ而ノ始メテ本邦製絲改良ノ秘術ヲ知得シタリト謂フ

是月民部省ハ曩キニ諭達シタル蠶業試撿成績其他發明ノ説等ノ開申未タ遲怠シ在ルヲ以テ閏十月限リ開申スベキ趣ヲ督責ス

（參照）是年正月條

又曰ク太政官ハ蠶種製造取締幷ニ稅則ニ附キ去ル八月中布告書及規則書達シ置キシト雖モ尙今般規則附錄書布達スルガ故前規則ト一同遵守スベシト達ス

次テ同月大藏省ハ蠶種製造取締及稅則ニ附キ去ル八月中布告書及規則達シ置シト雖モ右廉

々ノ内更ニ校正增補シ別紙廉譯達スルガ故其意ヲ體シ取扱フ可ク右規則ハ茲ニ新規改定ノ義ナルガ故各地取扱向不手馴ニ有ル可キ乎若シ了解ニ苦ム等ノ時ハ廉書ヲ以テ取扱向伺ヒ出ツ可ク且最寄藩縣相互ニ承合シ區々ノ處分在ラザル樣可致ナリ其改定ノ要文下條ノ如シ

蠶種製造規則書附錄

第一則中第四節

一蠶種紙毎ニ製造人ノ名面記入ノ方法ハ第三則中第四節ニ記載シタル趣旨ニ基キ雛形ノ通リ製造人何國何村誰組何姓名又ハ何屋某ト記入可致事

第一則中第七節

一無鑑札ニテ濫製致シ候者科料ハ濫製種紙一枚毎ニ金二分ノ割合ヲ以テ取立可申事

但賣品ニ限ラズ自分用ノ分モ同斷ノ事

第三則中ノ初節

一蠶種紙改濟ノ證印ハ組合ノ多寡ニ應シ各地方官ニ於テ彫刻致ス可ク事

第三則中第五節

一國內賣買外國ノ輸出ノ差別ナク都テ本部二十五枚ニ付キ金二兩二分ノ稅約可致事

第三則中第六節

一蠶種元方ニテ買入ノ節附屬セル員數鑑札相添賣買可致トノ義ハ仲買元方ヨリ買取候カ又ハ仲間同士賣買致シ候節ノ定ニテ銘々ノ原蠶種ニ買取候節ハ右鑑札相添ヘ候ニ不及候事

第三則中第七節

一外國輸出ノ分ハ通商司ニ於テ唯改印有無ノ撿查ヲナスノミニテ來未年ヨリ別段手數料ハ不取立候事

第三則中第九節

一此條ニ反シ蠶種出來揚ノ上外國輸出ノ免許鑑札ヲ受ケ或ハ通商司ニ於テ改印ノ有無撿查ヲ受候トモ其賣買ノ景況ニ寄リ國內へ賣買致シ度者ハ其旨其支配所又ハ通商司へ可屆候事

但其時賣買ノ景況ニ依リ屆出ツルニ時日ヲ得ザレハ賣捌ノ後其由屆出候トモ不苦候事

第四則中初節

一第一則中初節及第七則中ノ初節ニ製造員數凡積リ每年九月限リ其支配役所へ可申出ト

有之候ハ都テ十一月限リ可申出事ト可相心得事

第四則中第二節

一員數改鑑札ハ支配役所ヨリ凡積ヲ以テ申立次第何枚ニテモ大藏省ヨリ可相渡置ニ付製造人願出ニ從ヒ何枚ニテモ小譯ニ致シ可下渡候事

第五則中第初節

一試業鑑札臨時免許鑑札共外鑑札同樣大藏省ヨリ兼テ可渡置ニ付其其内ニテ夫々書入可下渡申右種出來揚ノ上ハ外國輸出國内賣買共規則通員數改致シ其節鑑札可下渡置候事

第五則中第三節

一夏蠶種再出蠶ノ改印ハ雛形ノ通リ各地方官ニ於テ彫刻シ其時々世話役ヘ可下渡且其年ノ摸樣ニ依リ各製造人ニ於テ夜附種ヲ製造致シ候義モ之有候ハヾ同樣改印可致事

但夜附種ノ製造稅ハ本種ノ四分ノ一ノ稅ヲ取立可申尤其外取扱向ハ夏蠶種再出蠶種同樣タル可キ事

第六則中第四節

一漉元免許鑑札願受候者打込印無之原紙賣出候者又ハ免許鑑札不願候テ原紙製造ノ者有之候節ハ凡テ其品取上ノ上ニテ原紙百枚毎ニ科料金一分ノ割合ヲ以テ取立可申事

但右打込印無之蠶種仕付候分ハ同樣品取上蠶種製造人ヘモ同樣ノ科料可申付事

附打込印ハ各地方官ニ於テ彫刻可致事

第七則中第二節

一各支配役所ニ於テ取扱候本種其外免許鑑札員數改鑑札渡方引上方明細取調書幷ニ引上候鑑札類十月限大藏省ヘ可差出事

第七則中第三節

一蠶種原紙トモ諸稅金八月限リ可相納ト有之候ハ右取立候稅金凡調ヲ以テ其年八月迄ニ相納置精勘定ノ義ハ第三則中第五節ニ有之候通リ十二月限諸調譯明細帳相添ヘ差出候義ト相心得可申候事

但第六則中ノ第八節ニ原紙漉立員數調及稅金ヲモ八月限リ可差出ト有之候義前同樣相心得取計可申事

第七則中第四節

一組内ノ者不正ノ筋有之世話役心付カズシテ外方ヨリ相顯ル、ニ於テハ其世話役ノ越度

タル可キニ付キ其科ノ輕重ニ依リ世話役ノ給料一ヶ月分ヨリ三ヶ月分迄ヲ科料トシテ可取上若又世話役不正ノ事ヲ相謀候カ又ハ不正ノ者ヘ賞與致シ候義相顯ハルヽニ於テハ規定ノ年限ニ不抱役儀ヲ召放シ縱ヒ勤年限限未滿ニ候トモ二ヶ月以上ノ給料タケノ割合ヲ以テ科料金ヲ取上ル可シ且世話役其職ヲ怠リ又ハ其組內ニ協合セザル時ハ年限中ニテモ他ノ相當ノ者ヲ撰ミ交代セシムル事アル可シ

追加例則

一不正ノ筋有之候ヲ他ヨリ見出シ訴出候ハヽ糺ノ上事實相違無之上ハ科料金取上品代共高ノ二十分ノ一ヲ以テ其訴主ニ下サレ候ニ付キ其地方官廳ヨリ給與可致事

一取上品ノ儀原紙ハ打込印致シ候上漉元ヘ拂下グ可申蠶種仕付有之分ハ雛形ノ通取上證印ヲ押シ國內用トシテ其時々公ノ入札ヲ以テ拂下ケ下渡候節其三則中ノ第四節及第三則中ノ第五節ニ記載セル趣旨ニ習ヒ買受人ノ居所名面其外共押印爲致改濟ノ證印致シ幷員數改鑑札相渡可申事

但取上品ハ外國輸出差許サヽル事

附取上品ノ印ハ地方官ニ於テ雛形ノ通リ彫刻シ備置ク可シ

取上品ノ印一個　除ク

一諸種ノ科料金取立幷取立品入札拂等有之候節ハ右金高調帳相添ヘ第三則第五節ニ揭ク ル通リ取計可申事

一蠶種製造人共當年買入ノ原紙不用ニ相成其儘所持致シ候者有之候ハヽ當年限其支配役所ヨリ管內各所持主篤ト取調ベ打込印致シ且規則通收稅ノ上右原紙明年ノ用ニ爲供候テモ不苦候事

一原紙幷蠶種紙改印原紙製造人及蠶種製造人名面記入ノ位地雛形ノ通可心得事

一油製印肉ハ蠶種紙ヘ害ヲナシ候間蜂密製カ或ハ酒製ノ印肉ヲ用ヒ可成ハ油肉ヲ用ユ可ラズ候事

各印四個　除ク

上品蠶種褒賞規則改正增補

第一章　但書

一世話役勤務中四年ヲ限ルト雖モ期限ノ後集議ヲ遂ゲ尙其者ノ勤續ヲ顧フ者夥多ナレハ尙ホ四ヶ年ノ勤役ヲ命ス可シ然レヒ合セテ八ヶ年ノ勤役ヲ超ユヲ不許其若八個年ノ勤

務中格別ノ功勞アラバ免職ノ節別段ノ賞與ノ沙汰アル可シ

第末章

一御國産種最上品位三等ニ登リシ者有之組合ノ世話役ハ別ニ褒賞ノ典アル可シ
但一國限ノ優等ニ上リシ者蠶種幷出殼繭共其地方官ニ於テ取調大藏省ヘ差出候節其製造人名前及世話役名前ヲモ相添ヘ差出ス可シ

附法則中都テ民部省トアルハ大藏省ト心得可シ

（參照）是年八月ノ條

閏十月七日製絲場建築ノ爲メ佛蘭西人ブリユナ雇入ノ條約民部省ニ於テ全ク成ル此日其事務ノ主任ヲ命セラル、者民部權大丞玉乃世履地理兼驛遞權正杉浦讓庶務少佑尾高惇忠大藏少丞澁澤榮一監督正中村祐興ナリ蓋シ事地方ニ係ルヲ以テ民部省官吏之ヲ管シ大藏省官吏之ヲ補佐ス次テ杉浦權正尾高少佑佛人ブリユナト倶ニ東京ヲ發シ上野國甘樂郡富岡ニ至リ該處ノ城趾ト稱スル場處ヲ相シ人民ヲ諭シテ皈リ土木構造ノ意匠ハブリユナノ紹介ヲ以テ佛蘭西國人バスチヤンヲ雇フテ其建築工圖ヲ作ラシム

是ヨリ先キ杉浦尾高ノ一行ブリユナヲ率ヒテ富岡ニ至リ地理見分ノ際前橋藩ニ通牒シテ藩

士速水堅曹ヲ招キ此擧ノ意見ヲ具セシム時ニ速水堅曹述テ曰大工事未タ本邦ニ適セザラシヲ恐ル、ナリト答フ蓋シ速水堅曹ハ意中ブリユナ製絲事業ニ熟練セサルヲ疑フ者ノ如シ」

十一月蠶事ニ係ル一切ノ事務ハ勸農局ヲシテ更ニ管理スル事ヲ命ス

（參照）是年九月ノ條

又タ曰ク去月中其運ニ及ヒタル富岡製絲場建築地測量ノ事既ニ功ヲ畢ユルヲ以テ是月敷地買收ノ順序ヲ創ム

又曰ク先キ民部省ヨリ督責ニ係ル養蠶試驗發明ノ事項書類若松縣ヨリ進達スルニ至レリ

十一月前橋藩ハ洋式器械製絲ノノ効驗傳習ノ成績等ヲ大藏省ニ上申セリ

十二月バスチヤンノ製圖ニ係ル富岡製絲工場設計圖成ル於是其設計費目ヲ調査シ建築着手ノ件ヲ民部省ハ稟申セリ

是年本邦外輸ニ係ル者概ヲ左ノ如シ

品名	價格	
生絲	六十八万三千三百六十二斤	金四百二十七万八千七百五十二圓（一捆六百二十六弗）
屑斗絲	七万四千九百三十八斤	金八万二千九百〇八圓

玉絲	三千〇十六斤	金三千〇十六圓
屑絲	十万三千四百五十七斤	金十万三千四百五十七圓
眞綿	十万二千六百六十八斤	金十九万七千四百八十六圓
繭	百五十三斤	金八十三圓
屑繭	十三万九千六百十六斤	金六万六千六百九十四圓
蠶印紙	百三十九万七千八百四十六枚	金二百五十六万六千七百五十九圓
	（一枚平均一圓八十三錢六厘）	

明治三年了

明治四年正月民部省少佑尾高惇忠製絲所建築地既定ノ上野國甘樂郡富岡ニ到リ草樹ヲ刈除シ墾址ヲ塡平シテ瓦煉化石ヲ造作シ礎石ヲ斫出シ石炭買入等ノ手續ヲ了シテ歸ル

次テ民部省雇入ノ佛蘭西國人ブリユナヲシテ繰絲器械購入ノ爲メ米利堅郵船ニ乘組ミ横濱ヨリ佛蘭西國ニ航ス

是月美濃國郡上郡八幡町宮川五平治ナル者養蠶藥十四袋郡上藩ヲ經由シテ大藏省ニ進達ス是レ明治三年該藥ノ發賣免許ヲ同省ニ出願シタル事アリシヲ以テ其年十二月本省ヨリ該藥ノ進達方郡上藩ヘ照會シ來ルヲ以テノ故ナリ

二月美濃國郡上郡八幡町宮川五平治ノ製造ニ係ル養蠶藥ヲ上野國前橋藩及福島縣ニ頒チ其功害ヲ試用セシム

同月民部省勸業寮ハ東京赤坂鍋島邸内ヘ百人繰製絲所ヲ設立ス監督ミユラーナリシ

三月三河國豊橋藩ハ往古ノ例典ヲ以テ自國ヨリ伊勢太廟大嘗會調進スル調絲ノ式例ヲ再興セント政府ニ其義ヲ伺ヒ出ヅ其文下文ノ如シ

別書三河國養蠶由來記之通古例モ御座候間大嘗會神調絲十絢三河各藩ニ於テ進獻仕度尤モ織女等ノ儀ハ常節無御座候間難着書候右精絲大祭御用モ相成候ハヾ冥加至極奉拜謝候

此段奉伺候以上

辛未三月七日　豐橋藩

辨官御中

是ト同時ニ豐橋藩ハ右ノ事項ヲ以テ領内ヘ觸出シテ曰ク

天朝ニ於テ當秋大嘗會被爲行候節當國ヨリ和妙ノ絲ヲ調進セシ古例ナリシヲ年久中絕セシカ此度三河ノ藩ニ申合シテ古ノ如ク致度トノ事ニ附キ三河全國ノ神職其外志ア ル者蠶飼致シ候ハヾ多少ニ依ラス繭ヲ進獻致ス可シ是御國恩ヲ報奉ルノ節ニモ候ヘバ 々モ少々タリトモ納メ奉ル樣ニ致ス可シ其納ル者ハ羽田野佐嘉木方ヘ申出ベキ事

右ノ通リ可被得其意候事

未三月十日　豐橋藩　社寺掛印

是月太政官ハ府縣藩ヘ達シテ各地方管內生絲製造及賣買ノ者從來ノ收稅高幷ニ取締方等來 ル四月ヲ限リ巨細調査錄上セシム

又曰ク民部省少佑尾高惇忠ハ少佑川村光貞營繕少令史山浦俊武幷ニ庶務少令史山田介行等ト上野國富岡ニ至リ富岡製絲所建築ノ爲メ百工ヲ四方ニ募集シ大ニ土木ヲ起ス杉ノ大材ハ

同國妙義山ニ松ノ大材ハ吾妻山ニ求メ役ニ就ク時ノ事務官ニハ民部省權中屬小川喜成中屬秋山政壽少屬酒卷興敬中屬赤城正機權中屬篠尾政愛十五等出仕瀧田道直等ニシテ本務官ニハ中屬佐伯秀明大屬植木忠淳七等出仕澁澤喜作交替役ヲ董ス

四月美濃國郡上郡八幡町宮川五平治蠶種製造取締法意見ヲ大藏省ニ進達ス於是同省ハ郡上藩ニ通牒シテ賞詞ヲ傳ヘシム

五月曩キニ三河國豐橋藩ノ出願ニ係ル伊勢太廟大嘗會御料絲復古ノ式ノ儀ニ附キ政府ハ聞屆ケ難キ旨ヲ牒通ス其文下ノ如シ

願ノ趣神妙ノ至リニ候得共調貢ノ制古今差別モ有之候ニ附キ難被及沙汰候事

五月太政官ハ蠶種製造規則ヲ改定シ達シテ曰ク蠶種製造ハ近來杜撰ニ赴キ數多ノ濫製輩出スト意外ニ堪ヘズ必畢無識ノ細民唯自己目下ノ小利ヲ貪リ遂ニ國產ノ品位ヲ出墜シ隨ツテ外國貿易上ニモ名產ノ聲價ヲ滅却シ民間至要ノ善業モ却ツテ破產ノ資トナル可キガ故ニ蠶種製造規則別紙ノ通リ確定シ來未年ヨリ都テ規則ニ照準シ養蠶場管轄ノ地方官ニ於テ取締行屆ク樣致ス可キ義去ル庚午年達セシト雖モ猶詮議ノ上規則ヲ改定令達ス宜シク此意ヲ體シ各所區々ノ取扱タラザル可ク致ス可キ者ナリ

此時大藏省ハ別紙ヲ以テ達ス曰ク養蠶場取締蠶種製造方法及稅則等別紙ノ如ク規則改定セルヲ以テ各管內取調蠶種及蠶種原紙稅則製造人組合幷世話役撰擧方法年々鑑札收與等凡テ左ノ規則ニ照準シ綿密ニ取扱フ可ク蓋シ斯ル定規ヲ設クルニ於テハ從來各地方ニ於テ取締ノ爲メ其地出產種員數相改メ鑑札相渡シ手數料取立シナレモ自今其地限リ斯ル取扱決シテ成ル可ラサルガ故斷然禁止ス

規則

第一則

一蠶種製造人ヘハ御國內ノ原蠶種ヲ製シ營業候者幷外國輸出ヲ渡世致シ候者モ都テ其支配役所ニ於テ別紙雛形ノ通免許ノ鑑札相渡候間是迄仕來ノ凡積ヲ以テ年々製造員數書取ニテ毎年十一月限リ其支配役所ヘ可申出事

但他人ノ生繭ヲ買取リ蠶種製造ノ者モ仕來高ヲ以テ凡積員數書可申出事

一他人ノ製造スル蠶種ヲ買取リ營業致シ候者ハ凡積員數ハ申立ニ不及候事

但右種賣買ノ手續ハ第三則中ノ條令タルベキ事

一免許鑑札ハ當省ニ於テ製造致シ各地方官ヘ相渡シ可申候間年々各管內製造員數凡高見積前以テ當省ヘ申立右鑑札受取置製造人共願出ツルニ從ヒ十二月中迄ニ夫々可下渡事

一右鑑札ハ年々引替可相成ニ付キ其年ノ見積ニ任セ高ノ增減ハ願人勝手次第可爲事

一右樣規則相立免許鑑札相渡候上ハ向後無鑑札ニテ製濫ノ者有之候ハヾ其種取上本部一枚每ニ金二分ノ割合ヲ以テ過料可申付事

但賣買種ニ限ラズ自用ノ分モ同斷ノ事

第二則

一蠶種製造人ハ最寄ヲ以テ組合相立組內兩人宛更番ニテ世話役相定メ諸般ノ世話方取扱可爲致給金ノ義ハ其組內ヨリ相當ニ可遣事

但右組合ハ凡百人ヲ見當ト致シ最寄ニ隨ヒ取極申可上土地分轄ノ割合ニ依リテ組合人員ノ增減ハ便宜タル可キ事

一組內年々蠶種製造ノ免許高ハ世話役ノ手元ヘ記帳致シ置其年養蠶ノ摸樣蠶種ノ豐凶步合及出來高等世話役篤ト取調其支配役所ヘ申出支配役所ヨリ當省ヘ可申立事

一世話役タル者ハ素ヨリ蠶種孰神ノ筈ニ附キ未熟ノ養蠶家ヘ方法敎諭可致且養蠶ノ義ニ付新發明ノ事之有候ハヾ其筋ヘモ申立組內ヘモ傳習可致事

但養蠶ハ桑畑ノ取調方肝要ニ付川附荒蕪等ニテ自然地味宣シキ場處有之候ハヽ支配役所ヘ申立可シ支配役所取調ノ上當省ヘ申立次第別段ノ御詮議ヲ以テ開發モ可申付事

第三則

一每年蠶種出來揚ノ節都テ各世話役ニ於テ組内取調蠶種紙每ニ改濟ノ證印致シ右員數書支配役所ヘ申立支配役所ニ於テ兼テ當省ヨリ相回シ候鑑札改濟ノ員數認入世話役ヘ下渡夫々製造人ヘ可致分配事

但蠶種出來方ハ氣候又ハ養方ノ差ニ依リ遲速可有之ニ付時日見計何度ニモ改印可致事

附改印ハ組合ノ多寡ニ應ジ支配役所ニ於テ彫刻致シ平常ハ役所ニ差置キ年々改ノ節世話役ヘ相渡スベク事

一他人ノ生繭ヲ買取リ蠶種製造致度分ハ其製造人ノ組内世話役ニ於テ改印ノ證印致シ前同樣ノ手續ヲ以テ員數改鑑札下渡シ可申事

一他ノ管内ニテ生繭ヲ買取リ蠶種製造致度者ハ最寄其本貫役所ヘ申立凡積ノ製造鑑札幷製蠶場ノ支配役所ヘ添翰ヲ受ケテ相越シ凡積高相届製造可致尤出來ノ上ハ其所組内世話役ノ改濟證印幷員數改鑑札等第三則ノ初節通取扱可申付事

但稅金ノ義ハ其本貫ヘ可相納事

附本文ノ手續相濟候上ニテ其所ノ役所ヨリ員數書ヲ以テ共本貫ヘ可相達本貫ニテハ製蠶場役所ノ員數達書ヲ證トシ運上取立可申事

一右改節最初願高ヨリ蠶種出來高增減有之候義ハ其年ノ豐凶ニ依リ差搆無之事

一右員數改鑑札ハ御國内賣買外國輸出ノ分共枚數認入可相渡尤モ蠶種紙每ニ製作人居所名面其外共別紙雛形ノ通調印可致事

但得國内賣買外國輸出ノ差別ハ員數改鑑札ニ認譯候迄ニ蠶種紙ハ記入ニ不及事

一各支配役所ニ於テ右員數改鑑札相渡候節國々賣買外國輸出ノ差別ナク都テ本部二十五枚ニ付金二兩二分ノ割合ヲ以テ水陸路修造ノ運上トシテ取立每年十二月限製造人別出來種員數調譯明細帳ヲ以テ當省ヘ可相納事

一他人ノ製造スル蠶種ヲ買取リ賣買致度候者ハ都テ右種元方ニテ買入ノ節其種ニ附屬スル員數改鑑札相添賣買可致尤銘々ノ原蠶種ニ買取リ候分ハ右鑑札相添ニ及ハズ候事

但員數改濟證印ヲ不受前ハ賣買約束ノ儀ハ格別蠶種他人ヘ賣渡候儀ハ決テ不相成候事

一外國輸出ノ分ハ頁ニ各開港場ニ於テ改濟ノ有無撿查可致候間蠶紙ヘ右員數改鑑札ヲ添

へ改受ノ上ニテ賣込可致事

但右港ニテ改ノ節員數鑑札ハ各港役所へ引上ケ十一月限リ當省へ可相納事

一各開港役所ニ於テ改濟ノ蠶種開港場ニ於テ直チニ外國人へ賣込候トモ又ハ御國商人中ニテ賣買致候共勝手次第タル可シ

但賣込ノ手續ハ是迄通リタル可キ事

一御國內賣買ノ種ヲ以テ員數改候蠶種外國輸出致度者幷外國輸出ノ積ヲ以テ員數改受候蠶種紙國內賣買ニ致度者ハ各開港場又ハ土地便宜ノ地方官へ相屆ケ賣捌可申尤賣買ノ景況ニ依ツテ屆出ツルニ時日ヲ得ザレハ賣捌ノ後屆出候トモ不苦候事

第四則

一御國內へ賣買候者ノ員數鑑札ハ年々冬十一月限其支配役所へ相納メ翌年ノ免許鑑札ト積ヲ可申立事

但外國輸出ノ分ハ員數改鑑札ハ賣込前各開港場へ相納候ニ付凡積免許鑑札ハ四月限リ申立ツ可キ事

一員數改鑑札ハ支配役所ヨリ凡積ヲ以テ申立次第何枚ニテモ可渡置ニ付製造人願出ニ從ヒ何枚ニテモ小譯ニ致シ可下渡假令ハ蠶種百枚有之十枚宛ニ仕譯鑑札十枚受候トモ又ハ百枚鑑札ニ致候儀モ願人勝手ニ候尤現員數ノ外ニ重鑑札相渡シ候儀ハ堅ク不相成候事

第五則

一新規ノ養蠶場ニテ試ノ爲メ蠶種製造致度者ハ最初ヨリ凡積ハ難申立筈ニ附其年限免許高書入無之試業鑑札受可申且其年製造ノ蠶種ハ前條ノ例ニ從ヒ員數改鑑札相渡可申其節半減ノ運上取立員數改鑑札可相渡尤翌年ヨリ凡積免許鑑札願ハ其外共前例ノ通可取扱事

但從來ノ養蠶場ニテ其年ノ摸樣ニ依リ蠶種製造致度者ハ最寄世話役ヲ以テ其支配所へ申立臨時免許鑑札可願受右改其外共規則ノ通タル可キ事

一試業鑑札臨時鑑札トモ外鑑札同樣當省ヨリ兼テ可渡置ニ附キ其內ニテ夫々書入下渡可申事

一免許鑑札願受候者其年ノ養蠶不熟ニシテ蠶種皆無ノ節ハ免許鑑札返上候共又ハ他ノ新繭買入蠶種製造致候トモ勝手次第タル可ク候尤凡免許高ノ當リヲ以テ買入可致事

但蠶種出來ノ上ハ負數改ハ規則通タル可キ事

一夏蠶種幷春蠶ノ再出蠶夜附蠶種等製造ノ者ハ其年ノ摸樣ニヨリ申立臨時物トシテ其時ニ願出次第鑑札相渡蠶種出來ノ上改方ハ前條ノ通可取扱事

但夏種蠶幷春蠶ノ運上ハ本種ノ半額ヲ以テ割合夜附種ハ本種四分ノ一ヲ上納可致且改印ハ改ノ節夏蠶又ハ再出夜附等ノ文字雛形ノ通各地方官ニ於テ彫刻シ其時ニ可下渡右改印毎紙調印可致事

第六則

一原紙漉元ハ向後別紙雛形ノ通各支配役所ニ於テ職方ノ免許鑑札相渡シ可申ニ付免許無之者ハ決シテ漉立不相成事

但漉立原紙ノ裏ヘ漉主居所名前トモ調印可致事

一原紙漉立ノ免許鑑札ハ當省ニ於テ可相渡間各支配役所ニ於テ是迄漉立職方ノ者取調名面當省ヘ申立右鑑札受取相渡可申事

但名面申立ノ節是迄右職方ニテ漉立候原紙員數三ヶ年分ノ處取調可申立事

一右鑑札ハ原紙取締ノ爲メ相渡候ニ付稅金ハ無之尤モ年々引替ニ及不事

一右原紙ハ各支配役所ニ於テ其他ノ都合ニ依リ官員出張致シ改濟ノ上別紙雛形ノ通打込ノ改印可致事

一右打込ノ印無之分ハ一切賣買不相成若不心得者有之ニ於テハ見當次第其品取上ケ原紙百枚毎ニ金一分ノ割合ヲ以テ過料可申付事

但蠶種仕附候分ハ同樣其品取上ケ蠶種製造人ヘモ同斷過料可申付事

一右原紙其支役所ニテ改ヲ受候節其地ノ相場ヲ以テ代金二十分ノ一（但百兩ニ付五兩ノ割）撿查手數料トシテ相納ム可キ事

一原紙是迄各地ニ於テ厚薄數段有之相場立ニ目方ト枚數トノ不同有之候得共以後凡テ金一兩ニ附キ何百目ト相定メ賣買可致事

一新規原紙漉立相願候者有之候ハヾ支配役所ニ於テ其地楮ノ模樣及水土ノ良否取調ノ上至當ノ筋ニ候ハヾ其段當省ヘ伺ノ上漉立ノ免許可致候事

一原紙漉立方ノ有之候場所ハ其支配役所ニ於テ職方株幷改濟ノ上打込印致シ員數稅金共綿密ニ取調第七則第三節ニ記載セシ通可取扱事

第七則

一毎年凡積免許鑑札願ハ其年桑ノ繁盛ヲ見計ヒ十一月限リ支配役所ヘ申立同年十二月中鑑札下渡蠶種出來ノ節員數改鑑札ト引替可申候間免許高支配役所ニ於テ薄冊ヲ製シ置詳明ニ記入可致事

但臨時鑑札渡方有之候分モ明細ニ薄冊ニ記入可致事

一惣テ其支配所ニ於テ取扱候本種幷夏蠶再出其外ノ免許鑑札員數改鑑札渡方引上方明細ニ記載シタル帳面相添ヘ引上候鑑札類引纏年々十月限リ當省ヘ可差出事

一蠶種原紙トモ諸稅金ノ義ハ凡調ヲ以テ其年八月迄ニ相納ノ精勘定ノ義ハ其三則中ノ第五節ニ有之候通リ十二月限リ諸調譯詳明ニ記載シタル帳面相添ヘ當省ヘ可相納事

但右規則相立候ニ付ノ諸入費ハ一ヶ年試ノ上可申立事

一惣テ右規則ニ戻リ候取扱之有候ハヾ咎可申付事

但組中ノ不正ノ筋之有世話役不心附シテ外方ヨリ相顯ル、ニ於テハ其世話役越度タル可ニ附キ其科ノ輕重ニ依リ世話役ノ給料一ヶ月ヨリ三ヶ月分迄ヲ科料トシテ可取上若シ又タ世話役自分不正ノ事ヲ相謀リ候カ又ハ不正ノ者ヘ黨與致シ候儀相顧ル、ニ於テハ規定ノ年限リ不拘役儀召放シ縱令ヒ勤年限未滿ニ候トモ二ヶ年以上ノ給料丈ノ割合

ヲ以テ科料金ヲ取上ケ可シ

且世話役其職ヲ怠リ又ハ其組内ニ協和セサル時ハ年限中ニテモ他ノ相當ノ者ヲ撰ミ交代セシムル事アル可シ

一不正ノ筋有之候テ他ヨリ見出シ訴出候ハヾ調ノ上事實相違無之上ハ科料金取上品代共高ノ二十分ノ一ヲ其訴主ヘ下サレ候ニ付其地方官廳ヨリ給與可致事

一取上品ノ儀原紙ハ打込印致シ候上漉元ヘ拂下可申蠶種仕付有之分ハ雛形ノ通リ取上品證印ヲ押シ國内用トシテ其時々公ノ入札ヲ以テ拂下渡候節第三則中ノ第四節及同則中第五節記載セル趣旨ニ習ヒ買請人ノ居所名面其外共押印爲致改濟ノ證印致シ幷ニ員數鑑札相渡可申事

但取上品ハ外國輸出ヲ不許事

附取上品ノ印ハ地方官ニ於テ雛形ノ通リ彫刻シ備置可キ事

一諸種ノ科料金取立幷取上品入札拂等有之候節ハ其金高調帳相添ヘ第三則中ノ第五節ニ掲クル通リ取計可申事

右之通規則相定候事

大藏省

辛未五月

（參照）明治三年八月條

（參照）明治三年九月條

又曰ク是月各府縣藩ヘ達シテ生絲製造幷ニ賣買ノ者從來ノ收稅高幷ニ取締方巨細取調己ニ四月中差出ス可ク筈ノ處今日ニ處ル差出サヽル輩モ有リ不都合ノ次第ナルガ故至急之ヲ進達セシム

是月速水堅曹ノ管理ニ屬スル上野國前橋製絲所ハ十二窖ヲ以テ製絲スルニ至ル

六月熊本縣肥後國長野濟平ハ同地製絲業聞設ノ目的ヲ以テ洋式器械製絲傳習ノ爲メ上野國前橋製絲場ニ入場ス又信濃國小縣郡諏訪方村外五ヶ村ハ製絲機械所建設ノ爲メ同地宮下理兵衛女子七人ヲ率ヒ上田藩ヨリ前橋製絲所ニ來リ傳習ヲ受ケシム然レ𪜈此業遂ニ就ラズ

同月橫濱人商會經社ニ會合セル生絲商人惣代ヨリ刋行ノ文アレ𪜈煩ニ過クルヲ以テ除ク

同月東京南校ノ教師伊太利國人メジヨル氏ヨリ「ボルセインホークス」幷ニ「アイス」式二十二組ヲ速水堅曹ニ贈ル是皆ナ伊太利國ノ製絲器械ナレバナリ

九月北海道ニ於テ蠶キニ養蠶ヲ試ミシヨリ以來各地ニ於テ蠶種製造ヲ始ムルヲ以テ開拓便

ハ大藏省ニ稟申シ斯業奬勵ノ目的ニ基キ當地產出ノ蠶種外輸ニ係ル者ノ外凡テ課稅ヲ免セラル

是月上野國群馬郡岩鼻町塚越眞平ノ蠶種用紙抄製ヲ許可シ鑑札ヲ下附ス

是月前橋製絲場速水堅曹製絲場經過ノ方法書規則及營業ノ損益ヲ調查シテ新舊式ノ損益ヲ比較スルニ左ノ如シ

沿革ノ要ハ既ニ該處創立以來本史ニ於ケルガ如ケレハ除ク

前橋藩製絲所規程

第一條　每朝時計三十分未明ニ起キ面手ヲ洗ヒ各預リ釜ヘ火ヲ焚キ繭ヲ配リ明且直チニ絲繰ニ從事ス

第八時朝食、第一時晝食、第七時夕食、第九時寢ス、

第二條　七節幷ニ月々朔望休日ノ事

第三條　十二器械下組掛リ

師婦一人、上女十三人、中女二人、小女十五人、男一人、

但男ハ車廻シナリ未ノ八月中ヨリ水車ニ改メタルヲ以テ癈ス

第四條　上女銘々帳面ヲ仕立置キ毎期繭何匁受取絲何匁ヲ製シ候譯明記ススベ事

第五條　自由ノ進退ヲ許サズ萬一病氣又ハ無餘義用事アラハ其段主人ヘ達シ差圖ニ隨フ可キ事

第六條　休日休宵共獨行ヲ許サズ刻限違フ可ラサル事、休日休宵無余儀外出候トモ夜九時ヲ限リ規則ニ隨フ可キ事

第七條　師婦ハ毎日繭ノ渡シ絲ノ受取等目方ヲ吟味シ帳面ニ記シ絲ノ精粗ヲ糺シ怠ヲ責メ小女ノ次第ヲ着自シ都テ細密ニ心ヲ用ヒ諸婦ヲ支配シ黜陟ノ權有ル可キ事但給料百銀二十匁宛自分賄

第八條　上女ハ師婦ノ差圖ニ隨ヒ日々帳面ヲ以テ繭ノ受取絲ノ納メヲ成シ聊他事ヲ顧ミルナク自分ノ小女ヲ敎授シ絲精製ニ心ヲ用ヒ相互ニ雜語アルナク常ノ規則ニ違フ勿レ

第九條　絲仕上上女ハ師婦ノ差圖ニ隨ヒ篋ノ掛外シ絲ノ結ビ小札ノ認メ等ヲ始メ都テ混雜ナキ樣心ヲ用ヒ小女ヲ敎ヘ常ノ規則ニ違フ勿レ給料上女ニ同シ

第十條　中女二人內一人火ノ掛リ一人湯ノ掛リ何レモ師婦ノ差圖ニ從ヒ小女ヲ助ケ諸釜ノ差支ナカラン事ヲ勉メ常ノ規則ニ違フ勿レ○給料一日銀四匁五分宛

第十一條　小女十五人內十二人絲引上女附二人師婦一人絲仕揚上女附孰レモ師婦幷ニ上女ノ差圖ニ從ヒ夫々ノ業ヲ勉メ絲口ヲ出スニ至ツテハ聊カ他事ヲ顧ミルナク亦餘語アルナカレ一時ヨリ時計三十分ノ間絲取ヲ練習シ夕刻引終ラハ自分釜前ヲ掃除シ繭絲屑少シモ麁末アル勿レ亦常ノ規則ヲ忘ル勿レ

給料師婦ノ着目ヲ以テ上中下ノ三等ニ區別ス

上一日　銀二匁五分宛

中一日　銀一匁五分宛

下一日　銀七分五厘宛

右ノ條々堅ク相守リ可申若心得違ニテ規則ニ違フ者ハ相當ノ咎可申付者也

一右規則ノ通ハ勿論幷ニ其業ノ不熟ト其不慣ニシテ大同小異アリ本年業附ノ功拙ハ左ノ如シ

五月六月	中	一日一釜上	繭	同上中	繭	同上下	繭	一ヶ月休日去上中下平均合	二ヶ月休日去殘日數

製絲入費	米	油	薪	塩噌野菜	傭使	職工	婦人給料
上女	糸	一百六匁	六十五匁	五十四匁	一貫四百八十四匁五分	四十九日	休日五月一日五日六日
	舛	一斗四舛	八舛	七舛	二石〇六舛		
中女	糸	五十七匁	四十匁	二十七匁	一貫白四十二匁	六月一日二十日	休日十七日二十一日
	舛	八舛	六舛	四舛	一石六斗		
下女	糸	四十三匁	二十八匁	十三匁	七百八十七匁	十八日二十二日	十九日
	舛	六舛	四舛	二舛	一石〇六舛		
七月八月	中	一日一釜上	同上中	同上下	二ヶ月休日去上中下平均	三ヶ月休日去殘日數	
		繭	繭	繭			
上女	糸	百二十八匁	八十八匁	六十一匁	一貫五百四十八匁	五十二日	
	舛	一斗七舛	一斗二舛	八舛	二石〇六舛		
中女	糸	八十二匁	七十四匁	四十五匁	一貫二百四十五匁五分	休七月一日七日十三日十四日十六日	
	舛	一斗二舛	一斗	六舛	一石七斗		
下女	糸	五十六匁	四十五匁	二十六匁	一貫〇七十六匁	休八一日	日月十五日
	舛	八舛	六舛	四舛	一石五斗		

右表ヲ按スルモ月々上達ス然レ𪜈今年上達未タ央ナラズ

一日一釜	一ヶ月一釜	一日十二釜	一ヶ月十二釜	一日一釜合四貫百九十五文	一ヶ月一釜合十一兩三分〇六十八文	一ヶ月十二釜
〇〇〇九合一貫文	〇二斗五舛二合廿八貫文	〇一斗八合十二貫文	三石〇二舛四合三百三十六貫文	一日一釜合四貫百九十五文	一十二釜合五百三百八十四文	一十二釜合百四十一兩八百四十八文
〇〇〇六才二十七文	〇一合六夕八才七百八十四文	〇〇七夕二才三百三十六文	二舛〇一夕六才九貫四百四十八文	一ヶ月〇六十八文	一ヶ月十二釜	
四束半一貫文	百二十六束二十八貫文	五十四束十二貫文	千五百十二束三百三十六貫文			
三百三十二文	九貫三百三十二文	四貫文	百十二貫文			
二百三十二文	九貫五百三十二文	四貫文	百十二貫文			
百〇四文	二貫九百十六文	一貫二百四十八文	三十五貫文			
上中下	上中下	上中下	上中下			
一貫四百文八百文四百文	三十九貫二百文二十二貫四百文十一貫二百文	十六貫八百文九貫六百文四貫八百文	四百七十貫四百文二百六十八貫八百文百三十四貫四百文			

右入費ヲ以テ從來日本ノ製絲ニ標準スルニ左ノ如シ

和洋	西洋式					
双方上婦製絲調女一ヶ月廿八日	一日一釜	一月一釜	給料	入用	絲目	繭代	口紙代	洋銀積	益	百斤ニ付
	二人	五十六人	一貫四百文	二貫七百九十五文	百二十八匁	四兩	三百文	五十五匁	十四貫九百四十九文	八百五
	一貫四百文	三十九貫二百文	七兩三分ト八百六十八文	三貫五百八十八四匁	百十二兩	八貫四百文			四十一兩三分ト一貫百二十八文	

製絲		日本式製絲			
一十二日釜	一十二ヶ月釜	一日一釜	一ヶ月一釜	一十二日釜	一十二月釜
二十四人	六百七十二人	一人	二十八人	十二人	三百三十六人
十六貫八百文	四百七十貫四百文	八百文	二十二貫四百文	九貫六百文	二百六十八貫八百文
三兩一分ト一貫八十四文	九十四兩ト四百四十八文	一貫九百文	五兩一分ト七百文	二兩一分ト三百文	六十三兩三分ト九百文
一貫五百三十六匁	四十三貫ト八匁	五十六匁	一貫五百六十八匁	六百七十二匁	十八貫八百十六匁
四十八兩	千三百四十四兩	一兩三分	四十九兩	二十一兩	五百八十八兩
三貫六百文	十兩ト八百文	一貫文	二十八貫文	十二貫文	三百三十六貫文
十七兩三分二朱六百六十文	五百〇二兩二分ト一貫〇四十六文	一貫九百三十二文	五兩一分二朱三百八十文	二兩一分ト七百文	六十四兩三分二朱八百四十八文
十枚賣		七百札賣			

生紙ノ善惡

○洋法器械製

舛一　惡繭ヲ取ラス大繭ヲ交ヘス水氣ヲ加ヘズ口紙ヲ見ズ

第二　紙ニ紡アリ篗ニ綾アリ是以テ繰織ニ利アリ

第三　絲ノ膏ヲ拔カズ圓團平均ニシテ節ナシ繭艶澤ヲ其儘顯ハス

第四　戸毎ニ取ラズ一所ニラ監督ス故一箇々々ニ同樣ニ製ス

○日本從來製

第一　惡繭ヲ取リ大繭ヲ交ヘ水氣ヲ加ヘ口絲ニ捻ヲ入ル

第二　絲ニ紡ナシ篗ニ綾ナシ是以繰織ニ利ナシ

第三　絲ノ膏ヲ去リ平面不同ニシテ節アリ繭ノ艶澤ヲ異ニス三年ヲ過キス糸ノ本性盡キテ用ヲ成サズ

第四　戸毎ニ取戸毎ニ僞リヲ功ミ或ハ百目ニ不同或ハ二百目ニ不同故見分ヲ以テ類ヲ寄セ合シテ一箇ナトス

第五　上婦ニ在ツテハ殊更念入大ニ困膽シ第四條ノ如クナラズ絲製スレハ一日二十五六匁ニ過キズ奥信皆然リ但二條三條ノ弊ヲ免レズ併節多シ

是レ所謂本邦矯矢ノ機械製絲比較及規製絲則ニシテ當時世論ノ末タ新規事業ニ親マサルノ時期ニ於テ事業ノ損益得失ヲ調査スルモ盖シ事業奬勵ノ止ムヲ得サル者ナランカ聞ク上野人士該製絲塲建設ノ當時ニ於テハ頗ル世論ノ喧シキ事アリシト然ルニ前橋藩主カ夙ニ能ク

該業ヲ政府ノ企畫ニ先ツテ起業セシハ本邦製絲改良ノ鼻祖ト云フモ杜撰ニ非ルヲ知ルニ足ル

十月東京深川區中川町豪商川村傳衛下野國宇都宮宇都宮町ニ製絲所ヲ建設セント手代玉村安次郎シテヲ宇都宮藩士ノ女子五名ヲ率ヒ上野國前橋製絲所ニ傳習ニ入場セシム

十一月伊太利國公使コーント、デ、ラ、ツール本國ノ通牒ヲ具シ日本蠶卵産附ニ用ユル原紙見本ヲ求メント曩キニ本邦大藏省ニ申請シタル事アリシヲ以テ我カ大藏省ハ是月武藏、相摸、甲斐、上野、信濃、越後、陸前、陸中、陸奥、盤城、岩代、羽前、羽後ノ諸縣ニ達シ其管内養蠶家ノ向製造ノ蠶紙ヘ相用候別紙雛形圖面ノ原紙從來多分ノ蠶種製造致シ來候者共ヨリ二枚宛早々勸業寮ヘ差出サシム

十二月租稅寮ハ蠶種稅酒造稅其外免許稅トモ元縣々ノ内未タ上納不致場所有之處今度廢縣ニ至ルニ附テハ新規ノ縣々ニ於テ取立上納可致者ナリト雖モ然ル時ハ混雜ニ至ル可クヲ以テ此程達候貢米同樣本年ハ元縣々ニ限リ取立仕譯帳相添新縣ヘ申送上納致ス可シト達セリ蓋シ本文ノ稅額詳細ハ鄕帳外書ニ記載セシメタリ

然ルニ蠶種稅其他諸稅ノ調査進達一定ノ式ナク取扱上混雜ヲ生スルガ故租稅寮ハ尙達シテ

向後規則ニ照準シ別紙雛形ノ通取調可差出ト府縣ヘ通達セシム但曩ニ達スルガ如ク本年限リ元縣名ヲ以テ可差出且本文規則中第七則ノ五節科料金取品拂代立共高二十分ノ一ヲ以テ其訴主ヘ下附スト雖モ是科料金等ノ内ヲ以テ下附スルノ意ニ非ズ公廨入費ノ内ヲ以テ下附スルノ意ナルガ故科料金取上品拂代ハ其儘上納スベク尤モ賞與金下附ノ節々屆デ出ツ可シト而シテ其別鑑形ハ左ニ於ケルガ如シ

蠶種製造免許并員數改鑑札下渡方内譯

一免許鑑札　何枚　御渡高

内

本種何枚

試業何枚

臨時何枚

一員數改鑑札何枚　御渡高

此譯

免許鑑札何枚　下渡ノ分

員數改鑑札何枚　下渡ノ分

内

何枚各開港場運上所ヘ相納候分

殘　何枚

此鑑種紙　何枚

内

本種　何枚

再出　何枚

夏鑑　何枚

夜附　何枚

試業ノ分

本種　何枚

再出　何枚

夏鑑　何枚

夜附　何枚

元拂差引

免許鑑札　殘高

内

本種　何枚

試業　何枚

臨時　何枚

員數改鑑札　同斷

右ハ干支年中鑑種製造免許鑑札幷員數改鑑幷下渡方書面ノ通リニ御座候間依テ右鑑札類返上候也

干支年月日

府縣

運上所ニ於テ取立候鑑種員數改鑑札取調

一鑑札　何枚　取立高

此譯

何枚　（何府何縣）ノ分
右ハ干支年中當運上所ニ於テ取立候蠶種員數改鑑札書面ノ通リニ御座候也
干支年月日　何港運上所

蠶種原紙稅金御勘定組

一正金　何兩何分　永　干支年中取立高
　金札　何兩何分　永
　合金何兩何分但永ハ分限限リ以下四捨五入ノ事
　內
　金……蠶種稅
　金……原紙手數料
　此譯
　金……蠶種ノ分
　蠶種紙　何枚
　內
　本種　何枚

再出　何枚
夏蠶　何枚
夜附　何枚
此製造人內譯
一金　何國何郡何（町村）何ノ誰
蠶種紙何枚
本種何枚
此稅金
再出何枚
此稅金
夏蠶何枚
此稅金
夜附何枚
此稅金

試業ノ分

一金　蠶種紙何枚

但内譯書ニ右ノ振合ニ照準スベシ

一金　原紙ノ分

原紙何貫目

此製造人内譯

原紙何貫目

此手數料但一兩ニ附何百目替ノ何分

外　但外書朱ノ┐

于支年中

本種　何枚

再出　何枚

夏蠶　何枚

何國何郡何(町村)　何　ノ　誰

夜附　何枚

當于支年中ト差引

本種　增減

再出　增減

夏蠶　增減

夜附　增減

本文增減差引ハ來ル寅年ヨリ記載可致事

右ハ(府縣)于支年蠶種幷原紙稅金書面ノ通ニ候間右金取立相納鄕帳外書ニ記載同年御勘定元ニ組ミ仕上可申出之御證印之有度候也

于支年月日

府縣

蠶種原紙ノ義ニ付科料上品拂代金御勘定組

一正金……科料金

一金札……科料金

合金……科料金

內

一金……取上品代　何國何郡何(町村)何ノ誰

此譯

一金　是ハ何々ノ譯ニテ本種再出夏蠶附夜ノ何々何枚本部何枚一枚何分科料金

一金　是ハ右同斷一枚ニ付金何兩ニテ賣拂仕但原紙分モ右ノ振合ニ照準スベシ　何國何郡何(町村)何ノ誰

一金　是ハ何々ノ譯ニテ給料何兩ノ何ヶ月故何ヶ年分ノ科料

右ハ(府縣)支紙所干支年蠶種幷原紙ノ義ニ付科料金取上品拂代金書面ノ通ニ候間右金取立相納鄉帳外書ノ記載同年御勸定元ニ組ミ仕上可申依之御證印有之度候也

十二月勤業察ハ去年製作蠶卵紙優等ノ者褒賞規則ニ依リ金幣ヲ購ヒ印刷物ヲ府縣ニ配布シ各人輻輳スル塲所ニ揭示セシム其揭示ノ次第ニ府ハ五枚諸縣ハ十枚宛ノ割合ヲ以テ之ヲ頒ツ盖シ其養蠶家ノ多々アル縣々ハ願出次第之ヲ頒ツト達ス而シテ是年御國內第一等精良蠶

種製造トシテ揭示セラレタル者下ノ如シ

上野國佐伊郡島村　田島武平
岩代國伊達郡梁川村　大竹惣兵衛
信濃國高井郡福島村　平野要左衛門

是年本邦ヨリ輸出ニ係ル蠶絲蠶繭ニ屬スル物價ハ左ノ如シ

生絲百三十二万三千二百三十五斤　價金八百万〇〇四千百四十四圓
熨斗絲十五万一千百十斤　金十二万七千五百十四圓
屑絲二十三万三千三百八十三斤　金六万三千百七十六圓
玉絲五千九百九十一斤　金一万五千二百八十三圓
眞綿四万八千二百九十六斤　金二十二万七千五百五十五圓
蠶卵紙百四十万〇〇二十二枚　金百二十八万五千百九十圓
繭四千五百九十斤　金二千四百七十四圓
屑繭三十九万六千九百十八斤　金十九万四千百四十六圓
是年絲價ハ平均六百〇五弗ニシテ五ヲ前年ニ比スレハ頗ル下落シタルナリト聞ク普魯西

佛蘭西南國ノ戰爭ヨリ九月ニ至リ佛帝薨ニ降リタルガ餘波何トナク市上未タ殺氣ヲ去ラズ且銀塊ノ變動ニヨリ絲價抵落シテ四百弗ニ至リシ事アリシ然レ𪜈其後小シク商務ヲ挽回シタルヲ以テ打算スレバ六百五弗ノ取引ニ至レルナリ

明治五年二月前橋藩ノ創設ニ係ル製絲所ヲ以テ群馬縣廳ニ引渡セリ

二月民部省ハ上野國富岡製絲場建設工事落成ノ期近ツクヲ以テ玆ニ工女募集ノ議案ヲ決ス

又曰ク此年蠶種製造人等ガ再出蠶種製造ニ連レ內國用蠶種等常ニ多額ヲ製造シ其販賣ニ弊風ヲ來シタルヲ以テ是月大藏省ハ達シテ蠶種ヲ賣買スル者ハ豫メ製造者ニ約シテ需用ノ數額ヲ限定シ決シテ豫約外ノ蠶種ヲ製造スル事ヲ禁セシム

且大藏省ハ地方養蠶取締ノ爲メ各地大總代ヲ設ケント東京府、入間、群馬、長野、筑摩、山梨、置賜、犬上、岐阜、豐岡、新潟ノ十縣ニ令シテ蠶種製造人中行爲正實ニ事業熟達ノ者ヲ公選セシム

是月富岡製絲所雇佛蘭西國人ブリユナハ絲器械ヲ購求シ職工數名ヲ率イテ歸朝ス於是之ヲ富岡製絲場ニ移ス

（參照　明治四年正月ノ條

又曰ク北海道石狩國札幌渡島國大野村ニ於テ製造セシ蠶種ヲ開拓使ヨリ初メテ宮內省ニ獻ス

三月大藏省ハ濫造ノ蠶種賣買禁止ノ義ヲ達ス蓋シ明治四年五月蠶種製造其他營業者ニ達ス

ル所ロアリシモ業人未タ目前ノ小利ニ迷ヒ粗製濫造ノ多出スルアルヲ以テノ故ナリ殊ニ夜
付夏蠶再出掛合等ノ蠶種ヲ本製ニ取リ賣買スル等ノ件一切之ヲ禁止シ且生繭ヲ他人ヨリ買
入ル、時ハ買入レ先キノ姓名住所ヲ記シタル押印ヲ爲ス可キ事ヲ併テ達ス
同月富岡製絲場繰絲ニ要スル原繭ハ一時同地近傍ノ繭ヲ買收スルノ義ヲ決シ之カ順序ヲ設
ケ方法ヲ立テ勸業寮ヨリ次第ヲ群馬、入間、埼玉、栃木、長野ノ五縣ニ通牒ス
又曰ク蠶種製造大總代ヲ招集シ蠶業上ノ要旨ヲ諭シ幷ニ該職執務ノ次第ヲ告諭ス
四月横濱市中賣込商業者協議シテ商會規則ヲ規定ス其重要ナル條ハ賣込人買取人共其荷
主ヲ商店ニ止宿セシメザルノ件及口錢ヲ一定シ歩合三厘ヲ積立ツル件等ナリ而シテ其荷主
ヲ商店ニ止宿セシメザルノ條項ヲ此規定ニ設クルハ當時賣込品ヲ携帶セル者即チ蠶種荷主、
ノ如キハ一人千枚以上ノ者アリ或ハ五十枚内外ノ者アリ一般ニ荷主ノ止宿セルハ勿論或ハ
妻子ヲ携フル者アリテ數十日間無錢滯留又ハ貸越金等事實問屋ノ不利多カリシヲ以テナリ
必竟商業ノ競爭ヨリ各荷主ヲ問屋ニ止宿セシメ自家取引ノ盛大ヲ計ル者ナリト云フト雖モ
斯クテハ其弊ノ極ル所ロナルヲ以テ此規則ヲ制定スルニ至ル者ナリ
同月宇都宮縣下石井村ニ川村傳衛五十人繰ノ製絲器械所ヲ設置シ前橋製絲所傳習工女ヲ聚

師トシテ聘用セリ
五月大藏省ハ蠶種生絲說ヲ刊行シテ本邦蠶種及製絲ハ輸出品中ノ名品ナレハ其材料製作者
ハ勉メテ精撰ヲ極メ此際其聲價ヲ失ハサル可ラスト地方官ニ諭告シ且蠶種ハ當
該實業者ノ外濫リニ之ヲ製作ス可ラザル事ヲ告ク其文左ノ如シ

蠶種生絲ノ說

本邦生絲ノ品種宇内各國ニ超越スル更ニ喋々ノ辨ヲ俟タス然レ𪜈頻年蠶卵紙ノ濫出スル
ヨリ大ニ其製作ヲ減シ品位次第ニ下劣ニシテ竟ニ名品ノ聲價失ヒ貿易ノ利路ニ絕ントス
豈浩歎ニ堪ユ可ンヤ抑國ニ名產アルハ人民資ヲ以テ各自ノ利益ヲ增シ其國ノ昌盛ヲ贊ク
ルハ古今内外ノ同シキ所ニシテ而シテ今我邦ニ於テ却テ國家ノ公利ヲ減損シテ商賈或ハ
破產ニ及フモノアルニ至ル苟モ之ヲ憂フルモノ徒ニ袖手傍觀スニ忍ンヤ頃日偶一外商
ノ說ヲ得テ之ヲ開市スル開市以來蠶卵紙輸出ノ次第ト生絲貿易ノ景狀ノ詳悉シ能ク事体
ヲ審ニシテ以テ其眞理ヲ證シ實歷ニ就テ而ノ其弊害ヲ明ニス剴切適實痛ク時弊ノ緣由ヲ
辨折スル人ヲシテ其極救ノ術アルヿヲ了解セシメント謂フ實ニ稀有ノ好書ニシテ養蠶
場ノ珍寶ナリト故ニ今之ヲ世上ニ公ニシテ以テ其業ニ服スル者ヲシテ大ニ及求スルヿア

ラシメントス夫レ一鄕一村ノ中ト雖モ事ノ衆ニ損害アルモノハ必ス之ヲ患テ各其私ヲ去テ共ニ極救ノ術ヲ覓ム是レ世間ノ常情ニシテ然モ吾人ノ同フスル所ナリ況ンヤ今外人尙其弊害ヲ洞知シテ之ヲ忠告スルヿ斯如苟モ此慨歎ヲ同スルモノ切ニ玆ニ注意シテ回護ノ方策ヲ盡サスシテ可ナランヤ

近年日本蠶卵紙ノ輸出額多ナルヨリ大ニ生絲ノ製作ヲ減シ其損害意ニ全國ニ波及シテ貿易ノ公利ヲ失フニ至ントス豈之ヲ悲傷セサル可ケンヤ故ニ吾儕今日商賈ノ其業ニ從事スル者ノ爲ニ爾來蠶卵種ト生糸トノ賣買ニ就テ實歷ノ形狀ヲ述テ以テ其事体ヲ詳明ニシ大ニ看破スルヿアラシメントス庶幾クハ商賈目前ノ小利ニ迷ハス將來ノ公益ニ注意シテ漸ク釐革ノ方法ヲ設ケ固有ノ眞利ヲ回復セハ吾儕ノ婆心モ亦萬一ニ裨補スルナシト云フヘカラス蠶卵紙輸出ノ生糸ニ弊害アルヲ知ラント欲セハ生糸貿易ノ實況ヲ詳悉セスンハアル可ラス故今玆ニ日本瓦市開場ノ翌年ヨリ九年ノ間生糸百斤ノ平均價値ヲ叙シテ以テ其次第ヲ明ニスヘシ

年	彼	我	價
千八百六十一年		文久元辛酉	三七〇弗

千八百六十二年		文久二壬戌	四〇三
千八百六十三年		文久三癸亥	四五九
千八百六十四年		元治元甲子	五〇〇
千八百六十五年		享應元乙丑	六一七
千八百六十六年		慶應二丙寅	七四四
千八百六十七年		慶應三丁卯	七五六
千八百六十八年		明治元戊辰	七四一
千八百六十九年		明治二巳己	八〇〇

右年間ニ於テ千八百六十八年ヲ除クノ外ハ其價常ニ騰貴セリ是レ歐邏巴州ニ於テ非常ノ蠶病行ハレテ大ニ繭ノ生產ヲ減損スルニ由リ自ラ他國良好ノ生糸ヲ要セシメタリ今其事實ヲ明ニスルニハ左ノ形態ニ就テ之ヲ推知スルヲ得ヘシ

千八百五十三年ニハ佛蘭西一國ニテ生糸ノ作ハ生繭四千三百萬斤ニ及ヒタリ然ルニ千八百六十五年ニ至テハ僅ニ百六七十萬斤ニ減シタリ然レハ十二ケ年ノ間ニ於テハ殆ト八割五分ノ減損ナリ伊太里）伊斯巴尼亞、其他歐邏巴中生糸ヲ生スル諸國ニ於テモ其損耗大

略是ニ同シ

是ニ因テ之ヲ考フレハ日本生糸ノ歐州ニ貴重セラレテ次第ニ其價ノ進ミシハ更ニ驚クヘキニハ非ルナリ

然シ日本生糸ノ價値次第ニ騰貴セシ間ニ於テ之ヲ他國ノ生糸ト比較スルニハ其品位ハ却テ漸々ニ劣リタリ此品位ノ劣リタルハ蠶卵ノ輸出ヲ制セサル事ヨリ馴致セシハ是レ智者ヲ俟タスシテ知ル所ナリ

良糸ヲ得ント欲スルニハ必良蠶ヲ求ムルヲ以テ第一ノ先務トナスヘシ而シテ諸製糸家ノ能ク了知セル如ク彼ノ良絲ハ唯春蠶ヨリ之ヲ製スルコヲ得ルモノナリ

蠶卵ノ自由貿易品トナリタルハ千八百六十五年ニ始マリ其以前ニハ此輸出未タ免許セラレサリシ故ニ生糸性質ノ麤惡ニナリタル原因ハ何レノ時ヨリ始マリタリト云フコハ吾儕容易ニ其時日ヲ明指スルコヲ得且事實ヲ擧ケ形態ヲ示シ審ニ其緣由ヲ鮮明スヘシ今是ノ事實形態ヲ論究スルニハ先一ノ要旨ヲ前言スヘシ其前言トハ即テ日本生糸ノ爲ニ第一ノ市場タル龍動ニ於テ相州、武州、信州、越後ヨリ產生シテ生糸中其輸出最夥多ナル提糸ト唱フルモノヽ價値ニアリト知ルヘシサテ千八百五十九年ヨリ千八百六十四年迄

ハ蠶卵ノ輸出未タ免許セラレサリシガ此時ノ伊太里糸ノ平均價値「一ポント」（我量目百二十一匁六分ニ當ル）ニ付二十八「シルリング」（凡我新貨五圓八錢二厘ニ當ル）ニシテ第一等ノ提絲ノ價ハ二十七「シルリング」（凡四圓九十錢五毛ニ當ル）ナリ故ニ伊太里絲トハ唯僅ニ三分五厘ノ差違ナリ千八百六十五年ヨリ六十六年迄ノ間蠶卵百輸出ノ數ハ每年一百六十万内外ナリ而シテ此時伊太里糸價ハ三十八「シルリンク」（凡六圓八十九錢七厘ニ當ル）ニシテ第一等提糸ノ價ハ三十五「シルリング」（凡六圓三十五錢二厘五毛ニ當ル）故ニ伊太里糸トハ既ニ九分ノ差違ヲ生セリ

千八百六十八年ニ於テハ蠶卵ノ輸出二百三十万ノ巨額ニ登レリ而シテ右員數ノ内ニハ上等ノ春蠶卵最モ多シ

其翌年ニ至リテ伊太里製糸ノ價ハ四十六「シルリング」（凡八圓三十四錢七厘三毛ニ當ル）ニシテ上等ノ提糸ハ三十五「シルリング」（凡六圓三十五錢二厘五毛ニ當ル）ナリ故ニ其差違モ亦二割五分余ノ多キニ至レリ

千八百六十九年ヨリ七十一年ノ間蠶卵紙輸出平均ノ員數ハ每年一百三十萬枚余ナリ時々伊太里生糸ノ平均相場ハ三十四「シルリング」（凡六圓十七錢一厘ニ當ル）ニシテ上等提

絲ノ價ハ貳拾九「シルリング」（凡五圓廿五錢三厘五毛ニ當ル）トナレリ故ニ比較ノ差違一割七分ナリ又試ニ支那生絲ノ景狀ヲ說明セハ前段ニ論述セル事理ヲ猶委シテ了解スルヿヲ得ヘシ支那ニ於テハ聊モ蠶卵ノ輸出ナキヿヲ以テ能ク之ヲ推知スヘシ

千八百六十一年ヨリ六十九年迄九ヶ年ノ間平均相場ヲ以テ之ヲ論スレハ日本上等ノ提糸ハ支那ノ極印セシ生絲「ツアトリー」絲名ナリ）第三番ノ價ヨリモ二割二分ノ高價ナリシ

然ルニ千八百七十年七十一年ノ間ハ上等糸提ノ平均相場支那絲ト其價位ヲ同フセリ

目方即チ千八百七十三年ニ於ラ極印シタル支那生絲ノ價ハ龍動ニテ二十九「シルリング」（凡五圓廿五錢三厘五毛ニ當ル）ニシテ上等提絲ハ二十八「シルリング」（凡五圓八錢二厘ニ當ル）ニ賣リ難シ

龍動ノ市場ニアル殘糸ノ事ヲ論シテ尙此外ニ前段ノ考證ニ供スヘシ是ハ龍動商賈ノ庫中ニ在テ賣殘リタル日本生糸ノ員數ヲ毎月詳細ニ調査シタル實驗ノ說話ナリ

千八百六十年ヨリ千八百六十八年マテ龍動ニ於テ日本生糸ノ賣殘リシ額ハ八十片一ト箇ニ登レリ

昨千八百七十一年中ハ生糸ノ產出殊ニ減少セリト雖モ當七十二年ノ始ニ於テ九千五百箇ノ殘額ナリ而シテ其中ニハ提絲最多ク大概古物ノ下品ニシテ織工ノ之ヲ買フヿヲ欲セサルモノナリ

今此ノ二三ノ事体實歷ニ就ラ之ヲ推察セバ蠶卵ノ自由貿易ハ實ニ日本生絲ノ產出ニ大害アルハ更ニ疑ヲ容ルヽヿヲ得サルヘシ是レ曾ニ生絲賣買ノ價値ニ於テノミ減耗アルニアラスシテ今世界中ノ大市場ニ於テ有名聲價ヲモ損傷スルニ至レリ此聲價ヲ減傷スル事ハ其損失更ニ大ナルヘシ

恐ラクハ賣買ノ價値ヲ減セシヨリ其弊害ヲ辨知セバ早ク之ヲ極救回スルノ方法ヲ設クヘシ是レ固ヨリ此理ヲ了解シテ其弊害ヲ辨知セバ早ク之ヲ極救回日本府政及人民ノ其業ニ從フモノ能ク政府ノ職掌ニシテ決シテ忽ニス可ラサルヿトス

護ノ方法ヲ設クヘシ是レ固ヨリ政府ノ職掌ニシテ決シテ忽ニス可ラサルヿトス

今政府既ニ國民ノ便宜ニ注意シテ外國製ノ器械ヲ購入シ以テ日本生絲ノ進歩ヲ計ルハ其賞美スヘキヿナリ然レ𪜈良蠶保護ノ處置ナケレバ恩ラクハ其功ヲ奏シ難カルヘシ

良絲ハ惡蠶ヨリ得ル能ハサルハ人ノ共ニ通知スル所ナリ今良蠶卵ヲ殘ラス出輸スル時ハ如何ニシテ良蠶ヲ得ルノ道アルヘキヤ是獨リ吾儕ノ苦慮スルノミナラス横濱ニ在留スル歐米諸國ノ商賈ノ等シク憂慮スル所ニシテ日本政府ノ早ク此蠶卵ノ濫出ヲ制止スルヿヲ

希望セリ然リ而シテ吾儕ノ所見ハ現ニ此事ヲ行フ其効ヲ致サンニハ實ニ奥州木澤柳川信州上田上州島邨等ノ春蠶卵ハ全ク其輸出ヲ禁止スルヨリ他事ナカルヘシ千八百六十五年以來日本政府蠶卵自由貿易ノ許可アリシニ由テ歐羅巴ノ人民ハ大ニ其便益ヲナシタルハ更ニ疑ナカルヘシ然ルニ今日ニ於テハ歐羅巴諸州蠶ノ疾病漸ク將ニ消セントセリ而ノ佛朗西伊斯巴尼亞ニ於テハ此ニ三年來ハ殊ニ多量ノ良蠶ヲ產セリ故ニ日本ノ蠶卵ハ歐羅巴ノ市場ニテ賣買セラレタル價値ノ次第アルニ就テ之ヲ證明スルヲ得ヘシ其故ハ當初日本上等ノ春蠶卵ハ紙一枚ニ就キ三十「フランク」(凡四圓二十六錢ニ當ル)賣レタルニ此ニ二三年間ニハ僅ニ六「フランク」(凡八十五錢二厘ニ當ル)ヨリ十五「フランク」(凡二圓十三錢ニ當ル」ノ相場トナレリ

既往ノ事ヲ詳論シテ以テ將來ノ務ヲ推案セハ日本政府ニ於テ吾儕ノ忠言ヲ採用シテ之ヲ實地ニ施行セラルヘキ機會ハ實ニ今日ニ限レリト云フヘシ而シテ此保護ノ事即チ其國ノ自守自防ニシテ聊モ他ノ障碍ナキノミナラス是レ即チ外國交易ノ關渉スル最大緊要ナル產業ヲ自國ノ爲ニ回護スル實務ト云ヘシ

サテ頗ル長文ニ渉ルトイヘ𪜈更ニ一ノ警語ヲ錄ノ以テ前章數言ノ照應ニ供スヘシ其警語

ハ即チ日本在留某國公使館ノ書記官ヨリ其本國政府ヘ送達シタル日本養蠶事務ヲ報告セル信書中ノ一語ニアリ

其書翰ト全文ハ不急ナルヿナレハ之ヲ贅セス唯其時ハ日本江戶ニ於テ千八百七十一年一月十二日ト記シタリ其文ニ曰ク

日本ノ最良ナル州郡ヨリ上好ノ蠶卵ヲ夥シク輸出セル事ハ實ニ日本生絲ノ蠹惡ナルヿヲ媒介セリト

嗚呼實ニ是レ明識ノ確言ニシテ決シテ疑ヲ容ルヘカラス殊ニ日本養蠶場商買ノ爲ニハ眞ニ項門ノ一針トモ云フヘシ

是月上野國佐位郡島村田島彌平等設置ニ係ル蠶種改良目的ノ勸業會社創設ノ規約書群馬縣廳ヨリ是月大藏省ニ進達セリ蓋之ヲ以テ本邦蠶業會社ノ嚆矢トス

又曰是月太政官ハ蠶種製造ノ件ニ關シ令シテ其生繭製造主ノ外蠶種製造ノ事ナカラシメント左ノ如ク達セリ其文左ノ如シ

蠶種ハ以來生繭製造主ノ外製種不差許且夏產再出掛合ハ原紙ニ取製造ノ儀不叶而シテ夜附糊付其外粗惡ノ品ハ一切製造ノ義不相成筈改正ノ御詮議モ有之日不御發令有之候得共

既ニ製種季節ニ差向候儀ニ付先以テ前條相達候右之趣相心得兼テ申立ノ凡積員數ニ見合生繭製作主ニ限リ製種開届候樣致可事

是月大藏省ニ於テ蠶種製造大總代ノ月俸及旅費ノ額ヲ左ノ如ク定ム

蠶種製造方大總代ハ月給十圓ツヽ、官ヨリ下賜シ且養蠶場取締ニ付テノ旅費ハ同規則十二節ノ通等外四等ノ目當ヲ以テ同樣給與致スヘク都テ管轄廳ニ於テ取扱可申ナリ

近來蠶卵製ノ海外ニ輸出スル者比年ニ加ハリ其底止スル所ヲ知ラサル而已ナラス無謀ノ輩其潮流ニ乘シ濫リニ製種ヲ都造シテ海外ニ輸出スルモノ結局本邦蠶種ノ聲價ヲ失墜スルノ素因トナシ大藏省ハ深ク之ヲ憂ヒテ是月胞ク汔之レガ弊害ヲ除去セント豫メ左ノ如ク公布ス

蠶種製造ノ儀ニ付今般國々養蠶場ヨリ蠶業熟達ノ者共ヲ撰擧致シ大總代申付實際ノ所見ヲ參酌シ夫々規則改正ノ上一般頒布相成候得共兎角從來ノ弊習モ有之蠶種製造人及商人共唯眼前ノ利ニ迷ヒ元方ノ景狀ト國内用原蠶種ノ分量トヲ案算セス猥ニ外國輸出ニ而已相趨リ遂ニ上好ノ蠶種ハ國内竭乏ニ可立至哉ノ勢ニテ實ニ不都合ノ次第ニ候條向后各地方官ニ於テ大總代組々世話役ヘ厚ク申諭シ每年蠶種出來ノ時節組々ヲ以本年ノ出來高ヲ

總計シ且其地方每ニ來歲國内用原蠶種ノ總數ヲ概算シ組々ノ申合ニヨリ可相當ノ割合ヲ設ケ國内用ノ手當致シ候上ニテ外國輸出ノ分ヲ取究候樣可致事

但年々右計算取調出來候ハヽ、其時々大總代ヨリ地方官ヘ差出地方官ヨリ當省ヘ相届可申事

附大總代世話役等無之養蠶場ニテ原蠶種入用ノ取調方ハ每時戸長ニテ取扱可申事

六月大藏省ハ富岡製絲場建築全ク工ヲ竣ヘ事業其緒ニ就クヲ以テ左ノ襲絲諭告書ヲ印刷シ各府縣ノ當業者ニ其主意ヲシテ貫徹セシメン爲カメ之ヲ頒ツ

日本ノ産物ニシテ交易ノ大ナルト金高ノ上ルトハ生絲ニ過クル者ハナシ外國人モ之ヲ貴ヒ御國中ノ利潤トナルコト之ヲ以テ第一トナス然ルニ御國ノ生絲如此上品ナルハ土地ノ宜シキ故ニシテ其製法ニ至ツテハ只人ノ覺ヘシ手心ヨリ出來セル者ニシテ其法未タ精シカラス近年交易ノ繁昌スルヨリ粗惡ノ品次第ニ多ク其上御國中一樣ナラス品柄宜シカラサレバ外國人モ之ヲ貴ハズシテ直段モ次第ニ下落シ交易ノ利分モ大ニ減少ス此損失ハ唯ヲ絲ヲ製スル者而已ニアラス自然不融通トナルナリ然ル時ハ御國第一ノ品柄ヲ落シ其害全國ニ及ビ貧困ノ基ヲ生ス歎ク可キ事ナラスヤ右ニ付キ朝廷万民ノ爲メ被思旨此貧苦ノ

基ヲ去リテ家々富饒ノ利ヲ得セシメントノ御趣旨ヲ以テ上野國富岡ヘ多分ノ入費ヲ掛ケ盛大ナル製絲場ヲ御建テ被遊佛蘭西國ヨリ生絲製造ノ師ト男女ノ職人數名ヲ雇ヒ入レ當夏ヨリ無類精好ナル生絲ノ製造ヲ御始メ成被御國中製絲ニ志アル者ヘハ士民ヲ論セス熟覽ヲ許サレ此製絲場ニ於テ女職人四百人余御雇入レ相成製絲ノ法ヲ學バセラル可キニ右女ハ外國人ニ生血ヲ取ル、杯ト妄言ヲ唱ヒ人ヲ威シ候者モ有之由以ノ外ノ事ニ候右女職人ハ製絲術傳習ノ上ハ御國内製絲ノ敎師ニ被成度御趣意ニ候得ハ決シテ無疑念傳習ノ爲メ差出可申妄言ニ迷ヒ候テ御趣意ニ悖リ候樣ノ義無之樣可致此製絲場ニ斯ク迄デ入費ヲ掛ケ盛ニ開カレ候御趣意ハ前文ノ通御國生絲ノ品萬國ニ勝レ永遠ノ御國益ト相成リ全國民ヲシテ富饒ノ利ニ潤センカ爲ニテ只上ヨリ御世話被成候義ニテ決シテ下民ノ利ヲ上ヨリ奪候樣ノ譯ニ無之御場所悉皆成就製絲ノ術習熟ニ至リ候ハヽ、民望ノ者ヘ御拂下ゲモ被仰付度御趣意ニ候間郡村製絲ノ者ハ不及申四方ノ人民厚ク御趣意ヲ辨ヘ製絲ノ術ト傳習ニ心ヲ入レ精好ノ品多分出來候樣有之度候也

同月前橋製絲所ヲ以テ群馬縣ハ更ニ之ヲ小野組ニ任ジタリ

是月從來ノ蠶種規則ヲ左ノ如ク改定シ本年ヨリ之ヲ實施シ尙蠶種製造大總代申合書ヲ頒布シテ本職ノ範圍ヲ明ニス

蠶種製造ノ儀近來杜撰ニ相成數多ノ濫製有之趣相聞以ノ外ノ事ニ候畢竟無識ノ細民唯目已目下ノ小利ヲ貪リ遂ニ御國産ノ品位ヲ墜シ隨テ外國貿易上ニモ名產ノ聲價ヲ減却シ民間至要ノ善業却テ破產ノ資ト相成候向モ有之不心得ノ事ニ付蠶種製造規則別紙ノ通相定候條去未年ヨリ都テ規則ニ照準シ養蠶場管轄ノ地方官ニ於テ取締行屆候樣可致旨兼テ相達置候處更ニ當申年ヨリ別紙ノ通改正候條總テ成規ニ從ヒ區々ノ處無之樣可取扱事

（別紙）

規則

第一則

一蠶種ノ義ハ以來國内賣買海外輸出トモ別紙雛形ノ通免許印鑑札渡候條蠶種製造人トモ翌年製造ノ凡員數海外輸出及國内賣買トモ調分ケ書取ヲ以テ前年十一月限大總代並世話役調印ノ上其支配役所ヘ可申立事

一各支配役所ニ於テ大總代並世話役ヨリ申立候海外輸出國内賣買ノ凡員數ノ總計十二月限リ當省ヘ可申立事

但國内賣買ノ分ハ臨時試業ノ餘分見計可申出事

一免許印紙ハ常省ニ於テ製造致シ各支配役所ヨリ申立ノ蠶種總數ヲ概算ノ上相渡候條右印紙請取候ハヽ大總代ヘ渡シ大總代ヨリ其組々世話役ヘ相渡置可申事

一右免許印紙ハ蠶紙出來揚ノ節都テ各世話役ニテ組内取調最前申立ノ凡積ニ照合シ種品改濟ノ上蠶種紙裏面一枚毎ヘ位置雛形ノ通不落樣張付可申事

一蠶種紙ノ儀是迄小數二枚ヲ以テ本部一枚ト申來候處自今本部ノ名義相廢竪曲尺ニテ凡一尺一寸七分程横同斷七寸四分程全ク紙一枚ノ數ヲ以ヲ蠶種紙一枚ト稱シ可申事

一免許印紙料ハ國内賣買海外輸出トモ都テ水陸路修繕運上トシテ左ノ通取立可申事

蠶種紙一枚　免許印紙料　五錢

右印紙料ハ大總代ヘ印紙相渡候節直ニ取立可申且自用種タリトモ收納方同樣ノ事

一免許印紙ノ儀ハ蠶種出來方ノ模樣ニ寄リ世話役トモ其持場内限リ流用候義ハ可爲勝手尤モ第四則三ヶ條ニ揭載有之候通製造人別出來高等精調ノ節印紙仕分ケ可申立事

但蠶種豊凶ニヨリ餘分ノ印紙有之候ハヽ、八月限其地方官ヘ返納免許拂下戻ノ義可申立事

一他人ノ生繭ヲ買入レ蠶種製造致候儀不相成以來生繭製作主ニ限リ製造候筈ニ付出來揚ノ上ハ銘々居所名面其外トモ雛形ノ通調印可致事

一各開港場ヘ輸送ノ蠶種直ニ外國人ヘ賣込候トモ又ハ御國商人賣買イタシ候共勝手次第タルヘキ事

但海外輸出ノ爲メ開港場ヘ持出シ候分模樣ニ寄リ内國用ニ持歸リ度候ハヽ、開港場改所ヘ申立裏印受可申事

一海外輸出ノ分ハ免許印紙ヘ別紙雛形ノ通改印致候間右改印無之分ハ輸出不差許候尤モ國内用トト見積リ候内全ク贏餘有之候節ハ大總代世話役等ヨリ其支配役所ヘ申立添簡ヲ以テ開港場改所ヘ願出候ハヽ、改所ニ於テ改印致シ輸出差許可申事

一開港場改所ニ於テハ前條内國用ニ持歸リ候品ハ雛形ノ裏印イタシ相渡且國内用トト見積候内全ク贏餘ノ分海外輸出願出候ヘハ改印イタシ輸出差許十一月限リ其總數可申立事

一蠶種原紙共諸稅金ノ儀ハ取立次第何ケ度ニテモ納納調定ノ儀ハ其年十一月限リ製造人別出來種員數トモ調分ケ詳細ニ揭載シタル帳面相添租稅寮ヘ可相納事

但右規則相立候ニ付テノ諸入費ハ一ケ年試ノ上可申立事

一印紙余分並一旦大總代共へ渡置返納候分有之候ハヽ其譯記載精勘定ノ節返納可致事
一免許印紙無之蠶種内外賣買堅禁止若違犯密賣買等イタシ候ハヽ其種取上免許料二十倍ノ科料取立製造人モ同樣ノ科料取立可申事

第二則

一都テ養蠶場ニテ試ノタメ蠶種製造致度者ハ最初ヨリ凡積難申立筈ニ付其年三月限リ蠶種製造ノ員數申立本種同樣ノ印紙可申受尤モ翌年ヨリ都テ前例ノ通タルヘク事
但當壬申年ノ儀ハ既ニ期月モ相過候ニ付試業臨時製造イタシ度向ハ世話役ヘ申立世話役篤ト其繭ノ性合等檢查ノ上製造爲致可申事
一夏蠶再出掛合ノ種類ハ可成丈製造致間敷若製造候モノハ原紙ニ製造候儀ハ不相成本種ニ紛敷無之薄紙相用可申事
但密々原紙ニ製造シ賣買致シ相顯ハルヽニ於テハ其品取上蠶種一枚ニ付新貨五十錢ノ科料取立可申事
一夜付ノ製造並粗班ノ蠶紙ヘ散卵ヲ以テ糊付補裝等イタシ候義等ハ一切不相成萬一犯則ノモノ有之相顯ハルヽニ於テハ其品取上前節同樣ノ科料取立可申事

第三則

一原紙漉元ハ向後別紙雛形ノ通各支配役所ニ於テ職方ノ者取調名面當省ヘ可申立尤免許無之者ハ決テ漉立不相成事
但漉立原紙ノ裏ヘ漉主居所名前トモ雛形位置ノ通調印可致事
一右鑑札ハ原紙取締ノ爲相渡候ニ付税金ハ無之尤年々引替ニ不及事
一右原紙ハ各支配役所ニ於テ其他ノ都合ニ寄リ官員出張致シ改濟ノ上別紙雛形ノ通打込ノ改印可致事
一右打込ノ印無之分ハ一切賣買不相成若不得止ノ者於有之ハ見當次第其品取上原紙百枚毎ニ新貨廿五錢ノ割合ヲ以テ過料可申付事
但蠶紙不仕付分ハ同樣其品取上買受候者モ同斷ノ過料可申付蠶仕付候分ハ製造人ヨリハ蠶種一枚ニ付新貨五十錢ノ過料取可申事
一右原紙最支配役所ニテ改印ヲ受候節其地ノ相場ヲ以テ代金二十分ノ一（但新貨百圓ニ付五圓ノ割）撿查手數料トシテ相納ヘキ事
一原紙是迄各地ニ於テ厚薄數段有之相場立モ目方ト枚數トノ不同有之候得共以後都テ新

貨一圓ニ付何百目ト相定賣買可致事
但紙ノ寸法ハ第一則五節之通漉立可致事
一新規原紙漉立相願候者有之候ハヽ支配役所ニ於テ其他楮ノ摸樣及ヒ水土ノ可否取調ノ上至當ノ筋ニ候ハヽ其段當省ヘ伺ノ上漉立免許可致事
一原紙漉立有之候場所ハ其支配役所ニ於テ職株並改濟ノ上打込印致シ候員數枚金トモ綿密ニ取調第一則中十二節ノ通可取扱事

第四則

一蠶種製造方大總代ノ儀ハ各其府縣下製造人ノ總代ノミニ無之全國一般養蠶方ノ大總代ニテ各分割內原種ノ精粗ヲ詳密ニ檢查シ世話役及製造人共ノ正否ヲ視察シ若規則ニ背戻候モノハ直ニ督責シ或ハ其情ヲ訴ヘテ官ノ糺明ヲ乞フノ權ヲ有シ候筈ニ付世話役共モ右大總代ノ指揮ヲ受申合書之旨ヲ踐行スヘキ事
一大總代ハ蠶種方法蠶種製造取締手續等ニ付テハ其支配役所ノ手ヲ經ス其時々直ニ大藏省ヘ申立候儀モ可有之事
一右大總代ハ年々製造人共公撰ヲ以テ其支配役所ニ申立支配役所ヨリ大藏省ヘ可申立事
但人望ニ協候モノ何年ニテモ爲勤續可申事
一蠶種製造人ハ最寄ヲ以テ組合相立組內南入宛更番ニテ世話役相定諸般世話方取扱可爲致給金ノ儀ハ其組合ヨリ給與可致筈ニ付支配役所ニ於テ大總代示談ノ上相當ノ給額相定可申事
但右組合ハ凡百人ヲ目的トイタシ最寄ニ從ヒ取極可申尤土地管轄ノ都合ニヨリテ組合人員ノ增減ハ便宜タルベキ事
一組內年々蠶種製造ノ申立商ハ大總代並世話役ノ手許ヘ記帳致置其年養蠶ノ摸樣蠶種ノ豐凶步合及出來高等大總代世話役篤ト取調其支配役所ヘ申出支配役所ヨリ當省ヘ可申立事
一大總代世話役タル者ハ素ヨリ蠶業熟練ノ筈ニ付未熟ノ養蠶家ヘ方法敎諭可致養蠶ノ儀ニ付新發明ノ事有之候ハヽ其筋ヘモ申立組內ヘモ傳習可致事
但養蠶ハ桑畑ノ善惡取調方肝要ニ付川附荒蕪等ニテ自然地味宜敷場所有之候ハヽ支配役所ヘ申立ベシ支配役所取糺ノ上當省ヘ申立次第別段ノ御詮議ヲ以テ開發ヲモ可申付事

一總テ右規則ニ戻リ候取扱有之候ハヽ、咎可申付候事

但大總代各分割内ノ世話役不正筋有之候ヲ不心付外方ヨリ相顯ハルヽニ於テハ其大總代ノ可爲越度萬一世話役ト馴合不正ノ處分等於有之ハ嚴重ノ御沙汰可有之事

世話役其組中ノ者不正筋有之候ヲ心附カズシテ外方ヨリ相顯ハルヽニ於テハ其世話役ノ越度タルヘキニ付其科ノ輕重ニヨリ世話役ノ給料一ケ月分ヨリ三ケ月分迄ヲ科料トシテ可取上若又世話役自分不正ノ事ヲ相謀候歟又ハ不正ノ者ヘ黨與イタシ候儀相顯ハルヽニ於テハ規定ノ年限ニ不拘役儀召放シ縱令勤年限未滿ニ候トモ二ケ年以上ノ給料丈ケノ割合ヲ以テ科料金ヲ取上ヘシ且世話役其職ヲ怠リ又ハ其組内ニ協和セサル時ハ年限中ニテモ他ノ相當ノ者ヲ撰ヒ交代セシムル事アルヘシ

一不正筋有之候ヲ他ヨリ見出シ訴出候ハヽ、糺ノ上事實相違無事上ハ科料金取上品代共高ノ二十分一ヲ以テ其訴主ヘ被下候ニ付支配役所ヨリ給與可致事

一取上品ノ儀原紙ハ打込印イタシ候上漉元ヘ拂下可申蠶種仕付有之分ハ鏨形ノ通取上品證印ヲ押シ國内用トシテ其時々公ノ入札ヲ以テ拂下ケ其節買請人ノ居所名面其外共押印爲致印紙張付相渡可申事

但取上品ハ外國輸出差許サヽル事

附取上品ノ印ハ地方官ニテ雛形ノ通彫刻シ備置ヘキ事

一諸種ノ科料金取上方取上品入札拂等有之候節ハ右金高調帳相添第一則中ノ第十二節ニ掛クル通取計可申事

（印紙打込印鑑札雛形略之）

蠶種製造方大總代申合書

今般私共儀蠶種製造方大總代被仰付生絲蠶卵種蕃殖方及其製造法等各地ノ實況ニ就テ良全ノ方策ヲ協議其定案ヲ相立申上候樣御告諭ノ趣承知奉畏候右ハ實ニ萬國ニ冠タル名品ノ聲價ヲ減シ候ノミナラス彼我破産ノ姿ニ立至候舊弊ヲ挽回致候儀ニ注意仕候ハ方今養蠶ノ急務ニ可有之依テ殖産ノ眞理ヲ盡シ交通ノ亭利ヲ遂ケ御國恩ノ万分一ニ奉報答度別紙申合規約取調奉伺候

第一蠶種ハ衆庶明年ノ養ニ供シ候原種故大切ノ品ニテ盡力精製可致ハ勿論ニ候處近來製造方杜撰ニ相成其上糊付等致シ賣込ノ爲メニ虛飾ヲ設ケ奸利ヲ謀リ候モノ間々有之以ノ外ノ事ニ候自今在來ノ舊弊總テ一洗致シ御國用海外輸出共我明年養蠶ノ原種ト同樣

相心得篤實精製致シ可申事

第二夏蠶再出掛合ノ品原紙ニ取賣買禁止其餘夜附糊附等ハ堅禁止生繭製作主ニ限リ蠶種製造致シ海外輸出ノ義モ其手ノ景況ニ應シ製出候上ハ是迄ト違ヒ蠶種ノ製造減却候間養蠶家ハ深ク注意シ精製ノ良蠶ヲ御國用ニ備ヘ其殘餘ヲ以テ海外輸出ニ充候樣不致候ハヽ精良ノ原種全ク盡果候ニモ可及候間一般ニ協力同心シテ養蠶方法相立候樣懇切ニ勸奬可致事

但蠶種製造ノ上ハ其年ノ出來高ニ應シ國內賣買海外輸出ノ員數見積リ可申事

第三近來養蠶ノ奬風博奕同樣相成桑樹所持無之族原種多分ニ掃立財主ニ賴ミ大金ヲ入置他人ノ桑ヲ諸方ヨリ買集候故桑種不一養方度量ヲ失手當不行屆終ニ違作或ハ下等ノ品製出候樣成行候ニ付蠶室培桑多寡ニ應シ分量致シ前年ヨリ厚ク用意イタシ可申事

第四養蠶ノ豐凶禍福ニ譬候等往々有之大ナル僻言ニテ素ヨリ蠶室ノ適否ヲ察知シ桑園ノ培養器械ノ具足等都テ行屆精功研究スル時ハ何レノ國ニテモ違作ナク美種各品出來連年上作ニ至リ可申道理ニ有之況ンヤ風土自然ニ養蠶ニ適シ候本朝ノ良地ニ於テ人功ヲ盡シ候得ハ全精良ノ品饒足致候ハヽ無疑儀ニ候間爾後精良ノ原種ヲ饒足セシメ製絲器械

ヘ應シ候良繭一般出來候樣敎導專務ニ心掛候事

第五御國用志備肝要ニ付國々製種出來次第員數取調凡積御免許高何程現在製造高何程ト組々世話役ヨリ認爲差出大總代掛リ塲限リ取纏明細帳取調且御國用貯高等減却不致樣精々注意致可事

第六凡積御免許願ノ儀ハ年々十月限其養元ノ原種一枚掃ニ付製種ハ十枚目的ヲ以テ右ヨリ增願不相成減スルハ勝手次第元何枚掃立凡積高何程御免許ト認メ村役人加判世話役ヘ可申出其節桑役桑分量等概ヲ撿査ノ上十一月限製造人別凡積相定メ願出可申事

但試業並臨時製造相願度向ハ三月限リ世話役ヘ申立世話役ニ於テ篤ト取糺候上御免許可申立繭出來ノ上願立候共御採用不相成事

付

當壬甲年ノ儀ハ既ニ期月モ相過候儀ニ付試業臨時製造イタシ度向ハ世話役ニ於テ篤ト其繭ノ性合等取調精良ノ分ハ製造爲致度存候事

第七粗製造濫並濫ニ戶毎押印ニ至迄懸リ塲世話役厚ク心得取締相立若心得違ノ者有之候ハヽ懲切ニ說諭致可申自然不採用ノモノ有之候ハヽ、其筋ヘ可訴出事

但世話役無之場所ハ戸主ニ於テ右取締相立逐次私共ヘ談示有之候樣イタシ度事

第八他人ノ生繭買集製種ノ儀御禁止ノ事

第九製造御免許紙凡積員數ニ引合前方ニ世話役ヘ御下相願稅金引替上納過不足世話役内ニテ融通殘御返上ノ分稅金御差戻相願製造檢査免許紙ヲ張見留小印又ハ實印等押印致シ可申且御國内用原種得意場引ト唱ヘ内金請取ノ戸毎ニ貸渡候仕來モ有之右等ノ類ハ最注意致シ誠實ニ取扱可申事

第十御國用ハ其他ニ備置海外輸出ノ分ハ立秋度開港場ヘ出荷可致事

第十一蠶種從來五分取薄付小數貳枚ヲ以テ本部一枚ト唱ヘ來候處方今九附相成候間本部ノ唱ヲ止メ枚數ニイタシ候事

第十二免許印紙ニ御改印無之分ハ海外輸出不相成尤モ御國内用ト見積リ候内金ク餘分有候之節ハ其支配役所ヘ申立添簡ヲ以テ開港場改所ヘ願出改所ノ御許可ヲ受可申候事

但海外輸出ノ分都合ニ寄リ御國用ヲ許開港場引戻ハ猶御證印請候事

第十三種桑葉入費共他ノ家ヘ手當致シ養蠶爲致候共生繭ヲ我方ヘ引取候儀ハ不相成繭製作主ノ家ニ於テ製造押印イタシ可申事

但其家作ニ依リ自家ニテ難製造モノハ世話役ヘ申立世話役篤ト其實地差支ヲ撿査ノ上事實不得止儀ニ候ハヽ、歩方並繭貫目等篤ト世話役取調ノ上他家ニ於テ製種ノ儀ハ不苦候尤製種出來上ノ節ハ尚世話役ヘ相屆繭貫目歩方ニ種數照準シ相違無之上ニテ御規則ノ通廉製作人押印ノ事

第十四白極印打込無之原紙ヘ製造ノ種幷糊付等ハ見掛ケ次第其品取押ヘ訴出候事

第十五大總代不足ハ最寄申合公撰ノ上申立候樣可仕候事

第十六大總代組ノ世話役ヘハ此申合書ヘ承知印爲致置連年ノ分大藏省ヘ可申立事

右之通規則相立候ニ付テハ私共儀ハ最寄ヲ以テ國々分管仕製造人一同申合御趣意徹底全國ノ精業一層際立候樣世話役共申談厚ク勸奬イタシ追々會社等取結取締相立候樣可仕事

明治五年壬申五月

東京府管下豊島郡下練馬村大總代　應木勘三部

入間縣管下旛羅郡玉井村大總代　鯨井勘衛

同縣管下榛澤郡新戒村大總代副　村岡嘉平

群馬縣管下佐位郡島村大總代　田島武平名代兼
長野縣管下小縣郡上鹽尻村大總代　藤本善右工門
筑摩縣管下筑摩郡上神林村大總代　一條磋五郎
山梨縣管下山梨郡山田町大總代　若尾逸平
同　千野村大總代副　村田八郎兵衛
犬上縣管下坂田郡本庄村大總代　清水九平
岐阜縣管下郡上郡八幡町大總代　宮川五平治
豐岡縣管下養父郡養父市大總代副　伊藤直次郎
同　九鹿村大總代　林田友右工門
新潟縣管下蒲原郡天王新田大總代　刈谷政治

前書申合書養蠶大總代申立ノ趣令免許候條各地蠶種製造世話役並製造人共大總代ノ差圖ヲ受盡力勉勵可致事

壬申五月

明治五年六月皇后宮吹上御苑ノ御養蠶ニ從事シタル上野國佐位郡島村田島彌平其外蠶婦勤務滯リナク終局シタルヲ以テ篤ク之ヲ賞ス

是ヨリ先キ宮內省ヨリ熊谷縣へ達シテ曰ク本年皇后宮吹御上苑御養室增築アラセラレ該所ニ於テ御飼育ノ筈ナルガ故養蠶ニ熟達ナル蠶婦幷ニ男子ノ指揮スル者養蠶器械等ニ至迄奉出スヘシト依テ縣廳ハ上野國佐位郡島村田島彌平ヘ該用件ヲ命シ精々勉勵スヘシト達シタリ田島彌平ハ直ニ上京宮內省ヘ伺候セシニ養蠶掛長ヨリ養蠶三百籠分及原種ノ量ヲ定メ蠶婦人員養蠶室新築ノ繪圖器械及桑葉運搬ノ人夫ハ別途トナシ凡テ差支ナキ樣別紙ニ認メ可差出トノ命ヲ蒙リ居村島村ヨリ左ノ人員ヲ推擧シタリ

上野國佐位郡島村　養蠶差圖掛　栗原茂平
同上　蠶婦　田島平内妻　田島ひさ
同上　同　田島多平娘　田島りよう
同上　同　關口小平次娘　關口ゐい
同上　同　栗原惣平娘　栗原ひさ

同上
同上
同上
同上
同上
同上
同上
同上

以上通計十三名

以上人名ハ三月十四日島村ヲ發シ利根川ニ船ヲ泛ベテ出京ス時ニ田島彌平思ヘラク海邊ノ養蠶ハ昔ヨリ物議ノアル所ナリ幸ニ東京ハ海邊ナレハ余ガ宿昔ノ技倆ヲ現ハスハ此時ニアルヘシト愛娘たみニ戮力以テ　聖旨ヲ空フスル勿レト殊ニ注意ヲ與ヘタリシニ悉ク豊作ヲ得日誌ヲ携帶シテ歸ル

當時宮内省養蠶掛リ左ノ十三名トス

同　栗原九平娘　栗原いち
同　栗原三郎平娘　栗原わき
同　永井彦太郎娘　永井あい
同　宮崎有敬娘　宮崎ゆう
同　宮崎傳三娘　宮崎たい
同　栗原重平娘　栗原よし
同　田島彌三郎娘　田島ひさ
同　田島彌平娘　田島たみ

當養蠶御用ニ際シ器械上納ノ外

蠶種三枚北海道石狩國産出種

正四位少丞　世古延世
從七位權大錄　中川元
小錄　山室邦陰
内舍人　岡本定清
内舍人　廣庭祐愛
内舍人　鈴木眞平
權内舍人　三宅秀
權内舍人　藤田房敎
直丁　上田菊藏
直丁　下毛龜藏
直丁　谷北兼三郎
直丁　川端平兵衛

蠶種三枚上野國佐位郡島村産出種
而シテ勤務勉勵ノ賞トシテ蠶婦ニ賜リシ賞典ハ左ノ如シ

三組	田島たみ	烟草入一組
三組	田島ひさ	烟草入一組
三組	栗原ひさ	烟草入一組
益一組	田島りよう	烟草入一組
烟草入一組	栗原よし	烟草入一組
烟草入一組	栗原いち	烟草入一組
烟草入一組	栗原わき	烟草入一組
烟草入一組	栗原たい	烟草入一組
烟草入一組	宮崎ゆう	烟草入一組
烟草入一組	永井あい	烟草入一組
烟草入一組	關口ねい	烟草入一組

同月皇后宮吹上御苑ニ於テ製絲工女等ニ御羽二重綸子織成ノ原料糸ノ繰糸ヲ命ス蓋シ用繭ハ曩キニ御苑ニ於テ上野國佐位郡島村ノ蠶婦等ガ養蠶セシ成繭ヲ以テ繰成スル事トナレリ是ヨリ先キ宮内省ニ於テハ綸子羽二重ハ上野國勢多郡花輪村近在ヨリ産出スル生絲ヲ上品トナスヲ知ルヲ以テ舊熊谷縣ニ命シテ該所ヨリ製絲工女ヲ撰出セシム即チ熊谷縣ハ左ノ工女十一名世話方一名ヲ差出シ御届ニ及ヒタリ

	婦人世話方	上野國勢多郡下田澤村	新井鼎作
工女	同國同郡花輪村	星野源五郎妻	星野みな
工女	同上同村	關口重平母	關口いせ
工女	同上小夜三村	大木熊吉女	大木とよ
工女	同上同村	星野萬藏妻	星野きち
工女	同上花輪村	中澤熊吉母	中澤てる
工女	同上同村	小倉嘉吉妻	小倉らく
工女	同上同村	村田要作母	村田しな
工女	同上同村	高瀬彌吉妻	高瀬もと

工女　同上下田澤村　新井權兵工女　新井ふさ
工女　同上同　小林牛造女　小林くに
工女　同上同村　關澤丑造女　關澤とり

是等十一名ノ工女ハ若シ東京産品ヲ以テ繰絲スルモ綸子羽二重織成ノ料絲ニ不適合ナリセハ工女全般ノ面目ヲ失スルハ勿論加之繰絲ノ不注意トシテ畏レルナキニ非ストノ掛念ヲ抱キ上野國勢多郡花輪近郷ハ從來羽二重綸子類ニハ絶品ノ生絲ヲ産スル地ナレハ他方ニ於テ製スル事ハ容易ナラサル者ト照推シ銘々地方産出繭ニ因リ製絲セシ生絲一二繰宛提携シ是月吹上御苑ヘ出仕スルニ至レリト云フ

同月各地蠶業視察ノ爲メ派遣スル官吏ノ須知條件則チ執務ノ要領ヲ定ム

七月蠶種製造規則中夏蠶再出ノ蠶種ハ春蠶種ニ區別シ薄紙ヲ以テ之ヲ製造スヘシトアルモ免許印紙ハ尚國内用ノ印紙ヲ下附シ收稅スヘキ旨左ノ如ク大藏省ヨリ達セリ

夏蠶再出掛合ノ類ハ成可丈製造致間敷若製造候儀ハ不相成本紙ニ不紛樣薄紙可相用旨蠶種改正規則中ニ掲載有之候處右ハ原紙取製造不致品ハ不及稅納儀ト心得違致シ無印紙ニテ賣買致シ候者モ有之哉相聞不都合ノ事ニ候條賣買ハ勿論自用種タリトモ薄紙ニ製造候上國内用ノ免許印紙相渡收稅可致候若違犯ノモノハ規則ニ照準シ貶度可致處置事

去ル明治三年八月民部省達蠶種褒賞規則ニ照準シ大藏省ハ府縣ニ令シテ本年製造セル一國限リ蠶種紙ノ優等ナル者ヲ三等ニ撰別シテ左ノ如ク之ヲ勸農寮ニ錄上セシム

本年産生ノ蠶卵紙等撰擧相成候條去々午年民部省ヨリ相達候蠶種褒賞規則ニ照準シ一國限三位ノ撰擧執行ヒ右品來ル十月晦日迄ニ當省勸農寮ヘ可申出事

但本文日限迄ニ不差出分ハ後日ニ至リ撰擧出願候共取揚不相成候條其旨可相心得事

八月大藏省布達ヲ以テ山繭養方告諭書ヲ頒布ス其文左ノ如シ

別紙ノ通山繭養法告諭書相渡候條右府縣管内ヘ頒布イタシ適宜ノ地所ニハ蠶業相開候樣可致候此旨相達候事

（別紙）

山蠶養法告諭書

蠶種製糸ハ御國産ノ第一ニシテ利潤モ世ノ普ク知ル所ト雖モ未タ山蠶ノ飼方簡易ニシテ利益ノ多キ事ヲ知ラス隨テ養法亦世ニ明カナラス惜ムヘキ事ナラスヤ今此ニ其養法ノ概

略ヲ示スヘシ夫山蠶ハ桑蠶ト違ヒ樫椎杏柏楊桃其他右ニ類セシ木ノ葉ヲ食シ生長スルモノナレバ何レノ地ニテモ手輕ク養ハル、也此蠶ヨリ取ル絲ノ目方百目ト桑蠶ノ絲百六十目トノ比較ナルヘシ先コレヲ飼立ルニ種ヲ塗タル器ニ並ヘ置蟲出レハ新芽ヲ掩ヒ虫ヲシテ這移ラシム夫ヨリ簀飼内飼溝飼山飼等種々ノ養法アリ總シテ蟲生シテハ八日目ヨリ休ミ始メ都合四度休ミ凡日數六十日餘リニシテ繭ヲカケハシム五日過テ外ニ白粉ヲ吹出スヲ見テカケ畢ルヲ知リ繭ノ附タル枝ヲ葉ナカラ鋏ミ取十日程張繩ニカケ置ヘシ絲ヲ取ルニハ繭ヲ二十秒間煮テ中ノ和ラケ加減ヲ待チ一ツ二ツ、糸口ヨリ引出シテ水ヲタヽヘタル桶ニ移シ入ル、ナリ其法大抵常蠶ト同シ種ヲ取ルニハ繭カケ畢リテヨリ二十一日目程ヨリ蛾出ルモノ故兼テ竹籠ヲ据置蛾出レハ雌雄等分ニシテ入レ日影木露ノカヽル所ニ置キ四五日過雄蛾ヲ放チ遣レハ雌蛾ハ殘ツテ種ヲ籠ニ産附ルナリ此種ヲ儲クルニハ布ノ袋ニ二千粒程入レ北風通フ軒場煙ノカヽラサル所ニ釣シ置十二月節分ヨリ箱ニ入レ氣ノ洩レヌ様ニ制シ火氣ノ近キ處ニ置立春ヨリ六十日位ヲ過キ箱ヲ開キ前ノ仕法ヲ以テ飼立ヘシ凡種ヲ取ルニハ立木飼ヲ上等トス内飼木飼ハ一人ニテ二萬五千ノ繭ヲ得立木飼ハ五萬ノ繭ニテ四十六斤九分余ノ絲ヲ製シ上ル也抑此蠶絲ハ外國ノ人好ムモノアレ𪜈輸出ノ少キ故其求ニ應スルニ足ラス若此養法漸ク開ケ製絲增多ニ至ラハ其益モ亦常蠶ニ亞クベシ且此養法ハ瘠土ニ論ナク假令耕作ニ便ナラサル地ニテモ樫椎ノ類サイアレバ飼方容易ニシテ方法亦難カラス故ニ無產ノ者或ハ農務ニ余暇アル者ハ必ス此養蠶ヲツトメ下ハ自己ノ活計ヲ立上ハ御國益ヲ助クヘシ依テ告諭ニ及フモノ也

九月大藏省自今內國用ノ蠶種ヲ輸出ニ換用スル事ヲ禁スト開港場及府縣ニ令シ左ノ如ク之ヲ取締ラシム

大阪府神奈川縣長崎縣新潟縣ヘ達

蠶種紙國內用ノ分全ク贏餘有之輸出致度向ハ開港場改所ニ申立改印ヲ可請旨規則ニ揭載有之候處既ニ此程國內全ク贏餘ト號シ輸出改印請度旨申立候向不少趣右ハ未タ國內用ノ原種充否確定不致內全國ノ贏餘見極相立候筈ハ萬々無之畢竟一己ノ利潤ニ趨リ全國原種ノ竭乏ヲ不顧妄リニ申立候儀ニ有之候間自今國內用ヲ海外輸出ニ換用候儀願出候共聞屆申間敷事

又曰政府ハ富岡製絲場繰絲傳習工女雇入心得方ヲ頒布シテ其入場ヲ左ノ如ク勸誘スル所ロアリ

水澤縣　岩手縣　宮城縣　秋田縣　磐前縣　山形縣　若松縣
福島縣　置賜縣　酒田縣

御國内製絲良好ノ品出來候爲メ今般上州富岡へ盛大ノ製絲場御建築相成此程ヨリ製絲開業相成佛蘭西男女教師御雇入ニテ夫々御國内婦女子ヘモ傳習爲致候處其縣管内ニ於テモ從來製絲等營來リ業前未熟ノ者ハ別紙工女雇入心得書ニ照準シ人撰ノ上名前取調差出可申尤モ追テハ養蠶多分有之地方ヘハ製絲場モ施設致度其節ハ繰絲ノ教師ニモ可相成人物ノ儀ニ付夫是差合人撰方取計來ル十一月二十九日迄ニ當人共富岡製絲場ヘ差出可申事

（別紙）

富岡製絲場繰絲傳習工女雇入方心得書

一年齡十五歳ヨリ三十歳迄人員十八ヨリ十五人迄ヲ限リ候事

一上州富岡迄旅費ノ儀ハ自分賄ノ事

一御雇中居所ノ儀繰絲場中ニ爲取締一構ノ寄宿所設置三人ヲ一部屋トシテ御賄被下夜具其他都テ御貸渡シ五部屋ニ付小使女一人附被下且日々入湯爲致候事

一一等工女年給金二十五兩二等同斷十八兩三等同斷十二兩ツヽ被下候事

但製絲場ヘ着ノ上一ヶ月間業前工体馴不馴等相正シ本文一等ヨリ三等迄ノ等級相定候事

一天長節幷ニ七節其外月々日曜日休暇ノ事

一工女取締向ノ義ハ日々繰絲業始メ休暇遊歩等ニ至ル迄一定ノ規則設置致置婦道ニ背戻候所業等ハ聊モ無之樣掛官員始工女取締役老女ニ進退爲致候事

九月熊本縣長野濬平夫婦ノ者再ビ前橋製絲所ニ入場製絲ノ業務ヲ講究ス蓋明治四年六月傳習ヲ受ケテヨリ玆一年余ノ後ナリシモ未タ摸範業務ノ至ラサルヲ憂ヘテ再ビ入場スルノ篤志ニ出ツト云フ

是月蠶種生絲屑絲繭生産有之場所産出高庚午ヨリ當申年迄三ヶ年分年總計取調來ル十月晦日限リ可申出盖シ右ハ澳地利博覽會御用交際上ニ於テ都合モ有之仕儀ニ付其旨趣服承シ右管内其筋事馴候者共ニ申付別紙雛形ノ通概略取調日限無遲滯有無共取調差出サシム

（別紙雛形）

庚午年分

何府縣管轄ノ内
何國ニテ出來高

一蠶種　同　何枚
一同　同　何枚
一生絲　同　何貫目
一同　同　何貫目
一屑絲　同　何貫目

一同　同　何貫目
一繭　同　何貫目
但繭ニテ賣買ノ分　同　何貫目
一同　同　何貫目
同
蠶種
合
生絲
屑絲
繭

右之通有之候也

干支

月日

府縣官印

未申年分モ書面ノ振合ニ候事

因ニ曰フ博覽會御用云云ハ曩キニ明治四年澳國公使ヘンリー、ガリツチノ發議ニ依リ明治五年我政府ガ之ニ參同シタル者ニシテ實ニ本邦諸種ノ工藝發達ノ原動トナリ本邦ノ名ヲシテ海外ニ發揚セシモ該博覽會ニ權輿セシ者ナリト該會ハ明治六年則チ西洋紀元一千八百七十三年澳國ウインナ府ニ開設スル所ロナリ

又曰上毛國勢多郡水沼村星野長太郎ハ同地方ノ生絲古來輕絹用原料トシテ高評ノ顯著ナル生絲ヲ產出スル所ナリシニ近年粗惡ニ流レタルヲ嘆シ即チ之ガ改良ニ從事センガ爲メ製絲器械ヲ創始セント欲スルモ繰絲ノ良好ナル人ナキヲ憂ヘ自ラ前橋製絲所ニ入場シテ其傳習ヲ受ケタリ

又曰政府ハ國內地方官ニ令シテ管內養蠶場況ヲ取調此年十月ヲ限リ左ノ如ク之ヲ錄上セシム

東京府、入間縣、群馬縣、山梨縣、置賜縣、磐前縣、山形縣、福島縣、
酒田縣、宮城縣、犬上縣、豊岡縣、長野縣、筑摩縣、岐阜縣、新川縣、
新潟縣

蠶卵ノ儀ニ付テハ兼テ布達ノ趣モ有之且ハ當春中各縣下共更ニ蠶種大總代ヲ設置厚ク布告モ致シ候處爾來景況布告ノ條々凝滯不都合等ノ儀無之徹底組々世話役始メ製絲ニ至ル迄背戻候件々等有無尙此度大總代共呼出シ尋問ノ積候ヘ共縣官ハ實際目擊取扱候事ニ候ヘハ其管轄內目擊ノ儘情實綿密取調來ル十月二十日限リ勸農寮ヘ申越候樣可致候更ニ相達候事

是月大藏省ハ大阪府神奈川縣兵庫縣長野縣新潟縣ヘ令シ蠶種紙國內用ノ分贏餘ニ係者改印ヲ加ヘ輸出シタリシニ是等改印ハ封印ヲナシ早々本省ヘ返納セシムヘキ件達スル所アリシ

十月富岡製絲場ハ工事落成事業開始ニ障リナキニ至ルヲ以テ是月繰絲ヲ開業セリ民部省權大屬尾高惇忠主任トナリ御雇外國人先ツ御雇工女四名ニ繰絲ノ術ヲ授クル事トナリ順次他ノ工女ニ敎授スル事ト定メタリ當時御雇外國人別俸給及工女寄宿規則給料概ヲ左ノ如シ

首長　ブリユナ　月給六百弗　賄料金百五拾圓
檢查人　ベラン　月給百五十弗　外ニ同人妻子從者合セ四人賄料金六十六圓

撿査人	プラー	月給百弗	賄料金六十六圓
機械方	レスコー	月給百弗	賄料同斷
銅工方	シャトロン	月給百弗	賄料同斷
醫師	マイー	月給二百廿五弗	
土木繪圖師	バスチヤン	月給百廿五弗	賄料金六十六圓
女工	ヒエホール	月給八十弗	賄料金五十六圓
同	モニエー	月給六十五弗	賄料同斷
同	シヤレー	月給五十弗	賄料同斷
同	バラン	月給五十弗	賄料同斷

工女給料一ヶ年

一等　金二十五圓　二等　金十八圓　三等　金十二圓　等外　金九圓

月賦ヲ以テ之ヲ給ス別ニ毎人金五圓夏冬ノ服料トシテ給ス

賄料一日毎人七錢壹厘有寄後改メテ九錢二厘トス

工女寄宿所掲示

工女日々事業ノ儀ハ繰糸所掲示規則ノ通可相守事

外國婦人ノ儀ハ製糸傳習ノ爲メ御雇ニ相成候儀ニ付銘々師弟ト相心得諸事指圖ニ隨ヒ本業可致精勵事

雇入工女本日ヨリ一ヶ年以上三ヶ年迄望次第差許候事

但期限中無據譯合有之暇相願度者ハ身元並ニ村役人證印事情巨細相認申出候ヘハ詮議ノ上差許可申候私事都合等ノ儀ニテハ一切不相成候事

工女二十人ヲ一組トシ組毎ニ部屋長一人ッヽ相定候事

但部屋長ノ儀ハ一等工女ノ内ヨリ選定候事

銘々身元ヘ割符相渡シ置用事出來應對ニ來リ候者ハ右割符持參可申割符無之者ハ親族タリトモ面會不相成候事

但割符持參ノ者ハ取締役ヘ相届ケ許可ノ上對面可致尤モ應接所ニ限可申事

取締役正副ノ内朝夕見廻リ人員撿査ノ節ハ部屋毎ニ銘々正座致シ部屋長ヨリ姓名可申立事

期限中日曜日ノ外門外ヘ立出候儀一切不相成候事

但日曜日遊歩等ニテ外出ノ砌一人ハ不相成二人ヨリ以上ハ勝手タルヘキ事

外出ノ節ハ取締役ヘ相届ケ銘々名簿申受門候ヘ相渡シ置入門ノ節受取取締役ヘ相届可申候事

但門限明六ツ時ヨリ暮六ツ時限リノ事

外出ノ節不及申部屋内タリトモ動容周旋總テ謹肅ニ致シ婦道ニ背戻ノ作業一切致間敷候事

但戯言小謡高聲其他肌脫等總テ非禮無之樣心懸可申事

身体ハ勿論衣服等可成丈清潔ニ可致事

但衣服洗濯梳粧ハ日曜日タルヘキ事

病氣等ニテ出勤致兼候節ハ部屋長ヨリ取締役ヘ相届可申事

但取締役病体見届其趣可申出尤モ當病承リ置可申事

寄宿所内ニ係リ官員廳ニ賄方ノ外男女共立入候儀一切不相成候事

醫師按摩呉服小間物商人髪結人等公撰ノ上出入差免シ可申尤モ醫師按摩ノ外婦人限リ候事

但出入ノ節ハ取締役ヘ相届可申事

自費外來願出候者都合ニ寄可差許然ル上ハ總テ御雇工女同樣御規則可相守尤モ門外ノ儀ハ制外タルヘキ事

諸口鎖鑰ノ儀ハ取締役所ヘ預ケ置キ開閉ノ節ハ自身取扱可申事

出火其外非常ノ節ハ取締役差圖致シ一纏ヒニ相成立退可申事

右ノ條々相定候條正副取締役ノ儀ハ日々繰絲所ヘ出頭致シ工女一同ノ勤情ヲ視察シ休日ハ不申時々部屋内見廻リ一切取締向ニ心ヲ盡シ部屋長及工女共規則ノ條々堅ク相守候樣說示シ若背戻致候モノハ直ニ督責シ掲載ノ條々踐行爲致候儀專務タルベキ事

是月福島縣令安場保和ハ同地蠶絲業古來ヨリノ名産地ナルニ外國交易創始以來生産ノ生絲ニ稍々粗雜ヲ來シタルヲ以テ此際之ガ改良ヲ行ハスンバ同地斯業ノ衰退ヲ來サンヲ憂ヘ適任ノ者ヲ撰定シツヽアリシ偶々上毛前橋製絲場創始ヨリ熱心事ニ當リシ同藩士速水堅曹ア ルヲ聞キ同人ヲ招ク然レ𪜈堅曹ハ業ニ已ニ前橋ニ於テ生絲改良ノ業ヲ起シタルヲ以テ之ヲ中斷スルニ忍ビス加之縣官自ラ事業ヲ經營スルハ民業發達ノ長策ニ非サルヲ縷々陳述シテ安場保和ノ招倩ヲ辭セリ

十一月大藏省ハ全國ノ蠶卵紙製造人及蠶卵原紙製造人ニ達シテ豫メ製造殘余ノ分取調極印ノ有無ニ不拘左ノ如ク租稅寮ニ申立セシメタリ

是迄用來候蠶卵原紙當壬申年用殘紙贏餘ノ分原紙賣捌所ニ於テ一定ノ代價ヲ以テ買上候條卵製造人所持ノ分ハ大總代ニテ取調瀧立人並商人所持ノ分ハ其管轄廳ニテ取調極印有無共仕譯書ヲ以テ來ル十二月十五日限リ租稅寮へ可申立事

但蠶卵製造人名刺又ハ内書等有之候原紙ハ假令極印有之候共買上ニ不相成候事

又曰小田縣備中國馬場信一美作國津山山下吉藏等同地ニ製絲業ヲ創始セント相携ヘテ關東ニ至リ前橋藩製絲所ノ完全ナルヲ認メ同所ニ入場シ製絲傳習ヲ受ケ是レ中國製絲發達ノ原動トナス

十一月大藏省ハ生絲粗製濫造ノ宿弊ヲ矯正センガ爲メ各地方當業者ノ重ナル者及横濱生絲賣込問屋ヲ同省ニ招集シ其矯正策ヲ協議セシム

是月大藏省蠶種原紙賣捌規則ヲ左ノ如ク制定シ令シテ國内區々ノ施行ナカラシム

蠶種製造取締ノ儀追々布達ノ趣モ有之殊ニ當五月中改正規則頒布致候ニ付テハ大ニ從來ノ弊害ヲ矯正シテ國産繁殖ノ方法相立候ヘ共數多製造ノ内ニハ目下ノ小利ニ趨リ遂ニ犯則ノ者モ有之依テ製造賣買共眞實ノ取扱ニ歸セシムヘキ爲來酉年ヨリ別紙ノ通原紙瀧立賣捌方法ヲ設ケ取締相立候條總テ各府縣ニ於テ成規ニ從ヒ區々ノ處置無之樣可取扱事

（別紙）

蠶種原紙規則

第一條

一蠶種ニ相用候原紙來酉年分ヨリ大藏省ニ於テ瀧立左ノ賣捌所ニ於テ其近傍大總代ヘ賣渡候條是迄瀧立免許鑑札所持ノ者タリ共自儘ニ瀧立賣買堅ク禁止候事

第二條

一賣渡方法ハ毎年二月朔日ヨリ三月晦日限ト相定候條各府縣共大總代ノ者銘々組内人用高國内用海外輸出ノ分幷掛合夏蠶種用共取調其地方便宜ノ賣捌所ヘ申出買受可申事

第三條

一大總代買受候原紙組内限リ相用他ノ縣下他ノ總代ヘ讓渡爲致流用候儀堅ク禁止候間万一心得違致候者ハ双方ヨリ若干ノ過料取立可申事

但買受候原紙蠶種豊凶ニ依リ餘紙出來候節ハ其年六月限取調大總代ヨリ租稅寮ヘ申

立指圖ヲ可請候若シ其儘捨置更ニ翌年ノ入用ニ充候儀ハ決シテ不相成候事

第四條

一蠶卵紙國內用ニ相用候分ニ限リ其蠶種掃立濟ノ原紙其員數其年七月中ニ届出置翌年三月迄ニ持參候ヘハ免許印紙稅共ノ五割引ノ割引ヲ以テ更ニ買上ケ可申候尤期日ヲ經持參候分ハ採用不致事

但本文蠶卵原紙買上候儀ハ免許印紙共全備候分ニ限リ可申候條所持ノ者ハ組合戶長又ハ蠶種大總代同世話役ノ內ヘ申出右ノ者共其組內取纏メ其管轄府縣廳又ハ原紙賣捌所ヘ可申出事

第五條

一各所大總代原紙買受高員數並組內蠶種製造每戶ノ入用內譯等丁寧ニ取調三月限リ租稅寮並管轄府廳ヘ可届出事

第六條

一原紙賣捌所

武藏國深谷宿　岩代國福島　信濃國上田

右之通蠶種原紙規則決定候條堅ク相守可申若シ違犯ノ者於有之ハ屹度處置可致事

壬申十一月

大藏省

國內用並禁輸出品ハ朱印

海外輸出品ハ　黑印

（原紙寸法夏蠶掛合薄紙寸法及雛形略之）

蠶種原紙賣捌所規則

第一條

一原紙賣捌所ハ陸羽關東信州ノ內各一ヶ所宛可相設事

第二條

一原紙千枚ニ付目方何程ト極メ漉立候上右價何程ト相定置枚數ノ多少ニ不拘均一ノ價ヲ以テ賣捌各府縣大總代誰ヘ何枚ト詳細簿記致シ各所共四月晦日限リ租稅寮ヘ可相届事

第三條

一原紙賣渡シ並漉立人ヨリ納方取扱候者ハ其地方ニ依テ身元慥成者相撰大藏省用達申付會計出納ニ至ル迄悉皆爲取扱可申事

第四條

一每年正月廿五日迄ニ租稅寮官員兩人宛極印並ニ各地賣捌所ヨリ大總代ヘ渡シ印共持參各地賣捌所ヘ出張原紙漉立始メ賣捌規則押印等取計四月ニ至リ賣捌日限ノ後右諸事取調印判所持歸寮可致事

第五條

一原紙漉立方ハ地方便宜ニヨリ何人ニテモ取調ノ上漉立方申付直段ハ年々椿直段及手間代等見計ノ上可取極事

右之通規則相定候事

壬申十一月

大藏省

是年本邦ヨリ海外ニ輸出セシ蠶絲蠶絹ニ關スル物價ハ左ノ如シ

生絲八十九万五千五百斤　價五百二十一万五千二百三十七圓

駄斗絲十三万五千四百三十五斤　價十一万七千七百三十七圓

屑絲二十四万四千四百六十五斤　價八万三千〇〇七圓

屑繭四十四万四千八百四十九斤　價二十五万六千百四十圓

眞綿十一万二千六百九十五斤　價十六万八千二百九十二圓

蠶卵百二十八万七十〇四十六枚　價二百二十四万七千三百六十五圓

明治五年了

明治六年一月福島縣令安場保和ハ曩キニ明治五年十月上毛前橋藩ノ製絲所主任タル速水堅曹ヲ招キテ岩代地方生絲改良ノ功ヲ奏セントシタリシガ同人ノ辭退ニ依リテ止ム所アリシ然レモ生絲改良ハ之ヲ忽諸ニ付ス可カラサルヲ以テ是月大藏省ニ稟請シ群馬縣ヘ紹介シテ速水堅曹ヲ招聘セントス此時速水堅曹ハ主張シテ曰ク製絲改良ノ要地ハ群馬縣ニ若クハナシトノ旨趣ヲ以テ之ヲ群馬縣令青山某ニ上申セリ然レモ縣令ハ冷淡ニ之ヲ聞クノミニシテ敢テ關係スル所ナカリシ

又群馬縣主管前橋製絲所ハ去年五月小野組即チ小野善助カ之ヲ引受ケ事業ヲ營ミツヽアリシニ是月小野組ト示談契約シテ更ニ之ヲ小野善助ニ拂下ゲタリ

當時各縣ニ於テ生絲ヲ製造スル者曩キニ政府カ富岡ニ模範製絲場ヲ建設シテ製絲ノ改良ヲ促セシニ上信二州有爲ノ士民之カ規畫ニ倣ヒ蒸滊機鑵ヲ備ヘ器械ヲ模造シ或ハ子女ヲ派シテ養成ヲ請フ者アルト雖モ是レ地方重ナル當業者一部ニ行ハルヽノミノ改良ニシテ因襲ノ弊未タ其痕ヲ改メス是ニ於テ政府ハ之ガ矯正策ヲ講シ内ハ以テ正業者ヲ保護シ外ハ以テ歐米需用者ノ嗜好ヲ失墜セザラシメント則チ是月左ノ如ク生絲製造取締規則ヲ製定ス

諸府縣ヘ

生絲ノ義ハ國内ノ名産ニ候處近來製法麁末ニ相流レ隨テ品位相劣リ加フルニ詐僞ノ所業モ不勘趣相聞以ノ外ノ事ニ候今般保護ノ爲メ別紙ノ通規則相定候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ稼人共御趣意相辨ヘ詐僞濫製無之樣取締可致事

生絲製造取締規則

第一條

一生絲ノ儀ハ海外輸出國内用ノ區別ナク都テ結目ニ相用候印紙當省ヨリ其地方官ヘ相渡候條地方官ニ於テハ製造人ノ凡積ヲ以テ何ケ度ニモ請取方可申立事

但本文ノ儀ハ明治六年第六月一日ヨリ施行候筈ニ付結印紙ノ儀ハ期限以前請取方行届候樣夫々可申立事

第二條

一地方官ハ右印紙ヲ生絲改會社ヘ賣渡會社ニ於テ各製絲人ヘ可賣渡事

第三條

一製造人ハ右印紙買受其國所名面ヲ記名押印致シ生絲一繰毎又ハ中結ニ雛形ノ通結用可申事

但巻目ヘモ製造人封印可致事

第四條

一結印紙定額ノ代價ヲ以テ地方官ヨリ會社ヘ賣渡直ニ代金取立其時々租稅寮ヘ相納可申事

但會社ヘ賣捌手數料トシテ其代金ノ一割即（金百圓ニ付金拾圓）下ケ渡可申事

第五條

一結印紙會社ヨリ製絲人ヘ賣渡候節ハ定價ノ外取立申間敷事

第六條

一各地方官ニ於テハ結印紙請取高並代金納高及會社ヘ下渡ノ手數料共前一ヶ年分取調年々二月中租稅寮ヘ差出事

第七條

一結印紙代ノ儀ハ左ノ通リ

鐵砲造島田造其外ニ相成候中結印紙

百枚ニ付　五錢

提絲其外小綛ニ相成候印紙

百枚ニ付　三錢五厘

繭類ニ相用候印紙

壹枚ニ付　五錢

眞綿ニ相用候印紙

一枚ニ付　十錢

第八條

一製糸ノ儀ハ都テ入念汚レ或ハ切口等無之樣仕立詐僞ノ所業致ス間敷事

第九條

一玉糸熨斗絲屑絲皮ムキ等每品生絲ト總稱致候條同樣ノ心得ヲ以テ印紙可取扱事

第十條

一繭眞綿出殼蛹山繭等ノ類都テ每箇上包ヘ印紙張用製造人國所名前等詳記可致事

但箇立不相成品ハ印紙相用ニ不及候事

繭

出殼蛹（一箇目方七貫目迄ヲ限リ結立印紙張用可申尤モ量目七貫目ニ不滿トモ箇
山繭（立タル上ハ前同樣ニ印紙相用可申事
眞綿　一箇目方九貫目迄ヲ限リ結立印紙張用可申其余前同斷

第十一條

一上州富岡製絲場ニ於テ製造候生絲タリ共結印紙用方ノ儀ハ同樣ニ候得共印紙ノ儀ハ當省ヨリ直ニ製絲場官員ニ相渡候事

第十二條

一明治六年第六月一日以後ハ印紙無之生絲並繭眞綿等密賣買致候節ハ其品取上買請人製造人トモ其價ノ二十分一科料可申付事

右之通相定候也

明治六年第一月　　圖面ハ略ス

是時租稅寮ハ蠶種原紙廢除ノ件ニ關シ左ノ如ク府縣ニ令達シテ買上クル事トナス

去壬申年用蠶種原紙賸余ノ名判又ハ內書等無之極印打据有之分ニ限リ原紙賣捌所ニ於テ一定ノ代價ヲ以テ買上候筈壬申十月中及布達置候處此度名判內書等有之分ヲモ置上候條

悉皆取調三月初旬ヨリ信州上田武州深谷岩代國福島原紙賣捌所ヘ差出可申出此段更ニ相達候事

但商人幷製造人所持ノ原紙無極印ノ分ハ規則ニ照準處置可致事

是月富岡製絲場ヘ傳習生徒誓書ヲ租稅頭宗光左ノ如ク之ヲ定メ以テ傳習者ニ各誓書ヲ作ラシメタリ此時入場ノ傳習生ハ左ノ十二名ナリシ

傳習生徒誓書

第一則

一入寮ノ生徒ハ百事學員ノ令スル所ニ從ヒ其勤業ニ至テハ朝何時ヨリ夕何時迄ノ間ハ必ス製絲器械場ニ出席シ諸規則及首長ノ指揮ニ從ヒ各自受持ノ業ヲ勤務可致事

第二則

一入寮ノ生徒ハ製絲方法傳習自身熱心ノ者ニ限リ候ニ付入寮ノ者月日ヨリ滿五ケ年ノ間ハ出寮及佗業ニ轉換致間敷事

第三則

一入寮ノ生徒ハ每月定則ノ月費ヲ給與シ每日ノ食料及ヒ衣服ハ一ケ年兩度一揃ツヽ、官費

ヲ以テ支給スヘシ

第四則

一入寮ノ生徒者休業ノ日製絲場ヨリ半日程場所内ニ於テ散歩スル事ヲ免許スレ𪜈都テ一泊以上ノ旅行スル事ヲ禁ス

第五則

一入寮ノ生徒父母ノ病氣或ハ無餘儀事件ニテ歸省スル如キハ旅費ハ勿論其時間ノ月給ヲ與ヘサルヘシ

右條々相心得候上ハ可致入寮事

明治六年第一月

前書御規則之趣吃度奉戴仕候以上

生徒連名

弘　道　輔印　　長野範亮印　　白根祥亮印

深井寛八印　　細倉豐明印　　佐伯美鳳印

國重信一印　　高木大之進印　　兒玉逸良印

陸奥租稅頭

三吉正一印　　新山芳辰印　　村瀨直養印

本場ハ客年十月製絲開業以來御雇工女凡テ四名先ッ初メ工女四人ニ教ヘ順次二十人ニ及ボシ而シテ其二十人ハ遞次傳習シテ今年一月ニ至ル通シテ百五十余人ヲ得タリ初メ該所附近ノ入間群馬橡木埼玉長野ノ五縣ヘ有志ノ傭工女ヲ入場セシムヘシト布告シ又諭示ヲ北海道外十縣ニ下セシニ遠近トモ入場ヲ請ヒ寄宿婦女名簿ニ登ルモノ

群馬縣二百二十八名、濱松縣十二名、靜岡縣六名、長野縣十一名、石川縣一名、酒田縣三名、東京府一名、入間縣九十八名、水澤縣八名、橡木縣五名、宮城縣十五名、奈良縣二名、置賜縣十四名、

通計四百四名即チ新式ノ器具ト術師ノ訓陶宜シキニ適ヒタルヲ以テ舊習故慣ヲ脫洗シ工業發達シ本場ノ一半隊既ニ全ク成リ余ノ一半隊モ漸次備ル可キノ機運ニ向ヒ其業ノ熟達シテ稍ゝ工師ニ亞ク可キ工女二十二人ヲ得タリ於是工女拾八人ヲ撰拔シ製絲セシメ忝クモ之レヲ　叡覽ニ供シ且是年歐羅巴洲澳太利國博覽會ニ出品スル事トナレリ其絲質工女左ノ如シ

原繭蒸繭四種

長野縣管下信濃國佐久郡産品（黃白）兩種
一ハ入間縣管下武藏國産品
一ハ群馬縣管下上野國富岡産品ナリ

租稅權大屬尾高惇忠女	ゆ	申十四歲	
濱松縣貫屬士族楫斐政直妹	う	寅二十歲	
濱松縣貫屬士族津田長友妹	は	寅二十歲	
濱松縣貫屬士族太田弘亭妹	つ	巳十七歲	
群馬縣貫屬士族芝塚照德姉	ね	辰十八歲	
入間縣管下武藏國比企郡小川村青木傳次郎女	ふ	巳十七歲	
同　管下　同　村岸野信太郎姉	て	辰十八歲	
同　管下　同　村轟幸助女	つ	辰十八歲	
同　管下　同　村岸野信太郎姉	た	辰十八歲	
同　管下同郡青山村恩田與兵衛女	け	卯十九歲	
同　管下武藏國榛澤郡牧西村森庫三郎妹	い	寅二十歲	
	や	卯十九歲	
	ま	寅二十歲	
	と	辰十八歲	
	ね	巳十七歲	
	だ	卯十九歲	
	い	寅二十歲	
	う	辰十八歲	
	し	巳十七歲	
	わ	寅二十歲	
	か	寅二十歲	

橡木縣貫屬士族安田銈太郎妹	き	巳十七歲	
群馬縣貫屬士族磯谷左右吉叔母	い	申廿六歲	
同　若林誠治女	す	子廿二歲	
同　縣下管下富岡町横山彌市妹	た	辰十八歲	
同　縣下管下緑野郡中栗須村根岸金作女	か	辰十八歲	
同　縣下甘樂郡四日市村安井兵松女	ち	巳十七歲	
同　縣下富岡町堀口常吉妹	い	卯十九歲	

二群月馬縣令青山某更迭ノ河瀨秀治之ニ代リ縣治上物産蕃殖ニ意ヲ止メ殊ニ生絲改良ニ付テハ大ニ抱負アリ私カニ速水堅曹ニ說テ同人ノ福島縣ニ行クヲ止メタリ然レモ此時福島縣令安場保和ハ官員二名ヲ派遣シテ懇篤ニ速水堅曹ヲ促セリト雖モ同人ハ群馬縣ノ生絲改良ヲ意ニ決シタル所ナレハ再應固辭セシカ彼縣官ハ縣令懇篤ノ意ヲ傳ヘテ止マス故ニ速水堅曹默止シ難ク福島縣ニ行クコヲ受諾ス

蓋シ堅曹ハ嘗テ福島地方繭絲ノ性質美麗ニシテ只僅カニ製絲上ニ不可ノ點アレバ之ヲ改良スル事容易ナルカ故生絲改良ハ福島縣ヨリ始ムルヲ以テ至當ナリト斷按セシ事モアリシナ

リ

然レ𪜈速水堅曹ハ群馬縣令河瀨秀治ニ約シタル條件アレバ自身ガ福島縣ニノミ止ラバ縣令ノ希望ニ背キ群馬縣内ノ改良ニ從事スル事能ハザルヲ深ク憂ヒ於茲河瀨秀治ニ内談シ一旦彼地ノ改良ヲ爲スモ忽チ歸ツテ自縣ノ改良ニ從ハント内約シ縣令ハ福島縣令ニ添書セリ是月橫濱生絲商人等ハ曩キニ一月發布ノ生絲製造取締規則ノ旨趣ヲ遵奉シ協議ヲ盡シ左ノ如ク生絲改會社規則ヲ定メ官允ヲ得タリ大藏省ハ二月橫濱港生絲改會社ヲ標準シテ各地ニ生絲改會社ヲ創設ス可キノ旨ヲ達セリ是レ曩キノ生絲製造取締規則ト相俟ツテ本業全体ノ惡弊ヲ矯正スルノ手段ナリ

二月十二日

生絲ノ儀ハ本邦最優ノ名産ニシテ近來外國輸出盛大相成御國内一般ノ潤澤モ不尠候處間ニハ製造杜撰ニ渉ヲ甚敷ハ濫製詐僞ノ所業イタシ候者モ有之趣到底御國損ヲ招ク基ニテ不容易事ニ付此程取締方規則御頒布相成リ然ルニ今般橫濱湊及ヒ國々賣買人並ニ製造人協議ノ上改會社取設ノ儀別紙規則ヲ以テ申立令免許候間開港場及各地方便宜ノ場所ニオイテモ夫々同樣會社取設專ラ詐僞ノ舊弊矯正シ眞實ノ享利ヲ與シ候樣精々注意可有之依

之改會社規則相添此段相達候事

（別紙）

生絲改會社規則

夫生絲者本邦最上之上產交通ノ享利ヲ得ル品ナレバ各注意シテ其業ヲ勉勵シ精製スベキ處頻年貿易盛大ニ開ケ輸出夥多ナルニ從ヒ粗製濫造ノ弊ヲ生シ品位次第ニ下劣シ終ニ名品ノ聲價ヲ滅却シ商人或ハ破產ニ至ルハ豈慨歎ニ堪ヘサランヤ因テ同盟結社シ回護ノ方策ヲ立ンカ爲メ製作場ニ於テハ殖產ノ眞理ヲ盡シ開港場ニ於テハ製作ノ精粗ヲ改メ從來ノ弊害ヲ矯正シテ其蕃殖賣買トモ眞實ノ取扱ニ歸シ一般ノ公利ヲ起サンコヲ謀リ茲ニ國々諸方ノ生絲總代ノ者ト協議シ左ノ規則決定セリ

明治六年一月十日

生絲改會社

生絲改會社規則

第一條

一生絲ノ儀ハ國内賣買海外輸出用共都而大藏省ヨリ御下渡ノ結紙其地方之生絲改會社ニオヰテ製造人エ分賦イタシ候條製造人ハ結紙エ國所之名面ヲ記シ且押印イタシ提絲又

ハ幅長手造其余都而一結毎ニ結ヒ用其名面人押印無之品ハ賣買致間敷事
但改之節會社ニテ改濟之押印可致事

第二條

一開港場生絲會社ニオキテハ右結紙ニ其地方生絲會社之押印ヲ證トシ相改可申事

第三條

一結紙之儀ハ御規則ノ代價ヲ以テ兼テ其地方ノ會社ヨリ其本管廳ヘ相納可申ニ付生絲製造人ヨリ夫々取立可申事

第四條

一右結紙無之生絲賣買御禁制ニ付テハ會社中之モノ取引不致ハ勿論若違犯之者有之候ハ、其品取上ケ其地方御廳ニ可申立事

第五條

一是迄開港場會社ヘ加入シタル賣込問屋ト諸國取引ノモノトハ同樣ニ會社ノ仲間ト可相成事

第六條

一諸國ノ會社ヨリ海外輸出ノ爲メ開港場ニ差出候品ハ開港場會社又ハ其會社ニ加入シタル賣込問屋ノ可差出事

第七條

一前條結約ノ上ハ若諸國會社改印無之荷物開港場會社又ハ會社ニ加入シタル問屋ニテ取扱或ハ爲替等送リ商賣ノ世話イタシ候者ハ會社ヨリ相當ノ罰金可取立事

第八條

一若又諸國會社ニ加入之者開港場會社又者會社ヘ加入シタル問屋ノ手ヲ不經開港場會社ヘ加入セサル他ノ商人ニ荷物等送リ候モノハ其所ノ會社ヨリ相當ノ罰金可取立事

第九條

一生絲海外ニ輸出イタシ候分ハ各開港場會社ニオキテ改ヲ受可申尤改濟之上若直組不相成節ハ國內用ニ引戻シ候トモ荷主ノ勝手タルヘク其手數料ノ半高差戻シ可申事

第十條

一右改濟之生絲濫製等ノ不正有之候ハ、開港場會社ニオキテハ產出ノ地方ノ會社ニ掛合推窮之上其會社ヨリ至當ノ罰金可取立且地方ノ會社ニオキテハ其製造人ヨリ罰金取立

可申事

第十一條

一貿易品ハ相場物ニテ輸出之遲速ニ寄多分之損益等モ有之候筈ニ付開港場會社ニオヰテハ改方目利應取扱方手馴シモノ抱置精々手繰ノ上改方致シ荷主ノ便利ニ相成候樣注意可致事

第十二條

一近來二ツ取ト唱候器械專ラ流行イタシ一人ニテ二口ツヽ引揚候ハ便利ニ相見エ候ヘトモ自ラ手配屆兼候場合モ有之譬ヘハ繭五ツ付ケニテ挽シノ其內三ツ付二ツ付ニ切落候共其儘引立候故絲ムラ相生シ候ハ勿論大枠エ揚返シ候節ニ至リ極メテ切レ口多ク相成其都度々々繋留候手數ヲイトヒ打付揚口致候故絲口散亂揚方惡敷相成畢竟杜撰ノ製法トハ申ナカラ器械ノ粗拙ヨリ起リ候弊ニ有之候間自今二ツ取ノ器械ヲ廢シ一ツ引ニ相改メ且枠大ヨリ繰上候節絲口叮嚀ニツナキ留メ節不立樣ムスヒ先ヲ鋏ニテ切可申且又直取ト唱候テ繭煎器ヨリ直ニ大枠ニ引揚候モノ有之簡易ノ製法ニ相見エ候得共煮水絲筋ニ糊着シ繰返シニ不相成故是又可爲廢止且絲挽立方之儀ハ折々水ヲ替ヘハジメヨリ終迄太細ノムラナク引立引水ヨク〳〵乾シ可申別而雨天ノ節ハ大枠エ引揚火ニテ干シ濕氣無之樣可致事

但從來手引ニテ製造シ來候向ハ是迄通勝手タルベキ事

第十三條

一都テ繭ヲ賃引ニ爲致候モノハ其製造人名印ヲ爲押可申事

第十四條

一結紙卷留ハ小麥粉其他重目ニ相成候モノヲ禁止シ米糊ニテ糊代一分位ノ內ニ付ケ卷立可申事

第十五條

一元結ノ儀ハ百本ニ付目方六匁ヲ限可申事

第十六條

一長手造揃結ヒ絲ノ儀ハ赤絲淺黃絲ノ外相用ヒ申間敷事

但不結絲御印紙卷紙ニ差支候間小結イタシ賣買可致事

第十七條

一上繭ヲ表掛ニシ玉繭惡蛹ヲ裏掛ニシ或ハ小枠ヨリ大枠ニ引揚候砌二筋一所ニ揚込其他前件ニ書載タル不正ノ製造イタシ候モノ有之候ハヽ其品何方ニ賣渡候共製造ニ元相戻シ代價ハ勿論至當之罰金爲差出可申事

第十八條

一出殼繭生皮苧皮ムキ屑絲山繭等ハ毎箇ニ上包ニ御規則之通御印紙張用ヒ木札ニ製造人之國所名面記シ會社ノ改ヲ受可申事

第十九條

一開港場生絲改會社手數料

一生絲

一副斗絲

一眞綿

一生皮苧皮ムキ

一屑絲

一繭山蛹

一出殼繭

一玉絲

右品々熟レモ目利之上時々ノ相場ヲ以テ代金ニ見積リ千分ノ五請取可申尤豐凶ニ寄其出品港之多寡モ有之且會社建築其他諸入費ニ充否之目的不相立依テ試檢之上實際ニ應ジ猶增減可致事

第二十條

一各地方改會社ニ於テハ前書之規條ニ準照シ取扱可申尤モ改手數料之儀ハ素ヨリ會社諸入費ニ充候タメノ儀ニ候條精々省略イタシ當分手數料トシテ千分ノ三取立試檢ノ上增減可致事

第二十一條

一右會社諸入費元拂精勘定之儀ハ年々十二月限リ御支配廳ヘ差出シ檢查ヲ受可申事

右之通規則相定候事

明治六年一月

生絲改會社

三月大藏省ハ達シテ蠶種製造大總代月給及旅費等ノ件ハ壬申第二百四十二號布告ニ基キ第

二常備金ヨリ繰替仕拂置右請取方ノ儀ハ壬申年支給ノ分ハ從來ノ通ニシテ本年一月ヨリ支給ノ分ハ租稅寮へ可申立旨府縣へ達ス

是月筑摩縣信濃國安曇郡稻核村ノ風穴ニ蠶種ヲ貯藏セント筑摩縣ノ稟申ニ大藏省ハ指令シテ其之ニ貯藏スル所ノ者夏蠶ト同樣薄紙ニ產卵セシメ春蠶ノ原紙ヲ以テスル事ヲ禁セシメタリ

又曰大藏省ハ蠶種原紙贏餘ノ部買上ノ件賣下ノ件ニ關シ左ノ布達ヲ當業者ニ告示ス

三月十二日

去壬申年用蠶種原紙贏餘ノ分內書有無ニ不拘目方一貫目ニ付代金一圓廿五錢ト相定最寄賣捌所ニ於テ買上且各府廳ヨリ持越候入用爲手當當年限リ原紙一貫目十里ニ付新貨二錢五厘ノ割合ヲ以テ被下候ニ付取纏差立候貫目里數等詳細取調書相添差出可申此段相達候也

三月十四日

蠶種原紙ノ儀規則ノ通賣捌所於テ一定ノ代價ヲ以テ賣下ケ候ニ付テハ養蠶家ノ內ニハ代價即納難澁ニ相心得候者モ可有之哉ニ候得共一家ノ產業ニ候上ハ兼テ夫等ノ覺悟可有之ハ勿論ノ儀ニ付代價引換ノ積兼テ管下へ無洩樣觸示シ置可申此段相達候事

又曰大藏省ハ去年改定ノ蠶種原紙規則ヲ左ノ如ク之ヲ改定シ國內區々ノ取扱等無カラシメタリ

蠶種原紙賣捌規則昨壬申年第三百三十一號布告ニ及ヒ置候處別冊之通リ改正シ更ニ頒布候條自今右規則ニ從ヒ區々ノ處置無之樣可取扱事

（別冊）

蠶種原紙賣捌規則

第一條

一蠶種ニ相用候原紙昨壬申年中相達候通當省ニ於テ漉立左ノ賣捌所ニ於テ其近傍大總代へ賣渡候條總テ規則ニ照準シ取扱可申事

第二條

一原紙賣捌所

武藏國深谷宿　岩代國福島　信濃國上田

第三條

一賣渡方法ハ毎年三月一日ヨリ五月十五日限リト相定候條各府縣下大總代持場入用ノ原紙高國內用海外輸出並夏蠶掛合等ノ種類用ノ區分取調其地方便宜ノ賣捌所ヘ申出買受可申事

但春蠶原紙千枚ニ付代金二百圓夏蠶其外ニ用候薄紙千枚ニ付金六十圓ト相定候事

第四條

一大總代買受候原紙其持場限リ相用他ノ縣下他ノ總代ヘ讓渡爲致流用候儀決シテ不相成且製造人ニ於テハ同組合ノ者タリトモ私ニ流用候儀ハ不相成且製造人ニ於テハ同組合ノ者タリトモ私ニ流用候儀ハ不相成候間萬一心得違イタシ候者ハ双方共春夏蠶種類不論一枚ニ付新貨五十錢ノ過料取立可申候

但素凡積ヲ以テ買受候原紙ニ付蠶種製造規則中ニ掲示候通養蠶ノ豊凶分方ノ多少ニヨリ餘紙出來候節ハ其年七月限リ取纏大總代ヨリ最寄原紙賣捌所ヘ差出代價下戻相願可申其儘捨置更ニ翌年ノ入用ニ充候儀決シテ不相成萬一犯禁ノ者ハ其品取上ケ原價二倍ノ科料取立可申事

第五條

一春蠶原紙國內用ニ相用候分ニ限リ掃立濟ノ原紙原價免許印紙稅共ノ內五割引之割合ヲ以テ更ニ買上候條其年七月中大總代持場限リ取調誰掃立紙何枚ト明細帳相添最寄賣捌所ヘ持參可致候尤期限相過持參候分ハ採用不致事

但本文蠶卵原紙買上候儀ハ免許印紙並ニ切分ケ合印等總テ全備ノ分ニ限リ候條銘々國郡村姓名枚數等裏面ヘ細字ニ書記名印ヲ押シ其持場大總代ヘ其年六月限差出可申尤他人ノ掃立候原紙買集持參候儀決シテ不相成候事

第六條

一各所大總代原紙買受高員數並持場內蠶種製造人每戶ノ入用高內譯等丁寧ニ取調四月限其管轄府縣廳ヘ届出府縣廳ヨリ速ニ租稅寮ヘ差出同申事

第七條

一蠶卵一枚部難養者有種紙切分ケ賣却イタシ度向ハ兼テ切分ケ員數ノ卵紙其世話役ヘ差出シ切目合印相受置掃立濟御買上相願候節不都合無之樣致シ置可申且切分ケ候一部分每ニ製種人押印可致事

但何分一何府縣管下何國何郡何村何某ヘ賣渡ト明細帳翌年三月限リ其大總代ヘ可差

出事

第八條

一卵紙切分ヶ賣却致候モノヨリ切ヘキ卵紙世話役ヘ差出可申筈ニ付世話役ニ於テ雛形ノ如ク切目押印致相渡可申事

但切目押印致シ相渡候員數並製造人名前等明細記載ノ帳簿ヘ切目ノ印鑑相添ヘ衆テ原紙賣捌所ヘ差出可申事

第九條

一奉蠶同時養立候夏蠶初度ノ卵種ハ此規則中ノ原紙相用ルニ不及銘々勝手ノ薄紙可相用事

第十條

一規則中大總代ノ取扱向ハ大總代無之地方ハ世話役其之無地方ハ戸長ニ於テ取扱可申事

右之通蠶種原紙規則決定候條堅ク相守可申若シ違犯ノ者於有之ハ吃度處置可致事

明治六年三月十五日

大藏省

原紙雛形ハ之ヲ略ス

又從來生絲賣買免許ノ鑑札ハ去年創始ノ蠶絲改所ヨリ各營業者ヘ下付スル所アリシニ爾來其弊害ノ止ム所ナキヲ以テ規則ヲ左ノ如ク定メ更ニ大藏省ヨリ下附スル事ト定ム

生絲ノ儀ハ本邦ノ名產民間有用ノ物品ニテ其利益不勘既ニ戊辰年元蠶絲改所ヨリ右渡世ノ者ヘ取締ノ爲メ賣買免許鑑札相渡置候處生絲商人ノ內右鑑札所持無之者モ往々有之一般ノ取締ニ關シ不都合ノ次第且近來製方愈粗漏ニ流レ或ハ詐僞ノ所業モ不少名產ノ聲價ニ差響不容易御國損ニ有之候間既ニ生絲製造規則モ御布告相成候ヘトモ猶賣買取引ノ間ニ於テモ舊弊存在ノ趣モ相聞候間爲取締更ニ生絲賣買鑑札相渡候條戊辰年相渡置候分ト引換可申若シ舊鑑札所持無之分ハ管下生絲商人一人別ニ不洩樣相渡都テ別紙規則ニ照準取締可致事

（別紙）

生絲賣買鑑札渡方規則

生絲ノ儀ハ本邦ノ名產民間有用ノ物品ニテ其利益不勘既ニ戊辰元蠶絲改所ヨリ右渡世ノモノヽ取締ノ爲メ賣買免許鑑札相渡置候處生絲商人ノ內右鑑札所持無之者往々有之一般ノ取締ニ關シ不都合ノ次第且近來製法愈粗漏ニ流レ或ハ詐僞ノ所業モ不少名產ノ聲價ニ

差響不容易御國損ニ有之候間既ニ生絲製造規則モ御布告相成候得共猶賣買取引ノ間ニ於テモ舊弊存在ノ趣モ相聞候間爲取締更ニ生絲賣買鑑札相渡置候分ト引換可申若舊鑑札所有無之分管下生絲商人一人別ニ不洩樣相渡都テ別紙規則ニ照準取締可致事

明治六年三月

大藏省

規則

第一條

一生絲賣買渡世ノ者ハ去戌辰年后元產絲改所ニオイテ鑑札相渡有之候處今度國內一般生絲渡世ノモノ其土地ノ模樣ニ寄取締タル會社中ノ者ヘ別紙雛形ノ生絲賣買鑑札更ニ大藏省租稅寮ヨリ可相渡候間其會社ノ管轄廳ニ於テ取調收與可致事

第二條

一右會社ヘ加入イタシ候者ハ其會社ヨリ其管轄廳ヘ申立管轄廳オイテ聞屆生絲賣買鑑札相渡舊鑑札ハ其廳ヘ引揚燒捨當人國郡村町名前等巨細取調鑑札料相添ヘ第七條ニ掲ル鑑札仕譯書差出候一同可申立事

第三條

一生絲賣買鑑札相渡候ニ付テハ鑑札一枚ニ付金五十錢ツヽ爲鑑札料上申納可申付事

戌辰後元蠶絲改所ニオイテ相渡候鑑札所持ノ者ハ鑑札料相納ルニ不及新鑑札相渡舊鑑札ハ其廳ヘ引揚燒捨當人國郡村町並名前トモ巨細取調可申立事

第四條

一生絲賣買鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候儀有之其段申出候ハヽ事實取調ノ上新規願受候節ノ鑑札料半數上納可申付事

第五條

一生絲賣買鑑札願受候モノ何後廢業致度候ハヽ其管轄廳ヘ申出管轄廳ニオイテ聞屆鑑札取上ケ第七條鑑札仕譯書差出候節可申立事

第六條

一賣買鑑札ハ一名一枚ニ限リ候儀ニ無之素ヨリ賣買上必携ノ品ニ付キ手代其外多人數召使賣買候者ハ願ニ寄何枚ニテモ可相渡尤モ鑑札料ノ儀ハ第三條ノ通收納可致事

第七條

一右ニ掲ケル鑑札ハ凡積ヲ以テ其管轄ヘ可相渡置候間收與仕譯書詳明取調年々九月中可

申立事

第八條

一管內無鑑札ニテ賣買致シ候者有之於相顯ハ其品取上ケ鑑札料二十倍ノ科料可申付事

但密賣買候モノ他ヨリ見出シ訴出ルニオイテハ其訴主ヘ取上品拂代金ノ十二分ノ二褒美トシテ被下候事

第九條

一生絲賣買鑑札ハ自己ノ相對ヲ以テ他人ヘ貸與ヘ候儀ハ決シテ不相成候事

但第一私ニ貸與候モノ有之相顯ル、ニオイテハ鑑札料五倍ノ科料金取立可申事

右之通規則相定候事　（鑑札雛形略ス）

明治六年三月二十三日　租稅寮

四月福島縣ニ於テハ去月組織シタル製絲ノ會社建築ノ件ニ關シ日本松舊城趾ノ拂下定款及規則ヲ議定シ資金ヲ東京小野組ヨリ借入ル、等ノ願書契約總テ順序ヲ調ヒ是月製絲所建築ニ着手セリ是レ丹羽長祢ノ城趾ニシテ福島縣第五區ニ屬シ縣廳ヲ去ル五里廿四余町ノ處ニアリ

是月大藏省ハ蠶種大總代世話役手當割合ヲ左ノ如ク定メ其領收ニ際シテ檢查表ヲ添ヘ以テ租稅寮ヘ申立ツ可キ事トセリ

今般濫種矯正ノ爲メ蠶種製造檢查表施行候ニ付テハ各世話役共組內巡回每戶檢查候筈ニ付左ノ割合ヲ以御手當被下候條蠶種大總代共ヨリ申立ノ上相違無之分ハ第二常備金ヨリ渡方取計置追テ請取方檢查表相添ヘ租稅寮ヘ可申立事

但蠶種大總代並世話等無之地方ハ戶長副ニテ取計候儀ト可相心得尤モ委細ハ不日御頒布可相成蠶種改正規則中ニ記載有之候事

（別紙）

各世話役御手當被下方割合

一檢查表	五十枚以上	取扱候者ヘ　金五圓
一同斷	三十枚ヨリ四十枚マテ	同斷ノ者ヘ　金四圓
一同斷	十枚ヨリ二十九枚マテ	同斷ノ者ヘ　金三圓
一同斷	九枚以下	同斷ノ者ヘ　金二圓

四月十三日　大藏省

又曰去年達セル蠶種印紙稅其他ノ上納帳內帳譯等ハ十一月限リ届出ヲナサシムル事ニ定メタリ而シテ生絲取締規則ハ是月又之ヲ改正追加シテ左ノ如ク鐵砲造中結印紙ノ寸法ヲ定ム

本年第三十二號生絲取締規則布告候處猶詮議ノ上改正追加候條都テ成規ニ從ヒ取扱可申事

生絲取締規則追加

鐵砲製造ノ儀ハ一綟每ニ印紙卷用猶造上ケノ上中結ノ卷紙相用其上ヘ化裝紙相用可申事

右中結印紙ヘ封印ノ儀ハ前規則ノ通可相心得事

各改會社ニ於テハ右化裝紙中通白地ノ處ヘ其國地會社名前相認メ卷仕舞ヘ改印可致事

化裝紙拂下方ノ儀ハ外印紙同樣タルヘキ事

中結印紙代價　百枚ニ付新貨五錢

化裝紙代價　一枚ニ付新貨三錢

右化裝紙ノ儀ハ中結印紙ト相離レサル品ニ付（中結印紙百枚入用ナレバ化裝紙モ百枚入用ノ筈ナリ）必ス一方引分ケ拂下ケ不相成候事

鐵砲造ニ相纏ラス小提ニテ賣買致候分ハ提絲同樣ノ結紙卷用可申事

右化裝紙ハ勿論卷紙類等都テ一旦相用候紙ヲ復ヒ相用候儀決テ不相成萬一右樣ノモノ有之ニ於テハ其生絲取上相當ノ過料可可申付事

右之通相定候也

明治六年四月

（別紙雛形ハ略之）

大藏省

上野國那波郡國領村高柳忠五郎等協同シテ結社シ養蠶業ヲ經營セシト曩キニ群馬縣ヨリ稟請スル所アリシヲ以テ大藏省ハ是月指令シテ之ヲ許ス盖シ同地養蠶改良ノ目的ヲ以テ結社スルモノニシテ將來一般ニ普及シ世人ノ鴻益ヲ增進セント欲スルニアリ

是月大藏省ハ令シテ蠶種原紙賣買規則第五條捕立濟ノ原紙原價免許印紙稅ノ件ニ關シ誤認ナカラシメンガ爲メ左ノ如ク布令シ且ツ太政官ハ去年刪定ノ蠶種製造取締規則ヲ改定ス而シテ是時全國ノ蠶種製造大總代ハ申合書ヲ玆ニ改正シ大ニ國內蠶種製造ニ付其取締ヲ嚴重スルニ至ル

蠶種原紙賣捌規則第五條ニ掃立濟ノ原紙原價免許印紙稅共ノ內五割引ノ割合ヲ以テ更ニ買上候ト有之候ハ全ク免許印紙共具備候分ニ限リ原紙原價ノ五割引ノ割合ヲ以テ更ニ買

上相成候儀ニ有之候條右規則ノ文意誤認無之樣更ニ各管ヘ可相觸候事

四月十八日

大藏省

蠶種製造取締規則ノ儀昨壬申第百七十九號及布達置候處猶實際試驗ノ上別紙ノ通取捨更正候條總テ成規ニ隨ヒ可取扱事

四月二十八日

太政官

蠶種取締規則

第一則

第一節

一蠶種紙ノ儀ハ以來內用海外輸出共原紙ハ今般布達ノ賣捌所ニ於テ爲買受免許印紙ハ租稅寮ヨリ相渡候條蠶種製造人共翌年製造凡員數別紙案文ノ通前年八月限大總代並世話役調印ノ上其支配所ヘ可申立事

第二節

一各支配所ニ於テ大總代並世話役ヨリ申立凡員數ノ總計九月限當省ヘ可申立事

第三節

一免許印紙ハ當省ニ於テ製造イタシ各支配所ヨリ申立ノ蠶種紙總數ヲ概算ノ上相渡候條右印紙請取候ハヽ大總代ヘ相渡大總代ヨリ其組々世話役ヘ相渡置可申尤大總代無之場所ハ直ニ世話役ヘ相渡置可申事

第四節

一右免許印紙ハ蠶種出來揚リノ上都テ各世話役ニテ組內取調最前申立ノ凡積並原紙買受高ト照合シ種品改濟ノ上蠶種紙裏面ヘ一枚每ニ位置雛形ノ通不落樣張付世話役繼印可致事

但養蠶ノ景況ニヨリ歩合ニ相成現在ノ出來方凡見積高ヨリ減少候節ハ最初申立候國內用海外輸出ノ員數歩割ニ應シ免許印紙張付可申尤其割合ニ依リ端數出來候分ハ國內用ノ方ヘ組込候儀ト可心得事

第五節

一蠶出來揚ノ員數原紙買受高ニ照合シ餘分ノ原紙有之節ハ明細取調原紙規則ノ通取扱可申事

第六節

一蠶種紙ノ儀昨壬申六月布達ノ通本部ノ名義相廢シ紙一枚ノ數ヲ以テ蠶種紙一枚ト稱シ可申事

第七節

一免許印紙料ハ國內用海外輸出共都テ左ノ通取立申可事

金拾錢

免許印紙一枚ニ付

右印紙料ハ大總代並世話役ヘ印紙相渡候節引換ニ取立可申且製種人自用種タリトモ收納方同樣ノ事

第八節

一免許印紙ノ儀ハ蠶種出來方ノ模樣ニ寄世話役トモニ於テ其持場內限リ流用候儀ハ可爲勝手候條誰ノ餘リ何枚誰ニ讓リ融通候次第製造人別出來高等精調ノ節別紙仕譯ケ可申立事

但免許印紙殘リノ分仕譯書相添世話役ヨリ差出候ハヽ大總代ニ於テ持場內ノ分取揃一改ノ上年々八月限支配役所ヘ返納免許料下戻ノ儀可申立期日相過返納申立候共採用不相成候事

第九節

一他人ノ生繭ヲ買入レ蠶種製造イテシ候儀ハ嚴ク禁止ニ付生繭製作主ニ限リ蠶種製造イシ出來揚ノ上ハ銘々居所名面其外共雛形ノ通調印可致事

但生繭ノ名目ヲ以テ他ノ生繭ヲ買入其繭ニテ蠶種製造候儀モ不相成候事

第十節

一各開港場ヘ輸送ノ蠶種紙直ニ外國人ヘ賣込候共又ハ御國商人賣買イタシ候共勝手次第タルヘキ事

但海外輸出ノ爲メ開港場ヘ持出シ候分模樣ニ寄內國用ニ持歸リ度候ハヽ開港場改所ヘ申立裏印受可申事

第十一節

一國內用不足ト見積候節ハ海外輸出ノ分トイヘトモ國內用ニ振替右印紙願受候樣可致尤國內用ノ分ハ全國充備概見積不相立內ハ一切海外輸出ニ振替候節ハ大總代ヨリ支配所ヘ申立(ヒ)添簡ヲ以テ開港場改所ヘ願出候得ハ改所ニ於テ添印ヲ加ヘ輸出差許可申事

第十二節

一開港場改所ニ於テハ內國用ニ持歸リ候品ハ雛形ノ通裏印イタシ相渡且國內用ト見積候內全ク贏餘ノ分海外輸出ノ儀前條ノ手續ヲ以テ願出候得ハ改印イタシ輸出差許十一月限其枚數租稅寮へ可申立事

第十三節

一免許印紙料ノ儀ハ地方官ハ取立一ヶ月ヲ、取立翌月中上納取計可申尤印紙渡方仕譯書其年八月中大總代ヨリ差出候筈ニ付管內一ヶ年精算明細帳ノ儀ハ兼テ相達候雛形ニ照準取調十月限租稅寮へ可差出事

第十四節

一免許印紙ノ儀ハ凡積ヲ以テ相渡置候儀ニ付下渡高及渡殘幷一旦大總代へ渡置返納ノ分共詳細仕拂帳殘印紙等共取揃前同時ニ租稅寮へ返納可致事

第十五節

一免許印紙無之蠶種紙內外賣買堅禁止若違犯密賣買等イタシ候ハヽ、買受候モノヨリ其品取上ヶ賣渡候モノ賣代金取上ヶ双方免許印紙料十倍ノ科料取申立可事

第二則

第一節

一夏蠶掛合ノ種類ハ可成丈製造致間敷若シ製造候モノハ春蠶原紙ニ製造候儀ハ不相成今般布達相成候蠶種原紙規則ノ通賣捌所ニオイテ薄紙漉立夫々打込印ノ儘賣下可相成候條右ノ原紙へ製種可致尤モ免許印紙料幷ニ印紙張付方ノ儀ハ春蠶同樣タルヘク且夏蠶初度ノ卵種ハ原紙規則外ノ紙相用不苦事

但密々春蠶ノ原紙又ハ自儘ノ紙ニ製造賣買致シ相顯ハル、ニ於テハ買受候者ヨリ其品取上ヶ賣渡候者ハ賣代金取上ヶ双方共蠶種一枚ニ付金五十錢宛ノ科料取立可申事

第二節

一餘附再出ノ製造幷粗斑ノ蠶種ヘ散卵ヲ以テ糊付補裝等致候儀等ハ一切不相成万一犯則ノ者有之相顯ハル、ニ於テハ其品取上前條但書同樣科料取立可申事

第三節

一蠶種ノ儀ハ都テ產出ノ儘一切手入等致間敷若シ見場不宜ヲ厭ヒ白巢拔取跡又ハ產付班等ヘ他ノ卵ヲ以テ補裝致候モノハ假令其品精良ニ候共取上前條同樣ノ科料取立可申事

第四節

一山中洞穴等ニ春蠶種紙ヲ圍半夏ノ頃ニ至取出養蠶致シ製造ノ蠶種風穴種ト稱シ賣買致候趣石ハ夏蠶同時發生ノ品ニ付春蠶原紙ハ製造ノ儀ハ不相成候條都テ夏蠶同樣薄紙ヘ仕付可申事

第五節

一原紙漉立ヲ始賣捌ノ儀ハ兼テ及布達候規則ノ通押印ノ上拂下ケ候條內外用ハ勿論自用種タクトモ右規則ニ背候儀不相成万一犯則ノ者ハ其品取上前條同樣ノ科料取立可申事

第六節

一蠶種製造人共事故アリテ自家ニテ難製者ハ他家借受製造ノ儀ハ不苦候得共兩シ各申合生繭持寄蠶種製造ノ儀ハ一切不相成万一犯則ノ者ハ其品取上前條同樣科料取立可申事

但結社ノ上製造所設置全ク不混合同品ノ蠶種紙ヲ以テ掃立養蠶致候ハ此限ニ非サル事

第七節

一密々蠶種製造致他ノ製造人名判等借受押印ノ者本人ハ其品取上名判貸遣シ候者一同前同樣ノ科料取立可申事

第一節

一蠶種製造方總大代ノ儀ハ各其府縣下製造人ノ總代而已ニ無之全國一般養蠶方ノ大總代ニテ各分割內原種ノ精粗ヲ精密ニ撿査シ世話役及製造人共ノ正否ヲ視察シ右規則ニ背戻候者ハ直ニ督責シ或ハ其狀ヲ訴ヘテ官ノ糺明ヲ乞フノ權ヲ有シ候筈ニ付世話役共ニ於テモ大總代ノ指揮ヲ受申合書ノ旨ヲ踐行可致事

第二節

一右大總代ハ年々製造人共公撰ヲ以テ其支配役所ヘ申立支配役所ヨリ租稅寮ヘ可申立事

但人望ニ協候者何年ニテモ爲勤續可申事

第三節

一蠶種製造人並養蠶人ハ最寄ヲ以テ組合相立組內兩人宛更番ニテ世話役相定諸般世話方取扱可爲致給金ノ儀ハ其組內ヨリ給與可致筈ニ付支配役所ニ於テ大總代談示ノ上相當ノ給額相立可申事

但右組合ハ凡百人ヲ目的トイタシ最寄ニ隨ヒ取極可申尤土地管轄分割ノニヨリテ組

合人員ノ增減ハ便宜タルヘキ事

第四節

一組內年々蠶種製造ノ申立高ハ大總代並世話役ノ手元ヘ記帳致其年養蠶ノ摸樣蠶種ノ譽凶歩合及出來高等大總代世話役篤ト取調其支配役所ヘ其年八月限申出支配役所ヨリ同九月限租稅寮ヘ可申立事

第五節

一大總代世話役タル者ハ素ヨリ蠶業熟練ノ筈ニ付未熟ノ養蠶家ヘ方法敎授可致且養蠶ノ儀ニ付新發明ノ事有之候ハヽ其筋ヘモ申立組內ヘモ傳習可致事

但養蠶ハ桑畑ノ善惡取調方肝要ニ付川附荒蕪等ニテ自然地味宜敷塲所有之候ハヽ支配役所ヘ申立ツヘシ支配役所ニ於テハ取糺ノ上租稅寮ヘ申立次第別段ノ御詮議ヲ以テ開發ヲモ可申付事

第六節

一養蠶人ノ內ニハ近隣ニテ春蠶飼立候ヲ其地ニハ春蠶ハ不應趣ヲ以テ夏蠶ノミ從前飼立候塲所有之右ハ養蠶不研究ヨリノ儀ニ相聞候條右樣ノ土地ハ別テ大總代世話役厚敎諭

ヲ加ヘ追年春蠶ニ飼替相成候樣可致事

第七節

一新塲養蠶營業ノ志有之候者ハ桑葉ノ手當養蠶ノ心得等大總代世話役ニテ取糺未熟ノ向ヘハ篤ト敎諭可致尤モ初年ノ處ハ試業ノ儀ニ付製造ノ蠶種ハ海外輸出不相成事

第八節

一總テ右規則ニ據リ候取扱有之候ハヽ咎可申付事

但大總代各分轄內ノ世話役不正ノ筋有之候ヲ不心附外方ヨリ相顯ハルヽニ於テハ其大總代ノ可爲越度ニ付其科ノ輕重ニヨリ拾圓ヨリ三拾圓迄ヲ科料トシテ可取上若又自分不正ノ事ヲ相謀候カ又ハ不正ノ者ヘ黨與致候事相顯ハルヽニ於テハ規定ノ年限ニ不抱役儀召放シ百五拾圓以上ノ科料金ヲ取上ヘシ且其職ヲ怠リ持塲內協和セザル時ハ年限中ニテモ他ノ相當ノ者ヲ公撰ノ上交代セシムル事アルヘシ世話役其組中ノ者不正筋有之候ヲ不心得シテ外方ヨリ顯ハルヽニ於テハ其世話役ノ越度タルヘキニ付其科ノ輕重ニヨリ三圓ヨリ拾圓迄ヲ科料トシテ可取上若又世話役自分不正ノ事ヲ相謀リ候歟又ハ不正ノモノヽ黨與致候儀相顯ハルヽニ於テハ規定ノ年限ニ不拘役儀

召放縱令勤年限未滿ニ候共七拾五圓以上ノ科料金ヲ取上ヘシ且世話役其職ヲ怠リ又ハ其組内ニ協和セサル時ハ年限中ニテモ他ノ相當ノ者ヲ撰ヒ交代セシムル事アルヘシ

第九節

一不正ノ筋有之候ヲ他ヨリ見出シ訴出候ハヽ、其裁判所ニ於テ糺ノ上事實相違無之上ハ取上拂代十分一ノ割ヲ以テ其支配役所ヘ相達其訴主ヘ給與可致事

但裁判所無之場所ハ地方官ニ於テ取計可申事

第四則

第一節

一取上種ノ儀精良品ニテ明年ノ原種ニ供シ差支無之分ハ雛形ノ通取上品證印ヲ押シ封印ノ上支配役所ヘ備置翌二月ニ至リ國内用不足ト見定候節ニ至リ裁判所有之場所ハ裁判所ニテ公ノ入札ヲ以テ拂下ケ其節買請人其外共押印爲致可申其他粗惡ノ種類ハ地方官ニ於テ焼捨可申事

但取上品ノ印ハ國内用ニ限リ候條地方官ニ於テ雛形ノ通彫刻シ備置可申事

第二節

一諸種ノ科料金取立並取立品入札拂等其地ノ裁判所ニ於テ處分致裁判所無之場所ハ地方官ニ於テ取計上納ノ儀ハ司法省ノ規則ニ從ヒ可申事

第三節

一蠶種製造人ハ勿論養蠶人共ハ妻子召仕ノ者ニ至迄規則ノ趣厚相心得養蠶可致事

右之通相定候事

明治六年四月

（原紙雛形略之）

總テ蠶紙（可押印判ハ蜂密製方或ハ酒製ノ印肉ヲ用ヒ可成ハ油製ヲ不可用事

附蠶種世話役共製造人名前印ハ銘々彫刻押印可致事

案文

明治何年

蠶種御免許印紙凡積取調書付

何縣管下

記

原種何枚掃
一御印紙何枚
　內　何枚御國內用
　　何枚自用
　　何枚海外輸出
新規
原種何枚掃
一御印紙何枚
　內　何枚　御國用
　　何枚　自　用

三百七十二

何國何郡何村
蠶種世話役
　何ノ某組內
何國何郡何村
蠶種製造人
　何ノ某印

何村
蠶種製造人
　何ノ某印

原紙何掃枚
一　印紙何枚

內何枚　御國內用
何枚　自　用
何枚　海外輸出
何枚　夏　蠶
合御印紙何枚
內何枚　御國內用
何　海外輸出

右組合內蠶種免許印紙御下奉願候分凡積書面ノ通御坐候也

年號月

蠶種大總代申合書

世話役
何ノ某印

私共蠶種大總代被仰付今般一同被召出蠶業蕃殖ノ方法及蠶卵精製ノ御旨趣猶厚御告諭ノ趣拜承仕御規則洞徹仕様世話役申合養蠶場一般矯弊說諭致盡力仕候得共多數ノ製造人且ツハ土地ノ摸様ニヨリ毎戸說諭仕候儀ニモ至兼遂ニハ犯則ノモノモ出來御國産ノ品位ヲ墮シ候様成行候テハ不容易儀ト深ク悚憂仕今後ノ儀ハ猶一層注意盡力可成丈同盟結社ノ上殖産ノ眞理ヲ盡シ共同ノ公利ヲ受ケ舊來ノ弊習ヲ挽回シ無量ノ御國恩ニ奉答度因テ別紙申合規則改正奉伺候事

第一蠶種ハ衆庶明年ノ養ニ供シ候原種故大切ノ品ニ付精製ノ儀焦心盡力候トモ製造人銘々區々ニ有之候テハ杜撰詐僞ノ防禦ヲ盡シ兼候間廣ク衆力ヲ協同シ養法ノ得失ヲ研磨一洗シ御規則ノ御旨趣ヲ徹底仕良種ヲ精製可致事

第二蠶種製造ニ付テノ御布告幷御規則ノ趣等大總代其持場ノ世話役ヘ篤ト申談世話役ハ銘々其組内ノ蠶種製造人ヲ始養蠶人共ヘ御旨趣貫徹致候様厚ク可申諭事

第三養蠶ノ豊歉ヲ禍福ニ譬候輩往々有之大ナル僻言ニテ素ヨリ蠶室ノ適度ト桑園ノ培養器械ノ具足等都テ其宜ヲ得候時ハ何國ニテモ違作無之良種名品連年上作ニ至リ申可道理ニ有之況ンヤ風土自然ニ適シ候良地ニ於テ人功ヲ盡シ候得ハ精良ノ品饒足致候ハ無疑儀ニ候間爾后精良ノ原種ヲ饒足セシメ製糸器械ニ應候良繭一般產出候様專ラ敎導心掛可申事

第四近來養蠶ノ弊風博奕同様相成桑樹所持無之族種多分ニ掃立財主ヲ賴ミ大金ヲ入置キ他人ノ桑ヲ諸方ヨリ買集候故桑種同一ナラス飼方其度ヲ失ヒ終ニ違作或ハ下等ノ品製出候様成行候ニ付右体ノ儀無之様厚注意可致事

第五製種ノ養種ハ桑園ノ地味ヲ撰ム事肝用ニ付桑園培養ノ適否ヲ檢查シ其多寡ニ從テ原蠶卵種貯藏致分量ヲ不失様厚注意可致事

第六自家培作ノ桑園不足ニシテ他家ノ桑葉買入養蠶製種致候者ハ自他ノ桑高記載押印イタシ世話役ヘ持參桑葉ノ束數ニ應シ原種掃立高見積製造御免許相願可申ニ付桑葉分量等兼テ目的相立置餘計置入不致注意可致事

第七凡御免許願年々八月限リ原種一枚掃ニ付製種八十枚ノ目途ヲ以テ右ヨリ增願不相成減ズルハ勝手次第タルヘシ原種何枚掃立凡積高何枚御免許内御國内海外輸出並自用種ト員數認分ヶ戸長副ノ加判ヲ取リ其組世話役ヘ可申出其節世話役ハ原種高ニ應シ桑葉

分量概算撿査且其家族人員器械具足等ヲ取リ調其組世話役ヘ可申出其節世話役ハ原種高ニ應シ桑葉分量概算撿査且其家族人員器械具足等ヲ取調其組限御規則案文ノ通精算帳仕立大總代ヘ差出可申事

第八製造人養蠶精粗撿査表毎戶渡置組々世話役養蠶方法敎示巡回或ハ隣組交替又ハ二組三組合併巡邏右表見留小印致シ繭出來ノ節歩方蚬質等篤ト撿査ノ上製造爲致可申事

第九タ、ゴ、アツミゴ、ミノゴ、綿繭ト唱ヘ寄合繭作リ候蠶ハ製絲ニ不相成候間右種類ヲ以テ蠶種製造人ハ生繭賣買一切不相成候事

第十蠶種製造人ハ生繭取扱候モノハ種製造一切不相成事

第十一原紙ノ儀ハ今般御定規則ノ通相心得大總代持場限リ製造員數取調原紙御賣渡相願養蠶人ヨリ其代價取立原紙可相渡尤右ニ付大總代出張幷ニ原紙運輸等入費ハ原紙員數ニ割合可申事

但御國用掃立濟ノ原紙ハ免許印紙其外全備ノ分ハ大總代持場限リ取集メ原價五割引ノ割合ヲ以テ御買上相成可申都テ前年買請候原紙ハ元代價ヲ以テ御買上被成下候ニ付其儘翌年相用候儀不相成尤モ運輸諸入費ノ儀ハ本文同樣ニ候事

第十二原紙裏面ハ御規則雛形ノ通夫々押印有之候間製造人名面押印ノ外ハ書入等致候儀不相成表面ニ候共書入候印シノ儀ハ大總代持場限可成丈同一相成候樣可致事

第十三御國用充備饒立候樣組々說諭致置製造濟即日世話役ニオイテ取調組內一名限製造御免許高何程現在出來高何程並內譯ノ總數等認分ケ大總代ヘ差出次第其持場限取纏メ八月十五日迄ニ精帳無遲延租稅寮ヘ差上可申事

第十四其年養蠶取上濟直ニ來歲每戶原種凡積入用高大總代ヨリ相觸候ハヽ世話役又ハ戶長ニ於テ組合限取調差出可申相揃次第總合精帳取調八月限租稅寮ヘ差上可申事

第十五御免許印紙ハ現在蠶種製造高各組世話役員數取調申立次第大總代持場限リ管轄廳ヘ御下ノ儀相願稅金引換上納各組世話役ヘ渡每戶ニ製造誠實ニ撿査イタシ其場ニ於テ蠶種一枚每御免許印紙ヲ爲張付世話役見留印形無遺落其際ヘ繼印致シ可申事

但御免許印紙張付際ヘ相用候世話役見留ノ儀ハ雛形ノ通リ銘々彫刻可致事

第十六御免許印紙並原紙有餘ノ分甲大總代持場ノ分乙大總代持場ヘ融通候儀一切不相成事

第十七御國用原種得意場引ト唱ヘ内金請取戸毎ヘ貸渡候仕來モ有之候處右等ノ類ハ別ヲ杜撰無之樣注意致シ誠實ニ取扱可申事

第十八蠶種ノ儀ハ大暑中運輸致間敷卵生乾涸ニ至リ御國用ハ八月下旬ヨリ賣買海外輸出ハ九月中旬ヨリ賣買可致事

第十九海外輸出ノ蠶種ハ製造人一名限其員數ヲ記載シ記名調印ノ其世話役ヲ加判セシ書面ヘ大總代改印證書相添賣買致可申且開港場ヘ出荷ノ節ハ右書面改證印共同所御改所ヘ差上可申事

但員數ノ儀ハ賣買輸出ノ都合ニ寄リ幾度ニモ相渡可申候且大總代改證書用紙ハ西ノ内六ツ切ヲ相用候事

第二十御免許印紙幷原紙共御國用海外輸出共其區別相立御國用ト見積リ候内充備シ全ク餘分有之節ハ其管轄廳ヘ申立御添翰ヲ以テ開港場御役所ヘ願出許可請可申事

第二十一蠶種不作致御國用不足ト見積リ候節ハ海外輸出ノ分トイヘドモ御國用ニ振替右御印紙願請候樣可致尤モ御國用ノ分ハ全國充備概算ノ見込不相立内ハ海外輸出ニ振替候儀不相成事

第二十二原種桑葉入費共他家ヘ手當致シ養蠶爲致候共生絲ヲ自家ヘ引取候儀ハ不相成生絲製作主ノ家ニ於テ製造名判押印致シ可申事

但其家内ニ事故アリテ自家ニテ製造難致モノハ世話役ヘ申立實地檢査ヲ請不得止儀ニ候ハヽ養蠶表ヲ以テ繭貫目歩方性合等改濟ノ上他家ヘ移シ製造爲致猶種數檢査ヲ可請事

第二十三粗斑薄附等ニテ穴明等有之候分ハ追テ補裝不相成樣其空間ヘ世話役ニ於テ證印又ハ小印等致置可申事

第二十四原紙賣捌所ノ印不揃ノ原紙ヘ製造ノ種又ハ再出夜附糊附其他御規則ニ悖リ候品ハ見掛次第取押最寄管廳ヘ可訴出事

第二十五世話役組合持場村々區別相立取締向並養蠶方法每戸懇切ニ說諭致可申若不採用ノ者有之候ハヽ其筋ヘ訴出蠶業差止可申事

第二十六世話役給額ノ儀ハ蠶種製造人一名ニ付新貨十錢宛現在出來蠶種員數一枚ニ付新貨二厘宛取立可申（但百枚ニ付二十錢也）其他書圖幷筆墨紙料等ノ諸入費ハ定額取極置組内蠶種製造人出來高ニ割合取立年々精算帳管轄廳ヘ差出可申事

第二十七養蠶會社設立條約取結長副頭取ヲ撰擧致一同連印大總代奥書ヲ以テ管轄廳ヘ廻
出可申事
第二十八大總代無之場所ハ戸長ニ於テ都テ御規則幷大總代申合書ノ趣ヲ以テ嚴重取締最
寄大總代ヘ申談同一ノ所分相成候樣致度事
第二十九大總代組下ノ世話役ヘハ此申合書ヘ承知印爲致連印ノ分租稅寮並管轄廳ヘ一冊
宛差上可申事
但世話役ノ儀ハ此申合書ヲ以テ組内毎戸養蠶人集合相運知同ヨリ承知印形取之大總
代ヘ差出可申事
右ノ通申合規則相立候上ハ銘々所轄ノ組々養蠶人共協同シ御趣意洞徹全國ノ蠶業一層際
立御國産ノ稱譽ヲ海外ニ揚候樣一統申談厚ク勸奬致追々會社廣大ニ相成候樣可致事
明治六年四月

東京府管下兼木更津縣管下
蠶種大總代　並木勘三郎
同　鯨井勘衛
同　副總代　村岡嘉平
入間縣管下
同

群馬縣管下
同　大總代　田島彌平
長野縣管下
同　副總代　田島武平
同　大總代　藤本善右衛門
福島縣管下
同　副總代　小田切辰之助
同　大總代　中村善右衛門
山梨縣管下
同　副總代　田中太次兵衛
同　大總代　若尾逸平
置賜縣管下
同　副總代　村田八郎兵衛
同　大總代　梅津利助
筑摩縣管下
同　副總代　丸山駒太郎
同　大總代　一條礎五郎
滋賀縣管下
同　副總代　青木庄兵衛
同　大總代　清水九平
岐阜縣管下兼愛知縣管下
同　大總代　宮川五平治

豐岡縣管下
新潟縣管下
印幡縣管下
神奈川縣管下
酒田縣管下
宮城縣管下
山形縣管下
埼玉縣管下
栃木縣管下
新川縣管下
京都府管下
茨木縣管下
足柄縣管下
大阪府管下

同　林田友右衛門
同　刈谷政治
同　稻葉伊右衛門
同　關山五郎右衛門
同　安藤定右衛門
同　中村東記
同　小松新平
同　川島梅坪
同　杉本源十郎
同　副總代　武部尙志
同　大總代　森本盛親
同　尾見桑三
同　山口八兵衛
同　佐具義胤

小田縣管下
宇都宮縣管下
岩手縣管下
若松縣管下
敦賀縣管下
秋田縣管下
靜岡縣管下
青森縣管下
石川縣管下
新潟縣管下
濱松縣管下
磐前縣管下
水澤縣管下
相川縣管下

同　齊藤素軒
同　副總代　小林正造
同　青木秀實
同　大總代　小林悌三郎
同　副總代　西尾茂三郎
同　大總代　川村永之助
同　副總代　高杉太一郎
同　大總代　村田六三郎
同　副總代　岡村隆桑
同　羽生吉郎平
同　大總代　河合三郎
同　後藤隆作
同　中澤千兵衛
同　鈴木半五郎

前書蠶種大總代申合規則承届候若向后此規則增減又ハ改正可致節ハ前以本省へ申出許可ノ上可致施行事

租稅頭　陸奥宗光

養蠶檢查表例言

方今盛ニ蠶種ヲ輸出スル秋ニ方リ種紙ノ精良ナルハ必ス良繭ノ化蛾ハ必ス良卵ヲ胎產スルニ期セリ其良卵ヲ產セシムルニハ其親蠶ヲ懇養セスンハ有ヘカラス依テ產卵ノ掃立ヨリ蛾化生卵ノ終ニ至ル迄熟檢篤查ノ條例ヲ設立シ毫モ粗漏過誤ナカラシメンガ爲記標ヲ印書シ表面ノ等位ニ其實ヲ記載セシムル事ハ養蠶各家ノ蠶事ニ傾念注意シテ自ラ粗惡僞贋ノ根本ヲ掃除スルノ深意ヨリ布告スルナレハ養蠶各家悉ク舊習偏固ノ私欲ヲ捨テ官シク下條ヲ熟讀シテ規戒ヲ施シ蠶業ノ損失ヲ招クニ至ラサランコヲ要望スル所ナリ

（檢查表ハ畧ス）

第一　日記

此區ヘハ立春ヨリ八十八夜前後ノ節蠶掃立始ヨリ何月何日ト順記スヘシ

第二　晴雨

此區ヘハ蠶掃始ヨリ繭ヲ成シ終ルマテ晴雨日々記載スヘシ

第三　寒暖

此區ヘハ寒暖計ニテ朝六時晝十二時夕六時一日ニ三度宛記ス寒暖計ナキ家ニテハ不時ノ寒暑而已記スモ不可ナラズト雖モ信實其日ノ刻每ニ記スヘシ

第四　養桑度

此區ヘハ喰桑ヲ與ヘシ度數ヲ記スヘシ

第五　傭夫員

此區ヘハ蠶事ノ爲メ傭入ノ人員幾日幾人又幾人ト記スヘシ

第六　蠶掃立ヨリ四眠迄ノ虫ノ分量

此區ヘハ多養少養トナク原種各異ニテ日誌ニハ記シ難キ煩ヒアレハ掃立ノ枚數幾籠幾蔟坐ト其他ノ風俗ニ譯リ易ク記スヘシ又初眠ノ籠數或ハ蔟坐ナト合セテ幾坪幾枚トカ記スヘシ二眠モ亦同シ三眠ニ至リテハ蠶稍々肥大ニナリ調算シ易クナレハ何ノ幾番ノ幾虫ト蠶ノ數ヲ調ヘ算ヘ總數幾虫ト虫ノ數ヲ一目判然タル樣ニ記スヘシ時宜ニヨリ三眠迄ハ虫數ヲ記シ難キ家ニハ記セサルモ苦シカラス四眠ニナリテハ滿厦ニ蠶器ヲ擴充シ養フ時ナ

レハ如何ニモ叮嚀ニ何ノ口ノ一番幾虫二番三番又同シク何程口々總數幾萬虫ト明細ニ觀易ク記スヘシ

第七　桑ノ分量

此區ヘハ蠶掃立初ヨリ初眠迄用桑幾貫目トカ幾束トカ記スヘシ或ハ大凡ノ數ヲ記スルモ妨ナシ二眠モ亦同シ三眠ヨリ后ハ別シテ桑ノ精粗ニヨリテ蚕ノ歩方ニ關スルモノナレハ何ノ地ノ桑ヲ幾貫或ハ幾束ト養ヒシ桑ノ總數ヲ記スヘシ又買入モ必ス其賣桑ノ地名ヲ記シ何ノ村ヨリ幾束何ノ坪ヨリ幾貫ト記スヘシ四眠起ニヨリテハ桑ノ給與ニナリテ蠶卵ノ精粗ヲ定ムル時ナレハ用桑ノ美惡ヲ審ニ記スヘシ

表末

第一　養蠶器械

此罫ヘハ其地方ニヨリ其家々ノ器械幾籠幾蓁坐トカ幾枚トカ都テ枚數ヲ記スヘシ

第二　簇

此罫ヘハ上信ニテ「まぶし」奥羽ニテハ「ゑびら」ト稱呼ヲ異ニスト雖モ蠶ヲ宿セシ籠カ又ハ「ゑびら」ニテモ幾枚幾「まぶし」ト總數ヲ記スヘシ

第三　繭

此罫ヘハ繭幾口ニテモ何ノ口幾斗幾升ト記スヘシ是ハ地方ニヨリ山「ばかり」水「ばかり」六寸「のり」ナド唱ヘアレハ其地方ノ俚俗ニヨリテ總數ヲ記スヘシ

第四　繭

此罫ヘハ「まぶし」ヨリ繭ヲ掻取リシ后十日前后迄ニ何ノ口幾貫何々幾目ト改メタルニ數ヲ記スヘシ

第五　蛾歩方

此罫ヘハ蠶ヲ宿セシ日ヨリ十一二日目乃至十四五日目迄ニ世話役廻村ノ節何ノ口幾歩何ノ口幾歩ト都テ世話役撿査ノ上正實ニ記スヘシ然レモ世話役其期ニ後ル、事アラハ其組内ノ養蠶社中正實ノモノ或ハ村戸長ヲ立會シ撿査ノ上眞實ヲ記スヘシ

第六　種紙員數

此罫ヘハ原種出來ノ員數世話役ニテ撿査相濟候上記スベシ

但撿査表ハ製造人一名ヘ二部宛渡置改濟ノ上世話役ヨリ大總代ヘ取纏明細帳ヲ以テ租稅寮ヘ差上撿査ヲ請可申事

右檢查第表並表末野書ノ簡條彼是照準取調候ヘハ過當ノ種紙僞製ノ取締モ行屆可申候得共若心得違ノ者不都合ノ種紙製造候節ハ其縣廳ヘ申立ノ上蠶種製造相止メ申可事

國々　蠶種大總代

是月又大藏省ハ府縣ヘ布告シテ生絲取締規則中土地ノ狀況ヲ斟酌シ中結印紙寸法ヲ左ノ如ク改メタリ

本年第百三十五號ヲ以テ布告相成候生絲取締規則追加中鐵砲造用中結印紙雛形寸法長九寸分二ト有之候處其土地ノ仕來リニ依リ右寸法ニテハ卷不足相成候ヤモ難斗候間長一尺一寸程ノ卷紙可相渡候條其段相心得尤モ巨方ノ儀ハ取締ニモ關係致シ候儀ニ付規則面ノ通一把目方三百目ヲ限リ候儀ト可相心得此段申達候事

五月是ヨリ先山梨縣權令藤村紫朗稟申シテ曰ク本縣古來蠶業國ヲ以テ奥羽上信ニ比シ決シテ讓ラサルノ產地ナリ然ルニ近年製絲ノ業稍々粗惡ニ流レ加フルニ管內巨摩郡ノ如キハ未タ全ク蠶桑ノ業盛大ナラス宜シク之ヲ奬勵催誘シテ益々國產ノ增殖ヲ夙メサル可ラズトノ思諒ス請客年十月政府ニ於テ決定スル租稅ノ舊收額ト改正增額ノ間金ヲ以テ管內巨摩郡ノ荒蕪地ヲ開拓シ窮民ヲ移シ甲府山田町名取產兵衛ガ多年辛酸ノ末親規發明ニ係ル製絲器械ヲ購入シテ該地ニ製絲ノ業ヲ起シ桑其他ノ菓樹ヲ人民ニ頒與スルノ要資ニ宛テント是月太藏省ハ之ヲ許可セリ

名取彥兵衛發明ノ製絲器械ハ本邦唯一ノ器械ニシテ彥兵衛カ之ヲ發明スル一朝一夕ノ事ニアラズ彥兵衛ハ又タ雅樹ト云フ甲府山田町ノ紙商ナリシカ夙ニ蠶絲ノ國益ヲ成スヲ知リツヽアリシニ偶々本邦生絲ノ製造其宜シキニ叶ハサルハ必ラス製絲器械ノ完全ナラザル事ヲ悟リ製絲ノ改良ニ專ラ心ヲ碎ケリ

明治元年從來ノ紙商ヲ廢シテ製絲改良ノ事ヲ專神勉メツヽアリ元來製絲器械ハシヤボン式トケンヂル式ノ二樣アリテケンヂル式ハ繰絲量目ヲ減セサルヲ以テシヤボン式ニ比スレバ便利ナリトス彥兵衛明治四年東京勸工寮ノ製絲器械ヲ摸造シタレモ未タ完全ナラザル所アルヲ以テ尙ホ是ニ改良ヲ加ヘ伊太利佛蘭西紡絲ノ折衷法ヲ以テ始メテケンヂル式ノ揚枠器械ヲ作リ名ツケテ名取器械ト稱シ三十人繰ノ工場ヲ設立シ勉メテ良製絲ヲ造ラントスルモ當時工女ノ技術拙ク器械モ未タ完全ナラザル所アリシヲ以テ紡絲ノ生絲ハ精良ナラズ爲ニ多クノ財產ヲ投シ殆ンド家產ヲ倒サントスルニ至ル親戚ハ迫ツテ之ガ不利ヲ唱ヘ家人ハ將來ヲ憂ヘテ之ヲ諫メ世人ハ謗議至ラサルナク甚シキハ名取ノ鈍愚ト迄評

シ合フタリ

然レ𪜈彦兵衛此機ニ際會シ撓ムナク自來製絲器械改良ヲ以テ己レガ任務ト爲シ寐食ヲ忘レテ毫モ挫折セス經營研究怠ラサリシカバ遂ニ大ニ得ル所アリ明治五年則チ本年始メテ紡絲改良ノ實効ヲ奏シ玆ニ始メテ外人ノ信用ヲ得ルニ至ル是レ本邦製絲器械發明ノ權輿ニシテ是レヨリ當時世人ガ曩キニ彦兵衛ヲ誹リタルヲ悔ヒ縣令モ大ニ之レヲ嘉シ同人製造ノ新式器械ヲ以テ該縣ノ生絲改良ニ着手セント屢々詮議ヲ要シ遂ニ決スル所アリ即チ之ヲ縣ノ事業トナシ該製絲場ヲ創始スルニ至ル

是月大藏省ハ生絲濫製矯正ノ爲メ改會社設立ノ件ニ關シ左ノ如ク府縣開港場ヘ布告シテ之レガ設立ヲ促ガス

生絲製造ノ儀頻年詐僞濫製ノ流弊不少御國損ヲ招聲譽ヲ消却致シ不相濟事ニ付弊習矯正ノ爲本年第三十二號生絲取締規則公布相來六月一日ヨリ實際施行之筈ニ有之其後當省第十一號ヲ以テ橫濱製絲改會社規則相添ヘ各地方便宜ノ地同樣改會社設立ノ儀相達候趣モ有之候處未タ何等ノ申立モ無之向有之右ハ既ニ期日切迫致シ候從テ賣買營業ノ滯碍可相成儀ニ付管下營業ノ者共ヘ篤ト申諭橫濱社則ニ照準シ結社ノ方法取締規則取調早々伺出

候樣可致此段相達候事

同月橫濱賣込商三十五名結合シテ同地辨天通六丁目ニ生絲改會社ヲ創立ス（後本町六丁目八十五番地ニ會社及倉庫ヲ設立ス）是レ六年一月太政官第三十二號ヲ以テ生絲取締規則ヲ公布シ次テ大藏省ヨリ生絲及繭綿印紙賣買規則ヲ發布スルニ當リ其旨趣ヲ遵奉シテ本邦ノ產出地方ニ生絲改會社ヲ設立スルニ至ル橫濱ニ於テハ同地三越得右工門原善三郎茂木惣兵衛上原四郎左工門金子平兵衛ノ五名官撰ヲ以テ社長ニ手塚清五郎鈴木保兵衛吉田幸兵衛田中平八四名ヲ副社長ニ當撰シ瑞西國人モチイヲ雇聘シテ撿查掛トナシ其他助手會計庶務等若干ヲ雇使シ手代水揚等二十余名ニ及ブ

曩キニ山梨縣生絲濫製ノ弊ヲ矯正センガ爲メ同地ニ摸範製絲場ヲ設立シ其建築費豫算金二千五百圓ノ公借ヲ租稅頭陸奥宗克ニ稟議シ是月之ヲ許サル即チ前ニ云フ名取彦兵衛發明ノ新式製絲器械ニシテ地ヲ甲府錦町ニトシ彦兵衛ヲ擧ゲテ其工事ニ任セシム是レ後年ニ至リ山梨縣勸業製絲場ト云フ

同月大藏省ハ本邦生絲繰絲ニ附テハ各改良ノ基礎ヲ企テタリト雖モ未タ生繭ノ蒸殺方法ニ付テハ普ク不完全ヲ免カレサルヲ憂ヒ告諭書ヲ頒布シテ府縣ノ當業者ニ知ラシム

別紙ノ通製絲蒸繭ノ方法告諭書相渡候條各府縣管内へ頒布可致候此段相達候事

（別紙）

蒸絲方法告諭書

夫レ生絲ハ御國産ノ第一ニシテ其利潤モ世ノ普ク知ル所ナリ然ルニ近年製シ方麁末ニ流レ隨テ品位相劣リ遂ニ名品ノ聲價ヲ失ヒ國家ノ洪利ヲ減損シ商賈或ハ破産ニ至ルハ豈慨歎ニ堪エサランヤ因テ其業ニ從事スル者ノ爲ニ今政府既ニ外國製ノ器械購入シ上州富岡ノ製絲場ヲ建築シ佛人「ブリユナ氏」始メ外國人男女數人ヲ雇入レ其教授ヲ受ケ製絲試驗セシニ良好ノ絲ヲ製造シタリ其繰絲法最緊要ナル處ハ蒸繭ノ良法ニアリコレハ從來御國内ニ於テ繭ヲ太陽ニ晒シ其暖氣ヲ以テ乾シ殺スハ是特ニ「ぺらん」（絲口ノ事）ノ性ヲ變シ其光澤ヲ失フノミナラス暖度不足ナルヲ以テ蛹速ニ死セスシテ蛾或ハ蛆ノ化出スル患尠カラズ今歐羅巴ノ器械ヲ用ウルニ於テハ斯ノ如キ不便ナシ晴雨ニ拘ラス多數ノ繭ヲ一度ニ蒸殺スル事ヲ得コレ其方法容易ニシテ其功用大ナルモノト謂フベシ依テ其方法概略ヲ左ニ示ス夫レ繭ハ都テ新鮮ナルヲ撰ミ（即チ絲ヲ吐キ始ル日ヨリ十日ヲ經テ未タ日光ニ晒サザルモノヲ云）之ヲ屋根アル塲所ニ入レ置キ最密ニ點檢シ量目ヲ掛ケ先ツ大ナル釜

ニ熱湯ヲ沸シ側ニ圖ノ如キ戸棚用ノ大ナル箱（箱ハ成ル丈ケ氣ノモレヌヤウ緻密ニ製造スベシ）ヲ置キ中ニ棚ヲ十段設ケ籃二十ヲ一籃ニ入ル、所ノ繭五斗合セテ一石ナリ其箱ノ戸ヲ密閉シ箱ノ底並ニ釜ノ蓋ニ小孔ヲ穿チ竹筒ヲ曲折シテコレヲ通シ以テ沸騰ノ蒸氣ヲ箱ノ中ニ入レ孔ノ上ヘ圖ノ如キ笠樣ノモノヲ覆ヒ蒸氣ヲ其ケ其水氣ヲハ滴下セシメ熱氣ヲ留メテ繭ヲ蒸シ蛹死スルヲ度トス（蒸シ加減ニヨリ中タヒ籃ヲ上下サシ替ルモヨロシ）此熱度大寒百四十度ナリ然ル後蒸籃ヲ引出シ繭ヲ入レシマヽ重チテ置キ布團或ハフランケツトノ數ヲ覆ヒ暫時温氣ヲ計リ風氣開通スル所ニ置キ速カニ乾ヲ要ス爾后季秋ニ至ルマテ日々攪散シ死蛹腐敗シテ繭ヲ損スルヲ防クベシ因テ器械ノ略圖ヲ添ヘテ製絲家ノ爲ニ其大概ヲ述ブ尚詳知セント欲スルモノハ富岡製糸場ニ就テ實地經驗スヘシ依テ告諭ニ及フモノ也

五月二十五日

大藏省

同月熊谷縣令河瀨秀治速水堅曹等前橋ニ相會シテ同縣勢多郡水沼村ニ製絲所新築ノ議ヲ與セリ

因ニ曰ク群馬縣ヲ廢シテ上武兩國ノ一部ヲ合シテ熊谷縣ヲ置カレタルヲ以テ元群馬縣令

ト云シ河瀬秀治即チ熊谷縣令トナル

六月横濱生絲改會社開業シテ生絲及附屬屑物ノ撿査ヲ爲ス其方法先ツ絲荷ハ解放シ地方改ノ再撿査ヲ精密ニナシ粗ナルモノハ悉ク除去セシム當時奥羽地方ハ折返シ及鉄砲造其他ハ概ネ提絲等ナリ

同月東京築地古川市兵衛ハ製絲器械ヲ取毀チ之ヲ小野組ニ任シ信濃國及各所ニ移ス是レ信濃ニ新式器械ヲ設置スルノ嚆矢トス而シテ該地ノ製絲工女ハ凡テ之ヲ岩代國二本松城趾ノ製絲場ニ移ス

傳フ古川市兵工新式製絲器械ヲ設置スルヤ奥州三春ノ人阿蘇周平專ラ之ヲ担當シ能ク盡力スル所アリシト雖モ如何セン收支宜シキニ適ハス故ヲ以テ之ヲ廢業スルニ至ル

是月大藏省ハ生絲改會社設立ニ際シ地方ノ者ノ便宜ヲ計リ左ノ如ク府縣ヘ布告シ又明年蠶卵種内外用調査ノ件及ヒ無鑑札ノ者生絲賣買トモ御規則ノ通相心得印紙請取ノ上會社ヘ下ケ渡會社ニ所アリタリ

生絲取締ノ儀ニ付本年第三十二號公布ノ趣モ有之開港場ハ勿論各地ニ於テモ夫々改會社設立ノ場合ニ難

於テ製絲人共ヘ賣渡可申筈ノ處地方ニ寄營業ノモノ僅少ニシテ目今會社設立ノ場合ニ難運生絲結印紙類並賣買鑑札等下渡方及ヒ改受方等差支候向モ可有之右等ノ地方ハ素ヨリ他管下タリトモ其辨利ニ從ヒ最寄ノ會社ヘ組入候筈ニ付營業人共ヘ申諭製絲取締ノ御趣意洞徹候樣可取計此段相達候事

蠶種紙ノ儀ハ國内充備不致候テハ不相成旨兼テ布達ノ通候處本年國内凡積僅ニ六十萬枚ニ不過明年ノ供用欠乏可致者顯然ニ付相當ノ割合相立原紙相渡候條現在製種出來ノ上仕譯書大總代共ヨリ爲差出内外用凡積員數照合調査ノ上原紙渡方可取計尤モ大總代無之地方ハ戸長副等ニテ取扱候儀與可相心得候此段相達候事

本年第四十號當省布達生絲賣買鑑札ノ儀ハ其土地ノ摸樣ニ寄取結ヒタル生絲改會社ニ於テ六月一日ヨリ印紙賣捌並ニ製絲改方致シ候手續ニテ右社中ノ者ヘ鑑札下渡候儀ニ付同日以後者無鑑札ニテ生絲賣買等致シ候者ハ曾テ無之筈ニ候ヘトモ若心違ノ者有之候而者不相濟儀ニ付尚管内ヘ普達可致置候此段更ニ相達候事

又曰同月畏クモ　皇太后皇后兩陛下租税寮所管ノ上野國富岡製絲場ニ行啓賜ヒ親シク生絲紡繰ノ樣御覽ヲ賜フ

時ニ同所養蠶家佐藤國太郎自家飼育ノ黄白二様ノ蠶繭ヲ陛下ニ奉献ス供奉某公ニ叡旨ヲ傳ヘ賜ヒ何ノ種名ナルヤヲ下聞アラセラル國太郎感泣跪テ奉答ス黄色ナルモノ之ヲ金龍ト云ヒ白色ナルモノ之ヲ鬼縮ナリト云フ此時　陛下龍顔麗シク二種ノ蠶繭ヲ　御嘉納賜ヒ國太郎ニ金二千疋ヲ賜フテ之ヲ賞ス

因ニ曰ク富岡製絲場ハ明治四年八月二十三日大藏省中勸農寮ノ所管トナリタルヨリ以來同寮ガ專ラ之ヲ所寮シタル者ナレ𪜈明治五年十月九日勸農寮ヲ廢シ其事務ヲ租稅寮ニ移シ十月租稅寮中ニ勸農課ヲ置キ尋テ勸農課ヲ改メテ勸業課ト稱ス六年一月ニ至ツテ租稅寮附屬勸業課中生絲取締印紙鑑札富岡製絲場堺製絲場凡テ該課ニ各掛部ヲ設ケタリ

是月福島縣岩代國二本松城趾製絲所新築工事ヲ終ヘ社則定約竝ニ定マリ師婦ヲ上野國信濃等ヨリ雇集シ工女ヲ管內ヨリ招集シ開業ス租稅寮ニ於テハ又城趾樹木ノ拂下ヲ許可セリ是ヨリ先キ是年三月福島縣爲替方小野市兵衛及二本松ノ商安齊宇兵衛等縣令安場保和ノ意ヲ承ケ大ニ同地製絲ノ舊習ヲ改メントシ先ツ人ヲシテ上野ノ富岡其他製絲場ノ景況ヲ順覽セシメ遂ニ同月ヲ以テ二本松ニ於テ試驗ヲ行ヒ丹羽氏ノ城趾ハ水利便ニ材木饒ク恰好ノ地位ナルヲ以テ四月借地ヲ縣令ニ請ヒ榛莽ヲ開キ窪地ヲ夷ケ以テ是月竣工スルニ至レリ

同月長野縣信濃國小縣郡鹽尻村均業社起ル蠶種改良ヲ以テ目的トシタル者ニシテ佐藤八郎右衛門藤本善右衛門清水銀右衛門馬場又八小岩井茂三郎等外數名ノ創立スル所是月長野縣ノ許可ヲ得テ業ヲ創ム

横濱開港以來本邦蠶種ヲ輸出スルニ當リ鹽尻村ノ蠶種家五六名（前記ノ人々）一ノ國体ヲ作リテ妙紗連ト稱シ專ラ輸出ヲ計リツヽアリシニ粗製濫造ノ品物市場ニ堆積シテ常ニ本邦蠶種ノ名聲ヲ失墜スルヿ擧ゲテ數フ可カラス妙紗連ノ仲間中一ハ自身ニ警戒スル所有リト雖𪜈市場ノ慘狀ヲ憂ヒ專ラ之レガ改良ヲ計リ此弊風ヲ矯正セント同盟者ノ總代トシテ藤本善右衛門ヲ橫濱ニ出張セシメ外國商人伊太利亞人フハツケヲ始メ諸商ト特約シテ取引ヲ爲シ來リシニ決シテ粗製ヲ以テ一時ヲ貪ラス濫造ヲ以テ奇利ヲ欲セサルヨリ忽チ信用ヲ博シ當時何レノ蠶種モ取引ノ際出荷ノ全体ヲ檢査シ一番二番三番等ノ區別ヲ立而シテ其取引ノ契約ヲ決定スルニモ不拘妙紗連ノ蠶種ニ限リ拜見檢査スルヿナシノ賣買ヲ決行スルニ至レリ

元來外人ガ蠶種其他ノ者ヲ賣買スルニ當ツテ拜見トテ檢査スルハ往々其見本ト相違アルガ故嚴重ニ檢査ヲ行フノ慣例トナリタルナリ然ルニ妙紗連ノ蠶種ニ斯ル信用ヲ得タルハ

頗ル出荷者其者品質精撰ヲ極メタルモノト云ハスンバアル可ラス宜ナル哉當時ノ商人舌ヲ捲イテ驚キ妙妙連ノ聲價益々市場ニ轟キタルヨリ以來他商人ノ蠶種ヲ製造スルモノ之ニ加盟ヲ申込ム頻々タリトモ容易ニ之レガ加入ヲ許サス僅々數名ヲ以テ之ヲ持續シ明治六年ニ至ル偶々蠶種製造取締規則ノ發布アルニ際シ會社ノ組織ニ改メ社則ヲ規定シ均業社ト稱シ六月長野縣廳ニ請ヒテ許可ヲ得テ茲ニ業ヲ創ムルコトナリタルナリ

均業會社定則

田園有テ耕サヽレバ倉庫虛シ養蠶ノ良法アレ共勉メサレハ一家ヲ利スル事不能故ニ廣ク衆力ヲ協合シ可否ヲ討論シ造化ノ妙理ヲ得產殖ノ公利ヲ起サント欲シテ茲ニ會社ヲ結ヒ男女業ヲ均クシ內外交モ勉勵シテ養蠶一層盛大ナラシメ生絲蠶卵品位正格良好精選大ニ國家ノ幸福ヲ謀ランタメ同志ノ者會同協議左ノ條々ヲ確定セリ

第一條

此會社ノ名號ハ均業會社ト稱シ蠶事一切ノ事業ヲ執リ行ヲ以テ本旨トス

第二條

此會社ハ豫メ三年ヲ以テ結社ノ期トス然ル滿期ニ至リ社中一同更ニ延期ヲ望ハ又年限ヲ

以テ官ノ許可ヲ受ケ永續スヘシ

第三條

會議ハ每年一月十三日ヲ定日トシ闕廷ナク會同シ長副及其他ノ役員ヲ選擧シ其年ノ精業ヲ議論シ其衆宜ヲ採用スヘシ

第四條

會社ノ庶務ハ當分假ニ社長ノ宅又ハ社中某ノ家ヲ以テ其事務ヲ取扱トモ社中ノ便宜ニ從フ可シ

第五條

社中ノ聚議ハ其人ニ由ラス又役員ノ階級ヲ論セス眞ニ公明正大ヲ宗トシ三分二以上ノ衆說ヲ採リ決評スヘシ

第六條

社務役員ル社中ノ會議ニヨリ入札法ヲ以テ評議役五六名ヲ選擧シ其撰ニ入ル者又互ニ公選シテ名一長副二名拔擢スヘシ

第七條

養蠶ノ業ニ通シ兼テ商賈交易ノ機ニ達シ言論審詳ニシテ應接凝滯ナキ者ヲ選ミ社長トシ温篤持重ニシテ衆群ヲ和輯スル者ヲ選ミ副トシテ又前兩品ニ准スル者ヲ擢シテ毎區ノ長（即チ世話役）トシ社中ヲ總括ス

第八條

長副及其他役員ハ都テ一ヶ年勤事シ其職務ヲ免シ更ニ社中ノ公選ヲ以テ後任ヲ薦擧スヘシ尤社中ノ囑望アル者ハ勤續スルモ妨ナカルヘシ

但書記計算世話役等ノ人員ハ會社事務ノ繁閑ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第九條

長副及評議役ハ會社ノ都合ヲ謀リ書記計算世話役等ヲ選任スルノ權アルヘシ

第十條

長副及評議役ハ會社事務ノ可否ヲ謀リ至當ノ方法ヲ設ケ書記計算方ノ事務ヲ分配シ各區ノ世話役ノ處務ヲ指令スル等ノ權アルベシ尤其規則方法ヲ設立スルニハ須ク此定則ニ抵觸セサル樣注意スベシ

第十一條

社入ノ戸竈增加セシ時ハ便宜ヲ謀リ五六名乃至十名ヲ限リ番號ヲ定メ之ヲ區分シ每區世話役一名ヲ選任スベシ且其分區番號定則ノ議ハ別ニ連署簿冊ニ記載シ社內ニ藏スベシ

第十二條

社中ノ者轉業又ハ他ヘ移住ノ外私ノ都合ヲ以テ年限中社中ヲ脫スル者ハ相當ノ出金致スベシ

第十三條

社中役員ノ給料ハ衆議ニヨリ之ヲ定メ其支給ノ儀ハ長副ノ考案其宜ニ就テ處置スヘシ

第十四條

會社ノ費用ハ勉テ省嗇ヲ旨トシ節約ヲ以テ之ヲ行フヘシ社中ノ集議ハ勿論臨時ノ集トモ飲酒放言遊樂等ノ事ヲ嚴禁シ各自行厨ヲ携ヘ唯薪炭茶筆紙墨而已會社ノ費用トスヘシ若シ犯ス者アラハ速ニ社中ヲ除キ其科ニ從テ相當ノ罰アルヘシ

第十五條

總テ社中ノ衆議ヲ要スル件々ハ社中三分二以上同論ニ從テ是ヲ決定スヘシ若シ會議ニ當テ自身出席シ難キ者ハ同社ノ者ニ名代ヲ托スルヲ得ヘシ

附言自身出席セス又名代ヲ托セスシテ決議ノ後其事ヲ可否論辨シ或ハ出席スルトモ默シテ其說ヲ吐ス決議ノ後之ヲ異議スベカラズ

第十六條

總テ社中ノ者此定則ノ趣旨ヲ背キ又ハ申合規則ニ遵ハサル事アラハ長副及評議役其科ニ從テ相當ノ過料ヲ差出サシメ社中ヲ除クベシ

第十七條

若又長副議役ノ內ニテ此定則ニ悖リ私ノ所爲有ルカ又ハ申合規則ノ事務ヲ怠ルカ又ハ之ニ悖ル者アルヲ看過スル等ノ事アラハ社中三分二以上ノ衆議ニ從テ之ヲ糺正督責シ又ハ其次第ニ依テ相當ノ罰ヲ納メテ後任ヲ選擧スヘシ

第十八條

社中ノ者此定則ニ背キ奸僞ノ所爲アルヲ偵知セシ者ハ直ニ其由ヲ長副又評議役ニ告達スヘシ若シ覆ヒ隱シ後日發覺スル時ハ其看過セシ者モ同樣ノ罰アルベシ

第十九條

万一長副社中ノ者ト紛爭ヲ生シ評議役其他ノ者ニテ之ヲ理解シテ判定スル事能ハサル時ハ社外ニ就テ取扱人兩名以上ヲ選ミ其說ニ從テ其紛議ヲ結了スヘシ若シ其取扱人之ヲ結了スル能ハサレハ其次第ヲ詳記シテ官裁ヲ仰キ此定則ト申合規則トニ依テ公正ノ決判ヲ受クヘシ

第二十條

會社ノ諸簿冊記載ノ方法文書ノ体裁及入費計算出納ノ規則等ハ都テ長副評議役ノ考案ニ從テ之ヲ定メ常ニ其式ヲ一ニシテ緊要ノ件々ハ長副及其取扱シ者撿印シテ後證ニ供ヘスシ

但尋常往答ノ文書ハ勿論社名ヲ以テ之ヲ行フベシ

第二十一條

會社印ヲ製造シ往復文書ニ會社ノ名ヲ用ユル事アレハ必社印ヲ捺スヘシ尤公帳又ハ契約等ノ書面ニハ長副及其事ニ關スル者ノ實印ヲモ加フヘシ

第二十二條

左ニ載スル如キ二箇ノ印ヲ以テ卵紙ニ押捺シ自製ト買入トノ別ヲ正スベシ

信濃
小縣郡
上鹽尻村
均業會社

曲尺堅一寸
幅六分

但謠造印ノ外ニ押印之事

第二十三條

金銀之取扱ニ於テハ最モ長副之ヲ注意シテ嚴肅ノ制ヲ設ケ社中ノ共信ヲ徵スヘシ納簿冊又ハ金銀受讓渡ノ書類ハ必ス其取扱シ者ノ撿印ヘ長副承認ノ印ヲ加ヒ置ヘシ

第二十四條

此定則ハ社中ノ衆議ニ依テ何時ニテモ之ヲ改正スル事ヲ得ヘシ尤其改正條則ハ官ノ許可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

第二十五條

此現則ハ之ヲ二通認メ一通ハ官ノ御撿查ヲ請ケ正ニ之ヲ會社ニ藏メ一通ハ奉呈シテ他日ノ保證ニ供シ置事

均業會社
買入品撿印

曲尺堅六分
幅四分

右之條々確候ノ證據トシテ各姓名ヲ記載シ調印致致也

明治六年四月

小縣郡上鹽尻村蠶種製造人

藤本產三
馬場藤四郎
馬場彌平次
濟水助五良
清水長左衛門
清水銀右衛門
清水金左衛門
佐藤次郎兵衛
原要右衛門
高遠末次郎
高遠喜代五郎

均業會社申合書

此ニ均業會社ヲ培ヒ生產蕃殖ノ方法ヲ設ケ同社申合スル第一ハ同心協力シ蠶種生絲ノ營業益盛大ナラ令ムルノ基本ヲ立ルヲ以テ目的トス其事ヲ謀ランニハ必ス正路ヲ以テセサレハ長久盛業ナル能ハス又人ヲ利スルニ非サレハ己ヲ利スル事能ハス故ニ種ヲ製シ絲ヲ製シテハ養蠶家ノ丹情辛苦ヲ相象シ深ク各自ノ便利ヲ慮リ必ス目睫ノ小利ニ走ラス勤勞

佐藤園右衛門
馬場伴右衛門
馬場源藏　計算書記兼
清水久左衛門　評議役
小岩井文次郎　同
山崎五郎右衛門　同
小岩井茂三郎　同
馬場又八　社副
佐藤八郎右衛門　社長

勉シテ以テ天與ノ洪福ヲ仰クヘシ

第一條

桑田法養ハ養蠶家ノ要領各自心ヲ用ヒサル可ラス若シ社中疾病又ハ非常ノ事故アリ其時ヲ失スルニ至ル者ハ互ニ相助ケ失產ニ至ラサル樣ニ誠情ヲ盡スヘキ事

第二條

公平實議ノ上長副ノ指令スル件會社參分二以上之ヲ宜トセハ更ニ違背スヘカラス若シ違用セサル者アラハ規則ニ照準シ相當ノ罰アル可シ

第三條

社中蠶種ノ數ト桑葉ノ數トノ分量ヲ初メ寒暖氣候ノ順逆ヨリ一切ノ養方卵紙製造ニ至ル迄各長ノ指令ヲ遵用シ一樣品位ノ卵紙ヲ製造スルヲ要ス然リト雖各自日新講究シ發明スル事アラハ各長ニ申告シ得失當否衆決ノ上施行スル事アルヘシ

第四條

自養ノ蠶種ハ每戶舊例アリト雖自己ノ分量ヲ考案シ其枚數ノ高ヲ其年七社長ヘ告達シ社長之ヲ簿冊ニ記載シ翌年二月長副其他ノ役員ノ多少等ヲ計察シ若シ分量ニ過ルト察スル

時ハ之ヲ戒告セシム事アルヘシ

第五條

若シ社中不測ノ變ヲ生シ前定ノ分量ヨリ減却シ失産ノ憂ニ及フ者ハ本人ノ望ニ依リ一同盡力シ定數ニ滿シム可シ桑葉不足ノ節モ同斷タル可キ事

第六條

養蠶種ハ白繭黃繭又ハ巢凡大小等從前ノ養結アリト云ヒ尙社中精選ヲ加其全美ノ良風ヲ同一ニ掃立可申事

第七條

蠶室ノ結搆及器具一切ノ製作用方ヲ辨知シ其多數ヲ點檢シ若シ備具セサル者アラハ速ニ新調スヘシ

第八條

長副其他役員ノ者養蠶方法掃立毛子ノ生育ヨリ四度ノ休起揚ケ際ノ手當生繭手置等時々見廻ノ事

第九條

成繭ノ日各長巡邏シテナキノ強弱ヲ檢査シ以テ卵紙ト製絲ノ差別ヲ定ムル事

第十條

卵紙出來ノ上一同集會品位三等ヲ別序シ捺印可致事

第十一條

卵紙賣出方ハ我地方ハ勿論他邦ト雖モ不正ノ品賣置決テ致ス可ラス若シ目下ノ小利ニ趨リ竊ニ不正ノ品賣敗ナシ會社ノ名號ヲ汚ス者アラバ好僞ノ所爲ニ付過怠料ヲ命シ速ニ社中ヲ除クヘシ

第十二條

御國用並自家ノ卵種充備ノ贏餘ヲ以テ海外ヘ輸出スル卵紙ハ橫濱港問屋二三家取極置分輸シ社中人選一家ヘ一人宛惣代トシテ出張日々聲息相通シ機會ヲ失ハサルヲ要ス若シ價直ノ低昂其他不測ノ事機臨時航海等ノ節ハ飛報ヲ以テ社中ヘ談判決議ノ上進退スヘキ事

但卵紙ノ多寡ニ依リテ惣テ代人出張增減アルヘシ

第拾三條

會議ハ長副ノ宅輪番トシテ橫濱橫濱出張惣代ヘハ日當金貳朱ヲ給ス其他御定步合金商舘

入用問屋口錢止宿料荷物運賃臨時諸用其條理ニ依テ差出スヘキ金ハ其賣上高ニ應シ各自出金スヘキ事

第拾四條

賣上金ハ取引濟問屋目錄書相添之ヲ受取リ諸費仕拂諸向請取證書ヲ取束ヲ速ニ歸村致シ即日聚會分配會計ヲ定ムル事

第十五條

會社積金ノ方法ハ他日衆議ノ上決定スヘキ事

第拾六條

社中ハ素ヨリ親睦協和ヲ旨トシ疎薄隔意アル可ラス若營業ニ付其用備七分ニシテ三分不足スル者所戶長副等與印ノ證書ヲ以テ申立ノ節ハ其品引當其年何月限リ金子貸渡可申返辨ノ節ハ元金ヘ二割ノ利金ヲ添返却可致事

右申合之條々一同確リ相守リ毛頭違犯不可致若相背ク者於有之速ニ官廳ヘ訴御所置可奉願依之連名調印如左

小縣郡上塩尻村

明治六年四月

製造種人

藤本產三
馬場藤四郎
馬場彌平次
清水助五良
清水長左衛門
清水銀右衛門
清水金左衛門
佐藤次郎兵衛
原要右衛門
高遠末次郎
高遠喜代五郎
佐藤園右衛門
馬場伴右衛門

右會社取結社中ノ定則ヲ以テ良好ノ精繭蕃殖相成候條申合書等確定致シ調印ノ上申出候ニ付書面奉差上候間御仁恤ノ御保護ニテ蠶家益勉強ヲ生シ製種盛大ニ相成候樣蒙御免許度奉願上候也

明治六年六月

長野縣權令立木兼善殿

蠶種大總代小縣郡上鹽尻村

藤本善右衛門

計算書記兼　清水久左衛門
評議役　小岩井文次郎
同　山崎五郎右衛門
同　小岩井茂三郎
社副　馬場又八
社長　佐藤八郎右衛門

前書均業會社願之通リ聞届候條後來右規則中改正亦ハ追補等ヲ要スル節ハ其都度申立候義モ可相心得事

明治六年六月

七月曩キニ開業ノ福島岩代國二本松城趾ノ製絲所結社ヲ允サレ社業大ニ緒ニ就ク則チ陸羽七州ノ眼目ヲ啓發シ將來該地製絲ノ聲價ヲ市場ニ發揮スルノ瑞祥ヲ茲ニ銘セシムルニ足ル工場敷地ハ山地宅地ヲ合セテ三十六町四反餘歩屋舍ハ東西ノ器械場ヨリ繭藏事務所凡テ十九棟アリ社中ノ人口職工女ヲ合セテ三百余人内社長ヨリ傳習生至ニ男四十三人他師歸伍長及一切ノ工女ヲ合セテ二百五十七名器械ハ東西局各繰絲器四基ヲ置ク一基皆十二人ノ供用ナリ烟筒水桶試撿器絲枠水車繰返車等皆邦制ニ係リ一モ洋品ヲ用ユル者ナシ

本社資金ハ五萬圓ノ額面ニ依テ組織セラル即チ二十五圓ヲ一株トシ二千口ノ株主ニ配當ス其内舊小野組ヨリ借金セリ

而シテ當時同社ノ役員ニハ佐野理八山田脩安齊宇兵衛遊佐金之亟等ナリシト

同月租税寮ハ一國限リ蠶種憂等者撰舉ノ件及生絲輸出改印并社長名簿ノ件左ノ如ク府縣ヘ布告ス

長野縣權令立木兼善印

一國限リ蠶種優等撰擧ノ儀ハ毎國ノ上好品ヲ相撰ミ右ノ内ヨリ全國ノ優等三位ヲ撰出致候儀ニ有之候處更ニ詮議ノ次第モ之有向後一國分管及數國合管ニ不均濟テ各府縣内限リ上好品ヲ撰擧集合シ一國ノ優等ヲ鑑定致シ候筈ニ候條撰擧方法ハ是迄之通リ相心得入札法ヲ以テ其府縣限リノ優等三位ヲ可致撰擧尤三位ノ儀ハ各等一人ツヽニ限リ候筈ニ付万一入札同數ニテ人數同等ニ擧リ候節ハ尚衆議爲相調最優ノモノ一名ヲ可致撰拔且又期日ノ儀ハ本年ヨリ毎歳十月三十一日限リト確定候條期限迄ニ有無共取調可申出就テハ期後レ差出候分ハ如何樣申立候共其年ノ撰擧相省キ候條爲心得此段相達候事

但大總代世話役無之府縣下ニ於テハ本文ノ趣戸長副ニテ爲相心得可申事

今般各地方生絲改會社設立相成生絲類爲海外輸出逐次開港場ヘ輸送可相成ニ付テハ各會社印鑑雛形並社長人名共左之ノ府縣早々差回ヘ候樣可致事

但會社未立ノ縣ハ早々結社方法爲取調許可ノ上本文同樣可差回事

大阪府　神奈川縣　兵庫縣　長崎縣　新潟縣

八月大藏省ハ各地當業者ニ布告シ蠶種原紙賣捌所ヘ出願セシムル事トナセリ是レ一旦凡積ヲ以テ買受ケタルモノモ其年及其時ノ都合ニ依リ其營業ニ異

動ヲ生シタル者ノ爲メ特例ヲ設ケタル者ナリ

本年太政官第百四號布告蠶種原紙賣捌規則改正第四條但書ノ通餘紙出來節ハ最寄原紙賣捌所ヘ差出代價下ケ戻可相願筈ノ處各製種種人共ニ於テ内書名判等イタシ餘紙相成候分モ有之候由右ハ買上不相成儀ト心得違候モノモ有之候哉ニ相聞素ヨリ其儘翌年供用難相成儀ニハ候得共引續キ營業ノ者共ヘハ撿査ノ上更ニ明年ニ致リ可下渡間預ケ置度モノハ願ニ依リ可差許候條各地大總代持場限取纏員數一人別調帳相添本月三十一日最寄賣捌所ヘ差出預ケ方可申出尤右預高ノ儀義者明年原紙凡積調書ヘ内譯ニ記載シ可差出且租稅寮ニ於テ直ニ原紙拂下ケ候縣々モ同樣可相心得且又大總代無之地方者世話役又者戸長等ニテ爲取扱候儀ト可心得此段更ニ相達候事

但休業ノモノ共ハ既ニ廢紙ノ儀ニ付相當ノ割引ヲ以テ買上候條別段取調書相添原紙一同本文日限迄ニ長得賣捌所ヘ可申立事

八月

八月大藏省ハ海外輸出ニ係ル蠶種撿查ヲ橫濱生絲改會ニ委任セリ因ツテ同所ハ蠶種撿查所ヲ同所ニ開設シ又最ヨリ撿印ニ着手ス然ルニ本年蠶種ノ販路活發ニ賣レ行キ内國商ノ利益

ヲ得ル一多シ

（本年販賣ノ紙數及價格等凡テ本年輸出入ノ部參照スヘシ）

因ニ曰ク明治五年蠶種取締規則ヲ發布シ原紙ヲ武藏國深谷信濃國上田岩代國福島ニ於テ製造賣下ケ蠶種紙ハ內外用ノ區別アリ印紙ヲ蠶種紙一枚毎ニ貼用シ其地方ヘ世話役大總代ヲ置カレ之レガ撿印ヲナシ橫濱ニ輸出ス是ニ於テ橫濱撿查所ハ蠶種ノ良否ニ關セス裏面ノ印紙證印等正則ナルヤ否ヤヲ撿查シ改查ノ印章ヲ捺ス

同月信濃國小縣郡鹽尻村蠶種製造者團結シテ蠶種改良ノ目的ニ係ル明業社ヲ創立セント長野縣廳ニ出願シ是月許可ヲ得タルヲ以業ヲ始ム

明治維新以后本邦蠶種ノ海外ニ輸出スルヤ爲ニ價格暴騰シテ蠶種製造者一時望ノ利ヲ占メシヨリ全國忽チ蠶種ノ製造ニ狂奔シ年々巨額ノ產出ハ比年ニシテ供給ノ餘剩トナリ加フルニ製造ノ蠶種ハ政府ガ屢粗製濫造等ノ無キ樣令達シタルニモ拘ラス益粗濫ノ極トナリ甚シキハ一顧ノ價直ナキ粗造ニ至リタルヲ以テ爲メニ家產ヲ傾ケ盡スノ輩全國ニ普ネキニ至レリ

茲ニ創立者ノ某々等祖先以來蠶種製造ヲ以テ業トナシ居タレバ之レガ弊風ヲ矯正シ精良

ノ蠶種ヲ製造シテ輸出ノ料ニ供シ又內國ノ需用ニモ宛テント同志者相謀リ規約ヲ定メ會社ヲ組織シ社則ヲ立ツテ是月長野縣廳ニ請ヒ許可ヲ得テ業ヲ始メシモノナリ

九月大藏省ハ蠶尿紙ニ產附スル蠶卵ノ件ニ付左ノ如ク府縣ノ當業者ニ布告シ豫メ此事ナカラシム

蠶種紙ノ儀內外用ハ勿論自用種タリトモ規則ニ背候紙ヘ仕付候儀ハ不相成儀ニ付蠶尿紙ヘ產卵有候之共素ヨリ用種ニ可供筈者無之候處自然心得違ヲ以テ賣買等至シ候儀有之候而者以ノ外ノ儀ニ付心得違ノ儀無之樣各製種人共ヘ篤ト懲說致シ可置候此旨布達候事

大藏省

九月

同月是ヨリ先キ岩代國二本松製絲會社發起人佐野利八小野市兵衛等ガ同社資本金一万圓ノ貸與求ニ係ル件福島縣令安場保和稟申シ來ルヲ以テ大藏省ニ於テハ是月之ヲ許可ス

十月歐邏巴州伊太利駐劄總領事中山讓治ハ同地蠶種製造ノ件ニ關シ左ノ報告ヲ爲シタルヲ以テ大藏省ハ之レヲ印刷シテ全國ノ當業者ヘ達シ以テ反省スル所アラシメタリ

伊太利國駐在領事中山讓治ヨリ別紙ノ通報告有之候右ハ內國產種製造及ヒ輸出高ニモ關スヘキ儀ニ付精製方益精巧ヲ盡シ候樣各管下大總代並製種人共ヘ懇切諭示可致候此旨爲

必得相達候事

（別紙）

報知書

伊太利國ミラン府ニ於テ官許ヲ得内國（伊太利亞國ヲ云フ）蠶卵社ト名ツクル會社ヲ設立シタリ而シテ本社ノ趣意ハ近來本邦ニ於テ產スル卵紙ノ製造追年粗惡ニナリ從テ蠶子發生ノ損モ追年減少セリ此時ニ當リ海外ノ輸入ノミヲ賴ミテ空手茫然タルハ内國一般ノ大損耗ハ勿論一兩年以來ノ蠶病モ殆ト無之樣相成上好ノ綿ヲ購ヒ精好ヲ盡シテ製造シ内地ニ播布スル時ハ第一國家ノ利益國民ノ大幸之レニ過キス此擧ヲ企圖シ以テ此社ノ財本ヲ六百万法（凡百万弗ニ相當）ト定メ之レヲ六百株ニ分チ即チ一株ニ付百法トナシ最初入社ノ節三十法直ニ拂込ミ一ヶ月ヲ經テ三十法尙又一ヶ月ノ後四十法ヲ拂フ事ニテ一ヶ年ノ精算ノ後上一箇年ニ二割則チ百法ニ付二十法ノ利息ヲ各入社人へ拂ヒ若シ其時餘金アル時ハ其金高ヲ十部ニ割ツテ内八分ヲ社長其他役吏ニ給與シ殘二分ヲ入社人一同へ分配スルノ規則ニテ入社ヲ欲スルモノハ七月一日ヨリ五日迄ニ入社ノ手續ヲ爲ス樣新聞紙ヲ以テ國中へ布告セシ所右日限ニ至リ六万株殘リナク充滿シ六百万法ノ高ヲ會社ニ集メタリ

（中略）……此ノ如クシテ當伊太利亞國内最一養蠶場ロンバルデー州ノ内ブリカンツアーヒユモン幷ニトスカン州ヨリ上品ノ綿ヲ購シ蠶卵ノ製造ヲ爲シタル事ニテ卵量凡九十万基（一基ニ付二百六十八匁余）ヲ買集メタル由ニ之レアリ是ヲ以テ概算スルニ先ツ一基ノ價ヲ平均方法ト見做シ十万基ヲ買フ時ハ六十法ニナリ一基ノ繭ヲ以テ本邦蠶紙二枚ヲ製スルト見テ二十万株ヲ製シ得ヘシ（尤モ當國伊太利亞國）ニ於テハ本邦（日本國）ノ如ク卵ヲ紙ノ上ニ附着セシメス卵粒ノ量ヲ以テ價ヲ立ツ此卵紙一枚ヲ平均十法ニ販賣スルト見積リテ其高二百萬法ヲ得ルナリ而シテ其高ノ如キハ仕拂ヲ爲シ試ミル左ノ如シ

賣上金二百萬法（凡二十三萬弗余）

内譯

一六十萬法　繭拾萬斤買上高

一二十萬法　蠶卵製造諸入費

一百二十萬法　（立百萬法ニ付一ヶ年ノ利足但年二割）

小計二百萬法　但差引ナシ

右ノ如クナレバ會社ニテハ六百萬法ノ内ヨリ繭買上ノ爲メ六十萬法ヲ拂ヒ出シ其他諸入

費ヲ四十萬法ト見積リテモ都合百萬法ノ高ヲ以テ金高六百萬法ノ利息モ拂ヒ得殘五百萬法ヲ以テ製造場ハ勿論如何ナル盛大ナル會社モ出來ルナリ右卵蠶ヲ請求致ス農夫夥シク有之由若シ明年ノ蠶卵上作ヲ爲スニ於テハ本邦ノ蠶卵種輸出ノ價格大ニ減シ可申平年當國中ニテ凡百十萬枚ノ卵紙ヲ養シ由内凡ソ三十萬枚ハ内地ニテ製造其余ノ八十萬枚ハ本邦ヨリ輸入セシ所右會社ニテ二十萬枚ヲ製シ得ハ今年ノ處ニテ目前本邦ノ輸出高ハ八十萬枚内二十萬枚ハ減少スル理合ニ有之自ラ本邦輸出ノ高ニ關係致スヘクニ付印紙製造方ニ一ト際精巧ヲ盡シ名譽ヲ墜シ不申樣尚御注意有之度候云々

而シテ千八百六十五年（慶應元年）ヨリ千八百七十二年（明治五年）迄ニ伊太利亞佛蘭西其他歐州ヘ輸入卵紙左ノ如シ

千八百六十五年（慶應元年）	印紙	三百萬枚
同　六十六年（慶應二年）	印紙	九十五萬枚
同　六十七年（慶應三年）	印紙	八十五萬枚
同　六十八年（明治元年）	卵紙	二百三十万枚
同　六十九年（明治二年）	卵紙	百四十八万枚

同　七十年（明治三年）	卵紙	百三十万枚
同　七十一年（明治四年）	卵紙	百三十七万枚
同　七十二年（明治五年）	平均一枚ニ付十二法（凡日本二圓四十錢）ニ賣レタリ	
	卵紙	百二十七万枚
	同斷ニ付二十四法（凡日本四圓八十錢）	

右見聞及候ニ付申上候也

明治六年月七十九日

於ウエニース總領事

中山譲治

是月獨逸國「キニフル」商會手代松葉屋林助上野國小柴村ニ至リ堀込庄平等ヨリ内國用蠶種九千枚ヲ買受ケ横濱ニ輸送ス當時生絲及蠶種ハ横濱生絲改會社ノ檢査ヲ經サレハ其荷主ヘ受クル事能ハザル規則アリ因テ之ヲ該會社ニ送ル可キ旨鐵道運輸方ヨリ會社ヘ通ジ彼此往復中荷主商會ヨリ受取持參セントス社員其違則ナルヲ說諭スルモ肯セザルヲ以テ立番選卒モ亦出張シテ保護セラレンコヲ請フ於是同國領事出張スルト同時ニ神奈川縣官出張シ物品ハ領事預ル所トナリ事一時鎭定セシモ其際不敬アリトノ談判ヲ發ス又各地方ヨリ横濱ニ出

張滯在スル蠶種商數百人モ亦之ヲ傳聞シ万一國内用種ノ輸出スルニ至リテハ一時動搖スルノ掛念アリ其結局果シテ如何アラント疑念ヲ生スルノ景況ナキリ是ニ於テ小生絲改會社ノ正副社長頗ル之ヲ憂慮シ原善三郎茂木惣兵工金子平兵衛上原四郎左衛門鈴木保兵工等「キニフル」商會ニ出張シ再應談判ノ末遂ニ他ノ良種ト交換スヘキ契約ヲ整ヘ無事ニ局ヲ結ヲ得タリ

又曰租稅權頭松方正義ハ生絲改良ノ件ニ付澁澤喜作速水堅曹兩人ヲ招キ大ニ講究スル所アリシニ兩人意見反對セリ然レトモ堅曹別ニ意見ヲ租稅權頭ノ需ニ應シ福島縣令ヲ經テ左ノ如ク出セリト云

生絲改良意見

生絲ノ精粗ニ依テ國ノ損益莫大ナレバ良好ノ器械ヲ起シ佳品ヲ製出スルハ當今ノ急務ナリト雖モ之ヲ行フノ間アリ害アリ

譬ハ良好ノ器械ヲ利國ニ求メ洋人ノ教師ヲ雇入人才ヲ以テ擔當セシメ始メテ若干ノ失費ヲ厭ハス精巧ノ佳品ヲ製シテ以テ國民ヲ誘導シ國民之ニ信服シ漸々擴充シテ終ニ天下ノ製絲ヲ上等ニ至ラシメハ則チ莫大ノ國益ト謂フヘシ是所謂利ナリ然ルニ地理ヲ誤レバ百

事不便人物ヲ得サレバ規則紊亂ス位不當ナレバ永續シカタシ若シ區々タル小器ヲ各所ニ起シ此三件ヲ誤ル時ハ從前ノ製絲ニ異ラス亦器械ノ惡名ヲ西洋ニ受クルニ至ルヘシ是所謂害ナリ

良好ノ器械ヲ外國ニ求ヌハ格外ノ元金ヲ費シ教師ノ洋人ヲ雇ハ、高價ノ給料ヲ拂ヒ加之擔當ノ人物ニ乏シ是レ人物ノ容易ニ及ハサル所ナリ

器械ノ製絲場ニ於ケルヤ勞苦甚シクシテ利益薄シ故ニ人民ノ曰器械ニ據ラスンバ佳品ヲ製スル能ハサル乎必セリ然リト雖モ莫大ノ元金ニ恐レ洋人ノ扱ニ懼レ勞苦勉强ニ困ス我々斯ノ如キ大業ヲ爲サズト雖モ斯ノ加キ利ヲ得ルヤ易シ國益ハ我輩ノ關スル所ニアラズト云々人民ノ情是ノ如シ

人民倶ニ其業ニ據ラスンハ製造ノ佳品少ク且ツ工女ノ入出或ハ一月ニシテ止或ハ半年ニシテ止或ハ一年ニシテ止是ヲ以テ常ニ習業ノミ習業ニハ絲目ヲ減シ繰絲ノ高モ亦減ス到底算入ノ立サル處人民ノ服セサル處ニシテ創業ノ難キ所以ナリ

器械製絲ノ高價ナルヲ以テ人民其業ヲ慕ヒ和製ノ器械ヲ以テ入費ヲ減シ洋人ヲ雇ハス傳習ヲ以テ身分相應ニ設立シ一已ノ恒產ニ備ヘントスル勢ヒ駸々ト之有リ是文明ノ今日人

心嚮善ノ効驗ニシテ美事ノ一ナリ亦害ヲ釀スノ一也

外國ノ器械ヲ求メサルモ功同一ナレバ害ナラズ洋人ヲ雇ハサルモ功同一ナレバ却テ勝ル人才ヲ得サルモ志同一ナレハ小業ハ担當ス

外國ノ器械ト功ノ同一ナレハ姑置試驗勉強モ猶難シ況乎愚民ノ淺見ニ於テヲヤ洋人ト功ノ同一ナレハ姑置試驗勉強モ猶難シ況ンヤ伶利薄行ノ商人ニ於テオヤ唯人才ナラサルモ志ノ同一ナルモノ得ルハ難シトスル處ニアラス

凡上絲ヲ製セントスルニ上繭ニ非レバ克ハス戸毎ニ製スル能ハス伶利ノ人物ニ能ハス粗漏ノ器械ヲ要セス

上綿ニ非レハ良巧ノ器械ニ切斷シ粗漏ノ器械ニ節ヲ生ス戸毎ニ製スレバ戸毎ノ意ニ隨ヒ一箇同品ヲ得難シ同品ヲ得サレバ機上ニ不適人伶利ナレバ忍耐ノ力ナシ忍耐ノ力ナケレハ細密ノ業ニ堪ヘス器械粗ナレバ損失ヲ起ス

上繭ハ養蠶ノ力ニ因ルト雖モ是レ一朝ノ事ニ非ス從來産出ノ絹ヲ精撰スルヲ要ス戸毎ニ製スルヲ以テ一己ノ恒産ニスト雖細微ノ製絲ヲ以テ美麗ノ布絹ニセンニ別手ヲ分割スルヲ得ス是戸毎ニ製スル能ハサル以所ナリ戸毎ニ製セスンハ産ヲ破ルト云々然レバ製絲ノ

賃幾何ソ其得ル所多クハ食料ニ過キス然則其力ヲ養蠶ニ用ヒ上繭ヲ賣テ以テ計算セハ却テ上等ノ賃ヲ得ン且余暇ヲ生ルヲ以テス耕作ノ業ニ加フ是即チ進歩ノ民ト云フ可シ故商人結社シ又ハ富商獨立ヲ以テ製絲場ヲ起サザル可ラス伶利ノ人物ヲシテ製絲場ヲ掌ラシメバ心急ニシテ事遲ニ故ニ外見ヲ飾リ内部ヲ亂ス僞製贋作ヲ巧ニスル所以也是以テ忍耐ニ強ク久ニ倦マサルモノヲ要ス粗漏ノ器械ナレバ屢損シ多クハ僞製ノ弊ニ入是ヲ以テ精巧ノ器械ヲ要ス

絹ノ精撰ハ担當ノ人物ニ依ル結社ハ地方ノ說ニ隨フ人物ハ履行ノ實蹟ニ在リ器械ハ伊佛ノ職工ヲ借ル

担當ノ人物ハ乏シ結社ハ人民ノ陋習ヲ破リ難シ履行ノ實蹟アルモノハ至テ微ナリ伊佛ノ機關ハ高價ニシテ亦不便ナリ是此四件甚難キ所以ニシテ器械製絲所ノ不容易ノ所也器械製絲ノ行ハレサルヤ十ケ年ヲ待タス邦皇ノ損失而已ナラス衆民破産ノ憂アリ

右ハ大略ニシテ其情實筆紙ニ盡シ難シ蓋シ謹テ愚按仕候ニ下ハ其起業ヲ欲セサルモ上ハ其業ヲ起サヽルヘカラサル所也故ニ將來着眼ノ大略ヲ左ニ記ス

養蠶製絲ノ盛ナリト雖モ上州信州岩磐陸羽ヲ最大トス故ニ豪商ヲ說諭セラレ上武ノ際

ニ一ケ所信濃ニ一ケ所岩磐陸羽ノ際ニ一ケ所合三ケ所ニ百器械ツヽノ製絲ノ本社トス

シメ製絲ノ本社トス

人才三人ヲ租稅寮勸業課ニ撰擧セラレ一處一人ツヽニヲ担當セシメ其地方ノ勸業掛ヲ合セテ事ヲ取ラシム

但上武ノ際ハ富岡ヲ其儘本社トス

器械ハ必要ノ品ヲ多國ニ求メ切同一ノ品ハ木鐵ヲ論セス本國ニテ製ス

初發ノ建築器械ノ代價繭絲賣買ハ勿論損益共悉皆其商人ヲ任ス

家屋ヲ始メ器械等ニ至ル迄都テノ修復並ニ男職工女等製絲ニ關スルノ百事ハ在勤ノ官員其地ノ人民ヲ役シテ以テ事ヲ取ラシム

一箇ノ製絲譬ハ九貫目ニシテ此賃若干ヲ取リ製絲所一切ノ諸費ニ充テ有余ノ分ハ試驗ノ器關ヲ求メ不足ヲ生セハ官金ヲ以テ償フ

商人繭ヲ求メテ製絲場ニ送リ製絲所絲ヲ製シテ商人ニ渡ス謂ユル賃挽也繭絲賣買ノ益損ニ製絲所ニ不關製絲所雜費ノ損益ハ商人不關

右本社ニ於テ近傍諸縣ノ男女ヲ教ヒ其業ノ就ルト其人ノ力トヲ量リ土地人民ノ製絲所

担當セシムルモノトス

本社ニ於テ外國人ヲ雇フト雇サルトハ担當ノ人物ニ任スヘシ

本社ニ於テ計算シ始メ一兩年ハ有益ナラサルモ三ケ年目ヨリ決而損失ナキヲ判然定ムヘシ

但諸縣ノ男女ヲ教授シ一般開業ノ基タルヲ以テ損失モ亦判然定ムヘシ

本社一所ノ資本金トシテ十万圓ヲ官ヨリ貸シ給ヘリ其金ヲ委任ノ商人ニ貸シ商人之ヲ以テ元繭ノ代價ニ備ヘ年八朱乃至六朱ノ利子ニ定メ毎月之ヲ本社ヲ收メ本社是ヲ以テ男女教授ヲ始一般開業ノ基本タル損失ニ充ツ

本社担當ノ三名年々春秋租稅寮ニ會シ手練器械ヲ論セス製絲ノ方法ヲ熟議シ國々一定ノ規則ニ隨ハシム本社所持ノ商人ニ於テ三社製絲ヲ横濱ニ合シ等品ヲ分別シ在留ノ洋人ハ勿論佛瑞ニ送リ直ニ洋人ニ賣却シ精々相當ノ代價ヲ得ン事ヲ謀シルヘ

如斯堅固ノ業ヲ開キ必損失ナキ理人民了解スル時ハ爭テ開業スル勢ヒ鉤クラ可ズ此際ニ至リ本社ノ免許ヲ得サレハ能ハサルトモノトシテ僞製贋作ヲ防ク爲兼テ教授スルモノヲシテ擔當人ニ與ン

內國ニ於テ人民製絲場ヲ設立セント欲スル者ハ三ケ國本社ノ內ニ依頼シ豫メ担當人ヲ出シテ其業ノ利害得失ヲ傳習シ許可ヲ得テ後確定スヘシ則チ某國ノ分社ト稱シ生絲賣却ノ都合モ本社ニ據ルコトヲ得ヘシ本社ノ商人分社ノ都合ニ依テ生絲ノ爲替金ヲ貸與スルモ妨無キモノトス

斯ノ如クニシテ拾年ノ後拾萬圓ノ金ヲ本社ニ取リ本社是ヲ官ニ納メ都テノ業ヲ人民ニ授ケ官員是ニ關セスシテ唯其地方官ニ於テ保護而已ヲ成スモノトス

明治六年十一月

福島縣中屬　速水堅曹

十一月大藏省ハ近來詐謀ノ輩出沒シ內國用ノ蠶種ヲ以テ密カニ之レヲ輸出ニ供セントスル者アルヲ聞キ嚴ニ之ヲ探偵警戒スヘキ旨神奈川縣及東京府ニ通牒シ且之ヲ司法省ニ牒知シ次テ左ノ如ク府縣へ布告ス

本年四月第百四十號布告蠶種取締規則改正同三月大藏省布達生絲賣買鑑札渡方ノ儀ニ付犯則ノ着見出シ訴出候者ハ事實取糺ノ上取上品拂代ノ分合ヲ以テ給與候筈之處取上品無之節ハ科料金ノ十分一給與可致且又本年三月第百四號布告蠶種原紙並本年一月第三十二號生絲製造ノ儀ニ付テモ以來右ニ準シ取上品拂代ノ十分一又取上品無之節ハ科料金ノ

十分一給與候條此旨布告候事

同月是ヨリ先キ熊谷縣ノ稟申ニ係ル租稅ノ舊收額ト改正增額トノ間金以テヲ管內ニ製絲會社ヲ設立スルノ資トナス件大藏省ハ是月之ヲ許可シ同縣ノ製絲振興ノ資ニ當テシム

又曰是月熊谷裁判所ハ蠶種規則ニ違犯シ科料賣拂代金等ヲ追徵スヘキ者無資償ニシテ能フハサルモノニ對シ處分法ヲ左ノ如ク司法ニ伺出タリ

熊谷裁判所伺　（明治六年十一月）

蠶種規則ニ違犯シ科料賣拂代金等ヲ追徵スヘキ者無力ニシテ償フ能ハサルモノ身代限取上可申處該犯若シ所有ノ動產不動產ヲ他人へ書入又ハ質入ニ致居候共直ニ其所有物ヲ取上追徵スヘキ金額ニ滿ルマテ糶賣致シ可然哉然ル上ハ六十日間ノ揭示其他尋常身代限ノ規則ヲ施スニ及ハサル哉

司法省ハ明治七年二月廿七日左ノ如ク指令シタリ然レ𪜈是レ明治八年第三十二號布告ニ依リ消滅セリ

無力ニシテ科料金ヲ償フ能ハサル者身代限ノ儀尋常ノ規則ヲ以テ處分スヘシ其書入又ハ質入等ノ物品ハ債主ノ特權コレアル儀ニ付科料金ノ方へ上取ク可カラス

但書入等ノ品夫々處分致シ候上猶餘金有之ニ於テハ勿論取上クベキ事

岩代國二本松製絲場ハ新式器械製繰ノ新絲ヲ是月始メテ横濱ニ出荷シ市場ノ光景ヲ試ミタルニ此時百斤ニ付七百七十五弗ノ高價ヲ以テ賣込ミタリ當時手繰ノ上等ハ六百二十弗位ニシテ既ニ二百五十弗ノ高價ヲ見ルニ至ル然レモ該所ハ未タ新設ノ工場ニシテ工女ノ不熟其他尚種々ノ不都合アルニモ拘ラス如此ナレハ陸羽ノ人民始メテ迷夢ヲ醒破シ該場ノ縱覽ヲ乞フ者市ノ如キヲ爲ス而シテ是月第二ノ出荷ヲ爲シタル於ニ時テハ七百九十弗ニ賣行キタリ蓋シ此時ニ於テハ絲價稍上進シテ手繰上絲ノ者モ六百八十弗ニ至ル實ニ陸羽七州ノ當業者ガ新式器械ヲ完全ナリト認メタルモ此時ニ矯矢セリト

十二月福島縣令安場保和ハ曩キニ群馬縣ヨリ招聘セシ速水堅曹カ能ク該縣ノ生絲上盡力シタルヲ以テ良品ヲ輸出シ陸羽七縣ノ生絲模範ヲ造出シタルヲ嘉シ左ノ如ク賞セラル

明治六年十二月

福島縣

速水堅曹

國蠶繁殖ノ本旨ヲ体認シ製絲社ヲ興シ工場建築器械造作工女等業ニ至ルマテ指揮行屆キ良品出製ニモ立至リ盡力不少候依テ爲慰勞別紙目錄ノ通差遣候事

目錄

金百圓

同月大藏省ハ各地生絲改會社設立ニ關シ各所ニ於テ其加入ヲ強ヒ又ハ其他ノ弊害ヲ矯正センカ爲メ左ノ如ク布告シテ豫メ此等ノ件等カナラシメタリ

生絲改會社追々各所ヘ設立相成候處間ニハ自余ノ商人共ヲ強テ加入爲致社外ノ者ヲモ束縛致シ候哉ニモ相聞ヘ右者必竟協同立會ノ主意ヲ以テ設社候儀ニ付會立ヘ加入ハ各自勝手ニ可有之者勿論社則不ニ背候ハヽ、致退社中社外ノ者内外人民ト自由ニ商業相營候共不苦儀ニ付有之又開港場ヘ荷物運輸ノ儀ニ付テモ社外ノ者營業ニ故障不相成樣可致此旨枚達候事

十二月

大藏省

此年各港ヨリ輸出セシ蠶絲蠶繭其他物品ノ數量及價格ハ凡テ左ノ如シ

生絲　百二十万〇百三十四斤　價七百二十一万〇八千四百二十一圓

之レヲ生絲一個ニ換算スレバ平均一個六百八十三弗

熨斗絲　十三万五千四百三十五斤　價一万七千七百三十七圓

屑絲　二十四万四千四百六十五斤　價八万三千〇〇七圓
眞綿　六万九千四百〇二斤　價十六万九千七百八十八圓
屑綿　三万一千〇四十四斤
巻綿　三十四万三千四百二十二斤
蠶卵紙　百四十一万八千八百〇九〇　價三百〇六万三千〇三十八圓

之レヲ一枚價格ニ換算スレバ二圓十五錢九厘

是レ大日本農史ニ據ル所ナリ然レモ橫濱沿革誌ハ考證シテ左ノ如ク記ス

蠶卵紙ノ橫濱ニ輸送シ來ル者合計百二十八萬八千七百五十五枚ニシテ內國用トシテ積戻シタル者七百十二枚實際外國ニ輸出シタル者八百二十八千〇六十三枚ナリ此合計價格ハ二百八十四萬八千六百三十圓之ヲ平均一枚ニ換算スレハ二弗二十一錢三厘餘ニ當ル今輸出額ヲ國別ニ明記スレバ左ノ如シ

産地		
武藏國	十五萬二千八百五十九枚ニシテ不殘外國ヘ輸出ス	同
相模國	三百六十一枚	

信濃國	五十五萬〇三百十枚ニシテ內三百十枚ヲ內國用トシテ積戻ス	
飛彈國	九百七十二枚ニシテ不殘外國ヘ枚出ス	
上野國	十三萬五千百七十六枚ニシテ內二百五十枚ヲ內國用トシテ積戻ス	
岩代國	十一萬七千八百八十一枚ニシテ內四十四枚ヲ內國用トシテ積戻ス	
下野國	七千〇九十三枚ニシテ不殘外國ヘ輸出ス	
常陸國	三千三百〇三枚ニシテ不殘外國ヘ輸出ス	
羽前國	十五萬一千〇二十八枚	同上
羽後國	七千九百十三枚	同上
磐城國	一萬七千七百二十五枚	同上
陸前國	一千五百八十六枚	同上
陸中國	一千四百枚	同上
伊豆國	二千五百六十一枚	同上
甲斐國	四萬八千六百三十九枚	同上
駿河國	二百九十枚	同上

遠江國一千三百九十八枚　同上
三河國二千八百十二枚　同上
尾張國六百三十九枚　同上
近江國三萬五千七百七十二枚　同上
山城國二千百〇七枚　同上
和泉國七百十二枚　同上
攝津國五千七百二十八枚　同上
上總國九百三十九枚　同上
下總國六千百四十三枚　同上
丹波國一千四百十八枚　同上
越中國六千五百十六枚　同上
越後國一万七千八百六十七枚　同上
加賀國五百七十四枚　同上
佐渡國千四百三十四枚　同上

肥後國八百十六枚　同上
備後國一千〇八十五枚　同上
出雲國一千七百三十六枚　同上
薩摩國九十二枚　同上
阿波國六百四十枚　同上
渡島國八百枚　同上

明治六年了

明治七年一月勸業課ハ内務省中ニ編入セラレ爾來蠶業ニ關スル件大小トナク同課ニ於テ庶理スル事トナル

同月石川縣加賀國金澤ニ於テ百人取製絲器械所新築セラレタリ規摸凡テ上野國富岡ノ製絲所ニ倣フ時人曰ク該處ハ器械建築等凡テ富岡ニ摸倣シタルモノナレハ間然スル所ナシト雖モ該地ハ産繭少量ニシテ經濟立タサル可シト杞憂スル者アリキ

二月大藏省ハ生絲賣買鑑札ノ件又太政官ハ蠶種取締規則中左ノ如ク改正ノ旨府縣へ布告セリ

昨六年三月中生絲賣買鑑札改正相成候雛形書式ニ年月日認入之義掲載無之處往々不都合之儀モ有之候間自今鑑札下渡シノ際ニ者別紙書式之通年月日認入可申尤モ是迄追々相渡置候分ハ漸ヲ以テ認入候義ト可相心得此旨更ニ相達候事

（鑑札圖面略ス）

大藏省

二月七日

明治六年四月第百四十號布告蠶種取締規則第四則第二節ノ次ヘ左之通追加候條此旨布告候事

太政官

一總テ右規則中其品取上料取立ノ事ヲ記載セサル條ニ背ク者ハ五圓以内ノ罰金可申付事

二月八日

又曰内務省ニ於テハ去年六月第百四號布告ノ蠶種原紙賣捌規則ヲ更定シ是月左ノ如ク之ヲ布告ス

昨明治六年三月第百四號布告蠶種原紙賣捌規則今般更ニ別冊之通改正候條此旨布告候事

蠶種原紙規則

第一條

一蠶種原紙ノ儀ハ總テ當省ニ於テ漉立之上左ノ賣捌所ニ於テ賣渡候條自儘ノ原紙漉立賣買等不相成候事

原紙賣捌所

武藏國深谷　岩代國福島

信濃國上田

第二條

一賣買方ノ儀者毎年四月一日ヨリ五月三十一日迄ヲ限リ候條各地方管轄限リ取纏蠶種大

總代ニテ其管轄廳ノ添簡ヲ以テ最寄賣捌所ヘ申立右日限ノ內ニ必ス買受ヶ可申事

第三條

一買受方之儀者每年製種免許ノ員數ニ照合シ春蠶並夏蠶掛合等ノ種類區分相立テ總數取調製造人々員調書トモ相添可申立事但原紙直段之義者春蠶ニ用候厚紙ハ千枚ニ付金貳百圓夏蠶其外ニ用候薄紙ノ分ハ同斷ニ付金六拾圓ト相定メ候條原紙受取候節即時上納可致事

第四條

一蠶種出來揚リ之節原紙贏餘有之候共決而流用者不相成候條其地方管轄限取纏其年九月十五日迄ニ最前買受候節之手續ヲ以テ最寄賣捌所ヘ差出代價下戻相願可申其儘捨置更ニ翌年ノ用ニ供シ候儀決而不相成候萬一違犯ノ者於有之ハ其品取上原價二倍ノ科料取立可申事

第五條

一原紙流用之儀萬一違犯ノ者有之ニ於テハ春蠶夏蠶等ノ種類ヲ論セス双方共一枚ニ付新貨五拾錢宛ノ科料取立可申事

第六條

一原紙贏餘ノ內製種人共內書名判等致シ余紙相成候分ハ引續營業ノ者ヘハ撿查ノ上更ニ翌年ニ至リ可下渡筈ニ候處夫々取纏メ員數一人別帳相添都テ第四條同樣最寄原紙賣捌所ヘ差出預方可申立尤モ右預高ハ翌年原紙調書ヘ內譯記載可差出且又休業可致見込ノ者ハ相當ノ直段ヲ以テ買上候條別段取調同所ヘ可申立事

第七條

一春蠶同時ニ養立候夏蠶初度之卵種ハ此規則中ノ原紙相用候ニ不及各自勝手ノ紙可相用事

第八條

一犯則之者者有之見出シ訴ヘ出ツルニ於テハ事實取糺之上取上品拂代金之十分一其訴主ヘ給與可致且又取上品無之節ハ科料金ノ十分一給與可致事

第九條

一規則中大總代之取扱向ハ大總代無之地方ハ世話役ニテ取扱大總代世話役共無之地方者戶長ニ於テ取扱可申事

右之通相定候事

二月十三日　　内務省

（圖面畧ス）

又曰ク本年春蠶種製造凡積取調ノ件ニ付去ル明治五六兩年ノ製造高等取調在ノ如ク差出サシム

本年春蠶種製造凡積取調ニ付照會之儀有之候間明治五年分同六年分春蠶種現在製造高一人別帳別紙案文ノ通管轄廳ニ於テ往復ヲ除之外日數十日限取調當省ヘ可差出尤右調書此程當省官員出張先ヘ差出候向者別段取調再度不及差出候此旨相達候事

二月十四日　　内務省

三月内務省ハ養蠶檢查表及彫刻ノ件及春蠶種製造減額ノ件幷生絲卷印紙ノ件等ニ關シ左ノ如ク府縣ヘ布告シテ注意ヲ促サシム

養蠶檢查表之儀昨明治六年ハ發行初年殊ニ蠶卵發生ノ季節ニモ差向候ニ付於租稅寮表略紙相渡候處製造人共ノ内認損等ニテ再應受取方等申立夫カ爲メ多少ノ手數相增無益ノ儀ニ付右界紙彫刻申立候縣々モ有之候間本年ヨリハ一般彫刻差許候條昨年相渡候表式ニ摸

擬シ製造ノ上ハ規則之通相心得九月限當省ヘ可差出尤自然養蠶僅少ノ場所ニ寄彫刻不望向モ有之候ハヽ其分ニ限リ昨年之通當省ヨリ可下渡候條人員幷員數共詳細取調來四月十日限當省可申出且蠶種世話役檢查手當ノ儀ハ是迄組合ノ多少ニ寄割合相立下渡シ來リ候處以來ハ壹部ニ付金拾錢宛被賜候條世話役一人別ニ檢查ノ部數認メ分ケ詳細取調書相添請取方可申立此旨更ニ相達候事

三月七日　　内務省

本年春蠶種製造凡積申立候分各府縣共度外ノ巨額ニ相成候ニ付右ヲ以致製種候テハ巨多ノ贏餘ヲ生シ竟ニ養蠶人共一般破產ノ基トモ可相成候間減額ノ上製造候樣懇篤說諭可致就テハ原紙賣下ノ儀ハ去ル明治五年及同六年製種高平均ヲ以テ準據トシ賣渡候筈ニ候條各管下製種人一人別更ニ詳細取調ノ上管轄限リ總額ヲ以最寄蠶種原紙賣捌所ヘ申立買受候樣可取計尤モ取調等委細ノ儀ハ勸業寮ヨリ逐次可相達候此旨相達候事

三月十九日　　内務省

生絲取締之義ニ付テハ明治六年第三十二號公布ノ趣モ有之生絲每一繰印紙卷用可致筈ノ處山造リ抔ト相唱ヘ一把ニ不纏分ハ印紙不相用商人共買集メ造リ直シノ上印紙相用候地

方モ有之哉之趣石ハ畢竟御趣意柄誤認致シ不都合ノ事ニ付向後右様ノ向ハ商人共ヘ賣渡前畝度印紙卷用候様管内製絲管業ノ者共ヘ普達可致候此旨相達候事

三月十九日　　内務省

是月上野國勢多郡水沼村星野長太郎製絲所落成開業ス是レ曩キニ同地生絲改良ノ目的ヲ以テ昨年五月河瀨秀治速水堅曹等ガ相談ニ依リ星野長太郎之ヲ設立スル事トナリタルナリ速水堅曹ハ福島ヨリ製絲教師二名ヲ贈與セリ

同月内務省ハ又國内蠶種優等者ノ名面摺紙及二府二十七縣ヘ蠶種原紙買請ノ件ニ關シ左ノ如ク達シテ區々ノ處分ナカラシメタリ

御國内蠶種優等賞典書摺物　　五通ヅヽ

右頒布候條右管下人民群集ノ場所場所ヘ掲置候様可致此旨相達候事

明治六年製作

御國産蠶種

上品一等

福島縣管下岩代國伊達郡伏黒村　八城產摠

秋田縣管下羽後國秋田郡秋田町住居　貫屬士族　高宮敬太郎

新川縣管下越中國婦負八尾町　翠田太平

滋賀郡管下近江國淺井郡稻葉村　上田小兵衛

熊谷縣管下上野國佐位郡島村　田島彌平

宮城縣管下磐城國伊具郡小齊村　戸村直吉

筑摩縣管下信濃國筑摩郡淺間村

金貳拾五圓宛

同斷二等

金拾七圓五拾錢宛

同斷三等

金拾貳圓五拾錢宛

右上品蠶種製造致シ御國產ノ品等ヲ進メ候儀ニ付爲褒賞下賜之

三月　　內務省

京都府、大阪府、靜岡縣、濱松縣、豐岡縣、小田縣、名東縣、兵庫縣、境縣、度會縣、島根縣、白川縣、廣島縣、愛知縣、鹿兒島縣、山口縣、高知縣、奈良縣、岡山縣、大分縣、岐阜縣、愛媛縣、福岡縣、鳥取縣、三重縣、飾磨縣、北條縣、小倉縣、濱田縣

六年太政官第十九號御布告相成候蠶種原紙改正規則中原紙買請方ノ義ハ第二條並第三條ニ照準シ各地方管轄限リ免許ノ員數取纏大總代ニテ最寄賣捌所ヘ罷越原紙可買請筈ノ處就中其府縣下ノ儀ハ少數ノ原紙殊ニ遠隔ノ地方ヨリ相越買受候向ハ夫ガ爲メ多少ノ雜費可相掛ニ付本年ノ儀ハ東京出張所官員ヘ勸業寮ニ於テ拂下候條原紙員數買受方法等ハ總テ規則ニ照準シ不都合無之樣可取計尤モ運搬入費等ノ儀ハ其原紙員數高ニ割合ヒ製種人共ヨリ取立消却ノ積相心得區々ノ處分無之樣可取扱此旨相達候事

三月廿七日　　內務省

同月上野國前橋藩士族深澤雄象及桑島新平等組合ヲ結ビ勢多郡關根村ニ於テ適地ヲ求メ桑畑六町歩ニ養蠶室ヲ設ケ善良ノ繭ヲ作ラシムルノ方法ヲ定メ其側壹町三反歩ヲトシテ製絲所ヲ新築シ養蠶製絲模範所ト成サン事ヲ決レタリ爲ニ縣廳ヨリ資金一萬〇四百余圓ノ貸與ヲ爲ス

該所ハ曩キニ河瀨秀治速水堅曹等ガ水沼製絲所ヲ設立スル謀議ノ際ニ於テ共ニ其議ヲ與シタル者ニシテ該關根製絲所ハ速水堅曹ノ監督ニ係ル所ナリ

又曰ク橫濱居留生絲商總代佛蘭西國人ジヤクモ外二名ハ生絲風袋ノ件ニ付同地生絲改會社ニ來リ社長原善三郎上原四郎左衛門金子平兵衛及副社長鈴木保兵衛等ニ交涉シ提絲ハ百斤ニ付元結印紙ヲ合セ風袋ヲ二斤半トナシ其他ノ絲類ハ有目通トセント約定セリ

四月太政官布告シテ蠶種免許印紙ヲ定メ尋テ內務省ハ布達シテ左ノ如ク蠶種原紙各種ノ價ヲ定ム

蠶種原紙賣捌所ニ付テハ規則御改正有之且更ニ御詮議ノ上諸費精細致省略本年ノ儀ハ原紙拂代春蠶ニ相用候原紙ハ千枚ニ付金五拾圓夏蠶其外ニ相用候薄紙ノ分ハ千枚ニ付金拾五圓ト更ニ相定メ候尤代價上納等ノ儀規則之通可相心得候此旨布達候事

六月伊太利國ハ養蠶業者キヤマモ、ホルミダナル者本邦ノ養蠶桑培及蠶卵ノ製造等研究ノ爲メ漫遊ヲ爲セリ此時內務省ハ左ノ如ク府縣ヘ達シテ管內ヘ布達セシム

東京府、京都府、大阪府、岐阜縣、山形縣、筑摩縣、長野縣、熊谷縣、埼玉縣
置賜縣、滋賀縣、福島縣、栃木縣、磐前縣

伊太利國養蠶家キヤマモ、ボルミダト申者養蠶培桑及蠶印紙製造等研究ノ爲メ其府縣下ヘ罷越候ニ付當人ヨリ問合等候事有之節ハ差支無之分相示候樣管內養蠶ノ向ヘ可相達此儀相達候事

但本人ノ外隨從ノ外國人等ハ無之且蠶種買入等商業ニ關係ノ儀ハ一切差留候條此旨盡心得候事

又曰ク是月太政官ハ蠶種紙ノ國內用並ニ海外輸出共一樣ノ印紙ヲ下付スル事ヲ布達シ次テ本年製造ノ蠶種免許印紙ヲ改正スルヲ布達シ又內務省布達シテ生絲諸印紙ハ爾來之ヲ青色

ニ改メ幷ニ太政官ヨリ生絲其他賣買ノ鑑札規則中凡テ左ノ如ク追加スル旨ヲ布告セリ

蠶種紙ノ儀ニ付テハ是迄追々布告ノ趣モ有之候處今般詮議ノ次第有之內外流通便利ノ爲メ國內用幷海外輸出共更ニ一樣ノ印紙下渡候筈ニ候條兼テ其旨相心得養蠶人トモ各自明年ノ原種ニ欠乏無之樣深ク注意賣買可致因テハ免許印紙更正ノ儀ハ追テ布告可及候得共本年第四十二號布告印紙雛形ハ取消候條此旨布告候事

但明治六年改正蠶種規則第一則中第四節ノ但書幷第十節ノ但書第十一節第十二節及第三則中第七節等內外用ニ關係ノ條款ハ廢シ候其他ハ都テ規則ノ趣確守可致事

太政官

六月

本年製造ノ蠶種免許印紙左ノ通改正候條此旨布達候事

太政官

六月

生絲用諸印紙從來赤色ニ候處詮議之次第有之中結印紙小繰卷印紙幷鑛砲造用中結印紙ノ三種以來青色ニ致更正當分ノ內赤色印紙取交可相渡候條此旨布達候事

內務省

六月

酒造絞油商船幷生絲牛馬賣買鑑札規則中左ノ通追加候條此旨布達候事

（參照）是等鑑札遺失又ハ誤テ毀損スル者ハ七十五錢ノ科料ニ處ス

六月

是月勸業寮七等出仕佐々木長淳ハ本邦養蠶ノ事業着々歩ヲ進メツヽ在ルニ際シテハ須ラク之レカ模範場ヲ設立シ全國ノ當業者ヲシテ能ク其業ノ奥儀ヲ觀察セシメ益々之レガ改良ノ途ヲ開カサル可ラス宜シク蠶事墨校ヲ設立シテ四民ニ改良ノ必要ヲ覺ラシメザル可ラズト之ヲ内務省ニ建議シ省議ニ之レヲ容レラレタリ

而シテ勸業寮ハ各地方ノ桑樹ヲ試檢場ニ試殖センガ爲メ福島縣外九縣ニ通牒シテ桑樹種類名稱品位及培養方法ヲ錄致セシム

七月内務省布告シテ生絲卷印紙寸法ヲ改定シ尋テ蠶種製造出來高取調免許印紙下渡方ヲ左ノ如ク府縣へ布達ス

生絲卷印紙寸法五寸五分ノ處詮議ノ次第之有向後更ニ五寸ト相定候尤モ相分ノ内五寸以上ノ分取交可下渡候條此旨布告候事

七月

蠶種製造現在出來高取調帳ノ儀免許印紙貼用ノ後差出候向モ有之往々不都合ノ廉モ不尠

内務省

右ハ蠶種總代申合書第十三條ノ通リ其年現在出來高ハ八月十五日限リ當省勸業寮へ可差出候且免許印紙ノ儀ハ豫テ各地方廳へ相渡置候得共該廳ニ於テニ右現在出來高帳詳細檢查濟ノ上ニ無之候テハ必ス不下ケ渡候儀ト可相心得此旨相達候事

七月

内務省

八月是ヨリ先キ信濃國松代町士族宇敷則秀等同盟結社シ士族授産ノ爲メ五十人繰ノ製絲器械場ヲ建設シ七月工事ヲ落成シ八月業ヲ始メタリ

九月内務省勸業權頭河秀治米國駐劄ノ領事富田鐵之助ト謀リ本邦有名ノ生絲ヲ米國ニ送リ彼國ニ於テ輸出ノ基礎ヲ立テント各地ヨリ見本生絲數品ヲ買收シ富田鐵之助之ヲ米國ニ持參セリ當時傳フ是ヨリ曩キニ二本松ノ製絲米國ニ於テ高評ヲ得タルト同社長佐野理八ヘ通知アリタルヲ以テ以上企畫ノ因テ生ルヽナリト時人言フ

十月内務省ハ布告シテ生絲小繰印紙押印ノ位置ニ關スル事及ヒ蠶種原紙贏余ノ分ニ付キ左ノ如ク府縣ニ達ス

生絲繰卷印紙用ノ儀是迄印章卷込或ハ相顯ハシ候向モ有之不都合ニ付以來雛形ノ通押印ノ位置變更候條印章ヨリ凡三分前後ニテ折返シ卷用繼印等前同樣可相心得此旨布達候事

（雛形略之）

十月

蠶種原紙贏餘ノ儀ハ本年太政官布告第十九號蠶種原紙規則第四條及ヒ第六條ニ準據シ春夏蠶ノ種類ヲ不論都テ最寄蠶種原紙賣捌所ヘ可差出筈ノ處夏蠶掛合セ等ノ原紙贏餘ノ分其儘貯藏致居向モ有之哉ニ相聞不都合ニ候條今以テ不差出向ハ至急右賣捌所ヘ可差出此旨相達候事

十月

内務省

十一月小野組閉店ス於是本邦蠶絲家皆ナ何レモ從來小野組ノ爲替ニ依テ維持シリ來ルタモノ竝ニ該店ノ閉店ヲ見ルニ際シテハ何ゾ事業上ニ恐荒ヲ來サヾル事アランヤ爲メニ製絲家ノ如キ一增著大ナル影響ヲ蒙リ業務ヲ閉鎖スル事擧ゲテ數フ可ラス上野國前橋製絲所ノ如キ該組ノ所有タリシカ一時之ヲ勸業寮ニ於テ繼續スル事トナリ該寮少屬木村醇ヲ擧ケテ之レガ主任タラシム

二本松製絲所ノ如キ該組ノ閉店ニ際シ四万三千圓ノ數金ハ凡テ該所ノ負債トナリ進歩ノ業爲メニ將ニ蹉跌セントス

是月橫濱港舊吉原町空地ニ於テ蠶種紙四十四万五千五百餘枚ヲ燒棄ス

累年蠶卵紙ノ海外ニ輸出スル事盛ナルヨリ各地方製造人等一時ノ營利ニ眩迷シ毫モ遠大ノ長策ニ着目セルノ結果遂ニ需給ノ權衡ヲ失セルナリト云フ

且是年蠶種製造上內外國用種ノ區別ヲ解カレ（明治五年發行ノ蠶種印紙ヲ廢ス）一樣ノ式ニ依ツテ製造スベシトノ改正ニ起因シ橫濱ニ輸送スル蠶卵紙ハ積テ巨額ニ上リ其着荷ノ紙數ハ前年ノ輸出總額ニ超過スル事七十余萬枚ニ達シ尙日々增加シ殆ンド停止スル所ヲ知ラサルニ至レリ故ニ外國商人ハ束手傍觀シテ顧ミス既ニ例年ノ賣買期ヲ經過セシニ購買者ナク陰ニ蠶種商ノ擧動ニ注目スルノミナリキ之ニ反シ各地方ヨリ八月以來橫濱ニ出張滯在スル數百人ノ荷主ハ空シク數月ヲ徒費シ其慘狀座視スルニ忍ヒサルニ至レリ此時ニ當リ生絲改會社ノ正副社長蠶種賣込問屋ニ協議シ再應集會シテ其救濟策ヲ講シ蠶種賣上所ヲ設置シ相當ノ價格ヲ定メ若干枚宛ヲ集メ買上方ヲ申出ル者續々數日ニシテ四十余萬枚ヲ集メ之ヲ燒棄シテ一時荷主ノ究迫ヲ救濟ス爾來外國商人モ買進ミ數多取引ヲ爲スニ至ル然レモ內商ハ各自先ヲ爭ツテ賣込ミ競ヒシカハ其價格ハ低落シテ前年ノ七分一ニ昇ラス爲ニ家產ヲ潰落ス

ル者夥多ナリシト

同月澳國博覽會ニ出張シタル佐々木長淳圓中文助等歸朝ス

是ヨリ先キ澳國博覽會審査ヲ結了スルヤ佐々木長淳ハ其六月伊太利國「ウデイネ」ノ生絲會社ニ赴キ絹絲ノ良否ヲ鑑定シ及ビ數種ノ器械類ヲ調査シ又タ同國「パドワ」ノ蠶業學校ニ赴キ教師ウエルソンニ會シテ蠶學ヲ研究シ而シテ「バルマ」「ウエッセンツア」「ステビナ」「トリイノ」等ノ製絲場ニ赴キ製絲術及繭蛹燥殺貯藏ノ方ヲ調査シ後「プチエレイ」「ランカテ」「コラ」等ノ養蠶家ニ訪ヒ同地養蠶法ヲ視察シ又タ「ツリヤノ」及瑞西國「バーズル」「ルッアーン」等ニ赴キ屑絲紡績ノ機械ヲ調査シ而シテ後澳他利國「ゴルツ」ノ蠶業學校ニ入リ教師ボルレーニ就テ蠶事及顯微鏡ニ關スル凡テノ學說ヲ傳習シ得業證書ヲ得テ朝朝シタリ

圓中文助ハ明治七年六月製絲業研究ノタメ伊國ヘ私費留學ノ儀ヲ請願シ八月佐野副總裁ノ紹介ニ依リ伊國公使コント、フエート共ニ伊太利亞ニ赴キ製絲家專問教師インジニヤルチエサーレ、トベツ」ニ就キ製絲法及機械學ノ傳習ヲ受ケ又タ明治七年二月佐野副總裁歐州巡回ノ時ニ相會シ「ツ、ピングル」及「シーベル」會社ノ撚絲工場ニ入場親ク教師

ナターリ、ロドウイコニ就テ撚絲法及器械學ヲ傳習ス而シテ後同社所有ノ「トラビヨール」製絲場ニ於テ殺蛹法撰繭法製絲法ノ傳習ヲ了シ再ビ「ベルガモ」ニ歸リ生絲檢查法乾燥定量檢查法等ノ實習ヲ得テ歸朝ス

（參照）以上二項　總論ノ部照合スベシ

明治七年分蠶種大總代月給旅費並世話役檢查表手當共未タ受取方不申出向ハ至急取調小譯證書ヲ副ヘ往復ヲ除クノ外日數十日限リ受取方可申出此旨相達候事

但當省ニ於テ勘定組ノ都合モ有之間本年十二月三十一日迄ノ分ヲ取束可差出儀ト可相心得事

十二月

同月是ヨリ先キ宮城縣ハ租稅ノ舊收額ト改正增額トノ間金ヲ以テ桑茶楮等ノ種苗ヲ買求シ管內ノ人民ニ貸與シテ管內殖產ノ道ヲ啓カント稟請シタル事アリシカ是月之ヲ許サル又曰ク內務省ハ同月豐岡縣外九縣ニ達シテ桑苗ヲ買收シ且養蠶熟達ノ者一名ヲ撰拔シテ召集ス

是年本邦ヨリ輸出セシ蠶絲蠶絹ニ關スル物價ハ左ノ如シ

生絲　九十七万九千百九十三斤　價八万五千二百四十四圓

之レカ一個ニ換算スレハ五百四十一弗　此價五百三十万二千〇三十九圓

屑糸絲　九万六千六百〇二斤　價百四十一圓

玉絲　五十五斤　價十二萬一千二百三十二圓

眞綿　七万七千七百八十二斤　價百七十二圓

繭　三百斤

屑繭　二万二千七百二十五斤

殻繭　二十七万二千九百九十二斤　價二十五萬四千三百二十一圓

蠶卵紙　百三十三万五千四百六十五枚　價七十三万一千五百七十八圓

之レヲ一枚ニ換算スレハ平均五十四錢八厘也

以上農務局調ニ據ル

又曰ク本年横濱ニ輸送シタル蠶卵紙ハ總計百七十六万五千二十一枚ニシテ内四十四万五千五百〇六枚ハ本年十一月吉原町ニ於テ燒棄シ又四万五千二百〇一枚ハ内國用トシテ積戻シ實際海外ニ輸出シタルモノハ百二十七万四千三百十四枚ナリト而シテ價格ハ五十七万三千

四百四十一弗三分ニ當レリト是レ横濱沿革誌ノ考證スル所ナリ

明治七年了

明治八年一月岩代國二本松製絲所ハ去年十一月小野組ノ閉店ヨリ以來四萬余圓ノ敷金凡テ該所ノ負債トナリタルヲ以テ社運踏跙セントスルニ至リタリ拾茲是月右ノ敷金ヲ社業期限中据置ノ事ヲ縣令ニ歎訴ス縣令安場保和ハ狀ヲ具シ据置キト貸下ケトノ兩途ニ於テ其一ヲ許サレン事ヲ大藏省ヘ稟請ス

同月勸農寮八等出任神鞭知常亞米利加國ヘ派出センガ爲メ豫メ内地生生ノ實況ヲ調査セントシテ上野信濃兩國ヲ巡回シタリ

二月太政官ハ布告シテ明治六年四月布告蠶種取締規則ヲ廢止シ之ニ更スルニ左ノ條例規則ヲ發布シ蠶種製造者ヲシテ組合ヲ結ハシメ以テ斯業ノ取締ヲ爲ス事トセリ

蠶種製造組合條例並蠶種製造組合會議局規則共別冊之通相定候條本年ヨリ施行可致此旨布告候事

但明治六年四月第百四十號布告蠶種取締規則ハ廢止候事

（別冊）

蠶種製造組合條例

第一條　四節　製種人組合結立ノ手續

第二條　五節　頭取並以下役員撰舉及定款等差出方ノ手續

第三條　七節　組合ノ役員上任ノ到限順序等

第四條　二節　蠶種製造ノ定限

第五條　四節　蠶種原紙願受ノ期限及買請方ノ手續

第六條　六節　蠶種原紙組内ヘ配賦ノ手續

第七條　五節　蠶種精撰ノ手續

第八條　四節　印紙願受ノ手續

第九條　三節　印紙帖布ノ手續

第十條　二節　組合結立ノ后新規加入ノ手續

第十一條　九節　蠶種濫造等禁令

第十二條　十一節　濫造等違犯ノ者罰例及檢查人處務上ノ罰例等

第十三條　三節　此條例ニ依リ別段ノ免許ヲ以テ蠶種ヲ製造スルヲ得ヘキ事

第十四條　二節　蠶種製造人組名ノ趣意

通計十四條　六十七節

蠶種製造組合條例

蠶種製造ノ儀ハ從來各地方ノ便宜ニヨリ組合ヲ立其業ヲ營ト雖モ未タ方法ノ精確ナラサルヨリ各其目的ヲ異ニシ巨多ノ製造ヲ爲シ精粗混同シテ其聲價ヲ減却スルニ至ノミナラス竟ニ破產ノ基ト相成候尙モ不尠候間共同公撰一般精良ノ蠶種ヲ製造シ且無限製造ナカラシメンガ爲メ爰ニ蠶種製造組合ノ方法ヲ制定ス條々左ノ如シ

第一條　第四節

製空人組合ノ結立ノ手續

第一節　蠶種ヲ製造セントスルニハ其他ノ例宜ニ應シ組合ヲ立ヘシ即チ其人數ハ必二十五人以上タルヘシ

第二節　蠶種ヲ製造スルハ養桑相當ニ充備シ原種部一枚以上ヲ養育スルニ非サレハ組合ニ入リ蠶種ヲ製造スルコヲ許サス

第三節　此組合ヲ立ツル者共連署シテ組合結立ノ願書ヲ其區戶長ノ奧印ヲ受ケ管轄廳ヘ差出スヘシ

但土地ノ便宜ニヨリ他管下交錯スルモ妨ナシ

第四節　地方官ハ其願書ヲ檢シ不都合ナキニ於テハ組合結立ノ證書定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第五節

頭取幷以下役員撰舉及定款等差出方ノ手續

第一節　組合ノ者共ハ管轄廳ノ命ヲ受ケ後一同協議ヲ盡シ投票又ハ便宜ノ方法ヲ以テ頭取及檢查人等ヲ撰任シ組合結立ノ證書並定款ヲ其廳ニ差出スヘシ

但組合中隣ノ便宜ヲ謀リ適宜ニ戶數ヲ區分シ其區分中ニ於テ一名宛世話役ヲ撰任スヘシ尤頭取始メ役員ノ多寡ハ組合人員ニ應シ便宜ニ任スヘシ

第二節　組合結立證書ニ揭載スヘキ要件ハ

第一　組合ノ名號並取扱所ノ地名

但其組號ハ諸省寮司府縣等ノ稱號ニ混セサル名稱ヲ附スヘシ且其號ハ管轄廳ノ承認ヲ得テ後公唱スヘシ

二　取扱所ハ組內ノ便宜ニ依リ更ニ之ヲ設立セス組內ノ者居宅ヲ以假リニ取扱所ト定ムルモ妨ナシ

第二　組合中ノ者姓名並住所
第三　組内各自所有ノ桑園及小作受桑園ノ歩數幷買入約定ノ分其桑枝ノ束數桑葉ノ貫
　數地主賣主ノ姓名等
第四　掃立原種ノ枚數
第五　身元積立金ノ額或ハ有無
第六　此條例ヲ遵守シ蠶種ヲ製造スヘキ旨
第三節　右ノ證書ハ組合ノ者一同記名調印シテ其區戸長ノ奥印ヲ乞ヒ管轄廳ニ差出スヘシ
第四節　組合ノ定款ハ結立ノ要領ヲ記載シ尚組合申合ノ規則ヲ調整シ一同記名調印シテ管轄廳ニ差出スヘシ
第五節　管轄廳ニ於テハ右願書幷ニ證書定款申后規則共一同之ヲ内務省ニ差出スヘシ
　但組合結立ノ證書定款申合規則共正副二通ヲ出シ内務鄉ノ承認ヲ得テ后地方官奥書調印シテ之ヲ其組合ヘ下付スヘシ

第三條　第七節

組合ノ役員上任ノ制限順序等

第一節　組合頭取及撿查人等ノ印信幷組印等ハ其印影各二枚ヲ管轄廳ヘ出シ内一枚ヲ其廳ヨリ内務省ヘ差出スヘシ
第二節　頭取撿查人等ハ原種二枚部以上ヲ養育シ且蠶業熟練ノ者ヲ以充ツヘシ
第三節　頭取撿查人等ハ上任ノ節ニ誓詞ヲ爲シ事務ニ於テ忠正確實公平ヲトシ且條例規則等ニ聊モ悖戻セサル旨ヲ認メ正則二通ヲ管轄廳ヘ出シ其廳ヨリ一通ヲ内務省ヘ差出スヘシ
第四節　頭取及以下役員撰任交代ノ手續且組合ノ事務上ニ於テ權任ノ制限等ハ定款ト申合規則トニ揭載シ置クヘシ
第五節　組合營業上ノ事務ニ付テハ諸願届又ハ證書約定書及ヒ往復ノ文書等マテ其組號ヲ用ヒ組印ヲ押スヘシ
　但諸願届又ハ證書類等ハ頭取撿查人等ノ名印ヲモ加フヘシ
第六節　組合中集議ヲ以テ論定スヘキ件ハ結局同論ノ多キ方ニ從テ確定スヘシ
第七節　此組合中ノ者ハ轉業又ハ他ヘ移住等ノ外ハ自己ノ組合ヲ以テ猥ニ其組合ヲ脫ス

可カラス

但事故アリテ其組ヲ脫セン事ヲ欲スル者ハ組內集議ノ上之ヲ脫セシメ其旨管轄廳ヘ届出ヘシ

第四條　第二節　蠶種製造ノ程限

第一節　組合中製造ノ蠶種ハ原種一枚ニ付製種五拾枚ヲ目途トスヘシ

但成繭撿查ノ上良繭少ナキ者ハ之ヲ減シ良繭多キ者ハ之ヲ增シ組內限リ原紙ヲ流用スルハ此限ニアラス

第二節　蠶種製造ノ額ハ內外供用ノ適度ヲ立ツルヲ要ス故ニ組合中製造ノ額ヲ定メ或ハ之ヲ增減スルハ各組合頭取集會ノ協議ニ委スヘシ

第五條　四節　蠶種原紙願受ノ期限及買受方ノ手續

第一節　組內ニテ製造スル蠶種ノ原紙ハ桑園並掃立原種ノ數ト自用販賣用ノ目途トニ應シ其確實ナル員數ヲ區別詳記シ組合中凡積ノ總額製造種人々員取帳簿相仕立（第一號雛形ノ如シ）頭取並以下役員記名調印シ組內明細表（第二號雛形ノ如シ）相添ヘ前年ノ十二月限管轄廳ヘ差出スヘシ

第二節　管轄廳ニ於テハ之ヲ其翌年中迄ニ管內各組ノ分取纏メ合計調帳ヲ添ヘ（第三號雛形ノ如シ）內務省ヘ差出スヘシ

第三節　右凡積製種ノ額揃方ハ期月ヲ後ルヘカラス若シ期日ヲ後ルヽトキハ原紙漉立ノ數ニ加ヘサルヘシ

第四節　原紙買請方ノ手續等ハ蠶種原紙規則ニ遵フヘシ

第六條　六節　蠶種原紙組內ヘ配賦ノ手續

第一節　此組合ニ於テ買受ノ原紙ハ其組內一樣ニ中書認入組號ノ印ヲ押シ每戶ヘ分賦スヘシ

第二節　製絲人等自用ノ蠶種ト雖モ都テ前節同樣タルヘシ

第三節　製絲人等自用種之分原紙壹枚以下ノ製造ヲ欲スル者ヘハ半裁又ハ四裁ニテ配賦スルモ妨ナシ

第四節　然レ𪜈品質撿査等ハ全紙ヘ製造ノ分モ同樣タルヘシ

但中書並組印等ハ全紙ノ儘ニテ認加之ヲ分裁スヘシ

第五節　各組事務取扱所ヘ原紙買受候配賦ノ手數料トシテ原紙元價四分一ノヲ給與スヘシ

第六節　組合事務所取扱所ニ於テ原紙配賦ニ付テノ手數料等製種人ヨリ一切乞ヘカラス

第七條　五節

蠶種精撰ノ手續

第一節　成繭製等ノ期ニ至ラハ撿査人世話役兩人以上ニテ組内毎戸繭品質蛾ノ强弱等ヲ實撿親試シ良繭ヲ撰ミ其生繭ノ數ト蛾ノ歩方ニ應シ製種枚數ヲ概定シ各自凡積ノ額ニ參照シ原紙配與スヘシ

但撿査ノ上良質ノ生繭ニアラサル分ハ製種ヲ止ムヘシ

第二節　組内蠶種出來揚ノ上ハ毎區世話役ニテ取集メ取扱所ヘ差出シ蠶種紙毎一枚撿査人ニ於テ撿閲シ精良ノ蠶種紙ヘハ撿査ノ認印ヲ捺ス可シ若撿査人ニ於テ粗惡品ト認メシ分ハ更ニ頭取撿査人一同ノ公評ヲ以テ之ヲ鑑別シ其蠶種紙ハ管轄廳ヘ差出シ處分ヲ

受クヘシ

但撿査ノ際ニ當ツテハ製種人ニ於テ蠶種ノ精粗ヲ評論スヘカラス且撿査ノ當日ハ豫メ管轄廳ヘ届出ツヘシ時宜ニ依リ地方官員又ハ勸業寮官員巡視スルアルヘシ

第三節　頭取撿査人ノ公評ヲ以テ粗惡濫造品ト鑑定シ届出セシ蠶種ハ管轄廳ニ於テ更ニ撿査ノ上粗惡濫造ノ分ハ直ニ之ヲ燒却シ其枚數組號及製造等人姓名等詳記シ内務省ヘ届出ヘシ

第四節　蠶種撿査相濟次第現在出來高帳取調（第四號雛形ノ如シ）管轄廳ヘ差出シ印紙受取方申立ヘシ

但夏蠶掛合セ風穴種等製造方遲延ノ分ハ取上次第其種類ヲ區別シ現在出來高帳取調差出シ印紙受取方申立ヘシ

第五節　右現在出來高調帳各組ヨリ差出次第取纏メ管轄廳ヨリ内務省ヘ差出スヘシ

第八條　四節

印紙願受ノ手續

第一節　蠶種印紙ハ製造凡積ノ額ニ照合シ大藏省ニ於テ製造ノ上其年七月中ニ各縣方官

ヘ渡シ置ヘシ

但印紙雛形ハ追テ布告スヘシ

第二節　地方官ニ於テ各地ノ組合頭取ヨリ其年蠶種紙ノ現在出來高帳差出次第其額ニ照シ印紙稅收入ノ上印紙下ケ渡スヘシ

第三節　蠶種印紙稅ハ春蠶及夏蠶掛合セ風穴種等ノ區別ナク都テ左ノ通收入スヘシ

全紙ヘ貼用ノ分

淡黑色　印紙一枚ニ付　金十錢

分紙裁貼用ノ分

黃色　印紙一枚ニ付　金二錢五厘

但半裁ノ分ヘハ二枚四裁ノ分ヘハ一枚宛ヲ貼用シ其割合ヲ以テ稅金收入スヘシ

第四節　蠶種印紙下ケ渡殘ハ現在渡高仕譯書相添印紙稅共一同其年十一月三十日限リ地方官ヨリ大藏省ヘ納ムヘシ

第九條　三節

印紙貼付ノ手續

第一節　組合頭取於テ蠶種印紙管轄廳ヨリ受取シ上ハ組內製造ノ蠶種紙ヲ取扱所ヘ取集メ每紙ニ位置雛形ノ如ク裏面ヘ印紙ヲ貼付シ頭取之ニ繼印スヘシ

但頭取ハ撿查人ノ撿印ヲ證トシ印紙貼付ノ繼印ヲナスヘシト雖モ若シ不正ノ蠶種アルトキハ第七條二節ニ照準スヘシ

第二節　頭取製造ノ蠶種印紙繼印ハ撿查人ノ內ニテ押印スヘシ

第三節　印紙貼付ノ節贏余原紙ハ取集置都テ原紙規則ニ照準處分スヘシ

第十條　二節

組合結立後ノ後新規加入ノ手續

第一節　組合結立ノ後其組ヘ加入ヲ乞フ者アラハ頭取ニ於テ速ニ之ヲ承諾シ其者所有ノ桑園其外トモ第二條第二節ノ如キ證書ヲ取置キ組合中ヘ告知シ其旨ヲ管轄廳ヘ申立ツヘシ

但組合結立ノ後加入ヲ乞フ者アルトキハ既ニ凡積製種高届書差出セシ後ノ加入又ハ其年ノ製種ハ不相成翌年ヨリ製造スヘシ

第二節　組合結立ノ后加入セシ姓名等ハ其時々管轄廳ヨリ內務省ヘ届出ツヘシ

第十一條　九節
蠶種濫造等ノ禁令

第一節　此組合ノ者ハ他ノ養蠶人ヘハ組内タリトモ生繭賣渡ス可ラス
但蠶種製造人ヘハ組内タリトモ生繭ヲ買入蠶種ヲ製造ス可ラス

第二節　印紙貼付セサル蠶種紙賣渡ス可ラス

第三節　春蠶ノ原紙ヘ夏蠶掛合セ風穴種等仕付又ハ夏蠶其外ノ原紙ヘ異質ノ蠶種仕付或
原紙規則外ノ紙ヘ蠶種製造ス可ラス

第四節　余附再出ノ製造並ニ薄附粗斑ノ分ハ粘付補裝等總テ詐僞濫造ハ一切嚴禁タルヘシ

第五節　他組合ノ者製造ノ蠶種紙ヘ該組製造ノ證印ヲ押シ又ハ該組製造ノ品ヘ他ノ組號ノ證印ヲ借受ケ捺スル等都テ嚴禁タルヘシ

第六節　組内ノ者ト雖モ異質ノ蠶ヲ養育シ成繭ノ後一家ヘ集合シ蠶種製造ス可ラス
但組内同質ノ原種掃立養蠶成繭ノ後數戸集合シ又ハ組内一舍ニ於テ養蠶ノ上蠶種ヲ製造シ組號印ノミヲ捺スル分ハ此限ニアラス

第七節　生繭撿查ノ以前ニ蠶種製造ス可ラス且撿查人ニ於テ惡質ト認メ製種ヲ止メシ繭ヲ以テ製造ス可ラス

第八節　蠶尿紙ヘ產卵有之候トモ自用並ニ賣買等不相成

第九節　右ノ條件ヲ犯スモノハ罰例ニ從ヒ夫々處分スヘシ

第十二條　十節
濫造等違犯者ノ罰例及ヒ撿查人處務上ノ罰例等

第一節　此條例第十一條ノ第一節及ヒ第四節第五節第六節第七節ヲ犯スモノハ其製造ノ蠶種買取上一枚ニ付金五十錢ノ科料申付ヘシ若シ既ニ賣買スルトキハ買受人ヨリ其品取上賣渡人ヨリ代金追償申付ヘシ
但買受人情ヲ知ルモノハ賣渡人ト同罪タルヘシ

第二節　同條第二節ヲ犯賣渡候者ハ其代金取上ケ買受候者ハ其品取上ケ双方共印紙稅十倍宛ノ科料申付ヘシ

第三節　同條第三節ヲ犯スモノハ製種ノ蠶種紙取上ケ原紙料十倍ノ科料申付ヘシ

第四節　同條第八節ヲ犯賣渡候者ハ其代金取上ケ買受候者ハ其品取上ケ双方共金五圓ヲ

リ多カラサル罰金申付ヘシ

第五節　頭取撿査人等規則ヲ犯スニ於テハ總テ本科一倍ノ科料申付ヘシ

第六節　若シ違犯ノ廉重復シ俱ニ發見スルトキハ逐條科料金追徴スヘシ

但此條例中禁令ノミニテ罰例ヲ挂ケサルモノハ其罪ノ輕重ニ從テ金五圓ヨリ多カラサル罰金申付ヘシ

第七節　組合中ノ者詐僞濫造等不正ノ所業アルヲ頭取及ビ撿査人ニテ不心附等閑ニ打過ギ他ヨリ顯ハル、ニ於テハ頭取及撿査人ハ其犯科ノ輕重ニ依リ金五十圓ヨリ多カラサル罰金申付犯人ハ本科ニ處スヘシ若又頭取撿査人等組内ニ黨與シテ不正ヲ謀ルニ於テハ犯人ハ夫々本科ニ據リ處分シ頭取撿査人ハ二百圓ヨリ多カサル罰金申付ベシ

第八節　頭取撿査人若シ處務上ニ於非分ノ所業アル時ハ二百五十圓ヨリ多カラサル罰金申ヘシ事若シ本律ニ渉ル者ハ律例ニ照シ處斷スヘシ

第九節　各組合ノ者犯則ノ所業アルヲ他ヨリ見出シ訴出ニ於テハ事實取糺ノ上其品ニ依リ取上ケ過料金ノ十分一ヲ其訴主ヘ給與スヘシ

第十節　取上ケノ蠶種精良ノ品ハ取上品ノ證印ヲ押シ公ノ入札ヲ以テ拂渡スヘシ尤規則

外ノ原紙ヘ製造分又ハ粗惡ノ種類ハ燒却スヘシ

第十一節　諸種ノ科料金立取幷ニ取上品入札拂等其地ノ裁判所ニテ處分シ裁判所無之場所ハ地方官ニ於テ處分スヘシ

第拾三條　三節

此條例ニ據リ別段ノ免許ヲ以蠶種ヲ製造スルヲ得ヘキ事

第一節　蠶種ヲ製造スルモノ僅少ノ地方等ニテ此條例ノ組合難相立場所ハ少クトモ七人以上タルヘキハ其組合結立ノ儀ヲ願出ルヲ得ヘシ

第二節　地方官ハ其事情ヲ詳明ニシ之ヲ内務省ヘ伺出許可ヲ得テ後都テ此條例ニ遵テ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三節　製絲家等ニテ全ク自用種ノミ製造ヲ欲スルトキハ最寄蠶種製造組合取扱所ニ附屬シ原紙買受製造スルハ若シカラス尤印紙貼用等都テ此條例ノ第八條及第九條ノ趣旨ニ遵フヘシ且組合取扱所於テハ原印幷ニ印紙受與等組内ト見做シ處分スヘシ

但最寄地方蠶種製造無之場所於テ製絲家ノミ自用ノ蠶種製造ヲ欲スル時ハ前節ニ從テ更ニ内務省ヘ伺出ヘシ

第拾四條　二節
蠶種製造人組合ノ旨趣

第一節　此組合ハ蠶種製造ヲ以專業トスルモノナレハ各地方共互ニ協同通知シ或ハ頭取檢查人等他組合ノ實際ヲ巡視シ且ツ集會熟議ノ上勉テ精製ノ術ヲ講究シ廣ク內外供用ノ適度ヲ商ルヲ要ス

第二節　此組合條例ヲ遵守シ創立シタル各地方ノ組合頭取等前條ノ旨趣ニ依リ公議決定セシ條件ハ組合中ノ者ニ於テ素ヨリ私議ス可ラス
（蠶種原紙及印判雛形略之）

總テ蠶種紙ヘ可押用印肉ハ蜂蜜製或ハ酒製ニ限ルヘシ且組號印幷頭取檢查人製造人印名印等ハ其組ニ於テ各自ニ彫刻スヘシ
但取上品ノ認印ハ地方官ニ於テ彫製スヘシ

蠶種製造組合結立證書　文例

蠶種製造ノ儀ニ付明治八年　月　日御發行ノ蠶種製造組合條例ニ基キ組合ヲ立テ營業致シ度私共協議ノ上取極メタル證書左ノ如シ

第一條
組合ノ名號
何々組　取扱所　何國何郡何村何番地
但當分何國何郡何町何村何番地何之誰宅ヲ以假リニ事務所ト定メ事務ヲ取扱ヘシ

第二條
組合ノ者姓名幷住所

姓名	本籍幷住所	寄留所
何ノ誰	何國何郡何村何番地住	
何ノ誰	何國何郡何村	何國何郡何村何番地寄留
何ノ誰	何々	
總計		

第三條

所有桑園幷小作受桑園ノ歩數桑枝葉ノ貫數其他賣主ノ姓名等

所有桑園								小作受桑園								買入葉	組合
歩數	植付年數	桑枝束數	桑葉貫數	歩數	植付年數	桑枝束數	桑枝束數	地主姓名	桑枝束數	桑葉貫數	賣主姓名						
何歩	何年	何束	何貫目	、	、	、	、		、	、	何ノ誰						
、	、	、	、	何歩	何年	何束	何貫目	所ノ誰	、	、	何ノ誰						
、	、	、	、	何歩	何年	何束	何貫目	何ノ誰	、	、	何ノ誰						
、	、	、	、	、	、	、	、		何束	何貫目	何町何ノ誰						
、	、	、	、	、	、	、	、		、	、	何ノ誰						

第四條

掃立原種ノ枚數

種繭飼				絲繭飼	組合
春蠶	夏蠶	春蠶	夏蠶	掛合	姓名
幾枚	幾枚	幾枚	幾枚	何ノ誰	

| 幾枚 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、 | 、

年月日

右蠶種製造組合結立證書ノ趣保證ノ爲メ奥書調印致候也

四百七十六

組合中連印

區戸長　印

一號　明治　年製造

蠶種（原紙印紙）凡積取調帳

何縣管下何國何郡

何々組

掃立原紙何十枚

一春蠶原紙何十枚

但全紙　製種人　何拾人

（製絲人自用製種ノ分四裁以上二分裁ノ上組合ヨリ賣渡スハ不苦ト雖モ組合於テハ全紙ヲ以テ買下可申事

內譯

何拾枚　自用

何枚　全紙之分

內

何枚　分裁ノ分

內

何枚　二ッ切ノ分

此數何枚

何枚　四ッ切ノ分

此數何枚

何拾枚　得意場引種

何拾枚　內外賣捌ノ分

右御印紙

全紙用ノ分　何拾枚

分裁用ノ分　何拾枚

掃立原種何枚

一夏蠶原紙何拾枚

製種人　何人

四百七十七

前ニ倣フ

（分裁ノ分アラハ前ニ倣ヒ詳記スヘシ）

内譯

此御印紙何拾枚　何百枚

掃立原種何枚　製種人　何人

一掛合原紙何拾枚　何百枚

此御印紙何拾枚

掃立原種何枚　製種人　何人

一風穴種原紙何拾枚

此御印紙何枚

右寄

原紙何拾枚

薄紙何拾枚

全紙用御印紙

分裁用御印紙

右者明治　年製造蠶種原紙並印紙凡積書面之通御坐候右ノ外組内製種ノ分相洩候者無

御座候間別紙明細表相添へ差出申候御規則之通夫々御下渡奉願候也

何々組印

頭取　何國何郡何村

撿査人　何國何郡何村

何之誰印

二號

蠶種製造組合明細表

組合中姓名並住所

姓名	本籍並住所	寄留宿所
何ノ誰	何國何郡何村何番地住	
何ノ誰	何國何郡何村	何國何郡何村何番地寄留

何ノ誰	何々	何々
總計何名		

所有桑園				小作受桑園				買入桑			
步數	植付年數	桑枝束數	桑葉貫數	步數	植付年數	桑枝束數	桑葉貫數	地主姓名			組合姓名
何坪	何年	何束	何貫目	、	、	、	、	—	、	、	—	何ノ誰
、	、	、	、	何步	何年	何束	何貫目	何所何ノ誰	、	、	—	何ノ誰
何步	何年	何束	何貫目	、	、	、	、	—	何束	何貫目	何所何ノ誰	何ノ誰

掃立原種

種繭飼			絲繭飼			組合姓名
春蠶	夏蠶	春蠶	夏蠶	掛合		
幾枚	、、	、、	、、	、、	何ノ誰	

幾枚	、、	、、	、、	、、	何ノ誰
、、	、、	、、	、、	、、	總計

三號　明治　年製造

蠶種（原紙印紙）凡積合計帳

何府縣

一春蠶原紙何拾枚

內譯

何拾枚　全紙ノ分

此印紙何拾枚

何拾枚　分裁ノ分

此印紙何拾枚

一夏蠶原紙何拾枚

此印紙何拾枚

（分裁ノ分有之節ハ前條ノ如ク認譯ヶヘシ）

一掛合原紙何拾枚
　此印紙何十枚
一風穴原紙何拾枚
　此印紙何拾枚
　右寄
原紙何拾枚
薄紙何拾枚
全紙用印紙　何拾枚
分裁用印紙　何拾枚
右者明治年製造蠶種原紙並印紙凡積書面之通有之候依之別紙何冊相添差出申候也
年月日
　府縣長官名
　内務卿宛
四號　明治　年

蠶種現在出來高取調帳

凡積春蠶種何拾枚
一春蠶種何拾枚
　内
何枚　全紙
何枚　分裁ノ分
　内
何枚　二ッ切ノ分
　此數何拾枚
何枚　四ッ切ノ分

何村縣管下何國何郡　何々組
　何々組
　製種人　何拾人
　外何人休業ニ付減
（原紙願受后休業ノ人員如斯認ムヘシ）

（分裁ノ分有之節ハ此認譯ヘシ）

此數何拾枚

外何枚　　原紙贏余相成候分

凡積夏蠶何拾枚

一夏蠶種何拾枚

外何枚　　同斷

內何枚　　粗惡ノ分

掛合風穴共前ニ倣フ

右者當明治年蠶種現在出來高書面之通相違無御座候也

頭取撿查人

連名印

年月日

蠶種製造組合議局規則

蠶種製造組合頭取及蠶種商人等集會シ蠶種製造ノ方法通商ノ景況ヲ協議シ其管業上ニ於テ一般ノ便益ヲ得セシメンガ爲メ爰ニ會議局ノ規則ヲ設クル條々左ノ如シ

第一條　會議局ハ各地方蠶種製造組合頭取等蠶種製造上ノ事ヲ議スルノ會ニシテ毎年一

度之ヲ開クヲ以テ常例トス

但會議局ハ東京府下便宜ノ地ニ於テ豫メ設ケ置クヘシ

第二條　會議ノ本主ハ蠶種精製ノ法ヲ講究シ又ハ該年製造ノ額ヲ商定シ或ハ賣買上ノ便否ヲ掛酌シテ其議ヲ盡スヲ以テ專要トス

第三條　會議局ノ議員ニ擢撰スヘキ各地方ノ頭取ハ管轄廳ニ於テ毎年一月中ニ管下各組ノ頭取ヲ召集シ投票ヲ以テ一名又ハ便宜ニ依リ二名乃至三名ヲ限リ撰擧スヘシ

但其姓名ハ豫メ內務省勸業寮ヘ届出ツヘシ

第四條　會議ノ節東京橫濱其他ニ於テ蠶種紙手廣ニ賣買スル商人ノ內五名乃至拾名ヲ各地方組合頭取ノ擧擧ヲ以議員ニ加入セシムルコヲ得ヘシ

第五條　常式ノ會議ハ毎年二月中旬ヲ以テ定期トシ開局ノ期日ハ議員集會ノ上決定スヘシ

但各地方組合ノ都合ニ依リ臨時會議ヲ開クコアルヘシ

第六條　都テ會議ニ付決定セシ條件ハ其旨趣ヲ詳明ニ記錄シ議員調印ノ上其時々勸業寮へ届出ヘシ

但其要旨ヲ摘記シ官許ノ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第七條　蠶種精撰方及ヒ桑園ノ地味撰方並栽培ノ方法ヲ切瑳シ或ハ製造ノ概目ヲ立或ハ賣買上一般ノ便益ヲ謀ル等蠶業上通常ノ事件ハ會頭ヨリ之ヲ衆議ニ附シ其可否ヲ決定スヘシ

第八條　議事ノ可否ハ同論ノ多キ方ニ依リ決スヘシ若シ同數兩立タルトキハ會頭之ヲ判決スヘシ

但可ト決シタル條件ハ各議員ニ於テ必ス實地之ヲ踐行スヘシ

第九條　會頭及幹事等ノ撰任ハ議員中ヨリ之ヲ撰擧スヘシ

但議員規則ハ詳ニ別紙ニ掲ク

第十條　會議局ヨリ蠶業上ニ付開申スヘキ文書等ハ會頭幷ニ幹事等ヨリ勸業頭ヘ直達スルヲ得ヘシ

第十一條　此會議局ハ議事結了ノ後ト雖モ議員ノ衆議ニ因リテハ既ニ決定セシ事務ヲ各地方ノ組合ヘ通知往復シ或ハ整頓セシムル爲メ數名ノ委員ヲ置キ處務セシムルコトアルヘシ

第十二條　開局並ニ閉局ノ節ハ其旨勸業寮ヘ届出ヘシ

第十三條　各府縣管轄限リ集議所ヲ設ケ豫メ毎年會議開局ノ節協議スヘキ事務ヲ集議セシムル等ハ其地方ノ便宜ニヨルヘシ

議員規則

第一條　會頭　一員

會議局ノ規則ヲ掌リ議員ヲ總轄シ通常會議ノ條件或ハ議員中ヨリ建議ノ事ニ就テ衆議ヲ與シ議員立論ノ旨趣ヲ熟考シ同數兩立ノ衆議ヲ判決スヘシ故ニ會議ノ席ニ於テ自己ノ論ヲ發スルヲ得ヘカラス

副會頭（幹事ノ内ヨリ便宜之ヲ置）一員ニ不過

會頭缺席ノ時ハ其職務ヲ代理ス其他幹事ニ同シ

第二條　幹事定員ナシ

局中ノ事務ヲ分掌シ記錄會計其他一切ノ庶務ヲ調理スヘシ

第三條　議員中各自投票ヲ以テ十名乃至十五名ヲ撰擧シ之ヲ幹事ト定メ又互ニ公撰シテ會頭副會頭ヲ撰擧スヘシ

第四條　會議局着席ノ順序ハ豫メ抽鬮ヲ以テ之ヲ定メ每會必ス其席ニ就クヘシ

第五條　會議ノ時間ハ豫メ會頭之ヲ定メ置ヘシト雖モ議事ノ結了ヲ要スルアレハ便宜之ヲ伸縮スヘシ

第六條　開局中ハ每日出頭シ議事關涉ノ事務ヲ處スヘシ

第七條　開局ノ當初一ノ事件ヲ議スルハ其旨趣ヲ詳細ヲ辨明シ或ハ議案ヲ分付シ領承セシメ事ノ輕重ニ依リ期日ヲ定メ第二次會ニ各其考按所見ヲヲ演述シ之ヲ審議スヘシ

但發議ノ每員着席ノ順序ヲ以テシ一員辨論中他ノ議員默聽シテ其論議ヲ洞達セシムルヲ要ス

第八條　各員審議決定セシ條件ハ其趣旨ヲ詳細ニ記錄シ各自調印シ後證ニ供スヘシ

第九條　會議中中議員ヨリ乙議員ニ對シ詰問或ハ質問スル事アレハ必ス之ヲ會頭ニ問ヒ之ヲ乙ニ問フヘシ乙又之ヲ會頭ニ答ヘ其答ヲシテ甲ヘ會頭ヨリ辨明スヘシ自己互ニ議論スルヲ得ヘカラス

第十條　會議中互ニ禮節ヲ守リ粗暴ノ擧動アル可ラス若シ犯ス者ハ衆議ノ上其者ヲ退去セシムヘシ議事中言ノ差謬アルハ會頭之ヲ糺スヘシ

第十一條　會議ノ日議員事故アッテ缺席ノ節ハ他ノ一員ヘ代議セシムヘシ

第十二條　議員五分以上缺席ノ節ハ當日議事ヲ開ク可ラス

同月神鞭知事ハ亞米利加國ニ於ケル生絲及茶ノ販路ヲ求メ且ツ該地需用ノ景況ヲ調査セント米國ニ出發ス

是月內務省ハ去年製造ノ蠶種等者ニ褒賞ヲ下賜シ又蠶種大總代ノ件ニ關シ左ノ如ク府縣ニ達ス

東京府、京都府、大阪府、鹿兒島縣、新治縣、滋賀縣、秋田縣、千葉縣、宮城縣、埼玉縣、堺縣、新潟縣、熊谷縣、筑摩縣、足柄縣、橡木縣、置賜縣、山形縣、磐前縣、愛知縣、新川縣、廣島縣、酒田縣、長野縣、岩手縣、山梨縣、茨木縣、福島縣若松縣

明治七年製造ノ蠶種管下限リ優等三位ヘ御圖產ノ品格ヲ進メ候段爲褒賞別紙ノ通下賜候條達方取計功牌ハ兼テ布告ノ通管下揭示ノ場所ヘ揭出可致候尤モ賞格金ノ義ハ勸業寮ニ於テ可下渡候條同寮ヨリ達次第證書ヲ以テ請取方可申出此旨相達候事

國內第一等

同第二等

磐城國田村郡三城目村　渡邊忠一郎
岩代國伊達郡梁川村　橫山清二郎
近江國淺井郡大井村　丹部庄平

同第三等

羽後國秋田郡川尻村　佐藤久之助
羽前國村山郡溝延村　玄地久兵衛
信濃國筑摩郡淺間村　幸田常藏
信濃國小縣郡鎌原村　沓掛清治郎
磐城國伊具郡小齋村　戶村莊吉
武藏國兒玉郡仁手村　茂木音五郎

府縣（蠶種大總代之縣々之除）

今般大政官布告相成候ニ付テハ各地方蠶種總代ノ義被廢候候得共追テ何分ノ義相達候迄ハ蠶種事務爲取扱候樣可致候此旨相達候事

但事務取扱中ハ從前ノ通リ給料等支給候儀ト可相心得事

二月二十三日

三月內務省ハ蠶種大總代廢止ノ件及農蠶現業老實ノ者取調方並ニ蠶種製造組合ノ件ニ關シ府縣ニ左ノ如ク達ス

今般太政官第三十二號布告相成候ニ付テハ各地方蠶種大總代ノ義被廢止候得共追テ何分ノ儀相達シ候迄ハ蠶種事務取扱候樣致可候此旨相達候事

但事務取扱中ハ從前ノ通リ給料等支給候儀ト相可心得候事

三月四日

內藏省

各管內ニ於テ現業錬熟且老實ナル農學家精撰ノ上樹藝養蠶本草三課ノ內ニテ別紙雛形ノ通リ特秀ノ者一兩名取調至急可申立此旨相達候事

（別紙）

何國何郡何村
何族

一何科
一先師又ハ祖先ノ著書目
一本人著書目
一本人現今ノ見込書

三月七日

本年太政官第三十二號布告蠶種製造組合條例第五條第一節ノ諸簿冊差出方ハ本年ニ限リ各地方組合結立次第右願書及證書定款申合規則差出候節一同右帳簿相添ヘ且蠶種會議局規則中第五條ノ義モ右組合結立ノ上ハ頭取共ノ内早々撰擧シ來ル四月十五日ヲ以テ集會期日トシ右日限一同會合候樣管下製造人共ヘ布達可致此旨相達候事

内務省

三月八日

本年太政官布告第三十二號蠶種製造組合條例第十三條第一節及ヒ第二節ノ趣ハ本年ノ儀ハ既ニ養蠶期限切迫ニ付養蠶人共七人以上ニテ組合結立願出候ハヽ管轄廳ニ於テ篤ト取

糺ノ上營業ノ目的不都合無之分ハ頭取撿査等適宜撰任爲致組合結立證書並ニ定款申合則及本年蠶種製造凡積調取帳共爲差出右書類相添ヘ實際ノ事情至急詳明具狀可致且右頭取集會期日ノ義モ當省乙第二十九號達ノ通相心得可取扱候此旨相達候事

内務省

三月十四日

是月長野縣信濃國小縣郡鹽尻村藤本善右衛門黄繭蠶說ヲ作リテ内務省勸業寮ニ進達ス是レ本邦黄繭發顯ノ事情ヲ述タル者ナリ

（參照）現業史中黄繭史ノ部

四月太政官ハ布告シテ去年二月布告ノ蠶種原紙規則中左ノ如ク改正セリ

明治七年二月第十九號布告蠶種原紙規則第二條第三條第四條左ノ通改正及第五條第九條ハ廢止候此旨布告候事

蠶種原紙規則

第二條

一賣渡方ノ義ハ毎年四月一日ヨリ五月三十一日迄ヲ限リ候條各地方管轄限リ取纏メ蠶種製造人總代ノ者其管轄廳ノ添簡ヲ以テ最寄賣捌所ヘ申立日限ノ内ニ必買受可候事

第三條

一買受方ノ義ハ春蠶並ニ夏蠶掛合等ノ種類區分相立テ總數調製造人人員調書共相添可申立事

但原紙直段ノ義ハ春蠶ニ用候厚紙ハ千枚ニ付金五拾圓夏蠶其外ニ用候薄紙ノ分ハ同斷ニ付金拾五圓ト相定候條原紙受取候節即時上納可致事

第四條

一蠶種出來上リノ節原紙贏余有之候ハヽ、其地方管轄限リ取纏メ其年九月十五日迄ニ其管轄廳ノ添簡ヲ以テ最寄賣捌所ヘ差出シ代價下戻相願可申其儘捨置更ニ翌年ノ用ニ供シ候義決シテ不相成候萬一違犯ノ者有之ニ於テハ其品取上ケ原價二倍ノ科料取立可申事

三月三十一日　　太政官

四月内務省勸業寮出仕佐々木長淳ハ本邦屑絲屑繭ハ右來之ヲ紬絲眞綿等ニ製スル聞已ニシテ其劣等ナル者ハ放棄シテ顧ミル所ナシ蓋シコレ等ノモノト雖モ其製法宜ニ適ハヾ以テ充分ノ利益アル可キニ徒ニ廢物ニ歸セシムル慨歎ニ堪ヘサル所ナリ今西洋ノ所謂屑絲紡績所ナル者ヲ設立シテ製術ヲ盡シ精絲トナス時ハ本邦ノ福利之ニ過ル所ナシト大藏省ニ建議セリ

同月亞米利加國駐劄副領事富田鐵之助ハ生絲直輸出ノ試ヲ内務省勸業寮ニ申來レリ是レ生絲價格本邦ノ貿易市場ニ於ケルト亞米利加取引市場ニ於ケル差異ノ著シキ者ノミナラズ只ニ本邦ノ貿易市場ニ於テ事ヲ處理セント欲セハ此機ニ投シ常ニ商權ヲ彼ニ蹂躙セラルヽ等ノ事アルヲ以テナリ

於是同寮ハ速水堅曹ヲ以テ主任トナシ直輸目的ニ附テ調査ヲ遂グ

是月太政官左ノ如ク布告シテ蠶種製造組合條例中左ノ如ク追加セリ

本年第二月三十二布告蠶種製造組合條例第十一條第二節ヘ但書左ノ通追加候條此ニ布告候事

蠶種製造組合條例

第十一條

但春蠶同時ニ養立候夏蠶初度ノ卵種ハ此限ニアラズ

四月　　太政官

五月横濱居留地米一番館周旋シテ高知縣ヘ百人繰製絲器械ヲ新設センコトヲ同館ノ佛國人ピケナル者等設計ヲ爲シ運動スル所アリシモ偶々斯業ノ不得策ナリト諫ムル者アリキ蓋シ高知縣ハ蠶繭ノ僅少ナルヲ以ノ故ナリト云フ

同月大務省ハ蠶種製造組合ヲ組織スルヲ以テ蠶種大總代等廢止ノ件左ノ如ク達ス

府縣（蠶種大總代無之縣々ヲ除ク）

本年二月乙第二十五號ヲ以テ蠶種大總代ヘ蠶種事務爲取扱置候處各地方蠶種製造組合結立相成ニ付テハ右事務取扱方ノ義本月三十日ヲ限リ一同差免之候樣可致此旨相達候事

但事務取扱中ノ給料等受取方ノ義者來ル六月十四日限可申立事

五月九日

同月信濃國小縣郡鹽尻村藤本善右衛門等主唱シテ小縣埴科更科高井水内佐久六郡ノ養蠶家ヲ締盟シ蠶種製造家ノ宿弊ヲ除去シ該地蠶種ノ改良ヲナサンガ爲メ蠶種干隄會社ヲ設立ス（參照）明治九年二月ノ條

又曰岩代國二本松製絲場ガ曩キニ本年一月嘆願シタル右製絲場敷据置ト貸下ノ二途擇一ノ縣令ガ稟申ニ係ル件本月大藏省ヨリ貸下ノ允許ヲ得タリ

同月內務省ハ府縣ヘ達シ蠶種原紙賣渡シ期限ノ義及是ガ賣買手數料ノ件ニ付左ノ如ク達ル所アリタリ

昨七年二月第十九號布告蠶種原紙規則中原紙賣渡期限ノ義詮議ノ次第有之本年限リ來ル六月二十日迄延期候條右日限迄ニ最寄賣捌所ヘ申立買受可申此旨相達候事

五月三十日

府縣

蠶種原紙買受配賦ノ手數料トシテ各地方蠶種製造組合取扱所ヘ原紙原價四分ノ一給與ノ儀ハ右取扱所ニ於テ組號印ヲ押シ組合ノ者ヘ配賦ノ分ニ限リ給與相成候儀ニ候條配賦濟ノ上ハ其員數等詳細取調ノ上該廳豫備金ノ內ヲ以テ繰替渡方取計置右證書相添ヘ更ニ當省ヘ受取方可申出候此旨相達候事

但印紙買下ノ後休業又ハ其他ノ事故ニテ配賦不致白紙ノ儘差出代價下戻可相願分ハ本文手數料ハ不下ケ渡儀ト可相心得事

五月三十日

內務省

六月伊太利國領事シユバリエー、カステリ等本邦蠶桑ノ業實驗ノ爲メ巡視スルヲ以テ內務

省ハ岐阜外六縣ニ豫メ之ニ便宜ヲ與フルコヲ達ス

岐阜縣、埼玉縣、栃木縣、山梨縣、熊谷縣、筑摩縣、長野縣

伊太利國領事シユバリエー、カステリ氏同人妻今般養蠶幷ニ桑樹栽培實地經驗ノ爲メ其管下通行且養蠶場經見ノ筈ニ候條路次ニ於テ諸事請求等ノ義有之候ハヽ懇切ニ世話致シ不都合無之樣可取扱旨管下宿驛區戶長等ヘ相達當可申此旨相達候事

六月九日

是月內務省勸業務所轄ノ前橋製絲所同地商人勝山宗三郎ニ拂下ク價金ハ地所器具共一千〇五十圓ナリ當時頗ル該製絲ノ破損ヲ來シタルヲ以テ改良經畫ノ者ニ非レバ維持覺束ナキヲ以テノ故ナリ

蓋シ勝山宗三郎ガ該所ノ拂下ヲ受ケタル所以ノモノハ曩キニ明治五年富岡製絲所ノ繭買入レヲ大藏省ヨリ囑托ヲ受ケ玆ニ四年ヲ繼續シ是月該職ヲ辭セント請願スル所アリシニ同省之ヲ許サズ且ツ言フ該職ヲ繼續スルカ將タ當時內務省勸業寮ノ所轄前橋製絲所ヲ引受ケ該所ニ就テ生絲ノ改良ニ從事スルカノ二問ヲ以テ勝山宗三郎ニ謀ル所アリキ遂ニ同人ハ不得止前橋製絲所ヲ引請クル事トナリ次テ之ガ拂下ゲヲ請フテ許可ヲ得タル者ナリト即チ蒸溜

機鑵ヲ据付ケ繰絲釜數ヲ增加スルコトトナル

同月大阪坂ノ紳商五代友厚ハ內務省勸業寮速水堅曹ト謀リ生絲改良ノ一大事業ヲ起サン事ヲ內務卿大久保利通ニ內申シ大ニ嘉納セラレタリ速水堅曹之ガ調査ノ主任トナレリ

同日大藏省ハ布告シテ蠶種印紙稅ヲ左ノ如ク改正ス本年二月第三十二號布告蠶種製造組合條例第八條第三則中蠶種印紙左ノ通リ改正候條此旨布告候事

第八條

第三節

全紙ヘ貼用ノ分　金六錢

淡黑色印紙一枚ニ付

分裁紙ヘ貼用ノ分　金一錢五厘

黃色印紙一枚ニ付

但從前ノ通リ

七月生絲改良ノ件ヲ以テ速水堅曹ハ群馬福島ノ兩縣生絲事業ヲ巡回調査ス

同月內務省ハ金八萬五千三百九十八圓ヲ支出シ商估ヲシテ開港場ニ輸輸セル蠶卵紙四十四

万八千四百餘枚ヲ買收シ之ヲ燒棄シ則チ次第ヲ太政官ニ申告ス盖シ是ヨリ先キ內務省ハ豫メ事ノ玆ニ至ランヲ慮リ原紙拂下ゲ代金ヲ以テ臨機應變ノ處分ヲ爲サンコヲ上申シテ裁可ヲ得是ニ至ツテ之ヲ使用スルニ至レリト云フ

次デ內務省ハ布告シ蠶種免許印紙ヲ定メ又先キニ內務省燒失ニ罹リ書類ヲ亡失セルヲ以テ左ノ如ク大阪外十九縣ニ達シ蠶業種製造組合結立ノ書類ヲ蒐集ス

大阪府、足柄縣、埼玉縣、新川縣、敦賀縣、筑摩縣、酒田縣、茨城縣、千葉縣、靜岡縣、置賜縣、鹿兒島縣、長野縣、愛知縣、神奈川縣、水澤縣、秋田縣、兵庫縣、橡木縣、鳥取縣

先般差出有之候蠶種製造組合結立書類勸業寮燒亡ノ節紛失候ニ付別紙記載ノ書名取揃（本年期限入）更ニ差出候樣可取計此旨相達候事（別紙略ス）

八月福島縣二本松製絲所佐野理八等同業者ト協議シ佐野組ヲ設立シ大ニ生絲ノ改良ヲ謀ル

是月太政官ハ明治三年八月布告ニ係ル蠶種褒賞規則自今廢止スト布告セリ

十月內務省ハ屬官速水堅曹ニ命シテ同省所管ノ上野國富岡製絲所利害得失ヲ綿密ニ調査セシム於玆同人ハ該所ニ就キ當時繰絲ノ摸樣ヲ始メ事務取扱及業務ノ狀態ヨリ一切ノ景況ヲ

調査シテ內務卿ニ復命ス

同月內務省農事修業場ヲ駒場野ニ設置セン事ヲ議決シ文部省雇吏獨逸人グレーブエンヲ聘シテ蠶業諸般ノ事ヲ商議ス

十一月太政官ハ內務省ノ稟請ニ係ル京都府民野村揆一郎ノ製絲場建設ノ爲メ要スル資金一万圓ノ貸與ヲ許可ス盖シ野村揆一郎ハ同地蠶桑ハ古來有名ノ土地ナリシモ近時粗惡ニ流レ來リタルヲ以テ之ヲ改良シ再ヒ精好ナル生絲ヲ產出セシメントノ發起ニ出ヅ

十二月伊太利亞主催ニ係ル西曆一千八百七十六年（明治九年）ヲ以テ萬國農蠶會議ヲ開カント同國ヨリ通牒シ來リタルヲ以テ本邦之ニ參同シ同國駐劄領事館付外務三等書記官中島才吉ヲシテ參列スルヲ命ス

曩キニ今年三月ニ於テ內務省勸業寮屬佐々木長淳ノ建議ニ係ル屑絲屑繭紡績場建設ノ地ヲ上野國緣野郡新町溫井川字戶崎ニ相定シ同地民有地一町四反三畝二十六步ヲ買上ケ敷地ニ宛テン事ヲ太政官ニ開申シ其建築費ヲ十三万八千九百八十七圓ト豫定シ本年度ニ於テ其內三万二千九百二十五圓ヲ支出シ以テ建築ニ着手セン事ヲ稟請シ是月許可ヲ經タリ

同月群馬縣人佐藤百太郎亞米利加國ヨリ歸朝ス是レ同國ヘ生絲直輸出ヲ圖ル件ニシテ即チ

之ヲ群馬縣勸業課ニ謀リ依テ同課長伊藤小舟ハ速水堅曹星野長太郎ニ議シ以テ此企畫ヲ全カラシメントス

是年各港ヨリ輸出セシ蠶絲蠶繭左ノ如シ

生絲	百十八萬一千三百八十七斤	價金五百四十二万四千九百十六圓
熨斗絲	十二万三千二百〇二斤	同　十二万八千四百七十三圓
屑絲	三十四万〇八百十斤	同　十三万二千六百五十八圓
眞綿	三万五千七百五十四斤	同　六万二千六百五十六圓
繭	二百十四斤	同　四百〇四圓
屑繭	二萬九千百四十五斤	同　二百五十五万〇三十六圓
殼繭	三十五萬一千〇十一斤	
蠶卵紙	七千二萬七千四百六十三枚	價四十七萬三千九百二十一圓也

之ヲ平均一枚ニ換算セバ實ニ六拾五錢三厘ニ當ル（農務局調査ニ據ル）

又横濱沿革誌ハ輸出ノ全額ニ於テ左ノ如ク考證セリ暫ク記シテ是正ヲ俟ツ

明治八年蠶卵紙ハ前年ノ失敗ニ懲シタリト各地方共ニ製造ニ制限ヲ置キタルトニ依リ横濱

輸送高ハ前年ノ半額ニ減ス然レ𪜈海外ノ需用未タ氣配其宜シキニ達セザリシガ尚ホ十二萬餘枚ヲ減セシメ以テ稍其商機ヲ全フスル事ヲ得タリ

横濱輸入高	七十九萬八千九百二十三枚
外國輸出高	六千六萬九千四百五十四枚
輸出蠶種金高	六十一萬四千九百五十八弗八分
內國用積戻	十二萬八千五百二十枚
剩餘濟高	九百四十九枚

明治八年了

明治九年一月各地蠶種家頻年利ヲ喪シ卒ニ蠶業上將ニ大荒凶ヲ來サントス玆ニ於テ內務省ハ左ノ如ク達シテ各地ニ當業者ノ衆議ヲ盡サシム是レ曩キニ當路者屢々事ノ玆ニ及ホサルヲ憂ヘ斯業ニ付テハ種々法規ヲ定ムル所アリシニ當業者苟モ之ヲ反省スル者少ナキガ故事ノ玆ニ至レル者ナリト

蠶種ノ義頻年販賣失利ノ者モ不勘尙粗製ノ分モ有之哉ニ相聞右ハ畢竟昨八年二月太政官第三十二號公布之旨趣未タ徹底不致或ハ會議局ノ議事其適度ヲ不得等ヨリ來シ候歟ニ可有之候條右規則第二條第三條ノ旨ヲ体認シ及第十三條ニ照準各地方ニ於テ一層精密ニ衆議相盡置本年二月中旬之期限ヲ不錯樣各組々ヘ懇切可申達此旨相達候事

內務省

一月七日

是月群馬縣令揖取素彥ハ速水堅曹星野長太郎及曩キニ米國ヨリ歸朝シタル佐藤百太郎等ト謀リ生絲直輸出開始ノ爲メ星野長太郎ノ弟新井領一郎ヲ托シテ米國ヘ遣サン事ヲ內決セリ二月熊谷縣及飾磨縣ハ管內製絲資金ノ不饒ナルヨリ之ニ貸與ノ義ヲ內務省ニ稟申シ內務省ハ之ヲ太政官ニ稟請シテ許可ヲ得即チ熊谷縣ニ金五千圓飾磨縣ニ金一萬圓ヲ貸與ス

同月群馬縣人佐藤百太郎新井領一郎生絲直輸開始ノ爲メ米國ニ渡航ス

同月長野縣小縣郡上田町藤本善右工門等ノ去年五月設立ニ係ル蠶種千隈會社同縣ノ認可ヲ得テ會社組織トナル而シテ該社ガ去年設立セラレシ當時ノ申合定款左ノ如シ

凡商ノ商タル所以ノ者ハ有無貿遷シ遠近相通シ以テ國家時用ノ便宜ヲ得セシメ百貨交通貧富相資給スルノ道ヲ開キ勉テ之ヲ爲サヽルヘカラス而シテ中ニモ蠶種ヲ商フモノヽ如キハ他物ヲ鬻クモノト亦異ナル所以ニノ人民生產ノ原料ニ供シ殆ト世ノ興衰損益ニ關スルヲ以テ國ノ重ンスル所ニシテ百家ノ產延千耗萬殖ノ本ニシテ苟モ製造之ヲ恪シ商販之ヲ是故ニ一家僅々ノ製種ト雖モ百家ノ產延千耗萬殖ノ本ニシテ苟モ製造之ヲ恪シ商販之ヲ茲セスンハ非ラス是ヲ以テ云ンニ豈大ニシテ且ツ重ナラスヤ殊ニ我輩各自ノ爲ス處多ハ鄕里ヲ出テ他邦ニ羈旅ス故ニ人ニ枉鉤アリトモ或ハ縮直ヲ守トシ約シテ同商信ヲ厚フシ義ヲ重シ所謂ル親睦款友ヲ念トセサルヲ得ス既ニ元祿庚午ノ歲創テ七州（奥野上甲武相信）ノ商賈會議ヲ武州ノ八王子ニ闢キ互市ノ權則相立シヨリ以降累年保護ヲ幕政ニ仰キ聊カ業ヲ安セシモ明治維新太政赫々ノ秋ニ際シ其法或ハ舊ニ屬シ其事或ハ今ニ適ハサルヲ以テ槩ネ之ヲ官ニ暢達ナス能ハス如之海外輸出ノ開ケシヨリ卵價沸騰ノ際ニ乘シ奸商連リニ利ヲ逞フシ濫製亦恣ニス此ノ弊ヤ浴ク波及シテ遂ニ略々世ノ景狀トナリシモ曾テ我蠶之レニ與ミセサルト雖モ至勢ノ誘納止ム克ハス業ニ已ニ倶ニ輸出ノ利ヲ謀リテ殆ト

所有ノ未業ヲ顧ミサルカ如クシテ大ニ就產ノ便ヲ失スルニ至ル聞ク吾國生絲ノ品聲漸々海外各國ノ間ニ下レリト其責養蠶家ノ巧拙ニ有リト雖モ又我輩ノ任トシテ其一部分ヲ免ルヘカラス眞ニ慚愧ノ至リナラスヤ因テ此ノ弊ヲ挽回センニ豈一人ノ勉メ能ク得テ爲スヘカラス蓋シ衆人ノ精勵ニ如カシト玆ニ我輩交誼ノ便ヲ得ンタメ更ニ同盟結社ヲ要シ須ラク意ヲ宇內ノ蠶業ニ注キ我ニ精良ノ蠶種ヲ製造ナシ彼ニ養蠶ノ術ヲ勸メ其爲ストコロ風土寒暖肥瘠厚薄皆悉ク適習セシメ獲ルモノハ良繭ナラシメ製スルモノハ美絲ナラシメ併テ聲價ヲ上進セシメ俱ニ共ニ公同ノ利益ヲ得相逐テ國家ノ繁盛ニ至ランコヲ我輩各自ノ本旨ト爲ス處ナリ依之數箇ノ要條ヲ申合セ揭テ官ノ公允ヲ仰キ眞踐實行シテ此ノ會社ノ芳名ヲ表センコヲ各自誓テ希トコロノ者ナリ

千隈會社申合定款

第壹條

壹節

此ノ會社ノ名號ハ千隈會社ト稱スヘシ

貳節

此ノ會社結立ノ旨趣ハ專ラ蠶種ヲ內國養蠶家ノ原料ニ供賣センコヲ營業トスル者相互ニ交際ノ信義ヲ守リ及ヒ各得意家ニ對シ苟モ不實ノ所爲ヲナサス勉メテ精良ノ蠶種ヲ鬻賣ナシ而其信用ヲ來シ永ク得意家ト交誼ノ厚キヲ要シ各自公同ノ榮利ヲ料リ此業ヲシテ永遠保全ナラシムルコヲ本旨トス

三節

此ノ會社ニ資本ヲ募リ社中統轄ノ商法ヲ爲スニアラス唯各自ノ營業上ヲ申合セ交際ヲ誤ラサルヲ本旨トナスナリ故ニ各自業体ニ就テノ損益ハ社中其責ニ任ス可カラス

四節

蠶種取締方法ハ蠶種製造御條例ヲ遵奉シ蠶種製造組合定款申合書及ヒ蠶種會議局決議ノ旨ヲ異議ナス可カラス

五節

此社中ノ者得意塲引營業中ハ自己ノ都合ヲ以テ猥リニ脫スルヲ得ヘカラス

第貳條

壹節

會社事務取扱便宜ノ爲メ社中ヲ區分シテ順序番號ヲ附稱スヘシ

貳節

會社事務取扱ハ平常社長ノ宅ヲ以テナス可シ

但シ集會商議ヲ要スル節ハ便宜ノ地ニ於テ會筵ヲ設クヘシ

第三條

壹節

會社ノ事務取扱トシテ左ノ役員ヲ選任ナスヘシ

社長　一員　副社長　三員乃至四員　各區世話役　一員

但シ其區内ノ者旅行ヲ異ニシ一般同狀ナラサル片ハ二名又ハ三名ニテモ妨ケナシ

書記計算方等並定員ナシ

但シ臨時之レヲ任ス

貳節

正副社長ノ選任ハ毎年二回會議ノ節各區世話役一同ノ投票ヲ以テ社中一般ノ内ヨリ上任ス可シ

三節

各區世話役ノ選舉ハ其區内限リ一般ノ投票ヲ以テ決シ其人名ハ書面ヲ以テ毎年二回會議ノ節之レヲ差出スヘシ

四節

書記計算等ノ役員ハ會社事務ノ繁閑ニ從ヒ社長ノ考案ヲ以テ臨時之レヲ上任ス可シ

五節

總テ右選舉ニ任スル者ハ私情ノ事故ヲ以テ其任ヲ辭退ナス可カラス

第四條

壹節

正副社長及ヒ世話役ノ勤事ハ總テ一ケ年ヲ期限トシ其職ヲ免シ更ニ先規ノ投票ヲ以テ交代ヲ選任スヘシ

但シ前任ノ者又選舉ニ入ル片ハ勿論勤續ナスヘシ

第五條

壹節

社長ハ社中ノ事ヲ總理シ各役員ノ使用ヲ指令シ及ヒ會議ノ席ニ臨ミ要議ノ件々ヲ附シ各議員ノ陳說ヲ採決シテ之ヲ一同ニ踐行ナラシムルヲ要務トナス可シ

貳節

副社長ハ平常社長ノ職ヲ補力シ若シ社長事故アルトキハ其任ヲ代理シテ會社ノ事ヲ闕サルヲ本務トナスヘシ

三節

世話役ハ其區内ノ事ヲ擔當シ總テ社長ノ指令ノ指令ニ從ヒ諸事不都合之レナキ樣處理ナスヲ本旨トナスヘシ

四節

書記幷ニ計算ハ臨時社長ノ令ニ從ヒ其事ヲ勉ムヘシ

第六條

一節

左ノ如キ二箇ノ社印ヲ製造ナシ諸般押捺ノ用ニ供スヘシ

二箇ノ印圖ヲ略ス

二節

會社ノ事ニ付往復ノ文書ハ勿論其他帳簿一切ノ書類ニ至ル迄後日ノ證ニ供スルモノハス社印ヲ拇捺シ傍ラ關係ノ社名印ヲ加ヒ置ク可シ

但シ旅行先臨時ノ節ハ名印而已ヲ捺シ追テ社印ヲ押捺スヘシ

三節

此ノ社中ノ者ハ一般左ノ如キ印符ヲ所持シ旅中ニ於テ此ノ社中タルノ證トナス可シ

印符ノ形圖ヲ畧ス

四節

右印符ハ雛形ノ如ク書戴押印シテ印符元帳ニ割印ノ上社中一同ヘ之レヲ授與ナスヘシ

五節

此ノ印符ハ改名又ハ轉任ノ外書換ヲ要セス各々結社中ハ之レヲ自ラ永保ナスヘシ

但シ改名又ハ轉住ヲナストキハ其旨社長ヘ申出書換ヲ乞ヒ求ムヘシ

六節

此ノ印符ハ親戚ト雖モ決シテ貸渡ス可カラス

七節

社中ノ內得意場引營業ノ爲メ手代ヲ旅行ナサシムルトキハ其人名ヲ社長ヘ申出社中同樣ノ印符ヲ乞ヒ請ク可シ

但シ親子兄弟ト雖モ結社本主ノ外ハ本文ニ從ヒ此ノ印符ヲ乞ヒ受クヘシ

八節

若シ此ノ印符ヲ紛失ナスカ又ハ火災燒亡等ニ罹ルモノ有ルトキハ其旨社長ヘ申出新ニ印符ノ證印ヲ乞ヒ請クヘシ

九節

右印符ハ總テ壹枚ニ付金五錢手數料トシテ差出ス可シ

第七條

壹節

向後新ニ社入ヲ望ム者アルトキハ最寄世話役ヱ申出サセ此ノ申合定款ノ旨趣ヲ恪守ナスヘキ誓詞ヲ取リ連名簿登記ノ上會社ノ印符ヲ附與ナス可シ

第八條

壹節

社長及ヒ其他役員ノ給料ハ一ヶ年試驗ノ上衆議ニ依テ決定ナス可シ

貳節

正副社長及ヒ世話役其他ノ者會社ノ事ニ付外出旅行ヲ要スル節ハ至當ノ定額ヲ以テ旅費日當ヲ給ス可シ

第九條

壹節

金錢ノ出納費用ノ計算等ハ最モ嚴正ヲ旨トシ且ツ社中ト雖モ貸借其他互ノ約束證ハ御規則ノ通證券御印紙ヲ貼用ナス可シ

二節

此ノ會社ノ費用ハ總額ヲ折半シテ其半高ハ社中ノ人々ニ賦課シ半高ハ賣捌鑑種紙數ニ割當テ之レヲ償却ナス可シ

但シ此ノ申合ヲ犯スモノヨリ生スル費用ハ一切犯人ノ償却タル可シ

三節

旅中病患及ヒ死亡其他災害等ニ依リ加成トシテ附給ノ元費ハ總テ人員ニ賦課シ出金ナス可シ

但シ手代ハ半數ヲ課スヘシ

四節

旅中ニ於テ社費其他助成金等ヲ要スル節ハ其地居合セノ者ニテ立替置諸事受取證書取束ヲ歸國ノ其早速社長ヘ申出ツヘシ

五節

總テ會社關係ノ事ニ付立替ノ金錢ハ至當ノ利子ヲ以テ返却ナス可シ

第十條

一節

社中ノ者此ノ營業ヲ轉セント欲スル者アルカ又ハ營業ノ都合ニ依リテハ其得意場ヲ悉皆讓渡シ若シクハ持場ノ內ヲ引分ケ其幾分讓渡スコヲ得可シ

但シ其旨詳細ニ認メ社長ヘ申出承認ヲ得テ後ニ其事ヲナスヘシ

二節

右讓引ヲナスヤハ將來紛議ノ生セサル爲メ其約束ノ旨ヲ明言セシ證書ヘ社長ノ奧印ヲ受ケ讓受人ヘ相渡ス可シ

三節

各自得意場ヲ讓渡ストキハ其引場帳簿ヲ引渡シ讓受人ヲ同行シテ其旨得意場ヘ告示シ將來ノ信用ヲ失ハザル樣懇談ニ及フヘシ

四節

各自得意場ヲ讓渡シナストキハ其年ヨリ五ケ年ノ間蠶種商用トシテ其意得場ヘ立入ラザル旨ヲ誓ヒ若シ斯年限中此ノ約束ヲ犯ストキハ其賣付代金ノ半額ヲ違約ノ償トシテ讓受人ヘ差出スヘキ旨豫テ約定ナシ其旨讓渡シ證書ニ明載ナス可シ

但シ得意家ノ信用ヲ得先方ヨリ來テ購求ナスモノハ本文ノ限リニ非ラス

第十一條

一節

蠶種精選ノ法ニ於テハ既ニ製造組合定款申合セ等有之候得共今又此ノ會社ニ就テ更ニ左ノ條款ヲ設ク可シ

二節　社中各自ノ蠶室及ヒ器械人員等一切ノ用具十分ナルト雖モ養蠶ハ其八分ヨリ超過ナス可カラス

三節　養蠶ハ善良ノ肥葉ヲ選ムヘク不善ノ品ヲ以テ供善ナス可カラヌ

四節　蛾歩ノ多量ヲ而已欲シ其地氣節ヨリ早ムヘカラス且ツ養蠶中度外ノ火氣ヲ用ヒ日數ヲ縮ム可カラス

五節　蠶ヲ養フハ其地ノ順節ヲ良トス故ニ蠶ノ壯ナルトキハ養桑又盛ンナラサレハ全良ノ繭蛾ヲ獲ルヿ難シ各自意ヲ能ク玆ニ用ユヘシ

六節　成繭ノ上蛾歩ノ減損センヿヲ恐レ蠶室ヲ閉塞シテ温度ヲ過スヘカラス最モ大氣ヲ良通ナラシム可シ

七節　人ノ製造セシ蠶種ヲ買入自分得意場ヘ販賣候者ハ能ク其品ノ善惡ヲ鑑定シ精良ノ蠶種ヲ求メ製造印ノ傍ラニ自分ノ名印ヲ捺スヘシ
但シ自分ノ名印ヲ押捺スルニハ其旨管廳ヘ申立ツヘシ

第十二條

壹節　會議ハ年中兩度（二月廿日八月一日）ヲ定例トシ各區世話役ヲ以テ議員トナシ一同欠席ナク出頭シ社長之カ長トナリ會社申合セノ諸般及ヒ當年製種ノ多寡直段ノ高低等ニ從ヒ當時ノ景狀ヲ量察シテ其賣捌方法並ニ貨附代金ノ額等總テ各自ノ營業上ニ關係ノ事件ヲ商議確定ナス可シ
但シ未文定例ノ集會ハ更ニ通達ヲ要セス若シ臨時會議ヲ要スル時ハ便宜ノ法ヲ以テ告達ナスヘシ

貳節　蠶種賣捌方法並ニ代價ノ額ヲ商定スルニハ強テ各地一般同聲ノ制ヲ要セズ其地方風俗景

狀ヲ推思シテ土地ノ厚薄人情ノ異ナルニ隨ヒ適宜斟酌至當ノ差異ヲ以テナス可シ

三節

會議ノ節議員非常ノ事故アッテ出頭ナシ難キ者ハ辨理ノ代人ヲ出スヘシ若シ適當ノ代人ヲ得サルトキハ自己ノ意見ヲ詳細確實ニ認メ名印ヲ捺シ會議ノ席ヘ投書ヲナスカ若シクハ後日異議ナキ旨ヲ明言セシ委任狀ヲ差出スヘシ

附リ議員五分以上出席ナシ難キトキハ其議事ヲ開クヘカラス後日ヲ期シテ再ヒ集會ヲ設クヘシ

四節

總テ集會ノ議員ハ其席ヲ正フシ各々意見ヲ陳述ナスヘシ若シ默シテ其說ヲ吐露セス決議ノ後其事ノ可否ヲ論辨ナストモ其權利ヲ失フモノト做シ決テ異議ナスヲ得ヘカラサル可シ

五節

議員意見ヲ發スルニハ總テ社長ニ向テ其說ヲ述フヘシ社長ハ之ヲ各議員ニ達ス之ニ答ルモ又社長ニ向テシ互ニ討論ヲナス可カラス

附一員發說中ノ他ノ議員默聽ナシ其言ノ畢ルヲ待ッテ發言ナスヘシ若シ甲乙同時ニ發言スルアラハ社長其乙言ヲ止メ甲言ヲシテ衆員ヲ洞達ナサシムヘシ

六節

總テ議事ノ決定ハ多說ヲ以テスヘシ若シ兩數相對スルトキハ社長ノ考案ヲ以テ判決ナスヘシ

七節

會議ノ席ニ於テ飮酒放言其他雜談ヲ嚴禁ス若シ犯スモノ有ルトキハ其席ヲ退カシメ退ニ交代ヲ差出サシムヘシ

附リ縱令其席ニ於テ飮酒ヲナサヽルトモ既ニ酒氣ヲ帶ヒ醜體其狀ヲミトムル片ハ退席ナサシムヘシ

八節

飮食ノ席ニ於テ會議ノ要件ヲ談ス可カラス

九節

總テ議事中或ハ議事結局ノ後ト雖モ社長ヨリ休息亦ハ退席ヲ達セサル內ハ浪リニ其席ヲ

退ク可カラテ

十節

總テ此ノ集會ノ上決定セシ件々ハ社中一同更ニ異議ナス可カラス

第十三條

一節

旅中ニ於テ死亡ノ者アルトキハ其地居合セハ勿論其最寄地方ニ羈宿ノ者速ニ集會ナシ埋葬及ヒ諸般ノ事ヲ取扱フヘシ尤心切實意ヲ盡シ其人ノ分限ニ應シ質素儉約ヲ旨トシ費用ノ嵩マサル樣緊要タル可シ

二節

右死亡ノ者ヘハ其身元ノ貧富ヲ論セス入費ノ助成トシテ金廿五圓ヲ社中一同ヨリ給與スベシ

但シ手付ハ本文半額ヲ給スヘシ

三節

旅中盜難ノ節其禍强盜被傷ニ罹ル者アルトキハ療養ノ費トシテ其被傷ノ輕重ニ依テ金貳

圓ヨリ少ナカラス拾圓ヨリ多カラサル助給ヲナス可シ

但被傷死ニ罹ルトキハ被傷ノ重キト死亡ノ助成金トヲ合給ナス可シ

四節

旅中病氣ノ節其身歸國ヲ欲スルト雖モ一時旅費困却ノ者アルトキハ其地居合セノモノ又ハ最寄羈宿ノ者ニテ貸渡シ速ニ歸國ヲ得セシム可シ

但右貸金ハ本人歸國ノ上至當ノ利子ヲ相添返却ナスヘシ若シ當人返金ヲ拒ムトキハ社中一同ヨリ之レヲ辨償シ其本人ハ集議ノ上至當ノ所分ヲナス可シ

第十四條

壹節

旅行先各便宜ノ地ニ於テ休泊ノ家ヲ定メ置クヘシ

但休息ハ一驛ニ付一家ヲ限ルヘシ

貳節

此ノ休泊ヲ定ムルニハ最モ篤實忠正ノ者ヲ選ミ其旅店ト熟談ヲ遂ケテ之レヲ決定ナシ何々休泊ノ標牌ヲ戸外ニ掲ケサス可シ

但シ多人數集泊ノ土地ハ便宜ヲ以テ二三家ヲ定メ置クヘシ

三節

右定メタル休泊ノ外猥リニ他ノ旅店ニ休泊ナス可ラス

但シ得意家其他緣故ニ依テ休泊ヲナスモノハ此限ニアラス

第十五條

壹節

總テ他人ノ妨害ニナル可キ處行ヲナス可カラス若シ犯シテ妨碍ヲナス者アルトキハ其間ニ生スル損金ヲ償ハシメ尙集議ノ上其輕重ニ從ヒ相當ノ處分ヲナス可シ

貳節

總テ人ノ得意場ヘ行キ其人ヲ誹謗シ或ハ無實ノ凶狀ヲ言觸ラシ强テ自分ノ蠶種ヲ賣付又ハ賣捌ク可カラス若シ此ノ事ヲナシテ後日ニ至リ其得意家ノ者保證人トナリ事明瞭ニ顯ハル、トキハ其所爲ノ輕重ニ從ヒ衆議ノ上處分ヲナス可シ

第十六條

壹節

申合上違約ノ責トシテ取立ノ金錢ハ會社ニ積立置キ非常ノ供用トナス可シ

第十七條

壹節

社中ノ者此ノ申合定款ノ旨趣ヲ犯ス者及ヒ妨狀人ノ害ヲ生スル者此ノ社中ノ處分ニ應セサルトキハ其次第ヲ詳細具狀シ管廳ノ御處置ヲ仰ク可シ

第十八條

壹節

此ノ申合定款ハ社中一同賤行ノ上モシ不都合ノ廉アラハ衆議ノ上何時ニテモ之レヲ改正スルコヲ得ヘシ

但シ改正ヲ要スルトキハ其旨管廳ヘ上申シ許可ヲ得テ後ニ其事ヲ施行ナスヘシ

貳節

此ノ申合定款ハ二通ヲ官ニ上呈シ內一通ハ御許可ノ公印ヲ請ケ正ニ之ヲ會社ニ藏メ他日ノ證ニ供シ候事

前書申合定款ノ條々一同遵用恪守ノ證トシテ記名捺印致シ候也

明治八年五月

同月内務省ハ速水堅曹ニ命シテ再ヒ富岡製絲所ノ利害調査ヲ爲サシム

三月太政官ハ布告シテ生絲製造取締規則中第十二條左ノ如ク追加セリ

明治六年一月第三拾二號布告生絲製造取締規則第拾三條左ノ通追加候條此旨布告候事

第十三條

一取上品ハ第七條第十條ニ照シ相當ノ印紙ヲ用ヒ其結目ヘ取上品ノ印ヲ押シテ（其品第十條ニ當ルトキハ其上包ニ印ヲ押スヘシ）入札拂可取計事

但入札拂ハ其地ノ裁判官ニテ處分ノ印紙代ハ其地方廳定額常費金ヲ以可支拂事

曲尺六分

取上品印影

曲尺四分

四月是ヨリ先キ長野縣禀申ニ係ル同縣高井郡中野町立製絲場資金貸與ノ件是月大藏省ヨリ許可セラレタリ

四月米國費府萬國博覽會生絲繭織物審査官米國同事務官ノ請求ニ依リ京都府大屬佐藤元狩勸業寮九等出仕速水堅曹派遣セラレタルニ元狩桑港ニ於テ死去シ堅曹此審査官ヲ勤ム

五月内務省ハ勸業寮支廳内ニ製絲場建設ノ議ヲ太政官ニ稟議シテ許可ヲ得タリ

尋テ是月勸業寮出仕佐々木長淳ヲ伊太利國ミラン府ニ遣ハシ萬國養蠶公會ニ參列セシム長淳ハ贖キニ明治五年中内務省勸業寮所轄内藤新宿ノ養蠶試驗場ニ於テ研究發見シ得タル蠶蛆ノ説ヲ公會ニ陳述シテ賞賛ヲ得本邦蠶事發達ノ名譽ヲ發揚セリ

同月内務省ハ府縣ニ布告シ蠶種原紙賣渡期限ヲ左ノ如ク改正セリ

明治七年二月第十九號布告蠶種原紙規則中原紙賣渡期限ノ義詮議ノ次第有之本年限リ來ル六月三十日迄延候條右日限迄最寄賣捌所へ申立買受可申此旨布達候事

六月　今上皇帝陛下民情御親察ノ爲メ東北御巡幸ヲ賜フ蓋シ時節ノ養蠶ト抵觸トニ際スルヲ以テ供頓修繕ノ勞或ハ農夫ニ及ハンヲ恐レ先ツ沿道地方官ノ心得ヲ定ム曰ク

輦路ハ洒掃ノ外一切修築スルヲ須ヒス河川ハ新ニ橋梁ヲ架スヲ用ヒス行在所ハ皆在ニ隨テ宸慮ニ便シ別ニ補葺ヲ加フル勿レ民庶ハ皆其堵ニ安ンジ其來往ハ之ヲ止ムル勿レ一切費用ハ皆官ヨリ之ヲ給シ絲毫以テ民ヲ擾ス勿レト而シテ是月　車駕櫟木縣ニ着シ賜フヤ同

地絹川附近居住ノ東京府商人川村傳衛カ蠶業ニ篤志ナルヲ嘉シ賜ヒ直ニ旨ヲ東京府ヘ傳ヘテ紅白ノ縮緬各一匹ヲ賜ヒ之ヲ賞ス

傳衛ハ東京府下深川中川町ノ商ナリ慶應三年下野村絹川兩邊寄洲河内郡石井村芳賀郡鐺山村ノ風土地味養蠶ニ適セルヲ相シ石井村住農小林正造ヲ以テ代理トナシ領主戸田氏（宇都宮藩主）ニ請フテ居ヲ此ニトシ桑園開拓ノ業ヲ起シ私費ヲ以テ堤防ヲ築ツキ漸次開闢スルモノ三拾五町六反明治六年ニ至ッテ蠶室四楹桑庫其他土楹ヲ建築セリ其養蠶ノ法分テ三トナシ曰ク上州流曰ク奥州流曰ク信州流各其國ノ教師ヲ招テ試養シ實際商較其孰レカ此土ニ適スルヲ驗セントス而シテ三法毎年迭ニ優劣アリ末タ其確徹ヲ見ズト雖モ凡大約上州ハ清涼ニ過キ奥州ハ温暖ニ過ク獨リ其中間ナル信州流ハ最モ適セルニ似タリ傳衛既ニ此業ヲ開キ獨リ一己ノ益ヲ謀ル而已ナラス絹川兩邊寄洲等荒蕪地各村遺弃スル者多キヲ以テ頻々蠶桑ヲ勸奬シ自製蠶種四百五拾枚桑茶千八百駄ヲ分與シ又明治八年ヨリ十一年迄年々桑苗二十七萬五千本ヲ施奬セン事ヲ請求シ猶該地養蠶開クルニ隨ヒ唯利ニノミ奔リ或ハ其本ヲ失ハンコヲ恐レ專ラ製絲ノ業ニ注意シ明治七年伊國ノ製絲場ニ模擬シテ水車製絲場ヲ新築セリ其梁間五間余奥行二十七間余現今工女五十餘人ヲ役スル一ケ

年繭凡千石生絲五千斤ヲ産ス今玆ニ　東巡ノ途次該縣令之ヲ具狀シ併セテ其所製絲ヲ覽ニ供セント欲シ　皇女ノ訃音ヲ聞テ果サス此ニ至テ則チ開申ス

同月　車駕福島縣ニ着御賜ヒ十八日二本松ノ製絲會社ニ親臨ス社ハ二本松第城ノ趾ナリ工女一同門内ニ奉迎ス社ノ事務所ニ於テ　御小憩既ニシテ各舍　御巡覽縣官ヲシテ先導セシム東西二局ノ製絲場工女繰絲有樣及ヒ兩間ニ設ケタル水車機關等縣官ヲシテ一々指示上陳セシム次ニ池上ノ深布ヲ覽タマヒ次ニ工女寄宿ノ舍及ヒ機場ヲ巡覽セラレ再ヒ　御座ニ着セラル縣官繭ノ品類及ヒ其性質其製造ニ因リテ精粗ヲ異ニスル等ノ事ヲ陳シ又製絲ノ善惡强弱等器械試驗ノ法ヲ行フテ　御覽ニ供ス亦其監督ノ勞ヲ賞シ次テ社長佐野理八以下數名ヲ召シ左ノ如ク其社務ニ勤勞セルヲ賞セラル

二本松製絲會社長　佐野理八
同　役員　山田修
同　役員　安齋宇兵衛
遊佐金之丞
福島縣十五等出仕　齋藤素行

幷ニ

金五拾圓ヲ該社ノ工女一同ニ賜フ

而シテ　車駕ノ福島縣ニ着シ賜フヤ伊達郡有名ノ養蠶家中村佐平治ハ父祖ヨリ持續ノ蠶繭實政四年以降今明治九年ニ至ル迄八十余年間ノ飼育收得ノ繭ヲ縣廳ニ於テ　龍覽ニ供ス粒數通計一千八百五十六粒ニシテ細別左ノ如シ

第一號　自寬政四年至享和三年

寬政四年	二十一粒	寬政五年	二十一粒
寬政六年	二十五粒	寬政七年	十八粒
寬政八年	二十粒	寬政九年	二十三粒
寬政十年	二十七粒	寬政十一年	二十六粒
享和元年	二十粒	享和二年	十八粒
享和三年	二十二粒	計五百二十五粒	

第二號　自文化元年至同十二年

文化元年	十九粒	文化二年	十五粒
文化三年	十八粒	文化四年	十八粒
文化五年	十三粒	文化六年	二十九粒
文化七年	二十七粒	文化八年	二十五粒
文化九年	二十七粒	文化十年	二十粒
文化十一年	二十二粒	文化十二年	二十二粒
計二百四十五粒			

第三號　自文化十三年至文政十年

文化十三年	二十六粒	文化十四年	十四粒
文政元年	十六粒	文政二年	二十三粒
文政三年	十二粒	文政四年	二十四粒
文政五年	十九粒	文政六年	十九粒
文政七年	十二粒	文政八年	十一粒
文政九年	九粒	文政十年	二十粒
計二百〇七粒			

第四號　自文政十一年至天保十年

文政十一年　十四粒
天保元年　十五粒
天保三年　十四粒
天保五年　十六粒
天保七年　十粒
天保九年　十二粒

第五號　自天保十一年至嘉永四年

天保十一年　二十二粒
天保十三年　二十粒
弘化元年　十四粒
弘化三年　十三粒
嘉永元年　十八粒

文政十二年　十粒
天保二年　十六粒
天保四年　十七粒
天保六年　二十三粒
天保八年　十一粒
天保十年　十八粒
計百七十六粒

天保十二年　十二粒
天保十四年　二十一粒
弘化二年　十九粒
弘化四年　十六粒
嘉永二年　十一粒

嘉永三年　十九粒

第六號　自嘉永四年至万延元年

嘉永四年　十二粒
嘉永六年　十一粒
安政二年　十二粒
安政四年　十二粒
安政六年　十七粒
万延元年　九粒

嘉永四年　十五粒
計百九十八粒

第七號　自文久元年至明治三年

文久元年　十八粒
文久三年　十三粒
慶應元年　十粒
應慶三年青白繭　二十粒

嘉永五年　十四粒
安政元年　十五粒
安政三年　二十粒
安政五年　二十一粒
万延元年　三眠蠶繭十二粒
計百六十九粒

文久二年　十三粒
元治元年　十粒
慶應二年　十六粒
慶應三年赤熟大集　二十一粒

明治元年　十三粒　明治二年　二十三粒
明治二年養蠶秋飼　四粒　明治三年赤熟大巢　十八粒
計百七十九粒

第八號　自明治三年至同九年

明治三年　十五粒　明治四年　十七粒
明治四年赤熟大巢　十六粒　明治五年　十二粒
明治五年青白巢　十三粒　明治六年青白巢　十九粒
明治六年赤熟大巢　十三粒　明治七年伊太利國金光蠶　十五粒
明治七年赤熟大巢　十二粒　明治八年青白巢　十六粒
明治八年赤熟大巢　十六粒　計百七十九粒
明治九年赤熟大巢　百十二粒　明治九年青白巢　百三十八粒
計二百五十粒

以上總計一千八百五十六粒　五百三十二
總計年曆八十五年間

七月　車駕岩手縣盛岡ニ着御シ賜フ同縣ノ勸業場ニ臨マレ物産陳列所蠶室製絲場機業場等ヲ盡ク　宸覽シ賜フ而シテ同地呉服町菊地金吾ノ機業場ニ親臨シ賜ヒ紬木綿等凡テ機織ノ方ヲ親覽シ賜ヒ同人カ工業ニ盡力スルノ實効ヲ驗シ賜フテ殊ニ叡感アルノ狀ヲ傳ヘ銀盃一個紅白縮緬二匹金二百圓ヲ賜ヒ別ニ金五拾圓ヲ工場ニ賜ハル

車駕ノ青森縣ニ着御シ賜フテ津輕本町ノ商人武田熊七從來奇特ノ所行アリテ賜賞ヲ辱ス陛下之ヲ召シ賜ヒテ木戸孝允ヲシテ賞詞ヲ傳フ

熊七ハ陸奥國津輕郡津輕本町ノ商ナリ曾祖父ヲ甚左衛門ト云フ幼時心ヲ勸業ニ盡シ文政年中ヨリ各村ニ養蠶ヲ開キ一ハ細民ノ生計ヲ助ケ一ハ生産ノ增殖ヲ謀リ連年自費ヲ以テ蠶種ヲ附與シ桑苗ヲ分植シ或ハ數師ヲ他邦ニ雇フテ養法ヲ施シ製絲紡績數場ヲ設ケ士民男女ノ別ナク之ヲ習得セシメ勉强者ハ則チ別ニ賞奬ヲ加ヘ懇々誘導ス爾來數年間連綿怠ラス熊七ニ至ツテ更ニ奮起シテ其素志ヲ繼キ明治二年以降施與スル所ノ蠶種紙二千七百九十八枚桑圃開墾桑苗培植等ノ費ヲ通算シ金員千七百五十五圓二十一錢人民業ニ就キ因テ以テ活路ヲ得ル勘カラス縣官曾テ其狀ヲ具申シ銀杯三組一具ヲ賜フテ之ヲ賞ス今玆ニ　御巡幸次縣官又內務卿ニ具申シ乃チ此褒賞アリ

同月備中國笠岡ニ山陰製絲會社起ル資本金一万二千五百圓ニシテ内一萬圓ハ大藏省ノ貸與ニ係ル

八月熊本縣管下緒方儀太郎樟虫ヨリ製出スル天蠶絲及其繭絲ニテ製出スル織物ヲ内務省勸業寮ニ送致シテ鑑査ヲ請フ尋テ同寮ハ同縣ニ照會シテ其飼育及製絲方ヲ申送セシム

九月内務省ハ達シテ生絲賣買鑑札渡方規則中左ノ如ク追加セリ

明治六年大藏省第四十號布達生絲賣買鑑札渡方規則中第十條左ノ如ク追加候條相達候事

第十條

一玉絲斗臭絲屑絲皮ムキ絲ハ勿論繭眞綿出殼山繭等賣買渡世ノ者ト雖モ生絲賣買鑑札提携可爲致事

九月速水堅曹米國費府萬國博覽會審査官ヲ終ヘ歸朝セリ彼ノ國ニ於テ審査中繭生絲ニ付テハ各國同官ノ議ヲ說破シ特權ヲ占メ各國ハ勿論假令伊佛ノ繭生絲ト雖モ同人ノ鑑定ニ決シ同國人等モ同意セリト云フ蓋シ始メテ萬國ノ審査官ニ列シテ此權ヲ占ムルハ日本ノ名譽ト云フヘシ

又因ニ云フ此時渡航費用米金千弗ヲ同會ヨリ請取日本政府ニ納メタリト云フ

（參照）大日本蠶史總論ノ部

十月信濃國小縣郡上田町渡邊平太右工門秋蠶育條件ト名ツケ秋蠶飼育ノ方法ヨリ栽桑ニ至ル迄ヲ要記シテ内務省勸業寮ニ進達ス

是月勸業大屬速水堅曹ハ勸業頭松方正義ノ内命ヲ持シ左ノ生絲改良意見ヲ呈ス

生絲改良基礎ノ意見書

凡ソ國家ノ事業ヲ進メントスルノ難事今更言ヲ待タズト雖モ謹テ我今日ノ形勢ヲ察スルニ内ニハ無智ノ人民アリ外ニハ富強ノ各國アリ進歩ノ事ヲ行ハントト欲スル者ハ金力忽チ歛乏シ來リ節儉ニ處シテ從來ノ職ニ安ンスル者ハ到底外人ニ接スル能ハス然レモ幸ニ上聖德ノ大ナルト保護ノ渥キトニ依テ己ニ開明ノ國ト稱セラルヽヲ得ルト雖モ亦米國ノ盛埃土ノ進歩ハ則進歩ナリ而シテ其盛其進歩ノ稱呼ハ各土人ニ非スシテ全ク客來ノ外國人ニアル比ニアラサルヤノ恐レナキ能ハス抑此數國ノ如キハ盛ハ則盛ナリ豈歎スヘキノ甚シキニアラスヤ我國幸ニ未タ外國人ノ雜居スルモノナシト雖窃カニ聞クニ外人ニ通シテ仲買ヲナス者アリ或ハ是ノ名ヲ以テ彼レノ事ヲ行フモノアリト是レ雜居ノ名ナクシテ實アルナリ早ク之カ豫防ヲ講究セスンハ或ハ彼土人ノ如ク我人民モ早

晩開明ノ稱ニ與カル能ハサルノ地位ニ陷ランカ聞ク今年生糸沸騰ノ際蠶種賣買ノ時ニ於ケルモ如斯ノ處爲アリト無智ノ小民利ヲ見テ走ルニ何ソ義ト道トヲ顧慮スルノ暇有ラン乎若シ此事月ニ益シ年ニ加サハ終ニ難澁ノ一大事件ナリ如斯ノ形勢ニ至テ上ハ强權ノ策ヲ行ツ、下ハ凌遁ノ情ヲ釀シ上ヨリ開明ノ事ヲ施サルモ下漠トシテ之レニ感スル能ハス於茲適宜ノ處分適當ノ業務益々難事ニ及ハン乎然レハ今ノ策ヲナス者如何セバ則可ナルヤ唯順序ヲ過タサルニ在而已何ヲカ順序ト云則チ人智ヲ察シ國力ヲ慮リ其業務ヲ熟知計畫シテ速功ヲ貪ラサルニ在ルナリ今養蠶製絲ノ二物ヲ見ルニ輸出品中最モ大ナルモノニシテ國家ノ盛衰ニ關係スヘキヲ以テ內ハ勸誘保護ノ道ヲ盡サセラレ更ニ問然スル所ナキガ如シト雖今日ニ於テ或ハ過ニシテ紛紜ヲ生シ或ハ不及ニシテ進歩ノ道ニ迷フモノアルガ如シ何ヲ以テ如斯乎則人智ヲ察シ國力ヲ慮リ勇憤不顧ノ努力アルモノ素ヨリ人民ニ稀ナルハ勿論恐クハ上ニ於テ其業務ヲ熟知セラレサルニ出ルモノモ亦之レ有ン今般御改正ノ際小官ニ於テ兩務主任ノ命ヲ受ケ若事擧ラスンバ上ヨリ其責ヲ免レズ若シ事不當ハ下ヨリ怨言ヲ聞クニ至ル痛心恐懼ニ堪ヘス依テ潜越ノ罪ヲ不顧微心寸裏ヲ吐露シ假リニ生絲一分ニ付論說ヲ設ケ謹テ

閣下ノ命ヲ乞フ

或人問生絲ハ全地球何レノ國上等ナル乎曰ク伊佛ノ兩國也曰ク生絲ハ第一ノ物產ニシテ殊ニ近來上下頗フル注意シ各所ニ器械ヲ設置シ精良ノ佳品ヲ見ルニ至ル其品ト雖モ彼二國ニ不及乎曰日本器械製上等ニ至ツテハ敢テ二國ニ讓ルコトナシ然レ乍甚タ徹少ニシテ日本生絲全高百分ノ二三タルニ過キス故ニ歐米共ニ未知ラサルモノ多シ唯日本絲ト稱スルハ提絲鐵砲造而已若器械製ノ如キヲ以テ全高ノ央ヲ過サシメナバ日本ノ生絲ヲ以テ二國ノ下ニ置可ラサルヤ必セリ曰然則官ノ力ヲ以テ日本全國ニ器械ヲ建立シ更ニ人民ニ貸與シ厚ク保護ヲ加ヘ上下共憤發勉勵セハ忽チ上製ニ可至乎曰決シテ然ラス唯漸次ノ進歩ヲ誘導スルニアルノミ如何トナレハ斯ニ二ツノ職業アリ而同一ノ利ヲ得ルモノハ勞力ノ少ナキニ隨ヒ亦勞力同一ナレハ利ノ多キヲ取ル是古今ノ通情也今日本人民粗製ヲ好ムニアラス只管利ニ關係シ上製ニハ却テ利益ノ尠ケレハ也且假令器械ヲ全國ニ建設シ百方官ノ盡力ヲ以テ勸業セント欲スルモ上ニハ其業ヲ熟知スルモノ稀ニシテ下ニハ其業ヲ担當スルモノ少ナキヲ以テ無益ノ大金ヲ費シ惜ラクハ其功アルコト遠カラン曰ク何ヲ以テ精製ニ利無キ乎曰粗製ノ檀名ヲ以テ精製ノ微名ヲ壓スルト

金力ノ乏敷ヲ以テ確タルニ賣買ヲ成ス能ハサルト人民一般情態ノ姑息ナルト此三ツヲ以テ然ルナラン曰各縣生絲改メ會社ヲ全國地方ニ設ケ猶横濱ニ一括シ以テ粗製ヲ糺サバ如何曰ク良法ノ如シト雖モ末可ナラサルナリ如何トナレバ物ニハ大小弱強アリ品ニハ善惡精粗有リ不得止ノ情狀ニテ決シテ一定スル能ハスト雖モ改良會社タル者ハ精粗ノ相當代價ヲ得セシメ兩品共ニ漸々進歩セシムルノ功ナカル可ラス然レモ今日ノ人民區々ノ職業ニ於テハ其理ヲ存シテ其實ハ立ツ可ラス實ナケレバ必然害ヲ來スヘシ故ニ唯目今盡力スヘキモノ强ヲ以テ弱ヲ倒シ粗ヲ以テ精ヲ害スルノ類專ラ保護シ漸次精ヲ增シテ粗ヲ減スルニアリ譬ハ初冬ノ草木ノ如ク精美ノ品ハ保護ヲ加ヘテ寒霜ヲ避ケシメ幾多ノ人望ヲ得セシム可シト雖モ悉皆ノ草木ニ至テハ又如何トモナス能ハス唯其良種ヲ撰ミ漸々之ヲ繁殖セシムルニ在而已偶有志ノ輩千辛萬苦稍精好ノ生絲ヲ造出スト雖モ或ハ不時ノ災害ニ罹リ或ハ一般ノ弊習ニ推壓セラレ其志望ヲ達セント欲シテ得可ラサルノ類鮮ナカラズ政府ニ於テハ只此等ノ者ヲ補佐シ其志ヲ暢達セシメハ令セスシテ粗モ精トナリ兎レテ恥ナキ弊習モ一變シ其改メ會社ニ勝ル万々ナラン然ラハ其着手方法如何セバ則可ナラン曰ク之ヲ明細ニ述ルハ一朝ノ能スル所ニアラズ雖其大体ノ趣

向ヲ左ニ記シテ以テ再問ヲ待タン

生絲精製ノ基礎ヲ定メンニハ別紙圖面ノ通養蠶製絲ノ盛ナル上州信州岩磐陸羽ノ際ニ於テ三ケ所ノ本社ヲ置クヘシ

其位置

一上野内人民設立器械製絲場ヲ熟見シ地理ハ勿論水質及ヒ便否ヲ慮テ以テ決定スヘシ

一岩代二本松製絲會社ト定ム可シ

一信州ノ内人民設立ノ器械製絲場ヲ熟見シ地理ハ勿論水質及便否ヲ慮テ以テ決定スヘシ

右三ケ所ノ本社ハ官ニテ特別ニ保護シ一切官行同様ニ見做シ資本金ハ一個所僅カニ五萬圓ツヽヲ以テシ三ケ所ヲ合シテ拾五萬圓ヲ貸與シ進ム可キノ道ヲ開キテ誘導シ退カントスレハ奮勵ノ力ヲ添ヘ偏ニ根本ヲ堅固ニ成シ而シテ諸縣ノ器械所ハ勿論從前ノ手繰タリトモ上等ニ製絲スルモノハ望ニ應シテ組合ニ加入シ漸次利潤ヲ得セシムルノ方法ヲ行フヘシ

方法ノ一端ヲ揭クレバ

一目今器械ヲ建設スルノ有志者ト雖モ其人ト金力トヲ慮ラズシテ容易ニ奬勵ス可ラス

一從前ノ座繰製絲ヲ以テ一步進マシムルヲ以テ即今ノ急務トス是ハ戸毎ト揚簟ヲ糺シ適當ノ雛形ヲ造リテ以テ敎示シ歐米機工ニ於テ繰返シ難キノ憂ナカラシム

一其管轄廳ニ於テハ勸業寮ノ主意ヲ不誤厚ク監督保護ノ道豫メ協議及置ヘキ事

一右三ケ所ノ本社ハ素ヨリ組合タルヲ以テ申合横濱ヘ一店ヲ置其製絲賣捌ヲ始メ各國相場ノ通信及報告等ニ至ル迄便宜ヲナスヘキ事

一組合中ト雖モ營利上ノ都合ヲ能クスル而已ニテ相互ニ損益ハ關係ナキモノニ定ムヘシ

一横濱ノ一店ハ生絲精製仲間ノ賣店ト稱シ勸商局ニテ特別ニ保護シ或ハ監督ヲ出シ生絲ノ爲替金ヲ貸與シ若干ノ利子ヲ取ラシメ亦横濱ニ於テ賣買ノ分多少ノ口錢ヲ取其店ノ入費ニ充ツヘシ

一横濱ノ一店ニ於テハ各國ノ相場及ヒ時々ノ電報等至急三所ヘ達シ又歐米ノ報告書等ヲ熟知シ本邦ニ於テモ彼ニ準シ報告書ヲ作ラサル可ラス

一右貸與セシ生絲ノ爲替金ハ勸商局ニテ保護シ歐米ニ於テ直ニ上納セシムヘシ

右書面ノ体裁ニ基キ職業商業ヲ分別シ保護ノ箇月ヲ定ムルコト左ノ如シ

三所ノ本社ヲ勸業寮及其地方官ニテ保護スルノ箇月

第一條

一其製絲場ニ於テ精良ノ佳品ヲ造出シ至當ノ利益ヲ得一般人民ノ龜鑑トナスヘキ事

第二條

一近傍諸縣及內國中生絲ヲ精製スルモノヽ依頼ヲ受ケ器械ノ便否理財ノ方法等懇切ニ諭判シ組合ニ加入セハ爲替金ヲ貸與シ本社ノ生絲ト爲シ横濱ニ送ル可キ事

但遠隔ノ地方ハ横濱ニ於テ爲替金ヲ貸與スヘシ

第三條

一蠶種內國缺乏ト認ムルトキハ精良ノ品ヲ撰ミ適宜ニ取買之ヲ養蠶人ニ貸附シ翌年成繭ヲ以テ其代價ヲ返納セシムヘシ

第四條

一第一二三條ニ揭載スル事實ノ外資金ヲ流用ス可ラス

横濱ノ一店ハ商業ニ屬スルヲ以テ勸商局ニテ監督スルノ箇目

第一

一此店ノ頭取ハ三所本社ノ社長ニテ撰定シ店中一切ノ事務ヲ總括セシム

但政府及人民ノ信用ヲ得タルモノトス

第二

一本社ハ勿論組合中ノ生絲到着セハ直ニ撿査シ凡同等ノ區分ニ加ヘ其員數貫目等ハ帳簿ニ於テ明了ニ分別シ歐米適當ヲ考量シテ以テ輸出ス可シ

第三

一生絲着ノ上爲替金備用ヲ望ム者ハ時ノ相場ニ比較シ其代價十分ノ八ヲ貸スモノトス

第四

一利子取立ノ事

一器械製第一等　利子ハ年八朱ノ日賦

一二等以下　同　年一割ノ日賦

一坐繰製第一等　同年一割二分ノ日賦

一　同二等　同年一割五分ノ日賦

一同三等以下組合ニ入ラシム可ラス

第五

一直チニ橫濱ニ於テ賣込ヲ好ムモノハ其意ニ任セテ取計可シ

但商館ヘ賣込ヲ促ス可ラス

第六

一都テ賣込代價受取ノ上入費等ヲ去リ殘金ノ五厘（千圓付ニ五厘）ヲ手數料トシテ此店ニ收入シ殘金ハ荷主ヘ戻ス可シ

但橫濱ニテ賣込ノ分貸與金ノ利子ハ一等ヲ上ケテ之ヲ取立ツ可シ

第七

一着實ノ人材ヲ撰ヒ兩人ツヽ（一人ハ日本ノ事情ヲ熟知シ商業ニ巧ナルモノ一人ハ洋書通辨ヲ能クスルモノ）各國ニ出張セシメ賣却等ノ扱ヲ爲サシム

但此件不容易ナルヲ以テ一時各所ニ出ス能ハス其業ノ盛大ト其人ノアルトヲ待テ派遣ス可シ

第八

一各國生絲絹織物等ノ報告書等ヲ取集メ內國繭絲ノ高ヲ調査シ組合中ノ景況ヲ記錄シ盛損益ヲ糺シ年々ノ報告書ヲ作ラサル可ラズ

第九

一各製造所目印ノ外此店ニ於テ精製仲間ノ印紙ヲ作リ別ニ貼用スヘシ

第十

一生絲類ヲ以テ各國ニ輸出シ賣却ノ上ハ其地ニ於テ勘商局ヘ上納セシメ其代價ノ證書而已ヲ本國ヘ送ヲ可キモノトス

第十一

一最初横濱ニ於テ貸與セシ爲替金ヲ引去リ殘金ノ高ハ勘商局ヨリ受取利子ヲ引去リ猶殘金ハ荷主ヘ戻ス可シ不足ヲ生セハ荷主ヨリ取立ツ可キ事

第十二

一手數料及ヒ利子ヨリ生スルノ金ハ頭取ノ存意ヲ以テ之ヲ箇目ノ費用ト爲スヘシ雖然資本金ヲ以テ爲替金ノ外ノ貸與ハ勿論無抵當ニテ決シテ動カス可カラス

第十三

一賣込手數料及本店ヨリ貸與セシ金利ヲ以テ仕拂ノ箇目

一頭取ノ給料及此店一切ノ費用

一使役男女ノ給

一歐米出張人ノ費用

一都テ報告書ノ費用

第十四

一假令本社ノ出荷ト雖モ手數料及利子ヲ取立資本金ヲ以テ本社タリトモ融通ス可ラス又損失ヲ起スノ理ナシト雖モ万一損失ヲ生セハ本社ノ社長協議ノ上之ヲ償フ可シ

第十五

一此店ハ頭取及本社相當ノ三名ヲ以テ一ツノ商店ヲ開キタルモノトス故ニ件外ニ於テハ頭取ト雖モ三名ノ議決ニアラサレハ處分スル能ハス亦此店限リノ資金ノ豫定スルノ外不足ノ損失ハ如何樣ノ事故アルトモ本社ニ關係ナキモノトス

右融通ノ金員ハ凡百万圓前後ヲ勘商局ヨリ貸與シ猶追々各國爲替金ノ多少ヲ以テ差引シ常ニ百万圓前後ノ資本金トス如斯シテ漸々進歩セハ

上政府ニ於テ各國ヘ正金ヲ送ルノ手數無ク中ハ有志ノ力ヲ逃ヘ外ハ人民ノ產業ヲ補助シ國益年々增加スヘシ而シテ其便否ヲ試ミ担任ノ器量ヲ慮リ製茶ニ於テ同樣ノ事業ヲ兼シ

メ向後地方官ニ於テ製絲製茶ノ義ニ付拜借金ノ願ヲ停止ス

十二月内務省ハ本邦繭ノ各種及歐州蠶復種幷ニ支那三化蠶等ヲ試育センガ爲メ熊谷長野福島二縣下ヨリ養蠶ニ熟達セル者ヲ募リ各地ノ養法ニ據テ之ヲ飼育セシメ其發達經過ノ景況ヲ詳錄シテ各地ノ當業者ニ知ラシム

是年各港ヨリ輸出セシ蠶絲蠶繭ノ類左ノ如シ

生絲百八十六万四千二百四十九斤價金一千三百十九万七千九百二十一圓（七六二）

撚糸絲十五万三千九百九十三斤　同二十八万八千五百四十七圓

玉絲一千四百〇三斤　同二千圓

屑絲五十九万一千三百六十斤　同二十二万七千五百六十二圓

蠶卵紙百〇一万九千五百廿五枚　同百九十万〇二千二百七十一圓（一圓八十六錢）

眞綿五万八千八百五十八斤　同十一万一千五百〇四圓

繭五千七百二十斤　同一万一千四百五十圓

屑繭十五萬〇三百九十四斤

殼繭三十八萬九千九百四十二斤　同五万九千六百四十六圓

以上農務局調査

又横濱沼革誌ハ考證シテ左ノ如ク言ヘリ

明治九年横濱輸送ノ蠶種　百十九萬三千三百四十四枚

海外輸出蠶種　七十七萬六千〇八十八枚

輸出蠶種金高　百二十九萬八千三百九十五弗二分

内國積戻　四十一萬七千二百五十六枚

是年蠶種ノ入港スルモノ前年ノ二倍余ニ至リ到底勝利ナキヲ焦慮シ集議シテ減却方法ヲ講シタルニ空敷摺潰等ノ究策ニ出ンヨリ寧ロ積戻ニ如カズト之ニ決シテ四十余萬枚ヲ積戻シタルガ故相應ノ取引結果ヲ得タリ

明治九年了

明治十年一月熊本縣管內緒方儀八郎記スル所ノ樟蠶飼育法及ヒ生絲ノ次第ヲ內務省勸業局ニ進達ス是レ九年八月中勸農寮ヨリ取調方照會アリタルヲ以テナリ

因ニ曰ク曩キニハ勸業寮ト云ヒ今勸農局ト云フハ是月十一日內務省勸業寮ヲ廢シテ同十九日勸農局ヲ設ケラレタルニ依ル

三月是ヨリ先キ西曆一千八百七十六年（明治九年）伊太利亞佛蘭西國養蠶ノ不作ヲ本邦蠶種商ノ聞クヤ今年蠶種商人等ハ蠶種ノ利アルヘキヲ信シテ多數ノ蠶種ヲ開港場ニ輸送ス然ルニ我商人等ハ荷物持重ニ耐エス將ニ莫大ノ損失ヲ蒙ラントスルヲ以テ澁澤榮一等見ルニ忍ヒス議ヲ內務大藏兩省ニ上ル因ツテ資金二十萬圓洋銀三十萬弗ヲ桑一等ニ貸與シ以テ救護ノ事ヲ謀ラシメ二十七日兩省ハ處分ノ顚末ヲ太政官ヘ具狀セリ

同月內務省ハ左ノ如ク蠶種原紙買受手數ノ配賦料給與方左ノ如ク達ス

蠶種原紙買受配賦ノ手數料各地方蠶種製造組合取扱所ヘ給與方ノ儀明治八年當省乙第七十一號ヲ以テ相達置候處贏餘紙年跨ノ分等計算上煩雜ニ渉リ候ニ付爾后手數料ハ原紙拂受高ヲ以テ悉皆給與ノ積相心得原紙買下ケ相濟次第各廳豫備金ノ內ヲ以テ繰替渡方取計置右證書相添ヘ當省ヘ受取方可申立候此旨更ニ相達候事

但贏餘原紙ノ內白紙ノ儘差出代價差戻相願候分ハ原價ノ內配賦手數料ヲ引去リ候代價ヲ以テ買上候條豫テ管下蠶種製造人共ヘ可達置事

同月信濃國飯訪郡中洲村白鳥三郎曾テ所有ノ岩穴ニ風穴アルヲ發見シ恰モ同國安曇郡稻村ノ風穴ノ如キヲ以テ之レニ蠶種ヲ貯藏セン事ヲ長野縣ニ願フテ許可ヲ得タリ是レ長野縣ハ曩キニ安曇郡前田善三郎ヘ許可セラレタル例ニ依リ之ヲ許可スト內務省ニ開進セリ

四月太政官ハ生絲取締規則ナル者ヲ廢シ人民ノ自爲ニ放任シタリ而シテ又タ蠶種原紙規則ヲ改正シ生絲賣買鑑札ヲ廢止スル旨內務省ヨリ達セラル

生絲取締規則明治六年（一月）第三十二號布告及同年（四月）第百三十五號明治九年（三月）第三十六號追加共總テ相廢シ候條向后製造ノ生絲ハ其結紙ヘ繭眞綿出歟山繭等ハ其上包ヘ（某使）（府）（縣）管下國所姓名ヲ記シタル該製造人ノ印ヲ可捺此旨布告候事

四月二十五日

明治七年（二月）第十九號布告蠶種原紙規則第二條中（五月三十一日迄）ヲ六月二十日迄ト改正候條此旨布告候事

四月二十五日

明治六年第四十號大藏省布達生絲賣買鑑札ノ義以后廢止候條此旨相達候事

四月三十日

五月太政官ハ春夏兩蠶ノ飼育者其最寄ノ組合ニ附屬スルノ件左ノ如ク布告セリ

春蠶同時ニ飼立候候初度夏蠶種製造ノ者自今一般最寄蠶種製造組合ヘ附屬製種候樣可致候此旨布告候事

但該種用原紙ノ儀ハ明治七年（二月）第十九號布告蠶種原紙規則第七條ノ通可相心得

事

七月肥后國綠川製絲場西鄉隆盛叛逆ノ當時鹿兒島賊兵ノ爲メ蹂躙セラレ多ク資財ヲ失ヒ將ニ場ヲ倒スニ至ラントスルヲ以テ此月熊本縣ハ資金ノ貸與ヲ內務省ニ申請シ同省ハ之ヲ大藏省ニ稟議シテ許可ヲ與フ

是月本年製造ノ蠶種免許印紙ヲ定ム

八月山形縣米澤ニ製絲所建築ノ議興ル宮島誠一郎小森澤長政等頻リニ運動シテ勸業局官吏速水堅曹ニ圖ルト雖モ只タ担當者宜シキヲ得ルニ難シト時人言フ

同月勸農局ハ同局官吏速水堅曹ヲ以テ地方製絲實況取調トシテ武藏上野下野信濃飛彈以上五國ノ巡回ヲ爲サシム

偶々滋賀縣四等戶屬高谷光雄十等屬出任森幸太郎等同縣廳ノ命ヲ請ケ堅曹ニ謀テ製絲術研究ヲ爲サント上京シタルニ堅曹ハ前頂ノ如クナルヲ以テ兩人ヲ隨行シ供ニ五國ニ巡回ス

是月第一回勸業博覽會ヲ東京府上野公園ニ開ク　天皇皇后兩陛下俱ニ御臨幸開場ノ式ヲ擧ゲ賜フ　皇族大臣參議以下及外國使臣等倍從ス　天皇勅ヲ賜フテ曰ク

爰ニ內國勸業博覽會開場ノ日ニ當リ朕躬ラ臨ミ開場ノ典ヲ行フ朕惟フニ會場ノ整備セル列品ノ良好ナルヲ以テ知識ノ日ニ開明ニ赴キ工藝ノ月ニ進ムヲ徵ス可シ而シテ有志勉勵ノ功モ亦小ナリトセス殊深ク之ヲ嘉ス朕更ニ望ム人民ノ益々奮勵シ產業ノ益々繁盛シ我全國ヲシテ永ク殷富ノ幸祉ヲ享ケシメンコヲ

式畢ツテ列品ノ審查ニ着手ス繭絲ノ部ニ於テハ審查官トシテ速水堅曹主任官ヲ命セラレタリ然レモ是日本ニテ未タ審查ノ何物タルヲ知ル者ナク所謂繕失ノ事業實ニ困難ニシテ止ムヲ得ス奧村醇ヲ申立テ補助セシメ且高木大之進ヲ品評人トナシタレ共皆不馴ニテ事務上ラス蓋シ本邦ニ於テハ始メテノ事ナルガ故綿密周到不正ノ事ナク全ク公正ノ審查ヲ了スルニ

至ル審査報告ノ要領タル者左ノ如シ

審査報告

繭ノ部

博覽會場陳列ノ繭ヲ見ニ頗ル良繭ト稱スルモノハ至テ少シ養蠶ハ本邦第一ノ產業ト雖モ其拙巧ニ依テ許多ノ損益ニ關係ス譬ヘハ美質ノ絲量ヲ多ク有スルモノヲ以テ粗惡ニシテ絲量僅少ノモノニ比スレバ實ニ莫大ノ徑庭ナリ佳質ノ良繭ハ第一細美精好ノ生絲ヲ得ヘリ第二繰絲ノ工手ヲ費サス第三絲量甚タ多シ斯ノ如キヲ以テ衆ノ望ニ協ヘ貴重ノ價格タル事論ヲ俟タス又粗惡ノ物品ニ於テハ之レニ反シ不均ノ惡絲ヲ得ルニ幾多ノ工手ヲ費シ而シテ絲量甚タ少シ斯ノ如キヲ以テ他人求得ノ意ニ適セス價格ノ廉タル是亦論ヲ俟タス各自營利ノ目的ヲ同一ニシテ人々同シク養蠶シ結果ノ收獲ニ至リテ雲壤ノ差異有ル所以ノ者ハ何ソヤ風土ノ適否ニ關係スルモノ幾許モナクシテ養蠶ノ巧拙ニ均與スルモノ甚多シ苟モ蠶ヲ養ハント欲スルモノ宜シク精良ノ蠶卵ヲ撰ム可ク宜シク風土ノ適否ヲ參考スヘク宜シク寒暖ノ保護ニ注意スヘシ今各地產繭ノ景況ヲ察セン爲メ開場列品試驗表ノ中ヨリ拔萃スルヿ左ノ如シ

宮城縣試驗場出品

一春蠶白繭大ノ中形ニシテ上ノ上ニ位ス　上品ヲ撰ンテ之ヲ試驗シ假リニ數ヲ設ケテ位ヲ定ム

此對數

二千七百九十二　繭一粒繰揚ケタル絲ノ長サ二千七百九十一尺七寸ナル以テ之ニ定ム

二千百　右絲量ノ目方七リンアルヲ以テ之レニ定ム

合四千八百九十二粒　節無ク又一度モ切斷スルヿナシ

廣島縣管下備後國深津郡福山町

齋藤素軒

一春蠶白繭大ノ大形ニシテ上ノ中品ニ位ス　前ニ同シ

此對數

二千八百二十七　繭一粒繰揚ケタル絲ノ長サ二千八百二十七尺三寸ナルヲ以テ之レニ定ム

千八百九十六　右絲量ノ目方六リン三毛二絲ナルヲ以テ之レニ定ム

合四千七百二十三

內

四十五　四百尺中質節三ツアリ一ツノ節ハ十五ヲ以テ算シ則其數ヲ減ス
六十　繰終迄五度切斷ス一度ノ切斷十二ヲ以テ算シ其數ヲ減ス
殘
四千六百十八位

一春蠶白繭大ノ中形ニシテ上ノ上ニ位ス前ニ同シ　福島縣管下岩代郡伊達郡山戶田村　丹治梅吉

此對數
二千六百三十四　繭一粒繰揚ケ絲ノ長サ二千六百三十三尺六寸ナルヲ以テ之レニ定ム
二千十六　右絲量六リン七毛二絲ナルヲ以テ之レニ定ム
合四千六百五十
內
十五　四百尺中節一ツアリ則チ前同斷ノ割ヲ以テ減ス
二十四　繰終迄二度切斷ス則チ前同斷ノ割ヲ以テ減ス

殘
四千六百十一位

一春蠶白繭中ノ大形ニシテ俗ニ鬼縮ト稱ス上ノ上ニ位ス　前ニ同ジ　群馬縣管下上野國甘樂郡富岡町　佐藤國太郎

此數二千七百二十九　繭一粒繰揚ケ絲ノ長サ二千七百二十八尺五寸ナルヲ以テ之ニ定ム
千八百四十八　右絲量六リン一毛六絲アルヲ以テ之レニ定ム
合四千五百七十七位

縣名	福島縣	長野縣	山形縣
人名	丹治伊左門　菅野運作	原良平　小出八郎右衛門	佐々木宇右衛門　榊原十兵衛
繭形	白中ノ大形ニシテ上ノ中ニ位ス	白中ノ中形ニシテ上ノ中ニ位ス	白中ノ大形ニシテ上ノ中ニ位ス
絲長	二千二百七十三尺七寸	二千四百五十二尺六寸	二千二百十七尺四寸	二千百七十千七百七十八尺二寸	千七百七十九尺四寸
絲量	五リン六毛四リン九毛	四リン九毛三毛	五リン三毛三リン九毛

四百尺ニ付質節數	繰終迄ノ切斷數	對數位	縣名	人名	繭形	絲長	絲量	四百尺ニ付質節數	繰終迄ノ切數斷	對數位	縣名
、	、	三千九百五十四位	石川縣	柴田又平	青白中ノ中形ニシテ上ノ下ニ位ス	千七百三十九尺九寸	四リン二毛	四	五	二千八百八十位	神奈川縣
一	五	三千七百六十八位		永田半二	青白中ノ小形ニシテ中ノ中ニ位ス	千八百六十尺八寸	三リン	四	三	二千四百六十五位	
六	十四	三千六百七十四位	靜岡縣	仁田大八郎	白大ノ小形ニシテ中ノ中ニ位ス	千五百八十一尺七寸	四リン九毛	四	、	二千九百九十二位	新潟縣
、	一	三千八百一位		佐藤元吉	白大ノ中形ニシテ中ノ上ニ位ス	千八百九十八尺一寸	三リン三毛二	七	四	二千七百四十一位	
六	一	三千六百七十六位	山梨縣	勸業塲	白小ノ中形ニシテ上ノ下ニ位ス	千五百四十二尺二寸	二リン八毛	九	四	二千百九十九位	岡山縣
、	七	二千八百六十五位		古川八之亟	白青ノ中形ニシテ中ノ中ニ位ス	千六百六十一尺一寸	四リン二毛	五	二	二千八百二十二位	

人名	繭形	絲長	絲量	四百尺ニ付數質節	繰終迄切斷數	對數位	縣名	人名	繭形	絲長
八木太郎右工門	白中ノ中形ニシテ中ノ中ニ位ス	千五百九十三尺六寸	四リン三毛九	、	七	二千八百二十七位	青森縣	今田眞守	白小ノ小形ニシテ中ノ上ニ位ス	千六百四十一尺
田代平兵衛	白中ノ小形ニシテ中ノ中ニ位ス	千七百〇〇尺三寸	四リン七毛	三	四	三千〇十七位		永瀨	白小ノ中形ニシテ中ノ中ニ位ス	二千二百十四尺四寸
井上貞藏	白中ノ小形ニシテ中ノ中ニ位ス	千七百三十九尺九寸	四リン二毛	五	二	二千九百〇一位	群馬縣	今井七郎平	白中ノ大形ニシテ上ノ中ニ位ス	千九百七十七尺一寸
井口林藏	青白大ノ中形ニシテ中ノ下ニ位ス	千五百四十二尺二寸	三リン九毛二	八	四	二千五百五十位	栃木縣	大島商店	白大ノ中形ニシテ上ノ中ニ位ス	千九百三十七尺六寸
殖產商社	青白ノ大形ニシテ上ノ中ニ位ス	二千二百十四尺四寸	五リン〇四	二	、	三千六百九十六位	千葉縣	石橋傳右工門	白中ノ中形ニシテ中ノ下ニ位ス	千七百四十七尺六寸
中村安太郎	青白大ノ中形ニシテ上ノ中ニ位ス	二千四百〇八尺四寸	五リン六毛	二	三	四千〇二十二位	茨城縣	小川長四郎	青中ノ中形ニシテ中ノ下ニ位ス	千五百八十一尺七寸

絲量	四百尺ニ付質節數	繰終迄切斷數	對數位	縣名	人名	繭形	絲長	絲量	四百尺ニ付質節數	繰終迄切斷數	對數位
三リン五毛	三	四	二千五百八十二位	愛知縣	縣廳	白大ノ中形ニシテ上ノ下ニ位ス	千八百十九尺一寸	四リン二毛	五	、	三千〇〇四位
四リン二毛	五	二	三千三百七十五位	秋田縣	佐藤政忠	青白大ノ中形ニシテ上ノ下ニ位ス	二千百七十四尺	四リン九毛	七	五	三千四百七十九位
四リン九毛	三	二	三千三百七十八位	島根縣	都築重藏	青白大ノ大形ニシテ上ノ下ニ位ス	千八百九十八尺一寸	四リン二毛	四	三	三千六十二位
三リン九毛二	二	六	三千〇〇六位	熊本縣	嘉悅信之	白大ノ小形ニシテ中ノ中ニ位ス	千五百八十一尺七寸	六リン一毛六	一	二	三千三百九十一位
三リン九毛三	二	六	二千八百二十五位	大阪府	小野述信	白大ノ大形ニシテ上ノ中ニ位ス	二千五百三十尺	五リン六毛	九	一	四千六十三位
三リン五毛	二	十二	二千四百五十八位	東京府	松本久次郎	青白大ノ大形ニシテ中ノ上ニ位ス	二千〇五十五尺二寸	四リン九毛	八	五	三千三百四十五位

生絲ノ說

博覽會場ニ列品ノ生絲ヲ見ルニ器械製甚精好ノ品ニシテ從前ニ比スレバ殆倍價ニ至レリ意外ノ進步ト云ヘキモノ有リ則龍紋賞牌ヲ得タルノ類是ナリ亦手繰製ト雖𪜈敢ラ器械製ニ讓ラス均一精良ノ品ニシテ許多ノ進步ヲ來タセシモノ有リ則チ福島縣下ノ折返シ絲ノ類是ナリ本邦緊用ノ物產ヲシテ今斯ニ進步セシハ實ニ上下ノ幸福ノミナラス眞ニ國益ヲ起スノ先達ト云モ可ナリ其他ハ鐵砲造リ有リ提絲ニシテ綾取ノ篗ヲ用ヒザルアリ外見美麗ニシテ再繰ニ困難ノ品アリ外見細美ニシテ細キニ過クル者アリ故サラニ枠手ヲ堅メ再繰ヲ顧ミス外見ヲ錺レル者アリ斯ノ如キモノハ皆利益ヲ得ルノ目的ニ反セシモノナラン乎然而シテ此列品ヲ製スルハ尋常ノ製品ニ比スレハ最注意セシモノナラン然レ𪜈注意ノ目的ヲ失シ尋常ノ製却テ勝レル者ナシト云ヒガタシ惜ムベキノ至リナラスヤ本邦生絲ヲ輸出シ歐米ニ於テ貴重セラレス高價ヲ得ル能ハサル所以ノモノハ偏ニ粗製ノミニ無之再繰ノ節綾取ノナキ揚篗ヲ用ヒ猶彼國ニ於テ幾多ノ手數ヲ增シ加フルニ屑絲ヲ釀スモノナリ譬ヘハ伊佛ノ生絲ヲ百斤繰返スニ十人ノ工手ヲ費スモノトスル𪜈ハ日本ノ粗製ヲ繰返スニハ殆ド五十人ノ工手ヲ費ス可ク然ラハ四十人ノ給料食料ハ元買入ノ絲代ヲ減セスシ

テ何レヨリ此失費ヲ拂フヤ則チ高價ヲ得ル能ハサルノ一也亦伊佛ノ絲百斤ヲ繰返スニ一分ノ屑物ヲ出ストスル片ハ日本ノ粗製ハ四分乃至五分ノ屑物ヲ出ス可ク如何ントナラハ一度口ヲ失スレハ綾取ノナキヲ以テ口ヲ求メントスルモ容易ニ得可カラサルノ故ナリ然ラハ此三四分ノ損失ハ元買人ノ絲代ヲ減セスシテ何レヨリ此損ヲ償フヘキヤ則チ高價ヲ得ル能ハサルノ二ナリ依テ將來生絲ヲ製造スルノ大目ヲ案スルニ左ノ五條アリ

第一元繭ヲ精撰スヘシ

第二節ナクムラナキニ心ヲ用ユヘシ

第三綾取ノ揚簀ヲ用ヒ彼國ニ於テ再繰ノ節手數ヲ要セサル事ヲ慮リ親切ノ意ヲ失フ可ラス

第四同樣ノ物品ヲ多量造出スルニ注意スヘシ

第五信實ノ營業ヲ爲シ衆庶ニ信ヲ取ルヘキヲ肝要トス可シ

參考ノ爲メ會場陳列ノ生絲試驗表ノ中ヨリ拔萃スレハ左ノ如シ

福島縣管下岩代國安達郡二本松舊城趾

一白春蠶ノ良繭製絲

二本松製絲會社出品

此對數八百　品位及內外ノ信用ヲ參考シテ假ニ位ヲ定ム

內	
二十	テニールニ對スルノ延量ニ過ルヲ以テ之ヲ增ス　但一ヲ以テ算ス
七	テニール試驗四百廻リツ、表裏四ツノ內半テニールノ差ヲ生スルヲ以テ之ヲ減ス　但十五ヲ以テ算ス
二十四	強力ノ多少ナルハ絲ニムヲアルノ證トナシ則チ二ヲ以テ算シ其數ニ當ルモノヲ減ス
四十五	延度ニ不同アルハ絲ニムラアルノ證トシテ則チ一ヲ以テ算シ其數ニ宛タルモノヲ減ス
二十八	四百回廻リ試驗中表裏平均節四ツアリフシコキ器械ニ膺ツテ切斷セルモノハ七ヲ以テ算シ其數ヲ減ス
三十	同斷表裏平均小フシ三十アリフシコキ器械ニ膺ツテ切斷セサルモノハ一ヲ以テ算シ則チ其數ヲ減ス
四	同斷表裏平均一度ツ、切斷ス試驗中切斷スルモノ四ヲ以テ算シ其數ヲ減ス

右增減差引

殘位對數六百八十二輸出ノ大ナルト國益ノ著名ナルトヲ參酌シニ一創ヲ增ス

本位七百五十

一白春蠶ノ良繭製絲

廣島縣管下備後國深津郡福山町

齋藤素軒出品

此對數八百　品位及注意勉勵ヲ參考シテ假ニ位ヲ定ム

	內	
四	デニールニ對スル彈力ニ過クルヲ以テ之ヲ增ス	但二ヲ以テ算ス
三十五	デニールニ對スル延量ニ過クルヲ以テ之ニ增ス	但一ヲ以テ算ス
七	テニール試驗四百廻リツヽ、表裏四ツノ內半テニールノ差ヲ生スルヲ以テ之ヲ減ス	但十五ヲ以テ算ス
三十四	耐強力ノ多少ナルハ絲ニムラアルノ證トシテ則チ二ヲ以テ算シ其數ニ宛タル者ヲ減ス	
二十一	四百廻リ試驗表裏平均節三ツアリフシコキ器械ニ膺ツテ切斷スルモノハ七ヲ以テ算シ其數ヲ減ス	
三十	延度ニ不同アルモ絲ニムラアルノ證トナシ則一ヲ以テ算シ其數ニ宛タル者ヲ減ス	
六	四百廻リ試驗表裏平均小フシ六ツアリフシコキ器械ニ膺ツテ切斷セサルモノハ一ヲ以テ算シ其數ヲ減ス	
八	同斷表裏平均二度切斷ス試驗中切斷スルモノハ四ヲ以テ算シ其數ヲ減ス	

右增減差引

殘對數七百三十三　本位

一青白蠶良繭製絲

石川縣管下加賀國金澤町

金澤製絲社出品

此對數八百　品位及內外ノ信用ヲ參考シテ假リニ位ヲ定ム

	內	
六	テニールニ對スル彈力ノ不足ナルヲ以テ之ヲ減ス	但二ヲ以テ減ス
三十	テニール試驗四百廻ツヽ、表裏四ツノ內二テニールノ差ヲ生スルヲ以テ之ヲ減ス	但十五ヲ以テ算ス
四	耐強力ノ多少ナルハ絲ニムラアルノ證トナシ則チ二ヲ以テ算シ其數ヲ減ス	
十四	延度ニ不同アルモ絲ニムラアルノ證トシテ則チ一ヲ以テ算シ其數ヲ減ス	
二十一	四百廻リ試驗中表裏平均三ツ半ノ節アリフシコキ器械ニ膺リ切斷スルモノハ七ヲ以テ算シ其數ヲ減ス	
三十二	同斷表裏平均小フシ三十二アリフシコキ器械ニ膺リ切斷セサルモノハ一ヲ以テ算シ其數ヲ減ス	
十二	同數表裏平均三度ツヽ、切斷ス試驗中切斷スルモノハ四ヲ以テ算シ其數ヲ減ス	

右引

殘位對數六百八十一輸出ノ大ナルト國益ノ著名ナルトヲ參酌シ之ニ七分ヲ增

本位七百二十八

一青白春蠶ノ良繭製絲

栃木縣管下下野國河內郡石井村

大嶋商社出品

五百六十三

此對數八百　品位及內外ノ信用ヲ參考シテ假ニ位ヲ定ム

內	
四	テニールニ對スル强力ノ不足ナルヲ以ヲ之ヲ減ス　但二ヲ以テ算ス
二十五	テニールニ對スル延量ニ過クルヲ以テ之ヲ減ス　但一ヲ以テ算ス
二十二	四百廻リ試驗中表裏平均一テニール半ノ生ヲ差スルヲ以テ之ヲ減ス　但十五
三十	强力ノ多少ナルハ絲ニムラアルノ證トシ則チ一ヲ以テ算シ其數ニ宛タルモノ
二十	延度ニ不同アルモ絲ニムラアルノ證トシ則一ヲ以テ算シ其數ニ宛タルモノヲ
二十一	減ス
三十七	四百廻リ試驗中表裏平均節三ツアリフシコキ器械ニ膺テ切斷スルモノハ七
八	ヲ以テ算シ其數ヲ減ス
	同斷表裏平均小節三十七アリコシコキ器械ニ膺テ切斷セサルモノハ一ヲ以テ
	算シ其數ヲ減ス
	同斷表裏平均二度切斷ス試驗中切斷スルモノハ四ヲ以テ算シ其數ヲ減ス

右增減差引

殘位對數六百八十三輸出ノ大ナルト國益ノ著名ナルトヲ以テ之ニ七分ヲ增ス

本位七百三十

一春蠶良繭製絲

此對數八百　品位及內外ノ信考ヲ參用シテ假ニ位ヲ定ム

內	
十四	テニールニ對スル强力ノ不足ナルヲ以テ之ヲ減ス　但二ヲ以テ算ス
三十	ニニールノ試驗四百廻リツ、表裏四ツノ內二テニールノ差ヲ生スルヲ以之ヲ
二十	減ス
	テニールニ對スル延量ノ過クルヲ以テ之ヲ增ス　但一ヲ以テ算ス
十六	强力ノ多少ナルハ生ニムラアルノ證トシテ則チ二ヲ以テ算シ其數ニ宛タル者
三十五	延量ノ多少ナルモ絲ニムラアルノ證トシテ則チ二ヲ以算シ其數ニ宛タルモノ
	ヲ減ス
二十八	四百廻リ試驗中表裏平均節四ツアリフシコキ器械ニ膺テ切斷スルモノハ七ヲ
	以テ算シ其數ヲ減ス
三十六	同斷表裏平均小節三十六アリフシコキ器械ニ膺テ切斷セサルモノハ一ヲ以算
	シ其數ヲ減ス
十二	同斷表裏平均三度ツ、切斷ス試驗中切斷スルモノハ四ヲ以テ算シ其數ヲ減ス

右增減差引

殘位對數六百四十九輸出ノ大ナルト國益ノ著名ナルトヲ參酌シテ八分ヲ增

本位七百　以下畧ス

縣名	對數位人	名
福島	六百十	丹治梅吉
同	六百七十三	片平萬吉
同	六百六十	鳴原傳左衛門
同	六百五	遊佐要助
同	六百三	小野平吉
同	六百四十二	安田利作
同	六百三	小野寅吉
同	六百十六	永沼久太郎
同	六百六十四	片平與藏
同	六百七十二	大橋佐次兵衛
長野	六百六十六	青木甚九郎
同	六百五十一	小田切武兵衛
秋田	六百三十五	高橋平四郎
同	六百三十五	瀨川安五郎

縣名	對數位人	名
福島	六百三十六	今井金三郎
同	六百十四	鳴原慶藏
同	六百四十四	岩淵兵右衛門
群馬	六百二十三	關根製絲處
同	六百五	勝山宗三郎
同	六百四十九	石原重勝
山形	六百四十二	堀尾重輿
同	六百三十四	多勢龜五郎
同	六百六十三	佐々木宇右衛門
高知	六百八十九	近藤シカ
島根	六百四十三	都筑重成
山梨	六百六十六	志村權右衛門
同	六百三十九	風間金八

同	六百二十九	佐藤政忠	熊本
群馬	六百三十七	早野長太郎	岡山
福岡	六百二十二	青梅松次郎	神奈川
同	六百五十	怡土甚次郎	京都
青森	六百五	今田眞守	大阪
埼玉	六百三十二	黑澤次郎	

六百四十六　絲川製糸所

六百四十　殖產會社

六百五十九　田代平兵衛

六百三十六　野村捺一郎

六百三十　小野逓信

十月是ヨリ先キ明治八年内務省勸農局佐々木長淳ガ建議ニ依ツテ設置スルニ至リシ上野國緣野郡新町紡績所建築功ヲ奏シ玆ニ十月開業式ヲ行フ尋テ同場建築ノ爲メ雇ヒシ器械裝置方教師獨逸國人マルチン及建築方教師同國人グレーブエン雇期滿ルヲ以テ雇ヲ解ク

同月内務卿大久保利通大藏卿大隈重信工部卿伊藤博文勸農局長松方正義參議佐野常民内務少輔前島密及河瀨秀治人見寧等上野國富岡製絲所ノ巡覽ヲ爲シ畢ツテ前橋ニ至リ關根村ニ設立セル關根製絲場等ヲ一覽セリ

同月福島縣二本松製絲會社長佐野利八ハ亞米利加國ヘ生絲賣込店ヲ設ケ山田修ヲ派遣シ且勸商局員福井信ニ辭職セシメテ山田修ト共ニ紐育府ニ於テ生絲ノ賣買ニ從事セシメン事ヲ

決定セリ

同月長野縣令ハ同縣下ニ勸業製絲場ノ新設ヲ企テ之ヲ速水堅曹ニ商議スル所アリシニ官設ノ不可ナル所以ヲ以テ遂ニ止ミシト云フ

同月横濱ニ出張シアル本邦蠶種商人等蠶種多數輸送シ來リ販路大ニ究シ持久ノ策到底覺束ナキヲ以テ商人等集會シ左ノ如ク仲間申合ヲ爲シ次テ左ノ誓約書ヲ起草シテ之ニ調印ヲ了シ愈素志ヲ達セント謀ル

仲間申合之事

本年蠶種賣捌方困難ノ際荷主方ヨリ減方法等御依賴有之候處右ハ商賣ノ豊凶論スルニ不及トモ買人ニ於テモ殘紙ノ成果ヲ掛念致シ且殘種送荷等可相成其外憂慮スル所ヨリ此低價ニ於テ却テ買人モ困惑ニ相見得ヘ加之彼等歸國ノ上今春ノ如ク賣殘リ損失セハ明年渡來ノ程モ難斗終ニ買人相減シ候節ハ結局損毛我ニ歸スルノ道理ニシテ到底悉皆捌方不成相ハ各自同一迚モ賣殘ルヘキモノナレハ篤ト御相談ノ上各客需ニ應シ總數ノ何分カ相癈シ可申事ニ決議イタシ候依テハ明日中荷主方御承知ノ趣調印ノ上現在高取調書可差出萬一御不承知ノ荷主方御座候ハヽ、御名前相記集議所ヘ可差出候依之仲間一同連印致シ候也

明治十年第十月十五日

土橋佐七	荻原賢次郎	三堀武造	川喜多定兵衛		
平川新右工門	伏島近藏	中山萬造	關口藤七		
工藤市太郎	辰巳平三郎	細井久次郎	生方平右工門		
藤田常七	橋本安兵衛	半田五郎兵衛	星野惣七		
上原四郎左工門	串田信太郎	雨宮敬次郎	田島清助		
寺田廉平	田中平八	池上眞平	茂木惣兵衛		
西村新七	土屋清太郎	原善三郎	織田莊太郎		
大濱忠三郎	三上新太郎	川戸幸兵衛	深澤光次郎		
新井幸三郎	高橋惣兵衛	山本巳之助	榎本德兵衛		
渡邊喜八	高石慶藏	山田斧五郎	清水李兵衛		
田部井芳兵工	中山登乃作				

誓約書

一明九月ヨリ蠶紙半高減方取調出來候迄仲間一同賣込方差控候儀別紙申合ノ通堅ク相守

可申事

一蠶種減方方法ノ儀ニ付每問屋荷主ノ內ヨリ荷主總代理人一兩名ヘ委任狀相渡シ町會所二階ヘ明十九日午前七時出頭可被致事

一各問屋主人支配人ノ內明十九日午前七時限出頭可致候事

右ノ通一同協議ノ上決定候條御連印有之度候也

明治十年第十月十八日

小島源次郎　星野宗七　岡本龜三郎　石塚國吉
串田信太郎　小林彥助　野口元之助　雨宮敬次郎
高橋惣兵衛　西村新七　松村彌兵衛　大橋佐七
三堀武藏　川合幸之助　辰己平三郎　安田善太郎
西村七兵衛　橋本安兵衛　伏島近藏　福島瀨兵衛
藤田常七　工藤市太郎　小林榮吉　遠藤忠作
平川新右衛門　田中平八　川喜多定兵衛　細井久次郎
織田莊太郎　半田五郎平　水見喜兵衛　新井幸三郎

生方平右衛門　馬越恭平　原善三郎　鈴木宇右衛門
關口藤七　田島清助　清水李兵衛　金子平兵衛
中里忠兵衛　田部井芳兵衛　田村島藏　高石慶藏
池上眞平　深海守藏　荻原賢次郎　星野惣七
茂木惣兵衛　手塚莊兵衛　高橋萬右衛門　深澤光次郎

十一月宮城縣ハ蠶種組合條例ニ據準シ是年製造蠶種檢查ノ上其粗製ナルモノヲ燒棄シテ斯業前途ノ害惡ヲ除クト內務省ニ申告ス

同月曩キニ蠶種販賣善後ノ策ヲ以テ集會申合ヲナシタル蠶種商人等ハ更ニ又タ左ノ仲間議定書ヲ作リ以テ益々其素志ヲ達セント計ル事トナル

仲間議定書

本年蠶種賣却ノ際悉低價ニ相成荷主ノ御難澁ハ不及申仲間中出荷ノ困難ニ立至リ候ニ付連日會議ノ上各問屋入荷ノ分今般現在高取調減方可致決定イタシ候依テ不伏ノ荷主ヘハ篤ト熟說可致事

第一條

各問屋へ入荷ノ分蠶種紙明細取調書相整候迄ハ賣込方見合明十七日取調相附可申事

第二條

今般問屋一同協議ノ上現在高ノ内半高減方決定致候事

第三條

是迄商舘へ價格取定ナク持込置候荷爲ノ其者賣込候原問屋へ仲間一人宛立會取調速ニ引出現在調へ組込可申事

第四條

直段相定持込候荷物買人檢査延引ニ相成候分ハ一旦賣捌候品ト見做彌檢査濟次第殘種引戻シ減方ニ候事

第五條

各問屋ヨリ日々五人並荷主總代一人ツヽ出張減方事務取扱可申事

但賴合等有之節者勝手次第ノ事

第六條

今般種紙減方ニ付右事務取扱總括人撰依賴候上ハ百事右總括人差圖ニ隨ヒ現在取調明瞭

ニ可致候萬一隱置后日顯ハルヽニ於テハ何樣ノ督責ヲ請候テモ聊申分無之事

附人足其他諸事雜用替拂等ハ總括人ノ見込迄ニ相任セ可申事

右ノ通仲間一同叶議ノ上決定イタシ候條相違無之ニ付各自堅ク相守聊違背致間敷候万一壹ヶ條タリトモ相背候者ハ何樣ノ御扱被成候共其節ニ至リ一言ノ議申間敷候依之連印イタシ候也

明治十年第十一月

池上眞平　馬越恭平　高橋万右工門　牧野惣十郎

石塚國吉　中村惣兵衛　堀越茂三郎　外村雨平

鈴木卯右衛門　手塚庄兵衛　手塚清五郎　小島源次郎

若尾幾造　金子平兵衛　野口元之助　田村島藏

飯島勇造　木村幸助　杉浦藤助　山田駒吉

奥村重兵衛　遠藤忠作　小林榮吉　吉田幸兵衛

江竹宇吉　渡邊喜藏　西村七兵衛　福島瀨兵衛

小林彦助　安田善三郎　八重垣周吉　池田和西郎

新海守藏　河合幸之助　中里忠兵衛　名取莊三郎
水見喜兵衛　岡本龜三郎　松村彌兵衛　細井久次郎
生方平右衛門　藤田常七　橋本安兵衛　半田五郎平
星野惣七　上原四郎左衛門　串田信太郎　雨宮敬次郎
田島清助　寺田籠平　田中平八　茂木惣兵衛
西村新七　土屋清太郎　原善三郎　織田莊太郎
大濱忠三郎　三上新太郎　河戸幸兵衛　深澤光次郎
新井幸次郎　高橋惣兵衛　山本己之助　榎本德兵衛
渡邊喜八　高石慶藏　山田斧五郎　清水李兵衛
田部井芳兵衛　中山登乃作

然ルニ田島清助田部井芳兵衛池上眞兵衛等此契約ヲ違背シタル行爲アリトナシ飯島勇造中山登乃作兩人惣代トナリ賣込蠶卵紙故障ノ訴ヲ橫濱裁判所ニ提起乃チ是月同裁判所ハ判定ニ原告ハ右故障ノ權利ナキ者ト左ノ如ク判定ヲ與ヘタリ

判決書

神奈川縣第一大區一小區橫濱本町
五丁目六十九番地
賣込渡世
原告　飯島勇造

神奈川縣第一大區一小區橫濱元濱町
四丁目三十九番地
賣込渡世
中山登乃作代理
原告　鈴木正作

神奈川縣第一大區一小區橫濱南
仲通二丁目
賣込渡世
田島清助代理

賣込蠶卵紙引渡故障之訴

其方共詞訟遂審議處原告訴フル要領ハ明治十年全國蠶種製造高伊佛兩國ノ需用ニ數倍シ非常ノ低價ナルヲ以テ昔年ノ節減法ニ倣ヒ商買所有ノ幾分ヲ積立テ海水ニ漬シテ需用人ノ必用數ニ減シ其價格ヲ騰貴サセントス欲シ明治十年十月十五日賣込問屋一同會議ヲ開キ第一號證ノ如ク仲間申合セヲ爲シ其方法六ヶ條ヲ議定シタリ即チ第三號證是レ也而シテ

五百七十六

被告　梅津三之助
神奈川縣第一大區一小區横濱
辨天通一丁目三番地
賣込渡世

被告　田部井芳兵衛
神奈川縣第一大區一小區横濱
辨天通二丁目二十九番地
賣込渡世

池上眞兵工代理

被告　中島織藏

又第四號證ノ如ク明治十年十月十六日ハ仲間一同賣込休業ト相決シ次テ十九日ニ至リ第二號證ノ如ク原告兩名仲間一同ヨリ節減方事務取扱總括ノ委任ヲ受ケ從テ明治十年十月二十六日臨時會議ヲ開キ各持高七分ヲ積立テ海水ニ投スヘキヿニ決議シタリ然ルニ被告人共ハ明治十年十月十六日ヨリ十八迄ニ外國商館ヘ万餘ノ蠶紙賣買約定ヲ爲シ已ニ本日即明治十年十月二十九日其約定ヲ遂ケ授受スル趣ナレモ豫テ決議通リ持高七分ノ蠶種紙ヲ積立サル內ハ該品引渡ハ原告ニ於テ故障アル旨申立被告答フル要旨ハ原告訴フル如ク明治十年十月十五日蠶種紙節減方ニ付賣込問屋一同會議ヲ爲シ其方法ヲ評議シタレモ遂ニ一定セス依テ翌十六日即明治十年十月十六日ハ仲間一同賣込ミ休ミト相決シタル處十七日ニ至リ集議所ヨリ時分柄ノ義ニ付各自商賣ノ差支無之爲メ云々ト回達アリタリ即チ第五號證是レ也由是觀之原告提供スル第一號及ヒ第三號證ハ既ニ無効ニ歸シタルモノニシテ被告人共ノ明治十年十月二十九日外國商館ヘ引渡シタル蠶種紙ノ內田島清助ハ明治十年十月十六日田部井吉兵衛ハ明治十年十月十七日午后四時過池上眞兵衛ハ明治十年十月十八日ニ賣買約定シタル分ニシテ明治十年十月二十六日臨時會議ノ條款ニ背キタル廉無之ニ依リ原告ノ需メニ難應ノミナラス原告ヨリ故障ヲ受ケ何キ道理ナキ旨申立タリ依

テ判決スル左ノ如シ

原告ノ陳辨スル如ク明治十年十月十五日當港賣込渡世ノ者集會ノ末蠶種紙節減ノ方法ヲ豫定シタルコトハ原被告口供吻合又十月十六日休業ノ事ハ被告三名モ肯スル所ナリ而シテ被告ノ內田島清助ハ其休業ノ日即明治十年十月十六日外國商館ト賣買ノ契約ヲ取結ビタルハ正シク仲間申合セニ違背セシモ其翌日即明治十年十月十七日集議所ノ回達書ニ仲間ノ內調印不致者モ有之至急ニハ行届難キ樣ニモ存候間此段御通知申上候尤調印書ノ儀ハ追テ整可時節モ可有之候間其儘御預リ申置候此段時分柄ノ儀ニ付各商賣ノ御差支無之爲メ云云トアルニ據レハ其申合ハ當時ニ在リテ未タ確定セシモノニアラズシテ仲間一同調印濟迄ハ依然自由賣買ノ權利ヲ許容セシモノタリ而シテ原告ノ請求スル蠶種紙各持高ノ七分ヲ積立ツ可キ約定ハ漸ク明治十年十月二十六日ノ臨時會議ニ據リ決定セシコトハ原告モ自認スル所ニシテ其決議セサル以前ニ賣買シタル蠶種紙ヲ被告共ニ於テ買主ヘ引渡スコトテ原告ハ故障スル權利之ナキ者トス

明治十年十一月二日

横濱裁判所印

十二月是ヨリ先キ山梨縣勸業課所轄ノ製絲場暴風ノ爲メ潰破ス縣廳ハ稟申シテ本場ハ縣下ノ模範タルヲ以テ之ガ興廢ハ即チ縣下ノ繭業ニ關スル少カラサルヲ以テ再築シテ以テ該場ノ繼續ヲ計ラント再築費一萬五千圓ノ貸與ヲ內務省ニ稟申シテ是月之ヲ許サル

同月福島縣二本松佐野組ノ山田修亞米利加國ヘ生絲賣買ノ件ヲ帶ヒ出發ス

（參照）是年十月ノ條

是歲各港ヨリ海外ヘ輸出セシ蠶絲蠶卵左ノ如シ

生絲百七十二萬三千〇〇四斤　價金九百六十二萬六千九百五十六圓

是レヲ一個ニ換算スレハ五百五十九弗ニ當ル

熨　絲九百〇二百十四斤　價金八萬七千百八十五圓

屑絲五十二萬三千七百九十四斤　價金十七萬四千九百十三圓

玉絲千〇八十七斤　價金二萬八千圓

蠶卵紙百十七萬六千百四十二枚　價金三十四萬六千九百九十八圓

是レヲ一枚ニ換算スレハ平均三十九錢五厘ノ廉價ヲ表ハス

按スルニ是年西鄉隆盛叛ノ軍ヲ擧ケシ年ニシテ市場面白カラサリシモ九月戰止ムヲ以

テ商勢ヲ挽回スルニ至リシニ伊太利亞佛蘭西兩ノ蠶病良々消滅ニ歸スルヲ以テ逐次生絲ノ價格モ下落スルニ至レリ

蠶種紙ハ如何空前絶後ニ記憶スヘキノ不振ニシテ宜シ伊太利亞佛蘭西兩ノ蠶病ノ良々退歩ニ趣キタリトスルモ紙價實ニ平均二十九錢五厘ノ價直ヲ現ハスハ蓋シ他ニ因スル所ナクンバアラス明治七年ニ於ル內外併用印紙貼用規則ノ改マリテ以來八年ノ救濟策及ヒ中一年ヲ隔テ、又本年ノ救濟策ヲ講スルガ如キハ抑蠶卵紙製造人ガ一時ノ巨利ヲ貪ラントシテ奸策ヲ搆ヘシニ因ルナル可シ

又橫濱沿革誌ハ考證シテ是年橫濱港輻湊ノ蠶卵紙百五十八萬餘枚ニ達シ外國商人ハ購買ヲ敢テセス內商殆ト困却シ晝夜寢食ヲ忘レテ東西ニ奔走恰モ狂顚ノ如ク競フテ賣却センストスルモ氣勢ヲ察シ外商ハ愈々束手傍觀ノ姿トナリ只內商ノ擧動ヲ推測シツヽアル而已ナリキ

茲ニ於テ賣込商及各地方荷主集議ノ上蠶種摺潰ヲ爲シテ以テ在荷ノ減殺ヲ爲サント決定シ橫濱公園ニ於テ三十一萬二千四百二十一枚ヲ竹篦ニテ摺落ス

因ニ曰ク蠶種ヲ摺落スハ事迂ナルニ似タリト雖モ當時掃殼買上ノ規則ナリシヲ以テナリ

明治十年了

然ルニ外商ハ戒ムル所アリ是ヨリ買荷ニ着手シ九十萬〇三百六十四枚ヲ買入ル、ニ至レリ自餘三十七萬千四百〇五枚ハ內國用トシテ積戻セリ是ヲ以テ前表統計ニ比スレバ品數大差ヲ生スルニ至ル然レモ前者ハ政府ノ統計ニシテ後者ハ橫濱沿革誌ノ報スル所ナリ

明治十一年一月上野國前橋町ニ精絲原社起ル是レ共同製絲ノ方法ニ出ツルモノニシテ製絲ノ品位ヲ一定センガ爲メニ設立ス

是ヨリ先キ上野國南勢多郡水沼村星野長太郎等明治九年實弟新井郎一郎ヲ米國ニ遣ハシ生絲ノ直輸出ヲ試ミシニ英一斤ニ附キ米金六弗五十仙ニ賣レ行キ爾來絶ヘズ機業家ノ注文ヲ受ケ明治十年ノ頃ニ於テ横濱ノ市價平均一圓ニ附キ三十六七匁ノ相場ナリシニ直輸出シテ米國ノ市場ニ鬻ガバ實ニ平均廿六匁ニ當ルヲ以テ愈々直輸出販賣ノ利益ヲ說キ同志者ヲ誘ヒタリシニ當業者大ニ覺ル所アリ或ハ會社ヲ設ケ或ハ組合ヲ設立シ明治十年ニ及ンデハ競フテ改良製絲ノ工場ヲ設クル者續々トシテ皆ナ何レモ直輸出販賣ヲナシ相當ノ利益ヲ收得シタリ

或ハ改良座繰器械ヲ据附ケ精良ノ生絲ヲ産出スル事ニ夙メ上毛蠶業ノ形勢ハ實ニ一變セントスルノ感ヲ啓ク然レモ同地佐位郡伊勢崎町宮崎有敬ハ之ヲ以テ足レリトセズ主張シテ曰ク今日改良座繰器械ノ輕便ハ未ダ百年ヲ賴ムニ足ラズ更ニ完全ナル改良法ヲ設クルニアラズンバ異日ノ失敗期ス可シト即チ水利ノ地ヲトシ精良ノ器械ヲ設置シ共同製絲所ヲ建テ勉メテ製絲ノ品位ヲ一定センノ事ヲ按ジ其量爲考ヲ害シテ群馬縣廳ニ呈出セリ

當時放府ハ大ニ農桑ノ爲メ之ヲ奬勵スルノ方針ヲ執リ蠶絲ニ附テハ殊ニ勸誘ノ盛ナル時世ナレバ即チ是月上毛國前橋町利根郡沼田町南勢多郡荻原村南勢多郡一毛村南勢多郡水沼村山田郡大間々村ノ製絲家合併シテ一大會社ノ創立ヲ企ツ

同月內務省ハ太阪府民佐貝義胤ガ和泉國泉郡小野田新田窮民ノ爲メニ金穀ヲ指テ蠶業ヲ奬勵セシ特行ヲ嘉シ銀杯一個ヲ賜フ

佐貝義胤ハ羽後國置賜郡船橋ノ產ナリ殖產ノ志厚ク横濱開港ノ後我生絲蠶卵紙ノ外國ニ輸出シテ皇國第一ノ物產タルヲ知リ愈々栽桑養蠶ノ業ヲ盛大ニセンヲ欲シ文久元年鄕里ヲ出發シ巡遊シテ蠶桑ヲ勸誘シ元治元年大阪ニ來リ攝津河內和泉播摩等ヲ巡リテ普ク養蠶製絲ノ業ヲ教示ス

此事大阪府縣ノ知ル所トナリ明治五年二月同府勸業掛ヲ命ズ然ルニ義胤思ヘラク其身官ニ在ッテハ當府管轄ノ民ヲ教示スルノミニテ普ク諸國ニ及シ難キヲ憂ヘ同年十一月辭職シ以テ諸國蠶桑ノ發達ヲ計ラントス桑苗或ハ金穀ヲ捐テ而シテ國益增進ヲ計リシ者ナリト時人言フ攝河和播ノ蠶業ヲ啓發セシハ是レ佐貝義胤ノ特行ニシテ抑モ又タ將來同地蠶業ノ發達ヲ創始セシモ佐貝義胤ノ偉功ニアリシト故ニ是月內務省ノ賞典ヲ辱フスルニ至ル

二月客歲開會セシ博覽會審査官ノ勸力ヲ嘉シ賞典ヲ行フ

三月滋賀縣ハ管內ノ夏蠶種製造ノ業稍々擴張スルノ傾アルヲ以テ初度夏蠶種製造取締規則ヲ公布シテ大ニ業場ヲ戒シム

同月長野縣諏訪郡林國藏尾澤金左衛門片倉兼太郎外十餘名結社シ同郡平野町ニ器械絲製場ヲ設立ス釜數ハ通ジテ三百十一個社名ヲ開明社ト稱ス

同月群馬縣前橋町勝山源二郎勝山宗三郎市村良平星野長太郎等座繰製絲改良ノ爲メ大ニ運動スル所アリ終ニ速水堅曹ニ附テ其方法ヲ圖ル是ヲ前橋座繰製絲改良ノ嚆矢トナス

又タ速水堅曹ハ群馬縣生絲改良用件ヲ以テ內務省ヨリ出張ヲ命ゼラル是時小野善右衛門村井定吉篠澤宗七等モ生絲改良ノ目的ヲ帶ビ是ニ從行ス

四月群馬縣上野國碓氷郡磯部村萩原音吉外百五十餘戶共同シテ碓氷社ヲ起シ以テ同地座繰製絲改良ヲ創ム

當時世ノ製絲ヲ業トスル者分業的營業ニシテ其會社又ハ其組合ト稱スル者皆ナ製絲ヲ本業トナシ敢テ養蠶兼業能ク其原素ヨリ改良ヲ企ツル者アラザリシガ偶々萩原音吉等深ク考フル所アリ製絲ノ改良ハ一ニ器械或ハ工藝ノ如何ニ依ル可シト雖モ抑モ是ガ原料ヲ改

良セズンバ能ク改良ノ目的ヲ達スルヲ得ズトナリ是年同志者ヲ糾シ各自養蠶收繭シタル者ヲ以テ各自精良ノ座繰絲ヲ製出セバ相互德義ノ赴ク所全ク改良ノ素志貫徹スベシト所謂自由ノ團結ヲ組織シ該社一切ノ事務ハ萩原鎌太郎任ニ當リ東西奔馳シ能ク社務ヲ整理ス

同月群馬縣令河瀨秀治ハ當時該縣ニ出張中ノ內務省准奏在御用掛速水堅曹ニ計リ前橋近傍ノ製絲業者ヲ以テ稱シ會社ヲ組織セシメ之ヲ十組ニ分別シ都テ精絲原社ト稱シ市中及關根水沼ヲ別物ニナシ以テ營業セシムルノ方法定ム其組合左ノ如シ

上野國東群馬郡前橋町	桐華組
同　上	敷島組
南勢多郡水沼村	亘瀨組
同　郡萩原村	黑川組
山田郡大間々町	山田組
利根郡沼田町	沼田組

同月製絲有功者奧村醇死ス

同月第三十三國立銀行魚川村迁叟高須退藏等速水堅曹ト相計リ米國ニ直輸出スル生絲荷爲金替ヲ貸サン事ヲ決定ス是レ本行ト前橋生絲改良仲間ト聯絡スルノ濫觴ナリトス

是月曩キニ發布セラレタル蠶種會議局會議ヲ開ク然ルニ玆ニ激論ヲ讓成シ勸農局書記官及內務省中ノ御用掛等同局ニ出張シ種々穩和議決ノ結了ヲ勸誘スル所アリシモ其圓滑ヲ收ムルヲ得ザリキ要スルニ二派ニ分レ其一派ハ政府ノ條例ヲ利用シテ私情ヲ逞フセントスル者他ノ一派ハ正理ヲ以テ夫々校訂スル者トノ二派ニ出デ頗ル激烈ナル場合トナリタリ此時速水堅曹ハ蠶絲ノ如キ民業ニ對シテハ政府ノ保護却ツテ其發達ヲ妨害スル者ナリトノ意見ヲ直ニ內務卿大久保利通ニ上申ス

五月太政官ハ布告シテ蠶種ニ關スル諸條例諸規則ヲ廢止セリ

明治七年(二月)第十九號布告蠶種原紙規則同八年(三月)第四十七號同十年(四月)第三十九號右規則中改正布告及同八年(二月)第三十二號布告蠶種製造組合條例並蠶種製造組合會議局規則同年(四月)第六十五號條例追加同十年(五月)第四十二號初度夏蠶製造方布告共廢止候條此旨布告候事

五月四日

太政官

又タ內務省ハ布達シテ漉立ノ蠶種原紙賣下價格ヲ左ノ如ク定ム

今般太政官第十號公布ノ趣モ有之蠶種原紙規則被廢止候ニ付テハ本年製造ノ蠶種ハ營業人共各自勝手ノ紙相用不苦儀ハ勿論ニ候得共從前勸農局ニ於テ漉立候原紙買受方望ノ者ヘハ本年限リ左ノ價格ヲ以テ賣下候條來ル六月三十日限リ各所從前ノ蠶種原紙賣捌所ヘ申出買受候樣可致此旨布達候事

一春蠶原紙千枚ニ付　金貳拾五圓

一夏蠶其外原紙百枚ニ付　金八圓

五月六日

內務省

是月山形縣ハ管內桑楮ノ增殖ヲ計ランガ爲メ資金二萬四千二百四拾二圓ノ貸與ヲ稟請シタル事アルヲ玆ニ是月內務省ノ許可ヲ得タリ

八月勸農局ハ支那國劄駐ノ領事館ニ通牒シテ同國產ニ係ル春夏二期ニ作レル野蠶ノ原種ヲ求ム

同月長野縣ハ製絲品ノ位改良ヲ計リ勸業資本金ヲ以テ五十人繰ノ製絲場ヲ建設シ蒸氣ヲ以テ之ヲ運轉ス

同月山形縣授產所ハ授產奬勵ノ爲メ信濃風及岩代國掛田風ノ繰絲術競業ヲ行フ蓋シ繰絲ノ術兩國其方法異ナル所アルヲ以テ之ヲ試業シ該所ガ將來擴張セントスル方針ノ畫一ヲ圖ランガ爲メナリ

該授產所ハ明治十年ノ開業ニ係ル者ニシテ該縣置賜郡士族同心協力シ水車運轉百人繰ノ製絲器械ナリトス

九月曩キニ生絲ノ直輸出開始ノ創始者タル群馬縣佐藤百太郎ノ爲メ東京銀座橋成彥ノ宅ニ富田鐵之助神鞭知常佐藤進速水堅曹朝比奈一星野長太郎等會議シ補助ノ方法ヲ定ム

同月三日　今上皇帝陛下上野國綠野郡新町ニ設置セル勸農局所管ノ層絲紡績所ニ　行幸　親シク紡績ノ實況ヲ叡覽シ賜ヒ役員及工女ノ勉勵ヲ賞シ賜ス翌日　車駕同縣前橋ニ着御同地ノ製絲原社及其坐繰製絲場ヲ叡覽シ賜ヒ社長深澤雄象ヲ召シ社運ノ盛大ヲ賞シ賜フ

同月北巡ノ　車駕越後ニ着御親シク民情ヲ知ロシ召サル時ニ山形縣令ハ天機伺トシテ出發越後ニ至リ兼テ同縣授產所ニ於テ製スル生絲並工女五十人ノ聯隊寫眞ヲ　天覽ニ奉供スル其目錄ハ左ノ如シ

目錄

授產所產白繭製絲一束		工女　杉本しゆん
四ッ附二升捻	一束	
二升繭絲量	二十匁	
「チードル」	平均十一「デニール」	
授產所產青白繭製絲一束		工女　安藤よし
四ッ附二升捻	一束	
二升繭	總量二十匁	
「チードル」	平均十一「デニール」四分ノ三	
授產所產白繭製絲一束		工女　杉本しゆん
四ッ附二升捻	一束	
二升繭	總量二十二匁	
「チードル」	平均十二「デニール」四分ノ三	
合計　三束也	工女　五十人　聯隊寫眞一葉	

右二品奉供　天覽

此外工女五人繰製ノ五ッ附生絲二箱内務工務ノ兩卿ニ呈シタル者モアリシト云フ

十月福島縣岩代國會津ノ人平田千代彦等同地ノ製絲改良ノ事業ヲ起サント速水堅曹ニ計リ審カニ敎示ヲ得テ歸ル

同月内務省ハ速水堅曹ニ命ジテ群馬長野二縣ノ製絲業ヲ視察セシム是時同省少書記官千阪高雅モ同行ス其巡廻視察セル製絲場ハ左ノ如シ

群馬縣綠野郡新町屑絲紡績所

同　縣甘樂郡富岡町製絲所

同　縣甘樂郡富岡町製絲場

同　上菲塚直治郎製絲場

同　縣碓氷郡安中驛淡路富太郎製絲所二十五人

長野縣佐久郡小諸町高橋平四郎製絲場三十二人

長野縣廳附屬製絲所

同　縣高井郡中野町製絲場

同　縣同　郡鷹田村關菊之助製絲場百人取リ

同　縣埴科郡松代町六工社六十人

群馬縣前橋町大渡製絲所

同　上關根製絲所

同　上製絲原社

其他數ヶ所ノ製絲場

十一月北海道開拓使ハ曩キニ明治九年五月制定養蠶條例ヲ改正ス

是月横濱ニ滯在セル蠶種商等販賣上ニ付キ仲間ノ事務ヲ福島縣須田彌右工門外三名ニ依屬ス當時各府縣ノ蠶種商人惣代左ノ如シ

委任證

各縣下惣代我等幷ニ横濱港蠶種賣込問屋ヨリ蠶種販賣上ニ付仲間ノ事務頼候也

福島縣下蠶種商人惣代　加藤勇二郎　尾形長兵衛

石幡早三郎

群馬縣下蠶種商人惣代　井本八郎

松本清十郎

宮城縣下蠶種商人總代
小野彌三郎　竹谷源平
長野縣下同　上
平野源之丞　小出吉三郎
埼玉　下同　上
馬塲甚吉　岩崎安太郎
横濱港蠶種賣込問屋總代
飯島勇藏　小林彦助　小島源治郎
雨宮敬治郎　半田五郎兵衛
福島縣下須田彌右衛門殿群馬縣下五十嵐四良殿埼玉縣下荻野保坪殿鹿兒島縣下猪谷吉太郎殿

而シテ是等ノ商人等本年蠶種輸出減退ニ付キ蠶卵摺落ノ策ヲ講ゼンガ爲メ荷主總代及問屋總代ニ左ノ面書ヲ渡シ以テ善後ノ策ヲ計ル事トナシタリシニ又タ親按ヲ提出スル者アリ政府ヨリ五萬圓ノ資金ヲ借リ之ヲ救濟セシト即チ左ノ書面ヲ內務大藏ノ兩省ニ上リシニ聞届ケラレザリキ

本年蠶種販賣上追々聲價下落候ニ付テハ各縣下蠶種商人幷ニ當港賣込問屋一同協議之上町會所樓上ヱ未賣ノ蠶種悉皆引纏メ總計概略三拾萬枚ト見做シ商議ヲ盡シ而洋商ノ實況ヲ察スルニ全ク伊國ニテ必用品拾萬枚ハ要品ト熟考シ依テ即今拾八萬枚ヲ減少シ廢物トナシ明二日早曉ヨリ買上ヶ方着手仕各自枚數ノ割合ニ應シ壹枚毎ニ摺落シ可申事

但各自交換勝手タルヘキ事

一廢物蠶種價格ノ儀ハ上下ニ不拘壹枚ニ付金八錢ト相定メ買上ヶ可申尤代金受取方ノ儀ハ即今半額相渡半額ハ上等蠶種賣捌ノ上假ニ四割積金ニ不滿時ハ殘買上ヶ代金半額ヲ減候事

右之廉々荷主商人問屋申合約定仕候上ハ悉皆貴殿ヱ依賴シ及後日ニ至苦情無之候也

但上等原種賣捌ニ相成候節ハ總代人立會代金受取右約定ノ四割ヲ引去リ六分ノ儀ハ其入荷ノ問屋ヱ相渡シ可申事

明治十一年第十二月一日

岩崎安太郎　石幡吉三郎　加藤勇次郎　尾形長兵衛
松本清十郎　井本八郎　小長彌三郎　竹谷源平
平野源之亟　小出吉三郎　須田彌右衛門　五十嵐四郎
荻野保坪　猪谷吉太郎　三井物産方　馬越恭平
細井久次郎　高石慶藏　水留吉次郎　中里忠兵衛
野口元之助　川喜多定兵衛　深澤光次郎　水見庄平
平川新右衛門　安田善太郎　生方平右衛門　岡本龜三郎
鈴木卯右衛門　遠藤忠作　高橋萬右衛門　小林彦助
田部井芳兵衛　三堀武藏　田中平八　池田和四郎
伏島近藏　雨宮敬二郎　半田五郎平　田島清助
星野惣七　西村七兵衛　池上眞平　原善三郎
飯島勇造　西村新七　申田信太郎　佐々木萬右衛門
松村彌兵衛　西原周左衛門　小島源二郎　織田正太郎
田村俊藏　荒井幸三郎　金子平兵衛　茂木惣兵衛

石塚周吉　大橋佐七　高橋惣兵衛　志村半藏
荷主總代　須田彌右衛門殿　五十嵐四郎殿　荻野保坪殿
問屋總代　て谷吉太郎殿
問屋總代　飯島勇造殿　小林彦助殿　小島源二郎殿
雨宮敬次郎殿　半田五郎平殿

蠶種販賣法ニ付奉上申候

我國蠶種製造ノ員數之ヲ拾ヶ年以來ニ通算スルニ本年ノ如キ減額アルナシ總計九拾二萬ニ過ギス此内既ニ外國へ販賣セシモノ六拾万ニ充タズ最初ハ上等蠶種一枚ニ付壹弗半ヨリ乃至貳弗ノ價格ニモ至リシ事アレモ外商慣手ノ掛引故故意ニ購求ヲ緩延スルヨリ國内商人ノ資力ニ乏シキ之ニ顚頽對峙スルニ由ナク競テ投賣相始メシヨリ昨秋ノ轍ヲ蹈ミ遽ニ價格ヲ下落シ損害ヲ招ク此レ實ニ内國利源幾分ノ耗減スルモノニシテ固ヨリ某等商法ノ智力乏シキニ因ルト雖モ抑亦金力ニ乏シク之ヲ維持スル能ハザルニ由ル於此嚮キニ各縣下蠶種商人幷各地有志ノ士ト本港町會所樓上ニ討議商論以テ其幾分ノ聲價ヲ挽回セントスト雖モ如何セン人心早已ニ壞敗シ協力同心シテ以テ國産ノ聲價ヲ萬一ニ挽回スル

コト能ハズ於是賣込問屋五名各縣下蠶種商人一千有餘ト又更ニ協議シ毎縣下ニ總代人ヲ投票撰定シ去月廿二日ヨリ諸問屋トモ一時賣込ヲ見合シ港内未賣ノ蠶種悉皆町會所ニ蒐集セシニ總計三十万枚ニ不過競賣ノ獎ヲ矯相當ノ價値ヲ竢テ發賣セシト謀リシニ伊國人百七十七番館寄留シーヨヲンヨリ右拾万枚ヲ金五万圓ニ購求致度旨申入候ニ付外ニ洋商三名町會所ニ相招キ内國商人ニ賣却如何ヲ相談セシ處洋商前言ヲ食シ三万七千弗ナラデハ購求難致ト相答内國商人ハ五万圓ナラデハ賣却シ難シト云ヒ其差壹万三千弗ノ高低ニテ賣却ノ相談整ハズ因テ案ズルニ伊國ニ於テ實際必需ノ蠶種七十万枚ニ不下ト果シテ然ラバ現今買入ノ外猶拾二万枚ヲ要スベシ此レ内地商人ノ憶測ニアラズシテ彼ノ商人ノ語ニ據ル然ルニ町會所ニ蒐集ノ蠶種三拾万枚ノ數ニ及ブ故ニ今又更ニ上等拾貳万枚ヲ精撰シ以テ外人ノ必需ニ供シ殘餘拾八萬ハ餘剩ニ屬スルヲ以テ萬一追賣又ハ送リ荷等外商ノ嫌疑ヲ防ガン爲メ斷然之ヲ水火ニ投スルカ或ハ摺落スカノ兩議ニ協議決定セリ然ルニ此事タルヤ務メテ外商等要スル所ノ數奇ニ投ズルモノニシテ其ノ變ニ投ズル十分ノ商法ニアラズ故ニ彼レ若シ或ハ依然低價ヲ以テ購求セント欲スルトキハ亦如何トモスベキナシ於是今又協議ヲ遂ゲ彼國ニ渡航シテ賣却セントス然リト雖モ是事固ヨリ重大ナリ加之ナ

ラス費用以テ之ニ足ラズ依テ今某等其費用ヲ概算スルニ紙數拾貳萬枚ヲ以テ渡航スル時ハ航海費及海關稅等合テ凡壹萬四千四百圓ヲ要ス依テ持渡ルベキ蠶種假定ノ價ト合計五萬圓右五萬圓ハ別紙精算ノ如ク全國蠶種商人惣代幷ニ某等ヱ來明治十二年第十月三十日迄拜借被仰付度尤返納方法ハ別紙ニテ委細上申仕候儀ニ付併セテ焦眉倒懸ノ急ヲ御憫察被爲在何卒特別ノ御沙汰ヲ以テ此段御採用被成下度惣代連印奉願上候也

全國蠶種製造人惣代

福島縣下岩代國伊達郡伊達崎村　石幡吉三郎
宮城縣下磐城國伊具郡角田村　竹谷源平

明治十一年十二月七日

埼玉縣下武藏國旛羅郡俵瀬村　荻野保坪
同縣下同國兒玉郡兒玉町　岩崎安五郎
群馬縣下上野國群馬郡岩鼻町　吉村隆伯
同縣下同國那波郡八斗鼻村　五十嵐四郎
横濱賣込問屋總代　飯島勇造

鹿兒島縣下鹿兒島　　猪谷吉太郎

內務卿伊藤博文殿
大藏卿大隈重信殿

書面願之趣ハ難聞届事

但當省主管ノ件ニ付當省限リ及指令候事

明治十一年十二月十二日　　內務卿伊藤博文

以是蠶種商人總代問屋總代等ハ橫濱公園ニ於テ蠶種十八萬枚摺潰セリ

是レ各地方蠶種製造人及商人等連年ニモ反省セズ陸續巨額ノ輸入アリシニ外國人其買入ニ躊躇シ殆ンド取引ヲ中止セリ於是問屋ハ荷主ト協議シ需給ノ權衡行ハレズ爲メニ再三減殺方法ヲ協議スレモ其議成ズ遂ニ是月ニ至リ之ヲ實施スルモ時機ヲ失シテ空シク彼ノ術中ニ陷リタル者ノ如シ是年入港蠶種ハ九十一萬九千〇九十三枚ニシテ外國人賣込ノ者五十餘萬枚之ニ減殺高ヲ差引尙三十萬枚アリ故ニ積戻シ或ハ問屋ニ委托シテ去ル者アリ或ハ一枚二三錢ヲ以テ賣却シ之ヲ風穴ニ貯藏スルモアリ荷主ノ得所ハ旅費ヲ償フニ足ラズ慶應元年以來十四年間年々巨萬ノ利純ヲ得タル蠶紙モ此年ヲ以テ多數ノ海外輸出ハ全

ク畢リタル者ノ如シ

因ニ曰フ是年橫濱ニ停滯スル蠶種ノ中信濃國產ニ屬スル者八九萬枚其餘ハ上野岩代秋田甲斐等ノ產出ナリシト云フ

十二月群馬縣ハ桑樹ノ改良ヲ計ランガ爲メ管內桑圃ノ僅少ナル地方窮民ハ良種ノ桑苗ヲ貸與シ栽培ノ方ヲ輸示シ其原價ハ年賦返納トナシ實益ノ年々增殖スルヲ見テ原價ヲ消還セシムル事ト爲セリ

同月大坂府小野述信製絲ノ件ニ付キ東京ニ來リ速水堅曹ニ付キテ大ニ計ル所アリ

同月勸農局前島密及書記官幷速水堅曹等富岡製絲所改良ノ方法ヲ議シ及熊本縣長野親藏ヲ擧ゲ同所ニ關係セシムルノ內議ヲナセリ

同月小形縣二本松製絲會社福島白川製絲會社及越前國勝山製絲會社等各役員ヲ派遣シ速水堅曹ノ宅ニ會合シテ大ニ改良ノ方法ヲ議ス

是年本邦ヨリ輸出セル蠶絲蠶絹ニ關スル出入物價左ノ如シ

生絲百四十五萬一千二百三十五斤　價七百八十八萬九千四百四十六圓

鬪斗絲二十四萬四千三百四十四斤　價二十五萬四千百五十七圓

屑絲八十二萬八千百〇六斤　價三十四萬四千九百五十七圓
玉絲二千〇二十斤　價四千九百十五圓
蠶卵紙八十八萬七千七百六十七枚　價六十五萬〇百〇一圓
（參照）是月蠶卵紙摺潰ノ條但シ横濱沿革誌ノ考證スル所ナリ

明治十一年了

明治十二年一月勸農局ヲ廢セラレ一切ノ事務ヲ大藏省ヘ引繼ギトナル是ヲ以テ從來蠶絲業ノ勸商局ニ屬セシ者モ大藏省ノ主管スル所トナレリ是ヨリ先キ富岡製絲所事務改良ノ議アリシニ是月速水堅曹ヘ委囑シテ改良ノ實ヲ奏セント即チ該所ノ事擧テ同人ノ整理ニ歸ス二月曩キニ山形縣ハ舊縣廳ヲ人民ニ下附シテ縣下養蠶改良ノ基礎ヲ開カント內務省ニ稟請スル所アリシガ是月許可ヲ與ヘラレタリ

又タ廣島縣ハ管內蠶業發達ノ基ヲ啓カント縣廳ニ於テ勸業會議ヲ開キ會員ヲシテ桑樹蕃殖方法ヲ討議セシメ長所ヲ求メテ人民ニ誘示ス

三月滋賀縣ハ坐繰傳習所ヲ彥根長濱小濱及淺井郡川道村曾根村阪田郡清瀧村ニ設置シ士族授產及殖產興業資本トシテ政府ノ貸與金四方圓ヲ以テ其資金ニ宛ツ專ラ製絲ノ改良進步ヲ奬勵ス

同月大分縣大野惟一郎ハ同地ニ製絲場建設ノ目的ヲ以テ婦女四名ヲ引卒シ上野ノ製絲場ヲ視察シ終ニ富岡製絲所ニ至リ當時所務整理ノ爲メ同所ニ在ル速水堅曹ニ事業ノ長策ヲ敎示セラルヽヨリ先キ惟一郎ハ明治四五年ノ頃上野國佐位郡島村ノ養蠶家田島彌平ニ附テ養蠶術ヲ勉强シ歸國シテ之ヲ諸人ニ傳授シタリ

是月富岡製絲所長心得山田令行歸京ヲ命ゼラル該所長ハ速水堅曹本省ヨリ兼務ヲ命ゼラル
是時速水堅曹ハ當所事業改良ノ一端トシテ儉勤ノ道ヲ講ジ工女ニ貯蓄金ヲナサシメ又タ教育ノ道ヲ啓キ所内ニ夜學校ヲ開始シ嚮善勉勵ノ要旨ヲ說敎シ大ニ該所ノ面目ヲ改メタリ
五月群馬縣會ニ於テハ縣内養蠶改良ノ爲メ地方費目ヲ勸業費凡ソ三十万圓ヲ增加シ一擧シテ改良ノ實ヲ奏セント議スル所アリ頗ル衆意ヲ收メタリシガ地方稅ノ性質トシテ之ヲ實行スル事能ハザル事情ヨリ中止トナル
六月松方勸業局長ハ本年横濱ニ於テ生絲共進會開設ノ議ヲ決ス
同月勸農局ハ本年伊太利亞佛蘭西兩國ノ養蠶不良ノ報告ヲ得タルヲ以テ此際本邦ニ於テ製造スル蠶種生絲一層注意ヲ加ヘ其輸出スルニ於テ決シテ本邦各品ノ聲價ヲ失墜セザラシムル事ヲ府縣ニ諭告ス
七月秋田縣ハ管内士族羽生氏熟等百三十餘名授産ノ基ヲ啓カンガ爲メ開墾養蠶ノ資金五万圓ヲ貸與セシムル事ヲ内務省ニ稟請シテ許可ヲ得タリ
十月横濱町會所ニ於テ生絲繭共進會ヲ開設ス審査掛長ハ速水堅曹ニシテ審査員佐野理八齋藤素軒星野長太郎眞名井一安德兵衛清水宗德外村宇兵衛廣瀨慶次郎湧川新兵衛等ニシテ數

日審査ノ方注ヲ協議スル所アリシモ適當ノ方法ヲ得ル能ハズ故ニ速水堅曹ハ綿密ノ審査ヲ則ヲ作リ之ニ隨ツテ審査ヲナス是レ後年ニ及ビ日本繭生絲ノ審査法ト成ツテ博覽會品評會等ノ採用スル所ナリ
同月福島縣ノ人管野金兵衛ハ該地方養蠶ノ術未ダ精シカラザルヲ憂ヒ曾ツテ其業ニ熟達セシ者ヲ居村並ニ他ノ村々ヲ巡回敎授セシメ大ニ力ヲ興業ニ致シ地方ノ面目ヲ一洗シタル行實ヲ以テ勸農局ハ其行爲ヲ賞シ銀盃一個ヲ賜フテ其美行ヲ表賞ス
是月下旬横濱ノ繭生絲共進會審査全ク終ヘ大卿大隈重信内務卿松方正義等商務局長河瀨秀治ヲ隨ヘ褒賞授與ノ式ヲ擧グ
而シテ本會列品ノ形勢生絲ニ於テハ唯ダ精神ノ差異ヲ見ル而已ナリシト雖モ繭ノ部ニ於テハ出品總數四百六十七點ノ中黄繭ハ二百六十點ニシテ白繭ハ實ニ二百餘點ノミナリシ特ニ内外人ノ眼目ヲ驚カセシム横濱賣込商外村宇兵衛名目ヲ以テ出陳セル參考品ノ萬國繭ナリキ是レ當時ノ審査長速水堅曹ガ曩ニ米國「ヒラデルヒヤ」ノ博覽會ニ日本審査官トシテ出張セシ時其列品中萬國ノ繭類ヲ蒐集シタル者ニ係リ今回之ヲ外村宇兵衛ノ名義ニテ出品セシト居留外國人之ヲ見テ大ニ驚テ曰ク日本政府又タ外國領事等スラ未ダ爲シ

得ラレザル事ナルニ拘ニ偶マ該品ノ出品ヲ見ル甚ダ賞歎スルニ餘リアリト其蒐集ノ機敏ニ大ニ驚キタリ

該會ニ於テ岩代國二本松ノ製絲家佐野理八ハ多年ノ功勞ト及ビ今出品ノ生絲精良ナルノ故ヲ以テ特別名譽賞金牌及ビ金百圓ヲ賜ハリ他ハ一等ヨリ四等迄ノ等級ヲ以テ各賞譽ニ與クタリ

本會終テ地方有志者速水堅曹ニ圖リ將來生絲直輸出ノ擴張ヲ計ラント八百松樓上ニ於テ懇親會ヲ催シ各自ノ意見ヲ吐露シタルノ末速水堅曹ハ頗ル過激ナル演說ヲナシタリ要スルニ生絲輸出ノ事ハ之ヲ直輸出トナシ橫濱ニ本店ヲ設ケ米佛ニ支店ヲ設置シ直賣買ノ實功ヲ擧ゲント會員大ニ激奮シ相誓ツテ共ニ事ヲ爲サント是レ本邦直輸出販賣店同伸會社ノ興起セル原因ナリキ

十二月愛媛縣ハ管內製絲業振興ノ目的ヲ以テ伊豫國溫泉郡立花村ニ製絲傳習所ヲ開始シ數十人ノ工女ヲ招集シ以テ繰絲ノ術ヲ授ク

同月群馬縣上野國佐位郡島村田島彌平及田島彌三郎等日本蠶種ノ海外ニ輸出スル者良々其途ヲ塞ガントスルヲ憂ヒ更ニ彼地ニ其販路ヲ開カント蠶種數万枚ヲ携テ伊太利佛蘭西ニ向

ケ渡航ス

是年本邦ヨリ輸出スル蠶絲蠶絹ニ關スル物價ハ左ノ如シ

生絲百六十三万七千百九十八斤	價九百七十三万四千五百三十四圓
熨斗絲四十六万五千百三十一斤	同五十七万八千三百二十二圓
屑絲百〇二万六千四十九斤	同六十四万七千二百九十一圓
蠶卵紙八十一万三千九百四十九枚	同五十八万二千六百二十三圓
屑繭五十三万七千〇六十五斤	同四十五万九千六百九十四圓
繭九百二十三斤	同六百圓
眞綿十一萬二千六百九十七斤	同十八万五千六百圓
屑眞綿一万二千八百八十斤	同二千八百九十三圓

明治十二年了

明治十三年一月生絲歐米直輸出商店ヲ横濱ニ開設スベキ會社發起人定ル是レ昨年横濱共進會ノ終ニ於テ速水堅曹ノ同志ニ向ツテ演說セル主意ニ贊成シタルノ結果ニ出ヅル者ナリキ是ヨリ先キ速水堅曹ハ明治八年以來夙ニ政府ノ力ヲ仰ギ製絲業改良進歩ノ策ヲ遂行セント百方經畫シ故大久保内務卿松方勸農局長河瀨勸商局長頗ル同人ノ主趣ヲ翼贊スル所アリシモ時ヲ與ヘズ西南ノ役起リ一時天下ノ心ヲ動搖セシメ實業ノ事少シク躊躇スルノ止ムヲ得ザルアリ之ニ加フルニ大久保内務卿ハ刺客島田一郎ノ爲メニ暗殺セラレ事ヲ計ル可キ途ノ失スルニ至ラントス

於茲斷然政府ニ依ツテ事ヲ謀ルノ念ヲ斷テ地方有志ト事ヲ謀ラント横濱共進會ノ終リニ於テ抱負ヲ發表シ遂ニ能ク此會社ノ設立ヲ見ルニ至レリ而シテ發起人協議ノ上社名ヲ同伸會社ト稱シ左ノ主意ヲ以テ營業ヲ開始セント議定マル

同伸會社設立ノ主意

抑製絲家營業ノ易カラザルハ内外各國ヲ論ゼザルナリ然ルニ本邦第一ノ物産タルヲ以テ淺見姑息ノ器械ヲ濫設シ該品改良ノ目的ヲ以テ却テ困難ヲ招クノ類陸續之レ有リ然レドモ之レガ貿易ノ商人ニ於テモ現業ノ困難ヲ知ラザルヨリシテ終ニハ製絲人ノ望ニ適スル

ノ價ヲ得セシムル能ハズ又之ヲ買取リタル横濱寄留ノ外人ト雖モ一商家ノ代理タルニ過ギズシテ製絲及機織ノ現業ヲ知ラズ眞ノ良否ヲ鑑別スルノ眼力ナキヲ以テ精粗適當ノ代價ヲ拂フ能ハズ斯ノ如クノ情態ナレバ製絲人ノ望ヲ遂グル能ハザルノミナラズ到底國益ヲ增加スルニ足ラズ切歯ニ堪ヘザルノ次第ニ付常ニ二三ノ有志ト相議シ横濱ニ一商家ヲ設生絲ニ老練ナル人ヲ置テ以根基トナシ地球第一ノ絹布ヲ製スルノ佛國ニ向テ直ニ貿易スルノ宿志ヲ定メ既ニ此事ヲ謀ルコト久シ然レモ好機會ヲ得ズ志ヲ達スル能ハザルコト六七年間也幸ニ米國ノ如キ富田鐵之助君神鞭知常君ノ盡力アリ佐藤百太郎氏開店スルニ當リ星野長太郎氏ノ弟新井領一郎氏ヲ以テ佐藤氏ニ托スルニ始リ次テ佐野理八氏ハ代理ヲ置キ目今大ニ此路ヲ開キ進歩ノ實蹟アリト雖モ如何セン米國ノ如キハ「ハトルソン」及「サウスマンチスター」ノ二ケ所ニ於テ使用スルニ過ザレバ寔ニ僅少ニシテ我輩等宿志ノ一分ヲ達セシト云フニ過ギズ此際ニ膺リ客歲横濱ニ於テ繭絲ノ共進會アリ概該業ノ有志モ集リ内藏兩卿モ演說セラレ種々ノ感應ヨリ孰レモ奮勵ノ心ヲ發シ同伸會社ヲ開キテ以テ積年ノ志ヲ達シ製絲家ノ望ヲ全フスルノ議ヲ決ス然モ此株主タル各地方ノ製造家ナルヲ以テ隔所ニ跨リ通信ノ遲延ナルノミナラズ生繭買入新絲製造ノ時ニ於テ會社ノ事業ヲ

議スルノ暇ナク漸新繭ノ期節ヲ去リ本年九月ヲ以テ衆會ヲ開キ創立ノ議ヲ定メ順次着手ノ折柄俄ニ貿易商會ヲ始メ五六ノ直賣會社起ッテ孰レモ憤發ノ勢ヒ寔ニ雀躍ノ至リ則同志相愛スルノ情ヲ與シ共ニ謀テ直輸ノ道ニ進ミ積年ノ本志ヲ達スベキト假定ス然レ𪜈斯ニ又困難ノ一點アリ如何トナレバ我輩等ノ因テ起ル所以ノモノハ則製造人ニシテ滿足セシムベキノ精神ナレバ生絲ノ爲メ緊要ノ地タル佛國里昂ノ如キ實況ハ時々社中ニ向テ報告セザルヲ得ザルノ義務アリ若シ此義務ヲ以テ他ノ社ニ托シ自然同伸會社ヲ創立スルノ性質タル本意ニ於テ足ラザル所アレバ決シテ望ヲ遂ゲズ又ハ社中ニ遂ゲシムル能ハズ止ヲ得ズ此義務ヲ負担シ斷然里昂ニ支店ヲ設ケ他業一切ヲ顧ミズ生絲ノ一部ニ於テ精神ノ有ル所ヲ盡シ而シテ米國佐藤組英國及ヒ其他ハ尚追々立テ諸會社ノ尤モ絲業ニ熱心着實ナルモノヲ撰ミ販賣ヲ附托シ且其報告ヲ交通シテ之レヲ製造人ニ告グ方向ヲ定メテ以テ駸々該業ノ進歩ヲ謀ルハ此社ノ大目的ナリ依テ差向佛國へ壹兩名派遣シ英米ノ際若シ監督ヲ要スルニ至レバ別ニ人撰シテ派遣スベシ

發起人

深澤雄象　星野長太郎　宮崎有敬　神山雄一郎

碓氷製絲社　長谷川範七　關　菊之介　大里忠一郎

奥澤喜十郎　野口藤六　北原正三郎　武居圓吉

川村傳衛　堀尾重興　杉本正春　齋藤治三郎

清水宗德　外村兩平　外村與左工門　小田切武兵衛

同月石川縣ハ管內養蠶振興及桑苗增殖ノ爲メニ要スル資金トシテ安石代ト改正增石高ノ間金一千八十圓九十錢ノ下附ヲ內務省ニ稟請スル事アリシニ是月許可セラレタリ

又タ同縣ハ舊大聖寺藩士族丹羽敬次郎等授產ノ爲メ蠶桑ノ業ヲ起サンガ爲メ資金三千六百圓ノ貸與ヲ內務省ニ稟請シテ是月許可ヲ得

同月福岡縣豐前國中津郡豐津ニ開墾社起ル是レ蠶桑事業ノ目的ヲ有スル者ニシテ官貸資金五十圓以社金一千百七圓ヲ以テ成立セリ

三月上毛ニ於ケル蠶業熱心家相結ンデ前橋ノ地ヲトシ上毛繭絲改良會ナルモノヲ設立スル而シテ其規約等ハ左ノ如シ

蠶絲改良會設立規約

第一條　地方固有ノ蠶絲ヲ改良シ名聲ヲ炫耀シ產額ヲ增加セシムルハ目下ノ急務ニシテ

于農于工各其從事スル處ニ據リ之ヲ練磨研究スル勿論ナリト雖一已一人ノ見ヲ以テス
ル或ハ難シトス故ニ今蠶絲ノ改良ニ着眼降手ノ同胞有志會同ノ擧ヲ發起シ專ラ親睦ヲ
厚ウシ互ニ工技ノ長短得失ヲ議シ以テ智識ノ交換邦家ノ公益ヲ謀ラントス因テ此會ヲ
稱シテ繭絲改良會ドス

第二條　本會ハ毎月第一ノ日曜日ヲ定日トシ東群馬郡前橋本町生絲改所内ニ於テ開設ス
ルモノトシ別ニ定年限ヲ設ケズ
但シ開會時間一日ノ長短ニ據リ伸縮アルベシト雖モ平常午前十一時出頭開議午後四
時散會トス

第三條　本會ノ會員ハ當分群馬縣内ニ於テ養蠶生絲改良ノ爲メ結社スルモノニ限ルベシ
然レモ該業上篤志ノモノハ會員三分二以上ノ承諾ヲ得ルニ於テハ加入ヲ許スモノトス
故ニ定員ヲ設ケズ

第四條　本會ニ於テ商議スベキ事項ハ概ヤ左ノ如シ
一　養蠶上ノ得失研究ノ事
二　製絲上原繭等級撰擇ノ事

三　製絲檢查方法ノ事
四　製絲品等識別一定ノ事
五　檢絲方各工場交互巡視ノ便ヲ聞ク事
六　製絲工女及蠶業人ノ勉惰ヲ督シ褒貶賞罰ノ事
七　買入繭ノ相場平均方法ノ事
八　各社各場ニ於テ其申合ニ反キタル者アルキハ其重輕ヲ區分シ同盟ヨリ報知方ノ事
九　各社各場無忌諱社規及ヒ製絲上ノ可否得失ヲ論シ或ハ忠告スル事
十　各社各場毎月ノ事業表ヲ製シ翌月集會ノ節交換ノ事
十一　各社各場ノ維持法ヲ互ニ質議シ其保續方ヲ謀ル事
十二　海外及横濱ノ商況ヲ考ヘ海外商ノ意想ヲ破リ商機ヲ誤ラザル協議ノ事

第五條　同盟會員中本會委員數名ヲ公撰シ此委員中投票互撰シ會頭一名副會頭一名幹事
四名ヲ擧ケ以テ一切ノ事務ヲ處辨スルモノトス且幹事中二名ハ會頭ノ撰ヲ以テ書記ヲ
兼務セシムベシ會頭以下勤務ノ期限ハ衆員ノ議定ニ據ル
但會頭以下委員ト雖モ有志者ノ義務ヲ以テ素ヨリ無給タルヘキモノトス尤遠隔ノ地

方ヨリ出場ノ者ハ其社其場ニ於テ定メタル旅費日當ノミ其社或ハ委員ニ撰擧ノモノヨリ支辨スルモノトシ筆墨等ニ係ル諸費ハ相當出金ノ法ヲ議定スベシ

第六條　會場内ニ於テハ猥リニ飲酒及私言ヲ禁ス湯茶焚炭ハ會場ニ於テ支辨スベシ

但會頭ノ意見及衆員ノ決議ニ據リテハ臨時本文ノ制外タルヲカルベシ

第七條　本會開役ノ趣意タル同志親睦合議ノ一點ニアルヲ以テ會員ニ於テ決テ議事中粗暴過誤ノ擧動アルヘカラザルハ勿論萬一甚タシキ酔体ニテ會場ニ入リ或ハ人ヲ罵詈シ或ハ雜言議事外ニ渉リ會場ノ妨害トナル場合ニ於テハ會頭ノ發言ヲ以テ之ヲ退場セシムベシ

第八條　本會ニ於テハ有志者ノ傍聽ヲ許ス最モ會場ノ都合ニ據リ會頭又ハ衆會員ノ意見ヲ以テ人員ヲ限ルコトアルベシ

但傍聽人ハ名刺ヲ以テ幹事ヘ申入幹事ノ承諾ヲ經テ其席ニ入ルベシ

第九條　毎會必ズ議事錄ヲ作リ之ヲ管廳ニ差出シ而シテ全管ニ報告ヲ要スル件ハ別ニ其手續ヲナスベシ

第十條　前數條ニ掲グル規則ヲ本体トシ會員ノ衆議ヲ以テ逐次增加更正其都度管廳ヘ開

申施行スルヲ得

追加

第十一條　會頭以下役員ハ一ケ年ヲ以テ任限トス

第十二條　撿査掛撰擧法ハ會頭ヨリ指名シ定議員三分ノ二以上ノ許可ヲ得テ任ズル者トス

第十三條　會員ハ本會ノ趣旨ヲ体シ前途ノ進路ト認ムル事ハ其意見ヲ書シテ幹事ニ出スベシ

第十四條　幹事ハ各員ヨリ出セル意見書ヲ會頭ニ呈シ會頭之ヲ會議ニ附シ議題トナシテ可否ヲ討論審議スベシ

第十五條　各員意見書本會ニ於テ可決スル時ハ之ヲ印刷シテ公告スベシ

第十六條　撿査掛リハ撿査表ヲ製シ置キ毎會本會ノ幹事ニ差出スベシ

第十七條　幹事ハ蒐集シタル撿査表ニ就キテ六ケ月毎ニ平均優劣比較表ヲ編成シテ之ヲ公告ス

右結約違存ナキヲ證シ同盟連署捺印候也

明治十三年三月

繭絲良改良發起員

深澤雄象　勝山宗三郎　竹内勝藏　下村善太郎
市村良平　八木牧惣　黒崎長平　福田禮藏
松木源五郎　桑島新平　有松祺平　太田利喜造
星野長太郎　宮崎有敬　荒木茂里　須關廣太
服部權平　木部金次郎　喜多正雄　池野文七
長畑扁舟　松井嘉一郎　高島應策　山室喜四郎
田崎太四郎　水野安次郎　市村茂吉

生絲鑑定法

第一條　一本會生絲ノ品位撿査ノ個所ハ當分前橋本町生絲改良所ニ於テ鑑定ス

第二條　一本會ヘ同盟ノ各社各場ニ於テ其製絲ヲ撿査所ニ出スモノハ豫メ絲ノ品位ヲ上中下ニ分チ毎括其等ヲ記シ「デニール」ヲ附シ差出ス可シ

第三條　一本會ニ於テ公撰シタル撿絲掛リハ左ノ順ニヨリテ撿査スヘシ

第一　上中下各等ノ内ヨリ各一綛ツヽヲ取リ試驗ニ供ス

第二　毎綛四百廻リヲ以テ表裏各三度ツヽ合セテ六度ヲ取リ左ノ表ニ記スヘシ

第三　四百廻ヲ取リタル絲ハ即チ見本絲トシ該荷ニ添テ本主ニ返戻ス

第四　四百廻ノ絲ヲ平面シ附節七ツニ止ルモノヲ以テ一等絲トス

第五　附節十二以内ノモノヲ以テ二等トス

第六　附節二十以内ニ止ルモノヲ以テ三等トス

第七　附節二十以上アルモノハ等外トス

第八　撿査掛リハ右ノ試驗手續ヲ以テ審査シ若シ製絲者ノ附シタル品等ニ差異ヲ生ズルトキハ本人ニ其差異アル所以ヲ示シ更正ノ等級ヲ附セシムルコトアルヘシ

第四條　一本會ハ撿査濟ノ后送券ヲ作リ試驗表ヲ添荷主ニ交附ス

第五條　（試驗表送券書式略之）

第六條　一本會連合ノモノハ豫テ各組ノ商標即チ原名「マーク」ト試驗表ヲ作リ撿査所ニ掲示スヘシ

第七條　一本會ノ撿査ヲ經タル絲ハ必其賣却ノ價格ヲ表ニ記シ各出張所毎ニ總計シ毎年

二度會員ニ報告スルコト

第八條　一本會ハ出張所ヲ便宜ノ地ニ置キ各地同業ノ爲ニ營業ノ便ヲ謀ルベシ

第九條　一斤量ハ都テ英斤ヲ用ユ

第十條　一本會ノ諸費ハ出荷ノ箇數ニ割リ收入ス

第十一條　一本會ノ證ハ印紙ヲ各製造人商標ノ上ニ貼用シ撿查掛認印ヲ以テ繼印ヲナス

但印紙料ハ別ニ收入セズ

（印紙雛形略之）

各社ノ品位ヲ鑑別スル凡左ノ目的ニヨルベシ

第一條　一「デニール」不同ナク節ナク光澤ノ美麗ナルヲ上トス譬ハ十五中ナレハ前后一「デニール」即十四十六ハ不同ナキモノトス

一「デニール」ニ差ナク節ナクモ光澤ノ不良ナルヲ中トス

譬ハ十五中ナレハ前后一「デニール」半ノ差則十三半十六半ハ中等トス

一「デニール」目的ヨリ二「デニール」以上往來アルモノ及小節ノ散見スルモノ等ヲ下トス此

ノ如キモノハ好シヤ光澤美ト雖モ上中ノ等ニ入ルヲ得ス

一「デニール」三以上ノ差數往來アルモノハ等外トス

一四百迴リノ絲ヲ平面シ附節ノ五ツ以內ニ止ルモノハ一等絲トス

一附節十以內ニ止ルモノ二等絲トス

一附節十五以內ニ止ルモノ三等絲トシ十六外ニ出モノハ一等外絲トス

第二條　一撿絲掛　各社二人以上ヲ撰ミ大枠ノ儘撿查シ一綛毎ニ必ス上中下ノ小札ヲ附スベシ

第三條　一「デニール」ハ揚返シノ節大枠一箇ニ付必一二本ツヽヲ取ルベシ

但工女別人ナレバ每枠一本ツヽ取ルヲ法トス

第四條　一撿絲掛ハ最寄四五社ツヽ、組合互ニ往來シテ撿絲ス其品評ハ必ス投票ヲ以テ定ムル

第五條　一此撿絲掛リル內一名ヲ公撰シ組合ノ代理トシ（一月隔月）必連合各社ヲ巡視スベシ品評法ハ前ニ同ジ

三月內務省ハ速水堅曹ニ命ジテ石川滋賀岐阜靜岡四縣ノ製絲業ヲ視察セシム中山智倚隨行

シ途次ノ一二製絲場ヲ視察シテ石川縣ニ至ル同縣勸業課員逸見一萬隨行ス此時同人ノ視察ニ係ル製絲會社ノ重ナル者概ヲ左ノ如シ

信州小諸町　高橋平四郎製絲場

長野縣廳　勸業製絲場　前年ニ比スレバ稍進歩ス

趣中國八尾　製絲會社　該社ハ信州松代ノ舘三郎勸誘ニ依リ明治七年設立セシ者ニシテ屢矢敗ノ末橋爪治良作入ツテ社長トナリ募金ノ上營業ス是ヲ第一製絲社ト云ヒ當時六十繰ナリ其他二十四人繰ノ製絲場及伊藤伊七ノ四十人繰製絲場吉田宗十郎ノ十六人繰製絲場等ヲ視察ス

福光　中村林造造製絲場六十四人繰ニシテ蒸氣ヲ以テ運轉ス器械ハケンチル式ヲ用ヒタリ

今石動　荒井治助西田又三郎ノ製絲場　該場ハ最初三十餘名結社シタル者ナリシニ追々脫社シ現今上記二名ニ至レリ

金澤製絲會社　ハ能ク整頓スル所アリシニ如何セン規摸大ニ過ギタリ該社長長谷川大塚等ガ熱心盡力ニ依リ成立セシ者ナリト云フ

勝山製絲會社　稍々整頓ス

福井縣越前國今莊製絲場　安達久右衛門外三名ノ發起ニ係ル

滋賀縣彦根製絲場　整頓ス

岐阜縣中津川勝野七兵衛製絲場ヲ巡視シ夫ヨリ各所ニ至ラントスルノ際內務省ノ電報ニ接シ歸京ス

五月長崎縣ハ舊佐賀藩士族鍋島直景等ガ荒蕪地ヲ開拓シ養蠶抄紙ノ業ヲ起サントスル資金ノ貸與ヲ內務省ニ申請シテ是月許可ヲ得タリ

同月福岡縣ハ舊久留米藩士族篠本廉臧等五十餘名養蠶製絲ノ起業資本金六千圓ノ貸與ヲ內務省ニ申請シテ許可セラル

同月內務卿松方正義ハ當時勸農局所管富岡製絲所ヲ以テ之ヲ官立ニ非ラズシテ委任スト云フノ意見ヲ持シ之ヲ速水堅曹ニ圖ル於是速水堅曹ハ參議大隈重信ニ謁シ該意ヲ議ス

五月米國「ニューヨーク」府ニ在ル日本人福井信山田修等日本外務省商務務局長河瀨秀治ニ日本生絲ノ商況ヲ陳シ幷ニ改良ノ方案ヲ左ノ如ク具セリ

當國ニ於テ我日本生絲ノ需用年一年ヨリ增加シ殊ニ明治十年以來俄然トシテ著キ巨額ニ登リシモノハ全ク當國製絹ノ進歩從テ機場增加セシト我日本生絲ノ漸次進歩セシニ由ルト雖モ我生絲ノ進歩ハ未タ直ニ改良セシニアラス又當國製絹ノ進歩充分ノ位置ニ達セズ最良品ハ勿論下等ノ絹匹トイヘドモ獨佛及瑞西ノ輸入ヲ仰ギ以テ需用ニ供スル其高モ少カラス明治五年以來昨十二年マデノ絹輸出比較表ヲ見レバ僅ニ其減額ヲ見ルノミ然レドモ製絹家ハ益良品廉價ノ製ヲ盡シ輸入ノ製品脫却セントシ各其業ヲ勸ム故ニ其製ノ歲月ニ進歩スルモ亦驚クベシ竟ニハ見込ノ點ニ達スルモ遠キニアラザルベシ假令其極ニ至ラサルモ歲々幾分カ其輸入ノ製品ヲ減ズルニ至ラン加之當地一班ノ貿易上ヲ見レバ輸出ノ輸入ニ超過スル「近年ニ至リ實ニ意外ノ巨額ナリ斯ノ如ク歲月富ヲ重ヌルヲ以テ自然人民奢侈ニ趣キ益絹匹ヲ用ユルニ至ルノ情モ少ナシトセズ當當地ニ於テ生絲消費ノ額ヲ增加スルハ疑ヲ容レザル所ナリ是ノ如キ情實アルニヨリ生絲關係ノ我商工ハ專ラ該品改良ニ心ヲ用ヒ益眞實善良ナル製造アルニ於テハ其需用數年ヲ出デズシテ必ス盛大ニ至ルハ指シテ見ルベシ

然ルニ昨今輸送スル日本生絲ヲ熟見スルニ品位ノ進ミシモノ僅カニシテ却テ品位ノ退歩

セシアリ殊ニ掛田絲ノ如キ中ニハ非常ノ粗製濫造品アリ其一二ヲ陳スレバ表ニ上絲ヲ置キ中ニ惡絲ヲ入レ上ニ良繭ヲ挽キ中心ニ惡蛹ヲ挽込ミ或ハ二本口ヲ同一ニ揚返シ又ハ切斷セシ生絲ヲ包ミ隱シ唯外面ヲ飾ルガ如キ所爲實ニ名情スベカラズ此ノ如キ濫造アルヲ以テ偶良品アルモ決シテ我生絲ノ當市場ニ信ヲ得難キノミナラズ我商店ヲハ未開ノ人民ト愚視セラレ自然商權ヲ彼レニ掌握セラル、ニ至ルモ決シテ無理ナラザルベシ實ニ貿易ノ大患害ニシテ其進張ノ遲キ所以ナリ我生絲商工ノ言ニ外國ノ情ニ暗ク其適否ヲ知ルニ由ナク製造ニ苦ムト果ノ然ラハ設令適否ヲ誤ツモ右ノ如キ濫造アルノ理ナシ前件ノ如キハ所謂姦商姦工ノ所爲タル決シテ免カレズ斯ク人心未タ開進セザルニ當リ獨リ製品ノ改良ヲ求ムルハ實ニ難キコトナレド方今ノ如キ形勢ニテハ到底我生絲商業ヲ振張スルノ道ナク却テ退歩スルニモ至ラン我輩當市場ニアッテ親シク該品取引間ニ接シ其情況ヲ見テ實ニ遺憾ニ堪ヘズ因テ當國儒用ノ適否及我日本生絲ノ改良スベキ要件ヲ左ニ詳記シテ閒下ニ呈ス該業奬勵ノ爲メ參考ノ一端トモナラバ幸甚々々

當國使用ノ適否並ニ我日本生絲改良スベキ要件

（一）生絲ノ細太ハ「デニール」十四ヨリ十六ヲ適當トス然レモ追々製絹ノ進歩ニ隨ヒ稍細キ

ヲ好ミ十七ノ太キニ過クルハ人々大ニ之ヲ嫌ヒ十三ノ細キニ誤ヅハサマテ意トセザルノ情アリ尤モ良品ニ至リテハ伊佛生絲ノ十三十四「デニール」ナルヲ用ユ因テ我生絲ノ太キニ過グルハ細大不同ナクトモ高價ヲ得難シ故ニ務メテ太キニ誤タザルヤヲ注意スベシ

(二)我生本生絲ノ枠周圍甚ダ大ニ過グ當國製絹家ノ器械ニ適セザルモノアリ故ニ枠周圍五尺二寸ヨリ五尺五寸マデヲ好シトス當國ヘ輸入スル支那及ビ歐州生絲ヲ見ルニ概略右ノ寸尺ニ同ジケレバ改正アルモ決シテ歐州輸出ニ害ナカルベシ

(三)一綛ノ絲目ハ概算十二内外ヲ好シトス多量ナルハ再繰ノ際絲口ヲ失スル片見出シ難シ爲メニ絲屑ヲ生シ繰返シテ不便ナルノミナラズ絲量ヲ減スルノ憂アリ製絲家ノ大ニ嫌フ所ナレバ多量ナラザルヲ要ス

(四)絲口ヲ留ムルハ容易ニ之ヲ見出スノ便リニシテ各國生絲ニ口留ナキモノ少ナシト雖日本生絲ニ於テハ口留ヲナサズ或ハ切レ口ヲ結合セスシテ挽揚ケ又ハ繰返シオクモノ多シ故ニ再繰ニ至リ絲口ヲ見出スノ不便アリ大ニ時間ヲ費スノミナラス屑絲ヲ見出スノ憂アレバ必ズ生絲ノ始メ終リノ口ヲ丁寧ニ結ビ合セ成ルベク見出シ易キ樣注意シ且

切口ヲ結ビ合セ決シテ粗漏ナキヲ要ス

(五)絲ノ綾組少ナキハ再繰ニ至リ切斷セシ折之ヲ見出スニ苦ム前條ニ同ジキ憂ヒアレバ大ニ嫌ヘリ故ニ十分綾取リヲナスベシ

(六)器械座繰ヲ問ハズ品位ヲ分チ等級ヲ付スルハ尤モ緊要ニシテ之ニ綿密ニ區分スレバ各至當ノ價格ヲ得ルニ至ル然ルニ我製造家及ヒ生絲商ハ此ニ親切ナラズシテ只外面ニ由ラノミ區分スルガ故ニ細大一樣ナラズ又精粗混交セルヲ以テ取引ニ臨ミタトヒ良絲過半ニ居ルトモ買人ハ概シテ粗惡品ト見做シ極メテ低價ヲ附シ到底至當ノ價格ヲ得難キノ憂アリ因テ等級ノ區分ハ如何カニモ綿密ニスベシ

(七)一抱ノ生絲ニ光澤不同アルハ精撰ノ粗漏ニヨリ一繰ノ生絲ニ光澤不同アルモ挽揚ヲ換ヘザルニ由ルナルベシ右ノ不同アルハタトヒ細大ニ不同ナク又實用ニ差マデ害ナキモ唯外面宜シカラザルヨリ至當ノ價ヲ得難シ因テ成ルベク光澤不同ナキヤウ注意スベシ

(八)器械絲製ハ座繰絲ニ比シ一般ニ細大不同アル㆒少ナシト雖モ伊佛ノ製ニ比ブレバ甚ダ不同アルコヲ知ル故ニ當國ニテ上等織物ヲ製スルニハ大概伊佛ノ絲ヲ經絲トシ我器

械絲又ハ上等掛田絲等ヲ以テ繰絲トス我器械絲ノ内二三種ヲ除クノ外上等製品ノ經絲ニ用フルモノ少ナキハ只細大ノ不同ナルニ由ルコト多シ是伊佛上等絲ノ價格ヲ得難キ源由ノ一ナリ因テ成ルベク細大一樣ナラシムベシ

(九)我器械製ノ内二三種ヲ除クノ外上等器械絲ト雖モ無地ノ織物ニ縞ヲ生スルコト少ナカラズ個ハ何レニ源因スルカ我輩未タ之ヲ審カニセザルヲ以テ其改良ヲ報スルニ苦ム所以ナレモ既ニ右ノ害アル故上等織物ノ陰部ニ用キ難キ所モ少カラズ其原因ヲ研究シ速カニ改良スルヿヲ要ス（按スルニコハ白繭絲ト黃繭絲トノ混淆ヨリ起コルヿニテハナキカ尙考フベシ）

(十)我生絲ハ器械手繰ヲ問ハズ護謨質強ク枠角ノ固マリ甚堅キヨリ再繰ニ至リ右ノ固マリヨリ切斷スルモノ少ナカラズ遠路ノ輸送ナレバ此カ爲途中大ニ生絲ヲ損スルノ害アリ因テ成ルベク枠角カタマリ少キヤウ注意スベシ

(十一)掛田折返シ造リハ兩三年前マデハ品位正シク其質モ亦美ニシテ當國儒用ニ適シ人々競求スルコト器械製ノ右ニ出ヅルノ勢アリシニ近來殊ニ粗惡ニ流レ品位不正ナルモノ頗ル多キナリ大ニ聲價ヲ整シ方今ハ我生絲ノ中尤モ嫌忌セラル、所ニシテ取引其六

ケ敷速ニ改良セサレバ必竟外ノ衰体ヲ顯ハサン

(十二)前橋捻リ造リハ再繰ノ易キヨリ人々之ヲ好ミ需用倍々相增加スヘキ形況ナレドモ該品ノ增加スルニ隨ヒ方今輸造シ來ル所ヲ見ルニ既ニ粗惡ナルモノ少カラズ若シ注意ノ薄キニ於テハ必ス掛田ノ覆轍ヲ踏マン故ニ今日ニ在テ宜ク一層注意スベシ

(十三)提絲ハ昨年以前マデハ中等品ヲ製スル緯絲ニ相用ヒ消費ノ高モ多量ナリシガ該品ノ造リ方極メテ粗惡ニシテ生絲切斷スルコト少カラズ故ニ甚ダ再繰ニ苦ム例ヘバ上等器械絲ヲ揚返スニ一婦六七十枠ヲ擔任スルモ提絲ニ於テハ僅ニ三十枠内外甚タシキハ二十枠ヲモ擔任スルコト能ハズ因テ費用一倍金ヲ拂フニ至リ當國ノ如キハ手間至テ高キヲ以テ其費用大ニ嵩ミ加フルニ絲量ヲ減シ又ハ時間ヲ費スコト甚シ故ニ其費ヲ償フニ亟ラズ是近來該品ノ需用ヲ減ジタル原因ニシテ昨今殆ンド取引ナキ所以ナリ加之先般某器械場ニ於テ繰返女工トモ提絲ヲ返スハ實ニ堪ヘ難キ情ナリ若シ提絲ヲ返スニ於テハ暇ヲ請フトマデ云ヒ出デタリシコトアリキ斯ル情實アレバ該品ハ尤モ迅速ニ造リ方ヲ改良スベシ前條ニ陳述セシ箇條ニ由リテ改製シ決シテ狡猾姦商ノ所爲ヲナサズ一層直實ナル良絲ヲ製出スルニ至テハ我日本生絲ハ意外ノ商況ヲ表シ我國產出高ノ半ヲ

需用スルノ多キニ至ルモ遠キニアラザルベシ云々

六月第三十三國立銀行ハ群馬縣前橋ニ支店ヲ設ケ製絲資金ノ名義ヲ以テ地方產業ノ爲メ資金運轉ノ途ヲ啓ク

是ヨリ先キ群馬縣星野長太郎同宮崎有敬等ハ第三十三國立銀行ガ爲シタル製絲上外國爲替ノ法ハ其規摸小ニシテ多數ノ直輸ニ不便ヲ感ズルヲ遺憾トナシ之ヲ東京府福澤諭吉ニ計リシニ其答ニ曰ク政府曾テ三百万圓ノ資金ヲ正金銀行ニ預ケアリ即チ直輸出貿易ヲ保護スルガ爲メナリト則兩人ハ正金銀行頭取中村道太ニ面シ資金ノ貸與ヲ請フ同行之ヲ承諾シテ十萬圓ノ貸與ヲ約ス

於是星野長太郎ハ從來ノ關係ヲ推シテ第三十三國立銀行ニ對シ事ノ始末ヲ告グタルニ同行ハ資金運轉ノ方若シ二途ニ出ズレバ將來不都合ナキヲ保セズ故ニ正金銀行ガ受諸十萬圓ハ本行ニ借リ受ケ本行更ニ之ヲ蠶業家ヘ運轉セバ双方ノ便利尠カラズ且本行ハ資金ヲ增加シ前橋ニ支店ヲ設置シ荷爲替金ノ取扱ヲ擴張シ直輸貿易便利ヲ開カン事ヲ計畫セリ

同月宮城縣ハ士族授產ノ爲メ養蠶製絲ノ起業方法ヲ內務省ニ開申シ其資金五萬圓ノ貸與ヲ

ランヲ稟請シテ聽サル

同月兵庫縣ヨリ士族授產ノ爲メ養蠶織物栽桑各地適應ノ業ヲ授ケ資金ヲ割與シテ其業ニ就カシムルノ方法ヲ內務省ニ開申シ資金六萬圓ノ貸與ヲ稟請シテ聽サレタリ

是月東海道御巡幸ノ　車駕甲斐國甲府ニ至ル山梨縣廳及勸業場物產陳列所等ニ臨幸アリ

同縣所管勸業課製絲場工女三百人製絲ノ樣ヲ　親覽シ賜フ

勸業課製絲場ハ是時粗衣ノ　龍眼ニ留マルヲ畏ク思ヒ各黑白交織ノ揃ノ服ニ女袴ヲ着シ謹愼製絲ノ實狀ヲ御覽ニ供シタリ曩キニ　車駕ノ東海道御巡幸ヲ仰出サルヽヤ縣人ハ千古未有曾ノ盛典ナルヲ以テ官民競フテ　聖駕ヲ迎ヒ奉ル時ニ同縣東八代郡石和村素封家八田達也之ヲ聞テ曰ク　陛下恭クモ本縣ニ臨幸アラセ賜フヤ民ノ疾苦ヲ察シ地方ノ實狀ヲ明ニセント聖慮シ給フニアリ宜シク地方蠶業ノ樣ヲ天覽ニ供シ　聖旨ノ優渥ナルニ奉答スベシト準備中達也病ヲ得テ伊豆國熱海溫泉ニ至ル偶々　車駕ノ東京御發アルノ報ヲ得ルヤ妻女ハ是ヲ在熟海ノ達也ニ報ズ時ニ達也ハ病良々癒ユルヲ以テ晝夜兼行歸宅スレバ妻已ニ家人ヲ使役シテ蠶卵孵化ノ初メヨリ熟蠶上簇養蚘產卵ノ終リニ至ル迄悉ク組織シタリ於是達也殘務ヲ整理シ地方官ヲ經由シ　龍覽ヲ奏請ス　陛下之

ヲ嘉シ賜ヒ伏見宮ヲシテ文武百官ヲ扈從シ代覽セシメラル宮親シク達也ノ勞ヲ慰シ金幣ヲ賜フテ之ヲ賞セラル

八月井上馨上野國前橋生絲改所ニ至リ有志ノ多年勉勵シテ直輸販賣ニ從事シタル美擧ヲ賞シ且之カ奬勵ノ演說ヲナセリ蓋シ此行ヤ井上馨ガ當時上野國伊香保温泉ニ入浴中ナルヲ以テ生絲改所ガ切ニ事業視察ヲ請フタルニ出フト云フ

同月宮崎縣日向國「おび」商社松田茂太郎ハ同地ニ製絲場ヲ設ケンガ爲メ速水堅曹ニ附テ製絲術ヲ研究スル所アリ

同月愛知縣勸業課員湯治推雄同縣下時ノ島村大野勘逸等製絲業實習ノ爲メ勸農局所管ノ富岡製絲所ニ來リ實業ニ從事ス

同月群馬縣星野長太郎ハ時ノ參議井上馨ノ紹介ヲ以テ大藏卿大隈重信ニ謁シ製絲上一大會社設立ノ爲メ資金百万圓貸與ノ件ヲ請願セリ時ニ卿ノ曰ク子等ノ請願介意セザルニ非ズト雖トモ廟議未ダ決セザルヲ以テ指令シ難シ然レモ其決定早晩ナリト信スレバ待ッ所アレトモ是時ニ於テ大藏省官吏前田正名朝野ノ間ニ斡旋シテ直輸貿易ノ利ヲ論ジ種田議一又タ前田正名ノ贊同ヲ得テ資金貸與ノ事ニ盡力シ大隈重信伊藤博文佐野常民吉原重俊等ノ貴顯ニ就

テ請フ所アリシガ何レモ未ダ確タル答ナカリキ於是星野長太郎宮崎有敬等又タ貴顯ノ間ニ往來シテ當時ノ實況ヲ具陳シ貸與ノ恩命ヲ乞ノ更ニ切ナリ而シテ貸與ノ義未ダ絕望ニ非ルヲ見タレバ曩キノ企畫ニ畫キ上毛繭絲改良會員ヲ以テ一大會社ヲ設立スル事ヲ決ス

同月製絲業有志家同業團体ノ一大會社ヲ起サントス松方内務卿ノ許可ヲ得テ上野國富岡製絲所ニ開ク

九月筑後國御井田町ニ養蠶製絲改良ヲ目的トセル厚生社起ル官資金代量六千圓社金七百五十圓ヲ以テ創業ス

十月石川縣ニ於テ繭茶共進會ヲ管内金澤公園内勸業博物ニ開ク

同月長野縣ニ於テハ生絲繭織物共進會ヲ小縣郡上田町ニ開ク

同月群馬縣上毛繭絲改良會員ハ集會ヲ前橋本町生絲改所ノ樓上ニ開キ上毛繭絲改良會設立ノ議ヲ決定ス

十一月前田正名井上勝之助大藏卿ノ命ニ依リ屬官谷謹一郎ヲ從ヘ上野國前橋町ニ至ル種田誠一モ同行ス是時群馬縣令楫取素彦ハ上毛繭絲改良會員百餘名ヲ召集シテ前田正名ノ一行ニ紹介ス是時前田正名ハ今回出張ノ要領ヲ述ベ繭絲改良會員ノ請願ニ係ル資金貸與ノ件時

日ヲ期シテ貸與ノ恩命ナシト雖モ廳議ノ決スル不日ニアルヲ以テ意ヲ安ズル所アレ且余ガ不日佛國ニ航スルハ海外貿易ノ擴張ニアリ諸子内地ニ留マリ須ラク輸送ノ爲メニ盡ス所アレ余ハ若シ此職ノ全キヲ得ザレバ再ビ諸君ニ見エズ云云大ニ會員ヲ感激セシム

同月大藏省御用掛前田正名富岡製絲所ニ到リ所長速水堅曹ト富岡製絲所處分ノ件ヲ熟議ス（參照）是年五月ノ條

同月種田誠一星野長太郎ハ兼テ起草シタル會社ノ規則書草按ヲ携ヘ出京シテ大隈重信井上馨佐野常民吉原重俊前田正名等ニ呈出シ次テ群馬縣廳ニ向ツテハ定款規則ヲ添テ設立ノ願書ヲ呈出ス

縣令ハ一般ノ會社條例ノ制定ニ至ル迄ハ人民相對ニ任スベシトノ指令ヲ與フ而シテ願出定款及ビ申合規則ハ左ノ如シ

繭絲改良會社定款

明治十三年十一月廿日當會社ヲ創立スル爲メニ株主等集議ノ上決定シタル約程ノ條々左ノ如シ

會社名義ノ事

第一條　當會社ノ名號ハ繭絲改良會社ト稱スベシ

會社位置ノ事

第二條　當會社ヲ假リニ東群馬郡前橋本町十九番地ヘ設置シ其他要用ノ地ニ若干ノ分社出張所ヲ置クベシ

會社資本ノ事

第三條　會社ノ資本ハ金百萬圓ニシテ一萬株ニ分割シ一株ヲ百圓ト爲ス

第四條　凡養蠶製絲改良ニ熱心ナル各社各組及一ノ工場ヲ維持スル者ハ當會社ノ規則ヲ遵奉シテ其株式ヲ引受ケ株主帳ニ姓名ヲ登錄シタル者ハ都テ當會社ノ株主タルベシ

第五條　會社ノ株主ハ現在流通ノ貨幣ヲ要セス各自所有ノ不動産ヲ以テ徵集シ第三十三國立銀行ニ約シテ通貨ト換用スルモノトス

第六條　各株主タル者ハ其引受ケタル株式一個ニ付株式券狀一通宛ヲ領收シ而シテ養蠶製絲ノ爲メニ券狀對當ノ通貨ヲ配賦運轉スルノ權利アルヘシ

第七條　當社ハ專ラ繭絲改良ノ目的ナルヲ以テ資金ヲ要セサル同志者ハ當會社ノ規則ヲ遵守スルニ於テハ入社證ヲ渡シ株式所有者ト一般ノ取扱ヲ爲スベシ然レモ會社ノ損益

上ニ關スル事件ニ付テハ會議發論ノ權ナシ

株式授受ノ事

第八條　當會社ノ株主所持ノ株式ヲ賣却シ或ハ授與スルトキハ頭取取締役ノ承認ヲ受ケテ後其事ヲ行フベシ

第九條　株式ヲ讓受賣買スルニ當リテハ双方連印ノ證書ニ交換ノ不動産ヲ添ヘ會社ニ差出スベシ該證書ヲ差出シタル上ハ頭取取締役ニ於テ其事ヲ株主帳ニ記入シ株式券狀ノ姓名ヲ書改ムヲ可シ此手續ヲ爲サヾル時ハ既ニ株主帳ノ記名人ヲ以テ株主ト見做ス可シ

第十條　當會社ノ株式券狀破損或ハ紛失セシトキハ其株主ノ請求ニ應ジテ之ヲ書換ヘ新券狀ヲ附與ス可シ但シ紛失ナレハ其次第ヲ明記シ保證人連印セル證書ヲ差出サシム可シ

會議ノ事

第十一條　定式總會毎年二月ト定メ株主ハ豫テ代議人ヲ撰定シ頭取取締役ノ招集ニ應シ何時ヲ問ハズ臨時商議シ可否ヲ決スルノ權ヲ有セシムベシ

第十二　條頭取役ハ何時ニテモ適當ナリト思考スルニ於テハ臨時總會ヲ開クコヲ得ベシ又人員三十名以上ノ株主ヨリ臨時開會ノ招集ヲ請求シタルトキハ直チニ之ヲ招集スベシ

但シ右株主ノ請求書ニハ其總會ヲ欲スル事件ノ要領ヲ記載スベシ頭取役右ノ請求書ヲ請取リシ日ヨリ十日以内ニ招集ノ手續ニ取掛ラザルトキハ請求人自ラ之ヲ招集スルヲ得ベシ

第十三條　當會社ノ會議ハ議員過半數出席スルニアラサレバ議場ヲ開ク可カラズ

第十四條　臨時議會ニ於ハ其招集ノ報告書ニ記載スル事件ノ外他ノ事件ヲ議ス可カラズ

第十五條　會議ノ議長ハ頭取之レニ任シ又議員ヨリ之レヲ撰舉スルヿアルベシ

第十六條　定式臨時ヲ問ハズ會議ニ決スル事項ハ之レヲ決議錄ニ登記シ議長之レニ記名調印スベシ

第十七條　都テ議事ハ發言又ハ投票ノ多數ヲ以テ決スベシ然レモ出席議員ノ過半數ニ至ラサルモノハ原案ニ就テ審議セシメ若シ其數相半スルトキハ議長自ラ其可否ノ數ニ入ル可シ

役員撰舉ノ事

第十八條　當會社ノ取締役ハ十株以上ヲ所持スル株主ノ内ヨリ十一人ヲ撰舉シ然シテ例年定式總會ニ於テ其内三人ヲ改撰シ交代セシム可シ

但改撰擧ハ抽籤ヲ以テス

第十九條　取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ正副頭取一人宛監査役二人ヲ撰定スベシ

第二十條　取締役在職ノ年限滿二ケ年トス但シ在職セシム可カラサル事故有ル時ハ此限リニアラズ

第二十一條　株主ノ衆議ニ由テハ取締役ヲ復撰スルヲ得ベシ

第二十二條　取締役ノ內不時ニ欠員アルトキハ取締役ヨリ臨時總會ヲ開キ之レヲ撰擧セシメ以テ其缺ヲ補フベシ

取締役ノ責任及權利ノ事

第二十三條　各取締役其定格ノ株式券狀ヲ當會社ニ預ケ其代リトシテ禁授受賣買ノ五字ヲ附シタル預リ證書ヲ請取置キ在職中ニハ其券狀ニ對スル金額ヲ運用スルヲ得ズ

第二十四條　取締役ハ定款ノ趣旨ニ從ヒ其適任ノ職務ヲ執行フノ權アルモノトス

第二十五條　取締役ハ書記以下ノ諸員ヲ任免シ其職務ヲ分課シ又其給料及身元保證ノ法方等ヲ定ムルノ權アルベシ

第二十六條　取締役ハ當會社ノ處務上ニ緊要ナル申合規則ヲ議定スルノ權アルベシ

第二十七條　取締役ハ本社全体ノ事務ヲ管理シ及ビ役員ヲ監督スルノ責ニ任シ又會社ノ訴訟ニ付テハ原告トナリ又ハ被告トナルベシ

第二十八條　取締役本社定款ニ背戻シ其レカ爲メニ株主又ハ其他ノ人ヲシテ損失ヲ受ケシムルトキハ總會ノ決議ニ依リ取締役自ラ之ヲ償フノ責ニ任ス可シ

第二十九條　當會社定款ノ趣意ニ背ザル以上ハ政府或ハ銀行等ト格段ナル約束ヲ結ブ當會社ノ便益ヲ達スル如キハ取締役評議限リ之ヲ決行スルヲ得可シ但シ毎事之ヲ社中ニ報告スベシ

第三十條　取締役其他ノ役員權內ニ於テ正シク執行シタル事件ヨリ生シタル會社ノ義務ハ（其身株主タルノ故ヲ以テ其株式ニ係ル責任ヲ負フノ外）之レヲ自身ニ擔當スルニ及バス然レドモ其社則ニ背キ或ハ其權限ヲ踰ヘテ爲シタル事件ヨリ會社ニ負ハシメタル損失ハ其辨償ノ責ヲ免カレザルモノトス

第三十一條　取締役若シ人ヲシテ社則ニ背カシメ又ハ背戻スルヲ見逃スコトアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人ヲシテ損失ヲ受ケシムル時ハ取締役其辨償ニ任ス可シ

第三十二條　監査役ハ社中ノ簿記其他ノ諸書類ヲ點檢シ諸計算ノ正不正ヲ審査シ以テ其

計算中ノ正確ニシテ誤謬ナキヲ保證スルノ責ニ任ス可シ

第三十三條　監査役ハ取締役及其他役員ヲ推糺シ又ハ其職務上ニ附キテハ書記以下ノ役員ヲ使用スルコヲ得ベシ

第三十四條　取締其他役員萬一心付カスシテ社中ノ契約ニ背クコ或ハ不都合ノ約定ヲナシタル時ト雖モ其事會社ノ業務限内ニ在ル時ハ社外ノ人ニ對シテ會社責任タルヲ以テ其義務ヲ擔當スベシ

但社外ノ人此等ノ事ヲ知テ相議スルノ實證アル時ハ例外トス

第三十五條　當會社役員格別勤勞アルモノニハ取締役ノ評議ヲ以テ月給半額ニ超ヘザル臨時ノ賞譽ヲ與フベシ

役員ノ事

第三十六條　當會社役員ト稱スルモノ左ノ如シ

取締役十一人内（一人頭取一人副頭取二人監査役）　書記九人　計算方二人

第三十七條　當會社役員ノ給料ハ左ノ如シ

本支社正副取頭ハ月給五十圓ヨリ多カラズ三十圓ヨリ少カラザル等ノ際ニ於テ其人ニ

依リ取締役ノ衆議ニ決ス可シ其他ハ左ノ表ノ如シ

取締役　月給三十圓

書記本社在勤

月給（金拾五圓ヨリ多カラズ八圓ヨリ少ナカラズ）　月給同上

計算方本社在勤

月給（金拾五圓ヨリ多カラズ八圓ヨリ少ナカラズ）　月給同上

檢査役本社在勤

月給（金拾五圓ヨリ多カラズ八圓ヨリ少ナカラズ）　月給同上

監査役　月給三十圓

同上支社出張所在勤

同上支社出張所在勤

同上支社出張所在勤

第二十八條　當本支社ノ給仕小使ノ人員及給料等ハ正副頭取ニ於テ至當ニ決定スベシ

營業年限ノ事

第三十九條　當會社開業ノ日ヨリ滿五ケ年ヲ以テ結社ノ年期トス滿期ニ至リ繼續營業セント欲スル時ハ社中ノ協議ニ決スベシ

會社業務ノ事

第四十條　會社ノ業務ハ繭絲ヲ改良スル爲メ適宜ノ方法ヲ設ケ順次ニ着手シ精巧ノ良品ヲ製出スルコヲ營ム

第四十一條　繭絲改良ノ爲メ資金ノ運用ヲ望ムモノニハ成規ニ照シ確實ト認ムル時ハ是レヲ配附スベシ但シ歩合ハ年一割二歩ヨリ多カラズ年九歩ヨリ少ナカラザルノ際ニ於テ定ムルモノトス是レヲ概言スレバ銀行約束高ニ二歩ヲ加フルモノトス

第四十二條　當會社ハ養蠶改良ノ爲メ若干ノ撿査掛ヲ置キ社中ノ各組ヲ巡視シ蠶種ノ善惡桑園ノ培養飼蠶ノ巧拙等ニ注意シ懇切ニ養蠶家ヲ誘導シ成繭ハ撿査ノ上品等ヲ定メ評價シテ返戻ス尤モ其評價ヲ以テ賣却ヲ欲スルモノハ社中ニ於テ買入スベシ

第四十三條　製絲ハ都テ會社ノ名ヲ以テ海外ニ直賣スルヲ本旨トス

第四十四條　製絲ハ本社或ハ各支社ニ於テ撿査シ荷爲替金ヲ望ムモノハ第三十三國立銀行ニ申込元價十分ノ八以内ヲ貸與セシムベシ但シ利子ハ時々定ムルモノトス

第四十五條　當會社ハ製絲改良ノ爲メ若干ノ撿査係ヲ派出シ不斷社中製造所ヲ巡視シ現繭ヲ鑑別シ勉メテ品位ヲ一定ナラシメ「テニール」ノ平均ヲ得ルヲ旨トシ併セテ繰方ヲ教示シ進歩ヲ促ス可シ

第四十六條　内國養蠶生絲產出ノ景況並ニ外國織工家ノ嗜好注文及絲相場等ハ時々社中ニ通報スベシ但シ各社中ニ於テハ該地方本業ノ盛衰損益ヲ本社ニ通報スベシ

第四十七條　各製絲場商標ノ外ニ當會社ノ標ノ事

會社費用ノ事

第四十八條　當會社ノ費用ハ第四十一條ニ掲クル三分ノ歩合金及社中製造ノ生絲英百斤ニ付金五十錢繭一石ニ付五錢ツヽヲ收入シテ以テ支辨スルモノトス其費目左ノ如シ

一頭取以下役員ノ給料
一本支社及出張所一切ノ雜費
一使役人ノ給料
一都テノ報告書費
一家賃及器具創業入費
一賞與金及旅費

資金運用ノ事

第四十九條　本社出精現金取扱ハ一切是レヲ第三十三國立銀行前橋支店ニ依頼シ本社ニ於テハ薄冊ニ記載スル而已ニシテ現金ヲ扱ハザルヿ

第五十條　總テ社中タルモノ其所持株券同額ノ通貨ハ成規ニ隨ヒ其券狀ヲ抵當トシ運用シ得ベシ

總勘定ノ事

第五十一條　當會社ノ總勘定ハ毎年二月上旬ニ於テス可シ

第五十二條　當會社運用金ノ歩合ヨリ諸費用ヲ支拂餘金アレハ是レヲ會社ノ準備金トシ第三十三國立銀行ニ預ケ置キ改良ノ爲メ適當ト認ムル試驗費等ニ仕拂各會社各組非常ノ災害ニ罹リタル時ハ適當ニ法ヲ以テ其損失ヲ補フノ資トス

第五十三條　當會社ノ株主帳定款總會ノ決議書財產記錄及計算報告書ハ株主債主及望ヨリテハ社外人ノ閲覽ヲモ許ス可シ尤毎年一月一日ヨリ三十一日迄ノ間ハ其閲覽ヲ禁ス可シ

第五十四條　當社ノ取締役ハ總勘定ノ後ニ於テ出納精算書ヲ製シ定式總會社ニ於テ之レヲ株主ノ撿閲ニ供シ及同時ニ於テ當會社現在ノ資產ト負債トノ計算略表ヲ製シ之レヲ

總株主ニ配達スベシ

郵便及報告書送達方ノ事

第五十五條　當會社ヨリ各株主ニ送ル可キ諸報告ハ之レヲ直送スルモ或ハ郵便ニ托スルモ其時々ノ便宜ニ從フ

第五十六條　報告ヲ郵便ニ托スル片ハ郵便ノ常程ヲ量リ其時限ニ於テ到達シタルモノト見做ス可シ若シ其報告ヲ受取ラザル者アリテ紛議ヲ生ズル片當會社ニテハ其差立書ノ宛名ヲ誤リシカ其差出方郵便規則ニ違ハザリシカヲ證明スルノ外他ノ責ニ當ラザル可シ

印章ノ事

第五十七條　當會社ニ於テ用フル處ノ印章左ノ如シ

（印章之略）

禁止ノ事

第五十八條　本社ノ資金ヲ以テ買賣ヲ爲ス可ラズ

第五十九條　當會社ノ役員其姓名ヲ以テ自已ノ利益ヲ謀リ或ハ會社ノ物件ヲ私用シ又ハ

不正ノ證券類ヲ以テ他人ヲ欺騙ス可カラズ若シ之ニ損害ヲ蒙ムル者アル時ハ其奸僞者ヨリ辨償セシメ且相當ノ誤リ金ヲ出サシム可シ

第六十條　當會社役員ヲ始メ都テ社中タルモノ此定款ニ背戻スル者有ル時ハ金三十圓ヨリ多カラズ二圓ヨリ少ナカラサルノ誤リ金ヲ頭取取締役及監査役ノ衆議ニ依テ相當ニ出サシメ或ハ脫社セシムルコアル可シ

定款更正ノ事

第六十一條　此定款ノ個條ハ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ改正加除スルコヲ得ベシ

右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定メ候其證據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致候也

明治十三年十一月廿二日

南勢多郡水沼村	水沼製絲場
東群馬郡前橋町	星野長太郎
佐位郡伊勢崎町	製絲原社
南勢多郡水沼村	松本源五郎
東群馬郡前橋北曲輪町	勸奬組合
	宮崎有敬
	亘瀨組
	星野耕作
	精絲原社
	深澤雄象

碓氷郡原市村	荻原茂十郎
綠野郡上大塚村	小林五郎平
西群馬郡高崎田町	反町覺彌
甘樂郡富岡町	黛治邦
西群馬郡中室田町	久森鳥曉
東群馬郡前橋町	久野小作
南勢多郡一毛村	喜多正雄
利根郡沼田町	小淵文之助
同　郡沼田村	朝倉克邁
南勢多郡荻原村	神山雄一郎
南勢多郡關根村	桑島新平
佐位郡伊勢崎町	德江八郎
西群馬郡神戶村	木暮捨次
西群馬郡金井村	岸平六

碓氷精絲社
綠野精絲社
其立精絲社
甘樂精絲社
精絲原社
精絲原社敷島社
同　沼田組
同　同
神山製絲場
研業社製絲場
共研會社
競良社
金井製絲社

北勢多郡絲井村　絲井精絲社　六百四十四　高橋丹次郎
南勢多郡荻村　水野精絲場　水野安次郎
西群馬郡板井村　板井精絲場　羽島甚藏
同　郡青梨子村　繭原共立絲場　松下善作
西群馬郡上新田村　精良社　倉林善四郎
同　惣社町　惣社製絲社　佐藤七之助
南勢多郡小神明村　赤城社　萩原清十郎
同　持柏木村　柏木社　藤川清作
同　岩神村　潤廣社　山室喜四郎
同　才川村　北精選社　八木收總
佐位郡伊勢崎町　伊勢崎製絲組合　星野太平
同　波志江天龍組合　石原源八郎
同　同　綠野養蠶組合　橫堀宇東
綠野郡新町　內田源六郎

同　同　井本八郎
同　立石村　同　清水宗兵衛
新田郡大館村　新田養蠶組合　大館嘉門
利根郡沼田町　沼田養蠶組合　小淵重右衛門
同　下久屋村　下久屋養蠶組合　永井甚平
西群馬郡青梨子村　繭原養蠶組合　井草太良右衛門
同　北原村　北原養蠶組合　松田信太
同　上新田村　上新田養蠶組合　中林紋藏
同　惣社町　惣社養蠶組合　谷田定五郎
佐位郡伊與久村　伊與久勵業社　宮崎葆吉
同　伊勢崎町　伊勢崎養蠶組合　石原重勝
同　波志江村　波志江養蠶組合　橫堀宇東
同　國定村　國定養蠶組合　國定瀧司
那波郡國領村　國領養蠶組合　高柳多次郎

六百四十五

同　柴町
吾妻郡本宿村
吾妻郡中三條村
同　須川村
西群馬郡村上村
吾妻郡原町村
同　林町
吾妻郡原町村
同　大塚村
同　五町田村
同　箱島村
同　植栗村
同　大津村
同　三原村

柴養蠶組合
坂上養蠶組合
中之條養蠶組合
須川養蠶組合
村上養蠶組合
吾妻精絲社村上組
吾妻精絲社組
吾妻精絲社
同　大塚組
吾妻五町田組
同　箱島組
同　長田組
同　大津組
同　三原組

中澤圓藏
中井總平
田中甚平
梅澤嘉平
村上耕作
同　人
星川利平
高橋重郎次
田村佐傳次
唐澤太平次
佐々木一二
茂木小重郎
櫻井傳三郎
篠去仙吉

同　門貝村
同　應桑村
佐位郡東小保方村
同　西野村
那波郡上ノ手村
同　福村
同　飯島村
同　川井村
那波郡飯倉村
同　沼上村
同　小泉村
同　下福島村
同　南玉村
南勢多郡上細井村

同　門貝組
同　應桑組
小保方養蠶組合
西野村養蠶組合
上ノ手村養蠶組合
福島村養蠶組合
飯島村養蠶組合
川井村養蠶組合
飯倉組養蠶組合
沼上村養蠶組合
小泉村養蠶組合
下福島村養蠶組合
南玉村養蠶組合
愛精社

黑岩文次郎
黑岩源重郎
小保方竹次郎
六本木吉三郎
宮下勘十郎
波邊半六
岡田治平
齋藤新藏
齊藤三衛
高橋文十郎
重田佐十郎
齊藤常吉
笠原仲三
金井藤造

東群馬郡前橋町　明練社　長畑扁舟
南勢多郡永井小川田村　製絲所　石川武平治
東群馬郡前橋北回輪町　前橋養蠶組合　白坂邊
同　天川村　高聞社　高島應策
那波郡西善村　保明社　龜井數衛
東群馬郡前橋村　日盛社　黑崎長平
南勢多郡才川村　衆潤社　田崎太四郎
新田郡前小屋村　製絲所　岡田三郎
那波郡連取村　連取社　森村登喜太
新田郡大原本町　大原組　瀧原義雄
東群馬郡北回輪町　燃絲原社桐華組　久野小作
那波郡今村　養蠶組合　中島德次郎

蠶絲改良會社創立證書

國產ノ蠶絲ヲ改良シ精巧純美ノ生絲ヲ製造シ輸出ノ額ヲ增殖シ貿易ノ不平均ヲ補ヒ屹然

商權ヲ恢復スル吾輩臣民ノ本分也因テ各自所有ノ不動產及公債證書ヲ蒐集シ第三十三國立銀行ト約定シ之ヲ通用紙幣ニ換ヘ養蠶製絲二業ノ資本ニ補融シ適實ノ改良方法ヲ設ケ會社ヲ創立シテ以テ本業ヲ經營セント謀リ則チ此創立證書第五條ニ連署シ一致協同シテ營ム會社創立證書取極メ候也

第一條　當會社ノ名號ハ繭絲改良會社ト稱スベシ

第二條　當會社ハ群馬縣下東群馬郡前橋本町十九番地ニ設置シ其他樞要ノ地ニ支社及出張所ヲ置クベシ

第三條　當會社ノ資本ハ金百萬圓ニシテ百圓ヲ以テ一株ト爲シ總計壹萬株ト定メ地券及公債證書ヲ以テ募集ス可シ

第四條　當會社ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿五ヶ年間タル可シ

第五條　當會社株主ノ姓名住所並ニ各株主ノ引受タル株式ハ左ノ如シ

株數	全額	地名	社名	人名
千三百〇六株	十三万〇六百圓	甘樂郡富岡町	甘樂製絲社	黛治邦
千三百株	十三万圓	碓氷郡原市村	碓氷社	荻原茂十郎

九百株	九万圓	綠野郡上大塚村	綠野製紙社	小林五郎平
八百株	八万圓	南勢多郡水沼村	山田、黑川互瀉組	星野耕作
五百十八株	五万千八百圓	西群馬郡高崎田町	共立製絲社	反町覺彌
三百〇一株	三万〇百圓	綠野郡新町	養蠶組合	内田源六郎
三百株	三万圓	西群馬郡中室田町	昇旭舖	久森鳥曉
六百〇二株	二万〇六百圓	新田郡前小屋町	製絲所	岡田三郎
二百〇四株	二万〇四百圓	綠野郡岡ノ郷村	養蠶組合	井本八郎
二百株	二万圓	東群馬郡前橋町	日盛舍	黑崎長平
二百株	二万圓	南勢多郡水沼村	製絲所	星野長太郎
百七十株	一万七千圓	關根村	研業社	桑島新平
百六十三株	一万六千三百圓	東群馬郡北曲町	精絲原社中 桐華組	深澤雄象
百五十株	一万五千圓	西群馬郡神戶綿	競良社	木暮捨次
百二十七株	一万二千七百圓	利根郡山田町	山田組	朝倉克邁
百二十株	一万二千圓	南勢多郡一毛村	敷島組	喜多正雄

百五株	一万五百圓	佐位郡伊勢崎町	勸奬組合	宮崎有敬
百株	一万圓	吾妻郡原町村	吾妻精絲社	高橋重郎治
百株	一萬圓	東群馬郡北曲輪町	精絲原社中 桐華組	松本源五雲
百株	一萬圓	同	同	久野小作
百株	一萬圓	北勢多郡糸井村	製絲社	高橋丹次郎
百株	一萬圓	南勢多郡才川村	衆潤社	田崎太四郎
百株	一萬圓	佐位郡伊勢崎町	共研會社	德江八郎
百株	一萬圓	綠野郡立石村	養蠶組合	清水宗兵衛
百株	一萬圓	東群馬郡前橋町	前橋養蠶組合	白坂邊
百株	一萬圓	那波郡連取村	連製社	森村登喜太
百株	一萬圓	西群馬郡板井村	板井製絲社	羽島甚藏
九十一株	九千百圓	吾妻郡中之條村	養蠶組合	田中甚平
九十株	九千圓	南勢多郡上細井村	愛精舍	金井藤藏
		利根郡沼田、原村	沼田組分社	小淵文之助

東群馬郡神明町	明練社	長畑扁舟	八十株
南勢多郡才川村	北精選社	八木收惣	八十株
那波郡川井村	養蠶組合	齊藤新藏	六十五株
西群馬郡惣社町	惣社製絲社	佐藤七之助	六十株
西群馬郡上新田村	精良社	倉林善四郎	六十株
新田郡前小屋村	養蠶組合	岡田三郎	五十一株
西群馬郡金井村	金井製絲社	岩下平六	五十株
同　郡青梨子村	繭原共立製絲場	松下善作	五十株
那波郡西善村	保明社	龜井數衛	五十株
南勢多郡小神明村	赤城社	荻原清十郎	五十株
同　郡荻村	製絲場	水野安次郎	五十株
同　郡岩神村	潤廣社	山室喜四郎	五十株
利根郡山田町	山田養蠶組合	小淵重右衛門	五十株
佐位郡伊與久村	養蠶組合	宮崎葆吉	四十五株

同　郡伊勢崎町	製絲所	星野太平	四十一株
同　郡國定村	養蠶組合	國定瀧次	四十株
吾妻郡大塚村	製絲社	田村佐傳次	四十株
同　郡箱島村	製絲社	佐々木一二	三十五株
同　郡五町田村	製絲社	唐澤太平次	三十五株
南勢多郡持柏木村	柏木社	藤川清作	三十五株
新田郡上田中村	養蠶組合	大舘嘉門	三十四株
西群馬郡村上村	製絲社	村上耕作	三十株
利根郡下久屋村	下久屋養蠶組合	永井甚平	三十株
西群馬郡北原村	養蠶組合	松田信太	三十株
同　郡惣社村	養蠶共立社	谷田定五郎	二十五株
吾妻郡應桑村	製絲社	黑岩源重郎	二十五株
西群馬郡青梨子村	繭石養蠶組合	井草太郎右衛門	二十五株
佐位郡伊與久村	養蠶組合	宮崎有敬	二十一株

二十株	二千圓	新田郡大原本町	製絲社	瀧原義雄
二十株	二千圓	那波郡沼上村	養蠶組合	高橋文十郎
二十株	二千圓	同　郡國領村	養蠶組合	高柳多次郎
二十株	二千圓	南勢多郡長井小川田村	小川田製絲場	石田武平治
二十株	二千圓	吾妻郡植栗村	製絲社	茂木小重郎
二十株	二千圓	同　郡三原村	精絲社	篠原仙吉
二十株	二千圓	同　郡大津村	製絲社	櫻井傳三郎
二十株	二千圓	同　郡順川村	養蠶組合	梅澤喜平
二十株	二千圓	同　郡本宿村	養蠶組合	中井總平
十八株	千八百圓	新田大原本町	養蠶組合	瀧原義雄
十七株	千七百圓	佐位郡波志江村	製絲社	橫堀宇東
十七株	千七百圓	那波郡福島村	養蠶組合	渡邊半六
十六株	千六百圓	同　郡南王村	養蠶組合	笠原件三
十六株	千六百圓	同　郡飯倉村	養蠶組合	齋藤三衛

十五株	千五百圓	佐位郡波志江村	養蠶組合	橫堀宇東
十五株	千五百圓	吾妻郡波志江村	精絲社	星川利平
十四株	千四百圓	佐位郡東小保方村	養蠶組合	小保方　竹次郎
十二株	千二百圓	佐位郡西野村	養蠶組合	六本木　吉三郎
十一株	千百圓	那波郡今村	養蠶組合	中島德三郎
十株	千圓	同　郡柴町	養蠶組合	中澤圓造
十株	千圓	吾妻郡門貝村	製絲社	黑岩文次郎
十株	千圓	西群馬郡村上村	養蠶組合	村上耕作
九株	九百圓	佐位郡波志江村	波志江大龍組合	石原源八郎
七株	七百圓	那波郡上ノ手村	養蠶組合	宮下勘十郎
六株	六百圓	西群馬郡上新田町	養蠶組合	中林紋藏
六株	六百圓	佐位郡伊勢崎町	養蠶組合	石原重勝
六株	六百圓	那波郡小泉村	養蠶組合	重田佐十郎
五株	五百圓	東群馬郡天川村	高間社	高島應策

五株　五百圓
二株　二百圓

第六條　此創立證書ハ養蠶製絲ノ二業改良ノ誠意ヲ以テ協同戮力シテ證書ニ冒頭ニ掲ク
ル主旨ヲ貫徹セン爲メ取極メタル證據トシテ一同姓名ヲ記シ調印致候也

明治十三年十一月二十三日　株主連中

蠶絲改良會合申合規則

第一條　本社ハ前橋本町十九番地ニ定ムルコ

第二條　當分出張所ヲ設クル左ノ如シ

高崎本町共立精絲會社
碓氷郡原市村碓氷製絲社
綠野郡藤岡町綠野製絲社
佐位郡伊勢崎町勸奬組合教授場
北甘樂郡富岡町甘樂精絲社
南勢多郡水沼村製絲原社出張所

那波郡飯島村　養蠶組合　岡田治平
同　郡福島村　養蠶組合　齋藤常吉

第三條　當會社ノ株式トシテ蒐集シタル地券證ハ第三十三國立銀行ニ相渡シ運用金ノ根
抵當トナスモノト雖モ各自多數ノ券面ニ付取締且便利ノ爲メ悉皆縣廳ニ預ケ縣廳ノ證
書ヲ以テ銀行ニ約束スルモノトス

第四條　當會社ノ株式ヲ所有シ養蠶製絲ノ爲メ金員ヲ支用スル順序左ノ如シ

第一節

製絲ノ資本ニ供セントスルモノハ六月ヨリ八月末日迄ニ取出シ支用スベシ其割合六月
中三分七月中四分八月中三分ト豫定ス

右運用ヲ欲スルモノハ株高ヨリ該歩合ヲ割合シ一ケ月前ニ用否ヲ申込ミ右ノ手續ヲ爲
タル上豫テ甲乙帳ヲ製シ置キ入用ノ高ヲ甲張ニ記入シ株券ト共ニ會ニ社持參スベシ會
株ニ於テ該券狀ヲ預リ甲張所望ノ金額ヲ記載シタル切符ヲ交附シ三十三銀行支店ニ於
テ通貨ニ換用ス可シ

第二節

該金戻シ入レハ製造ノ製絲ニ對スル荷爲替金ヲ以テ十一月ヨリ十二月迄ニ引出シ高ノ
三分翌年一月ヨリ五月迄ニ皆濟スベシ尤戻シ入レノ都度乙帳ニ本社ノ受取證印ヲ受ク

ルモノトス

但都合ニヨリ出荷ノ都度入金スルハ妨ケナシ

第三節

養蠶ノ資本ニ供セントスルモノハ十二月中七分翌年三月中三分ト定メ一ケ月前ニ入用額ヲ申込ム可シ金員受取手續製絲資本ト一般ナリ

第四節

該金戻シ入レハ七月中ニ半數殘半額ハ九月中ニ皆濟スベシ

但各組ノ都合ニヨリ成繭ヲ以テ返却スルモ妨ケナシ其代價ハ檢查掛リノ評價ヲ以テ定ムルモノトス

第五條　配賦ノ金額ハ都テ株式ニ依ルモノト雖モ現業ニ從テ要スル資金ノ補助ナレバ豫メ分賦ノ定度ナカルヘカラズ取締役ハ常各社ノ業上ニ注意シ其進度ヲ考定シ定度ニ照シテ配賦額ヲ增減シ或ハ停止スルコアル可シ則チ配賦ノ定度左ノ如シ

製絲資本ハ滿年製造絲價ノ半額ニ超ヘズ

養蠶資本ハ原紙一枚ニ付拾圓ニ越ヘズ

第六條　代議人ノ姓名ハ本社ニ申出姓名各簿ニ列記シ欠員アルトキハ速ニ代人ヲ撰舉シ姓名簿ヲ書改ム可シ

第七條　總會ノ前ニ當リ社員意見書ヲ作リ開會ノ三十日以前ニ本社ニ送達スベシ取締役ノ評議ヲ以テ衆議ヲ要スルト認ルモノハ議案ヲ編成シ開會十日前ニ送達スベシ

第八條　臨時會ヲ開カントスルトキハ其要求スルノ趣意ヲ明細ニ記載シタル議案ヲ作リ開會十日前ニ送附スベシ社中ヨリ開會ヲ要スルトキハ其趣意ヲ明記シタル書面ヲ本社ニ差出スベシ本社ハ該主意ヲ議題トシ開會五日前ニ各議員ニ送達スベシ

第九條　書記以下ノ給料及旅費ヲ定ムル左ノ如シ

一等書記	計算方	檢查掛　拾五圓
二等同	同	同　拾二圓
三等同	同	同　八圓

但可成各製絲所小使ト合併シ半額ヲ以テ支辨スベシ

檢查役旅費日每金七十五錢滯在日當　金五十錢

但二里以內ハ金三十錢ヲ給ス

頭取以下役員旅費往復トモ一里ニ付金十六錢
但月給ハ毎月廿日以后之ヲ給シ旅費日當ハ其時々給スルモノトス
第十條　各社製絲規則ハ各自ノ適宜タルベシ本社ニ於テハ是レヲ改良會ノ成議ニ照シ抵觸セズ且成議ヲ確守スル以上ハ奥書ヲ以テ保證スベシ
第十一條　巡回檢查掛リ檢絲怯ハ改良會ノ決議ニ依リテ施行ス
第十二條　養蠶ハ各地方適宜ノ方法ヲ以テ組合ヲ結ビ專ラ養蠶ヲ爲ス者ト雖モ本社ニ於テハ養蠶部組合規則條例ニ因リテ檢查スベシ
但新規ニ組合ヲ設立スル者ハ第十條ノ順序ヲ經テ奥書保證スベシ
第十三條　會社休暇ノ事
一般ノ祝日　日曜日
第十四條　宿直ハ副頭取以下書記計算方ニ於テ輪番ニ勤ムベシ
第十五條　役員結合ノ心得左ノ如シ
第一節
檢查役ハ當番ヲ定メ本社ニ二人出張所ニ一人ツヽ出勤シ一ケ月限リ交代スベシ

第二節
檢查役當番ヲ除クノ外ハ都テ組合ヲ巡回スル者トス
第三節
會社役員病氣不勤ノ節ハ其旨届ケ出ヘシ
但シ日數三十日ヲ超ユルトキハ月給半額ヲ減ズ尙五十日ニ至リ全快ノ目的ナキモノハ辭職スルモノトス
第四節
會社役員自己ノ要用アリテ出勤スル能ハザルトキハ届出差圖ヲ受クベシ
但シ日數十日ヲ超ユルトキハ月給廿分ノ一ヲ日數ニ課シ之ヲ償フモノトス
第五節
諸役員ハ毎日出勤簿ニ押印スベシ
第十六條　金員出納ノ順序左ノ如シ
第一節
金員ノ出納ハ計算方ニ於テ小切手ニ其員數ト事由トヲ記入シ取締役ノ認印ヲ受ケ取扱

フベシ

第二節

雜費金一圓以内ノ支拂ハ書記之レヲ取扱ヒ毎月惣計ヲ小手ニ記シ取調ノ認印ヲ受ケ計算方ニ差出シ決算スベシ

第三節

出張所ノ常費ハ毎月豫備金ヲ置キ習月五日以前ニ決算報告スベシ出納手順ハ取締ノ認印ヲ受ケ書記是ヲ取扱フベシ

第四節

各社各組ノ勘定ハ毎年惣會卅日前ノ決算表ヲ製シ本社ニ報告スベシ

第十七條　當會社ニ備フル帳簿ハ左ノ如シ

株式帳　株式地券臺帳　日誌出納帳　日記帳　惣勘定元帳　輸出帳　資本配賦帳
出勤帳　社員名簿　相場帳

第十八條　社則ニ背キタルモノヲ處分スルヿ左ノ如シ

第一節

生絲及養蠶ニ供スル資金ノ見積高ヲ僞リ現業不當ノ會員ヲ引出シ他ノ支用ニ供セシ者ハ其金員ヲ取揚ケ脫社セシム

第二節

事故アリテ製造見積ノ額ヲ製シ得サル節引出シタル金員ヲ返却セスシテ他事ニ支用シタルモノハ其金員ヲ返却セシメ脫社セシム

第三節

同上ノ場合ニ於テ返金ヲ爲シ得サル時ハ株式ノ地券ヲ公賣シ其滯金ヲ償ハシムベシ

右之通確定候也

繭絲改良會社

頭取　星野長太郎　副引取　松本源五郎
取締役　宮崎有敬　取締役　星野耕作
同　深澤雄衆　同　荻原茂十郎
同　小林五郎平　同　反町覺彌
同　久森鳥曉　同　治邦

同久野十作

右申合規則之主旨ヲ確認シ一同記名調印候也

株主連中

又當出張所ノ所在地ヲ示セバ即チ左ノ如シ

水沼出張所　高崎出張所　山田出張所　各社出張所

碓氷出張所　甘樂出張所　伊勢崎出張所　絲野出張所

同月富岡製絲場長速水堅曹内務省御用掛ヲ辭スルト共ニ富岡製絲所長ヲ辭シ同伸會社頭取トナレリ是ヽ富岡製絲所處分ノ内決セシト團結會社創立トノ止ムヲ得サル事情アルヲ以テノ故ナリ然レモ勸農局長品川彌二郎ハ殊ニ速水堅曹ニ委嘱シテ富岡製絲所ノ事陰ニ從前ノ如ク担當セシム此時岡當製絲場長心得ヲ川村清輔ニ命ズ

尋デ勸農局ハ富岡製絲場及新町屑絲紡績所ヲ以テ人民ニ賣與ベキノ廣告ヲ爲ス

富岡製絲所ハ其創設ノ議ヲ明治三年ニ起シ同五年ニ至ツテ開業ス本邦製絲改良ノ摸範ヲ人民ニ知ラシムルヲ任トシ初メヨリ尾高惇忠主任トナリシニ明治九年尾高惇忠職ヲ辭スルニ當リ山田令行之ニ代リ明治十三年三月山田令行辭職爾來勸農局ハ速水堅曹ニ委嘱シ

テ所長タラシメ今日ニ至リシ者ナリ而シテ本場ノ創設以來稱號及附屬ノ更迭セル者概ヲ左ノ如シ

明治六年一月　租稅寮ノ勸業課中ニ富岡製絲掛ヲ置ク

明治七年一月　勸業寮ニ於テ富岡製絲場ヲ管ス

明治九年九月　勸業寮分課定メ富岡製絲所トス　附新町屑絲紡績所モ同斷

明治十年三月　勸農局分課ヲ定メ富岡製絲所トナス　附新町屑絲紡績所モ同斷

明治十年十月　勸農局分課ヲ改メ富岡製絲所トナス　附新町屑絲紡績所モ同斷

明治十一年三月　勸農局處務假條例内各課事務假章程等ヲ更正シ富岡製絲所等ニ分ツ

附新町屑絲紡績所モ同斷

明治十三年

内務省ハ勸農局ノ分課ヲ更正シ處務條例ヲ改定シ富岡製絲場トス

附新町屑絲紡績所モ同斷

新町屑絲紡績所ハ明治七年佐々木長淳ノ建議ニ起リ創始シ者ニシテ明治十年開業ス該所ハ要スルニ屑絲屑繭ヲ紡績シ之ヲ良絲トナシ精良ノ織物原料ニ宛ツルニ在リ沿革附屬富岡製絲場ニ同シキヲ以テ同場ノ部ニ附言セリ

十二月直輸出同仲會社ハ當時種々ノ困難ナル情態ナリシガ頭取速水堅曹ハ直接ニ歐米ノ事情ヲ內國人民ニ知ラシメシトノ目的ヲ貫徹セシカ爲メ右大臣岩倉具視參議大隈重信ニ內仰ヲナス而シテ米國ハ當分佐藤組ニ約シ專ラ新井領一郎ニ取扱ハシメ佛國ハ直ニ里昂ニ支店ヲ置カン事ヲ決シ意見書ヲ大藏省ニ呈出ス

十二月群馬縣前橋本町ニ於テ上毛繭絲改良會社開業式ヲ擧行ス其後會社ハ資金ノ不足ヲ生ジ止ムヲ得ズ大藏卿佐野常民ニ前來請願シ來リ各資金貸與ノ急ナラン事ヲ乞ヒタルニ政府未タ決議ニ至リサルヲ以テ政府ヨリ正金銀行ニ命ジ一時操替貸ヲナサシメ銀行ハ金七萬圓ヲ融通シ會社ノ養蠶部ニ貸附ヶタリ

是年海外ニ輸出シタル蠶絲蠶繭ノ物價左ノ如シ

一生絲	百四十六百一千六百十九斤	價八百六十萬六千八百六十七圓
一屑絲	百四十萬七千七百八十斤	同百二十九萬〇九百三十八圓
一繭	四百九十二斤	同六百三十圓
一屑繭	十五万二千五百五十八斤	同十万六千八百〇九圓
一眞綿	一万六千九百四十九斤	同三万二千五百六十圓

明治十三年了

一屑眞綿	十四万一万八百十三斤	同三万六千三百四十圓
一蠶卵紙	五十三万〇四百五十二斤	同九十九一千〇二万十一圓

明治十四年一月　石川縣ハ管内越前國鯖江藩士族窮困ノ狀ヲ内務省ニ具陳シ之ガ授産トシテ製絲業創始ノ資金二千五百圓ノ貸與ヲ稟請シテ聽サル

又タ曰ク栃木縣ハ管内下野國那須郡馬頭村ノ民西山眞太郎等ガ天蠶飼養ノ爲メ那須郡東部ノ内四百町歩ヲ貸與シ而シテ其飼養ニ適應ノ樹木ヲ栽植セシメントシ内務省ニ稟請シテ是月之ヲ許サル

又タ曰ク熊本縣ハ管内士族蠶業會社ヲ結ヒ各自就産ノ甚礎ヲ開カントスルノ方法ヲ以テ其資金拾萬圓ノ貸與ヲ内務省ニ稟請スル所アリシガ同省之ヲ批シテ金三萬圓ノ貸與ヲ許可ス

二月　靜岡、山梨、三重、愛知ノ四縣聯合シテ生絲繭外三品共進會ヲ靜岡ニ開ク内務省ハ審査官トシテ同省少書記官戸昌幷ニ勸農員數名ヲ遣ハシ臨場セシム

三月一日　第二回内國勸業博覽會東京上野公園ニ開會　天皇陛下親臨開場ノ盛典ヲ擧ケ賜フ

四月　東洋農會及東京農談會ノ二會數十名東京ニ會同シ協議ノ上二會ヲ合併シ大日本農會ヲ組織センコトヲ議定ス

同月　北海道關拓使ハ蠶具ヲ製シ實業家ノ之ヲ請求スルモノアレバ賣與シテ同地ニ斯業

ノ振興ヲ計ラントス其規則ヲ定ム是同道ハ蠶業從事スルモノ頻年多キヲ加フル實蹟ヲ奏シツヽアリシニ未ダ蠶具ヲ製造スルモノ有ラサルニ加フルニ資力ニ乏シキヲ以テ容易ニ之ヲ購求シ能ハザルヲ以テ使廳ニ於テ此計畫ヲナス所以ナリ

是月七日農商務省ヲ設ケ農商工ニ關スル事業凡テ本省ノ所轄スル所トナル

同月　農商務省官制幷ニ事務章程ヲ定メ本省内農務局ヲ置キ養蠶製絲等ノ件ヲ所理ス

同月　農商務省ニ於テ農務局ノ事務ヲ別チ富岡製絲所新町屑絲紡績所等ヲ臨時事業トナシ尋テ兩所ノ事務ヲ工務局ニ屬セリ

同月　三河國北設樂郡稻橋村古橋輝兒寺其部落十二ケ村ヨリ伊勢大神宮神衣料赤引絲貢獻ノ舊典ヲ復古セン事ヲ去年伊勢神宮司廳ニ出願スル所アリシニ該申請ハ是月之ヲ許可セラレタリ

六月　第二回内國勸業博覽會ノ審査ヲ畢ヘ　今上皇帝陛下親臨シ賜ヒ褒賞授與ノ式ヲ東京上野公園ニ行フ其審査ノ結果概ヲ左ノ如シ

生絲及ヒ繭

本會繭絲ノ品特ニ夥ダシク左シモニ廣キ農業館内ノ要部モ殆ンド之ヲ以テ塡充シタリ而シ

テ其品位モ亦皆精良ナルモノ少ナカラズ此ノ二點ハ前會ニ超越セリト云フモ可ナラン

然レ𪜈細カニ之ヲ評論セバ各地大ニ優劣アリテ一樣ナラズ其一方ニ雄視シテ自カラ鼎立ノ狀ヲナスモノハ福島群馬長野ノ三縣ナリ夫ノ埼玉ノ如キ宮城ノ如キ或ハ山梨岐阜山形等ノ如キ稍々此ト雍行スベシ而シテ其開業日尙淺クシテ頗ル進歩ノ色ヲ顯ハシタルモノハ愛知廣島大分岡山熊本等ナリ其他未ダ論ズルニ足ラズ

三縣ノ勢鼎立ヲナスニ右ノ如シト雖モ各其所長ヲ異ニセリ即チ一方ニ長ズルアルモ一方ニ短ナリアリテ到底未ダ体ヲ具ヘタル寔全ノモノニアラズ福島ハ繭ノ品位ヲ以テ勝チ長野ハ繭ノ多キヲ以テ勝チ而シテ群馬ハ製絲ヲ以テ勝ツガ如シ其相兼ヌルニヲ得ザルニ至リテハ一ナリ詳ニ之ヲ論セバ福島ハ近來繭質ノ改良ニ注意セリ故ヲ以テ其繭ノ品質年々好良ニ趣キ隨テ其製絲美ナリ例ヘバ二本松製絲場ノ如キ改進ノ旺盛ヲ致セルハ地勢ノ便利ト器械ノ精巧ト管理其人ヲ得ルトニ因ルベシト雖モ畢竟他ニ比類ナキ品位良好ノ繭ヲ直ニ其近傍ヨリ購求セラルヽノ自由ヲ占メタルニ由ルニナラン

群馬ノ繭ハ概シテ下劣ナリ獨リ福島ニ及ハザルノミナラズ長野ノ上ニ位スルコトモ難カルベシサレド製絲ノ改良ニ着眼シタルハ實ニ該地方ヲ以テ嚆矢トス且其營業者ハ頗ル競爭進

取ニ勇ニシテ又團結一致ノ精神アリ故ヲ以テ束絲ノ方ヲ捻作リニ改良シ或ハ座繰製ニ綾取リ揚篋ヲ用フルガ如キ各製絲改所ヲ設ケテ其品位ヲ撿査スルガ如キ海外直輸ニ先鞭ヲ着ケテ漸次ニ事業ヲ擴張セントスルガ如キ是皆他ノ地方ノ企テ及バサル所ナリ故ニ縣内繭ヲ產スルコト多カラズト雖モ製絲ノ額ハ殊ニ全國ニ冠タリ

長野ハ其繭福島ニ及バス其絲モ亦群馬ニ若カズ然レ𪜈古來養蠶ノ盛ナルニ至リテハ海内能ク其右ニ出ツルモノナシ蓋シ該地人民ノ生活ニ尤モ緊切ナル關係ヲ有スレハナリ

現今本邦ニ於テ養フ所ノ蠶之ヲ大別スレバ三種アリトス第一青蠶第二夏蠶第三秋蠶是ナリ其成繭ノ品質ヲ比較セバ春蠶ヲ以テ第一トスヘキハ是レ一般養蠶家ノ定論タリ其他ハ皆春繭ニ及バス就中秋蠶ノ如キハ到底好事家ノナスヘキ業ニシテ養蠶ノ本道ニアラズ但其春繭中ニ於テ黃白執レカ優ナルカ將タ兩種共ニ優劣ナキカノ點ニ至リテハ近來養蠶家ノ說ク所一定セザルノミナラズ或ハ大ニ余ガ所見ト反スルモノアリ余ハ元來白繭ヲ主張スルモノナリ然ルニ世間ノ養蠶家ハ大抵黃繭ニ偏スルモノヽ如シ余ノ之ヲ疑フヤ久シ今回各地ノ出品ヲ撿センニ或ハ黃繭ノミヲ出セルアリ要スルニ黃多クシテ白少ナシ然ルニ獨リ福島ノ出品ハ一望皓然雪ノ如ク其黃アルハ千分ノ一ニ過ギザリキ

又「デニール」ヲ以テ繭ノ絲量ヲ量リ四百回器ヲ以テ繭ノ絲ノ長サル撿スルノ法ハ數年前ヨリ行ハレシコトナルニ今ハ各地往々之ヲ用ユルニ至レリ此ノ精密ナル法ノ一タビ世ニ行ハルヽ以上ハ其繭ヲ撿スルコト宛モ秦鏡ヲ以テ奸膽ヲ照スガ如ク製粗良否復得テ掩フ可カラズ是ニ於テカ白繭ト黃繭トノ優劣亦倍々判然タリ嚮ニ舊勸農局ノ所轄ナリシ內藤新宿ノ製絲場ニ於テ各地著名ノ良繭ヲ購致シ細カニ其良否ヲ撿セシニ白繭ハ二十一顆ノ中ニテ一顆ノ絲千六百乃至千八百五十尺ニ及ブモノ六顆ヲ得黃繭ハ三十五顆ノ內ヨリ一千六百乃至一千六百四十六尺ニ及ブモノ僅ニ二顆ニ過ギサリキ是固ヨリ一時ノ試驗ニシテ且普ク各地ノ繭ヲ撿セシニアラザルヲ以テ未ダ此ヲ一般ノ定率トナスヘカラズト雖モ他ノ試驗ニ照シテ之ヲ考フレバ亦之ヲ偶然ニ出デタル結果ト見做スコトヲ得ザルベシ而シテ本年ノ博覽會各地ヨリ出品セシ繭ハ大約二千二百三十顆(每人出ス所)而ノ審査官諸氏ガ精密ナル試驗ヲ經テ賞格ニ中リシモノ百二十五品アリ此中ヨリ其尤モ卓絕セルモノ二十五顆アリ左ノ如シ

白繭之部

デニール繭一顆ニ付　絲ノ長サ同上

五厘二毛	三千〇〇五尺	四百回品ノ數	府縣	人名
	七百六十回	福島	菅野平右衛門	

四厘	二千八百二十四尺二	七百十五回	同	今泉定七郎
四厘二毛	二千六百八十六尺	六百八十回	同	實戸佐五平
四厘四毛	二千六百四十六尺五	六百七十回	群馬	佐藤國太郎
四厘二毛	二千六百〇七尺	六百六十回	福島	大橋伊三郎
四厘	同	同	同	長澤儀三郎
四厘四毛	二千五百二十八尺	六百四十回	回	遠藤佐平
四厘三毛四	同	同	長野	長谷川範七
同	同	同	福島	鈴木嘉藏
四厘	二千四百八十七尺	六百三十回	同	丹治伊右衛門
四厘三毛四	同	同	同	河野銀三郎
四厘	同	同	同	三浦七郎右衛門
同	二千四百四十八尺	六百二十回	同	横關治兵衛
五厘	二千四百〇七尺五	六百十回	長野	中野庄助
四厘	二千三百六十八尺	六百回	福島	佐藤富五郎

五厘	二千三百二十八尺五	五百九十回	同	佐藤五郎助	
四厘四毛	二千三百〇七尺七五	五百八十五回	同	前野定形	
四厘	二千二百八十八尺	五百八十回	同	井上慶三郎	
四厘三毛四	二千二百四十七尺五	五百七十回	同	大橋重左衛門	
同	同	同	同	菅野作次郎	
五厘四毛	二千二百〇八尺	五百六十回	同	佐藤運四郎	
四厘	同	同	同	高野嘉七	
同	同	同	同	丹治梅吉	
同	同	同	同	中野藤四郎	

黄繭之部

四厘二毛	二千四百二十七尺二五	六百十五回	群馬	研業社	

以上本會ニ於テ優等ノ賞ヲ得タルモノ、中黄繭ハ群馬縣ノ研業社アルノミ其他ハ悉皆白繭ナリ

右ノ經驗ニヨリテ之ヲ觀レバ白繭ノ黄繭ニ勝ルヤ照々平トシテ明カナリ更ニ一歩ヲ進メテ

之ヲ世界ノ經驗ニ徴セシニ千八百七十七年ニ刊行セル佛人ラブレー氏ノ著書ニ繭ノ種類頗ル多シト雖大別シテ黄白二種トナス而シテ一般人ノ貴重スルモノハ白繭ナリ其絹ノ性質品位モ亦最上ナリ且青色ナランニハ之ガ色ヲ除クノ勞働ヲ施サヽルベカラズ又千八百七十九年佛里昂ノ絲商カブルース地方(土耳其ノ首府)ニテ用ユル繭ノ種類ヲ論ジタル報告ニヨレバ凡テ生絲一基ヲ紡繰スルニ青繭(淡黄色ノモノニシテ即チ黄橿ノ部内トス)ハ十四乃至十六ヲ要シ黄繭ハ十一基半乃至十二基半ヲ要シ白繭ハ十基乃至十二基ヲ要スルノ比例ナリトシ其價格ニ至リテモ亦各差アリ左ノ如シ

各種一基ニツキ

青繭	四法ヨリ四法〇五參マデ凡我八十錢ヨリ八十一錢マデ		
黄繭	四法〇五參ヨリ四法五十參マデ凡我八十一錢ヨリ八十二錢迄		
白繭	六法三十參マデ凡我一圓二十五錢ヨリ一圓一十六錢迄		

白繭ノ價ヲ青繭ニ對スレバ一基ニ付二法二十五參(凡我四十五錢)ノ差アリ繭ニ比スレバ一法八十參(凡我三十六錢)ノ差アリ此ノ比例ヲ推シテ積算スレバ即チ

白繭ト青繭トノ差

白繭ト黄繭トノ差

十万基　二十二万五千（法四万四千五百圓）　十八万法（二万四千圓）
百万基　二百廿五万法（四十四万五千圓）　百八十万法（二十万圓）

故ニ余ハ飽マデモ繭實ノ改良ヲ以テ一大急務トハ云フナリ而シテ其改良ノ主眼ハ春蠶白繭ニアリト斷言スルナリ殊ニ外國輸出ニ供スル生絲ノ如キハ務メテ精良ナラシメザルベカラズ其精良ヲ求ムルニハ宜シク白繭ヲ主トスベキナリ最良ノ白繭ヲ以テ製シタル生絲スラ歐州市場ニ於テ未ダ他ノ伊佛ヲ凌ク能ハザルニ正シク品位ノ第二流ニアル黃繭絲ヲ以テ外國市場ニ全勝ヲ爭ハントスルハ迂濶ノ甚シキモノト云フ可シ但シ余ハ悉ク黃繭ヲ廢セヨト云フニアラズ成ルベク白繭ニ改良センコヲ欲スルノミ未熟ノ養蠶家カ天然ニ定メラレタル黃白ノ優劣ヲモ辨ヘズシラ只管世間ノ流行ニノミ馳スルヲ嘆キ又一ニハ大ニ獲ラルベキ養蠶ノ利益ヲ十分ニ占メ得ザルヲ惜メバナリ或曰ク繭ノ良否ハ養蠶ノ巧拙ニヨルタトヒ何如ナル白繭ノ良種ト雖モ蠶婦不注意ナレバ變シテ惡繭トナルベシ黃繭トテモ養法ダニ注意周到ナラバ何ゾ白繭ニ劣ルベキヤ只養法ヨリ肝要ナラシメ黃白ノ別ハ必ズシモ論ゼスシテ可ナリト此論一理アリゲニ聞ユレドモ未ダ深ク養蠶ノ實際ヲ窮メザルノ論ナリ抑モ繭ハ本ナリ養法ハ末ナリ其本ヲ置キテ單ニ其末ヲ論スルハ非ナリ養法ノ注意不注意ニヨリテ繭ノ良否ヲ

生スルノ理ハ然ルベキコトナレ尼若シ玆ニ同一ノ注意ヲ以テ黃白二種ヲ養ハンニ斯クテモ猶優劣ナキカ決シテ然ラザルナリ故ニ養蠶家タルモノ尤モ繭ノ良否ニ注意セザルベカラズ今日ニアリテモ養蠶家中ニハ業ニ已ニ此點ニ着眼セル人ナキニアラズ故ニ將來ヲ推ニ嘗種ハ漸ク衰ヘテ白種復盛リトナラン其機已ニ隱然トシテ顯ハレタリ

七月政府ハ一般ノ直輸貿易ヲ保護スル爲メ荷爲替融通ノ金額ヲ定メ正金銀行ニ諭示シテ之ヲ取扱ハシム蓋シ生絲ノ如キ直輸シアル生絲賣上代金ノ內ヨリ之ヲ償却スルノ組織ナリシト云フ

同月例規ニ依リ來ル明治十八年開設スベキ第三回內國勸業博覽會都合ニヨリ明治廿三年ニ延期シ更ニ來ル明治十八年四月一日ヨリ六月二十日迄東京上野ニ於テ繭生絲織物外三品共進會ヲ開設スベキコトヲ定ム

八月橫濱生絲賣込商等結合シ生絲賣込ノ慣習ヲ一變センガ爲メ聯合生絲荷預所ト稱シ規則ヲ編製シ本社ヲ橫濱本町六丁目ニ設置ス

同月愛知縣人民協同シ尾張國前飛村ニ繭生絲ノ共進會ヲ開設ス

九月　今上皇帝陛下北海道ニ臨幸渡島國茅部郡七重村勸業驗場ニ親臨賜フ場長少書記官

湯池定基ハ該場製スル所ノ蠶種繭絲綿及七飯村產出ノ織物外數品ヲ　聖覽ニ供ス

同月橫濱聯合生絲荷預所開業ス其意見書左ノ如シ

聯合生絲荷預所意見書

方今通商日ニ進ミ月ニ熾ナル運ニ屬シ苟モ事ニ互市ニ從フモノハ口ヲ開ケバ皆曰ク商權ヲ我ニ復シ以テ對等ノ利柄ヲ我ニ維持スベシト殊ニ識ラズ商權ナル者ハ無形ノ名ニシテ固ヨリ其處有ヲ限界スベカラザルハ其之ヲ委スルト復スルト唯我々ニアリテ存スル而已ニシテ亦他ノ物品若シクハ約款ノ如ク日ヲ刻シ時ヲ限リテ其權利ヲ彼此ノ間ニ授受スベキモノニ非サルヲ

惟ミルニ我邦通商互市ノ開クルヤ人文未開ノ時ニアリテ吏胥其事ニ精シカラズ法制其宜ヲ失シ商賈其業ニ暗クシテ販鬻常ニ其度ヲ誤リ因依約ヲ違フ者アリ或ハ譎計奸ヲ計ルモノアリ遂ニ外人ヲシテ厭忌ノ念ヲ長ゼシメ其極我ヲ輕視侮慢シテ百事其簸弄ヲ受クルニ至ル因襲ノ久シキ餘弊今尙存シ人視テ以テ常トスルモノアリ是實ニ商權ノ彼ニ歸スル所以ニシテ其之ヲ爲スモノ固ヨリ我ニアリト云ハザルベカラズ然ラハ今ニシテ之ヲ更スルモ亦々我勉强ニアリテ能ク其業ニ精シク其言ニ信アリテ苟モ舊習ヲ改良スベキモノアル

ヲ見ル敢爲之ニ當リ剛毅之ヲ爲スノ氣象ヲ發達スルニ在リテ決シテ姿理ヲ論シテ虛業ヲ求ムル間ニ非サルナリ

抑モ知識ト資力トハ商勢ノ趣ク所タリト雖今ヤ萬邦軌ヲ同フシ百度揆ヲ同フスルノ機ニ會シ敢テ彼此ノ軒輕々區々シテ進取ノ念ヲ妨碍ス可ラズ是我儕ガ此聯合生絲荷預所ヲ設置セント欲スルノ素志ナリ若シ夫レ我輸出品中最要部ヲ領シテ而シテ從來其販路ノ方法ニ於テ言フ可カラザルノ惡弊アルガ如キハ世人ノ熟知スル所タリ云々

是時外國商人等ハ該荷預所ノ已等ニ不利ナルヲ以テ敢テ之ニ反對ス知ラズ將來日本ノ商權ヲ躁躅セント欲スル者ニ非ル乎即チ左ノ廣告ヲ爲シタリ

廣　告

今回聯合生絲荷預所廣告ノ趣意不當且專橫ナルヲ以テ左ニ記名スルトコロノ者共該荷預所ヨリハ生絲類一切取引不致候依テ此旨廣告候者也

一千八百八十一年九月廿一日

七十六番　バヒエル商會　四十九番　トーマス

九十番　シーバー、ブレンウヲルド　三番　ウキルキン、ロビソン

六百七十九

二番　ウヲルス、ホール
四十八番　モリソンブレサー商會
四番　エドワルド、ウキツトル
三十三番　モリリヤン、ハイマン商會
百七十八番　スミス、ベーカー商會
八十九番　キングドン、スヲーピー商會
乙九十番　シーバーワザル「アベック」
百八十番　グロザール商會
九十一番　デルヲロ商會
二十四番　アドルフ、シユルズ
百六十四番　ドリル
百六十四番　ビバンチー
八十九番　支那日本商會
八番　ヘクトリリユンタトル商會

六百八十

廿二番　ジヨン、ミツルトン
四十七番　ジヨーゲラー商會
六番　フキンドレー、リチヤードソン商會
百四十三番　フレーサー、フワーレー商會
百七十七番　ショーニングダ、モツツー
百九十八番　ポールハイナマン商會
三十五番　マーオンス商會
百六十六番　ロドライクー商會
五十四番　イリース商會
二十五番　サアーゲル
百六十六番　シユサニーモルフ
百七十六番　モルフ商會
二十五番　ジレツト
三十三番　アルコツク（自商）

七十五番　シヤイト（白商）　二百番　アレイサー商會

左ニ記名ノ者共ハ生絲買込廣告記名中ニ記名無之ト雖モ力ノ及フ丈ケハ今回日本商人ガ生絲檢查實目改且其代價仕拂ヲ日本市街ニ於テ施行セシムルノ目的ヲ以テ設立シタル結合ヲ敗挫スルコトヲ勉ムベシ因テ此段廣告候也

於橫濱一千八百八十一年九月廿三日

ギヤーザンマチソン商會
代　ウオルター
ストロン商會

一番

告知書

我ガ貿易品ノ第一タル生絲ノ賣込ニ付テハ云フベカラザル陋習アリテ常ニ外國商人ノ爲ニ其商權ヲ專ニセラル、ガ爲メニ大ナル國損ヲ蒙ルコトハ諸君等モ既ニ詳知アル所ナリ我々親ク其衝ニ當リ殊ニ切齒ニ堪ヘズ何卒シテ此陋習ヲ破ラント實ヒシニ爰ニ年ア

於茲日本商人ハ外國ニ商人ノ專橫無禮ヲ責メ强剛遂行ノ策ヲ執ラント全國當業者ニ左ノ告知書ヲ發セリ

リシニ今ヤ幸ニ時運ノ開運ニ當リ漸ク出港ノ各地諸君ト此改良ノ事ヲ謀リ諸君ニ我々ト憂ヲ同フシテ大ニ之ヲ賛成セラレシカバ遂ニ同業戮力協同シテ聯合生絲荷預所ヲ設立スルニ至レリ實ニ千載ノ一遇ト言フベシ然ルニ當地在留ノ外國人等ハ此擧ノ已レ等ニ不便ナルヲ以テ或ハ專横ト罵リ或ハ不當ト唱ヘ百方妨害巧ミシ末卅六名黨ヲ結ビ荷預所ノ規則ニ從ヒテハ取引ナサヾルベシト結約シタル旨ヲ荷預所ヘ通達シ中外ノ諸新聞ニ廣告シ尚又近日各地方製絲家諸君及生絲賣買ニ從事ノ諸君ニ向ヒ謂レナキ報告ヲ頒布シタリ是レ蓋シ我カ荷預所ニ對シ數次攻撃ヲ試ミシモ我々賣込商ガ當地滯留ノ荷主諸君ト倶ニ斷乎トシテ動カザルニ遇テ攻撃ノ策盡キタレバ手ヲ替ヘテ更ニ各地ノ諸君ニ向ヒ文ヲ弄シ辭ヲ巧ニシテ諸君ヲ蠱惑セント試ミシモノナリ其報告文ヲ玆ニ擧ゲンハ頗ル冗長ニ渉ルヲ以テ敢テ贅セズ只其意ノアル所ヲ察スレバ云ク商業ハ仲間組合等ノ連合ヲ爲サズ銘々ノ自由ニ營ムヲ以テ利益アリ生絲賣買モ從前ノ陋習ノ如クニテ敢テ不都合ナシ然ルニ此聯合生絲荷預所ハ内地ニ於テ價格ヲ低落セシメ二三ノ商會ノ利益ヲ占メントスルモノナリ内地ノ荷主ノ外人ト直ニ取引ヲ爲サント欲スル方ヘハ丁寧ニ待遇シ信義ヲ以テ交通スベク横濱在留ノ外國人中ニハ許多ノ正實ナルモノアリ抔

ト云ヒテ無稽ノ讃言ヲ臚列シ以テ諸君ヲ籠絡セント欲スルニ過ギス苟モ生絲業ニ從事スル諸君ハ此如報告ニ蠱惑スルコトナキハ我々ノ信ズル所ナレド或ハ親シク實際ニ通暁セザル人々ヲシテ危疑ヲ抱カシムルコトナキヲ保シ難ケレバ玆ニ聊カ實況ノ概略ヲ陳シテ豫メ萬一ノ危疑ヲ排拆セン

從來生絲取引上ニ於テ外商ノ專横ナル擧テ數フルニ遑アラズト雖モ姑ラク其著シキモノヲ擧クレバ外國商人ニ賣込問屋ヲ廻リ生絲ノ見本ヲ以テ直段ヲ取極メ直チニ已レ等ガ商館ノ倉庫ヘ爲引入然ル後拜見(絲ノ善惡ヲ撿査スルヲ云フ)シテ始メテ本取引トナルコトナレバ云ダ金員ヲモ拂ハズシテ自家ノ倉庫ヘ引込ミ一片ノ證書ヲモ交付セザルノ一事ニテモスデニ尋常商業ノ正道ニ適ハザルコトヲ證スルニ足レリ然ノミナラズ本國ノ氣配ヲ測リ投機ヲ以テ生絲ヲ買入レントスルモノ多ケレバ概チ生絲ヲ引入レサセシ後チ數日間乃至十日以上モ拜見ヲ爲ザスシテ本國ノ報知如何ヲ待テ氣配喜シト報シ來レバ通例ノ通リニ拜見ヲ濟シテ買入レ氣配惡シト報シ來レバ拜見ノ時ワザト荷物ニ種々ノ難癖ヲ附テ「ペケ」(破談ヲ云フ)トシ甚シキニ至リテハ電信ノ報知惡シトテ斷然「ペケ」ニスルコアリ又現ニ五百箇ノ買入ヲ爲サントスルニ先ツ八百箇ノ約定ヲナメ

引入レザセ一時外國銀行へ對シ融通ノ助トシ事濟テ後破談シテ差戻スコトアリ其引込持歸リノ運賃ハイヅレモ皆荷主ノ失費トナリ彼ハ毫モ其損失ヲ負擔スルコトナシ其間若シ賣込問屋ヨリ異議ヲ容ルヽ片ハ暴威ヲ以テ恐赫スル等言語同斷ノ振舞アリテ斤量掛改(カンノコトヲ云フ)ノ如キモ其風袋ハ各商舘ニ製シ置キ(薄地ノ金巾ニ用ユ)實量半斤(六十目位)內外ナルヲ七分五厘(九十目)或ハ一斤(百二十九目)凡(九貫目)ト定ルヲ以テ目前一秤ニ付卅目乃至六十ノ目差ヲ生シ且我一箇ヲ一秤トスルガ普通ナルニ故ラニ小分シテ一箇ノ七分乃至半分ヲ以テ一秤トシテ其差ヲ增加セシムルニ至ル加フニ一斤以下ノ端數ヲ切リ棄ツルヲ以テ生絲一箇ノ差ハ少クモ一斤ニ下ラズ之ヲ橫濱取扱ノ生絲荷高三万五千箇ニ乘スル片ハ三万五千斤ニシテ此價(平均百斤ニ付六百弗トシテ)廿一万弗トナリ之ニ屑物ヲ合スレバ必ズ四十五万弗ノ巨額トナル是皆彼ノ專橫ヲ以テ不當ノ利益ヲ壟斷スルモノナリサレバ彼等ガ自ラ從前ノ陋習ノ如クニテ敢テ不都合ナシト云フハ畢竟己レ等ニ取リテ不都合ナキノ謂ニシテ我國人ノ不都合ヲ顧ミザルモノナリ今我々ガ設立セシ荷預所ノ規則ニ從フ時ハ此等ノ專橫ハ一掃シテ跡ヲ絕ツヘシ現ニ近日荷預所ニ於テ斤量ヲ掛ケ改メシモノヲ尙ホ外商舘ニテ從前ノ手續ヲ以テ掛

ケ改メシニ百箇ニ付九十三斤餘ノ不足アリト云ヒシ如キハ決シテ斤量ノ不足ニアラズシテ掛ケ方ノ異ナルヲ以テナリ如此彼等復ビ不當ノ利ヲ閙スルニ道ナケレバ此斤量ノ差異ノ如キハ明ニ我國ノ公益ニアラズヤ此外ニ尙間接ノ利益アリ其第一ハ一ケ所ニ取纏メテ取引ヲ爲スガユエ粗惡ノ製絲ハ始終賣レザルヲ以テ荷主モ各良絲ヲ撰ビ製絲家モ從テ注意ヲ加ヘ漸次改良ヲ促スベシ第二ハ問屋銘々ガ別々ニ取扱ニ比フレバ此荷預所聯合ノ信用ヲ以テ銀行ト取引ヲ爲ルニ至ルヤ必然ナリ是等ノ利益ハ皆公平無私ナルコト豈識者ヲ待テ後ニ知ランヤ然ルヲ外國商人等ガ辭ヲ巧ニシ一二ノ商會カ私利ヲ謀ル杯ト謗リ諸君ヲ蠱惑セントスルハ卑劣ノ所爲ナリト云ハンカ如此無稽ノ報告ニ眩惑サル、モノナキハ我々素ヨリ疑ハサル所ナレドモ實ニ今日此一大事業ノ成立スヘキ機會ニ際シ萬一ニモ一着ヲ誤リ彼ガ術中ニ陷ルヤハ復之ヲ救フニ難キヲ以テ冀クハ諸君益々百折不撓ノ精神ヲ攪揮シ此一擧ヲ確立セシメ我商權ヲ恢復シ永ク公平ノ利益ヲ共有スルノ道ヲ求ムルニ熱心セラレンコトヲ我々切望ノ至ニ堪ヘス拜具謹言

明治十四年九月

各地荷主

御中

横濱生絲賣込問屋組合仲間一同

而シテ該荷預所ハ株式組織ニシテ當時是ニ加ハル者二十七人株數七十六株資本ハ株金ノ七分募集トナシ則チ左表ノ如シ

横濱聯合絲生荷預所株主姓名表

住所	姓名	株數	株數金額	七分募集高
横濱辨天通三丁目四十九番地	原善三郎	七	七、〇〇〇	四、九〇〇
同 同町二丁目三十番地	茂本惣兵衛	七	七、〇〇〇	四、九〇〇
同 本町二丁目廿七番地	平沼專藏	七	七、〇〇〇	四、九〇〇
同 同三丁目五十一番地	澁澤作太郎 三井物產會社	五	五、〇〇〇	三、五〇〇
同 相生町六丁目百六番地	馬越恭平	五	五、〇〇〇	三、五〇〇
同 本町四丁目六十三番地	若尾幾造	五	五、〇〇〇	三、五〇〇
同 辨天通一丁目廿番地	外山兩平店支配人 川添源次郎	五	五、〇〇〇	三、五〇〇

同	同町五丁目九十五番地	貿易商會 朝吹英二	五	五、〇〇〇	三、五〇〇
同	同町三丁目五十二番地	中里忠兵衛	四	四、〇〇〇	二、八〇〇
同	同町二丁目三十二番地	田中平八	三	三、〇〇〇	二、一〇〇
同	同町一丁目十六番地	堀越久三郎	三	三、〇〇〇	二、一〇〇
同	南仲通二丁目廿一番地	厚積組支配人 上原四郎左衛門	二	二、〇〇〇	一、四〇〇
同	尾上町六丁目八十六番地	同伸會社 高木三郎	二	二、〇〇〇	一、四〇〇
同	元濱町一丁目六番地	渡邊福三郎	二	二、〇〇〇	一、四〇〇
同	南仲通二丁目廿七番地	雨宮敬次郎	二	二、〇〇〇	一、四〇〇
同	辨天通一丁目一番地	田部井芳兵衛	一	一、〇〇〇	七〇〇
同	堺町一丁目廿五番地	高橋萬右衛門	一	一、〇〇〇	七〇〇
同	南仲通三丁目五十八番地	川喜田久太夫 扶桑商會	一	一、〇〇〇	七〇〇
同	本町二丁目廿六番地	子安峻	一	一、〇〇〇	七〇〇
同	辨天通一丁目十九番地	鈴木宇右衛門	一	一、〇〇〇	七〇〇
同	南仲通三丁目五十一番地	萩野賢次郎	一	一、〇〇〇	七〇〇

同	住吉町四丁目五十六番地		一	一、〇〇〇
同	本町四丁目六十二番地	山田駒吉	一	一、〇〇〇
同	辨天通四丁目六十八番地	飯島勇藏	一	一、〇〇〇
同	辨天通二丁目廿八番地	笠原惠（丸善商店）	一	一、〇〇〇
同	常盤町五丁目七十五番地	青木角造	一	一、〇〇〇
同	南仲通四丁目七十八番地	中村祿郎	一	一、〇〇〇
	總計	二十七人	七十六株	七六、〇〇〇 五三、七〇〇

同月　愛知縣ノ人民協同シテ繭生絲共進會ヲ三河國豐橋ニ於テ開會ス

同月　橫濱在留ノ外國人ハ我ガ聯合荷預所開設ノ通知ヲ以テ大ニ之ニ不滿ヲ抱キ日耳曼俱樂部ニ集合シ荷預所ノ規則ニ從フ事能ハズト決議ス

十月　群馬縣ノ人民相協同シテ繭共進會ヲ上野國前橋ニ開會ス

同月　長野縣ノ人民協同シテ第二回繭生絲共進會ヲ信濃國松本ニ開會ス

同月　今上皇帝陛下北海道ヨリ山形縣米澤ニ着御ン賜ヒ同地養蠶家佐々木宇右衛門ノ養蠶業ニ篤志ナルヲ賞シ金ヲ賜フ

同月　日耳曼倶樂部會長ウイルキンハ我ガ聯合荷預所ノ規程ニ協賛スル事能ハズト澁澤喜作、茂木惣兵衛、原善三郎、朝吹英二、馬越恭平ヘ回答シ來リ爾來數回ノ交渉アリシモ益々結ンテ解クルコト能ハズ新聞或ハ廣告ニ全國ニ配附スル所アリ愈彼我ノ一大葛藤ヲ生ジ連日取引ヲ中絶シ金融ハ閉塞ス是ニ於テ各地銀行ハ之ヲ救濟センガ爲メ底利ノ貸出ヲナスニ至リ此報ノ續々新聞紙上ニ現ハルヽニ至リシカバ彼我ノ葛藤益々甚シキニ至リ生絲賣込商木村利右衛門等彼我ノ間ニ立チ之ガ仲裁ヲ始メタリ

同月　神奈川、埼玉、群馬、栃木ノ四聯合シテ繭生絲織物共進會ヲ武藏國多摩郡八王子町ニ開設ス農商務省ハ一等屬山本五郎御用係高木大之進等ヲ派遣シテ審査セシム

同月　新潟縣民高田平五郎ハ夙ニ養蠶ノ業ニ篤ク桑其他苗種繁殖ヲ計リ佐渡國（同人出生地）ノ產業ヲ改良セシ廉ヲ以テ內務省ハ銀杯一個ヲ賜フテ其善行ヲ賞ス

十一月　神奈川縣外三縣繭生絲織物共進會審査ノ結了ヲ告グタルヲ以テ農商務省ハ褒賞授與ノ爲メ本省大輔品川彌二郎ヲシテ臨場セシメ式ヲ擧ク尋テ同人ハ繭生絲織物綿紙烟草砂糖麻苧共進會ニ附キ大阪府幷鹿兒島縣ヘ出張被仰付タリ

同月　農商務省ハ來ル明治十八年開設スベキ繭生絲織物漆陶器共進會ノ規則ヲ定ム

同月　農商務卿西郷從道ハ上野國橋前ニ至リ上野繭絲改良會社員ヲ集招シテ大ニ鑑示シテ曰ク本邦ノ蠶絲ハ實ニ國脉ヲ繫グノ物産ナリ故ニ其製造ヲ盛ニシテ以テ國利民福ヲ增進セサルベカラズ玆ニ上毛繭絲改良會社ノ社員ハ夙ニ粗製濫造ノ弊ヲ矯メ率先シテ直輸販賣ニ從事シ信ヲ海外需用者ニ博シタルノ實蹟ヲ見ルベキモノ尠ナカラズ誠ニ著大ノ功アリト謂フ可シ希クバ將來益々本業ノ爲メニ努力セラレンコトヲト

同月　曩ニ紛擾ヲ生タル彼我ノ商人等漸ク和解ヲ遂ゲ因襲ノ久キ陋習ノ幾分ヲ矯正シ將來ノ取引ヲ純正ナラシム可シト約束ヲ遂ゲ親睦ノ宴ヲ橫濱町會所樓上ニ開ク於玆市上ニ久ク停滯セシ生絲ノ賣買モ從前ニ復シ荷主モ稍々焦眉ヲ啓キ市上ノ衰勢漸ク挽回スルニ至レリ

參照（諸事件交涉書）

生絲商業上紛議一件ニ付私共引取商人仲裁ニ立入候處外國生絲商人聯合會ニ於テ仲裁申込ノ趣意可決相成候旨左ノ如ク回答有之候間不取敢此段及御報告候也

明治十四年十一月十八日　橫濱引取商總代

聯合生絲荷預所御中

回答書寫

生絲賣買人ノ間ニ生ジタル紛議御仲裁ニ付諸君ヨリ御申込ノ約定書幷ニ右約定書第一條ニ付諸君ヨリ御保證相添ヒ本月十四日附ヲ以テ御照會ノ趣拜承仕候右ニ就キ昨夕當商法會議所ニ開キタル生絲商聯合會ノ會議ニ於テ今般引取商ト外國特別委員トノ間ニ協議ヲ遂ゲ取極メタル約束ノ箇條ヲ承諾候事ニ衆議一決致候間此段御通知申上候其約束ノ箇條ハ左ノ通ニ御座候

第一條　日本商人ハ便利ナル場所ニ於テ共同倉庫一ケ所ヲ便利ニ建築シ其規則章程及用意ノ整フル等ノコトハ日本賣込人ト外國買入人トノ間ニ協議ヲ遂ゲ以テ相互ニ賣買人双方ノ權利ヲ保全スルノ鴻足ヲ得而シテ生絲賣込上一般ノ方法ヲ改良スルニ於テハ之ヲ承諾スベシ

第二條　生絲見本ト均一ノ絲ヲ渡スベキ事

第三條　前二ケ條ノ事業整頓ニ至ルマデ生絲檢查ノ爲メ賣込人ハ商ノ倉庫ニ持込ムベシ外國買入人ハ其檢查ヲ完ク終ルマデ荷物預リ證書及火災保險ノ證書ヲ渡スベキ事

第四條　賣買ヲナスニ當リテハ雙方ノ記名シタル約定證書ヲ取替セ其書面ニハ代價及檢查ノ爲メ許シタル時間又賣込人ヨリ至當ナル生絲ノ品位ヲ渡スキキ旨ヲ記載スベキ事

第五條　斤量掛渡ハ公平ニスベシ

第六條　紛議ヲ生ジタルトキハ雙方ヨリ一人若クハ數人ノ裁判人撰ミ之ニ從フベキ事

右約條書ニ添ヒ誌者ヨリノ保證左ノ如シ

此約定書第一條ニ記載シタルガ如ク後日共同倉庫ヲ建築費トモ決シテ專賣ヲ謀ル等ノ爲メニハ無之又此場所ヲ以テ專賣ノ目的ニ向テ使用スル等ノ儀ハ万無之又聊カタリトモ專賣ニ關係無之者也

生絲商聯合會々頭

トムソン、トーマス

橫濱於千八百八十一年十一月十八日

橫濱取引商人總代

中村總兵衛様　　木村利右衛門様

堀越角次郎様　　三浦兵輔様

杉村甚三郎様　　大濱忠三郎様

本多武右衛門様　　薩摩治兵衛様

前川太郎兵衛様　　柿沼政吉様

和解報道

本年九月十五日當生絲荷預所開業以來當港外國生糸商人トノ間ニ生ジタル葛藤ノ儀ハ要スルニ從來生絲取引上ニ就キ外商ノ專橫ヲ抑制シ其弊害ヲ矯正シテ以テ公平至當ノ賣買法ヲ定メントシ然ルニ外商ハ飽迄舊慣ヲ保守シ我荷預所ノ規則ニ從テ之ヲ買ハサルベシト云フニ起リルモノニシテ我輩決シテ爭ヲ求ムル者ニアラズト雖モ萬一此擧ニシテ蹶跌スルカ如キコアルニ於テハ我邦ノ商權ハ幾ント回復スルノ期ナカルヘク實ニ易貿上ニ於テ不容易關係ヲ有スル儀ト思惟シ終ニ之ニ應ズルノ策ヲ施シ正理ニ依リ公道ニ訴エ飽迄其目的ヲ達センコトヲ計畫シタルニ幸ヒ各地有志者ハ皆擧テ此ノ擧ヲ贊成セラレ之レヲ今日ニ持維スルコトヲ得タリ然ルニ當港引取諸氏ハ此紛議ノタメ內外商業上ニ云フベカラザルノ損害ヲ生ゼンコトヲ憂ヒ彼我ノ間ニ媾和ヲ申込マレタルニ外商モ亦漸ク我輩ノ首唱スル處果シテ正義ニ違ハザルヲ知リ終ニ諸氏ノ仲裁ヲ容レ別紙約定書（前ニ揭ケタルヲ以テ之ヲ略ス）ノ如ク昨夜外商ノ總會ニ於テ之ヲ承諾シタルニ依リ今十八日ヨリ其約款ニ基キ彼我ノ間取引ヲ開クニ至レリ嗚呼此擧ヤ我輩不肖其局ニ當リ日夜汲々其ニ從フテ怠ラザリシト雖モ各地有志諸君ノ贊成徹カリセバ焉ンゾ今日ノ好結果ヲ見ルヲ得ンヤ

今ヤ講和ノ顚末ヲ報道スルニ當リ我輩謹テ玆ニ其厚意ヲ鳴謝スルコト如此頓首謹言

明治十四年十一月

聯合生絲荷預所取締役

馬越恭平
朝吹英二
茂木總兵衛
原善三郎
澁澤喜作

此事件中各地ノ荷主總代トシテ奔走セシ者左ノ如シ

地名	姓名	地名	姓名
上州	沼賀茂一郎	上州	竹内勝藏
同	山田平八郎	同	竹内常七
同	市村愛三	同	上原清七
同	村木孝助	甲州	内田作右衛門
同	鈴木小十郎	同	依田孝

同	岩崎彌三郎	同	若尾逸平
同	小野長次郎	同	岡戸勝三郎
同	江厚由平	同	新井源右衛門
同	中島金平	八王子	川原塚長五郎
同	有賀柔五郎	同	林嘉平
同	平取藤平	同	宮田傳七郎
同	茂木半三郎	越後	八木卯兵衛
信州	鷹野正雄	奥州	古關直紹
同	田中忠七	同	早川景矩
同	成澤萬五郎	同	宗像善吾
甲州	廣瀨慶次郎	同	小林彌八郎
濃州	田中新七	前橋	明練社
宮城	岡崎堅守	同	共等社
前橋	桃井社	同	高謝社

同　昇立社
同　交水社
同　共盛社
同　大盛社
同　潤盛社
同　泉廣社

紛議中特ニ同所ニ資金及物品ヲ供給シテ應援セラレタル各銀行左ノ如シ

東京　第一國立銀行
同　第三國立銀行
同　正金銀行
同　第五國立銀行
同　第四十五國立銀行
同　第百國立銀行
同　第百十九國立銀行

同　敬島社
同　天原社
同　桐華組
同　北精撰社
同　清益社
同　日盛社

横濱　第二國立銀行
同　三井銀行
同　安田銀行
同　第三十國立銀行
同　第六十國立銀行
同　第百十二國立銀行
同　第廿七國立銀行

紛議中ニ特ニ書ヲ寄セテ賛成且應援ノ意ヲ表セラレタル各地製絲家會社銀行及有志諸君左ノ如シ

地名	姓名
濃州	濃厚會社
白河	製絲會社
長野	惟精社
三春	三盛社
愛知	山口製絲場
信州	半田敬作
長野	山五組商合
濃州	濃明會社
須賀川	蠶絲勸興會社
長野	友誼社
盤城	正製社

地名	姓名
武州	生改改所
信州	振育社
愛知	愛知物産組
同	日進社
信州	吉池直輔
	外廿一名
盤城	野村政平
	外一名
信州松代	島田喜太郎
同	永島忠次郎
同	平出平兵衛

同　眞製社
外拾三名
岐阜　濃北會社
飛州　高陽會社
信州　大井榮作
外四十二名
福井縣勝山　製絲會社
岩代　木村牢兵衛
同　大鐘具
外十二名
丹後　小室守藏
信州　松村一郎
同　鹽澤佐七
同　唐木銀三郎
同　佐藤鹿之助
飛州　佐山社
羽前　長澤惣右衛門
外七名
信州　黒岩喜兵衛
外四名
西京　住友製絲場
遠州　寺田彦八郎
同　山崎百四郎
同　松本文治
外十四名
宮城縣宮城　遠藤敬止
外五十名
兵庫　篠原幸四郎

岩代掛田　外三名　柳策
信州　大洞善次郎
同　長谷川範七
外五十三名
岐阜　熊谷孫六郎
但州　諸仲買仲間
遠州　熊谷三郎馬
外八名
但州　擴産社
豐州　熊谷直詹
外二名
岐阜　振業會社
野州栃木　清水安平
滋賀　森野甲之助
信州上田　中山彦輪
信州稻荷山　小出八郎右衛門
靜岡縣遠江　岡田良一郎
岐阜　安達彌七郎
長野縣信州　直輸同盟會
信州上田　佐久間喜三郎
神戸　貿易會所
信州　咏澤清八郎
長野縣　小出直左衛門
東京　松尾德二郎
同　横山貞秀
廣島　加藤增次郎
信州　鹽尻銀行支店

同　上原與平次
外六十七名

下野上都賀郡　湯澤松郎　同
東京　千里健三　同
東京　通運會社　須賀川
山梨　商法會議所　信州
朝鮮　商法會議所　同
福井　商法會議所　同
長野　商法會議所　久留米
山梨縣　雨宮彦兵衛　東京
千葉縣　板倉直胤　同
但馬國　北垣傳右衛門　岡山
同　中沼槇藏　福岡
　　大坂

葛藤中金員又ハ物品ヲ贈リテ慰問セラレタル各地有志諸君ノ姓名左ノ如シ

第六十三國立銀行
第八國立銀行
松本銀行
第百八國立銀行
上田銀行
第二十四國立銀行
第十九國立銀行
第六十一國立銀行
中牛馬會社
商法會議所
商法會議所
商法會議所
商法會議所

丹波國篠山
豐前國田川郡香春村
京都室町三條上ル
信濃國下伊那郡
岡山縣下岡山
盤城國
福岡縣下福岡博多町對馬小路
同　大舌町三十四番地
福島縣代國二本松町有志總代
同
信州埴科郡坂本驛

自立社
津田幾造　外貳名
塚本武右衛門　外四名
生絲製造人一同
岡山商法會議所
宗田美助
伸蜂籠
八尋道
加藤賢輔
安部井芳藏
古谷重雄　外四名

筑後久留米第六十一國立銀行　岡田助夫
同　福岡縣久留米　井山富門
武州秩父郡皆野　厚生社
信州上田常田町辰野基方　龍門社
越後國小千谷保進社　辰野賢彌
備中國笠岡山陽精絲會社長　喜多村正雄
廣島銀山町綿會所　森田佐市
在東京　加藤增次郎
神戸　郡山軍助
東京　外十名
神戸　堀内信
東京　外十三名
清水九兵衛
外二名

兵庫　光村彌兵衛
神戸　美好谷長八
同　本村金之助
東京　外十二名
堺　商法會議所

是年海外ニ輸出セル蠶絲蠶絹ニ關スル物價概ヲ左ノ如シ

一生絲	百八十萬一千百八十斤	價　一千〇六十四萬七千三百十圓
一屑絲	百六十八萬二千三百八十五斤	同　百八十二萬四百十七圓
一屑繭	四十七萬七千二百六十五斤	同　四十四萬七千〇七十二圓
一眞綿	八萬七千四百四十六斤	同　十七萬一千三百二十三圓
一眞綿	十二萬四千四百三十五斤	同　三萬一千六百九十二圓
一蠶卵紙	三十七萬四千四百九十八枚	同　三十一萬一千百四十一圓

明治十四年丁

明治十五年一月　是ヨリ先キ群馬縣ハ農商務省ニ稟請スル所アリ曰ク該縣士族夙ニ殖産ノ諭示ヲ奉ジ養蠶製絲ノ業ヲ以テ方向ヲ定メ沼田伊勢崎高崎七日市小幡安中等居住ノ者陸續結社シテ業ヲ興シ兼テ製絲ノ改良ヲ計リツヽ現今大ニ進歩ノ實蹟ヲ奏シタリ然ルニ近來物價騰貴シ金融壅塞シ各社ノ事業モ大ニ困難ヲ來タシ今將ニ前途憂フ可キノ機運ニ際會スルニ至ル故ニ之ガ救治ノ資金ヲ貸與シ以テ是等ノ爲メ長策ヲ講セントス即チ是月批シテ金一万五千圓ヲ十四、十五ノ兩年度ニ分貸ス

二月　岐阜縣ニ於テ生絲繭茶共進會ヲ東本願寺別院ニ開會ス農商務省ハ吉田五十穗多田元吉高木大之進等ヲ遣ハシテ之ヲ審査セシム

四月　群馬縣上毛繭絲改良會社ガ去年十一月ノ嘆願ニ係ル正金銀行繰替資金十ヶ年間据置ノ件詮議ナリ難ク故ニ該金中二十五万七千七百四十圓ハ十五年度ヨリ二年据置キ三年賦ニ返納スベク其他ノ十四万三千餘圓ハ正金銀行資金ニ屬スレハ同行ヲ協議之上償却ノ方ヲ定ム可シト指命サレタルヲ以テ會社ノ驚愕一方ナラズ種々協議ヲ凝ラシ遂ニ殖産銀行設立ノ義ヲ松方大藏大臣ニ具申セリ

五月　三重縣ハ管内蠶業者ヲ召集シ養蠶製絲會ヲ同縣廳議事堂ニ開キ管内蠶業ノ改良發達

ヲ計ル

同月　群馬縣前橋町ニ繭綿紡績ノ目的ニ係ル懷清社起ル世ニ有名ナル前橋紬絲ノ濫觴ナリ

日本ニ於ケル繭ノ毛羽ヲ使用シ一種ノ紡績業ヲ創始シタルハ此懷清社ヲ以テ元祖トスルナラン工場ハ同縣勢多郡上川淵村六供ノ利根川畔ニ設ケラレタリ始メ之ヲ發起シタルハ舊前橋藩ノ士族ニシテ即チ明治十二年七月中ノ企業ニ係ル當時ハ發起者モ重ニ手細工ニ依頼シ「ミユール」ノ如キ利器ヲ利用スル事ニ氣附カズ故ニ收支相償フニ至ラズ偶東京千住製絨所長井上三省ノ注意ニ基キ歐州ヨリ完全ナル紡績器械ヲ輸入シ精良ノ紡績絲ヲ製造スル事ニ決シ藩士中各自資金ヲ募集シ漸ク精良ナル製絲ヲナスニ至レリ

原料トシテハ養蠶ノ際生スル繭毛羽即チ俗ニ篠掃或ハ鍾抜ト稱シ蠶繭ノ周圍ニ附着スル者ニシテ從來ハ凡テ之ヲ廢棄シツヽ在リシ者ナリ

七月　群馬縣ノ蠶業家協同シテ繭競優會ヲ同縣碓永郡安中驛ニ開ク

八月　茨城縣ノ實業家協同シテ蠶茶共進會ヲ同縣水戸弘道館ニ開ク

同月　山梨愛知靜岡三重ノ四縣聯合繭製絲外二品共進會ヲ山梨縣甲府公園ニ開ク農商務省ヨリ坂田春雄杉田普ヲ遣ハシテ之ヲ審査セシム

同月　熊本縣ハ官貸資金ヲ以テ開業セシ蠶絲ニ關スル會社ノ景況ヲ左ノ如ク農商務省ニ開申ス

熊本蠶業會社ハ明治十四年四月ノ開業ニシテ當初官貸ノ資本金ヲ以テ土地ヲ購入シ之ヲ社員ニ分貸シテ桑苗代ニ當テ殘金二千五百八十四圓九十錢ハ銀行ニ預ケ置ケリ但シ該社ハ縣下貧困士族授産ノ目的ヲ以テ設立セシ者ナレハ本社ニ在テハ地所ヲ貸與シ其元金及官納ノ利足ヲ各借地主ヨリ取立ツル自己ノ事業ニシテ利益金ノ如キハ本社ノ有ス可キ者ニ非ズ桑園ハ植付ケノ日淺ク本年迄ハ一段歩ニ附キ五舛ヨリ一斗ニ及ブ

綠川製絲會社ハ八年六月ノ開業ニシテ資本金一万七千圓内七千圓ハ官貸ニ係ルナリ初年ヨリ六年間ハ創立ノ際ニ在リ且天災人事ノ不幸ヲ蒙リ損益相償ハズ是ニ於テ第二期ニ至リ社法ヲ改革シ資金ノ不足ヲ補ヒ鋭意業ヲ營ムモ適マ橫濱ニ生絲荷預所ノ設立アリ該所外商ト意見ノ齟齬スルヨリ一時市上ノ慘狀ヲ呈シ之ガ爲メ一時販賣ヲ閉塞シ困難ヲ極メ遂ニ莫大ノ損失ヲ來セリ故ニ本年度ニ至ツテハ一時休業スルニ至ル

球摩郡上村開墾場ハ本年春栽植セル桑葉ヲ以テ養蠶ヲ營ミ頗ル好結果ヲ得タリ

九月　群馬山梨聯合繭生絲織物其他共進會ノ審査結了シタルヲ以テ農商務卿西卿從道臨場シテ褒賞授與ノ式ヲ擧ク

十月　群馬神奈川埼玉栃木福島山梨長野ノ七縣聯合繭生絲絹木綿織物共進會ヲ群馬縣桐生町ニ開ク農商務省ハ審査長トシテ速水堅曹ヲ審査官トシテ福谷啓吉ヲ遣ハシ各縣ヨリ撰出ノ審査官ト共ニ之ヲ審査セシム

四月　長崎福岡大分熊本鹿兒島沖繩六縣ノ聯合生絲外二品共進會ヲ長崎公園ニ開ク農商務省ハ齋藤素軒多田元吉宮里正靜ヲ遣ハシ之ヲ審査セシム

同月　三重縣ノ人民繭桑葉外二品共進會ヲ鈴鹿郡龜山町ニ開ク

十一月　福井石川二縣聯合シテ繭生絲麻共進會ヲ福井ニ開ク農商務省ヨリ池田謙三四谷繼之助吉田健作ヲ遣ハシ之ヲ審査セシム

十二月　當時本邦製絲業者ノ官金貸與ノ恩典ニ依テ業ヲ營ム者甚タ多ク然ルニ當時ノ狀態其償却ヲ能フ者アルナク實業社會ハ近時政府ノ促償ニ依リ將ニ其業務ヲ廢セサルヲ得サル狀況ナルヲ以速水堅曹深ク之ヲ憂ヒ西鄕農商務大臣ニ左ノ如キ實業救護ノ歎願ヲ上申セリ

生絲製造人ノ狀態ヲ察シテ歎願ノ上申

謹テ農商務卿閣下ニ奉上申候抑生絲ハ本邦無二ノ物產タルヲ以テ夙ニ富岡ニ製絲場ヲ設置セラレ尋テ蠶種組合條例生絲取締規則製造印紙ヲ始メ內ハ地方製造人ニ資金ヲ貸附セラレ外ハ海外爲替金ノ便利ヲ補助セシル、ニ至ル迄百方勵奬博覽會ニ共進會ニ每事特殊ノ御誘引有之今日ニ至リ養蠶製絲ノ進步實ニ思想ノ外ニ出ツ之ヲ明治二三年ニ比スレハ年々數百万圓ノ國益ト云モ敢テ不當ニ非ル可シ其大略ヲ述ンニ養蠶ノ進步最モ著シク上武信州岩代地方等ニ於テハ假令季候ノ變ニ逢フモ不作ノ年柄ニ會スルモ養育ノ術ヲ盡シテ過大ノ損失ヲ蒙ラサル可シ此一點ニ於テハ伊佛ノ人民ト雖モ恐クハ一步ヲ讓サルヲ得サル可シ生絲モ亦伊佛ノ品ニ彷彿タルモノ若干之レ有リ其他過半ハ一步ヲ改良シ猶從前ノ座繰製ト雖モ明治初年ノ品ト同一ノ物ニ非ルヤ明也而シテ米ニ佛ニ人民ノ力ニ開店シ每便數箇ノ直輸出ヲ成セリ豈非常ノ進步ト云ハサランヤ是皆政府ノ保護恩惠ト率先有志輩ノ精神トノ結果ニ外ナラス然レモ不幸ナル哉生絲ヲ費消スルノ世界第一タル佛國里昂府ノ景況ハ明治初年ノ頃ヨリ漸次絹織物ノ價下落シ七八年間絹織物ノ職業ニ更ニ利益ナク此衰頽ノ際ニ於テ麻織物毛織木綿織物等頗ル時ヲ得則チ時好ヲ轉シテ絹織物ヲ擯斥セラル、ニ至レリ此業ニ連帶セル我生絲製造人ニハ其影響ヲ蒙ルコト論ヲ俟タス而シテ猶

一層ノ甚シキモノ有リ如何ントナレハ貿易ノ始メニ於テ僞製贋造百出シ日本ノ生絲ハ歐州ノ信用一度地ニ落チタルヲ以テ我國ノ人民改良ニ注意シ前書ノ如キ進歩有リト雖モ其効ノ著ハル、ヤ遲ク其勞ヲ償フ可キノ利益ヤ之レ無ク加之本邦ハ工業振ハス又工業ニ投スル資金モ無ク且借用ノ不融通ノミナラス利子最高ノ故ニ年々損失ヲ累子早晩一度困難瓦解ノ地ニ至ランコト必定ノ景況ナリシカ其勢ヒ甚速カニシテ此兩三年間ノ變動實ニ名狀スヘカラス殊ニ昨明治十四年以來內ハ荷預所ノ葛藤ニシテ數百万圓ノ損失ヲ釀シ銀貨非常ノ下落等ニテ外ハ佛國里昂ノ如キ株式取引所ノ動搖屈指ノ織屋數軒ノ破產下等人ノ亂暴上等絹物ノ不流行等生絲製造人等ニ及ホスノ災害並起リ比々破產ニ陷リ目今ノ景況ヲ以テ察スルニ殆狂瀾ノ如クニ有之可憐元來愛國ノ精神ヲ以テ思想此業ニ從事シ自ラ起サヽル風波ノ難ニ罹リ眞ニ危急ニ迫リ周章ノ餘或ハ虛喝ヲ鳴ラシ或ハ廉恥ヲ紊タシ將サニ風俗ノ變態ニ及ハントス嗚呼然ラサル者有ランカ富岡製絲所ノ如キ官行ニシテ近來ノ進歩男女ノ勉勵等ニ感スルニ餘リ有リ且無益ヲ捨有益ヲ取ルノ一點ニ至リテハ民業ニ讓ルコトアル可ラス斯ノ如キノ業場ニシテ猶數万圓ノ損失ヲ生セリ現ニ此業ニ從事シテ一般人民ノ情實ヲ察スレハ豈寸刻モ默止スルヲ得シヤ夫レ斯ノ如キ困難ノ際ニ於テ猶怨恐

ノ一事アリ聞ク支那地方ニ於テ生絲ノ改良ヲ謀ルニ大ニ官ノ力ヲ添ヘ歐人（先年富岡ニ御雇ノ佛人）ヲ雇フテ大工場ヲ興シ近ク該絲ヲ以テ米國ニ販賣シ一ポンドニ付六ドル拾セントノ高價ヲ得尋テ米國ニ賣店ヲ開カントスト若シ果シテ然ラハ支那ノ如キ金利ニ廉ナル（大概年三朱ニ過キズト云フ）資本ノ大ナル國ニ於テハ忽チ意外ノ改良ヲ見ルナラン是ニ於テ本邦製絲人ヲ形容スレハ彈藥盡キテ大敵ヲ增スニ異ナラス之ヲ防クノ術ナク遁走スルノ道モナシ切齒瞋臍スルノミ之レヲ何ト云ン乎此困難タル即本邦幾分ノ盛衰ニ關係アレハ

閣下深ク洞察セラレ救助ノ道破格ノ御詮議有ランコヲ懇願ノ至ニ堪ヘス猶內外ノ情實篤ト探求ノ上追々可奉上申候得共差向歎願ノ次第ハ是迄各地方生絲製造人ニ御貸下金有之或ハ年賦或ハ本年度上納ノ分モ可有之然ルニ前書ノ情實ニ候得者上納等能ク爲シ得ル能ハサル可シ強テ之ヲ爲サシムルモ到底倒ルノ外ナキノ景況ナリ且官金拜借ノ者タル孰レモ率先ノ有志輩ニシテ何分ノ効勞モ有之義候得ハ本年度ヨリ更ニ五ヶ年間悉皆置据還納ヲ御猶豫被成下置度此等ノ義ハ些少ノ事ニ候得共下ヨリ出願セサルノ前ニ於テ斷然御延期被成下候得者非常ノ感覺ヲ來タシ製造人等忍耐ノ氣力ヲ加フルニ裨益不少義ト奉存候

ニ付衆ニ代リ只管奉歎願候　誠惶誠恐頓首謹言

明治十五年十二月

富岡製絲所教師　速水堅曹

農商務卿西鄉從道殿

同月　岡山縣ハ官貸資金事業ノ報告ヲ左ノ如ク農商務省ニ爲セリ

備中國小田郡笠岡山陽製絲會社ハ明治九年六月ノ開業ニシテ資本金一万二千五百圓内一万圓ハ官貸ニ係ル近來養蠶家增加シ且兼テ該社ニ聯合セル安藝國廣島備後國福山等ノ士族輩ガ養蠶セル繭ヲ買入スルト雖モ一年ノ製料ニ宛ツルヿ能ハズ即チ半年間ニシテ業ヲ休メリ因ツテ明年ハ一層事業盛大ナラン事ヲ企圖セリ

是年本邦ヨリ輸出シタル蠶絲蠶繭ノ物價概ヲ左ノ如シ

生絲　二百八十八万四千〇六十八斤　價一千六百二十三万二千百五十圓

屑絲　二百二十一万九千五百十八斤　價二百二十三万七千四百六十一圓

繭　十五万〇八百十一斤　價八万一千百七十四圓

屑繭　十二万六千八百七十二斤　價四十一万八千七百二十圓

眞綿　七百五千五百六十六斤　價十五万九千三百十六圓

屑眞綿　二万二千九百九十五斤　價一万五十六圓

蠶印紙　十七万七千二百四十枚　價十二万二千四百八十六圓

因ニ曰フ是年輸出セル蠶絲ノ價一梱平均五百六十餘弗ニ陷リ是ヲ前年ノ價格ニ較フレハ三十餘弗ノ下價ヲ示シタリ是レ世界蠶絲ノ大市場タル里昂府ニ於テ一月ヨリ五月ニ至ル株式取引所ノ紛擾起リ殆ンド賣買停止ノ境遇アリタルヲ以テノ故ナランカ蓋シ六月ニ及ビ漸ク鎭定スル所アリ爾來貿易市場ノ光景ヲ挽回シタリ

明治十五年了

明治十六年一月　農商務省農務局陸產課中蠶茶掛ヲ廢シ更ニ蠶絲製茶ノ二掛ヲ置キ舊蠶茶掛ノ事務ヲ掌理ス

二月　福岡縣ハ官貸資金ニ係ル事業ノ景況ヲ農商務省ニ左ノ如ク開申セリ

豐前國中津郡豐津開墾社ハ專ラ蠶桑ヲ業トスル者ニシテ十三年一月以降十五年一月迄段別十五町歩ヲ開墾シ之ニ桑樹ヲ栽植シ其仕上原價六千四百九十六圓二十一錢八厘純益二百二十ヵ圓六十五錢六厘ニシテ枯桑ノ損害金四百七十五圓ナリ

筑後國御井郡田町原生社ハ十三年九月以降十五年七月迄生絲生皮苧九十五貫〇八十目蠶繭二十四石四合三勺ヲ仕上ゲ其原價三千九百四十一圓三十五錢六厘ニシテ損害金三百八十五圓九十五錢一厘ナリ

同月　福井縣ハ官貸資金ニ係ル事業ノ十五年度前半期ノ景況ヲ農商務省ニ開申スル所ロアリ

越前國足羽郡實永町桑蠶會社ハ官貸資金一万五千圓ニシテ元ノ部一万一千二百三十九圓七十八錢一厘拂ノ部一千八百七十六圓二十錢七厘差引十五年度後半期分即チ七月ヘ繰越高金九千三百六十三圓五十七錢四厘ナリ

開拓桑園ハ十三年一月ヨリ六月迄三千三百六十二坪ナリ養蠶ハ本年社員自宅ニ於テ之ニ從事スル者十六人其掃立原料三十八枚餘ニシテ收繭ノ總額三十三貫餘ナリ

今立郡水落村開墾社ハ官貸資金二千五百圓ニシテ元ノ部二千三百五十圓三十四錢拂ノ部三百五十圓四十四錢差引十五年七月ヘ繰越高二千圓ナリ開拓桑園ハ十三年七月ヨリ十四年十二月迄ニ五千二百六十六坪十五年一月ヨリ六月迄桑園ヲ桐園ニ作替スル二百二十二坪トス

大野郡勝山養蠶會社官貸資金一千圓ニシテ元ノ部一千二百六十六圓三十三錢八厘拂ノ部一千二百六十一圓七十五錢差引殘金四圓五十八錢八厘ナリ開拓桑園ハ十四年七月ヨリ十二月地所買入二反歩十五年一月ヨリ六月迄一町六反五畝六歩ニシテ內八反一畝七歩ヲ桑園トス其他本年桑苗ヲ栽殖スル五百本又本年養蠶ニ着手シ七石二斗繭ヲ收ム

同郡大野桑園會社ハ官貸資金二千圓ニシテ元ノ部一千八百五十二錢六厘拂ノ部三百九十八圓九十五錢五厘差引一千四百十六圓五十七錢一厘ナリ開拓桑園ハ十四年七月ヨリ十二月迄地所買入幷ニ借地ニ桑樹ヲ栽殖スル七反二畝十三歩十五年一月ヨリ六月迄桑樹ヲ栽殖スル一町ノ五畝歩其桑苗購入費百十七圓六十三錢九厘ナリ

三月　岐阜縣ハ舊苗木藩士族授産事業ノ十五年七月ヨリ十二月迄ノ作事景況ヲ農商務省ニ開申シタリ

士族二百餘名ノ中百六名ハ蠶キニ共立社ト分離シテ製絲會社ヲ再興セリ即チ製絲會社ハ明治十五年養蠶收繭ノ期ニ先タチ社員協議シテ二千七百七十餘圓ヲ以テ成繭ヲ購入シテ製絲ニ從事シ生絲五十二貫餘ヲ製出スルニ及テ其品位頗ル良好ナルヲ以テ多少ノ利益ヲ見ルノ狀況ナリシニ歲末ニ至リ洋銀相場ノ生絲價格ノ低落ニ際シ七百餘圓ノ損失ヲ來セリ

共立社ハ豫テ下附サレタル資本金額ヲ以テ蠶桑及其外各自營所事業資金ニ倍通シ間接ノ利潤ヲ保有スルニ止マリ多少利子ノ收入アルヲ以テ幾分ノ利潤ヲ見ルニ至レリ以上精算元ノ部金三万五千二百五十三圓六十七錢ニシテ拂ノ部金二千四百九十一圓十九錢トス

同月　京都府丹後國天田郡福知山在住士族等從來養蠶製絲ノ事業ニ從事シ頗ル成蹟ノ擧ルアリ然ルニ資本金薄弱ナルガ爲メ未タ其意ヲ達スル事能ハズ於茲資本トシテ金一千八百圓ノ官貸ヲ仰キ以テ事業ノ伸張ヲ計ラント京都府廳ニ請願シ府廳ハ直ニ之ヲ農商務省ニ稟申シテ翌月許可セラル

同月　農商務省中農務商務工務ノ三局相謀リ各府縣蠶絲業者數十名ヲ招集シテ蠶業諮詢會

ヲ本省議事室ニ開會ス是レ近時諸物價ノ變動ニ際シ蠶絲業ノ自然影響ヲ來サントスルヲ以テ其利害得失ヲ諮詢シ將來ノ長策ヲ講セントスルニ在リ而シテ該會諮詢ニ係ル問題ハ左ノ三項ナリシ

第一横濱開港以來各地蠶絲販賣沿革

第二各地現今ノ景況

第三蠶絲粗製濫造ヲ矯正シ勉メテ同一ノ品位ヲ多量ニ製出シ以テ海外ノ販路ヲ擴張スル事

等ノ諸問題ヲ議了シ農商務大臣ニ奉答シタリ就中會員茲ニ大日本蠶絲協會ナル者ヲ設立シ本部ヲ中央政府ノ許ニ置キ全國ヲ通ジテ該業ノ改良ヲ圖ラン事ヲ企テ其創立ニ着手セリ

四月　曩キニ明治十五年四月群馬縣上毛繭絲改良會社ガ大藏卿松方正義ニ具申シタル殖産銀行設立ノ件ニ關シ同省ハ沙汰シテ曰ク當時殖産銀行ノ設立ハ之ヲ實施スル能ハザルノ事情アレバ特別ノ詮議ヲ以テ金三十万圓（無利息）ヲ横濱正金銀行ニ預ケ入レ之ヲ地元荷爲替金トナシ其社製出ノ生絲ニ對シ荷爲替前借ヲ議スト於茲正金銀行ハ該主旨ニ基キ上野國

前橋ニ出張員ヲ派遣シ荷爲替金及製絲保護金貸與ノ事ヲ取扱フ事トナレリ故ニ多年資金ノ澁滯ニ困難ヲ感ジタル上毛繭絲改良會社モ玆ニ至ツテ稍々社運回復ノ端緒ヲ啓クニ至ル

同月　大日本農會京都支會ノ請求ニ依リ農商務省ハ御用係船津傳治平ヲ同地ニ派遣シ養蠶製絲ノ利害得失ヲ說示セシム

五月　農商務省工務局所管富岡製絲所ノ事務ヲ同省農務局ニ移ス

同月　農商務省ハ製絲製糖酒造ノ事業ニ對シ農務工務兩局主管ノ區分ヲ定メ製絲製糖事業ヲ同省農務局ニ移ス

同月　農商務省ハ和歌山縣ノ管內士族授産ノ爲メ蠶業起業基金二万八千七百二十圓ノ稟請ヲ許可シタリ於茲該縣ハ官設ヲ以テ栽桑養蠶ノ事業ヲ振興シ傍ラ士族ヲ奬勵シテ漸次蠶業ノ會社ヲ設立セシメ終ニ此事業ハ士族ニ移附シテ繼續セシメント是レ又タ許可セラレタリ

是月　大日本蠶絲協會成ル是レ本年三月蠶絲業諮詢會ノ會員等ガ發起シルタ者ニ係レリ

是年本邦ヨリ輸出シタル蠶絲蠶繭ノ物價左ノ如シ

生　絲　三百十二万年九百七十五斤　價一千六百十八万三千五百五十圓

屑　絲　二百四十六万三千五百七十五斤　價百九十八万六千六百五十七圓

眞　綿　五百七千六百十一斤　價十一万七千百六十九圓

屑眞綿　千四百五十二斤　價二五七十一圓

繭　三万二千五百二十四斤　價一万七百二十六圓

屑　繭　二十二万七千五百二十二斤　價二十万三千九百十一圓

蠶印紙　七万五千〇九十一枚　價五万五千二百八十七圓

本年佛國養蠶不良ノ報知アリ新絲五百六十弗ノ初取引ヲナシタリ九月中旬倫敦飛報ニ清佛ノ談判危機香港不穩ノ狀アリト此等ノ爲メ市上變象ヲ來シ且外國爲替相場モ一增騰貴シ又タ飛報アリ淸佛談判ノ危機迫リ佛國ノ擧動穩カナラズ歐州市勢人心競々商業退縮セリト只サヘ不振ノ市上又モヤ不運ヲ迎ヘ取引皆無休業同樣ニ陷リタリシガ十一月支那地方ヨリ銀貨貳十五萬弗ノ輸送アリタレバ月末ヨリ十二月ニ亘リ歲末ニモ不抱市勢ヲ挽回シ頗ル活潑ノ取引ヲナシ明年ニ繰越ス可キ分七千百餘個ヲ過ギサルニ至レリ

明治十六年了

明治十七年一月　農商務省ハ全國ニ關スル共進會及聯合府縣共進會開設ニ際シ本省ニ於テ其職員ヲ設ク可キ事ヲ定ム

同月　農商務大輔品川彌二郎ヲ以テ來年東京上野ニ開設スベキ繭生絲織物漆器陶器共進會ノ幹事長トナスヲ命ズ

三月　埼玉縣賀美郡丹莊村大畠喜三治等主唱シテ養蠶練習及農事改良ノ目的ヲ以テ規約ヲ結ビ共進社ヲ設立ス

同月　群馬縣多野郡高山村ニ設立シ在ル養蠶改良高山組ハ官允ヲ得テ之ヲ高山社ト改稱ス社長ハ前組長高山長五郎副社長町田菊次郎推選セラレ事務ヲ執掌ス

養蠶改良高山社ハ初メ高山組ト稱シ明治六年ノ創始ニ係ル者ニシテ素養ハ遠ク文久年間ニ始マルト雖モ長五郎清温育ヲ自得セシ當時即チ明治元年ヲ以テ高山組生出ノ初期トナス爾後ノ經營ハ專ラ該法ノ普通ニ夙メ居タレトモ明治六年ニ及ビテハ事務繁多ニ及ビ到底獨カノ及ブ可ラザルヲ以テ更ニ高山組ヲ組織シ廣ク生徒ヲ募リテ清温ノ育法ヲ傳習シ且之ガ奬勵ノ爲メ明治十二年ヨリ明治十五年ニ至ル繭品評會ヲ開設スル前後四回是皆ナ同組員ガ精勵收獲シタル者ニシテ就中其第三回ノ如キハ同人ノ弟木村九藏ガ組織セル競

進組員ト聯合開會相方奬勵ノ氣ヲ鼓舞シタル事淺少ナラズ今尚同地方傳フルニ當時ノ盛況實ニ筆紙ニ盡シ難シト爲セリ

（參照）明治十九年十二月ノ條

明治二十年十一月　八王子共進會ノ條

明治二十四年七月　功德表彰共進會ノ條

明治二十五年三月　內閣勳賞局褒狀ノ頂

四月　農商務省ハ蠶病試驗所ヲ東京府麴町區內山下町ニ假設シ微粒子病ニ關スル各種ノ試驗ヲ行フ

明治七年我政府ハ內務省中ニ勸業寮ヲ置キ其所轄內藤新宿試驗場內ニハ養蠶科ノ設置アリテ蠶業諸般ノ試驗ヲ行ヒ次デ佐々木長淳建議ニ依リ蠶事學校ノ設計ヲナシタリシモ明治十一年該試驗場ノ廢絕シタルガタメ其事ヲ止ム

明治十四五年ノ頃即チ西洋紀元千八百八十一二年ノ交ロ伊太利佛國西等蠶病流行シ當時本邦ニ於テモ已ニ其病毒ヲ被ラントスルノ兆アリシ故本省ハ之ガ試檢ノ必要ヲ認メ明治十六年五月本省ガ招集シタル勸業諮問會ニハ特ニ本省技師練木喜三ヲ臨マシメ該病毒ノ

恐ル可キヲ演述セシメタリ

當時ハ該病毒ノ名義只ニ黑痣病ト稱シタル者ナリシニ是時初メテ微粒子病毒ナリト練木喜三之ヲ命名セリ

（參照）本書現業史中蠶病史ノ條

同月　長野縣ハ曩キニ群馬縣ノ報知ニ係ル蠶卵原紙有害物含有ノ事件農商務省農學校ノ分折試驗ニ依ルモ又タ自縣ノ試驗ニ依ルモ其成績全ク該縣ノ誤妄ナル主旨ヲ公告シ且長野縣產出ノ蠶印原紙成分ヲ世ニ公ニシ大ニ原紙製造家ヲ鼓舞セリ

此時長野縣原紙製造ハ大ニ警戒スル所アリ粗製濫造ノ弊ヲ豫防シ自來改良ノ主段トシテ共同團結ノ必要ヲ感ジ生產地小縣郡長瀨村蠶卵原紙改良會社ヲ設立シ大森幾吉出浦萬助等大ニ斡旋セリ

五月　大日本蠶絲協會ハ會員河瀨秀治ヲ推選シテ幹事長トナス於茲同會ハ定期ノ報告ヲ發シテ蠶絲等ノ改良ヲ企ツ事トナス

七月　政府ハ上毛繭絲改良會社ノ申請ニ依リ會ツテ同社ニ貸下ゲタル金二十五万七千五百四十圓ハ同社ガ米國ニ輸出スル生絲賣上代金ノ內ヨリ無利息十六年賦ヲ以テ償却スル事ヲ

承諾セリ是ト同時ニ橫濱正金銀行及第三十三國立銀行モ同社ノ申請ヲ容レ其方法ハ政府ト同ジク左ノ承諾ヲ與フ

橫濱正金銀行分　金十万三千百八十圓也　年六朱　十ヶ年賦

第三十三國立銀行分　金十一万五千九百十圓也　年一割　十三ヶ年賦

而シテ同會社ハ米國直輸ニ關スル生絲賣上代金ノ內百分ノ二半ヲ兩銀行ニ對スル償却ノ費ニ宛テ尙百分ノ二ヲ以テ返納準備トシ之ヲ積立テ橫濱正金銀行ハ賣上金ノ百分ノ四半宛ヲ引去ル事ト改革ス

九月　埼玉縣兒玉郡靑柳村木村九藏ガ設立ニ係ル競進組ハ同縣ノ允許ヲ經テ養蠶改良競進社ト稱シ專ラ生徒ヲ養成シ社ノ養法清溫靑ヲ普及シテ本邦養蠶改良ノ事ヲ勸ム

木村九藏ハ群馬縣高山社長高山長五郎ノ弟ニシテ幼ヨリ養業ニ熱神シ抱負ハ兄長五郎ト異ナラズ專ラ蠶業改良ヲ以テ已ノ任ト定メ明治八九年ノ頃已ニ競進組ヲ設立シ組員ニ撰マレテ組長トナリ高山組ト幷立シテ關東蠶業改良ノ大團ト稱セラル

（參照）是年育ノ條　高山社ノ條

明治十八年六月ノ條　五品共進會ノ條下

明治二十三年ノ條

明治三十一年ノ條

本書現業史中　種史ノ條下

十月　大日本蠶絲協會ハ從來ノ組織上寔ニ不振ノ異狀ナルヲ察シ各府縣勸業課ニ依頼シテ協會ノ擴張ヲ謀レリ

十二月　大藏卿松方正義ハ群馬縣前橋上毛商絲改良會社ヲ巡視シ大ニ社員ヲ奬勵鼓舞シテ歸ル

同月　日本蠶絲協會長河瀨秀治ハ當時本邦製絲改良ノ爲政府ニ於テ宜シク之ヲ保護セズンバアル可ラズトナシ農商務卿西鄉從道ニ保護建言ヲ成セリ其要旨左ノ如シ

日本製絲改良ノ件ニ付御保護建言

本邦蠶絲ノ國ヲ利シ又隨テ之カ改良ヲ要スルハ今更本會員等ノ辯ヲ待タス然リ而シテ之ヲ實際ニ改良スルニ至ツテハ間接ニ直接ニ其方法固ヨリ一ニ止マラスト雖モ要スルニ第一既往ノ經歷ヲ明ニシ第二緩急順序ヲ審ニシ第三施行ノ時宜ヲ察セサルヘカラス設令其方法宜シキヲ得ルモ我生絲ノ如キハ已ニ貿易上ノ著大ナルモノニシテ萬國一般ノ通商ニ

關スルヲ以テ若シ施行ノ方法或ハ本邦ノミノ便益々偏倚スルカ如キコトアルヤハ忽チ外人ノ論議ヲ來タシ爲メニ一張一弛ノ不幸ニ陷ルノ恐ナキコト能ハス（試ニ其一例ヲ擧クレハ本邦ノ生絲ヲシテ可成安全ニ且販路ヲ擴張セシムル爲メ賣價ノ幾分ヲ政府ニ於テ補塡シ以テ安價ナラシメントスルノ議ノ如キ素ヨリ其功蹟一時ハ著大ナルヘシト雖モ若シ本邦ノ絲價ヲシテ一朝米國市場ニ低落ナラシムルヤハ忽チ横濱市場其影響ヲ來タシ本邦一般ノ絲價ヲ墜サシムルノミナラス佛ニ伊ニ清國ニ其平均ヲ及ホスヘキハ物價ノ昂低普通ノ正理ニシテ輕忽擧行ナシ難キノ類）況ンヤ方今外交上ノ儀ハ實ニ重大ノ時機ニ關シ我政府ニ於テハ最モ御注意被爲在候折柄深謀遠慮以テ其宜キニ處スルノ方法ヲ求メサルヘカラス是レ本會員等カ最モ注意審案スル處ノ要點ナリ抑本邦生絲ノ貿易年ヲ追テ盛大ニ赴キ殊ニ米國ノ如キハ益々本邦生絲ノ信認ヲ篤クシ僅々十年間ニ於テ別表ノ如ク販路ヲ開進セシメタルモノハ一ニ直輸ノ力ト言ハサルヲ得ス然ルニ該直輸ノ事タル之ヲ横濱賣ニ比スレハ多少ノ不便ヲ免カレサルノミナラス實ニ危險損害ノ大ニ恐ルヘキモノアリ諸國機屋ノ破產是ナリ該破產ハ實ニ直輸ヲ遮斷セシムルノ天障得タリ苟モ現時ノ景況ニ一任シ去ラハ將來生絲ノ販路ハ再度横濱ノ一方ニ止リ僥倖奇利ヲ競ヒ濫製廉惡之レ勉メ

益々外人ノ信認ヲ失ヒ明治六七年頃ノ悲境ニ陷ルヘキハ必然ノ勢ナリ本會會員等千辛萬苦之レヲ救護スルノ術ヲ講スト雖モ米國市場ノ現況幼弱ニシテ本邦絲價ノ低落ニ關シ勢ヒ止ムヲ得サルモノアルハ別冊ニ具スルカ如シ是レヲ以テ方今ノ時勢ヲ察シ務メテ實際ニ遠サカリ直接ノ關係ヲ脫シ最モ安全ニシテ最モ緊急ナルモノヲ擇フニ破產保護ノ一法ヲ設クルニ若カス此方法タル曾ニ我國民熱血ノ製造物ヲシテ一朝水泡ニ屬セシメサルノミナラス現ニ直輸者ニ安堵ヲ與ヘ愈〻貿易ノ隆盛ヲ來タシ益々改良ノ氣力ヲ促シ有形ニ無形ニ文明ノ薰陶ヲ受ク可キハ信シテ疑ヲ容レサル處ナリ因テ左ニ其方法ヲ概記ス

官民協同破產保險概略

第一　本邦製ノ生絲ヲ海外ニ直輸スル日本商人ハ其誰タルヲ問ハス（當分米國ニ限ル者トス）米國ニ於テ賣上ケタル代價ノ一歩（百圓ニ付一圓）ヲ在該國正金銀行ノ支店ニ蓄積セシム可シ

但（該銀行ニ於テハ本條ノ積金ヲ預リ之レニ對シテ年六朱ノ利子ヲ附スル者トス）

第二　政府ハ正金銀行ニ命シ米國ニ於テ日本人直賣ノ金員ヲ調査セシメ其賣上高ニ對シ政府ハ一歩五厘ツヽヲ該銀行ニ蓄積スヘシ該銀行ハ之レヲ米國支店ニ預リ保監スヘシ

又該支店ハ政府ノ代理者トナリ日本各生絲商人賣先ノ安否ヲ現察スルノ責ニ任ス可シ

一官民ノ積立會ハ一商人又ハ一商社ニ於テ凡ソ一ヶ年販賣高ノ十分ノ一ニ充ツルヲ官積ハ廢止シ民積ハ之ヲ連續セシメ其後民積ノ金額十分一ニ漸達スル數ニ應ノ最前ノ官積ハ漸次ニ之ヲ減退シテ國庫ニ收ムルモノトス

一官民ノ積立金未タ全額ニ充タサル（十分ノ一）ノ際不幸ニシテ破產ノ損失ニ係ルトキハ第一ニ民積ヲ以テ之ヲ救護シ尙不足ヲ生シタルトキハ官積ヲ以テ之レニ充ツヘシ然レトモ若シ官民ノ積金ヲ以テ尙破產損失ノ全部ヲ償ヒ得サルノ塲合ニ於テハ其不足ノ分ハ一時政府ニ於テ之ヲ救護シ該金額ハ無利足年賦ノ方法ヲ以テ之ニ係リタル直輸商ヨリ別途漸次ニ之ヲ償還セシメ積立金ハ前法ニ仍リ官民相共ニ蓄積スヘシ

以上概法此ノ如シト雖モ其節目ノ目キハ官府ノ御都合及ヒ正金銀行並ニ直輸商等ノ便宜ニ應シ充分御詮議相成候樣仕度右ハ本邦特有物產改良ノ基礎ニシテ即チ今日ノ急務トス本會員等審案熟議上申仕候條速ニ御採用相成度候也

明治十七年十二月九日

大日本蠶絲協會

河瀨秀治

農商卿西鄕從道殿

是年本邦ヨリ輸出セシ蠶絲蠶繭物價左ノ如シ

生絲	二百〇九万八千三百九十八斤	價百万七千百七十二圓
屑絲	二百〇五万三千七百四十六斤	價百六十七万七千二百九十九圓
繭	四千八百二十四斤	價二千五百八十四圓
屑繭	二十五万三百九十四斤	價二十五万四千九百〇四圓
眞綿	十四万八千六百二十三斤	價二十八万七千百八十一圓
屑眞綿	九万六千四斤	價一万一万七百七十八圓
蠶卵紙	五万九千七百八十五枚	價四万〇七百〇八圓

是年支那地方蠶病流行且清佛戰爭ノ爲メ絲價下向シ十八年ニ繰越高ハ實ニ一萬三千餘個ニ上リタリ而シテ本年絲價ノ平均價格ハ壹個平均五百二十五弗ニ相當セリト言フ

明治十七年了

明治十八年一月　農商務省中各局處務規程ヲ改正シ農務局中ニ樹藝課ヲ置キ養蠶製絲及其他有用ノ各件ヲ掌ル

四月　農商務省ハ繭生絲織物漆器陶器ノ五品共進會ヲ東京府上野公園ニ開ク該會開設ノ要旨ハ曩ニ明治十四年第二回内國勸業博覽會ヲ開設シ本年將ニ第三回内國勸業博覽會ヲ開設スベキ豫定ナリシモ政府ノ都合ニ依リ之ニ代ユルニ更ニ該共進會ヲ開キ第三回内國勸業博覽會ハ明治二十三年ニ開設スル事ニ決定シタルヲ以テナリ

同月　蠶絲業講話會ヲ上野公園文部省所轄敎育博物館講義室ニ開ク此擧素ト當時開設セル五品共進會列品ニ就テ指示スベキ事項ヲ主旨トセル者ニシテ講述者ハ蠶絲業篤志者或ハ他ノ老練ナル實業家等而已ナリシ

繭之部

齋藤素軒　長谷川範七　丹羽敬太郎　練木喜三

大橋伊三郎　佐々木長淳

生絲之部

小島敬善　高橋信貞　森田眞谷合彌七

清水宗德　星野長太郎　速水堅曹

六月蠶絲業功勞者川村傳衛栃木縣下野國河内郡平石村ニ於テ病ヲ得テ死ス

（參照）明治九年五月ノ條

是月　繭生絲織物漆器陶器其進會ノ審査ヲ了ス茲ニ當業者出陳ノ物品既往ノ審査結果ニ較ブレバ頗ル進歩ノ狀況ニ達セリ而シテ繭ノ部ニ於テノ出品人員ハ四千四百十六人其出品數ハ四千七百五十八點生絲ノ部ニ於テハ一千六百三十四點ノ出品ヲ見タリ即審査ノ景況左ノ要領ニ於ケルガ如シ

各府縣列品ノ繭ヲ見ルニ明治十年第一回内國勸業博覽會及十二年横濱共進會又十四年第二回内國勸業博覽會等ノ列品ニ比スレバ其進歩ノ著ルキ更ニ喋々辨論ヲ侍タズ第一列品數ノ多キ赤熟其他良種ノ增加雜種ノ消滅夏秋蠶及黄繭ノ減少セル即チ其一証左ナリ而シテ本會列品ノ繭ニ就テ其良否ヲ鑑別シタル實況ヲ府縣毎ニ區分スレバ左ノ如シ

東京府ハ黄繭多ク種類頗ル繁雜品質下劣ニシテ見ルベキモノハ漸ク二三品ニ過ギス

京都府ハ品質粗惡殊ニ保存不良ニシテ一モ見ルベキナシ本會列品中恐ラクハ粗ノ魁ナラン大坂府ハ甚ダ僅少ナレモ其品質ハ頗ル佳ナリ之ヲ一昨十六年關西聯合共進會ノ列品ニ

比スレバ其進歩實ニ著ルシ

神奈川縣ハ漸次赤熟ヲ飼養スルモノ增加シテ品質モ亦佳良ナリ是ニ二有志者奬勵ノ致ス所ナランカ就中相摸國高野郡中田新村ノ產出ニハ往々佳良ナルモノアリ

兵庫縣ハ從來ノ養蠶地ナルニモ似ズ漸ク三十五品ノ小數ニシテ品質殊ニ粗惡ナリ

長野縣ハ概シテ佳良ノ品質ナリ然レモ往々黴氣ノ生スルヲ見ル保存方宜シキヲ得ザルノ致ス所惜ムベシ

新潟縣ハ麁惡ノ品甚ダ多ク佳良ノモノ僅少ナリ

函館縣ハ從來養蠶ヲ業トスルモノナシトセズ殊ニ試驗所ノ設アレド本會ニハ列品ヲ鋏ク

埼玉縣ハ前會ニ比スレバ著シキ進歩ヲ呈セリ就中兒玉郡邊頗ル良繭ヲ出ス實ニ賞讃スルニ堪ヘタリ

群馬縣ハ意外ニ善良品ニ乏シト雖モ麁惡ノ品モ亦稀ニシテ中等以上ノ品ヲ占ム

千葉縣栃木縣ハ佳良ヲ見ザルノミナラズ保存モ亦甚ダ惡シ取ルヘキモノハ栃木縣ニ唯一品アルノミ

茨城縣ハ頗ル注意アルガ如シト雖モ品位凡テ麁惡且種類區々ニシテ殊ニ保存惡シク見ベ
ルキモノ一二ノ外ナシ

三重縣ハ品質概テ凡庸ニシテ取ルベキモノ更ニナシト雖モ三重郡有志者數某種ノ出品ハ
品位共ニ冠全ノ良繭ナリ

愛知縣ハ往々善良ノ繭アリ而シテ北設樂郡邊ハ格別佳品ヲ見ザルモ擧テ保存方宜シキヲ
得色澤頗ル美麗ナリト雖モ本縣下ノ繭ハ概シテ形狀少シク大ニ失スルノ傾アリ

靜岡縣ハ敷知郡ニ一ノ見ルベキモノアルノ外種類區々ニシテ品質下劣ナリ

山梨縣ハ極メテ良好ノ繭ニ乏シト雖モ下劣ナル者亦稀シニテ雜種甚ダ寡ナク光澤美麗ナ
リ而シテ巨摩ノ三郡及北都留東八代東山梨各郡ノ出品ハ品質下劣ニシテ保存宜シキヲ失
ハリ

滋賀縣ハ概シテ中等ナリ然レ𪜈之ヲ一昨十六年關西聯合共進會ノ列品ニ比スレバ夏秋蠶
ノ消滅ト云ヒ種質ノ改良ト云ヒ其進歩ノ著シキ照々乎トシテ明ナリ

岐阜縣ハ徽氣多カラサレ𪜈概シテ佳品少ナシ然レ𪜈之ヲ前會ニ比スレバ幾分ノ進歩ヲ顯
ハシタルガ如ク赤熟質ヲ飼養スルモノ多キニ至レリ

長野縣ハ成繭少シク薄弱ノ傾アレ𪜈亦往々美麗ノ在ルアリ光澤ハ固有ノ鮮美ナルニ富ム
下伊那郡喬木村數名ノ出品ニ係ル赤熟繭ハ光澤形狀絲量共ニ完全ノ良品ニシテ他郡村ニ
超越スルノミナラズ全縣中未ダ其比ヲ見ズ

福島縣ハ其數五百五十有餘ノ多キニ至リ品質モ亦善良ナルモノ多ク品質ト云ヒ品數ト云
ヒ俱ニ全國ニ卓越シ實ニ本邦無二ノ養蠶地ト云ンモ決シテ誣言ナラザルナリ今本縣下岩
代磐城ノ兩國ヲ以テ比較セバ盤城ノ岩代ニ劣ルコト數十年固ヨリ同一視スベキモノニア
ラス故ニ岩代アルヲ知テ磐城アルヲ知ラザルノ勢アリ而シテ岩代ハ伊達郡ヲ以テ巨擘ト
ス信夫郡之ニ亞グ同郡中田澤村黑岩村ヲ以テ最トス伊達郡ノ如キハ枚擧ニ遑アラス其重
ナルモノヲ言ヘバ掛田山戸田大關梁川市富澤等ノ諸村タリ夫此ノ如ク養蠶旺盛ノ地方ニ
シテ甲乙隣接ノ村閭ニ優劣霄壤ノ差アルモノハ地味氣候ノ然ラシムル所ナルカ將タ誘導
者ノ有無ニ關スル力實福島縣ノミナラズ之ヲ他ノ地方ニ徵スルモ蠶業旺盛ノ地ハ必ス二
三ノ有志者ナキハアラザルナリ

宮城縣ハ三百五十有餘ノ多數ナルモ佳品寡少ニシテ雜種及粗惡多ク殊ニ保存ノ不注意ヨ
リ過半徽氣ヲ生ズ

岩手縣ハ稗貫郡ニ係ル繭ニ一二ノ佳ナルモノアリ餘ハ概シテ中等以下ノ品位ナリ
青森縣ハ種質佳良ニシテ光澤美ナルモ繭膚屑弱ノ缺體アリ
秋田縣ハ岩手縣ト相伯仲シ一二ノ佳品アルノ外何レモ中等以下ノ品位タリ
山形縣ハ從來蠶業著名ノ地タルニ似ズ漸ク五十有餘ノ少數ニシテ繭ノ形狀猶佳ナルモ糸量ニ乏シク總テ中等ノ品位ナリ
石川縣ハ赤熟質多クシテ種類區々ナラザルヲ見ルト雖モ保存ノ充分ナラザルヨリ往々黴氣ヲ表出セリ獨リ江沼郡大聖寺村近方ハ進歩著ルク該出品ハ形狀糸量共ニ冠全ノ良繭ニシテ舊來各聲アル地方モ一歩ヲ讓ルベキモノアルヲ見ル能州ニ於テ鳳至郡大町川村ノ二村之ニ亞グ
富山縣ハ佳良ナルモノ更ニナシ殊存保其宜シキヲ失ス獨リ礪波郡苗加村某ノ出品ニ係ルモノハ冠全ノ良繭ナリ
福井縣ハ絶テ品ヲ見サルモ亦不劣ノ品少ナク多クハ平凡普通ノ品位ニシテ製絲用ニ缺クコトナキモ決シテ放視スベキモノニアラズ
島根縣ハ蠶業ニ從事スル日淺キヲ以テ僅ニ三十未滿ノ少數ナルモ繭質頗ル温和ニシテ甚

ダ嘉スベキ品位ナリ
鳥取縣ハ島根縣ト大同小異保存ノ點ニ至テハ島根ニ一歩ヲ讓ル
岡山縣ハ可モナク不可モナク總テ平庸ノ品位ナリ
廣島縣ハ岡山縣ニ超越スル數等繭質佳良ニシテ光澤美麗頗ル製絲ニ適應ス
和歌山縣ハ僅ニ一品ノ出陳ニシテ品質普通ナリ
德島縣高知縣愛媛縣ハ高知ニ一二ノ佳品アルノミ其他一モ見ルベキモノナシ
福岡縣ハ多ク赤熟質ニシテ豐前地方ニ於テ頗ル佳品ヲ見ル然レドモ未タ間然スルナキ能ハズ
大分縣ハ豐前ニ係ル分ハ頗ル佳品アリ然レドモ宇佐地方ノ出品頗ル惡シ
佐賀縣ハ總テ中等ノ地位ヲ占ムト雖モ保存ヲ誤リタル者ノ如シ
熊本縣ハ九州先鞭ヲ着ルクノ名聲アリ然ルニ近時歩ヲ止メ漸時退縮ノ狀ヲ呈シ已ニ本會列品ニ係ルモノハ佳品更ニナク種類モ亦善良ナラズ
宮崎縣鹿兒島縣ハ幼雅ニシテ未開ノ乳臭ヲ脫セサル如ク嘆賞スベキ佳品ナシ
札幌縣ハ總テ中等以下ノ品位ナリ品質不良ナラザルモ成繭薄弱ノ失アリ又黃繭ニハ往々

見ルベキモノアレド黄ノ白ニ若カザルハ今更言ヲ俟タズ

以上府縣別ニ其良否ヲ觀察シタルニ其最モ注意ヲ要スベキハ保存ノ一點ナリ已ニ衆人ノ目擊セシ如ク本會列品ノ繭微氣ヲ表出スルモノ三分ノ一ノ多キニ至リ是全ク注意充分ナラズ保存其宜キヲ得サルニ因ルナラン而ノ本會列品中各種ノ繭ニ付絲量ノ最モ多キ最モ長モノヲ摘拔シテ左ニ揭ク（和字ハ壹粒ニ付テノ數ヲ示シ西洋字ハ三粒平均ノ數ヲ示ス）

| 種類 | 壹升粒數 | 一粒回數 | 一粒尺度 | | |

又昔				世界一				日本一				新同			
二七〇	七七二	三〇二	六二四	二〇二	七三五	二八八	一二〇	二九六	五七五	二二五	四〇〇	二三八	六一七	二四一	八六四
二一八	五五〇	二一五	六〇〇	一九四	六〇〇	二一五	二〇〇	二八四	五二二	二〇四	六二四	同	同	同	同
〃 218	609	2387	28	〃 202	605	2371	60	〃 284	508	1991	36	〃	〃	〃	〃
583	4.80	680	5	460	6	532	同	3.85	5	467	同	同	同	同	同
2285	4.25	035	6	〃	〃	同	同	〃	〃	同	同	同	同	同	同
36	〃	〃	〃	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
埼玉縣	那珂郡	海北祭次郎	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	埼玉縣	那珂郡	海北祭次郎	人
埼玉縣	那珂郡	海北祭二郎	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	埼玉縣	那珂郡	海北祭二郎	人
福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人
福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人	福島縣	伊達郡	管野傳左工門	人

白				綾昔				金黃				金生			
〃 238	48	3.28	4	二一一〇	五四五	二一三	六〇〇	二一四	七六八	三〇一	〇五六	二四八	六〇五	二三七	一六〇
〃 519	〃	〃	〃	同	同	同	同	一八四	七五六	二九六	三五二	二四八	五六五	二一六	〇八〇
2034	〃	〃	〃	〃 220	〃 504	〃 1975	〃 68	214	661	2591	12	〃 248	〃 583	〃 2286	〃 16
657	同	同	同	同	同	同	同	174	641	2512	72	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	北甘樂郡	佐藤國太郎	同	同	愛知縣	渥美郡	鈴川丈助	同	札幌縣	札幌郡	早坂鍬太郎	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	小柳津忠民	同	同	同	內田幸太郎	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	鈴川丈助	同	同	同	早坂鍬太郎	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	伊藤小左工門	同	同	同	同	同

| | | |

養蠶ノ改良ヲ圖ランタメ夙ニ組合ヲ設ケ年々成繭品評會ヲ開キテ其得失ヲ講究シ又養法ノ傳習ヲ請フモノアレバ組中ノ熟練者ヲ派遣シテ丁寧ニ之ヲ導キ其鴻益隣縣ニ及ベリ今ヤ同盟幾ト八百名ノ多キニ至ルヲ而シテ尚小成ニ安ンゼズ更ニ該業傳習所ヲ建設シテ益改良ノ遠圖ヲナス其功勞大ナリ因テ之ヲ賞ス

金三十圓　群馬縣上野國佐位郡島村　田島彌平

夙ニ養蠶ノ改良ニ從事シ曾テ養蠶新論ヲ著シテ之ヲ世ニ公ニス各地爲メニ其惠澤ヲ享ケルモノ少ナカラズ且其方ヲ人ニ授クル毫モ吝惜スル所ナシ故ニ四方敎ヲ乞フ者陸續踵ヲ其門ニ接スルニ至ル其功勞大ナリ因テ之ヲ賞ス

金三十圓　群馬縣上野國佐位郡島村　田島武平

夙ニ蠶種製造ノ業ニ從事シ田島彌平ト謀リ專ラ之ガ改良ヲ力ム各地爲メニ其惠澤ヲ享ケルモノ少ナカラズ且其法ヲ人ニ授クル毫モ吝惜スル所ナシ故ニ四方敎ヲ乞フ者陸續踵ヲ其門ニ接スルニ至ル其功勞大ナリ因テ之ヲ賞ス

金三十圓　群馬縣上野國北甘樂郡富岡村　佐藤國太郎

積年蠶種製造ノ事ニ從事シ專ラ內地ノ需用ニ供ス其意ヲ用ユルコト懇切周ク到ル各地爲

ニ其惠澤ヲ享クルモノ少ナカラズ明治十年組合ヲ設クルニ當リ其頭取ニ推撰セラレ殊ニ鞠躬盡力益該業ノ擴張ヲ圖ル其功勞大ナリ因テ之ヲ賞ス

金三十圓　熊本縣肥後國託摩郡九品寺村　長野濬平

夙ニ養蠶繰絲ノ業ニ志シ明治ノ初諸國ヲ歷遊シ歸テ試驗所十ヶ所ヲ設ケ尋テ生徒ヲ募リ熏陶誘掖到ラサル所ナシ又之ヲ沂隣ニ派遣シテ本業ヲ擴張シ或ハ蒸氣製絲場ヲ創立スル等實ニ該地方興業ノ率先者トス其功勞大ナリ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　富山縣越中國婦負郡八尾東町　橋爪次郎作

夙ニ養蠶ノ業ニ志シ之カ擴張ヲ期シ或ハ座繰器械ヲ居民ニ分チ或ハ有志者ト團結シテ製絲場ヲ設ケ以テ生絲ノ改良ヲ謀リ或ハ人ヲ福島縣ニ派遣シテ溫暖育ヲ學バシメ之ヲ敎師トナシ養蠶ノ法ヲ改メ遂ニ良結果ヲ得ルニ至レリ其功勞著ルシ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　富山縣越中國礪波郡下梨村　水上善三郎

嘉永ノ頃ヨリ蠶業ノ改良ニ志シ山ヲ拓キ桑ヲ植ヘ勸告誘導至ラザルナク又巨金ヲ投シテ良種ヲ購ヒ以テ之ニ居民ニ分チ其他有志者ト相圖リテ製絲場ヲ創設スル等專ラ公益ヲ圖ル其功勞著シルシ因テ之ヲ賞ス

福島縣岩代國伊達郡掛田村　安田利作

金二十圓

相謀リテ資金ヲ捐テ養蠶傳習所ヲ掛田ニ設立ス爾來生徒ヲ養成スルコト數年各地爲ニ其惠澤ヲ受クルモノ少カラス其功勞著ルシ因テ之ヲ賞ス

大橋伊三郎

金十五圓

廣島縣備後國深津郡福山西町　齋藤二介

蠶絲未開ノ地ニアツテ夙ニ該業ニ志シ鋭意誘導居民其利ヲ享ク實ニ該地方蠶絲ノ嚆矢タリ其功勞多シ因テ之ヲ賞ス

金十五圓

廣島縣備後國深津郡福山西町　百々三郎

夙ニ諸國ニ歷遊シテ蠶業ノ得失ヲ研究シ歸リテ當業者ヲ奬勵シ又書ヲ著ハシテ之ヲ世ニ公ニシ專ラ本業ノ擴張ヲ勉ム其功勞多シ因テ之ヲ賞ス

追賞

金三十圓

福島縣岩代國伊達郡掛田村佐藤久之助祖先

故　佐藤久之助

天和ノ頃專ラ意ヲ養蠶ニ注ギ良種ヲ發見シテ之ヲ世ニ傳播ス後人之レヲ川久種ト呼ブ今赤熟ト稱スル所ノモノ是レナリ實ニ蠶種改良ノ嚆矢タリ于今其利ヲ享クルモノ少カラズ其功蹟大ナリ因テ之ヲ追賞ス

秋田縣羽後國雄勝郡川連村關喜内祖父

金三十圓

故　關喜内

文化年間居村ノ耕田ニ利ナキヲ憂ヒ養蠶製絲ノ師ヲ伊達郡ヨリ聘シ親シク其業ヲ受ケ之ヲ遠近ニ傳フ今ニ其利ヲ享クルモノ少ナカラス後人祭リテ以テ神ト倣スモ亦偶然ニ非ラズ其功績大ナリ因テ之ヲ追賞ス

埼玉縣武藏國旛羅郡玉井村鯨井勘衛父

金二十圓

故　鯨井勘衛

安政年間蠶桑ノ業ニ從事シ奮勵善ク勉メ或ハ種紙ヲ製シテ盛ニ外國ヘ輸出シ或ハ書ヲ著ハシテ大ニ世人ヲ勸誘シ以テ終身本業ノ振興ヲ謀ル其功績著ルシ因テ之ヲ追賞ス

金二十圓

埼玉縣武藏國榛澤郡血洗馬村澁澤宗助高祖父

故澁澤宗助

天保年間蠶業ノ精シカラザルヲ憂ヒ親ク諸國ヲ巡歷シテ其術ヲ究メ要ヲ纂テ一書ヲ編ス遠近其法ヲ傳ヘ終ニ利根川沿岸ノ養蠶法ヲ改良ス其功績著シルシ因テ之ヲ追賞ス

福島縣岩代國伊達郡山田村丹治フカ夫

故丹治梅吉

金二十圓

橫濱開港以來蠶絲ノ製造日々粗濫ニ陷ヒルヲ憂ヒ奮然其改良ヲ圖リ或ハ山戶田組ヲ創立シテ精良ノ蠶種ヲ製シ或ハ販賣高ヲ限リテ粗品ヲ退クル等懇切周到專公益ニ注ク其功績著ルシ因テ之ヲ追賞ス

府縣列品生絲ノ部

東京出品ノ生絲ハ總數十一品ニシテ賞ニ與リタルモノ一名ナリ本府ノ生絲ハ粗製ニシテ

戶々ノ產出僅少ナルヨリ之ヲ市場ニ販ガズ商賈ノ來リテ買ントスルヲ俟ツ風習ナリ又商賈ハ概ネ之ヲ神奈川縣下八王子ニ輸シテ之ヲ賣ルヲ常トス故ニ卷紙印紙モ該縣發行ノモノヲ貼用シ之ガ製造ヲ證スルモノ多シ

京都府ハ其總四十八品ニシテ賞ニ與リタルモノ纔ニ四名ナリ他ニ觀ルベキモノ甚タ尠ナシ該地方ハ人皆舊慣ヲ株守シ單ニ內地ノ需用ニノミ充ツルヲ以テ繰法極メテ拙ナリ束裝モ區々タリ

神奈川縣ハ其數三十四品ニシテ賞ニ與リタルモノ僅ニ三名ナリ該地方ニニハ一二ノ蒸氣機械アリト雖モ出品ヲ缺ク列品提絲ノ中ニハ繰方ニ注意シタルモノアレドモ概スルニ東裝完全ナラザリキ

兵庫縣ハ其數二十二品ニシテ賞ニ與リタルモノ六名ナリ內國需用目的ノモノニ至リテハ下等品多ク又小捻ニシテ紐ニ綾取ナシ稀ニ綾アルモ不齊ナリ之ヲ神奈川縣八王子ノ島田造ニ比スルモ尙其下位ニアリ

長崎縣ハ二十三品ニシテ賞ニ與リタルモノ四名總テ坐繰製ニシテ品位甚ダ美ナラザレ𪜈繰法束裝共ニ海外需用ニ適スベキ製品ニシテ進歩ノ狀見ルニ足レリ

新潟縣ハ十五品ニシテ賞ニ與リタルモノ三名ナリ本縣ノ生絲ハ折返造ニ揫造ニ鐵炮造ニ其東裝齊一ナラズ繰法モ亦拙ニシテ見ルベキモノ殆ト稀ナリ

函館縣ハ製絲アレモ列品ヲ欠ク

埼玉縣ハ總數七十四品ニシテ賞ニ與リタルモノ十六名其東裝ハ都テ捻造ナリ列品中品位ノ良好ナルモノハ賀美郡ニ多ク北足立郡ニ少ナシ秩父方面ハ出陳多シト雖品位ハ中等以下ノモノ多キニ居レリ

群馬縣ハ座繰製多シト雖團結ノ効著ルク東裝齊一ニシテ之ガ品位モ概ネ中等以上ノモノナリ出陳總數ハ八十八品ナリシニ賞ニ與リタルモノ六十三名ノ多キニ及ベリ繭ノ品位ハ福島其他ニ一歩ヲ讓ルモ製絲ノ技ハ實ニ本邦ニ冠タリト云フベキナリ

千葉縣ハ僅ニ三品ニシテ賞ニ與リタルモノ一名ナリ該地方ハ蠶事尚幼稚ナリ

茨城縣ハ總數三十五品ニシテ其中賞ニ與リタルモノ十五名ニ及ベリ去十四年ノ博覽會ニハ列品五十八ニシテ賞ヲ受ケタルモノハ唯山繭絲ニ一品アリタルノミ技術進歩ノ速ヤカナルヲ見ルニ足ル

栃木縣ハ其數十四品アリト雖モ大疇商舍ヲ除クノ外絕テ見ルニ足ルモノナシ其中海外ニ輸販シ得ヘキモノハ下野國河内郡宇加地多十郎同國上都賀郡篠原傳平ノ生絲ニシテ一ハ折返造ニ揫造ニ鐵炮造ニ

折返造一ハ捻造ナリ尚一層繰法束裝共ニ注意ヲ加ヘザレバ信用ヲ得ルコト難カルベシ宜ク大疇商舍ヲ模範トナシ改良ヲ加フベシ

三重縣ハ七品ニシテ賞ニ與リタルモノハ勢州三重郡ノ伊藤小左衛門山村作左衛門ノ二名ナリ其他ノ列品ハ捻造ナリト雖モ海外ニ輸販シ得ベキマデノ進歩ヲ見ズ

愛知縣ハ其數二十二品ニ賞ニ與リタル者十五名束裝ハ總テ捻造ナリ稍進歩ヲ見ニル足ルモノアリ

靜岡縣ハ僅カニ二品ニシテ其一ハ駿河國駿東郡ヨリシ其一ハ遠江國敷知郡大知波村岡部重五郎ノ出品ニシテ賞ニ與リタルモノナク二種トモ原質ハ粗ナラザルモ繰法甚ダ巧ミナラズ束裝モ亦拙ナリ

山梨縣ハ三十一品ニシテ賞ニ與リタルモノ十九名ニ及ベリ束裝ハ凡テ捻造ニシテ稍技術ノ進歩ヲ見ルニ足ル而シテ最モ良品ノ多キハ東西山梨ノ二郡ナリ東西八代郡中北兩巨摩郡ノ列品ハ一二ノ佳品アリト雖下劣ナルモノ多シ本縣ハ岐阜縣ト同シク蒸氣機械製ノミニテ一モ座繰製ノモノナシ然ルニ之カ繰法ニ於ケル坐繰製ニ劣レルモノ多キニ居レリ

滋賀縣ハ其數僅ニ十四品ナリシガ賞ニ與リタルモノ七名ニ及ベリ此縣下モ稍進ミタルノ狀アリ

岐阜縣ハ其數七十品ニシテ賞ニ與リタルモノ三十四名ニ及ベリ該地方ハ蒸氣機械多キヲ以テ今回ノ列品モ器械製ニシテ總テ捻造ナリ技術稍々進歩セリト云フ可シ

長野縣ハ七十四品ニシテ賞ニ與リタルモノ四十三名ニ及ベリ長谷川組ノ製絲ハ繰法束裝共ニ佳良ナリ殊ニ其光澤ノ如キハ鮮美ヲ極メタレモ概スルニ類多シ宜シク繭ノ撰方ト煮方トニ注意ヲ加フベキ也高井郡ヨリ出陳シタル生絲ハ他郡ノモノヨリ綛ノ寸尺長シ其提籧ノ周圍大ナルニヨル此等ハ他郡ト等シク一「メートル」半ニ改メ束裝ハ長谷川組ノ法ニ倣フヲ要ス西筑摩郡及上伊奈郡ノ生絲ハ往々綛ノ中央ヲ嚴ク結ビタルモノアリ再繰スルニ當リ取扱フニ便ナラズ是ハ綾キ力絲若クハ編絲ニ改メ機織家ニ便利ヲ與フベシ高遠町ヨリ出シタルモノハ二綛ヲ合セ綛ノ一端ヲ嚴ク結ヒタルモノ多ク需用者ニ便ナラサルノミナラズ絲質ヲ傷フノ恐アリ宜シク改良スベシ

福島縣ノ出品ハ總數二百五十一品ナリシカ捻造二十五折返造二百二十三鐵炮造二品ニシテ賞ニ與リタルモノ僅ニ二十二名ナリ該地方ノ養蠶ニ巧ミナルハ世ノ知ル所ニシテ今回ノ列品繭モ上等ノモノ多ク保存ノ方法モ宜シカリシヨリ觀客モ之ガ美ヲ鳴ラサヽルハナシ然ルニ此優美ナル素品ヲ以テ製出セル生絲ニ至リテハ下劣ナルモノ太ダ多シ只外貌ヨリ之ヲ見レバ光澤美ニシテ玲瓏タル恰モ玉ノ如クナルモノアリト雖モ綛ヲ解キテ綿密ニ鑑査スルトキハ瑕瑾亦尠カラザルナリ今之カ改良ノ要ヲ摘擧スレハ第一綛ニ綾取ヲ多カラシムルコト第二簀角ヲ圓クスルコト第三緒留ニ紙片若クハ絹絲ヲ撚付スルコトヲ廢スルコト第四總絲ノ長ヲ一樣ナラシムルコト捻造トナス是ナリ苟モ此等ノ該項ニ注意ヲ怠リ我地方ノ生絲ハ折返造ニマデ進歩シタリト誇稱シ自家ノ管見ヲ主張スルニ於テハ其製絲ハ毎ニ群馬其他ノ數縣ニ劣ラザルヲ得ザルナリ

宮城縣ハ總數二百六十一品ニシテ其數ノ多キコト各府縣ニ超タリ然ニ賞ニ與リタルモノ僅ニ七名ナリ試ニ其種類ヲ細別スレバ捻造百二十八折返造百〇六鐵炮造二十七品ナリ

岩手縣ハ總數三十四品ニシテ賞ニ與リタルモノ三名ナリ該地ノ生絲ハ束裝區々ニシテ捻造八鐵炮造五折返造二十一品ナリ品位稍宮城ト等シ總量ノ重キニ過グルモノ多キニ居レリ繰法束裝共ニ改良ヲ加フベシ

青森縣ハ總數十五品ニシテ賞ニ與リタルモノニ者アリ品位稍々岩手縣ニ彷彿タリ同縣ト同樣ニ改良ヲ加フベシ

秋田縣ハ其數七十六品ニシテ賞ニ與リタルモノ僅ニ一名アリ而シテ其束裝ハ區々齊一ナ

ラズ捻造五鉄炮造二折返造六十九品ナリ

山形縣ハ其數五十六品ニシテ賞ニ與リタルモノ二十名ナリ此地方モ近時專ラ改良ヲ勉ムルノ有樣ナレドモ未ダ其進歩ヲ稱スルニ足ラズ

石川縣ハ其數四十品ニシテ賞ニ與リタルモノ僅ニ二名ナリ該地方ハ繭ノ品位ニ比スレバ製絲ノ技劣レリト云フベシ

富山縣ノ生絲ハ其數二十八品ニシテ賞ニ與リタルモノ七名列品ハ概シテ石川縣ニ比ズレバ上位ヲ占メタリ然レドモ改良スベキ點多シ

福井縣ハ其數十五品ニシテ賞ニ與リタルモノ三名ナリ越前國足羽大野兩郡ノ生絲ハ繰法束裝共ニ良全ナラザルモノ多シ就中束裝ノ下劣ナルハ總ノ中央ヲ嚴シク結ビタルアリ又紺土佐紙ヲ以テ裝飾ヲ加ヘタルアリ富山縣ト同シク改良スベキモノトス

島根縣ハ其數十一品ニシテ賞ニ與リタルモノ一名アリ該地方ハ幼稚ニシテ繰法束裝共ニ拙シ

鳥取縣ハ十四品ニシテ賞ニ與リタルモノ一名ナリ製絲ノ技ハ總テ島根縣ト等シク幼稚ナリ

岡山縣ハ二十二品ニシテ賞ニ與リタルモノ三名ナリ該地方ノ生絲ハ繅留粗ニシテ需用者ニ便ナラズ又簀角ノ幅廣キニ過グ故ニ膠質ノ固着スル弊アリ宜シク繰法ヲ研究シテ纖度ヲ均一ニシ精粗ヲ鑑別シテ束裝ヲ一定シ力ヲ協セテ改良ヲ圖ルベシ竹岡製絲社ノ生絲ハ光澤鮮美ニシテ纖度稍均一ナリ繰法束裝共ニ用意周到ナルヲ見ル地方ノ摸範ト稱スベキ製絲場ナリ

廣島縣ハ其數十四品ニシテ賞ニ與リタル者二名ナリ本縣ノ蠶業ハ隣縣ニ先チテ開ケタルヨリ成繭ハ佳ナルモノ多シト雖生絲ニ至リテハ一表ニ讓リタル有樣ナリ

山口縣ハ十一品ニシテ賞ニ與リタルモノ三名アリ此地方ニ向テ改良ヲ促スモノハ綾取ヲ多カラシメルト緒留ノ綛ヲ幅ニ準ヒ同絲ヲ添ヘテ綾ク輪留ニスルト束裝ヲ精良ナラシムルニアリ

和歌山縣ハ製絲ノ業ヲ取ルモノアリト雖モ概ネ内地用ノ粗品ナリ是ヲ以テ出品セザルモノナラン

德島縣ハ僅ニ四品ニシテ賞ニ與リタルモノナシ太ダ幼稚ト謂フベキナリ

高知縣ハ四品ニシテ賞ニ與クタルモノ一名アリ此地ハ太タ幼稚ニシテ列品中捻造三折返

造一品ナリ愛姫縣ハ僅ニ七品ニシテ賞ニ與リタルモノ一名アリ北宇和郡ニ興業會社アリ
温泉郡ニ養蠶社アリ大ニ此業ノ興隆ヲ圖ルト雖モ日尚淺キヲ以テ未ダ其功績ヲ見ズ
福岡縣ハ五十品ニシテ賞ニ與リタルモノ三十七名ノ多キニ及ベリ此地方ハ製絲ノ技日尚
淺シト雖繰法束裝共ニ皆齊一ニシテ米國ノ需用ニ適スベキモノナリ
大分縣ハ其數六十五品ニシテ賞ニ與リタルモノ十五名繰法束裝共ニ齊一ニシテ進歩ノ著
ルキヲ見ル
佐賀縣ハ三十品ニシテ賞ニ與リタルモノ七名ナリ本縣モ福岡縣大分縣ニ亞グ進歩アリ
熊本縣ハ十三品ニシテ賞ニ與リタルモノ僅ニ一名ナリ本縣ハ九州蠶業中興率先ノ地タリ
シニ頻年萎靡振ハサルノ狀ヲ呈セリ是ヲ以テ列品ノ數モ甚タ少ナク品位モ下劣ニシテ見
ルベキモノ鮮シ
宮崎縣ハ十一品ニシテ品ニ與リタルモノ一名ナリ將來改良スベキモノナリ
鹿兒島縣ハ十一品ニシテ賞ニ與リタルモノ二名ナリ本縣ハ三四年前マデハ下劣品ノミナ
リシガ今回ノ出品ハ稍々見ルベキモノアリ目下ノ狀況ヲ以テ漸次歩ヲ進メバ遂ニハ海外
ニ輸販スルヲ得ベシ

沖繩縣ハ出品ヲ欠ク
札幌縣ハ五品ニシテ賞ニ與リタルモノナシ之ガ絲質ハ佳良ナレドモ製法束裝共ニ下劣ナ
ルヲ免カレズ
根室縣ハ出品ヲ欠ク
而シテ左ニ掲クル所ノ第一表ハ特ニ本會ノ列品ニ付キ三府四十縣ノ生絲ヲ上中下ノ三等
ニ區別シタルモノニシテ之ヲ各府縣ノ實際ニ就キテ分ツヤハ或ハ差異ナキヲ保セザルナ
リ又第二表ハ延喜ノ朝ニ於テ定メラレタル生絲ノ國分ヶヲ表トナシタルモノナリ（コノ
表ハ去ル十四年第二回勸業博覽會報告書中ヨリ拔萃ス）今此二表ヲ對照シ明治ノ今日ヨ
リ當時ヲ追懷スレバ其變遷ノ甚シキヲ知ルニ足ラン

第一表

縣	上絲縣	中絲縣	下絲縣	縣
三縣	群馬	長崎	三重	福島
	山梨	埼玉	愛知	宮城
	長野	茨城	滋賀	山形
	○	栃木	岐阜	石川
二縣	山口	東京	兵庫	岩手
	福井	福岡	京都	新潟
	大分	千葉	秋田	愛媛
	神奈川	靜岡	鳥取	高知
十縣	鳥取	熊本		
	島根	宮崎		
	鹿兒島	札幌		

第二表

	上絲國	中絲國	麁絲國
十二國	伊勢 三河 近江 美濃 但馬	伊勢 加賀 因幡 讃岐 肥前 駿河 上總 下野	
	美作 備前 備後 安藝 備中	尾張 能登 伯耆 伊豫 肥後 伊豆 下總	
	紀伊 阿波 ○ ○ ○	遠江 越後 出雲 土佐 豊前 甲斐 常陸 ○	
		若狹 丹波 播摩 筑前 豊後 相摸 信濃 ○	
		越前 丹後 長門 筑後 日向 武藏 上野 ○	
二十五國			
十一國			

功勞賞及追賞人名

本會ニ於テ從來製絲業上顯著ノ功勞者ニ對シ功勞賞及追賞ヲ與ヘタル者左ノ如シ

功勞賞

金三十圓　群馬縣上野國南勢多郡關根村　桑島新年

嘗テ有志者ト相謀リ製絲塲ヲ關根ニ設ケテ精良ノ絲ヲ製シ佛米兩國ニ直輸シ大ニ聲譽ヲ海外ニ博ス又自製ノ蠶種ヲ各地ニ分與シ以テ改良ヲ促ス等其切勞大ナリ因テ之ヲ賞ス

金三十圓　埼玉縣武藏國高麗郡上廣瀨村　清水宗德

絲質ノ惡麁ニシテ外人ノ需用ニ適セザルヲ憂ヒ法ヲ上州關根ニ採リ蒸氣機械ヲ設置シ一意之カ改良ニ從事ス其間艱難ニ遭フコト數回私產ヲ虛クスルコト數万而シテ百折屈セス終ニ克ク其ノ志ヲ達ス爾來遠近之レニ倣ヒ製絲ノ面目ヲ改ムルニ至ル其ノ切勞大ナリ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　山形縣羽前國西置賜郡成田村　佐々木宇右衛門

父祖ノ志ヲ繼キ蠶絲ノ業ヲ擴張セント欲シ衆ニ先ンジテ製絲塲ヲ創設シ以テ生絲ノ改良ヲ謀リ又蠶業會社ヲ興シ以テ蠶種ノ粗製ヲ矯正スル等其功勞著ルシ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　京都府丹後國與謝郡岩瀧村　眞名井純一

夙ニ意ヲ製絲ノ業ニ注ギ拮据精勵一種ノ坐繰器械ヲ創製シ又諸方ニ聘セラレテ本業ヲ敎授スルコト玆ニ二十有餘年終始一ノ如シ其功勞著シ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　神奈川縣武藏國南多摩郡八王子横山町　谷合彌七

織業ノ餘暇養蠶製絲ヲ兼ヌルト雖モ其意ヲ公益ニ用ユル懇切周ク到ル處ニ生絲改會社ノ設立ニ盡力シ又生絲檢査所或ハ武相蠶絲改良協會ヲ設ケテ專ラ濫造ノ惡弊ヲ矯メ大ニ世

ノ聲價ヲ得其功勞著ルシ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　兵庫縣但馬國出石郡上赤花村　橋本龍一

曩ニ親ラ諸國ニ遊ビテ製絲ノ景況ヲ歷覽シ又工男女ヲ富岡ニ遣ハシ繰絲ノ業ヲ學バシメ或ハ蒸氣繰絲場ヲ興立シテ專ラ生絲ノ改良ヲ勉ム其間許多ノ艱難ニ値フモ屈撓セズ遂ニ經營今日アルヲ致ス其功勞著ルシ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　群馬縣上野國碓氷郡東上磯部村　萩原茂十郎

生絲ノ改良ニ熱心シ明治十一年碓氷元組ヲ居村ニ設立シテ模範ヲ示ス郡民之ニ奬勵セラレテ結社スルモノ十有餘所爲ニ多量ノ生絲ヲ製出スルニ至ル其功勞著ルシ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　三重縣伊勢國三重郡菰野村　山村作左衛門

夙ニ製絲場ヲ建設シ屢艱難ニ値フト雖モ敢テ屈撓セズ遂ニ能ク其効ヲ致シ又居民夏蠶ヲ飼フモノ多ク春蠶ノ益アルヲ知ラザルヲ憂ヒ之ヲ誘導シテ漸時改良セシメ或ハ桑苗ヲ頒チテ蠶業ノ改良ヲ促ス等其功勞著ルシ因テ之ヲ賞ス

金二十圓　岐阜縣美濃國惠那郡付知村　熊谷孫六郎

常ニ村民所製ノ絲質惡麁ナルヲ嘆シ有志者ヲ勸誘シテ會社ヲ結ハシメ或ハ繰絲場ヲ建設シテ改良ノ要旨ヲ說キ或ハ米佛二國ニ直輸ヲ試ミル等其功勞著ルシ因テ之ヲ賞ス

追賞

金二十圓　群馬縣上野國東群馬郡前橋本町　勝山善三郎父　故勝山宗三郎

橫濱開港以來專ラ生絲輸出ノ道ヲ講シ或ハ生絲ノ方法ヲ改良シ或ヒハ松代六工社ノ後チヲ受ケテ之レヲ釐革シテ業ヲ士民ニ授クル等常ニ本業ノ擴張ヲ圖リ畢生身ヲ公益ニ委ヌ其功勞著ルシ因テ之ヲ追賞ス

金二十圓　三重縣伊勢國三重郡室山村　伊藤小左衛門父　故伊藤小左衛門

文久ノ頃ヨリ蠶業ニ從事シ明治七年製絲場ヲ設ケ以テ本業ノ改進ヲ謀カル其間屢々危難ニ値フトモ毫モ屈折セズ漸次業務ヲ擴張シ聲譽ヲ內外ニ博ス其世ニ益アル一少カラズ其功績著ルシ因テ之ヲ追賞ス

六月　蠶絲業集談會ヲ東京京橋區木挽町東京商工會議場ニ開ク會頭ハ農商務大書記官農務局長岩山敬義、屬僚成島謙吉、齊藤素軒、高橋信貞　戶崎孝、飯野忠一、竹田政智、中村

孝、中澤元春等ヲ從ヘ開會シ左ノ三項ヲ議ス

第一項　製絲ニ最良ナル蠶種ヲ選ミテ成ル可ク之ヲ飼養スルノ主段

第二項　生絲ノ束裝及綾取アル揚簀ヲ用ヒ綛ノ尺度ヲ一定スルノ方法

第三項　蠶絲業組合設立ニ就キ障碍ノ有無幷ニ養蠶製絲ヲ兩組合トナシ若クハ一組合トナスノ便否

因ニ曰フ會員姓名ハ下文ノ建言書ニ連載シアルヲ以テ參照スベシ

等ニシテ會員ハ一府四十二縣ニ亘リ四十二人及二府十六縣ノ有志者十七人ニシテ甲論乙議其議ノ未タ終局ニ至テザルヤ偶々大日本蠶絲協會幹事長河瀨秀治之ニ臨場シ協會ノ經歷及將來本邦蠶絲事業改良ノ方法當時ノ形勢ニ於テハ宜シク中央政府ノ保護ヲ請フニ若クハナシト演述シタリシニ其後二三論議ノ上河瀨大日本蠶絲協會幹事長ノ要旨ニ基ベキ岐阜縣熊谷孫六郎發議ニ係ル蠶絲條例頒布ヲ農商務省ニ建言スル事ニ一決次デ文案ヲ起草シ之ヲ西鄕農商務大臣ニ呈出ス

養蠶蠶絲條例御頒布ノ儀ニ付建言書

抑我全國蠶絲ノ現狀ヲ視ルニ敢テ一定ノ方向ナク各地其舊習ヲ墨守シ或ハ區々ノ改良ヲ

企テ各自ノ意向ニ任スルヲ以テ製絲モ亦盡ク之ヲ異ニス於是內ニ改良ノ方針亂レ外ニ歐米ノ信ヲ得ル能ハズ是レ畢竟蠶絲業者ニ對シ一定ノ條例準據スベキモノナキニ因ルナリ實ニ我邦家重要ノ物產ニツキ漫ニ之ヲ人民ノ自由ニ放棄スルモ人智未ダ其度ニ進マズ故ニ濫造正業者ヲ害シ遂ニ挽回スベカラサルノ衰頹ニ陷落スルモ測知スベカラザルナリ故ニ此際政府ニ於テ嚴正ナル條例ヲ發布セラレ組合ヲ組織セシメ該條例ノ範圍外ニ於テハ養蠶製絲ノ業ヲ營ム事ヲ得サラシメン事ヲ果シテ如此ナレバ全國一体氣脈ヲ通ジ方針ヲ一ニシ該業ノ体面ヲ一洗シ創メテ海外市上ニ伊佛ノ兩國ト競爭シ以テ大ニ邦家ノ經濟ヲ補益スルニ至ル可シ依ツテ今般開設セラレタル集談會ノ御問題ニ奉答シタル旨趣ニ基キ更ニ協議ヲ盡シ組合ノ組織ニ必要ナル條件ヲ別紙ニ列記シ以テ該條例ノ速ニ御發布アラン事ヲ奉建言候

明治十八年六月十五日

集談會員

德島縣阿波國名東郡德島町　宮本宗丈

富山縣越中國蠶波郡下梨村　水上善三郎

長野縣信濃國埴科郡西條村　大里忠一郎

栃木縣下野國下都賀郡羽川驛　根本省吾
廣島縣備後國深津郡福山町　西澤規
埼玉縣武藏國高麗郡上廣瀨村　清水宗德
鳥取縣因幡國邑美郡吉方町　本田正實
和歌山紀伊國伊都郡中道村　田中曉
茨城縣下總國西葛西郡古河町　吉武一
岐阜縣飛彈國大野郡高山町　上木小三郎
同　上美濃國厚見郡西ノ町　熊谷孫六郎
神奈川縣武藏國南多摩郡八王子町　谷合彌七
愛媛縣伊豫國北宇和郡丸穗村　小笠原長道
京都府丹後國與謝郡小松村　小松九良右衛門
長崎縣肥前國長崎區豐後町　小川儀一
宮城縣陸前國栗原郡高清水村　佐藤儀十郎
愛知縣尾張國葉栗郡草井村　松枝幸平次

岩手縣陸中國西磐井郡同形村　葛西多津枝
愛知縣三河國渥美郡大崎村　小柳津治郎右衛門
石川縣加賀國江沼郡保賀村　小島庄須計
神奈川縣不詳　富田造酒之助
埼玉縣不詳　西澤愼吉
群馬縣上野國佐伊郡太田村　德江八郎
宮崎縣日向國那珂郡城ヶ崎村　南村鼎三
山形縣羽前國東村山郡高擶村　石川喜平
岡山縣備中國小田郡笠岡村　森田佐平
山口縣長門國阿武郡東分村　厚東毅一
山梨縣東八代郡祝村　高野積成
福島縣信夫郡本內村　佐久間源六
秋田縣羽後國雄勝郡三又村　茂木龜六
長崎縣肥前國北高來郡諫早村　詫摩米三

福岡縣豐前國上毛郡千束町　佐々木茂久藏
高知縣土佐國土佐郡本與力町　永野親成
山梨縣東山縣郡日川村　小野元兵衛
佐賀縣肥前國神崎郡餘江村　青木正德
大分縣豐後國西國東郡佐野村　安東潛
群馬縣上野國南勢多郡水沼村　星野耕作
山形縣羽前國南置賜郡新町　相生鍋藏
岡山縣美作國東北條郡知和村　內田饒穗
福岡縣筑後國三潴郡半福村　鹿野淳二
茨城縣常陸國東茨城郡西鄉地村　井坂傳彌
長野縣信濃國伊那郡赤穗村　鹽澤佐七
大分縣豐後國大分郡野津原村　小野惟一郎
茨城縣常陸國新治郡志筑村　兵頭祐三郎
秋田縣羽後國雄勝郡川連村　關內喜

同縣同郡橫堀村　金澤幸助
群馬縣上野國南勢多郡水沼村　星野長太郎
同　上東群馬郡前橋町　久野小作
岐阜縣不詳　勝野吉兵衛
札幌縣石狩國札幌區札幌養蠶場　藤森萬吉

農商務卿西鄉從道殿

添伸

蠶絲條例御發布相成候上ハ先ツ中央本部ヲ起シ次ニ地方ニ着手致シ候ハヽ組合成立ノ順序ニ於テ便宜不少儀ト奉存候ニ附キ其府縣蠶絲營業者ノ多少ニ據リ人員ヲ定メ適宜ノ順序以テ總代人ヲ撰ミ之ヲ東京ニ會合セシメ而シテ協議決定致候事ニ各府縣ヘ御下命相成候樣仕度奉存候也

蠶絲業組合組織目的

第一條　養蠶製絲ニ從事スルモノハ製產者販賣者トヲ問ハス郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ

但郡區町村ノ區畫ニヨリカタキモノハ便宜之レヲ區分スルヲ得

第二條　此組合ニ加入セサルモノハ營業スルヲ得ス

但自家用ノミニ供スルモノハ此限ニアラス

第三條　組合ノ名稱ハ何（府縣）下（郡區町村）（養蠶生絲）組合ト稱スヘシ

第四條　組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

養蠶部

第一項　製絲ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スルコト

第二項　桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ全良ナラシムルコト

第三項　繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムルコト

第四項　蠶卵ノ檢查法ヲ設クルコト

第五項　繭ハ各種類又ハ大陽殺、蒸殺、燥殺等悉ク區別シ賣買スルコト

第六項　成繭ヲ販賣スルニハ其組合ノ名稱及製造者若クハ販賣人ノ姓名ヲ記シタル小札ヲ附シ賣買スルコト

生絲部

第一項　生絲ノ結束及綛ノ量目ヲ一樣ナラシムルコト

第二項　生絲結束ニ不正ノ重量ヲ附シ賣買セサルコト

第三項　捻造リハ綾取アル揚簀ヲ用ヒ尺度ヲ一樣ナラシムルコト

第四項　生絲ノ檢查法ヲ設クルコト

第五項　提造、島田、折返造等ノ生絲ヲ其儘捻造ニ變造賣買セサルコト

第六項　一掬ハ勿論一綛若クハ一把中良否混淆等ノモノヲ販賣セサルコト

第七項　生絲ハ其組合ノ名稱及製造人若クハ販賣人ノ姓名ヲ記シタル小札ヲ附シ賣買スルコト

但證票アルモノハ此限ニアラス

第五條　組合員ハ必ス其組合ノ證票ヲ携帶スヘシ

但證票ニハ管轄地方廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條　各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ担任セシムヘシ

第七條　組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢查スヘシ

第八條　組合員ニシテ組合ノ規約ヲ破フリタルモノハ管轄廳ニ上申シ證票ヲ取上クヘシ

第九條　各府縣下ノ便宜ノ地ニ取締所一ケ所ヲ置キ各組合ヲ整理スヘシ

第十條　各取締所ニハ監査役ヲ置キ組合員規約ノ實施ヲ監査セシムヘシ

第十一條　取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ

但時宜ニヨリ委員外ノモノト雖モ之レヲ撰擧スルヲ得

第十二條　組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員集議ヲ以テ之レヲ定ム可シ

第十三條　蠶絲組合中央木部ヲ東京ニ設ケ各地蠶絲組合取締所ヲ統轄スヘシ

第十四條　蠶絲組合中央木部ノ規約ハ農商務卿ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條　蠶絲組合中央本部ノ役員ハ各地蠶絲組合取締所ノ役員中ヨリ互撰スヘシ

但時宜ニヨリ役員外ノモノト雖モ之レヲ撰擧スルヲ得

第十六條　蠶絲組合中央本部ノ費用ハ各地蠶絲組合取締所役員ノ集議ヲ以テ之レヲ定ムヘシ

第十七條　右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルコトヲ得

八月　繭絲織物漆器陶器共進會事務所ハ農商務省達第三十七號ヲ以テ之ヲ閉鎖シ殘務ハ凡テ主務省ニ於テ是ヲ取扱フ事ト爲ス

十一月　農商務省ハ省令第四十一號ヲ以テ蠶絲業組合準則ヲ發布ス是レ曩月蠶絲業集談會ヲ東京木挽町ニ開クヤ會員審議ノ上本邦蠶絲業改良ノ爲メ蠶絲業組合組織ヲ尤モ必要ナリトシ則チ之ヲ農商務大臣に建議セルヲ以テ同省ハ省議ヲ凝ラシ會員ノ建議ニ係ル條件ヲ收捨シテ同準則ヲ發布ス要領左ノ如シ

一蠶絲業ニ從事スル者ハ郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スル事

但自用ノミニ供スル者ハ此準則ノ範圍外トナス

二組合ノ目的ハ左ノ如クニシテ規約ヲ結ブ事

一繭ハ春夏秋若クハ黃白ノ種類又ハ太陽殺爾殺爐殺等混淆シタル者ヲ賣買セザル事

二製絲ニ最モ好良ノ種類ヲ養育スベキ事

三桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ善良ナラシムル事

四繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

五蠶卵ノ檢查法ヲ設ケ蠶病ヲ豫防スル事

六生絲荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ附シ賣買スル事

七一掴ハ勿論一綛若クハ一把中良否混淆等ノ者ヲ製造販賣セザル事
但等級ヲ區分シテ掴トナシタルモノハ此限ニアラズ
八生絲ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セザル事
九綾取アル揚枠ヲ用ヒ尺度ヲ一樣ナラシムル事
十生絲ノ結束及綛ノ量目ヲ一樣ナラシムル事
十一揉造扇田造折返造等ノ生絲ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セザル事
十二生絲檢査法ヲ設ケ其精粗ヲ鑑別シ及製造上ノ弊害ヲ矯正スル事
十三生絲荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ附シ
賣買スル事

（參考）各府縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ全國中便宜ノ地ニ組合中央部ヲ設ケ各府縣組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スル事

於茲本邦蠶絲業ニ關スル規則再ビ設置セラレタリ曩ニ明治十一年內務省令ヲ以テ蠶絲業ニ關スル諸規則ヲ全廢スルヨリ以來本邦ノ蠶絲業ハ惇々トシテ發達シ其進運ハ實ニ第一回內國勸業博覽會ノ結果ヨリ卒ニ全國大小無數ノ共進會品評會及ビ第二回內國勸業博覽

會繭絲織物漆器陶器進會ニ至ルノ成績ヲ追究スレハ明カナリト雖モ事物進運ニ伴フノ弊害ハ又免ル可ラザルカ即チ此弊ヲ矯正センガ爲メ明治十五年大日本蠶絲協會ノ設立アリ戮力其方法ヲ講ズト雖モ未タ能ク實蹟ヲ奏スルヲ得ザリキ加之蠶病ノ彌蔓將ニ本邦蠶界ニ現ハレントスルヤ當路者切ニ之ガ豫防ヲ促スト雖モ任意驅除ノ爲メ其効ナク又タ生絲ニ於テハ其製造雜駁ニ流レ海外ノ需用者ヨリ屢々矯正ヲ促サレツヽアルヲ以テ又タ保護政策ノ必要ヲ感ジ農商務省モ集談會ノ建議ヲ容レ省令ヲ以テ該準則ヲ發布スルニ至ル蓋シ理ニ於テ止ムヲ得サルナリ

是年本邦ヨリ輸出シ蠶絲蠶蛹ノ物價左ノ如シ

生絲	二百四十五万七千二百〇三斤	價一千三万三千八百七十一圓
屑絲	百五十万三千四百〇八斤	價百十三万五十八十三圓
屑繭	十六万五千九百〇七斤	價十六万〇五百七十七圓
眞綿	五万六千二百六十七斤	價九万九千四百二十七圓
屑眞綿	七万四千百九十七斤	價一万〇九百六十七圓
蠶卵紙	四万一千六百五十三枚	價三万三千三百三十圓

因ニ曰フ本年ノ絲價平均五百三十弗ニシテ前年ト敢テ格別ノ相異ナカリキ三月以降英佛魯ノ紛紜ノ爲メ市場寂莫ナリシニ五月ヨリ六月ニ亘リ各國養蠶ノ豐作ヲ告ゲ且ツ本邦養蠶モ非常ノ良果ニ付キ海外市場新古繰越在荷堆積ヲ豫想シ絲價抵落八王子提絲ハ實ニ三百三十弗ニ陷リタリ是レ七月ノ事ニシテ九月以降商勢ヲ挽回シ十一月伊國百人生絲買占黨行ハレ甲十三番ノ如キハ十一月五日ニ於テ一日千二百餘捆ヲ買占メタル等加フルニ歐米活潑ノ取引アリトノ報ニ接シ活氣ヲ持チツヽ、該年ヲ送ル蓋シ年越在荷一万二千捆アリ

明治前紀 終

版權所有

明治三十一年八月五日印刷
明治三十一年八月八日發行

定價前後編金貳圓五拾錢

著者兼發行者　佐野瑛　東京市芝區愛岩町一丁目廿番地

印刷者　竹尾幸次　東京市芝區田村町一番地

發行所　大日本蠶史編纂事務所　東京市芝區愛岩町一丁目廿番地

印刷所　弘文舍　東京市芝區櫻田本郷町十四番地

群馬県立図書館
0496301-3